通路をなす。土師川流域には京都より聞部を經て福知山市に至る國道山陰街道通じ、其の附近の交通便なり。産業は農業を主とし、養蠶業また見るべきものあり。山地よりは木材・薪炭の産あり。

【細見】 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に會見郡細見郷あり、その地今の西伯郡大幡村・日吉津村の邊なるべし。

ホリヤ 細谷 愛知縣渥美郡にありし村。明治三十九年に外一町二村と共に廢して二川町を置く。

ホソロギ 細呂木村 福井縣越前國坂井郡の北部。北は吉崎村、東は坪江村、南は伊井村及び金津町、西は北潟村に接す。全村小山を以て圍まれ砂地多し。ために甘藷の栽培良く行はれ、製茶業と共に都下一の稱あり。其他、瓦・繭等の産も多し。また北潟村との境にある北潟湖には モロコの産ありて特に名高し。省線北陸本線はほぼ村の中央を南北に縱斷して細呂木驛(明治三十年設置)を置く。平常は淋しき驛なるも毎春吉崎の御忌には一列車毎に數千の乘降者あり。この地は舊北國街道の細呂木宿のありし所。中世、河口庄に入り、細呂木郷と稱し春日神領なりき。延元元年、加賀の人、數地・山岸・上木等の人々、畑時能に降りてこの地に城を構へ、津葉五郎を加賀大聖寺の城に攻め、國中を押領す。天正三年、上杉謙信は加賀松任城を陷いれ、信長の軍に肉迫す。信長、即ちこの地に退く。慶長五年七月、前田利家、大聖寺城を陷れ、八月、進んで此地に到り西軍の北ノ庄城主、青木一矩及び敦賀城主大谷吉隆の聯合軍に當りしも、吉隆の計に陥り軍を引き戻せり。〔春日神社〕大字細呂木にあり。村社。天見屋根命を祀る。昔、坂上田村麿の信仰せし保曾呂伎神社なるべしと云ふ。しからば式内社と云ふべし。然るに寛弘八年、押領使齊藤伊博は春日寺社を勸請し春日明神を之に合祀せりと。然れども天正年中兵燹にかかり、由緒詳ならず。〔照覺寺〕清王にあり。縣下眞宗大谷派唯一の大坊にて種家子五百と稱す。嘉暦元年行覺法眼(覺如上人の眞弟)が越中國射水郡氷見に一宇を建立し、正慶二年、覺如上人より照覺寺の號を給ふ。應安七年、二世覺願は越前國吉田郡久末(今の幾久)に移轉し、一向一揆の大將として朝倉始末記等に久末の照覺寺として喧傳せらる。然るに天正二年、織田信長の一揆征伐の悲運に會ひ、加賀國江沼郡二梨村へ引越し、慶長五年八月、兵燹にかゝり再び越前に立ち歸へり、坂北郡柿原に移轉し、更に堂宇を建て一如上人の末裔、院家地となり、寶暦十年同村飛地字岡の峯へ移轉す。

ホタ 保田町 千葉縣安房國安房郡の西北隅。浦賀水道に臨む。北は君津郡の金谷村・竹岡村・天神山村・環村に、南は勝山町・佐久間村に接し、西端海岸より東端の横根峠まで約七粁、面積二三方粁餘。北境・南境共に丘陵連り、西北境には鋸山あり。丘陵一帶森林多し。町の中央は畑合にて小流あり。附近は耕地あり て米・麥を産す。漁業盛なり。海岸の北端は鋸山(其項参照)海に迫りて明鐘崎となり、それより南は大部分砂濱にて所所磯濱を交へ風光佳良にて海水浴場として名高し。縣道は海岸沿ひに南走し、棠落はこれに沿うて發達す。省線房總西線これに沿ひ、保田驛(大正六年設置)を置く。又この縣道より分れ、東走して外房州の鴨川に通ずる縣道あり。海岸には東京灣汽船會社の汽船發着す。古くは和名抄、平群郡穂田郷の地にして早くより開け、鋸山日本寺が行基を開祖にして神龜元年の創建なるが故に遠く二千年前に於て既に多少の民家の存在せしか知る。然れども偶々中央山地に於て發見する所の墓石の多くが治承・建久年間のものにして、源氏の姓を冠するより見れば部落民の祖先は平家興隆の頃その餘鋒を避けて離散せる源氏の一黨がこの地方一帶に流浪し、土着せるものに非ざるかとも思はる。〔鶴崎神社〕大字元名に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古來當村の鎮守たり。例祭、陰暦八月十五日・十六日。〔日本寺〕大字元名にあり。曹洞宗。乾坤山。神龜元年行基、聖武天皇の勅により七堂十二院百坊を造營して開創し本尊藥師如來を安置すと傳ふ。のち寺運漸次傾きしが、養和年中、源頼朝これを再興す。貞和元年、足利尊氏また再興せしも近世衰頽す。寺地は鋸山の中腹を占め、山頂十州一覽豪よりの眺望絶佳なり。〔妙本寺〕大字吉濱にあり。本門宗。中谷山と號し本宗七本山の一にして、末寺十八寺を統ぶ。建武年中、日蓮の弟子日興の法孫日郷、安房國磯村に來りて教化を垂るゝや吉濱の郷士佐々宇左衛門尉深くこれに歸依し、己が所有地なる堀の内の地を寄進して一寺を建つ、これ本寺の草創なり。文和二年足利基氏寺領若干を寄す。里見氏・德川幕府また之に準ず。

ホタ 富多 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に日置郡富多郷あり、その地今の日置郡上伊集院村の邊か。

ホタカ 武尊山 日光火山群の一部。群馬縣利根郡川場・片品・水上・池田の諸村境上に峙つ。山は敷峯に分れ、本峯(中武尊とも稱し標高二一五八・三米)を中心に、南東にイヘノグシ峯(二一〇五米)・前武尊(二〇三九・七米)連亘し、南西方に剣ヶ峯山(二一〇〇五米)峙ち、その西方に獅子鼻山(一八八〇米)續く。この山四方に起大なる裾野を擴げ、北方には田代原、西方には牧場ヶ原、南西方には玉原の高原展開し、その山容の雄大なること赤城山にも優る。而して北方は西山・笠ヶ岳・至佛山等の上諏の山々に連り、南西方に迦葉山峙つ。山中の水は四方にそれ〴〵流出し、或は片品川を潤し、或ひは利根川に落ち、或ひは利根川上流に入る。此山は神代に穂高見命によりて開かれ、命の御名より山名出づと云ふ。後、崇神天皇の御代に武淳川別命勅命を帶びて東國に御下向の際この山に御登山あり、その際鉾を建て給へりと傳ふ。また景行天皇の御宇、日本武尊この山に住せし奥澤を討たんとて御登山あらせられしが、賊は逆力に依りて大雪を降せりと云ふ。此時より山名に武尊の字を當つるに至れりと。いま山頂に日本武尊を祀る武尊神社並に日本武尊の御銅像立つ。山頂部は一面小笹にて掩はれ展望廣く、日光火山群の諸峯は固より南方乃至西南方には赤城・富士の高岳及び南アルプス連峯を望見し、西方には八ヶ岳・淺間山も指呼の間にあり。尚ほ此山に就きては一つの迷信あり、登山せし者は三年を出でずして死すと云はれ、近年まで登山者稀なかりしも、上越線開通後は漸く登山者を増し最近はスキー登山も行はる。登山口は片品村花咲・川場村川場・水上村藤原の三方面より可能なれど主として花咲口選ばる。

ホタカ 穂高

【穂高岳】 日本北アルプスに於ける最も峻嶮なる峯。槍ヶ岳の南方なる一群の山峯の總稱にして、東面は長野縣南安曇郡安曇村に、西面は岐阜縣吉城郡上宝村に屬す。北方より南方にかけては北穂高岳(三一〇〇米)・唐澤岳(三一〇三米)・奥穂高岳(三一九〇米)連嶺をなし、それより二派に分岐し、西南に走るものは西穂高岳(二九〇八・六米)と稱し、東南に走るものを前穂高岳(三〇九〇米)と云ふ。前穂高岳の東南に派出する山塊は明神岳と呼ばる。北穂高岳の北方はキレット(大切戸)を經て槍ヶ岳山群に連り、西穂高岳の南西裾に次第に低夷し、焼岳方面に續き、東面は梓川谷及び上高地の盆地に急下して常念岳に對峙し、西面は蒲田川谷に下りて錫杖・笠・抜戸の諸山と相對す。山體は角閃珪岩と閃雲花崗岩より形成せられ、その壯麗なる岩石美は殆んど他峯に比すべきものなく、僅に北方の劍岳と共に、特異なる山貌を中天に峙たしむ。登山路は上高地を根據として梓川を溯り、その支谷横尾谷より至るものと、梓川に注ぐ岳川を登るものとあり。岳川の登山路は上高地河童橋の西側より川沿ひに熊笹帶、針葉樹林帶を過ぎ、岳川谷のガラ岩が越え、草本帶を通過すれば、岩石帶となりて終に前穂高岳に至る。上高地より約五時間行程なり。前穂高より南方に進めば明神岳に至り、北方に進めば約二時間にて奥穂高岳に達す。奥穂高山頂には岩石累積し殆ど植物を見ず。頂上よりの展望は雄大壮麗にて北方に北アルプスの連嶺を一眸に集め、南麓に上高地溪谷を俯瞰し、南方に乗鞍・御岳・八ヶ岳・富士山を初め、中央アルプス・南アルプスの山々を望む。別途横尾谷よりの登山路は上高地より梓川に沿ひ、槍ヶ岳登山路なる徳澤牧場を經て潤澤を過り、潤澤岩小屋を經て唐澤岳と奥穂高岳との中間鞍部なる穂高小屋に達し、北登して唐澤岳に、南攀して奥穂高岳に着す。また槍ヶ岳方面よりのキレットの鞍部を經て北穂に攀じ、ついで潤澤・奥穂に至る。奥穂より西方西穂に至る間にジェンダルムと稱する岩峯あり。豪壯なる瓦岩並び峙ち、ロッククライミングを行はる。これより更に南西進すれば天狗岩を經て西穂に至るも、この間は特に細心の注意を要す。秩父宮殿下に於ては穂高御登山の際天狗岩等の岩峯にも御足を印し給へり。又前穂高より東北方奥穂に續く一尾根を前穂高北尾根と稱し、第一峯より第六峯まであり峻嶮にして多くの犠牲者を出せり。西方飛騨側よりは蒲田川に沿ふ蒲田温泉より西登して穂高小屋に達する以外は登攀殆ど不可能なり。此山は東方上高地方面、特に徳本峠乃至常念岳方面よりの眺望は壯麗無比なれどまた西方抜戸岳・笠ヶ岳方面より望みても一大岩壁をなし雄偉なる景觀を呈す。尚ほ明神岳の東麓明神池の畔に穂高神社奥ノ院あり。

【穂高川】 長野縣南安曇郡にある川。上流は燕岳(二七六三米)と有明山(二二六八米)との間を南流する中房川にして、松本平西麓を限る斷層崖下の扇狀地群を北より南に縫ふて流るる乳川と合し、穂高町の北方なる穂高橋に於て烏川を合せこれより穂高川と呼ばる。穂高町の東において高瀬川と合して信濃川の上流たる犀川となる。流域には複谷扇狀地發達し桑園多く、また扇狀地開拓の特別なる人文現象あり。

穂高町】 長野縣信濃國南安曇郡の北部。松本市より一五粁。糸魚川街道を大町に向ふ途上にあり。東端には高瀬川が流れ南方より流下せる犀川と合流し、更に穂高川も加はり、三川の合流地をなし、更科郡内を筑谷を通じて長野盆地に注ぐ。附近は日本アルプス連嶺より發したる烏川・中房川の兩扇狀地末端の會合點に當り全く水に悪まる。烏川扇狀地の湧水と灌漑水路によりて水田が耕地の主要部を占め、更に養蠶業發達す。最近に於ては山葵の栽培が盛にして穂高を中心とし附近をも含め、その産額は年額百萬圓に達し本邦第一位たり。この特殊作物は實に此町が烏川の扇狀地の末端にあり其の豐富な湧水が常に温度一、二度附近を保ち砂礫層の發達する爲とす。交通は省線大糸南線の穂高驛(大正十四年設置)あり便なり。もと東穂高村と稱せしが大正十年穂高町と改稱。古くは和名抄、安曇郡八原郷の内なるべく、中世は穂高庄と呼ぶ。矢原御厨といふも此地なり。〔穂高神社〕縣社。祭神、穂高見命(奥社)・穂高見命・綿津見命・瓊々杵命。俗傳によれば上古は穂高岳に鎮座せしを、大化年間いまの穂高町に里社を造營し、奥社・里社の二祠を營むといふ。式内名神大社に

列し、大寶三年八月勅使奉幣の事あり、爾來、領主の崇敬厚し。例祭、二月二十七日・九月二十七日。

【穂高村】長野縣信濃國下高井郡の西部。飯山盆地内にあり、飯山町より千曲川を渡りて東約四粁、同川の右岸に位置す。毛無山（一六五〇米）・城蔵山（一五六九米）等三國山脈の支脈が東部に迫り、三—四百米の山地をなし西に急斜す。これは飯山盆地を形成する東部の斷層線崖に當り村の平地は其の斷層崖の浸蝕谷によつて作られ一層狀地の上に乗る。谷の出口たる扇狀地の頂點は原部落に當り、桑畑に利用せらる。これは礫層の堆積による浸透のためなり。北鴨部落只北は湧泉を利用して水田發達す。水田地域はまた千曲川沿岸原の堆積層より成り肥沃な土壌は其の生産を豊にす。養蠶と米・麥を主體とする村にて、中心をなす中村には農林學校が設置さる。住民は農業者と林業者が大部分を占め、東部山地は製炭地域にして、また紙漉部落もあり和紙の産あり、内山紙（内山は字名）の名を以て知らる。この地は和名抄、高井郡神戸郷の内なるべし。

ホタリ　穂足村　山梨縣甲斐國北巨摩郡の中部。東西を釜川とその支流に圍まれ地形南北に細長し。北より南へ稍傾斜し、灌漑の利あり水田多し。米・繭・麥及び桑を主産とす。縣道南北に走り、隣村若神子村に出づるものは佐久平に通ずるものなり。省線中央本線穴山・日野春間驛へいづれも約四粁、縣道通じ、若神子より甲府市へはバスの便もあり。天正十年、德川氏と北條氏が對陣の時に北條勢この地に砦を築きしといふ。

ボタンロ　——社　臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。楓港溪の左岸、女仍山の西南山腹にあり。標高約一二〇—二四〇米に位し、牡丹路駐在所附近約四粁の地に三個所に分れ各々集團す。同郡バスボタン社より約二百年前移住し來り現在の社を形成す。現在は自社頭目なく、バスボタン社頭目の支配を受け、毎年蕃租を納む。パイワン族の恒春下蕃に屬する高砂族の部落。戸數五三、人口二九〇（昭和十一年調査）。

ホチョー　畝長面　朝鮮江原道鐵原郡のほぼ中央。鐵原邑の西北に隣る。東西約六粁、南北約一〇粁。中部は緩哥嶺地溝帶にて、北部に曉星山（五九六米）、南部に夜月山（約四八〇米）等の熔岩流により成れる山地あり。中北部を東北—西南に流るる驛谷川と、東境に横はる山明洞より出づる一川との流域なる鐵原高原は近時開墾の業進み、美田と化せる處少からず。産物は米・大豆を主とし、罌粟・棉花・繭・牛等あり。東南部を鐵道京元線かすめ、中部地溝帶に沿ひ鐵原・安峽間の道路通じてバスの便あり。

ホッカ　北下面　朝鮮全羅南道長城郡の北東部。地南北に長く、西北に北上面、西南は郡邑長城面に隣り、東南は潭陽郡月山面に、北東は全羅北道淳昌郡福興面に界す。面積五四方粁餘。廣嶺山脈南西部の山地にて、北境には白羊山（七二一米）・加仁峰（六七七米）等、南境には屏風山（八八二米）・艾峰（四八一米）等ありてその山嶺境上に延亙し、面内至る處山地をなす。ただ榮山江支流の黄龍江の上流は月山面より來り山地を截りて中部を西に流れ、南・北兩境より來る支流を合せて北上面に出で、これに沿ふ谷地に幅狹き低地をつくり耕地をなす。農産に米・麥・大豆・棉等あるも産額多からず。外に木炭・薪等の林産あり。鐵道湖南本線四街里驛（北二面）より潭陽に至る街道中部の低地を通じバスの便あり。沿道の藥水里に上・中・下の三聚をなす藥水湯布あり。また藥水里の北方約四粁、白羊山中に白羊寺あり、千二百餘年前、如幼禪師の開創にかかり、大雄殿・雙溪樓等の伽藍を始め、清流・地藏・白蓮・藥師・寶泉・天眞等の諸庵山中に散在す。山中には奇岩怪石簇立し、鬱蒼たる老樹、澈澄深潭をなす溪流ありて山水美に富み、初夏の新綠、秋の紅楓の好遊覽地たり。また白羊寺より北方内藏山の内藏寺へ通ずるハイキングコースあり、距離約八粁。

ホッカイドー　北海道　【北海道】我國の北東部に位し、北海道本島及び十數箇の屬島と、三十有餘の島嶼を含む千島列島とより成る。

〔位置・面積〕西は日本海に、北はオホーツク海に、東及び南は太平洋に各々面す。南は津輕海峽を隔てて本州と相對し、その最短距離僅に十浬、北は宗谷海峽を挾みて相距ること二十四浬にて樺太島と相對し、東北は占守海峽を以て勘察加半島に對し、北西遙かに海を隔てて蘇國領西比利亞と相呼應す。而して西は渡島國大島西端東經百三十九度二十九度二十分を以て極西とし、渡島國小島南端北緯四十一度二十一分を以て極南とす。また極東は占守島の東端東經百五十六度三十五分にして、極北は千島國阿頼度島の北端北緯五十度五十七分なり。これ日本の最東端及び最北端にして、國防並に漁業上重要なる國際接觸線を成す。總面積八八、四五四方粁にして、臺灣・樺太及び四國を併せたるものに近似し、尙ほ千島を除くも東北六縣及び新潟縣を合したるものに匹敵す。いま本道は渡島・後志・石狩・天塩・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室・千島の十一國及び八十郡に分かれ行政的には北海道廳の下に石狩・渡島・檜山・後志・空知・上川・留萌・宗谷・網走・膽振・浦河・釧路・河西・根室の十四支廳置かる。

〔地形・地質〕本島はほぼ菱形をなし、渡島半島はその西部に恰も附屬せるが如き觀を呈す。而してこの菱形の南北對角線を劃するものは北海道中央山脈（脊梁山脈）にして、その長さ約四五〇粁に及ぶ。その南端部は即ち日高山脈にて、山體は主として古生層變成岩層たる神居古潭系、秩父古生層に相當する日高系、花崗岩等を脊梁とし、その最高峯を幌尻山（二〇五二米）となす。中央山脈は本島の中央部に於ては三條の南北山脈にて代表さる。即ち東側の石狩山脈は北方に北見山脈と連り、中央の十勝火山脈は本島最高山たる旭岳を頂き、而して西側やや離れたる夕張・空知山脈は、石狩炭田の東側を北行して石狩川の北に於て天鹽山脈となる。中央山脈の北端部は前記二者とその西側を走る雨龍山脈にて代表さる。これ等の山脈は何れも中生層・第三紀層より成る。殊に夕張・空知山脈・天鹽山脈・雨龍山脈地方は主として第三紀含炭含油地方にして、本道の經濟的立場より頗る重要視さる。この外、渡島半島には重に日高系及び花崗岩より成る渡島山脈あり。次に火山脈は主として安山岩より成る火山にして、先づ北端千島に於て北海道の最高峯阿頼度島（二三三九米）より始まりて脈行狀をなし、知床半島に至り更に屈斜路・阿寒を經て然別湖火山地方に連り、その末端は十勝岳の火山列にて代表さる。この外、本島の西側には利尻島より南下し西海岸の暑寒別火山群を經て後志火山彙に連る火山脈があり、また後志火山彙より樺前・有珠・駒ヶ岳を經て南下し惠山に至る活動盛んなる一連の火山列あり、また西南端の大島・小島

は本州西部を走る男鹿半島の孤鎖部に屬するものと見做さる。本道の海岸に沿ひ所々に見らるゝ段丘は海拔四—五〇米より二〇〇米に及び、特に東部北海道に於ては内陸地方に擴がりて十勝原野の如きものを形成す。平原は石狩より勇拂地方に發達するもの最も廣く、旭川・名寄等の盆地は中央山脈の間に擴がり、北見の波狀地は海岸に廣き平野を伴ひ、根室平野は一の海岸臺地なり。河川の主なるものは石狩川・天鹽川・十勝川等にして、本道の三大河川と稱し、他の二三長流と共に何れも其源を本道中央部の山地に發す。特に石狩川は流程三六〇粁に及ぶ本道第一の大河、本邦屈指の長流にして、その本支流の流域面積は實に一萬四千餘方粁に達し、稻田・畑圃相連る本道第一の農業地を成す。天鹽川は北海道第二の長流にして流程二九二粁餘、流域面積五千六百餘方粁、沿岸の原野は中流以上に肥沃にして能く開發せらるゝも、下流々域は概ね寒冷単調にして開拓の業遅々たる觀あり。而して本道河川の大部分は原始河川にして流路の變轉極りなく、附近斜地の開發に伴ひ益々洪水氾濫の被害增大するに鑑み、應急的治水工事として護岸及び改修工事を施行し、更に其の損害甚大なる箇所に對しては組織的治水工事を施行しつゝあり。湖沼は頗る多く、著名なるもののみにても二十有餘を數へ、從つて其の成因も複雜なり。即ち大別して之を略述すれば海岸湖として北見の藻琴湖・能取湖・網走湖、根室の風蓮湖・温根沼、釧路の厚岸湖・爭琿湖等その代表的なるものにて、概して東北部に多し。また海岸隆起と共に砂洲が河口を塞止めて湖沼となりしものは北見・天鹽・十勝海岸に多く、濤沸沼・湧洞沼等それなり。また内陸平原に存在する湖沼は概ね大河川の流身變轉極り き蛇行により湛溜して生成せるもの頗る多きも、著名なるものなし。而して本道の山地に存在する湖沼の主なるものは屈斜路湖・摩周湖・阿寒湖・然別湖・支笏湖・洞爺湖等にして、千島にも此種の火山湖多し。

〔海流・氣象〕本道近海の海流は甚だ複雜にして西部海上には黒潮の一支流たる對馬海流あり、西海流に沿ひて北に進み宗谷海峽を過ぎて北見の海岸を洗ひ國後島附近に至り、また其の支流に別れて津輕海峽に入り東流して襟裳岬附近にて寒流の親潮に合す。親潮は北東方より千島の東岸を洗ひ、本道の東岸に沿ひ南流し、また樺太の東方を南下する寒流は宗谷海峽に至りて二分し、一は暖流と接觸相混じて東方に赴き、更に進んで千島の西岸を北上し、一は海底流となりて南進す。故に西海岸地方に對馬海流のため比較的温暖にして冬季に於ても宗谷海峽にまでその影響を及ぼせり。夏季に於ては寒冷なる親潮の爲め東海岸地方の氣候に比較的低温なり。而して海岸地方は總じて海洋性氣候を示し四季及び晝夜の氣温的變化は比較的少なきも、内部は大陸的氣候を現はし氣温の變化著しく、殊に本島の中央部なる旭川盆地は本島に於ける最高最低の温度を示し、即ち最高三九・五度、最低零下四一・〇度を示す。而して一箇年中の平均温度を諸外國の夫れに比較するに、略々本道の中位に位する札幌にての年平均は六度九分にして、浦鹽斯德の五度四分、哈爾賓の四度三分、レニングラードの四度二分及びストックホルムの五度八分に比し温暖にて、ロンドンの九度七分、ベルリンの九度一分に比し稍々寒冷なるも、コペンハーゲンの八度一分、ベルンの七度九分に比しては大差なし。降水量は渡島の海岸より西海岸にかけて一般に多く、太平洋岸これに次ぎ網走・根室は最も少なし。特に渡島の海岸より積丹半島に至る間は多く、白神岬にては二〇〇〇粍に垂んとするも、他にては一三〇〇乃至一四〇〇粍なり。また膽振・日高地方は一〇〇〇粍程度にして、更に北見の斜里に至れば僅かに五六五粍に減ず。また霧即ち夏期のガスは太平洋岸を特徴づけるものにして、六・七・八月頃となれば近海は濃霧襲來し、咫尺を辨ぜざる日多し。これは夏期、親潮即ち寒流が盛んになり、本道南東の海面が比較的寒冷なる際に、温暖なる南風がこの海面を吹き渡る爲に生ずる現象なり。また流

氷は毎年一—三月の間に北見・根室の海岸に押し寄せ、初霜は普通十月中旬頃にして終霜は普通五月の上旬なり。雪は普通十月下旬より降り、四月下旬より五月上旬に止む。一般に西海岸は積雪量最も多く、太平洋岸には少なし。而して西部地方にては積雪量一二〇糎以上に達すること往々にして、旭川に於ては約七〇糎を示す。

〔動植物分布〕 本道の植物は本州と異なる種類多く、蝦夷松・椴松等の針葉樹林は北海道の特殊景觀を現出す。然し熊笹・流島は闊葉樹林多く類る内地の林相に近似す。本道の針葉樹の主なるものは前記二種の外、ヒバ・オンコ・五葉松・唐松・チシマカラマツ等にして、闊葉樹にては楡・松・ダモ・アカダモ・シュロ・桂・朴・椿・赤楊・ブナ等なり。また外来移植種としては杉・赤松・桐・ドイツトウヒ・ドイツ赤松・ドイツ黒松・アカシヤ・ポプラ等挙げらる。また鳥獣分布を見るに津軽海峡は鳥獣分布上、謂ゆるブラキストン線と呼ばれ、この線の北、即ち本道は内地と著しく種類を異にす。また八田線と呼ばるゝ宗谷海峡の南に位する本道はまた棒太とも類る異る。例へば猿・テン・アナグマ・モグラ・ヤマイヌ・イノシシ・野兎等は本州には見るも、北海道にてはもと殆んど見ざりしものなり。その他亀の類は全く見られず、蛇は本州の八種あるに対して僅かに四種を見るのみなり。

また北海道に多かりし鹿は次第に減少し狐・狸・白鳥・熊等も同様減少しつゝあり。然し近時、狐に飼育の種として新たにシベリア・カナダ等より良種が輸入されつゝあり。

〔人口〕 今や本道は人口三、一七四、八〇〇（昭和十二年十月一日現在）を有し、益々稠密になりつゝある状態なるも、明治二年開拓使の設置せらるゝ迄は蝦夷地と稱し、専ら蝦夷民族の跳梁に委せたり。爾々和人移住の濫觴は今より七百餘年前の文治年間なるも、少数なりし爲その勢力は微々たるものにして、屢々蝦夷民族の迫害を受け、僅に今の渡島地方の一隅を守り漁撈を事とせるに過ぎざりき。松前氏の蝦夷を征服するに及び和人の数も激増し、制度及び施設等には稍々見るべきものありしも、猶は未だ積極的に殖民の業を興すには至らず。江戸時代に至るや幕府は内外の狀勢に鑑み、漸く和人の移住を禁止せしも、人民は封建の眠り未だ覚めず、隨つて人口の増加は見るべきものなく、明治二年に於て僅に五萬八千四百六十七人を算するに過ぎざりき。のち三縣一局時代を經て北海道廳の設置を見るに至りしも、明治四十二年第一期計畫の樹立を見る迄は拓殖上、治長鞭遠多くして實政現はれざりしも、該計畫の樹立さるゝに及び、殖民地の選定區劃及び土地處分を敏活ならしめ且つ鐵道敷設及道路開鑿等交通の便を開り、また移民世話所を設くる等、鋭意移民の招來を促して開拓の氣運を振興せしため移民は陸続到來し人口は頓に増加するに至れり。人口増加の趨勢を示せば左の如し。但し昭和十二年は十月一日に於ける内閣統計局の推計人口、昭和十年、同五年、大正十四年、同九年に国勢調査、他は北海道廳調査の推計人口とす。右表に就て見るに、昭和五年より同十年に至る五箇年に於て實に二十五萬五千九百四十七人の増加を示し、また昭和十二年に至る二年間には十萬六千餘人の増加を見たり。而して最近十箇年に於ける人口増加率の年平均は〇・〇二四とす。尚ほ本道の人口増加は自然増加と移民來往住の差増に依るものなるも、前者に於ても其の増加率は昭和十一年に於て全國中第二位にして頗る優秀なる増加率を示したり。（密度と可容人口）昭和十年（國勢調査）に依る本道人口の密度は一方里五百三十三人に當り、之を東北六縣の平均一方里當千六百十人に比するに僅にその三割七分を容るゝに過ぎず、更に全國中最も稀薄なる岩手縣の一方里當千五十九人に比較するも尚ほその五割六分に過ぎず。いま千島を除きたる本島の地積に對し、東北六縣また岩手縣の例に依り可容人口を算出すれば、

東北六縣の例　一、六一〇人に依れば

八、二〇〇、七二四人

岩手縣の例　一、〇五九人に依れば

五、三九四、一四一人

となり、岩手縣を標準とするも今後優に二百二十萬餘人を容容し得る狀態なり。

年次	戸数	人口	一戸平均人口	一人平均人口
昭和十二年	四四五、五九〇	二、一七四、八〇〇	四・八四	〇・二〇四
昭和十年	四〇九、七四八	二、〇三一、一四一	四・九五	〇・二〇二
昭和五年	四〇八、三七九	二、〇四九、八七七	五・〇二	〇・二〇一
大正十四年	四四九、八〇〇	二、三四九、一八四	五・二四	〇・二〇一
大正九年	四〇九、〇〇〇	二、三〇九、〇〇〇	五・六四	〇・二〇一
明治四十三年	三八、一四九	一、九二一、一七三	五・〇一	〇・二〇一
明治十年	三八、一四九	一、九二一、一七三	五・〇一	〇・二〇一

（移民來往住）　統計分類より見たる來往者中、最も多きは農業者及び雑業者にて本道經濟界の活躍時代たる大正五年以來四箇年間は移民の來住最も殷賑を極め、大正八年の知きは二萬五千戸、九萬一千人に達し既往に於て最高位に達したるも歐洲戰亂後の財界反動は本道農業にも深刻なる不況を齎して來住者の減少と往住者の増加となり、大正十三年に於ては往住者九千百二十三戸、四萬三千八百四十六人の多きを算する悲況を呈せしも、爾來堅實なる殖民政策を採りたる結果、既往の如き活況は見ざるも、頗る順調なる趨勢を示したり。而して昭和十一年度に於て來住四萬八千五百十九人、往住二萬八千六百七十五人を算し、最近數年は稍々來住に減少を示せるも、この現象は近年頻發せる凶作に原因するものなり。また昭和二年四月より昭和十二年三月に全

る十箇年の來往住者の府縣別戸口を示せば左表の如し。之に依りて知らる如く近時來住者の最も多きは秋田縣にて、之に次ぐは青森・宮城・新潟・岩手・山形・福島・東京・富山の各府縣とす。但し、左表は便宜上殘留者數の大なるものより配列したり。なほ殘留者數中數字の上に△印あるは往住超過を示せるものなり。

府縣	來住者	往住者	殘留者
秋田	六五、〇〇一人	一二、四九三人	五三、七〇八人
青森	六四、一五一	一八、八一四	四五、三五八
宮城	四四、一一九	九、四四二	三五、六五〇
新潟	三七、八〇三	八、四六九	二九、五九四
山形	三一、四四一	六、四二七	二四、九四八
福島	三一、〇七四	七、一五五	二四、九一九
岩手	三〇、七一七	一四、五六三	一四、一五四
富山	二三、三三九	八、四七二	一四、八七七
石川	一八、三〇〇	五、〇三九	一三、二六一
朝鮮	七、五四七	六、六二二	六、六二二
福井	八、五七八	三、九七九	五、九七九
徳島	六、六二二	一、五八四	五、〇三八
岐阜	七、〇九三	二、四八三	四、六〇九
茨城	六、四八六	一、九〇二	四、五八四
香川	五、八七六	一、五〇四	四、三七二
栃木	五、六九三	一、五四五	四、一四八
廣島	六、一一七	二、一〇〇	四、〇一七
愛媛	五、二二三	一、四四五	三、七七七
長野	五、三二〇	一、六六一	三、六五九
岡山	四、一七二	一、二六二	二、九〇九
福岡	四、八一九	二、〇三二	二、七八八
滋賀	三、七六六	一、〇八二	二、六八四
千葉	四、八七三	二、二三九	二、六四四
高知	四、八五九	一、〇〇五	二、八六四
和歌山	三、五四五	九九七	二、五四八
群馬	四、一四七	一、六四六	二、五〇一
静岡	三、二七七	二、八二五	二、四三三
三重	三、三三七	一、八九三	二、〇三八
鳥取	三、〇一七	九九九	一、九七三
山口	二、九三四	九五八	一、九七六
山梨	二、八二三	九七〇	一、九五三
熊本	二、六四二	七二五	一、八八九
埼玉	三、八九九	二、一八六	一、七九三
奈良	三、〇二九	一、三四一	一、六八八
島根	二、一七六	五二八	一、六四八
鹿児島	二、一七九	五六二	一、六二六
兵庫	三、二一五	三、七七三	一、四三二
長崎	一、九二六	六二〇	一、三一六
佐賀	一、九九五	五五六	一、三九九
大分	一、八二九	六二三	一、一九七
愛知	三、三八九	四、六二九	七〇〇
宮崎	一、〇四〇	三五九	六五一
奈良	一一六	三二	八四
沖縄	九九	四〇	
京都	三、一一七	一〇九	
神奈川	三、一二九	△	
大阪	四、七九	△ 三、〇六三	
東京	二四、九三一	△ 二八、四三九	
樺太	二四、四六三	△ 三一、九〇一	
合計	三三九、九九九	△ 二六六、七〇五	

（舊土人）本道の舊土人は昔よりアイヌと汎稱せられしも、これを本島固有のアイヌ族と色丹土人（明治八年、北千島と樺太交換の際我國に歸化せる占守島在住のクリル族）に分つことが得る。これら土人の明治五年以降同世一年に於ける人口は甚間多少の増減ありとはいへ、概ね停滞狀態を呈し、同世二年以後その出生及び死亡を比較すれば、毎年三百—三百五十人の増加を擁く。されど斯の如く事實上増加しつつあるにも拘らず、統計上は停滞もしくは減退の傾向を示す。これは舊土人の統計を得ることが如何に困難なるかを如實に示すものにして、即ち現行法上、舊土人と内地人との區別なきのみならず、内地人と舊土人との間に生れたる子は、舊土人として保護せらるるものなり。當局の解釋は、何人も舊土人と認むべき者に限り舊土人として取扱ふといふが如き極めて漠然たるものなり。而して最近の調査に據れば、内地人にして舊土人の養子女もしくは婿・妻となりたる者一千八十一人、舊土人にして内地人の養子女もしくは婿・妻となりたる者八百九十八人に達し、年と共にその數か増加しつゝある傾向に發するも、人口統計に現るる舊土人の數は實數と相當の懸隔あるか首肯し得。また一方、舊土人の統計は一定不動の舊土人部落、即ち給與地を附與せられて定着せるものか基礎として調査せらるるものなれば、部落か離れて道内の諸郡市、或は他府縣に轉住せる者の多數あることを考慮に入るる要あり。而して統計に基く人口は昭和十一年末に於て人口一萬六千五百十九人、出生五百七十一人、死亡四百七十七人、其千分率は前者三十五人、後者一十九人、差引六人の自然増加にして、總數に於て前年より百三十人増加せり。なほ分布狀態を支廳別に見るに、其數の最も多きは日高の一千四百四十七戸、六千二百五十八人にして、勝振の九百五十八戸、四千六百十一人、十勝の三百六十戸、一千三百七十二人、釧路の二百九十七戸、一千五百十三人、これに次ぎ、其他、道内の各地に散在す。謂ゆるアイヌは多毛の人種にて、眉根・眼窩の狀態は西洋人の相貌を有す。かかる種族は除きては白人の血か混じたる濠洲土人に見らるる外、太平洋沿岸には見られず、またその言語は吾吾大和人種の膠着語とも異り、また白人種の曲折語とも異る抱合語にして、アメリカ印度人・エスキモー人種と西班牙の山間のバスク人等の語系に屬する言語なり。恐らくアイヌは白人の血を混じて長く太平洋に孤立し、抱合語系の文化に接しゐたりしものと見做すことを得べし。

〔交通〕（鐵道）本道に於ける鐵道は開拓使時代に幌内炭山の開掘と共にその石炭輸送のため明治十三年に札幌・手宮間三五・一粁の幌内鐵道か建設したるに創まり、昭和十年末現在に於ては國有鐵道三、四九二・二粁、私設鐵道五一一・七粁、計四、〇〇三・九粁に達せり。而して數設の標路は初期の鐵道は何れも鑛産物の搬出を主として建設せられ、私設鐵道は大正九年に鐵道省補助の外、更に拓

殖費を以て補助の途を開きし以來頓に之が發達を見るに至れり。いま本道の面積との比例を見れば、國有鐵道に面積一・六五方里につき鐵道一粁、私設鐵道を加ふるも一・四四方里につき鐵道一粁の割合にして、これを內地府縣に於ける國有鐵道の面積一・〇九方里につき鐵道一粁の割合(昭和十一年末現在)なるに比較すれば劣位にあり、而も本道は資源豐富にして開拓の餘地多きを以て、なほ今後數設を要するもの頗る多し。本道の鐵道幹線は何れも中央より諸方に走り、函館本線・宗谷本線・根室本線・室蘭本線・北見線・石北線等とす。昭和十二年末に於ける國有鐵道及私設鐵道を列擧すれば、

國有鐵道

線名	延長	摘要
函館線	八三九・二粁	函館本線・江差線・福山線・瀬棚線・札沼線・歌志內線・手宮線・岩內線・幌加內線
室蘭線	二九二・四	室蘭本線・萬字線・夕張線
日高線	一四四・四	
留萌線	二七・四	留萌本線・羽幌線
根室線	六五三・一	根室本線・富良野線・十幌線・廣尾線
宗谷線	四八四・二	宗谷本線・名寄線・北見線・興部線・天塩線
名寄線	三三六・五	名寄本線・興部南線・湧別西線・湧別線
石北線	一八一・〇	
剣走線	二五・六	剣走本線・相生線・網走線
釧網線	三八・二	釧網本線・標津線

私設鐵道(弘同年末に於て運輸を受けざる同業者のもの四社四線一〇四粁五粁、免許中間中のもの一社一線二四粁あり。)

會社名	延長	區間
定山溪鐵道	二九・九粁	白石・定山溪間
壽都鐵道	二六・五	黑松內・壽都間
北海道鐵道	二六・六	苗穂・遠軍內間
十勝鐵道	六五・〇	帯廣大通・太平間外四線
河西鐵道	四〇・〇	下清水・上幌內間外三線
美唄鐵道	一〇・六	美唄・雷盤臺間
雄別炭礦鐵道	四四・一	釧路・雄別炭山間
釧路臨港鐵道	一〇・九	城山・入舟町間
夕張鐵道	五三・二	新夕張・野幌間
渡島溫泉鐵道	九・四	森・砂原間
鶴根鐵道	一一・〇	京極・喜茂別間
北海道拓殖鐵道	五四・一	新得・上士幌間
洞爺湖電氣鐵道	八・六	虻田・床丹溫泉間
北見鐵道	八・七	止別・小清水間
留萌鐵道	一〇・九	恵比島・昭和間外二線

本道に於ける軌道は大正九年北海道拓殖鐵道補助法に依り、地方鐵道と共に補助を受くる事となるや續々建設せられ、昭和十二年末に於て一市一町十一會社、其延長一七五・一粁に達せり。而してこれ等の勢力も時代の趨勢に伴ひ瀋次電力化

私設軌道(昭和十二年末現在)

會社名	延長	區間
江別町營軌道	〇・二粁	江別驛・江別川堤防間
帝國電力軌道	一四・三	函館市內
札幌市營軌道	二三・五	札幌市內
士別軌道	二一・四	士別・奥士別間
早來軌道	一八・六	早來・幌內間
沙流軌道	一三・〇	佐瑠太・平取間
輕石軌道	八・四	輕川・花畔間
旭川電氣軌道	三・二	旭川・東川間外一線
大沼電鐵	一七・三	大沼公園・鹿部間
根室拓殖軌道	二五・五	根室・歯舞間
旭川市街軌道	一三・五	旭川市內
湧別軌道	六・一	下湧別・丁寧間
余市臨港軌道	二・六	余市・濱余市間

され、地方鐵道にありては定山溪鐵道・洞爺湖電氣鐵道、軌道にありては札幌市營軌道・帝國電力軌道・旭川電氣軌道・大沼電鐵及び旭川市街軌道の七社に及ぶ。更に本道の交通機關として特記すべきは植民軌道及び森林鐵道にして、植民軌道は拓殖促進のため新開地方の物資輸送を目的とし、簡易なる軌道が敷設せるもの、大正十三年に根室國厚床・中標津間に試驗的に敷設せしを初めとし、いま道內移住民の多數なる所には殆んど敷設せられ其延長四四七・七粁に及ぶ。また森林鐵道は本道の國有林經營上、官行斫伐製品輸送の目的を以て鐵道及び軌道が敷設したるものにして、其延長は三七四粁に及び、其餘力を以て民間の物資輸送の需に應じ、沿線住民の便宜を計れり。(道路)

(イ)國道　本道の國道は一百五十一里にして函館・旭川間及び岩見澤・室蘭間に通ず。(ロ)地方費道　拓殖費よりの支辨に成るものにして六百三十二里に及ぶ。主として網走・十勝・上川・釧路・宗谷地方に多し。この道路は二一六線に分れ、その幹線は、(1)札幌より日高海岸の幌泉に達するもの。(2)札幌より北龍・留萌・天塩を經て稚內に達するもの。(3)瀧川より帯廣・大津を經て根室に達するもの。(4)旭川より鐵道宗谷本線に並走し、蘆野・宗谷を經て稚內に達するもの。(5)旭川より鐵道石北線に並走して網走に達するものとす。また地方費道の中には以上の幹線を連絡するものありて、海岸を走り、または千島火山帶を縫路す。即ち(1)北見海岸の紋別より南走して網走・斜里・標津・別海を經て厚床に達し、(2)網走の東の斜里より硫黄山・弟子屈を經て釧路に達し、(3)網走の西南の美幌より津別・鵡木會・足寄を經て帯廣に達し、更に大正・大樹を經て廣尾に出で日高海岸の幌泉に至る。(ハ)準地方費道　この道路は地方費にて支辨せらるるを原則とするも、例外として、拓殖費にて支辨するものあり。其延長は千七百二十四里に達し、主に中部以西に多し。その著しきものは、(1)函

館より渡島半島の東南岸を經て森に達するもの、(2)函館より江差を經て小樽西方の山田に達するもの、(3)札幌より喜茂別に通じ、ここより北西は倶知安、西南は虻田に至り、また長流に至るもの、(4)札幌より石狩・増毛を經て留萌に達するもの、(5)日高の海岸平野より南富良野地方の金山に達するもの、(6)十勝の西南部の大樹より幕別・本別を經て西足寄に達するもの、(7)釧路南岸の大樂毛より阿寒湖岸を經て鶴木舎に達するもの、(8)厚岸より熊牛を經て根室海峽の標津に達するもの等あり。其他としては市費支辨の市道(百八十四里)・拓殖費支辨の町村道(千百三里)・町村費支辨の町村道(七千三百九十六里)等あり。(港灣)　本道に於ける現在の主要商港は函館・小樽・室蘭・釧路・留萌・網走・難內及び根室の八港にして、函館港は本道の海產取引市場として益々殷盛を極め、小樽港は主として農產物及び木材の取引市場として近年特に異常の發達をなし、室蘭港は石炭の輸移出港として古くよりその使命を有し、釧路港は木材・石炭及び鹽穀の輸出港、根室港は水產物の集散港、網走港は北見の沿岸唯一の澤蘭港、難內港は樺太との連絡港、また留萌港は石炭の移出港としてそれぞれ進展し、各特有の價値を顯はせり。國庫補助航路は本道沿岸の全周を十一線(函館・小樽線、函館・擇捉線、函館・釧路線、函館・古宇線、函館・根室甲線、函館・根室乙線、函館・鹿部線、小樽・難內線、根室・古宇線、根室・近海線、難內・香深線)十八區間に分け、受命會社をして定期航海をなさしめ、以て陸上交通機關の短を補ひ、併せて廣く離島との交通運輸の利便を圖れり。また內地諸港との間を往來するものは、北海道廳以外の諸官署の命令航路となれるを以て、僅に市費航路の三線(函館市の三陸線・三厩線、釧路市の鹽釜線)あるのみなり。對外自由定期航路には主として一千—三千噸の船舶にして、主に小樽・釧路・根室と內地その他の地方の諸港間を連絡す。(航空)　昭和十二年四月一日より札幌・東京間九四〇粁の定期航空が開始せられ、一日一往復により旅客及び郵便物の輸送を行へり。而して十二月一日休航に至るまでの運航日數は二百三日(欠航四十一日)間に札幌飛行場に於て發着したる旅客數は一千九人、郵便物は約二十萬通に達し、交通及文化の促進に寄與するところ益々甚大なるものあらん。

(產業)　(農業)　その重要作物は米・麥類・馬鈴薯・菜豆類・大小豆・豌豆・玉蜀黍・甜菜・除蟲菊・薄荷・玉葱・林檎等極めて廣範圍に亘り、殊に甜菜・除蟲菊・薄荷の栽培は一新機軸を開き、年々作付反別を增加し、殖々北方特殊農業の使命を果しつつあり。また本道の氣候風土は飼料作物に好適し、約九十七萬町歩に達する廣大なる放牧適地を擁するを以て牛馬・緬羊を始め各種の家畜飼養に適し、農業經營を多角化し得る最適の條件を有す。昭和十一年末現在の本道耕地の總面積は九十七萬三千二百九十一町歩にして、其內、水田は二十萬四千七百三町歩、畑は七十六萬八千五百八十八町歩を占め、これを前年に比較すれば、內作の影響により畑地に還元せるもの增加せしため、水田に於ては六千三百七十五町歩の減少なるも、畑に於ては二萬一千百八町歩の增加を示す。現在本道の全面積に對する割合は一割一分、その農耕適地に對しては約六割一分、農家一戶當の耕地面積は四町九反、これを府縣の一戶當九反三畝に比すれば實に五倍に當る。これは本道の農業經營を多角化し且つ單位收量の增加を圖るべき餘地の廣さを示唆するものにて、極めて將來の發展性ある所以を物語るものといはざるを得ず。

一方、農業戶數を見るに、昭和十一年末の農業戶數は二十萬五百四十四戶、人口は百二十萬五千四百三十六人を算し、これを前年に比較すれば戶數に於て百二十七戶の減、人口に於ては四千四百三十六人の增加を示す。これを自作・小作及び自作兼小作の三種に區分して觀るに、昭和十一年末に於ける自作は七萬五百六十六戶、小作は九萬五千二百七十七戶、自作兼小作は三萬四千七百一戶なり。自作農は大正十一年以來久しく漸減の一路を辿り昭和四年度を最低とし、其後は年々一千戶內外の增加を示して今日に至り、同十一年末には前年度に比し一千八百五十戶の增加を見たり。同年末に於て小作農は前年度に比し二千二百五十七戶の減少となり、自作兼小作農は僅に二百八十戶の增加を見たり。なほ昭和十一年度に於ける重要作物の作付反別・收穫高及び價額を擧ぐれば左表の如し。次に農作物

品種	作付反別	收穫高	價額
米	一八三、〇八八・二町	一、九〇八、四八八・三石	四七、六二一、九六二圓
麥	五七、九九七・一	四七、八七二・四	一、一〇四、二〇五
大豆	八〇、六八一・五	九、一〇四、二八六	五五、九、六 六
小豆	三八、一二八・二	二、九〇、六九五	六、五三三、一五三
豌豆	五九、一四三・五	二一五、七七五	一、二八〇、一五五
菜豆類	八一、三九三・〇	四四七、〇三三	九、九四四、九五八
馬鈴薯	七六、二五〇・五	三三五、四八三・三	一六、二四一、五三六
甚麥	二一九、九七八・一	二、〇五四、九三二	二、〇三一、八五五
亞麻苣	二五、九八八・五	七、〇八一、九二八	一、三六八、一七
甜菜	一九、四〇六・〇	八五、七二二、八〇	二、九四六、一八〇
薄荷	一九、六二四・九	一一、三四四、五五四〇	一、一二四、一七六
除蟲菊	二〇、六六九・四	一、一四四、一七六	二、一三三、二五五

の種別に見れば、(イ)米　本道の稻作は二百三十餘年前にその端を發し、爾來幾多の沿革を經、今日に於ては新潟縣に亞ぐの米產地として聞え、本道中寒冷著しき根室・釧路・宗谷等二三の地方を除きては道內到るところ水稻の成育を見ざるはなし。昭和十二年度は收穫高三百三十萬石を超ゆるに至り、なほ今後に於て耐寒品種の育成を遂げ、且つ耕作上の技術に

より以上の改良を加ふるに至れば本道の米作は將來有望なるものあらん。而して其收穫量は內作年を除き、現在道民三百十七萬五千人に對する食料の自給可能なると共に、餘剩は主として樺太または北洋漁場等へ移出せらる。(ロ)蕎麥類　特に本道の氣候及地質に適せるため到るところにその成育を見、大蕎の大部分は蕎酒醸造用に供し、稞蕎は農家の主食物に用ひらる。蕎蕎は本道の特產物にて、大部分は馬糧に供せられ、また軍馬の飼料として陸軍糧秣廠に買上げらるるもの多し。なほ近時、榮養食品としてオートミールに製造せらるるに至れり。(ハ)豆類　大豆は我國に於ける主產地にして、その生產の增減は本道の大豆價格の騰落に依りて左右せらる。その栽培は本道の全般に及ぶものなるも、殊に十勝・檜山・空知・膽振地方に最も多く、品種は鶴の子・袖振・大谷地・甘露等にして何れも良質を以て知られ、味噌・醬油の原料として歡迎せらる。小豆は十勝・空知地方に生產多く、品種は早生・大納言・圓葉早生大粒等にして、上等品種として需要頗る旺盛なるため、生產の過半は府縣へ移出せらる。豌豆、特に青豌豆は本道の特產品にして、海外輸出を目的として栽培せられ、その生產の大半は世界有數の豌豆消費國たる英國に仕向けられ、また其他の歐洲各國及び北米の需要も尠からず、我國の輸出品中の重要品なり。主產地は十勝及び網走支廳管內とす。榮豆は品種極めて多く大福・中福・手亡・金時等にして、最も多く栽培せらるる地方は十勝・後志・空知・網走支廳管內とす。而して概して我國唯一の榮豆の特產地にして、府縣の需要は固より米國及び英國に需要多く、豌豆と同じく本道の輸出品中重要なる位置を占む。(ニ)馬鈴薯　主要食糧品の一にして府縣に移出せらるるもの頗る多く、且つ農家はこれを原料として副業的に澱粉を製造するも、近年は價格も昂騰して採算有利となるに至れり。而して本道の馬鈴薯は品質極めて好良にして栽培は廣く道內に及ぶも、殊に上川・後志・網走支廳管內に多く、耐寒性根菜作物として甜菜と竝び稱せられ、今後その生產は更に增大すべし。(ホ)甜菜　耐寒性根菜作物たる甜菜は輪作經營上の指導作物にして地力增進の效果あり、後作の增收を來すものなり。故に拓殖計畫に於ても特に肥料補助、其の他各種補助金を交付し、これが栽培を奬勵しつつあり。甜菜の耕作は氣候の關係上、十勝・網走地方が首位を占むるも、奬勵計畫の實施により漸次に耕作面積を擴張しつつあり。本作物の耕作は製糖會社との契約に依るものとす。(ヘ)薄荷　本作物も本道の特產にして本邦生產の約七割に及び、世界に於ける總生產額に就きて見るも殆どその半を占む。これが栽培はその主要素たる腦分が氣候に依り左右せらるるを以て殆んど網走支廳管內に限らる。從來その販路は取卸油として神戸等を經由し海外に輸出せられたるものなるも、近年は精製方法の完成を見、野付牛町に薄荷精製工場を設けて直接輸出しつつあり。(ト)除蟲菊　甜菜・薄荷等と共に本道の特產物にして、その產出は上川・後志・網走支廳管內に多し。從來は乾花のまま輸出せしものなるも、近年は殺蟲劑を製造して輸出す。(チ)亞麻　本道に於ける唯一の纖維作物にして、空知・上川・十勝地方に多く栽培せらる。また種子は搾油原料として需要多く海外にも相當多く輸出せらる。(リ)蕎麥　生產の多量なると紛出率の大なるとは我國中隨一にして、府縣への移出の大部分を占む。主產地は十勝・後志・網走支廳管內とす。(ヌ)果實　林檎・葡萄・櫻桃・梨等を多く產するも、殊に林檎は我國に於ける林檎植栽の先驅をなせるものにして、主產地たる後志支廳管內余市町附近のものは余市林檎として夙に名聲あり。(ル)蔬菜　本道は蔬菜の栽培に好適し、殊に玉葱・キャベツ・葱・人參・牛蒡・南瓜・瓜・百合根等の栽培盛んにして府縣の需要も多く、中にも玉葱は海外輸出品として重要なり。また一方、副業方面を見るに、本道は冬季に於ける農閑期永く、而も府縣と異り二毛作の不可能なる狀態なるを以て、此間の餘剩勞力を以て本道の豐富なる原料を利用すれば農山漁村民の收入を增大し得べく、此點に於て本道は好箇の副業國となり得るの素地を有す。目下府縣移入品中の副業品は相當額に達するを以て、先づ自給を計るの必要を認むるものとす。昭和十年末調にて主なる副業品を擧ぐれば、藁工品（主產地は空知・上川・石狩・後志・網走等の米產地。約百八十萬圓）・竹製品（原料となる根曲竹の產出は全道に亘り、またスズ竹は膽振・日高・釧路地方に極めて豐富なり。製品は主として日用品・農漁業用品。約十六萬圓）・杞柳製品（柳行李・バスケット。約六萬圓）・羊毛加工（主にホームスパンとして販賣さる。約十四萬圓）・凍豆腐（全道到るところにて製造さる。約五萬六千圓）・制簞（約三十萬圓）・椎茸（檜山・日高及び釧路地方に多し。約三萬圓）・木工玩具（約三萬圓）等とす。

（畜產）(イ)畜牛　昭和十一年に於ける本道の畜牛は、年末現在にて七萬六千百六十一頭、年內生產は二萬四千二百四十四頭にしてその增殖は極めて順調なり。されど農家にして畜牛を飼養せざる者今なほ多きを以て、今後、道內畜牛蕃殖率の向上を圖ると共に一部、道外より牝牛を移入し、また新たに畜牛を購入せんとする農家にはその購入費を補助する等各般の施設に依り、目的の達成に努めつつあり。なほ乳牛の能力に就きて見るに逐年向上し、一頭の一箇年搾乳量は平均十四石五斗餘なるも、先進地方にありては十七石を突破するの狀況なり。(ロ)馬　一時は生產馬價格の暴落により減少の傾向を示したるも、最近はまた增加の趨勢に向ひ、而も實質に於ては逐年著しき進步を見、その强健なることは今次の日支事變に際して證證されし多くの軍馬が府縣のそれに比して甚だ優秀なることが立證され頗る好評を博し、產馬の販路は全國に亘る。(ハ)綿羊　本道の氣候風土は牛馬の場合と同樣、飼育に好適なるを以て、既に發達すべくして發達し得ざる狀態に置かれたり。されど銳意增殖を圖ると共に一面、移出を防止したる結果、昭和十一年末現在にて九千八百六十九頭、年內生產は三千二十八頭、前年に比し二百三十二頭を增し、極めて順調に發達しつつあり。羊毛の生產は一箇年二萬瓩を超え、農家現金收入の獲得に、將たまた防寒被服の自給に多大なる效果を與へつつあるも、近年は生產羊毛を加工して自給または販賣する者漸次多きを加へ、中にもホームスパンの如きは全國に魁けて生產せられ、今や道の內外に好評を博しつつあり。(ニ)豚　昭和十一年末現在にて五萬一千六百九十三頭、同年內生產は四萬五千七百三十四頭。養豚が年に依り勉强ありしは、交通不便と消費機關の整備ざりしとに基くものなるも、最近これ等の障碍は農業經營の合理化と共に漸次取り除かれ、年々逐うて健實に赴きつつあり。更に昭和十一年度より畜肉の加工消費を助成することとなりしを以て將來益々發達せんとしつつあり。(ホ)養蜂　農業經營の進步發達に伴ひ、大に見るべきものあり。昭和十一年に於ては多少減少したるも、概して順調なる發達を見、殊に產卵能力に於て顯著なるものあり。生產卵內は未だ自給自足の域に達せず、なほ多額の移入をなしつつあるの狀況に鑑み、農家に對して養蜂の普及を圖ると共に飼養管理の改善、新血の注入、能力の檢定等によりてひたすら改良種の增產に努めつつあり。(ヘ)蜂　本道の養蜂は未だ幼稚の域を脫せざるも、本道は蜜源植物の豐富なるため管理法・越冬等の改善を行へば將來大に發達の餘地あり。昭和十一年度の生產額に十一萬八千八貫とす。(ト)畜產生產品　昭和十一年の畜產總額は一千六百萬圓に達す。殊に發達の特に顯著なるものは燻乳・牛酪・乾酪等にして、何れも品質優良、その生產は全國中の首位を占め、國內消費の增進に努むると共に一面、海外に販路の擴張を圖りつつあり。(リ)乳製品　其生產數量は、燻乳約一千六百十萬斤、粉乳約百三十一萬斤、牛酪約三百五十四萬斤、チーズ約二十八萬斤、最近特殊工業原料として重要なる地位を占むるカゼイン約七萬斤、其他、約二十三萬斤にして、其價格約一千二百十一萬圓に達す。(ヌ)肉製品　本道に於ける畜肉加工事業は未だ幼稚の域を脫せざるも、有畜農業の進展に伴ひ必然的に畜牛及養豚の增殖を促進し、其肉加工品の製造は年々增產の趨勢にあり。昭和十一年に於てハム約三萬二千斤、ベーコン約二千斤、其他約六萬斤にして其價格約七萬二千圓に達せり。(チ)毛皮類物　(1)養狐・養狸　本道は自然的好條件に惠まるるを以て躍進的發達を遂げ、昭和十二年六月末に於ける養狐飼養戶數五百三十四戶、飼養頭數五千四百七十五頭、養狸は飼養戶數五百二十戶、飼養頭數二千八百三十二頭に及ぶ。されどこれは農業經營との調和乏しく、且つ投資なるを以て特殊產業として奬勵しつつあり。(2)家兎　全道に於て普遍的に副業として行はれ、これが毛皮・肉に軍需防寒資材並に食肉補給資源として重要なる役割を持つ。兎毛にまた羊毛の輸入減少並に紡織企業の勃興に伴ひ、羊毛の補給または代用紡織及びフェルトの原料として重大なる位置を占むるものにして、昭和十一年度に於ける生產毛皮及び肉の價額は十五萬三千圓に過ぎざるも、同十二年九月末現在飼養戶數五百八十二戶、羽數三十七萬四千五百四十九羽に達し、今後とも本道に於ける大衆的副業として大なる將來を有するものなり。

（水產業）　本道の海岸線延長は一千三百五十五里に及び、沿岸の海棚廣く、且つ本道の北東には世界的大漁場を擁し、而も寒暖二潮流の關係上、魚貝・海藻無限に棲息繁茂し、每春西海岸に於ては鯡の銀鱗を閃かして群來し、時に鯨群の悠々遊泳に戯るを示すあり、また鮭・鱒は四海に回遊して秋季に至れば數多の河川に夥しく溯上する等眞に本邦漁業の大宗を成す。而して年久しく本道の生產額中首位を占めしも、近時開拓の內陸に進むに從ひ本道產業の重點も漸く農工に移り、近年に於ては第三位にあるも、なほ本邦水產總額の約四分の一を占め、依然、水產國たるの名を尊しめざる狀態なり。昭和十一年度の水產總價額は約一億二千二百萬圓にして、內、沿岸漁業約四千五百萬圓、遠洋漁業千二百萬圓、水產養殖約十萬圓、水產製造物約六千五百萬圓の割合なり。(イ)漁船及び從業者數　近時は沿岸より漸次沖合に進み、回遊魚族に對する新規漁業または發動機船に依る底曳網業勃興し、昭和十一年に於ける漁業件數は免許漁業九千三百四十八件、許可漁業一萬四千七百三十六件、自由漁業一萬六千二百三十四件、專用漁業百七十七件にして、これに從事する漁業者は四萬七千二百十二人、其被傭者は十五萬五千百四十四人を數へ、其使用漁船の總數は五萬八千七百五十隻を算し、前年度に比し二百二十五隻の減少を示せるも、これは無動力船の減少に因るものにて動力船は却て四百五十一隻の增加を示す。(ロ)漁獲及び製造高　本道に於ける漁獲物の種類は極めて多きも、其主要なるものは鮭・鮭・鱈・鰯・鰯・鯡・鮭・鮪・柔魚・帆立・蟹及昆布等とす。水產製造は近時長足の進步

をなし、食料品三千九百七十六萬餘圓、肥料一千三百八十九萬餘圓、魚油九百八十五萬餘圓、其他合計六千五百四十五萬餘圓に達せるも、更に處理加工の改善を圖りて價格を昂上せしむべき餘地多く、今後の研究に俟つ所少からず。殊に鰊・鱈等の主要漁獲物の過半は肥料に供せらるる狀態にして、これが食品化を圖ることは極めて緊要なる問題なれば、水産試驗場は固より民間團體・當業者に於て種種考究を重ねつつあり。依りて鰊の如きは漸次新しき供給の途が拓かれ、各種製品となりて市場に送り出さるると共に、生魚も低溫設備を有する輸送機關の發達により、遠距離の地まで輸送せらるるに至れり。水産製造物は主として素乾・鹽乾・煮乾・鹽藏・調味加工品・罐詰類・肥料・魚油業等にして、其他箇々の製造物に就きては種類極めて多し。本道の水産製造物は嘗ては對支輸出品として極めて重要の地位を占め、年額七—八百萬圓の輸出をなし來りしものにして、近年は對支關係の圓滑ならざるため日貨排斥等の影響を受け不振を續けしも、昭和七年に支那滿洲國が成立し、滿蒙に對する需要が再び高まりつつあり。次に二三漁獲物の主産地等を擧ぐれば、鰊は本道の漁獲物産額中に從來は大宗の地位を占めしも、近年不漁のため第四位に下るの狀態なり。その豐漁と否とは實に本道の漁業經濟界を左右す。その漁獲は後志支廳管内に特に多く、宗谷・留萌等はこれに亞ぐ。鮭は往時濫獲せしため著しく減少せしも、最近人工孵化による增殖を計りし結果、昭和十一年に於ては前年に比し約百萬貫の增加を示すに至れり。鮭は本道各地の海洋・河川にて漁獲せらるるも、殊に根室・千島方面を首位とし、石狩・北見・十勝方面これに亞ぐ。鱈は鮭と同じく近時漁獲高の減少を來せしも、昭和十一年は前年に比し價額に於て減少せしも、數量に於て約四百二十萬貫の增加を示したり。漁獲は本道全體に亘るも、大部分は根室・千島・釧走方面の海洋なり。鱈は本道の海洋の到るところに棲息を見ざるはなく、沖合漁業中主要なるものとす。鱈場蟹は國後島の東岸・北見の東岸を主とし、また千島・釧路・十勝の沿岸に產し、大部分は罐詰に製せられ、歐米への輸出品として特に重要の地位を占む。（林業）本道の森林面積は之を所有上より御料林・國有林・大學演習林、其他の官有林及び道有林・市町村有林・社寺有林・私有林に分たるるも、總面積は六百七十二萬町歩にして全道面積の七割に當る。國有林は最も多く、總面積の五割二分を占め、私有林は二割一分、御料林は一割二分、道有林は一割等相次ぐ。林相は針葉樹・闊葉樹・針闊混淆林の三種に大別さる。針葉樹は南西部に少く、北東に進むに從ひて漸次增加す。これは南西部に元來少かりしと、多年に亘りて伐採せられし結果なり。闊葉樹は本道森林面積の大半を占むるも、同一樹種の純林は極めて稀なり。針闊混淆林は針葉樹と闊葉樹とが不規則に混淆し、老大なる闊葉樹の下には針葉樹の稚樹もしくは壯樹が點生または群生するを普通とす。而して林産物は拓殖の進展と共に年々增加し、各種の建築用材・鐵道枕木・製紙原料材・薪炭及び電柱材等を主なるものとし、船材・車輛材・家具及び木工材等の産額も多く、道内・府縣の需要に應ずるは勿論、遠く支那・歐米諸國に輸出し巨額に達せしことあるも、近年は財界不況と米國材・沿海州材の壓迫に依りて不振を續け來れり。然るに昭和十一年に至り價格の騰貴せると製紙原料材、其他の需要增加とに依り、林産總額（内、木材價額は由元素材價額とす）三千五百二十二萬六千九百九十六圓に達し、前年度に比すれば七百四萬餘圓の增加を示したり。（工業）昭和十一年度に於ける總生産額は二億五千八百萬圓にて、昭和八年の一億七千萬圓、同十年の二億三千萬圓に比してその著しき發達を知るべし。されどかかる狀況は最近に於ける財界の好轉、軍需品工業發展の影響及び對外貿易安に由る道産品輸出の增加に依るものなり。本道の工業は少數なる大規模の事業を除く外は概ね小資本にして、技術的になほ幼稚の域を脱せざるもの多く、日用品の如きは内地の府縣より移入するもの尠からざる狀態にして、今後の發達に俟つべきもの甚だ多し。現在大規模に經營せられつつある工業は麥酒・製麻・製紙・製糖・醸造・製粉・製酪・製鐵・製鋼・金製錬等にして、これ等の諸工場は各地に存在するも、本道は工業原料たる海陸産物の豐富なると、これが原動力たる石炭と水力電氣の供給潤澤なるに依存し、企業の進展上充分なる資源を有するものなり。なほ上述の工業を原料別に依りて觀るに、農産物よりは清酒・麥酒・製粉・澱粉・製麻・製糖、畜産物よりは牛酪・煉乳・練乳、林産物よりは製紙・木製品、水産物よりは罐詰・鹽化加里・沃度、鑛産物よりはセメント・製鐵・諸機械及び人造肥料等の生産がその主なるものにして、殊に最近の勃興に係る製糖・乳製品工業は本道の農業政策上重要なる使命を有し、その發達の情勢は今後刮目に値するものあり。其他、澱粉の精製・清酒の實現等幾多の化學的製法の研究も着々完成されつつあり。昭和十一年度に於ける工業生産額は別表の如し。次に各種工業に就きて見るに、（イ）紡織工業　明治廿年に北海道製麻株式會社（のち帝國製麻株式會社）の設立を見、爾來着々穩健なる發達を遂げ、本道の特産たる亞麻を原料とする製麻・紡績・麻絲・麻織物等は著しく進展し、製綿業も各所に於て發展す。されど澱粉の古き絹織物業は未だ屋内工業の域を脱せず遲々

工業別工産額		
種別	價格	
紡績工業	一〇、三四〇、二四八	圓
金屬及機械工業	三〇、〇八一、七五五	
窯業	六、三五五、七三〇	
化學工業	七二、三五六、六二八	
木製品工業	九、八三二、四八五	
食料品工業	九〇、七四四、四七〇	
其他工業	一八、一四三、八八四	
合計	二六八、〇六五、一二八	

重要工産額		
種別	價格	
紙パルプ	四九、八〇九、三八七	圓
諸機械	三、八九九、〇一一	
醸造物	二〇、六八一、五二四	
セメント	五、三七七、三一六	
砂糖	一三、〇八四、一四五	
澱粉	八、三〇六、二五一	
麥酒	三、四一四、〇〇〇	
多麻	三、九二二、六〇五	
製罐	一〇、四四四、四八六	
木製品	八、三四八、八一一	
薄荷	五、九七一、九八三	
乳製品	五、六五九、九五一	
練乳	一、八四六、四九八	
粉乳	四、三〇〇、六〇五	
牛酪	四四八、六七一	
其他	一三、一八五、七四四	
計		

として不振の狀態なり。（ロ）機械工業　その代表的なるものは金屬製鍊・兵器・造船・製罐等なるも、この他に鑄物・昇降機及び農業用器具機械の製造等もあり、近時、軍需工業の擴張と共に益々隆盛に赴きつつあり。（ハ）窯工業　窯業はセメント・煉瓦・硝子製品・陶磁器及びコークス等なるも、セメント及びコークスの製造を除きては概ね小規模にして未だ幼稚の域を脱せず、産額また寡少にして今後の發達に俟つところ多し。（ニ）化學工業　その主なるものは製紙・護謨・肥料・油脂類及び石鹸の製造・取卸薄荷等なり。これ等のうち最も盛なるは製紙業にて、護謨工業これに亞ぐ。護謨は最近顯著なる發達を遂げ、府縣に於ける先進地を凌駕する趨勢にあり。其他、人造肥料・硫酸安母尼亞あり。薄荷は本道の特産にして、野付牛町の工場のみにては未だ充分ならず、專ら農家に於て副業的に薄荷草を蒸溜して取卸薄荷となしつつあり。また油脂類及び石鹸製造等あり、概して經營は小規模乃至幼稚の域を脱せざるも、本道はこれ等の原料には極めて豐富なれば今後の發展に期待せらるるもの多し。（ホ）製材及び木製品工業　本道は今なほ二十二億石餘の材積を蓄藏し、毎年多量の各種優良材を製出して木材を原料とする製作業も大いに發展の趨勢にあり。殊にベニヤ板・ベニヤドアー製家具類は益々その需要を增大せしめつつあり。（ヘ）食料品工業　本道に於ける食料品工業はこれを醸造・製粉・製糖・罐詰・煉乳並に牛酪製造・乳肉製品・製氷・清涼飲料製造及び製麵等極めて多種多樣に分けらる。農産・水産等の自然的食料品の增加と共にこれが加工工業もまた漸次發展を促され、殊に麥酒・清酒・小麥粉・澱粉・砂糖（ビート糖）・鮭鱒及び蟹罐詰・牛酪・煉乳等の加工食品に至りては年々多量の移輸出をなしつつあり。（ト）電氣及び瓦斯工業　本道は地形上各地に水力發電の適地を有するを以て水力に依る發電事業の發達を齎しつつあり。最近の發電所數に供給用・自自用を合して百六十餘を數へ、その最大總發電力は十三萬キロワットに達し、今や都市の電化は固より農村電化も著々其實現に向ひて進みつつあり。瓦斯は北海道瓦斯株式會社の經營に成る札幌・函館・室蘭・鹽谷の四工場ありて漸次その利用が喚起しつつあるも、尙ほ今後の發達に俟つもの多し。（鑛業）昭和十一年度に於ける鑛區數は試掘及び採掘を合せて二千七百八十一件に上り、前年に比すれば百二件の增加なり。その坪數の總計は二十一億二千四百萬坪を示す。而して鑛産物は金・銀・銅・石炭・石油及び硫黄を始めとして、各種の有用鑛物に富み、昭和十一年の鑛産額は九十八百四十餘萬圓。本道生産總額の約一割三分を占む。これを前年に比すれば二千三十五萬餘圓、前々年に比しては三千百餘萬圓の躍進的激增なり。石炭はその首位を占め、その炭質は優良なり。埋藏量は實に八十億瓲と推定され、昭和十一年中の出炭量は九百二十八萬餘瓲に達し新記錄を現出せしも、今後人造石油その他各種工業の發展に伴ひ益々採掘增加すべし。要するに石炭は本道鑛産物の大宗といふべく、鑛産總數の六割五分を占め、また本邦石炭生産總額の二割二分に當る。その鑛區は殆ど全道的なるも、特に石狩・留萌・釧路炭田に稼行盛なり。硫黄の採掘・製錬業は近年特に顯著なる發展をなし、昭和十一年の生産量は七萬五百瓲、前年に比して一萬四千瓲を增し　本邦生産の三割五分、第一位を占め、鑛山數も亦最も多し。なほ鑛山は後志國岩鼻登、渡島國鹿部・惠山・熊泊・赤井川、膽振國幌別・登別及釧路國硫黄山等なり。金銀鑛業は最近の金價騰暴鑑と產業奬勵施設により金鑛山の試掘・採掘は隆盛を極め、昭和十一年に於ける金生産量は三百七十八萬五、千圓額千二百七十萬圓、銀は四千九百七十萬五、二百五十五萬七千餘圓に達し未曾有の隆盛を示すに至れり。主なる稼行地は北見・膽振地方とす。石油鑛業は從來一進一退、選々たる狀況なりしが、近年道内各地に相次いで油脈發見され、所業の發展は今後大に期待せらる。現に起業中のものは石狩・宗谷・膽振各支廳内とす。滿俄鑛業は歐洲戰當時頗る隆盛を見しも、其後は漸次減少の傾

向にありしが近年再び隆盛となり、昭和十一年に於ては金屬・二酸化を含せて其生産量は二萬七千三百餘瓲を示したり。硫化鐵鑛に近時急激に増加し、昭和十一年の生産量は二萬七千五百三十瓲を示したり。其主産地は本道の南部とす。鐵鑛業は昭和十一年には二十五萬五千餘瓲を示し、其主産地は檜山・後志・膽振地方とす。クローム鐵鑛は我國に於ける有數なる産出地にして、昭和十一年に於ける生産量は二萬二百餘瓲にして其主産地は日高一圓とす。（商業）イ）内國取引　本道と府縣との商取引の起源は、安政六年以來諸外國との貿易の行はるるに至りたる事實より見ても、相當古きものなることは容易に察せらる。されど開拓使時代の中葉までは其移出品は殆ど水産物に限られ、固より今日の如き複雑にして殷賑なる商取引に行はれざりき。爾來約七十年、拓殖の進展に伴ひ各種商品の生産は増大し、これが道外移出も比年繁盛に赴き、昭和十年には四億二千七百十二萬四千餘圓に達し、前年に比し二千百餘萬圓の増加を示したり。然るに未だ本道の商品は水産・農産・鑛産・林産等の原始生産物を主とし、加工製品に於ては新聞用紙・亞麻製品・砂糖・セメント・澱粉・小麥粉・罐詰類・乳製品等の特殊工産物を除く外は移出の餘力に乏しく、現在道内の需要をも未だ充し得ぬ狀態なり。即ち酒類・味噌・醤油・麺類・衣類等の用品は道内の生産も年々増加の傾向にあるも、人口の増加と共に其消費力も旺盛にして府縣より多量の物資を移入する關係上、年々移入超過を示す狀態なるも、昭和八年に於て千九百萬圓の移出超過となり、また同十年は移出に於ても相當に増加せしも移入に於て、内作のため内地米の需要増加したると、工業方面に於ける鑛物性油脂類・金屬製品等の需要頗る多かりしため從來に例なき増加を示し、結局未曾有の移入超過を記録するに至りしも、昭和十一年に至りて農産・水産等産業の振興に伴ひ、移出大に振ひ移入に於て減退せるため二千二百餘萬圓の移出超過を示し、昭和八年の記録を破るに至れり。なほ移出入品の主なるものを揭ぐれば、移出品は農産品（米・大豆・小豆・豌豆・陸元豆・燕麥・蕎麥・菜種・玉葱・馬鈴薯・百合根・林檎・薄荷・除蟲菊等）、水産品（昆布・鹽鮭・鹽鱒・鯛・身欠鰊・乾鱈・貝柱・鰯・鯨・鯨箱・刷鯨・鯨粕等）、林産品（丸太・角材・挽材・下駄材・ベニヤ板・木炭等）、鑛産品（石炭・硫黄等）、工産品（新聞紙・セメント・澱粉・麦酒・砂糖（甜菜糖）・パルプ・小麥粉・煉乳・バター・罐詰類等　にして、移入は米・清酒・燒酎・味噌・醤油・麺類・蜜柑・煙草・絹・綿・毛織物・衣類・鑛物性油脂類・金屬製品等なり。ロ）外國貿易　本道の海外貿易は安政六年函館の開港にその端を發し、降つて明治二十二年には小樽、同二十四年には釧路、同二十八年室蘭、同四十三年根室、更に昭和十年留萌と順次開港を見、本道六大貿易港として逐年繁盛に赴き今日に至る。いま昭和十一年度の輸出入額を表示せば左の如し。

港名	輸出	輸入
函館港	三三、〇六五、九二四	二、三四八、一七四
小樽港	三四、〇〇七、〇八五	四、八〇八、六五六
室蘭港	二、九六四、三四三	四、六六二、一五四
釧路港	二、七一五、六一三	一五、四三七
根室港	二、〇二二、七二二	一、七七八
合計	六五、九七一、二二八	一二、八三六、一九七

概勢は次の如し。（函館港）輸出は支那・關東州・海峽植民地、並に歐洲向の海産物を主とし、輸入は支那並に關東州の豆粕・鮫・北米合衆國の桑鐵、滿洲國の銑鐵、支那・濠洲の鐵鑛、クリスマス島の燐礦石等なり。（小樽港）輸出は農産物その大部分を占め、殊に英國向の豌豆、北米合衆國・獨逸・英國向の陸元豆、北米合衆國向の除蟲菊、比律賓・支那向の玉葱を主とし、其他、支那・英國及び濠太利等に輸出する製材も亦尠からず。輸入は支那並に關東州より豆粕及び鮫等を、北米合衆國より石油・桑鐵を、佛・英領印度の米、濠太利・加奈陀の小麥等主なるものとす。（室蘭港）輸出は比律賓・香港・支那向の石炭、支那向の印刷用紙等、輸入は蘇領亞細亞の石炭、支那の鐵鑛・石炭等その主なるものとす。（釧路港）輸出は支那・關東州向の木材・板・鐵道枕木、支那向の印刷用紙等、輸入は支那・滿洲國・關東州よりの豆類・耐火煉瓦等その主なるものなり。（根室港）輸出は海産物、特に支那向の長切昆布にて、輸入は滿洲國より小豆、關東州より支那素麺等にして何れも僅少なり。（留萌港）輸出は支那向の丸太・割材類にして、輸入は皆無なり。次に謂ゆる漁業貿易は函館・小樽港を主要港とし、殊に函館港は本島貿易の策源地として其大部分を占め、輸出は漁網・小舟・鐵・木材・藁製品・米その他の食糧品にて、輸入は鹽鮭・鹽鱒・

諸罐詰・鮮魚等なり。

【沿革】〔古代〕北海道史（北海道廳編纂）は伊非諾・伊非冉尊の生みませる大八洲の一なる越洲を以て北海道の地に擬するもこれ必ずしも執り難し。或は今の能登なりと云ひ、能登・加賀・越前・越中・越後などの地と云ひ、また佐渡島なりとも云ふ。ときれ冉尊の生みませる大八洲は多少なりとも皇威の及びたる地なるべく、果して然りとせば越洲を北海道に擬するは當を得ざるが如し。日本書紀齊明天皇の四年の條に、四月阿倍臣船師百八十艘を率ゐ蝦夷の國に遣征と雖も敢て戰ふにあらずして威を示せるのみ。ついで阿倍臣は有間濱（今の青森縣十三湖の邊なるべし）に於て渡嶋の蝦夷等を召して大いに饗せり（紀「定ム淳代津軽二郡々領ハ遂於有間濱召ニ渡嶋蝦夷等ヲ大饗而歸」）此處に見ゆる渡嶋こそは、北海道の古名にして國史に見ゆる最初なりとす。紀の同年の條に「是歳、越國守阿倍引田臣比羅夫討ニ粛慎ヲ、獻ニ羆二、羆皮七十枚」とある比羅夫は先の阿倍臣にして、粛慎を討つとは、或は北海道の地に於て蝦夷保護の意味にて粛慎族を討ちしものか。翌五年三月更に阿倍臣は蝦夷國を討つ。即ち「遣ニ阿倍臣一率ニ船師一百八十艘ヲ、討ニ蝦夷國ヲ、阿倍臣簡ニ集淳代二郡蝦夷二百四十一人、其虜廿人、津軽蝦夷一百十二人、其虜四人、膽振鉏蝦夷廿人於一所ニ、而大饗賜ヘ祿、即以ニ船一隻、與ニ五色絁帛ヲ、祭ニ彼地神ニ、至ニ肉入鹿、時問兎蝦夷膽鹿嶋ノ使人恵名二人進白、可ニ以後方羊蹄ヲ爲ニ政所ト焉、隨ニ膽鹿嶋等語ニ、遂置ニ郡領一而歸、授ニ道奥與越國司位各二階、郡領與ニ主政一各一階ヲ」（紀）とありて、討つとは云へ何等戰ふことなく、寧ろ大いに饗し、また蝦夷等の神を厚く祀り、祿を與へ位を授けて懷柔したりしなり。右に見ゆる膽振鉏（ホリフリ）も略ぼ北海道の地名とせられ、また後方羊蹄（シリベシ）も北海道の地名にて、而も此時に郡領が置くと云へば、前年四月の懷柔もあれど、其年の粛慎征伐が北海道の地に於てなされたるにあらずやとの推測を深むるものあり。同五年七月、小錦下坂合部連石布・大山下津守連吉祥の二人は唐國に遣はされしが、其時、道奥蝦夷男女二人が伴ふ。伊吉連博德書なる者は時の我が使者と唐天子との問答を次の如く記す。「天子問曰、蝦夷爲何種、使人謹答、類有ニ三種一、漆者名ニ都加留一、次者名ニ麁蝦夷一、近者名ニ熟蝦夷一、今此熟蝦夷每ニ歲入ニ貢本國之朝一、天子問曰、其國有ニ五穀一、使人謹答、無之、食ニ肉存活一、天子問曰、國有ニ屋舍一、使人謹答、無之、深山之中止ニ住樹本一、冬之日則ち穴居、夏之日則ち巢住、人皆如ニ鳥獸一、言語不通、」とあるが、少くとも渡嶋蝦夷は周濟が魚族に富むを以て、漁業と狩獵とは共に主生業なりしなるべし。但し彼等との交通者は獸皮を目指し居たることに注意を要す。扨て阿倍臣は同六年粛慎國を伐つ。「三月、阿倍臣率ニ船師一百艘一、伐ニ粛慎國一、阿倍臣以ニ陸奥蝦夷一、令ニ乘ニ己船一、到ニ大河側一、於是渡嶋蝦夷一千餘屯ニ集海畔一、向ニ河面一營、營中二人進面念叫曰、粛慎船師多來將ニ殺ニ我等一之故、願ニ欲濟ニ河而仕官一矣、阿倍臣遣ニ船嶋ニ至ニ兩側蝦夷一、問ニ賊隱所與一、其船氣ニ兩側蝦夷使指ニ隱所一曰、船廿餘艘、即遣ニ使喚而不ニ肯ニ來、阿倍臣乃積ニ絁帛兵鐵等一、於海畔而令ニ貪嗜一、粛慎乃陳ニ船師一、槳ニ羽於本一、舉而爲ニ旗、齊ニ棹近來停ニ於淺處一、從ニ一船裏一出ニ二老翁一、廻行熟視ニ所ニ積絁帛等物一、便換ニ着單衫一、各提ニ布一端一、乘ニ船還去、俄而老翁更來脫ニ換衫一、并置ニ提布一、乘ニ船而退、阿倍臣遣ニ數船一使ニ喚一、不ニ肯ニ來、復ニ於幣賂弁嶋一、食頃乞ニ和一、遂不ニ肯聽一、擒ニ己柵戸一、于時能登臣馬身龍爲ニ敵被ニ殺一、猶戰未ニ倦之間財破殺ニ己妻子一」（紀）。一説に引用文中の大河とは石狩なるべしと。ときれ回倍臣が丁度渡島に行きし時、渡島蝦夷に粛慎族（黑龍江方面に住みしツングース族ならん）の侵攻に遇ひ居りしかば、救を阿倍臣に乞ひ、阿倍臣は之を懷柔せんとせしも粛慎はそれに乘らず幣賂弁嶋に歸る。蓋し此島が樺太に擬する説あり、或は然らん。ときれ粛慎の侵略は恐らく屢々なりしなるべく、渡島蝦夷は之がために先に後方羊蹄に政所を置かれんことを乞ひしなるべし。此時より三十五年の後、即ち紀によれば持統天皇の十年、越（コシノクニ）の一度嶋蝦夷伊奈理武志と粛慎志良宇叡草とに朝廷より錦袍袴緋紺糸巻弁などを賜ふ。かの粛慎志良宇叡草は渡島に住みしものか。以上、越國守阿倍臣の遠征より見るも渡島は越國守の管下なりしこと推し得べしと雖も元明天皇和銅五年、越國を割きて出羽國を置くに及び渡島は出羽國守の管下となる。養老二年には渡島蝦夷は出羽蝦夷と合して八十七人、京に上りて馬千匹を貢す。また寶龜十一年出羽國へ下されたる勅には、渡島蝦夷は絶えず朝貢し居るに、出羽蝦夷は屢々逆民（和人）を侵すの狀態なることを指摘せられ、將軍國司が出羽蝦夷に饗を賜ふの目に意を存して慰諭すべきを命ぜらる。延暦二十一年渡島蝦夷入朝す。當時の貢獻は多く獸皮にて、こは都の貴顯の珍重するところたり、かくて密に之を購はんとする者多し、朝廷これを禁ず。貞觀二年、渡島蝦夷船八十艘に便乘して秋田・能海郡を侵す、これ史實に見ゆる限り平安朝以前に於ける渡島蝦夷唯一回の騷亂なり。元慶二年出羽蝦夷の叛亂に際しては渡島蝦夷官軍のため盡す處ありしが如く、また同三年には渡島蝦夷の酋長百三人、その族三千人を率ゐて秋田城に至り聖化を歸慕す、よりて城主は之を勞撫して歸す。平安時代までの渡島蝦夷に關する正史は以上列記したる處を以て盡く。（中世）蝦夷島奇觀は、延暦年間以來奥羽に騷亂せるものの蝦夷島に逃れ渡り土着するに至りし者あるべしといふ。思ふに、源義家等に滅ぼ

されたる安倍氏の族（前九年役）或は清原氏の族（後三年役）の渡道せる者ありしやも知れず、されどやや明かなるは文治五年、源頼朝の奥州征伐によつて敗殘せる平泉藤原氏の族の渡道とす。安倍・清原・藤原三氏が蝦夷なるや否やは論議あるところ、されど少くとも部下の多くは俘囚と呼ばれ、云はば馴著たるアイヌなり、而して其間に和人も居り、兩族の混血兒もありしこと疑ふべくもあらず。吉野時代の遺物、諏訪縁起繪詞にある渡黨なる者は大體中世に於けるこれ等竄入者を云ふなるべし。卽ち右繪詞によれば、蝦夷に三類ありて日の本・唐子の二類は其地外國に連りて形體夜叉の如く人倫禽獸魚肉を食とし五穀の農料を知らず言語全く相通ぜずと、之に反し、渡黨は髮多くして渾身に毛を生ずれども和國の人に類似し言語俚野なりと雖も大半は相通ずといふ。日の本・唐子を生蕃とすれば渡黨は熟蕃なりと雖も、平泉藤原氏の燦然たる文化を見るとき、東國武士の文化と甚だしく懸隔あるものとは思はれず。ともあれ少數の和人・混血兒、多數の農耕を知る夷人などが、口蝦夷卽ち凡そ東海岸は今の膽振國勇拂郡鵡川村邊より西海岸は後志國余市郡余市町の邊に至る海岸地方に居住す。また東鑑建保四年の條に東寺凶賊以下強盜海賊の類五十餘人を夷島に流せしこと見え、文曆二年の條には夜討強盜の張本は斷罪、その枝葉の輩は夷島に流す旨を記す。永仁四年には日蓮上人の高弟日持が渡道し、のち石崎（今の渡島國龜田郡錢龜澤村の內）に數年留錫すと傳へ、また應永・永享年間には寺院の建立を見たり。蝦夷島は和銅五年以來出羽國守の管下なりしが、中世に至りて津輕の地は陸奥國に入り、而して津輕の安東（或は安藤）氏は幕命により蝦夷島を管領することとなる（蓋し安東氏は安倍貞任の子孫なりと傳ふ）。然るに當時中央の權力は奥羽の地に及ばず、而して東隣の南部氏は勢力を得て嘉吉三年當時の津輕の領主下國安東太郎盛季を攻め盛季は蝦夷島に逃る。之よりさき安東氏は始め藤崎の地にありて津輕の地を治す、愛季のとき十三湊（今の十三潟の邊）に移り盛季まで四代を經たるが、藤崎以來盛季に至るまで安東氏の蝦夷管領たること凡そ二百年、このうち十三湊にて治せし頃、蝦夷島の產物（概ね魚類・海草類・獸皮）は此地に集り、此處にて越後・越前・若狹、その他の商賈との間に賣買行はれ、十三湊の繁榮、目覺ましきものありき（十三往來「夷船京船群集、拔ニ舳先一調ニ納成ニ市一」）。盛季の渡道に從ひて一族郎黨の移住したる者少からず。盛季の子孫殘黨にして內地に殘れる者、幾度か津輕の獨立を試みたるも成らず、遂にその宗家斷絕す。支族の安東政季、十三湊滅亡の折はなほ弱冠にして南部氏の捕ふる所となり、成長後、南部氏は津輕領民の懷柔政策上、政季に其女を娶はして表面津輕領主の如く裝ふ。其後、政季は武田信廣・相原政胤・河野政通等に擁せられ津輕の舊の獨立を策して失敗せしにや、享德三年信廣・政胤・政通等と共に蝦夷島に逃る。之よりさき、或は同時代頃、奥羽にありし蠣崎氏また南部氏に敗られて蝦夷島に竄入したるものの如く、花澤（今の後志國檜山郡上ノ國村の內）に居りて上ノ國を稱す（蠣崎氏は安東氏と親戚か縁戚か、何等かの關係あるものの如し）。當時蝦夷島に於ける和人は東は鵡川邊より西は余市邊に住すと雖も、內地よりの敗殘の諸將及びその部下は各々集團して東は汐首岬邊より西は厚澤部川口邊までの海岸地方に住し、砦は小砦を構へて館（たて）と稱し、部下と共に附近に住む和人の保護に任じ、和人は漁業と農耕とを營み居たりき。安東政季は蝦夷島の管領として諸館主に部下の役柄などを整備し康正二年再び內地に歸りしが、當時館は十二あり何れも海岸に近く、東より西への順序に列記すれば別表の如し。偶々夷人が和人鍛冶に小刀を

館名	所在地（現在にて表現）	館主（補佐役）	備考
志濃里	渡島國龜田郡錢龜澤町字志苔	小林太郎左衛門尉良景	
箱館	同　函館市	河野加賀右衛門政通	
茂別	同　上磯郡茂別村	下國安東八郎式部大輔家政（河野加賀右衛門政通）	政季の弟
中野	同　同　木古內村字中野	佐藤三郎左衛門尉季則	
脇本	同　同　知內村字脇本	南條治部少輔季繼	
隱內	同　松前郡吉岡村	蔣土甲斐守季直	
覃部	同　同　福山町字及部	今泉刑部少輔季太	
大館	同　同　福山町	下國山城守定季（相原周防守政胤）	政季の一族
禰保田	同　同　小島村字根部田	近藤四郎左衛門尉季澄	
原口	同　同　大島村字原口	岡部六郎左衛門尉季澄	
比石	後志國檜山郡上ノ國村	厚谷右近將監重政	
花澤	同　同　上ノ國村字花見臺	蠣崎修理大夫季繁（武田若狹守信廣）	

註文し、その出來映につき論爭の末和人鍛冶に刺殺せらる。之よりさき和人の渡道著しく、口蝦夷地の夷人等は壓迫感を感じ、兩族間の感情は常に衝突しがちなりしが、かの事件をきつかけに康正二年蝦夷等蜂起し多くの和人を殺戮す。翌長祿元年、東部に勢力ありし一酋長胡奢魔犬は多數の夷人を率ゐて先づ志濃里館を陷れ、ついで中野・脇本・隱內・覃部・大・禰保田・原口・比石の諸館も陷落して、僅に茂別・花澤の二館漸く支へ居たり。此時、諸館主相談の上、結束して七重濱に大會戰をなせしが、當時未だ和人の數少く衆寡敵せず將に殲滅せんとす。此時、花澤館の補佐役武田信廣は胡奢魔犬父子を殺したるが、之が挽回の契機となりて遂に和人の勝利に歸す。此戰ののち管領家の代表下國安東家政は屢々花澤館に至りて信廣の戰功を賞し菊一文字の刀を授け、ついで花澤館主蠣崎季繁は其女を信廣に與へ、のち信廣は蠣崎家を繼ぐに至る。信廣は新羅三郎源義光の後裔と傳へ、義光十三世の孫信繁は元中四年に若狹を領す。信廣は信繁の孫に當り、勇猛に過ぎて暴虐なる事あり、遂に自盡を迫られしが、重臣彼を惜みて逃れしむ。のち信廣は陸奥國田名部の蠣崎氏に寓し、更に安東氏に仕ふといふ。信廣は始め身分低かりしも康正の亂後勢望あり、天川を隔て花澤館と相對して洲崎館を造り住み、明應三年、一館主として六十四歲を以て歿す。その子孫、光廣・義廣・季廣・慶廣と相繼いで何れも長命にして英邁、遂に慶廣に至りて松前藩の基を開く。勿論ここに至りては國史區分としては近世に屬すれども、假りに中世の項に於て慶廣に至るまでを略說せん。永正九年には又々蝦夷蜂起して箱館・志濃里館・與倉館を陷れ、館主河野政通・小林良景・小林良定等戰死したるが、此等の戰に際し蠣崎光廣は敢て和人方に味方せず、蝦夷方の怨を買ふことをせざりき。それのみならず、その翌十年蝦夷等大館を攻めしが、光廣また大館を攻めて館主相原秀胤等は遂に死す。ついで光廣は大館を修築し、移り住みて地を德山と名付く。かくて光廣は箱館・志濃里館・與倉館・大館・花澤館などの舊諸勢力を一身に統一し、蝦夷地に來る商船旅人には稅を課するに至れるが、その收入の過半は出羽檜山なる管領家安東氏に送れりといふ。同十二年、東夷また叛したるが、光廣偽りて和し、酒酣なるを見計ひて夷酋庶野訇峙以下を殺し、享祿二年西部の澗棚蝦夷の叛亂に際して義廣は父の故智に倣ひ、偽り和して夷酋多奈計支以下を殺し、天正五年の西部の蕪石蝦夷の叛亂に際しても義廣は亦々偽り和して多理古那以下を殺す。以上を以て蝦夷等はほぼ治まりたれば、義廣の後を繼ぎし季廣は、蝦夷等に寶器を與へなどして懷柔し遂に交易を約す。之より以前と雖も和夷間に交易ありたれども、此時公に約定したるものなり。（近世）永祿四年蠣崎季廣死し其子慶廣相續す。慶廣こそは、蝦夷島をして內地の權勢よりの羈絆を脫せしめ、自ら獨立して蝦夷島主となりし人なり。卽ち慶廣は天正十八年上洛して關白豐臣秀吉に謁し蝦夷島主の待遇をうけ、ついで文祿二年秀吉より蝦夷島の制書を受く。更に慶長四年には德川家康に謁し、此時より姓を松前と改め、同九年家康より制書を受けて玆に松前藩の基を築く。爾來將軍代る每に制書を受けしが、別に將軍家との接近を計り將軍家に非常に信望を得、子弟は旗本となりて直參するに至れり。うち松前にありては慶長五年德山館の南に城を築き之を福山と名付けしが、幕府へは憚りて福山館と稱したりき。慶長十五年花山院忠長蝦夷島に謫せらるるや之を厚く遇す。爾來松前藩主の公卿の女と婚姻するは此緣に因る。また松前藩は始め近隣なる津輕・南部・秋田・仙臺の諸藩と親交するところありたるが、これ松前藩は此等の諸藩に比して實力なかりしのみか、藩內に必要なる米は實に奥羽の諸地に仰がざるべからざる實狀にありしに因る。かく信廣より五世の孫慶廣までは內外ともに營々として勢力と地位とを築き來りしが、慶廣の子盛廣若くして死して後は幼主多く、また名君名臣に乏し。一方、蝦夷は氣力衰へて靜謐となり、德川氏は儼然として各藩間の侵略を許さざる時勢となりしかば、松前の君臣は怠惰に陷り享樂に耽りて藩政頗る寒心に堪へざるものありき。されど蝦夷島に於ける文化は、產業を中心として商賈の手によりて發展す。參覲による江戶文化の輸入もさる事ながら、主として近江商人の來往に依る上方文化の輸入は、奥羽にも見られざる文化を口蝦夷地に現出するに至れり。藩の組織としては、土地を先づ和人地と夷人地とに區別し、兩者をまた幾區分して家臣に和人地と夷人地とを知行地として授く。家臣の知行地中、和人地は單に治するのみなるが、夷人地は場所と稱し其場所の產物に對する交易權を獨占し、之が行使による利が知行卽ち收入なりき。始め家臣自ら交易したれども利多からず、のち運上金なるものを商人に奉らしめて彼の交易權を貸與す、彼の商人を場所請負人といふ。福山の地は城下として藩臣皆此處に居り、また當時夷人地に和人の居住を許さざりしかば、場所請負人の本據其他の商舖何れも福山に軒を列ぬ。されば元祿十四年の戶口調査によれば福山の人口は五千人にて全島和人の四分の一を占め居りしといふ。かくて當時福山を中心として和人地域中の西部を西在又は上在といひ、東部を東在又は下在といふ、また夷人地にも同じく西蝦夷地（上蝦夷地）、東蝦夷地（下蝦夷地）の稱あり。江差・箱館は福山に次で榮ゆと雖も唯當該地方に於ける和人の貨物集散地に過ぎざりき。

扨て場所請負人の多くは近江商人にて、夷人に進歩せる漁法を教へ、或は夷人を使役して新器具による大規模の漁業を行ひなどして、産物の増加著しきものあり。從て蝦夷島の産物は彼等によりて世に弘められたるが、近江商人は斯くして實に開拓使時代まで蝦夷地の經濟界に重きをなしたりしなり。されど之が社會的に見るとき、彼等は産額を増大したりと雖も、一方に於て藩主及下藩臣に奢侈の資を供したる結果となり、他方に於ては夷人に奢侈の習慣を植え付けたるの結果となれり。從來夷人は魚貝等を自分等の食するだけを採り、酒とても野生の稗などを醸して年に數回飲むを得たるに過ぎざりしが、今や場所請負人によりて敢入の殆ど全部は酒・煙草、其他の奢侈品に替へられて、其間文化の向上など殆ど見るべきものなかりき。藩の政策として、一方、夷人には知識を與ふべからずとし、他方、和人の渡道を禁じたれば夷人は向上せず、開拓も進まざりき。然るに寛永廿年、露船千島に現れ、その野心を知るや、中央にては朝野、北邊の念に着眼するに至ると雖も、一方領主たる松前氏は寛文九年、蠣崎の夷酋沙具沙允を中心に東西の夷人叛亂して和人二百七十餘人を殺戮したるも之を討伐する實力なく、遂に幕府は旗本松前泰廣を遣して討伐せしめたるの態なり。幕府に對する體裁は、幸にして蝦夷松前氏の因なる旗本松前泰廣の取なしにより幾分覆ひ得たるも、かの叛亂に津輕藩兵七百餘人の加勢ありしこと等世に隠し得ざることなりき。其後夷人の叛亂はただ一回國後目梨蝦夷の叛亂のみにて、爾來終息したれども、露人の北侵、英船の徐航（いま宗谷市の内）來訪あり、また厚岸の夷酋イコトイは露人と和親結託する等のことありて、幕府は最早この微弱なる松前氏に北邊を託する能はざるの狀勢に立ち到れり。玆に於て幕府は先づ寛政十一年、東蝦夷地を直轄し、場所請負人が夷人より貪りて夷人の感情を害するを恐れて、之が交易を幕府・夷人間の直掛となす。文化四年には西蝦夷地をも幕府の手に收めて箱館奉行（のち松前奉行といふ）の所管となし、かくて松前氏は陸奥梁川に移封せらる。北邊の急と共に、公私孰れかの貴格を具て蝦夷地を訪れて益したる者多し、中にも近藤重藏・伊能忠敬・間宮林藏・最上徳内・松田傳十郎・高田屋嘉兵衛などは主なるものとす。天明六年に最上徳内は擇捉島に至り露人イジュヨ（イジョフか）に遇ひ、更に得撫島に至り調査す。近藤重藏は寛政十年、十勝國に於て山道二里を開きしが、これ蝦夷地に於ける道路開鑿の嚆矢なりといふ。同十一年には高田屋嘉兵衛は擇捉島までの航路を開く。翌十二年伊能忠敬は東蝦夷地を、間宮林藏は西蝦夷地を各々實測して玆に蝦夷地の全地圖成る。また同年近藤重藏は擇捉島に至り露人の建てたる十字架を倒して日本國の標柱を建てたるは今もエピソードとして世人に知らる。かくの如き北邊の狀勢を察し、武藏國八王子千人頭の原半左衛門は部下同心の子弟厄介の者約百人を引連れて蝦夷地に赴き公役に從ひ、ぼんことを幕府に申出づ。かくて寛政十二年、幕府は彼等を鶏川・白糠の兩地に移住せしめ小銃と農具とを與へて警備と開墾とに當らしむ。これ謂ゆる屯田兵にはあらざれども蝦夷島に於ける此種移住の最初とす。擇て露人の侵略は從來多く千島方面にて、精々東蝦夷の北邊なりしが、文化に入るや露人は頻に樺太を侵す、かくて文化五年松田傳十郎・間宮林藏は樺太島を視察し、林藏は更に大陸に渡り滿洲のデレンまで至りて歸國す。同じく文化年間には邦人が露斡ゴローイン外七名を國後にて捕へて福山に至るとか、高田屋嘉兵衛が露人に捕へられ勘察加に至るとか、事態頗る急迫せる觀あり。玆に於て幕府は賴りとなる和人が蝦夷島に少きを憂ひ、越後・南部より農民を募集し居小屋・農具などを供給し開墾に從事せしむ。その多くは箱館附近にして、大野・文月にては水田成功し、同十二年には田百四十町歩ありと云ふ。其頃、奉行所の經費は到底多くの植民をなすに足らざりしかば、豪商に土地を割渡して開墾を奬勵したりしが、度一回作に遇ふや事業は頓挫して移民は離散し、水田また空しく荒廃するの狀なりき。かくの如き保護移民は失敗多きに拘らず、自由移民は相當の數に上れり。即ち晉て奥羽等にて水害天災により耕地を荒されたる農民其他は蝦夷島移住を望みたれども、松前藩政時代は之を阻止したりしが、幕府は歓迎したれば、東蝦夷地にては小安・戸井・尻岸内・尾札部・茅部・野田追の如き、和人の著しき増加ありて場所制度は廢せられ、村落となる。箱館は文政の始め既に一千戸に達し、近在には植民により、新に本郷・中野・千代田・一本木・藤山・峠下の諸郷を生ず。文化四五年頃の調査によれば和人の戸口は約八、八八〇戸、約三一、七四〇人、夷人の戸口は約六、〇三〇戸、約三六、八〇〇人なり。文化三四年の頃は露國の暴狀最も甚しかりしが、此頃津輕・南部・仙臺・會津等の諸藩に之が警備を命じたることあり。然るに文政四年に至りて幕府は幕府の從來なし來れる方式により施政すべきを命じて、蝦夷島を松前氏に還す。されど松前藩には君臣ともに蝦夷島拓殖の進展などに寄與すべき人物なかりしが、天保の飢饉は、政策の有無に拘らず、南部・津輕・秋田等の罹災民を蝦夷島に自由移民となしたりき。而して從來和人の少かりし西蝦夷地は俄然繁昌し、商店は勿論、髪結・按摩などまで開業するに至るといふ。尤も松前藩は舊慣に從ひ積丹半島の神威岬以北へは婦女の入るを許さざりしかば、妻子を伴ふものこれ以北に入らんとせば妻子と別れざるを得ず、從て神威岬以南に多く土着す。殊に岩内の如き天保飢饉以前には僅に二十餘戸なりしに、嘉永年間には五六百戸となり、その多くは天保年間に增加したるものなりと云ふ。岩内の外に古宇・磯谷・歌棄・寿都・島小牧など何れも百乃至二百戸の部落を成せり。（なほ「忍路高島及びもないがせめて歌棄磯谷まで」の俚謡の忍路及び高島は實に神威岬以北にある地とす。）かくて文化四五年頃和人三萬一千七百餘人なりしと云ふに、其後、約四十五箇年を經たる嘉永六年には六萬三千八百餘人となる。而して此等の中心地は福山・箱館・江差の三港にして各々戸數が五千二百餘・千七百餘・千四百餘ありしといふ。文政・天保・嘉永の間外國船北邊に現はるること多く、殊に嘉永六年には、露國樺太に上陸して柵を立つとか、露使長崎に來り境界決定を迫るとかあるに、米使ペルリまた浦賀に來り、堅安政元年には神奈川條約締結せられ下田・箱館の二港を開くに決す、かくて同年には箱館港に米國軍艦來り、その六月には箱館奉行設置せられて箱館地方に奉行の管下となる。同二年二月には水吉丙以東、乙部以北を箱館奉行の管下となし、更に同年三月松前・仙臺・秋田・南部・津輕の五藩をして蝦夷島の警備に當らしむ。且つ露國は樺太まで迫り居ることとて、奉行は神威岬以北の婦女入禁を解く、剃髪の取なしにより幾分覆ひ得たるも、かの叛亂に津輕藩兵七百餘人の加勢ありしこと等世に隠し得ざることなりき。其後夷人の叛亂はただ一回國後目梨蝦夷の叛亂のみにて、爾來終息したれども、露人の北侵、英船の徐航（いま宗谷市の内）來訪あり、また厚岸の夷酋イコトイは露人と和親結託する等のことありて、幕府は最早この微弱なる松前氏に北邊を託する能はざるの狀勢に立ち到れり。玆に於て幕府は先づ寛政十一年、東蝦夷地を直轄し、場所請負人が夷人より貪りて夷人の感情を害するを恐れて、之が交易を幕府・夷人間の直掛となす。文化四年には西蝦夷地をも幕府の手に收めて箱館奉行（のち松前奉行といふ）の所管となし、かくて松前氏は陸奥梁川に移封せらる。北邊の急と共に、公私孰れかの貴格を具て蝦夷地を訪れて益したる者多し、中にも近藤重藏・伊能忠敬・間宮林藏・最上徳内・松田傳十郎・高田屋嘉兵衛などは主なるものとす。天明六年に最上徳内は擇捉島に至り露人イジュヨ（イジョフか）に遇ひ、更に得撫島に至り調査す。近藤重藏は寛政十年、十勝國に於て山道二里を開きしが、これ蝦夷地に於ける道路開鑿の嚆矢なりといふ。同十一年には高田屋嘉兵衛は擇捉島までの航路を開く。翌十二年伊能忠敬は東蝦夷地を、間宮林藏は西蝦夷地を各々實測して玆に蝦夷地の全地圖成る。また同年近藤重藏は擇捉島に至り露人の建てたる十字架を倒して日本國の標柱を建てたるは今もエピソードとして世人に知らる。かくの如き北邊の狀勢を察し、武藏國八王子千人頭の原半左衛門は部下同心の子弟厄介の者約百人を引連れて蝦夷地に赴き公役に從ひ、ぼんことを幕府に申出づ。かくて寛政十二年、幕府は彼等を鶏川・白糠の兩地に移住せしめ小銃と農具とを與へて警備と開墾とに當らしむ。これ謂ゆる屯田兵にはあらざれども蝦夷島に於ける此種移住の最初とす。擇て露人の侵略は從來多く千島方面にて、精々東蝦夷の北邊なりしが、文化に入るや露人は頻に樺太を侵す、かくて文化五年松田傳十郎・間宮林藏は樺太島を視察し、林藏は更に大陸に渡り滿洲のデレンまで至りて歸國す。同じく文化年間には邦人が露斡ゴローイン外七名を國後にて捕へて福山に至るとか、高田屋嘉兵衛が露人に捕へられ勘察加に至るとか、事態頗る急迫せる觀あり。玆に於て幕府は賴りとなる和人が蝦夷島に少きを憂ひ、越後・南部より農民を募集し居小屋・農具などを供給し開墾に從事せしむ。その多くは箱館附近にして、大野・文月にては水田成功し、同十二年には田百四十町歩ありと云ふ。其頃、奉行所の經費は到底多くの植民をなすに足らざりしかば、豪商に土地を割渡して開墾を奬勵したりしが、度一回作に遇ふや事業は頓挫して移民は離散し、水田また空しく荒廃するの付は幾分の好結果を得たり。箱館商人にして移民を募集して開墾する者もありしが、云はば變り種として東西本願寺と相馬藩との開墾移民あり。即ち安政六年西本願寺にては本山に於て但馬・越前・加賀・能登の農夫三七四名を今の上磯町の地に移して、清水村と稱し、萬延元年には寺を建立するまでに至る。同年東本願寺は今の亀田村の地に越前の農民數十戸を移して安寧村と稱す。相馬藩の家老熊川兵庫は津輕・秋田・南部より移民を募り箱館在の軍川（今の上磯村の地）及び石川（今の亀田村の地）に移民す。其他の狀況を一瞥すれば東蝦夷地にては宝蘭（今の元宝蘭の地）が發達す。此地には土着者よりは出稼人多く集りしかば旅人宿が部落をなすに至れり。西蝦夷地にては小樽・余市・石狩の如き市街をなし商家・妓家を始めとし寺院もあり醫師も居たりと云ふ。殊に此頃に至りて小樽に場所請負人制度を廢し村並となるに至る。石狩原野には發寒・篠路・中島・札幌の諸集落形成せられ、岩内原野には幌似・發足の開墾地ができ、漁業には庄内藩の開拓せし柏木原・吉岡・山崎・阿彌陀・黄金その他の集落あり、雄冬岬以内にては增毛・留萌・利尻に入稼漁業者が增加し、殊に留萌にある庄内藩の開きし賢別・茅原の開墾地は特記に値す。即ち幕府より開墾の目的を以て分割授與を受けたる諸藩の領地中に於て開墾せられたるは、殆ど庄内藩に依る此等開墾地のみなりしなり。このほか見るべきものに宗谷あり、此頃寺院が建立せらるるまでに發展したり。かくて嘉永六年には和人約六萬三千餘人なりしが六年後の安政六年には八萬人以上となる、その主なる增加地帶は箱館附近と西蝦夷地なり。總體の分布如何と云ふに、松浦武四郎の東西山川地理取調圖安政人別によれば、箱館地方三萬餘人、福山地方三萬餘人、江差地方二萬餘人、熊石地方（熊石より乙部に至る幕領八箇村）六千三百餘人、合計八萬六千餘人。（開拓使時代）明治維新の大業成るや天皇は直ちに、即ち明治元年三月蝦夷地開拓の義につき御諮詢あらせらる。諸卿は北邊防備並に拓殖の急務を答へ奉り、かくて同年四月箱館裁判所の設置となり、同じく五月一日五稜郭に新政を開き箱館府と改む。藩政時代より樺太は蝦夷島の屬島として北蝦夷の名ありしが、此度も亦箱館府の管下となり、特に露國との關係上重視せられ、同じく六月農工民二百を募り、權判官岡本監輔これを引率して樺太に赴く。同じく九月松前藩は新城を館村に築き、之より藩名を館藩と稱す。同じく十月廿日、舊幕府の脱走軍は榎本武揚に率ゐられ開陽艦以下に乘じて蝦夷島に來り鷲木に上陸す。廿二日より官軍との間に交戰あり、廿四日箱館府知事清水公考等は青森に遁る。ついで脱走軍は十一月五日福山城を、同十五日館

城を陷れ、かくて十二月脱走軍は投票により て總裁以下を選擧し蝦夷地に政令を布く。翌年四月征討の官軍乙部村に上陸し江差・福山を奪取、五月には箱館港內外にて戰鬪、同十八日脱走軍遂に降る。茲に於て政府は聖旨を奉じて蝦夷地開拓の方針を定め、同年六月、議定鍋島直正を以て蝦夷開拓督務に任ず、時に天皇は左の如き優渥なる詔書を直正に賜ふ。

詔

蝦夷開拓ハ　皇威隆替ノ關スル所一日モ忽ニス可ラス汝直正深ク國家ノ重ヲ荷ヒ身ヲ以テ之ニ任センコトヲ請フ其愛國濟民ノ至情　朕嘉納ニ堪ヘス竊恐ル汝高年遠ニ殊方ニ赴クコトヲ然レトモ　朕之ヲ汝ニ委ス始テ北顧ノ憂ナカラン仍テ督務ヲ命ス他日　皇威ヲ北疆ニ宣ル汝方寸ノ間ニアルノミ汝直正懋哉

かくて同七月八日開拓使を置き、同十三日開拓使督務を開拓長官と改め、諸省卿と同列たり。同二十二日諸藩以下蝦夷地開拓を出願する者には土地を割渡することを布告し、八月十五日には蝦夷を北海道と改め十一國八十六郡に分つ。かくて北門の經營はただ其緖につきしのみなりしが八月二十五日直正長官を辭任し、同二十五日東久世通禧長官に任ぜられ、また優渥なる御沙汰書を賜はる。新政創業のあわただしさ、一北海道のことに就きても視び知るべしと雖も、而も北海道は

前揭の詔勅によりて推知し得る如く、維新前後には外國との關係上頗に重視せられたりしなり。同年九月、東久世長官以下は函館(此年、箱館を函館と改む)に赴き開拓の事務を始め、札幌・根室・宗谷に出張所を置き、之に判官を派す(根室・宗谷に出張所の置かれたること、如何に露國の侵略が重視せられたるかを推し得べし)。外に省・府・藩・寺院などの支配地は獨立の形にて存在したりき。明治三年移民を募集して札幌附近に配し、また同年、仙臺の伊達邦成主從は膽振國有珠郡に、佐賀藩士民は釧路國釧路・厚岸の二郡に移住し、其他諸藩の士族等の移民あり。之よりさき札幌の地を相して開拓三神(札幌神社)の奉遷並に官衙・市街地の創設を計り、また開拓使廳の築造をなせしが、廳舍成るや四年東久世長官以下札幌に移る。同年六月、開拓使次官黑田淸隆は米國農務局長ケプロン以下專門技師數十名を雇聘して歸朝し、同九月には從來の省・府・藩・寺院等の支配を一切擧げて開拓使の所轄に統一し、かの技師等の新知識に從つて開拓せんとし、其費用として明治五年以降十箇年間に國庫より一千萬圓、外に本道の收入を擧げて開拓費に充つるの計畫を建つ。先ず函館札幌間の道路開鑿、室蘭港の修築、ついで官營工場の建設等ありしが、經費の不足甚しく遂に兌換證券の發行、大藏省よりの借入等により補足す。據て右の諸事業は何れ

も尨大なる規模なりしが、そは北海道の實狀と懸隔ありしかば、次には農漁工商の民業を當局が助成するといふ方針を執ることとなる。十一年には幌內炭山を開掘し、十三年には小樽を起點とし札幌に向ひて鐵道の敷設に着手し、また拓殖の指導者を得るため米人クラークを聘して札幌農學校(北海道帝國大學の前身)を創設す。同校は其初期に於て多くの偉大なる人物を輩出したるが、そはクラークに負ふところ勘からずといふ。また彼が日本を去るに臨み、學生に殘したる "Boys, be ambitious!"(學生よ、大望あれ)の語は當時學生に感銘を與へたるものとして今に語り傳へらる。天皇には明治九年奧羽御巡幸の砌函館附近に御立寄遊ばされしが、十四年には小樽・札幌・千歲・白老・室蘭・森・七重・函館の各地に御巡幸あらせられ、具さに開拓の狀を見そなはせ

給ふ。十年計畫の終了を期とし明治十五年開拓使を廢せしが、同時代の移民開拓につき一瞥せん。募集移民は大部分農業者にして、士族は團體移民多くして農業に就く、外に豪商などの募集移民あり、こは多く漁業者なりき。開拓使の保護方針は、渡島國は既に奧羽に近き程度に開け居たるゆゑ此地方への移住者には扶助を與へざること、また漁業は當時收入多かりしかば之にも扶助を與へず、主として奧地農耕移民を保護することとなす。尤も根室・宗谷方面の移住者には、露國との關係もあり、奧地にして寒氣も甚しければ漁業者と雖も厚く保護することとし、特に奬勵したりき。例へば明治二年の根室出張所の移民給與は次の如し(明治二年十一月の移民給與規則に依る。このほか滿三箇年間は薪炭稼高に對して手當を給す)。

品目	十五歲以上 男	十五歲以上 女	男女十五歲以下	同九歲以下	同四歲以下三歲迄	疾病者 男	疾病者 女
錢（一日分）	三匁	一匁五分					
玄米（一日分）	七合	五合	四合五勺	三合五勺	二合	五合	三合五勺
味噌（一日分）	七匁	七匁	五匁	三匁	一匁五分	三匁	三匁
鹽（一箇月分）	一升	一升	四合				

一般移民に對しても次表の如き保護を與へたるが、特に募集移民に對しては別表の外に監賞は勿論、開墾一段歩に付金二兩を給與す。なほ募集移工商中、特筆すべきは、開拓使廳が札幌に開かれたるとき函館の商舖二十戸を募り札幌に移住せしめたるものとす(別表は明治二年十一月の移民扶助規則に依る)。中央政府にては開拓使のみの力にては開拓困難なるべしと

移民保護表

募移民 扶助一日分		募自移夫 給與			募工商移 給與	自工商移 貸與
十五歲以上	玄米五合	家屋		一	家作料 金百兩	家作料 金百兩
		小屋掛料		金五兩		
七歲以上	玄米四合	農具	鍬	二		
			山刀	一		
			鉈	一		
			鎌	二		
			鋸	一		
			砥	二	三箇年間手當 金百五十兩	
			鐇	一		
			建	一〇		
六歲以下	玄米三合	家具	鍋	二		
			釜	二		
			椀	人別		
			疊	四		
			手桶	一		
			米洗桶	二		
			薄縁	六		
鹽噌料	錢五分		蒲團	十五歲以上 二	就產資貸與 金三十兩	
				十五歲以下 一		

し、諸藩其他に土地を割渡すこととし、兵部省・東京府ほか廿六藩八十一士族二寺院に此旨を通達したるが、明治三四年の間に移住したる主なるものは左表の如し。

支配者	移住地	人數
伊達邦成	有珠郡	一、〇八四人
石川邦光	室蘭郡	一五一
片倉邦憲	幌別郡	一五七
斗南藩（もとの會津藩）	瀬棚郡・歌棄郡・山越郡	二〇九
仙臺藩	沙流郡	一四六
佐賀藩	厚岸郡・釧路郡	約二〇〇
高知藩	勇拂郡・千歲郡	約八〇
彥根藩	沙流郡	約八〇
稻田邦植	靜內郡	五四八
伊達邦直	厚田郡	一六一

維新當時、舊武士階級には無職者多く、彼等は兎角政治を談じ、貧困せまれば兎角邪道に陷り易かりき。政府は之を憂ひまた北邊の防備を思ひて、諸藩舊武士の移住を特に期待したるが、諸藩舊武士の移住は之ありしも、多くは失敗に終る。此中にありて特に成績をあげたる者に仙臺の伊達邦成あり、公逸生活の中に生ひ立ちて而も舊臣を救ふの熱意のもとに率先して艱苦をなめたるが、何しろ米食せざること數十日といふが如き餘りの艱苦に、舊臣中には邦直を怨むの聲甚しきものありき。されど故郷出發に先立ち邦成は舊臣を菩提寺に集め「この移住は一は國家のため、一は各自一家のための乾坤一擲の擧である。されば婦女の簪飾は勿論、祖先傳來の寶物までも賣拂つて經費に當て、千辛萬苦に堪へて必ず大業を成就しよう」と云ひ一同は感激して之に參じたるものなりといふ(邦成の言はほぼ北海道移民史に基く)。之によりて推し得る如く郷里に歸りても一物もなき身、殊に如何なる困苦にも邦成自らは泰然たりしかば、舊臣は慕付きて遂に成功するに至ると。明治廿五年邦成は開拓の功により男爵を授けらる。邦成と全く同樣なる苦心をなし、また同樣なる成績を收めたる者に伊達邦直あり。これ以外、稻田邦植主從が土着するに至りしほか士族團體の移住は殆ど失敗に歸し離散するに至る。かくて開拓使は警備の手薄を感じ　明治八年宮城・青森・酒田の三縣及び道內に士族を募りて札幌郡琴似に移住せしむ、これ屯田兵の嚆矢なり。當時代を概觀するに、後志國沿岸は鰊等の漁業に惠まれ居たりしかば小樽・余市・岩內・壽都など移民增加して益々膨脹す。東部沿岸は增殖少く、幌泉沿岸に昆布の產多きを利用し、開拓使は之が移民を奬勵して百戸ばかりを得たり。札幌は本廳ある處として開拓使頻りに移住を奬勵したるが、明治四年同地に本籍を移せる自移民(應募者にもあらず、また保護もせざる者)二百戸あり。函館は奬勵もせざるに、明治二年より同四年の間に自移民二千餘戸ありき。開拓使は過去の經驗によりて結局官費移民の不可を感じ、明治五年以後は移民募集を廢し、爾來既往移住民に對する間接保護により彼等の生活を豐かにし、その豐かなる實狀自體が宣傳し、移民を齎すことを期するに至れり。次に人口の動態は開拓使開廳の明治二年の推定人口は十二萬一千なるが、六年には十七萬一千、十年計畫の最終年たる十四年には二十三萬二千となれり。なほ本道に始めて鐵道の敷設せられたるは此時代にして、即ち明治十三年小樽・札幌間に完通す。

明治十四年北海道人口

	和人	舊土人	合計
札幌本廳管內	七七、四〇〇人	一三、八六三人	九一、二六三人
函館支廳管內	一二九、一六二	六六四	一二九、八二六
根室支廳管內	九、〇八三	四、三六〇	一三、四四三
計	二一五、六四五	一八、八八七	二三四、五三二

〔三縣一局—道廳初期時代〕明治十五年開拓使の廢止と共に本道に三縣を置く。

即ち本道を札幌・函館・根室の三縣となし、植民・山林管理等の拓殖を目的とする事務は農商務省及び工部省これに當る（翌年兩省の事務を統一して農商務省内に北海道事業管理局を置く）。當局は北海道をほゞ內地の府縣なみに取扱はんとせしが、北海道自體は未だ北域に達し居らざるのみか、前記の如く組織複雜にして政務の連絡おもはしからざるものありしかば、同十九年これ等を統一して北海道廳の成立を見る。此間內地にありては未だ士族の職なき者多く、相變らず政治などを無闇に論じて社會の物議を釀すこと多かりしかば、同十六年北海道移住士族取扱規則なるものを發布して士族の移住を奬勵す。三縣一局時代この保護移民に應じたる者は山形縣一〇五戸（上磯郡木古田）、鳥取縣一〇五戸（釧路郡鳥取）、山口外八縣二七七戸（空知郡岩見澤）にて、僅少なれども比較的よき成績をなさめたり。次に道廳初期時代とは開設の明治十九年より第一期拓殖計畫樹立の明治四十二年までとす。當時代の植民政策は、要するに金品授與による直接保護を不可とし、移民自身の獨立精神に因る發展を俟つもの、その代り間接に免稅、道路の開鑿改良、並に地質其他條件よき土地を豫め選定し置きて貸下ぐる等の保護をなすものなり。この政策下にありながら爾來相當の移住者ありしより見れば、內地の一般人間に北海道の事情が相當理解せらるるに至りしを推知し得べし。扨て三縣一局時代までの開拓は多く札幌附近及びその南西の海岸に止まる。勿論これ以外廣大なる優良地ありて之を開放すれども、新移住者は兎角旣に開かれたる地の近くに行くを通例とし、開けざる地は何時までも開かれざる傾向あり。孤立は移民自身に種々なる不便困難を生じ、且つまた拓殖當局としても、分散は保護其他の上に不便ありければ、當局は二十六年より未開にして廣大なる地へ集合移民せしむる方針をとる。同樣の意味にて、單獨移民より集團移民の成績比較的良好なるを以て、道廳開設以來、諸府縣廳と聯絡をとりて集團移民を奬勵し來れるが、其內には二十二年に於ける奈良縣吉野郡十津川鄕及び四十一、二年に於ける山梨縣の集團移民は主なるものとす。これ等は大體に於て大水害のため耕地を失ひたる農民なり。之よりさき明治十九年に發布されたる土地拂下規則なるものあり、之は開拓成功後と雖も有償にて拂下ぐるの制なり。かくては開拓進捗せずとて、卅年成功後は無償にて拂下ぐるの制となしたるが、當時實際開墾せず又將來とも自ら耕作せざる相當の大資本家を歡迎して、大地域を供したるは甚だ遺憾のことに屬す。その當時は前記の如き露國乃至は士族に對する懸念もなく、しかも開拓を急ぐ必要なかりしなり。かかる狀態なりしに拘らず、內地にありて小作の貧困に破れたる農民をして再び小作人たらしめ、あたら新天地に今日見るが如き多數の小作を存在せしむるに至る。さばれ、此時代に於ける植民狀態を概觀すれば、鳥取村以外には殆ど和人の居らざりし釧路方面に多數の移住者あり、石狩の北部、十勝・日高・膽振にも和人增加して、倶知安・岩見澤・瀧川・深川・旭川・名寄・帶廣などには市街を見るに至れり。而して移民の七割以上は奥羽と北陸より來れる者とす。なほ玆に特記すべきものとして屯田兵あり。はじめ西鄕隆盛は北邊の防備の薄弱と士族の徒食とを憂へて之を畫したるが、その制度樹立の趣は開拓次官黑田清隆の政府への建言に明なり。卽ち「鎭臺固より他府縣に準じ設立あるべしと雖も其完備を求むれば費用甚だ洪大にして遽かに辨ずべきにあらず、今略屯田の制に倣ひ民を移して之れに充て且つ耕し且つ守らしめば則ち拓地兵備兩ながら其便を得ん」と云ふ。然し裡面には、士族移民は保護政策に出づれば惰民となり、自力に俟たんとせば歸還せる從來の失敗に鑑み、兵制の力によりて怠惰と離散とを防がんとする意味もありし如し。とまれ明治七年黑田清隆を陸軍中將に任じて屯田兵事務總理たらしめ、同年札幌郡琴似に兵屋二百戸を新築し、翌八年青森・宮城・酒田及び道內より士族百九十八戸、男女九百六十五人を募移す。これ屯田兵の嚆矢にして、明治十五年陸軍省へ移管さるるまでには僅に五百戸に過ぎざりき。此後大いに增加を計りしが二十三年に於ける七百八十八戸を以て最高峯とすべし（また此年以後、屯田兵には平民をも採用するに至りしが、これは此頃旣に士族の徒食者もほぼ影を失ひたることを物語る）。二十八年第七師團を札幌に置くや、屯田兵はその管下に入り、三十二年の四三六戸を最後の募集とし、三十七年屯田兵第三大隊の解散を以て全屯田兵は現役を失ふ。廢止の理由は、北海道は今や屯田兵の如き特殊制度なくして拓殖及び防備をなし得る程度に發展したるが故なり。卽ち北海道はその人口に於ても屯田兵の創設當時（八年）の一八萬餘人に對し最終解散の年には一一二萬餘人となりしなり。以上明治八年より三十二年までに募集したる屯田兵は七、三三七戸、三九、九一一人にして、かくて處分せられたる未開地は七四、六五一町歩なり。屯田兵制度を概觀するに、その一目的たりし士族救濟は必ずしも好成績ならざりしも、西南・日露の兩役に從軍して功を建て、協同的團體開墾乃至は新式開墾の範を垂れ、開發の先驅者乃至は試驗者として後進に幾多の參考を供したり。殊に風敎の模範を垂れたるは特記に値す。屯田兵の兵員の資格は士族（後に族籍に關係なし）にして年齡は初め一八―三五歲、十八年以後は一七―三〇歲、廿三年十一月以後は一七―二五歲、身體强健にして

國名	郡名	村名	兵村名	戸數	移住の年
石狩國	札幌郡	山鼻村（札幌市）	山鼻	二四〇	九年
		琴似村（琴似村・篠路村）	琴似	二四〇	八年・九年・二十年・二十一年
			新琴似	二四〇	二十年・二十一年
			篠路	二二〇	二十二年
		江別村（江別町）	野幌	二二〇	十八年・十九年
			江別	二三五	十一年・十七年・十九年
	空知郡	沼貝村（美唄町）	美唄	一六〇	二十四年・二十五年・二十六年・二十七年
			高志內	一二〇	右同
			茶志內	一二〇	右同
		瀧川村（瀧川町）	南瀧川	二二二	二十二年・二十三年
			北瀧川	二一八	二十三年
		江別乙村	南江部乙	二〇〇	二十七年
			北江部乙	二〇〇	右同
	雨龍郡	秩父村（秩父別村）	西秩父	二〇〇	二十八年・二十九年
			東秩父	二〇〇	右同
		一已村（一已村・納內村）	南一已	二〇〇	右同
			北一已	二〇〇	右同
			納內	二〇〇	右同
	上川郡	永山村	西永山	二〇〇	二十四年
			東永山	二〇〇	右同
		當麻村	東當麻	二〇〇	二十六年
			西當麻	二〇〇	右同
		東旭川村（旭川市）	上東旭川	二〇〇	二十五年
			下東旭川	二〇〇	右同
天鹽國	上川郡	士別村（士別町）	士別	九九	三十二年
		劍淵村	南劍淵	一六九	右同
			北劍淵	一六八	右同
膽振國	室蘭郡	輪西村（室蘭市）	輪西	二三〇	二十年・二十二年
根室國	根室郡	和田村	東和田	二二〇	十九年
			西和田	二〇〇	二十一年・二十二年
釧路國	厚岸郡	太田村	北太田	二二〇	二十三年
			南太田	二二〇	右同
北見國	常呂郡	野付牛村（野付牛町）	上野付牛	一九九	三十年・三十一年
			中野付牛	一九八	右同
			下野付牛	二〇〇	右同
	紋別郡	湧別村（上湧別村・下湧別村）	南湧別	二〇〇	右同
			北湧別	一九九	右同
合計			三七	七、三三七	

家族を有する者に限る。年限は初め世襲的なりしも後に廿年と限定す。編成は五名を一伍、六伍を一分隊、四分隊を一小隊、二小隊を一中隊、二中隊を一大隊、三大隊を一聯隊、一箇中隊を以て地方單位とし、その地域を兵村と呼ぶ。石狩國美唄町には今に二十四年兵村・二十五年兵村・二十七年兵村などの字名ありてその名殘を留む（蓋し年次は屯田兵として移住せし年とす）。兵村を表示すれば上表の如し（村名は明治三十三年當時なるも括弧內は現在の市町村名とす）。以上の外に道廳初期時代に特記すべきは、三十年に郡役所を廢して十八支廳を置きたること、三十二年札幌・函館・小樽に區制を、次で渡島國龜田郡大野村外十五箇町村に一級町村制を布きたること（北海道に於て自治制施行の嚆矢）、三十四年に北海道會の開設を見るに至りたること（內地に於て府縣會は十二年に開設）、三十五年始めて札幌・函館・小樽の三區より各一名づつ衆議院議員を出すに至りたること、（國會は二十三年開設）にして、何れも北海道の發展乃至は日本に於ける地位の向上を物語るものとす。但し財力その他の關係上、自治制を布くに適せざる町村に對しては三十五年二級町村制を發布して石狩國札幌村外六十一箇町村に對して之を實施し、二級町村制にすら適せざるものには舊制通り戸長役場を置く。蓋し戸長の名は明治三年の移民規則に、五戸を一組とし、二十五戸に長を置き、之を戸長と稱へたるに始まる。（第一期拓殖計畫以後）第一期拓殖計畫は明治四十三年度より十五箇年に亙るもの、のち延長せられて十七箇年となり、昭和元年度に至る。之よりさき卅四年園田長官は所謂十年計畫なるものを樹立せしも途中に日露戰爭ありて挫折したりき。然るに第一期拓殖計畫は途中に歐洲大戰ありしため、頗る順調に達成せられたるなり。卽ち第一期拓殖計畫の財源は、每年度政府支出定額二百五十萬圓以外は、本道に於ける國庫の自然增收を以て充當することとし豫算總額七千萬圓なりしところ、歐洲大戰による自然增收多大なるものありしかば經費を增額して完成までに總額二億餘萬圓を投ずるに至れるものなり。但し自然增收中最大なるものは森林收入なりとす。開拓使開設當時の財政は、本道歲入（誠に僅少なるもの）の外に、一般國庫より支出する年額は十三萬兩と米九千石にして、之を以て一切の歲費に充當せしものなるが、第一期拓殖計畫の後年に於ては一箇年の拓殖費一千九百萬圓といふが如き尨大なるものにて、大正十二年には戸長役場の全廢を見たり、まして其他の發展推して知るべし。この大規模なる計畫中の主なる支出は、道路橋梁費の三、九一〇萬餘圓、港灣費の三、五三四萬餘圓、森林費の二、二四九萬餘圓、治水費の一、八五七萬餘圓、土地改良費の一、

二七九萬餘圓、植民費の一、二三〇萬餘圓なりとす。道歴初期時代には大地積を資本家へ無償付與し從て小作人の移住を主とせしが、第一期拓殖の特徴は、大地積は拂下とせしが、別に小地積を設けて之を貸與し自作農の創造に相當の努力を拂ひたることとす。本道の如き新開地に於て純粋の自作農は現に三割五分程度なるは甚だ遺憾なりと雖も、而もその自作農に實に第一期拓殖計畫に負ふところ少からざるものあり。此時代自作農に貸付處分されたる約二五萬町歩は僅かなる土地なれども、社會政策的見地よりは意義あるものと云ふべし。なほ此時代の後期に於て、歐洲戰後の不況と國東大震災とによる失業者を、内務省社會局は北海道に移民せしが、これ謂ゆる許可移民の濫觴なり。また大正十二年頃を境として、來往移住民の差即ち殘留者の比率の增大するに至りしは、全國不況の反映たると共に、本道の經濟的方面は勿論、文化的等の諸生活面が既に内地人に相當なる滿足を與ふる程度になりしことを物語る。次に生産物の總額により第一期拓殖の成績を見るに、本計畫の前年たる明治四十二年には六千七百餘萬圓なりしものが、大正八年の六億二千百餘萬圓を最高峯として、最終年たる昭和元年には四億八千百餘萬圓たり。耕地面積も四十二年の田三萬六千餘町歩、畑四十八萬一千町歩に對し昭和元年には田十四萬六千町歩、畑六十三萬七千町歩となる。畑の開墾は微微たりと雖も、田に於ては四倍以上の增加にして、こは實に由來、米の大部を道外に求めし北海道にとり非常なる強みを疊えしものとす。前記の如く第一期拓殖計畫は非常なる成功裡に終幕したりとは云へ、人口は未だ二四三萬餘人にして、當時の東北六縣の人口に比すれば尚七二六萬人を移民し得る狀態にありとなし、茲に第二期拓殖計畫の樹立となる。そは昭和二年度に始り同二十一年度に終る二十箇年計畫にして總額九億六千餘萬圓、完成の後は六〇三萬餘人の人口となる豫定を以て出發したるが、爾來全國的不況のため財源意の如くならず、從て自由移民は本計畫期に入りて豫定に及ばざるのみならず、前より減少せしも、許可移民即ち内務省の救濟事業としての移民に對する應募は、不幸にして非常なる盛況なりき。(別表參照。大正十二年より社會政策上許可移民を始めたるが、始めは定着數少し。昭和三年より退去者數の激減せるは、全國的不況を物語るもの、また同年の移住數少きは、主として濱口内閣の緊縮政策に基く拓殖費算の節減に因る。されば同年の募集數は最初の豫定に過ぎず。)とまれ第二期拓殖計畫は、國内の經濟的不況乃至は國家財政の困難により計畫豫算は常に削減せられ、その計畫は成功と云ふを得ざるも、北海道自體は今や内地と殆んど變らざる狀態にまで到達したり。即ち昭和十二年には内地一般と共に本道にも普通選擧の制布かれ、また今日アイヌ族は全く和人同樣の權利を與へらるるに至れり。今日なほ舊土人保護法は存續すれども、そは他の一般的なる社會政策的法律と性質に於て多く異らざるものなり。なほ昭和十一年に於て判然するアイヌ族の人數は一六、五一九人なりとす。

年度	募集數	應募數	移住數	移住者中退去數	差引定着
大正十二年	四五〇	六四三	三〇〇	一四一	一二九
同十三年	二〇〇	一、〇七六	一四七	二七七	一四七
同十四年	五九二	二、五九九	二五七	二五三	二五
昭和元年	六三二	二、八四八	四四三	二三八	二〇五
同二年	一、三七三	三、四五六	一、一三一	一八六	九六五
同三年	一、四四五	二、六六九	一、一一八	九九	一、〇二九
同四年	一、一〇〇	三、二一一	一、二一四	七四八	四六六
同五年	(一、一〇〇)	四、一三〇	一四四	四〇	一〇四
同六年	一、〇〇〇	二、六〇九	一、一七七	二一	一、一六六

【北海道鐵山】北海道北見國枝幸郡枝幸村にある金銀銅山。鑛區四十八萬餘坪。重要鑛山にて、昭和十年には金一五、四〇六瓦、銀五三、九〇一瓦、金銀鑛五〇瓩(この總價額五萬餘圓)を産出し、同年六月末の鑛夫數は七〇人とす。

【北海道拓殖鐵道】私設鐵道。北海道十勝國西北部にあり。上川郡新得村にある根室本線の新得驛より發して東に向ひ鹿追(河東郡鹿追村)・瓜幕・中音更等を經て河東郡士幌村にある上士幌驛に至り、者線士幌線に接續す。なほ鹿道にて社線河西鐵道に接續す。この鐵道は軌間一・〇六七米、動力は蒸氣及びガソリンとし、者線と連帶運轉をなす。

【北海道鐵道】私設鐵道。北海道西部、石狩・勝振二國に跨りて通ず。札幌市内にある函館本線苗穂驛より起り、東札幌・月寒等を經て東南方に向ひ、石狩四地帶か南に惠庭・千歳等を過ぎて苫小牧町にある沼ノ端驛に至り室蘭本線に會するを札幌線となし、沼ノ端驛より起り海岸平野を東に走りて上鶴川に至り、それより鶴川の河谷に沿ひ俱利湾・穂別等を經て勇拂郡穂別村の逸宮内に至る線を金山線となす。札幌線は延長六二・六粁、金山線は延長六六・〇粁、合計一二八・六粁に達し、北海道最大の私設鐵道にして、室蘭本線と連絡して苗穂より苫小牧まで直通運轉をなし、苗穂驛にて函館本線及び札幌線自動車と、東札幌驛にて定山溪鐵道と接續す。なほこの鐵道は軌間は一・〇六七米、動力は蒸氣及び電氣にして、者線と連帶運轉をなす。

ホッカン　北漢

【北漢江】朝鮮江原道・京畿道を流るる河。漢江支流。江原道淮陽郡の北部、大白山脈の西斜面に發し、淮陽・金化・華川郡内を南流、次で西南流に轉じ、華川・春川郡を經て京畿道に入り、加平・楊平二郡の界か南流し、鳥安里に於て漢江主流に合す。流程三〇〇粁に近く、主なる支流に上流より金城川・永入川・昭陽江・洪川江等あり。春川・加平・清平里附近にやや廣き平地を見る外、沿岸多くは峡谷をなし、灌漑の便に乏しきも、冬季結氷期を除きて春川邑附近まで舟楫の便あり。また江は水力發電に利用せられ、沿岸に四發電所が設け、その出力一二、六四〇キロワットを算す。

【北漢山】朝鮮京城府の北郊に聳ゆる山。京畿道高陽郡崇仁面・神道面・恩平面に跨り、一山塊をなす。最高峰は白雲臺と稱し、標高八三六米、その東北には仁壽峰(八〇三米)、南に萬景臺(八〇〇米)聳え、白雲臺の西に元曉峰、南に露積峰等あり。之等の諸峰は何れも花崗岩の削剝によりて突兀たる山骨が露はし一偉觀なり。白雲臺より萬景臺を經て山脚南走し東將臺(六〇二米)・南將臺(七一六米)・碑峯(五五六米)を起し、支脈は北岳山(三四二米)となりて、直ちに京城市街北部に迫り、北麓は東北走するものは道峯山(七一七米)、西北走するものは上將峰(五一八米)・老紬山(四九六米)等が起す。東斜面は特に峻嶮にして直下には牛耳洞の景勝あり。山は古來京城の鎮山にして、古くは高句麗東明王の子、沸流溫祚が南行して漢山に登り、居るべきの地を相せしは即ち此山なりとす。北漢山城址は白雲・仁壽・露積の三峰、即ち三角山と稱する一帶の地を圍みて存す。李朝肅宗の辛卯二月、國家萬全の計が成さんがため易の「王公設險以守其國」云々」の語によりて築きしものにて、壬午四月に工を起し、九月に至りて役を終りしと云ふ。周圍十數粁、大南門・大城門・大西門・大東門等の諸門を設けしが、今も東將臺・萬景臺など當時の望樓の址を始め、城壁累々として遺る。其他山中には李朝の頃設かれし離宮の址(舊行宮)・重興寺址、及び扶皇寺・文殊庵・道詵寺・元曉庵等の古刹あり。碑峯には新羅眞興王の建てし定界碑存す。登山には京城驛より獨立門に出で、把撥里を經て山城の大西門に登る道、總督府廳舍横より彰義門に出で洗劍亭より山城の大成門に達する道等あり。白雲臺上よりは四面の展望雄大を極め、京城市街を點々指呼し、遠く仁川の沖合を望見し得る。

ボッカン　牧甘面(ぼかん)　朝鮮黄海道長淵郡の東部。郡邑長淵の東南約一〇粁。西は樂道面、南は速塗面に、北は松禾郡桃源面、東は海州郡雲山面に接す。東西・南北ともに各約八粁のほぼ方形をなす。西南部に絲樂山(三五二米)聳えて山脚東に連り、その末端は殆んど東境近くに達し、且て域内を南北二部に分かち、北西部にも西隣の樂道面より延び來る百一二百米の丘陵横はるも、東北部に廣き平地ひらく。廣瀬川の支流、一はこの平地の一部を潤し次いで東境を割して南流し、一は南境を限りて東流し、面の東南隣に合す。流程三〇〇粁に近く、主なる支流に上流より金城川・永入川・昭陽江・洪川江等あり。春川・加平・清平里附近にやや廣き平地を見る外、沿岸多くは峡谷をなし、灌漑の便に乏しきも、冬季結氷期を除きて春川邑附近まで舟楫の便あり。また江は水力發電に利用せられ、沿岸に四發電所が設け、その出力一二、六四〇キロワットを算す。

【北漢山】朝鮮京城府の北郊に聳ゆる山。京畿道高陽郡崇仁面・神道面・恩平面に跨り、一山塊をなす。最高峰は白雲臺と稱し、標高八三六米、その東北には仁壽峰(八〇三米)、南に萬景臺(八〇〇米)聳え、白雲臺の西に元曉峰、南に露積峰等あり。之等の諸峰は何れも花崗岩の削剝によりて突兀たる山骨が露はし一偉觀なり。白雲臺より萬景臺を經て山脚南走し東將臺(六〇二米)・南將臺(七一六米)・碑峯(五五六米)を起し、支脈は北岳山(三四二米)となりて、直ちに京城市街北部に迫り、北麓は東北走するものは道峯山(七一七米)、西北走するものは上將峰(五一八米)・老紬山(四九六米)等が起す。東斜面は特に峻嶮にして直下には牛耳洞の景勝あり。山は古來京城の鎮山にして、古くは高句麗東明王の子、沸流溫祚が南行して漢山に登り、居るべきの地を相せしは即ち此山なりとす。北漢山城址は白雲・仁壽・露積の三峰、即ち三角山と稱する一帶の地を圍みて存す。李朝肅宗の於て合流、更に東流すること凡そ三粁にして本流に合す。鮮地に之等の流域と前記丘陵麓とに亘りて散れく擴がり、多・大豆・棉花・米・繭等を産す。中部が長淵・苔灘間の二等道路西北—東南に貫き、之に沿ふ面邑芝村里より東々南に岐れて竹川里を經て海州邑に至る道路あり、何れもバス通じ、交通不便ならず。

ホッキ　法吉村　島根縣出雲國八東郡の中部。松江市の西北に隣接し、宍道湖東北岸に位す。北は講武村、西は生馬村に接す。面積七・二九方粁。北半部は丘陵起伏し、南半に平地展け、東南部に耕作やや行はる。湖岸線は極めて短小にして漁業振はず。米・麥・繭・薪炭材・牛・馬・鶏卵等の産あり。純農村と見る可きも都市隣接地なるため、官公吏・會社員等の住宅地に利用さる。南部を縣道松江市に通じ、松江市に近く交通便なり。和名抄に島根郡法吉郷と云ふは本村及び松江市の一部に亘る。(法吉神社)大字法吉に鎮座。郷社。祭神、宇武賀比比賣命・天太玉命。出雲國風土記によれば、神魂命の御子宇武賀比比賣命、法吉鳥と化して飛渡り此處に鎮り坐せるに起るといふ。延喜の制、國幣の小社に列す。俗に大森大明神と呼ぶ。例祭九月廿一日。(天倉寺)臨濟宗妙心寺派。慶長十六年、國守堀尾吉晴の草創に係り、妙心寺の春龍和尚を開山とし、寛永十六年藩主松平直政、信濃松本より東遷和尚を請ぜしが、元禄年間、東遷の弟子嘆山和尚あり先師歴代の法燈を挑げ衆寮、經藏を經營せり。毛利元就の白鹿城を攻むるや、本陣をここに構へしことあり。境内鐘楼に懸れる銅鐘は、朝鮮役の際に將來せし所にて、高さ二尺八寸、口徑一尺七寸五分あり、飛天・天蓋・象佛・蓮華その他のもの美しく現出せらる。(松江運動場)面積約二五四アール、約四萬人を容れ、スタンドは五千人を收容し、毎年五月、全山陰道陸上競技選手權大會が開かる。東隣の松江野球場は面積凡そ一七〇アール、一萬八千人を收容し得る。

ホッキツ　北橘村(きつ)　→北橘村(群馬縣)

ホッコク　北國街道(こく)　北陸街道と中仙道とを連結する街道をいふ。約一四〇粁。即ち中仙道の信濃の道分より分れて小諸・上田を通り、善光寺平の善光寺(長野)を經て越後に入り、高田を經て直江津に至る。これに沿うて者線信越本線通じ、また北國街道の篠井驛より分れ、猿馬場峠を越えて松本平に出で、松本を經て洗馬驛に至り中仙道に合するものを北國西街道といふ、約六八粁。篠井線は大體これに沿ふ。

ホッショージ　法勝寺村(ほっしょう)　鳥取縣伯耆國西伯郡の西南部。米子市か距る約八粁の南部山地にあり、西南は島根縣能義郡に接し、北は大國村、東は賀野村、南は東長田・上長田二村に界す。面積一

五・九二方粁。地形東西にやや長く四周を山地に圍まれ、村内概ね山地なるも、日野川の一支流村心を北流して谷をひらく。山麓低地と共に耕地を拓き米・麥・蔬菜及び繭の産多し。山地は北部に原野を有するも他は山林に蔽はれ薪材・木材・木炭を産す。酒・醬油等の製造も行はる。米子市より社線伯陽電鐵通じ、法勝寺驛（大正十二年設置）を置く。〔長田神社〕大字馬場に鎮座。郷社。祭神、多古理比賣命・譽田別命外二神。もと岩國山東北に鎮座し、當國最古の神社なりと傳ふ。例祭、十月十五日。

ホッタ　堀田村　山形縣羽前國南村山郡の中部。山形市の南方約七粁。奥羽山脈の西斜面にて、東境に藏王山の西北稜なる鳥兜山（一四〇一米）・三寶荒神山・滝山（一三六四米）等連り西方に傾斜し、西部は山形盆地に屬して平坦なり。酢川は南境を西流し、流路を變じて西部を北流す。米・繭を産す、また緬羊の養牧行はる。道路は西部を南北に通じ、北方山形市に至る。奥羽本線金井驛へは西約三粁なり。この地は藏王高湯温泉あるを以て知らる。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休雲らせらる。〔藏王高湯温泉〕地は海拔九〇〇米、東に三寶荒神・熊野嶽・刈田嶽の諸峯を帶び、南に高デア山を控へ、西の一方のみが山形盆地に展く。夏は涼しく盛夏と雖も二七度を超えず。泉質は酸性硫黄泉にして硫氣盛んに噴出し、東北の草津と云はる。この湯は今より七百年以前、貞應年間の發見と傳ふ。

ホッツ　堀津村　岐阜縣美濃國羽島郡の西南隅。岐阜市の南方二〇粁。北は扇蕾村に、東は江吉良村・上中島村に、南は桑原村に夫々接し、西は長良川を隔てて安八郡大藪町および海津郡海西村に對す。此地は近村と共に木曾・長良兩川に挾まれし地域にて水害多きため輪中を作り、桑原輪中の中に屬す。濃尾平野の中部に位し、平地には米・麥の産多く、堤外地等には桑畑多く養蠶も盛なれども、近年は生糸安のため繭の産額は漸減の傾向あり。交通は餘り便ならざるも、竹ヶ鼻町に近し。昔は尾張國長岡莊大須郷の内中島と稱し、慶長十四年の檢地の際に堀津村と改稱さる。元は木曾川河口のデルタにて洲島なるなし、無人の境にて、漁夫が一時的に住みそれが永住し、アルメは更に發達し今日の如くなり、水に四圍されしため中島の名を得たるものの如し。康正二年遠内理段錢並國役引付に「伊賀美作守殿尾張國堀津北方段錢」と見ゆ。大字須賀には須賀城址あり、いま定城と云ふ字名を存す。天主閣のありし處と傳ふる場所は開發山と呼ばれ、海拔一五米にて村内の最高地とす。本村の加藤家は美濃庄左衛門尉行信、須賀城主となり城内下沼野分合郷張高二百五十石を受領し、其子美濃其三郎尉信春は大友氏に仕へ、孫美濃正惣右衛門行正に至りて土岐氏の臣となれり。其後、藤右衛門正由に二子あり、長子を其三郎正道と云ひ、次子を肥後守清正と云ふ。これ有名なる加藤清正にして、加藤家の古記錄を考合するに須賀城にて清正は呱々の聲を擧げしものか。また明應丙辰夏五月廿九日に土岐元賴、石丸利光等、方縣郡常磐村の城田寺の戰に敗れて自殺せりといふも、實は本村に逃れ剃髮し、圓覺王寺を建立して住みしと云はる。

ホッポ　發哺　↓平穆村（長野縣）

ホッポー　北方面　朝鮮江原道洪川郡の西北部。洪川面の西北に接し、北は春川郡と界す。東西約一五粁、南北約八粁あり。西部に金鷄山（六五五米）、南境に倒峰（四七六米）聳え、城内山勝ちなるも高峻ならず、北西部は二—三百米の臺地狀をなす。洪川江東より西へ蛇曲流し沿岸に平地ひらけ、特に東南部洪川邑に近くやや廣き平地横はる。米・麥・大豆・棉花等を産し、また砂金を出す。東部の洪川江及びその支谷に沿ひて春川・横城間二等道路通じバスの便あり、東部は交通便なるも、西部は里道を通ずるのみにて交通・運輸ともに便ならず。

ホツミ　穂積　↓穂積

ホテー　布袋　【布袋町】愛知縣尾張國丹羽郡の中部。一宮市の東方三粁。北は古知野町に、東は大口村・東春日井郡小牧町に、南は岩倉町・千秋村に、西は西成村に夫々接す。南北にやや長く、面積七・一六平方粁。本村は尾北扇狀地上に位し、沖積層より成り、扇面は砂地より成り、布袋野と呼ばる。扇面は桑畑多く、これに流るる小流の流域にのみ水田分布す。蔬菜栽培も盛にして一宮に供給され、工産物に織物あり。此地もと丹羽郡の郡役所のありし地にして、郡の中心をなすと共に交通も四通八達にして、鐵道は社線名古屋電鐵犬山線が南北に通じ布袋驛・小折口驛（共に大正元年設置）を置く。此地は和名抄、丹羽郡稻木郷の内なるべく、明治二十七年にもと小折村を布袋町と改稱し、同三十九年には榮村・秋津村を合併して、現在の境域となる。大字小折は郡の訛にして、古の郡家の地なるべく、邑主は生駒左京家宗にして、その女は織田信長の室となり、信忠・信雄を生む。〔伊賀賀神社〕木賀に鎮座、郷社。祭神、日本武尊。式内社。國内神名帳に從三位伊賀賀原天神とあり。例祭、八月十九日。

【布袋庄】臺灣臺南州東石郡の西南に位置して海に瀕し、東は義竹庄、北は東石庄及び朴子街に夫々境を接し、南は八獎溪を隔てて北門郡北門庄に對し、西は臺灣海峽に面す。地勢平坦なるも東北部を除けば土地低濕にして强鹽分を含み、一般に農耕に適せず、古く魚堤（養魚池）發達し、近くは國策工業鹽の大量生産の爲め、臺灣鹽業の大規模なる鹽田開設あり て、西部及び南部には此等の鹽田・魚堤連り、庄の産業的特異性を發揮す。即ち農業・水産業・製鹽業は庄の主要産業にして米・甘藷・甘蔗・落花生を主要農産物とし、虱目魚・牡蠣等を主要水産物とす。鹽水港製糖の社線は庄の中心地布袋より西南鹽水街を經て新營街に至り、縱貫線新營驛に連絡す。道路は該線路に沿ふものと、北方の朴子街に達するものあり て共に乘合自動車の便を有す。庄役場所在地布袋は現行制度施行の際、布袋嘴か改稱せしものにして、一の小港灣を形成するも、小型船舶を容るゝ程度にして良港ならず。もと冬港と稱し、東方なる前東港・後東港これに當り、初め船舶の碇泊所は此地なりしが、爾後、地形の變遷によりて本港をなすに至る。管内はもと大坵田西堡・龍蛟潭堡・白鬚公潭堡の三堡に分屬し、康熙四十年代より漸く開墾に着手せられし地方にして、中央部なる内田は初め大坵田と稱し、清領當初に於ける諸羅十七莊の一とし、乾隆二十九年に成りし臺灣府志（續修）に大坵田街の名見え、南端の新堀は泉州府晋江の蔡構なる者、地方の墾首たる陳甡より海埔の給出を受け、新に魚塭を開きたる所にて地名これより出ず。我が領臺後明治二十八年十月十日我が南進軍の混成第四旅團は布袋港より上陸を開始し曾文溪を渡て臺南の前側面に迫れり。爾後、敵次行政上の變遷を經て大正九年十月に至り地方制度の改正と共に堡を廢せられ、前記三堡より合計十一庄を割きて十一大字に改め、布袋嘴の嘴を削り、之を一括して布袋庄となれり。

ホト　穂門　豐後國（大分縣）の古地名。和名抄に海部郡穂門郷あり。風土記に穂門郷は郡の南にあり、昔、鏑向日代宮御宇天皇、御船を此門に船すとある地にして、今の北海部郡津久見町・保戸島村および南海部郡の東上浦村・西上浦村の邊に當る。

ホトー　浦頭面　朝鮮全羅南道高興郡の略中部。高興半島南部の東面に位し西は郡邑高興面と豐陽面に界し、東岸に海倉灣の灣入あり。面積七七方粁餘。西境には鶴嶺山（四八七米）・朝溪山（四五九米）・天嶝山（五五五米）、東南部には馬伏山（五三九米）等の山峰峙ち、海倉灣岸に平地ありて耕地拓く。灣は東西・南北共に約六粁、東口には蓬萊面に屬する梧島・聖島等横たはり風波を防ぐも灣内水淺く概ね干潟地にして碇泊に適せず。農産に米・麥・大豆・棉等、水産に蝦・海苔等あり。高興より内羅老島（蓬萊面）への道路は海倉灣南岸に沿ひて通ず。

ホトガヤ　保土ヶ谷　神奈川縣橘樹郡にありし町。明治四十二年保土ヶ谷町・宮川村・矢崎村を廢し保土ヶ谷町を設き、昭和二年横濱市に編入され保土ヶ谷區の要部をなす。もと東海道の保土ヶ谷宿のありし所にして、今は東海道本線の保土ヶ谷驛（明治二十年設置）を置き、此處より社線神中鐵道發す。

ホトシマ　保戸島村　大分縣豐後國北海部郡の東南端に突出する半島の尖端に續く保土島を占む。周圍四粁餘、面積〇・八六平方粁の島にて丘陵をなせど、全村の九分通りは畑にて「タヤイモ」のみを作るかと思はるる程なり。季節によりて村民は壹岐・五島方面へ出稼ぎ漁獵に出づ。島に水少く、四百足らずの人家に飲料水を唯一つの寺の背後なる泉に用ふ。また島々の井戸にては女達が洗濯水の湧くを待つかと思ふ程に水少し。時々は船に桶を乘せて隣村の四浦村へ水を汲みに行くと言ふ。燃料に至りては殆ど外部より供給を仰ぐ。人口は二五七〇人にして人口密度は一方粁二九八八人に達し、漁獵が終へて男達は實に寢る場もなしと言ふ。故に半分は他家にて寢るか、或は役場の當直室などを借る。（柳田國男『海南小記』參考）。交通は四浦港と四浦村の西隣なる日代驛（佐賀線日豐本線の一驛）へ發動機船の定期航路あり。此地は和名抄、海部郡穂門郷の内にして、風土記の穂門郷とあるも此處なり。明治二十五年に四保戸村より分割獨立す。

ホドジマ　保戸島村　岐阜縣美濃國山縣郡の東南端。北は子延村に、東は武儀郡小金田村に、南は稻葉郡芥見村に、西は春近村に接し、更に飛騨村を隔てて岐阜市に隣る。此地は長良川の洪積層地に位し、長良川は東境を南流し南部に津保川を合せ、武儀川は西境を南流して南端にて長良川に合流す。いま本村は川に四圍され、逆の瓢形をなす島狀を呈す。産業としては農業が最も盛んにして、米・麥を産し、養蠶も盛んにして蠶種の製造も多し。特産物には西瓜あり、之は島地形にして砂壤土をなすためなり。交通は島の故に概ね不便にして、渡船を以て行はる。村名は三つの大字、保明・戸田・側島の各々一字づつを取りて保戸島となす。和名抄の山縣郡餘戸郷の地と思はるるも不詳。江戸時代は幕領たり。

ボナペ

【ポナペ支廳】南洋群島の一支廳。東カロリン群島の東半部と、マーシャル群島の一部とより成り、凡そ東經一五四度乃至一六四度、北緯一度乃至一二度に亘る海上にある一三八島、その面積約五〇四方粁を管轄す。ほゞ中央に主島ポナペ島あり、その西方にパキン、オルロク、東にモキール、ピンゲラップ、クサイの諸島殆んど一直線上に連り、更に東北方にはエンチャビ、エニウエタワク、ウセラン、西南方にはナチヲク、ヌグオール、グミニザの各島あり。前揚の諸島は何れも有人にして、各島間に交通の便ひらくるも他は多く無人島とす。之等諸島は概れ玄武岩より成り、以て現に生存せる珊瑚礁の基底をつくるも、地勢一般に急峻

にして河川の見るべきものなく、從つて神積土の肥沃なる土地に乏し。また近海は有孔蟲グロビゲリナ堀土にして、島の附近は石灰質泥土なり。氣候は勿論、海洋性にして、賀島風圏内に介在し、特に十一月乃至五月の間は一定の東北風吹き大風は比較的少し。氣溫は平均二六・四度を測り、降水量は殊にボナペ島附近に大にして、年量四、〇〇〇粍以上に達するが常とす。支廳管内の昭和十一年四月一日現在戸口は邦人八九七戸、二七〇三人、島民一四七五戸、八六九一人、外國人一〇戸、三〇人、合計二三八二戸、一一四二四人にして、島民は大部分カナカ族とし、また一方粁人口密度は二二・七人にて、南洋群島中最小なり。之を主要島別に見れば、最大のボナペ島（面積三七五方粁）には邦人二六五二人、島民五三〇四人、外國人二四人、合計七九八〇人（人口密度二一・三人）、タサイ島（面積一一六方粁）には邦人三四人、島民一二〇二人、外國人六人、計一二四二人（人口密度一〇・七人）居住す。而して邦人は水産業に從事するもの最も多く、工業・農業・商業・公務自由業は之につぎ、島民にありては農業者は約四割を占め、公務自由業・交通業・工業・商業・水産業等に從事する者、各若干を數ふるも、總體の四割强は無業者なり。なほ支廳管内の累年人口は島民中チャモロ族が減少の傾向ある外は、邦人・カナカ族・外國人何れも增加し、特に邦人は大正九年四二五人、昭和五年六八九人、同十年二四八六人と激增せり。産業は農業を主とす。耕地面積は田一〇一ヘクタール、畑一一四四ヘクタール、計一二四五ヘクタールあり。主要農産物はタピオカ（八萬圓）・タロ芋（三萬圓）・甘藷（一萬圓）・蕷頭（五萬圓）・米（四千圓）、その他、鳳梨・西瓜・胡瓜等はやや多く、清菜・玉蜀黍・南瓜・越瓜・甜瓜・茄子・大根・葱、並にパイナップル・蜜柑・甘蔗・實綿等も栽培せらる。畜産は豚を主とし山羊・牛これに次ぎ、羊・牛も若干飼養せらるる外、養鷄やや普及せり。林業にありては、既に獨逸領時代に椰子樹の栽培を奬勵せし形跡がボナペ、タサイに歴然として殘り、今日にても之が栽培は盛にて、椰子林面積七五六〇ヘクタールを數へ、コプラの年産二八萬餘圓に達し、其他紅樹も多く、木炭・用材をも多少産す。水産業は近年邦人の渡來と共に著しく勃興せしものに係り、總を筆頭に鮪・鰺・海鼠・珊瑚等の漁獲高多きも、昭和十年の漁獲高一三萬餘圓にて、前年に比し稍々不振なり。水産製造高は計二三萬圓にして、總節はその大部分を占め、南洋節として移出せられ、其他、鮪節・海蕈等あり。工産はタピオカ澱粉（一三萬圓）を最とし、氷・糖蜜・砂糖の外、若干の鼈甲細工・椰子細工・葉編製品・籐子等の手藝品を出す。鑛産はボナペ、タサイ兩島のラテライト中に鐵鑛の賦存する外、硅化鐵・耐火性粘土等あるも、未だ開發さるるに至らず。商業は邦人が主として行ひ、概れ雜貨販賣の傍ら島民生産のコプラの仲買をなす（賀島につきてはボナペ島の項を見よ）。交通は内地群島間は東廻線と東西連絡線の兩命令航路によりて樣濱・門司・神戸、並にトラック、ヤルート、サイパン等の間を往復し、また離島間にも年數回中型汽船の運行ある外、ボナペ島巡航船はコロニヤ、ナヌウ、マチラブ、タモン、シャパラブ、パルキール、ロンキチー、オネ等の間を定期に巡航し、從來の端艇或はカヌーに依りて交通を補ふ。（沿革）西暦一五三〇年代、ポルトガル人、スペイン人によりて諸島は發見せられ、爾來スペイン政府は舊教宣教師を送りて土人教化に力めたり。一八八五年頃より獨逸・スペイン間に確執ありしが、結局スペインの領有に定められ、同國政府は若干の官吏・宣教師を派して統治せしが、政策・治績に見るべきものなく、ボナペ島にては歴々土人の叛亂ありて防禦警備に寧日なしの狀態なりき。後ドイツに割讓せらるるや、ドイツ政府はボナペに政廳を設け、道路開設・椰子樹栽培等に効績のやや見るべきものあり。一九一四年我が南遣艦隊により占有せられ、今日に至る。

【ボナペ島】南洋群島ボナペ支廳の主島。トラック島の正東三九〇浬にして、ボナペ支廳の所在地たり。面積三七五方粁、本群島中最大の面積を有し、ほぼ圓形にして稍穏發達す。全島玄武岩より成り、局部的に緻密輝石岩これを貫く。玄武岩は熔岩流なる全島に豪地狀に發達し、又は高距六—七百米の山地をつくる。北岸にジョカージの良港あり、附近は玄武岩が崩然穏壁の如く屹立して代表的風景を呈し、大黑岩と稱して著はる。土地は比較的肥沃なり。河川は北流するエイレカ川を始め利用すべきもの尠からず。曾て繊維工業及び製糖業を試みたる者ありしも不幸にして挫折せり。然れども殖産上大いに有望にして、南洋廳熱帯産業研究所支所ありて、主に水稻・藥草の試驗調査に當る外、移住民を招致しタピオカ或は珈琲の栽培をなす者あり。また南洋興發株式會社に於ても、此地にタピオカ澱粉事業を營みつつあり。島内に面積八〇〇ヘクタールの植民擇定地を區劃選定せられ、之が農業經營調査、道路開鑿その他の施設をなし、移民を奬勵する外、更に昭和十一年度より向ふ五ケ年間に約一一〇〇ヘクタールの植民地を設定する計畫にして、目下植民地はジョカージ村パルキールにあり、之が收容見込戸數一六九、昭和十一年十月現在移住戸數五〇戸を數ふ。農産物には前記の外、藷蕷・甘藷・タロ芋・麵麭果・米・芭蕉及び各種の蔬菜等あり、工産にタピオカ澱粉・氷・糖蜜・砂糖、その他島民の手藝品等

林産にはコプラ・木炭等あり。水産には總・海鼠等多く、特に總節・鮪節等の謂ゆる南洋節製造に盛にして、コプラと共に重要輸移出品をなす。商業は主として邦人により行はるるも、金融機關としては信用組合を擧げ得るのみ。ボナペ港は開港場にして、昭和十年中の輸移出七九六、七二五圓、輸移入一、〇四一、〇〇九圓に達せり。而して移出は日本内地に向けらるるものにして、コプラ三八萬圓、總節二四萬圓、アイボリーナット四萬圓を主とし、其他、海蕈・高瀬貝等あり。移出額計七七萬圓を超え、移入は米一一萬圓、酒類六萬圓、煙草七萬圓、石油その他油脂類一一萬圓、布帛及び同製品一〇萬圓等を主とし計九九萬圓餘を數へ、また輸出は飲食物一・二萬圓、其他にて計二・五萬圓、輸入は米四・四萬圓を主とし計四・八萬圓あり。交通は近時著しく改善せられ、主要集落間に自動車道路通じ、海上は横濱・神戸・サイパン・トラック・ヤルートの諸港及び附近諸島間に定期航路ひらく。島に支廳の外、地方法院・觀測所・出張所・醫院・郵便局（無線電信設置）・學校（小學校一・公學校四・宗教學校二）等設けられ、コロニヤ町は邦人の集團居住地にして、同町の昭和十一年四月現在戸口は五六二戸、二二五〇人なりとす。島内には古墳名勝尠からず。ナヌト付ボナペ公園團體の一部にスペイン時代の城門あり、全長四〇〇米、幅一米餘、高さ四米餘の胸壁にて、西領時代一八九三年、時の知事ホセ・ヒタレーの築造に係るといふ。マタラニーム村ナヌカエ島の南方地點にナンマダールの遺跡あり、ほぼ長方形の一水域にして岩底の淺水中に自然石を以て方形又は長方形に積上げたる大小六十餘の石造建築の集合なり、口碑區々にして不詳なれども往昔豪族の居住せし跡ならんと認めらる。島の北端ジョカージ島はドイツ領時代、飯倒せる土民の集合立籠りし地と云ひ、この一揆は當時ジョカージ事件として世に喧傳せられたり。コロニヤ町にボナペ舊植物園あり、ドイツ領時代、一九一〇年末頃より數年に亘り經營せしものにて、世界各地より軍艦又は商船を以て蒐集植栽せる植物二四〇種を數へしが、現在約四六ヘクタールの區域に二十數種殘存す。ボナペ島が我國人と交渉を持ちしは既に古く、明治二十三年田口卯吉一行十七名は帆船天佑丸に乘り横濱を出帆、途中小笠原、グアム、ヤップ、パラオの諸島を經て本島に至り、此處に南島商會を創立せり。同商會は誠意を以て島民に接し、大いに彼等の信望を博したりと傳へらるるも、幾許もなく業務を他に讓渡し、一屋商會の商號の下に之を繼續し、のち明治二十八年遂に解散せり。また明治二十六年には南洋貿易株式會社の前身なる南洋貿易日置合資會社の支店が本島に設けられ、盛に通商貿易に從事せしも、同三十二年中、ドイツ官憲の忌むところとなり、支店を閉鎖するの止むなきに至れり。

ホナミ　穂波

【穂波村】長野縣信濃國下高井郡の南端。中野町の東に隣接す。中野町より草津峠（一九五六米）を越えて前橋に達する前橋街道は村の北境を流るる夜間瀬川の溪谷に沿ふ。村の南境は笠ヶ岳（二〇七六米）・三澤山（一五〇五米）にて上高井郡山田村と接す。北は平穏村と夜間瀬川を以て境す。夜間瀬川に上流二分し、横湯川と角瀬川これなり。兩川の合流點は温泉湧出し、平穏村の横湯・益湯、並に本村の佐野部落には穂波温泉等の温泉群あり。平穏村には湯田中と言ふ地名もあり。共に夜間瀬川の屈狀地の上にあり。殊に穂波温泉は夜間瀬川の溪流に沿ひ景勝地に當る。角間川を遡れば、村の東境山地に石の湯・熊野湯を持つ志賀高原に接す。志賀高原は笠ヶ岳の東斜面にして遙かなスロープによつて冬季スキー場として近年名あり。本村の角間に温泉あり前記の穂波温泉と合して山之内温泉とも呼ばる。角間温泉に旅館あれども穂波にはなし。共に療類泉なり。湯田中（平穏村）迄は中野町より長野電鐵の支線あり、更に此處を中心に各地温泉には自動車によりて連絡す。角間温泉は湯田中驛の東南二粁餘、穂波は湯田中の對岸なり。本村は佐野・寒澤・笹・戸狩の言葉落を中心とし、共に山麓扇狀地の河水によりて其位置が決定さる。扇狀地の湧水地點並に夜間瀬川の支流溪谷は水田化し、砂礫の堆積により地下水の浸透地は桑園化する點は、附近の扇狀地と類似傾向なり。

〔佐野神社〕大字佐野に鎮座。郷社。祭神、健御名方命。例祭、五月十五日。

【穂波】愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年、本村外五村と共に廢され西成村を置く。

【穂波（郡）】筑前國（福岡縣）の古郡名。また穂浪にも作る。書紀安閑二年紀に穂波郡の地屯倉、穂波郷とある穂波は後の穂波郡の地に當るならん。和名抄には三坂・鳥田・土師・柴磐・穂波の五郷を管す。明治二十九年四月に嘉麻郡と合して嘉穂郡を建て郡名を失ふ。

【穂波村】福岡縣筑前國嘉穂郡の中部。飯塚市の西南に接す。東部・西南部と西北部は丘陵をなすも、中央は平野開けて嘉麻川支流が村の中央にて西南方より來る細流を併せて中部を北へ貫流す。低地は田畑よく拓け米麥を産す。また本村は忠隈炭坑の所在地として著名なり。縣道中央を南北に貫きて飯塚市へバスの往來繁く、者線筑豐本線は中央を縱斷して天道驛（明治三十四年設置）あり。此地は鎮西何と共に和名抄、穂波郡穂波郷の地なるべく、安閑天皇二年五月の條に穂波屯倉が置くとあるは鎮西何の大字明星寺その遺蹟なるべし。大字椿は字佐大鏡に穂浪郡椿庄とある地にして神領の地たり。

大字緯分は豐後國弘國田帳に安岐郷辨分八十町と見ゆる地にして、一に別府にも作る。（忠隈炭礦）また住友忠隈炭礦とも云ひ、當村及び稲築村・飯塚市に跨る炭山。鑛區約百四十三萬坪、本邦重要鑛山の一たり。附近の地質は凡そ第三紀夾礫層にて、一部に古生層を含み殆ど全部花崗岩を基盤とす。當鑛區には落差約九米乃至約三十米の斷層あり、概ね走向に併行す。炭質は粘結性にして火力强大なり。昭和十年には塊炭十萬六千餘瓩、粉炭約二十九萬瓩、粗炭約四萬三千瓩、この純價額約三百四十五萬圓を産す。當炭礦の起源は古く維新以前にあり、村長は當時生石の儘にて燃料となし、文政年間には既に採掘して他に販賣せるものの如し。いま住友炭礦會社の經營に屬し、昭和十年六月末現在にて使用鑛夫一八四二人。鑛山名は當村大字忠隈に因めるものとす。なほ當村内、或は他町村に跨りて多くの石炭鑛區あり、主なるもの左の如し（産額は昭和十年の年産、重は重量鑛山、準は準重要鑛山）

鑛山名	鑛區所在地	産額	備考
飯塚	穂波村・桂川村・稲築村・飯塚市	五五、〇〇〇 重	
鑛西	穂波村・鑛西村	一六、五六八 準	
二瀬	穂波村・二瀬村・鑛西村・幸袋町・飯塚市	一、〇二〇、三四二 重	
寶滿	穂波村	四五四	
吉隈	穂波村・桂川村・碓井村・稲築村・大隈町	二二一、〇四一 重	

ホネー 保寧郡 朝鮮忠清南道の南西部。地南北に長く、北は洪城、東北は青陽、東南は扶餘、南は舒川の諸郡に接し、西は黄海に面し、近くは元山島・排矢島、遠くは外廟列島等の小屬島を有す。面積五三七方粁餘、道内十四郡中の第七位に居り、大德・公州・禮山・牙山の諸郡と伯仲の間に在り。東嶺山脈の西南端に當り、東境北部に烏棲山（七九一米）、中部に聖住山（六八〇米）、南部に峨嵋山（六四五米）あり、それより各々山脈西南に延び、その先端はいづれも低き岬角をなして海に沒し、郡内を北・南の二地區に分つ。南部は熊川面にて海に入る大川の流域にて川筋に巾狹き低地あり、北部も大川面にて海に入る小川あるも南部に比すれば平坦地は稀少なり。農業行はれて米・麥を主とし其他に豆・棉・麻を産し苹果・梨等の果實また少からず、養蠶に副・工産に苧布・綿織物・藁工品、名産に藍浦硯あり。沿岸は鹽淡にて水産あるもその額なほ多からず。社線京南鐵道忠南線と舒川・洪城間の道路は西部を南北に貫き、道路上にはバスの往來ありて交通不便ならず。郡内十面を含み、郡廳を大川面に置く。人口約八・四萬。

ホノハラ 穂原 愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年に平幡村と共に廢され新たに八幡村を置く。

ボハタ 舟畑村 福島縣磐城國石川郡の西部。石川町の東北に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、土地は東南部と西北部に高く、北須川は村の中央部を東北より西南に流る。米・繭・雑穀・木炭等を産す。道路は川に沿ひて東北より西南に通じ、西南方の石川町と東方の小平村へはバスの便あり。この地は和名抄、白河郡藤田郷の内なり。

ホハラ 穂原村 三重縣伊勢國度會郡の東南部。村の東南部は五ケ所灣の西北澳に面し東北部は宇治山田市の南部との間に約二粁を距つのみ。西境には五〇〇—五五〇米程度の山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東境には之と同方向に延びる山脈あり、途中に龍仙山（四〇二米）聳ゆ。南境には西南境より東東北方へ二〇〇—二五〇米の丘陵連り、其東端は東境の山脈の南端と共に五ケ所灣の西北部に彎入する一小灣を抱く。灣の西岸より中部へやや低地續く。米・繭・蓼の農産と林産を主とし、外に工産・畜産・水産あり。また鑛區二〇〇餘坪を有する倉掛鑛山あり、昭和十年の試掘にて滿俺鑛八〇〇瓩を出す。宇治山田市へバスの便あり。〔鬼ケ城及び細谷曖地性羊齒群落〕指定天然記念物。大字押淵字鬼ケ城と字細谷にあり。岡群落は東西僅かに一粁を距てあり、琉球・臺灣に産する曖地の羊齒が群生す。

ホバラ 保原町 福島縣岩代國伊達郡の中部。桑折町の東南 四粁。掛田町の西北約五粁。面積五・〇九方粁。福島盆地に屬し、土地概ね平坦にして阿武隈川の一支流東南部を北流す。米を産し、養蠶・製絲業盛なり。道路は町の東南部より西部に向ふものと西南部より東北部に向ふものあり。西北方の桑折町、西南方の福島市へバスの便あり。社線福島電氣鐵道村岡・保原・猫川の三停留所を置く。人口密度は一方粁につき一二二八人。保原は一に穂原に作り、古墨址あり、伊達の一族中島氏の居りし所。中島氏は伊達世臣譜略によれば、もと黑田氏の臣にして、天文年中に伊勢宗忠始めて伊達家に仕ふと云ふ。また保原陣屋は白河城主松平越中守が寛保元年より文政六年までの間置きしもの。〔神明宮〕鄕社。祭、神撫賢木嚴之御魂天疎向津比賣命・誓田別命・武甕槌尊。例祭、十月十六日。

ホベツ 穂別村 北海道膽振國膽振支廳勇拂郡の北東部。鵡川上流々域の地を占め、北は上川・空知、東は日高の三支廳に聞まれ西南は厚眞村に接す。面積五四七・二五方粁。村心を鵡川南流し中央部にて穂別川を合し、南部に至れば沿岸平野にやや見るべきあれど、村内概ね山岳地帶に屬し、東部に日高山脈、西部に夕張山脈南北に渉り、地形南北に狹長なり。聚落は南部平地に集れど一方粁人口密度一一人に過ぎず。概ね林業に從ひ農業これに次ぐ。木材・大豆・亞麻・馬鈴薯・馬等を産す。社線北海道鐵道は南部に通じ、遠富内・穂別・粁曰・貝神（以上大正十二年設置）及び深牛驛（大正十三年設置、貨物驛）を置く。本村はもと似湯村と稱せしが、昭和四年穂別村と改稱す。

ホボ 保々村 三重縣伊勢國三重郡の北部。四日市市の西北約六粁にあり、北は員弗郡に界す。地形は緩れ平坦にして中部を朝明川が東に貫流す。耕地よく拓けて米・繭の産多く、麥も産し、外に工産・畜産・林産あり。東部には社線三岐鐵道走りて保々驛（昭和六年始設置）あり。この地は和名抄、朝明郡田光郷の内なるべし。

ホホマ 嗅間丘 ↓旅上村（奈良縣南葛城郡）

ホミ 保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇粁。北は愛知郡幡山村、東は猿投村、南は擧母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所にて、南部には第三紀層の豪地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛んなり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる蛙目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硅子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名殘る。もと一郷なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・鄕撰市場となり、天正三年に鄕撰市場を併せて上伊保と稱ふ。古事記の穂、舊事記の三保、或は穂、延喜式の射穂は皆この地にして、上古、國造君別の世々居住し給ひし所にて古墳多し。此地より猿投にかけて謂ゆる行基燒の窯址あり。城址も多く、上伊保の城址は慶長五年丹羽勘助氏次の築城になり、氏信に至り美濃岩村に移り、其後、代官烏山牛之助これを管し、元和元年本多忠晴當城に封ぜられ一萬五千石を食む。忠如の時延享三年磐城泉に移封され廢城となる。上伊保の古城には室町より戰國時代に三宅氏の居城ありしと云はれ、東古城には松平氏の居城ありき。廣見の城址は天正年中には中條秀正が居城し、八草城と云へり。（射穂神社）大字上伊保に鎮座。鄕社。祭神、廣國押武金日尊命外二神。永承年間に裳上して古記を失ひ、いま由緒を詳かにせず。式内の古社にして、文藤年間に社領二百五十四石餘を有せしがのちこれを失ふ。古來、伊保村の産土神として、領主の崇敬厚かりき。例祭、九月十日。

ホミ 保美 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に緑野郡保美郷あり、その地今の多野郡美九里村の邊に當る。

ホヨリ 帆寄村 樺太元泊支廳（元泊郡）管内の南部。北は元泊村に隣り、南は豐受支廳白縫村と界し、東は多來加灣に面す。東西一五粁内外、南北約三〇粁あり。樺太山脈中部の東斜面にて、北西境に留久志山（六七五米）ありて土地南東に傾斜し海岸に沿ひて平地あり。農業行はれ燕麥・大麥・馬鈴薯等を産し、山地にはパルプ材多し。社線樺太鐵道は東岸を南北に走り近鞍・白石澤・帆寄・馬群澤の四驛（帆寄は昭和六年、他は同二年開業）を置く。

ホラ 洞ケ峠 山城・河内の國境にある峠。京都府綴喜郡八幡町より河内に通ずる高野街道に當り、八幡町の南方約三粁を絶頂とす。天正十年本能寺の變後、羽柴秀吉と明智光秀との山崎合戰に當り、光秀、大和の筒井順慶を誘引するや、順慶兵を率ゐてここに陣し、形勢を觀望し、光秀の軍敗るるに及びて秀吉に當し、光秀を追擊し大いにこれを敗るといふを以て知られ、これより首鼠兩端を持して日和見するを、世に洞ケ峠、もしくは日和見順慶と稱して嘲罵の一代名詞となりしが、實は當時順慶未だ兵を洞ケ峠に出さず、大和に在りしなり。ただその形勢を窺ひて容易に動かず、頗る曖昧の態度を取れるをいふ。

ホラド 洞戸村 岐阜縣美濃國武儀郡の東北部。岐阜市の北方約二〇粁。北は板取村に、東は郡上郡鶯田村及び本郡下牧村・上牧村に、南は東武藝村・西武藝村に、西は乾村に相隣る。此地は古生層より成る美濃山地の中に位し、北境には高賀山（一二二四米）聳え、村の中部には南北に板取川が嶽入曲流をなしつゝ流れ、この下は謂ゆる牧谷と呼ばる地方なり。産業は山間僻地の爲め發達せず、主として畑作にて田は南部板取川の洪溢地に僅にあるのみにて全村の二ケ月分位の米を收穫し得るに過ぎず。曲流部には桑畑あり、夏は養蠶行はれ、冬は製紙を營む。また此地方は冬は炭燒が行はれ、洞戸炭と稱して岐阜市場に出荷す。其他、木曾の細工も見らる。交通は便ならず、板取川の谷を唯一の交通路とす、これを下れば牧谷より郡上街道に出るを得。鐵道の便も惡しく、木材・木炭の如きは、南部より南の武藝谷の岩佐に出で岐阜に至る。岩佐（西武藝村）よりは岐阜にバスの便あり。洞戸の意味はこれより板取方面に入る洞の戸口の意なり。大字苦谷は洞戸十六村の中にて、和名抄に「武藝郡苦田郷」に居す。石見守は土岐政房の長臣也」と見ゆ。大字市場は洞戸の本郷にして、洞戸十六郷は江戸時代には名古屋藩に屬し、下洞戸は小坂・下大野・黑谷を合せ、奥洞戸は尾倉・高賀・阿部・高見・小瀬見・老洞・松谷を合す。天正十一年には此地にて八幡城主滝藤陵隆と豐臣秀吉とが合戰せりと。〔高賀神社〕大字奥洞戸に鎮座。鄕社。祭神、天御中主命・國常立命外十八神。靈亀年間の創祀、養老元年以來、藤原高光屋々當山中の妖魔を退治し神祠を建つと傳ふ。例祭、十月十五日。

ホリ 堀里街 臺灣臺中州能高郡の主

邑。郡の西端、行政地域の南部に位置し、埔里盆地を中心として之を圍繞する一帶の山地を占め、本島のほぼ中央部にあり、東は蕃地、西は南投郡中寮庄、南は新高郡魚池庄、北は國姓庄に各々境を接す。西と北は山岳重疊として連り、埔里盆地は東南寄りに展開して、四圍景色頗る良く繞らし、海拔四四八・五米、盛夏と雖も三八度に昇らず、最冬も一一度を降ることなく、四時氣候温暖なり。盆地には西流する二條の河流あり、北なるを眉溪、南なるを南港溪といひ、盆地の西端に於て相會し、北隣國の甘庄を經て烏溪となる。隨つて灌漑の便多く加ふるに地味肥沃にして農耕に適し、主として水稻・甘藷・甘蔗の栽培行はれ、臺灣製糖の埔里製糖所を有す。一般に農家の主要副業として豚・鷄を主とする家畜家禽類養育せられ、四圍の山地より薪炭・竹材・筍等の林産物を產出す。鹿の名產地として聞え、又各種スヂキの特產あり。市街は盆地内に位し、能高越道路の起點として中央蕃界に入る要衝に當り、貨物の集散多く、郡役所・街役場の外、法院出張所・專賣局出張所・郵便局・大學演習林派出所等ありて、商業殷賑を呈し、本島山間唯一の市街として特異の存在なり。縱貫線二水驛より分岐せる集々線の終點外東埔より經霧軌道にて達し得らるゝ外、同線の水理坑驛より日月潭・魚池を經由して來る自動車道路及び北方臺中より南投郡に入りて烏溪に沿ふ謂ゆる南投道路あり、共に自動車を通ず。管内は舊の埔里社堡に相當し、初めポオリイ(埔裏・埔理・埔里)・ヴアイリイ(眉裏・眉理)といへる二社の土蕃占居地にして、眉溪を境とし、前者は溪南に、後者は溪北に割據し、前者の位置は今の枇杷城附近、後者の位置は今の牛眠山と史港坑との中間なりしといふ。埔里社なる地名の始めて知られしは早く清の康熙末年にありしものゝ如く、雍正二年に成りし諸羅縣志に「埔里社水沙連各地、唐々魏義」と見ゆ。而して南方なる水沙連蕃地(魚池庄の五城盆地)には康熙年間只來既に漢族の足跡を及ぼせしも、埔里蕃地は嘉慶の初年に至るまで僅かに交易のため少數なる通事及び社丁の出入するに過ぎず、全く未知の區域に屬し、同十九年始めて漢族により一大侵略を企てられ、其の方向は南界なる水沙連蕃地より波及し來れるものにして、即ち同地の隘丁首黃林旺なる者、官を僞りて開墾を始めたり。當時附近に二十五蕃社あり、激しく反抗したるため終に欺きて番戰掠奪を行ひ、且つ之を驅逐せしが、後に官の知る所となり、漢人は撤退を命ぜられ、蕃人復歸せり。かくて官憲は入山の隘口に汛を設けて之を鎖閉し之が爲め一時異族の足跡を絕ちしも、幾許もなく漢族の再び水沙連蕃地より侵入するあり、道光年間に及びては更に西部平原に在る平埔蕃族の移住し來る等のことありて、同末年には漢族開墾道路の悲となり、咸豐年間に及び漢族の移植は再び其の端を開けり。即ち閩の泉州人郭錫先なる者、若干の壯丁を率ゐて入り來り、信を社蕃に博し、居住の認諾を得てより個人の移住者は短期間に急增し、五六年の後既に一市街を形成するに至り、本來の蕃社名に因みて埔里社街と稱す。當時、漢族は蕃人に比し寡弱なるを以て專ら平和の協約を以て之に對せしも、時に利害の衝突を來し、蕃人の爲め市街を幾度せられたること二回に及ぶといふ。然れども爾後、一路發展の道程を辿り、光緒初年には一市街の他に三十餘の部落を算し、鹿港に在る北路理蕃同知を埔里社街に移して中路撫民理蕃同知と改め、當時之を埔里社廳(光緒十二年埔裏廳と改む)と稱し、市街の周圍に土垣を築き竹を環植し、東西南北の四門を設け、名づけて大埔城といひ、城街を中心として東角・西角・南角・北角の四堡に分てり。我が領臺後、改めて埔里社の一堡となし、數次行政上の變遷を經て大正九年に至り地方制度の改正と共に堡を廢止し、埔里社を埔里と改稱して埔里街となれり。

約八〇〇米、北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。最上川の一支流南部に發源して北流し、最上川に合す。最上川は北境を西流し、舟楫の便あり。米・木炭・藺を產す。東北方の奥羽本線舟形驛へは約六粁あり。一般に交通便ならず。本村は明治二十三年に舟形村の大字堀内を以て建てしもの。

〔堀内〕京都府紀伊郡にありし村。昭和六年に京都市伏見區に編入す。

ホリウチ　堀内

【堀内村】山形縣羽前國最上郡の南部。新庄町の南方約一四粁。東及び東南は北村山郡に接す。南方に鏡山(一〇九七米)聳え、本村はその北麓にして南境は海拔

ホリエ　堀江

【堀江】越前國(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡堀江郷あり、保里江と訓ず。その地今の坂井郡鹿原町に當る。

【堀江村】德島縣阿波國板野郡の東部。德島市の北方約四粁に位し、讃岐山脈東端の南麓を占む。東北隅は撫養町の西北隅に接す。北半は山地をなして南へ傾斜し、南半は低平なる德島平野の一部を占め吉野川が南端を流る。灌漑の便よく耕地よく拓けて米產多く麥・藺も亦多し。中部の山麓に撫養街道が横斷し、者線高徳本線は西南部を通じ池谷・阿波市場の二驛(大正五年設置)を置き、池谷驛よりは者線撫養線分岐して、撫養街道に並走し、村の西南端に立道驛(大正五年設置)あり、交通便なり。この地は和名抄、板野郡高野郷の内なるべく、村内の大字池谷の撫養街道に沿ひし所に土御門天皇御火葬塚あるによりて知らる。村内に古墳多し。(土御門天皇御火葬塚)承久の亂後、土御門天皇土佐國に配せられ給ひしが、のち阿波に移り給ひ御所み造營し給ふ。寛喜三年崩御ましましせしより此處にて荼毘に付し奉り鄭重葬送せしより其都に葬り奉る。塚の兩側に二墳あり、供奉の人々の墓と傳ふ。御水葬所の傍なる丸山神社は天皇の御靈を祀れる所なり。(宇志比古神社)大字大谷に鎮座。郷社。祭神宇志比古命。式内小社の板野郡四座の一ならんといふ。例祭、九月二十五日。

【堀江村】愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。堀江灣に面し、松山市の北方約二粁にあり。東半は約三—四百米の山地をなして西に傾斜し、西部の海岸は北より西南に連る砂濱をなし、沿岸の西南部に平野開く。風光明媚の地なり。米產額多く蔬・藺も產す。縣道と者線伊豫本線西部を南北に貫通し堀江驛(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、和氣郡大内郷の内なるべし。大字福角の松尾山に國凝別王十城別王及び和氣君等の墳なるべしといふ。村の東部の花見山に城址あり。承平二十三年、久枝興利は此處に據りて河野通堯を防ぐ。大字大栗に驛座山城址あり、河野氏十八將の一人なる大内義治の居城なりしといふ。

ホリオカ　堀岡村

富山縣越中國射水郡の北部。北は富山灣に臨み、西は放生津潟を隔てて新湊町に接す。面積二方粁餘に過ぎず。土地平坦にして村内は水田開け米を產す。海岸は砂濱にして漁業盛なり。また夏季は海水浴場として賑はふ。海岸に沿ひ縣道と社線鉄中鐵道並走し、堀岡驛(昭和四年設置)・堀切驛(昭和七年設置)あり交通便なり。この地は和名抄、射水郡伴部郷(刊本には伴郷とあれど、郷は二字なる制度により伴部となす)の内なるべく、近世は堀岡保に屬す。〔草岡神社〕大字吉神別に鎮座。郷社。祭神、大己貴命。延喜の制、國幣の小社に列す。古來、草岡郷四十九箇村の產土神たり。例祭、五月三日。

ポリガツト　——社

臺灣臺東廳大武庄にある蕃社。カヅリッ山の西南方幾線近き山腹の傾斜地に位し、標高約七六〇米の地なり。約六十五年前ダバカス社より移住し來る。パイワン族の太麻里蕃に屬する高砂族の部落。戶數一九、人口八五(昭和十一年調査)。

ホリカネ　堀兼村

埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の西南方にて、入間川町の東隣にあり。武藏野臺地の一部なる古め、洪地多く甘藷・麥・米を產し養蠶も盛にて藺を多產す。縣道は川越市・入間川町等に通じ、社線西武鐵道は北部をかすめて東北に走り、入間川町の入間川驛、東北隣の大田村の南大塚驛に近く、交通便利なり。本村は歌枕の名所として知られし堀兼井を以て知らるるも、堀兼井が果して此地なりや否や詳ならず。太平記、元弘三年五月十五日の合戰に、新田義貞が堀金を指して引退くとあり。鎌倉街道は堀兼より加佐志・東三ツ木を經て奥富村に通ぜしが如し。「はるばると思ひこそやれ武藏野のほりかねの井に野寺あるてふ　貫之」(堀兼神社)大字堀兼に鎮座。郷社。祭神、木花佐久耶姫命・大山咋命・迦遇突智命等七柱。領主松平・秋元氏等篤く崇敬す。本殿・拜殿・神樂殿・祭器庫・鎮守門等あり。

ホリカブ　堀株

北海道後志支廳古宇郡にありし村。明治四十二年、茅沼・興志内・孟・泊の四箇村と共に合し、泊村となる。

ホリカワ　堀川

【堀川町】富山縣越中國上新川郡の西北部。富山市の南に接し、神通川の右岸に沿ふ。土地平坦にして水田多く、米・野菜の產あり、富山市に近きため綿織物・實業等の工業盛なり。社線富南鐵道と富山縣營鐵道は南北に通じ、前者の堀川新驛(大正三年設置)、後者の南富山・上堀の二驛(共に大正十年設置)を置く。南方より富山市に至る縣道は最捷放射狀に集り交通便なり。町内に富山刑務支所・縣產業講習所・縣立農事試驗場・富山輸出絹織物檢査所・堀川氣象觀測所・富山女子師範學校・富山中學校・縣立富山高等女學校・市立富山高等女學校・工業學校等あり。昭和六年町制を布く。

【堀川】も京都市(二二〇〇頁)

【堀川】者線伊田線の貨物驛(明治四十二年設置)。福岡縣田川郡金田町にあり。

ホリカワグチ　堀川口

東海道本線の貨物驛(昭和三年設置)。名古屋市南區築地にあり。

ホリキリ　堀切

【堀切】新潟縣北蒲原郡にありし村。明治三十六年に金塚・築地の二箇村と共に廢せられ、新たに金塚・築地の二箇村を置く。

【堀切】愛知縣渥美郡にありし村。明治二十三年に伊良湖村を分割して置けるものにして、同三十九年に外二箇村を廢して伊良湖岬村を置く。

ホリコシ　堀越

【堀越村】青森縣陸奥國中津輕郡の東部。弘前市の東部に隣り、東に南津輕郡に接す。面積八・七五方粁。津輕平野の南部に位し、土地概ね平坦にして、大澤川は西南方より來り、村の略中部を東流し平川に合す。平川は東境を北流す。村の西部は大和澤川の扇狀地にして準果の產多く、東部は水田多くして米を產す。また養蠶盛なり。者線奥羽本線の門外・大清水の二驛(昭和十年設置)を置く。羽州街道は村の略中部を東南より西北に通じ、弘前市へは定期自動車の便あり。村内に大浦爲信の城郭址あり。堀越城址は津輕志留通によれば、もと武田氏これに居る。武田氏の先は初め光信と共に津輕に來り赤石に居り、其後、南部の幕下となりて堀越に住す。武田紀伊守に至り子なく、政信の子を養ひ家を嗣がしめ甚三

郎守信と稱す。守信は南部櫻庭の戰に討死す。その子の爲信は大浦より當城に移りし故に、南工の家また多く移轉し、一國の城府となりしが、慶長十五年、弘前に新府を建て堀越は廢城すとあり。

【堀越村】 新潟縣越後國北蒲原郡の西南部。水原町の南に接す。全村平低にして肥沃、東北部を新井郷川の上流流れ灌漑の便よく水田・桑園開く。米を主産とし繭を副産す。岩船街道の一部は南北に貫通し者線羽越本線水原驛に近く、水原・新發田間にはバスの便もあり。村内に新田原と呼ぶ地あり、村民は新田氏の古戰場と相傳へ、その古墳と傳ふるもの七塚あり。

ホリゴメ　堀米町　栃木縣下野國安蘇郡の南部。佐野町の北隣にて、東は犬伏町と隣す。東北境附近に丘陵地をなすも他は平地にて、秋山川南流し農業行はれて米麥を産し養蠶も行はる。縣道は佐野町に通じバスの便あり。聚落はこれに沿ひて發達す。社線東武鐵道佐野線また縣道に沿ひ、中央に堀米驛（明治二十七年設置）を置く。此地はもと佐野庄堀龍郷と稱せし地にて、小野寺氏の創建と傳ふる天應寺あり、この寺にありし海中より出現せしと傳ふる鐘は、いま千葉縣の鋸山の日本寺にあり。〔八幡宮〕大字堀米八幡山に鎮座。郷社。祭神・譽田別命。天正十五年に佐野信吉、今の佐野町なる春日山に城くに當り鎮祭すといふ。社地は丘上に位し、安蘇川に臨みて古木森然たり。例祭、除暦十月十五日。〔妙顯寺〕日蓮宗。當宗四十四本山の一。日蓮の法弟天目、師日蓮の歿後この地に來りて創建せるものなり。

ホリト　堀津　武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄に足立郡堀津郷あり、その地今の北足立郡吹上町の邊か。

ホリノウチ　堀之内

【堀之内町】 新潟縣越後國北魚沼郡の中部。魚野川に沿ひ、小出町の西に接す。南北に丘陵を負ひほゞ中央を東南—西北に魚野川貫流し、孝川その他の支流を合し流域に平地開く。豊饒業盛にして米・繭を多産し、絹織物・生糸なも産す。者線上越本線は魚野川左岸を貫走し、越後堀之内驛（大正十一年設置）あり、上越を結ぶ國道また之に並走す。大正十五年四月、堀之内村と田川入村を合併して堀之内村を設け、同年十一月町制を布く。大字下倉には僧徒の詰りし下倉城址あり、慶長年間、一揆を興せし事あり。大字堀之内は三國驛路にて浦佐と川口の中間なり。〔常泉寺〕明神にあり。新義眞言宗智山派。唯稱山得稱院と號し、文明元年開創法印の開創。本尊阿彌陀如來は惠心僧都筆にて日本七幅の一と稱せらる。天正元年、領主正信は當山本尊に歸依し寺領を附し、同五年自ら出家して常泉法師と呼び堂宇を再建す。

【堀之内町】 静岡縣遠江國小笠郡の中部東偏。掛川町の東方三粁餘にあり。面積八・八平方粁。北部及び西部に五〇—一〇〇米の丘陵起伏し、村境に於て最高約一五〇米を示すも、東南部に平地ひらけ中部を南北に流るる菊川これを灌漑す。耕地面積約三〇〇ヘクタール、田畑相半ばし米・麻・茶を出す。其他、工産・畜産に見るべきものあり。者線東海道本線は中部を東西に貫き堀ノ内驛（明治二十二年設置）あり、掛川町より萩間村を經て相良町に至る道路これと並走し、途中北折して東海道に出づる道路あり、交通不便ならず。本町は大正十二年、西方村を堀之内町と改稱せしもの。此地は和名抄城飼郡荒木郷の内なるべく、中世は笠原庄に屬し、東鑑・文治四年の條に「八條院領、遠江國笠原庄」とある地なり。

ホリマツ　堀松村　石川縣能登國羽咋郡の中部。高濱町の東北に接す。村内百米前後の丘陵起伏し略中央を米町川は西南へ曲流し、下流に僅の平野開く。聚落は概れ此の谷に沿ひ、米作・養蠶を主産業とす。また麻織物・清酒の特産あり。中央西偏に南北に貫通して社線能登鐵道あり能登高濱驛に近し。縣道また並走し東北方の七尾灣岸へも分岐し、自動車の便もよし。この地は中世に堀松庄と稱せし地。〔神代神社〕大字神代に鎮座。郷社。祭神・宇迦之魂神。式内社。崇神天皇御宇の開創と云ふ。古くより朝廷の勅願所たり。例祭、六月二十六日。

ホリョー　畝良面（ほうりょう）　朝鮮全羅南道靈光郡の南東部。西は郡邑靈光面に隣接し、東境の北半は長城郡森谷面に、南半は咸平郡月也・海保二面に境す。北東境には大清山（五九三米）、南境には佛甲山（五一六米）の山嶺延亘し、中部には丘陵地起伏するも南部と西北部には低地ありて耕地拓く。米・麥・豆・棉・孝麻等の農産を出し藁工品の副業行はる。靈光・松汀里間の二等道路は南部を東南に通過してバスの便あり。これより岐るゝ三等道路は東北方の長城方面に通じ、交通不便ならず。

ホロイズミ　幌泉（ほろいずみ）

【幌泉村】 北海道日高國日高支廳幌泉郡一郡を占む。日高支廳の東南端を占め、その南端なる襟裳岬は太平洋中に遠く突出して將に宗谷岬と對角線を爲す。東と西南は太平洋に開まれ北は十勝國、西北は様似郡に接す。面積二八五・六四平方粁。村内は日高山脈に蔽はれて六峰、豊似巒（一一〇五米）ほか諸峯屹立し、概れ交通文化途絶せるも南部海岸に小平地あり。聚落は大部分海岸に集り漁業に從事す。鮭・鱒・鰊・昆布の漁獲頗る多し。金銀銅硫化鐵の鑛山あり、鑛區百萬坪、昭和十年より事業を開始す。単地方道は南部諸部落を連れ廣尾・三石にバスの便あり。函館港に定期航路あり。村内に浦河區裁判所出張所・幌泉港船入澗・幌泉燈臺・襟裳岬燈臺あり。幌泉燈臺は明治二十四年設置にして、不動紅光、光達距離七・五浬。幌泉港船入澗の防波堤の燈臺は昭和七年設置、不動白光、光達距離一〇・五浬。〔住吉神社〕郷社。祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命。文化十一年函館の住長島屋佐兵衛の創立。例祭、九月十五日。〔百人濱一石一字塔〕大字小越より大字庶野に至る約四粁下瓦る砂濱を百人濱と呼び、曾て暴風雨の際船舶漂流しこの濱に來り、乘船者約百人死亡せしと云ひ、また寛文の蝦夷亂の時百餘人をここに殺戮せしとも、或は南部藩士の乘る船海上に遭難し百人の屍、この濱に漂着せしとも傳へらる。碑は樣似等樹院一世の住持秀曉の撰にかゝる。〔庶野の屬〕大字庶野にあり。太平洋岸を距る五〇米、三段に分れ高豪約三〇ヘクタールを占む。櫻は五種類ありて合計三千本を數へ、太平洋の荒風に依り挽められたる樹姿は頗る雅趣に富み、天然の櫻樹少なき本道としては隨一の名所なり。例年五月中旬満開、夫婦櫻・扇櫻等は頗る奇觀なり。櫻樹の間に雜木、少數の赤松・黒松及び樅松を混生す。

【幌泉郡】 ↓幌泉村

ホロカナイ　幌加内

【幌加内村】 北海道石狩國空知支廳雨龍郡の北端。郡の最北部を占め、南北に細長き地形を有し、北及び東は上川支廳に西は留萌支廳に、南は沼田・多度志二村に接す。面積七六六・八七方粁。天塵山脈の分水嶺西境を壓して南北に連亙し、ピシュリ山（一〇三二米）・三頭山（一〇九九米）等の諸峯屹立す。村内概れ山岳地帶に占められ北部殊に高樣なるも雨龍川發して南流し、中部以南の沿岸に肥沃なる沖積地を開く。耕地聚落ここに集り農・工業行はれ、山地には森林繁茂せり。者線幌加内線沿岸を北走して朱鞠内驛に至り、沼牛・幌加内・雨煙別・政和・添牛内驛を置く。本村は大正七年、上北龍・多度志二村の各一部を以て置けるもの。

【幌加内線】 國有鐵道函館線の一部。北海道石狩平野の北部より北方に通ず。函館本線深川驛より分れ幌加内を經て朱鞠内驛に至る七八・八粁。

ホロクラ　幌倉　根室本線の一驛（大正二年設置）。北海道石狩國空知郡瀧川町にあり。

ホロシリ　——岳　日高山脈の一峯。北海道十勝支廳大正村に屬す。標高一八四六米。西方は札内岳（一八九六米）に連る。北麓は戸蔦別川東流す。山頂まで樹木に掩はれ、スキー登山は困難なり。

ホロシリ　幌瓦岳　日高山脈の最高峯。日高支廳新冠村と平取村との境上に位す。標高二〇五二米。北東麓は戸蔦別岳（一九六〇米）に連る。雄大なる山容を呈し、隠谷狀の溪谷と雪渓との美を以て知らる。山中に熊多く棲息す。アイヌ語にてホロは大、シリは山を意味す。昭和四年スキー登山に始めて成功せり。登山は東方の十勝側より戸蔦別川を遡るか、又は西方日高側より新冠川を遡りて行ふ。また北東方の美生岳・戸蔦別岳より縱走も可能なり。

ホロトマリ　幌泊　西海岸線の一驛（大正十年設置）。樺太眞岡郡鵜泊村にあり。

ホロナイ　幌内

【幌内川】 樺太の最大河。中央低地帶をロシヤ領より南流して邦領に入り敷香町市街の東にて多來加灣に注ぐ。露領内の延長三二〇粁、邦領一二〇粁。河口は幅約三六〇米、水深二米内外なるが、やゝ溯れば五米内外となり國境まで小型帆船を通ずることを得。また河口より二四粁の上流にて多來加川を分流す。この河の本支流及び多來加湖に注入する振戸・留久玉・毛貴の諸川の形成せし低地はクンドラと呼ばるる高位泥炭地にて、泥炭の厚層上には蘚苔類密生し、矮小なる落葉松が點點疎生する沼澤の多き階段的平地なり。されど乾燥地には往々白樺の純林が見られ河畔には柳・稜松・蝦夷松等が叢生す。この南北約一二〇粁、東西二〇—三五粁の廣大なる訓ゆるクンドラ地帶は、ここに古居せる土人オロチョン・ゼリヤーク等に好箇の驛鹿放牧地を提供せる以外、殆ど經濟的に未開發なり。

【幌内線】 國有鐵道函館線の一部。北海道石狩平野の東部にあり。函館本線岩見澤驛より幌内太驛に至る一三・六粁及び幌内太驛より分れて幾春別驛に至る七・二粁より成る。

【幌内】 北海道石狩國空知郡三笠山村の大字。幌内線の幌内驛（明治十五年設置）あり。

【幌内】 ↓三笠山村（石狩國）

ホロナイブト　幌内太　幌内線の一驛（明治十五年設置）。北海道石狩國空知郡三笠山村にあり。

ホロナリ　幌成　北海道石狩國空知支廳雨龍郡多度志村の大字。幌加内線の幌成驛（大正十三年設置）あり。

ホロニ　幌似　北海道後志國後志支廳岩内郡發足村の一大字。岩内線の幌似驛（大正八年設置）あり。

ホロヌカ　幌糠　北海道天鹽國留萌郡留萌町の大字。留萌本線の幌糠驛（明治四十三年設置）あり。

ホロノプ　幌延村　北海道天鹽國留萌支廳天鹽郡の北端。西は日本海に面し、北に宗谷郡稚内町、南は天鹽川を以て天鹽町に界し、東は網走支廳に接す。面積一一一五・五平方粁。天鹽山脈東境を南北に連亙し、村内東部は山地なるも中央部は丘陵となりて起伏し西方に傾斜す。海岸には南北約二〇粁、幅數粁に亙るサロベツの大原野あり、上沼・下沼を包含し地勢溫潤なり。南境を天鹽川西流し大いに蛇行して廣大なる氾濫原を形成し、地味頗る肥沃なり。海岸線は平滑なる砂濱打續き諸島に池沼を有し聚落なし。土地廣大なれど未だ人口乏しく開墾あまれ

からず、されど馬鈴薯・燕麥・大豆・豌豆等の農産多く、また林業・漁業・牧畜業稍々行はる。省線宗谷本線山麓を南北に貫き、問寒別(大正十二年設置)・雄信内・安牛・上幌延・幌延(以上四驛大正十四年設置)・下沼・豐富・徳滿・蘆川(以上四驛大正十五年設置)・兜沼(大正十三年設置)等の諸驛を有し、幌延驛よりは省線天鹽線分岐す。天鹽町よりはバスの便あり。寛永十一年伊能忠敬の製圖せし北海道全圖を見るに、大字沙流村リワカサクナイ(現今の驛遞所在地附近)に測量基點を設け附近を實測せしこと瞭かなり。蓋し和人にして村史上に足跡を印せしは之を以て嚆矢となすと思惟せらる。のち天鹽村に運上屋並に會所置かれ、松前貢氏をして天鹽川及び沿岸一帶の漁業取締またげ警備に任じたるを以て、偶々本村に居所したる者ありと思はるるも漁撈に從事せしものにして、定住者は認むるに由なく、明治二年六月開拓使を置きてより、同五年迄は水戸藩之を支配し、同三年前記リワカサクナイに官設宿泊所を設け旅行者の便を圖りたれば、是の經營者こそ本村定住者の開祖とも云ふべきもその何人なるか詳ならず。當年藩主の命により銚子の漁夫六十名を天鹽村に渡航せしめ、天鹽川口の鮭・鱒の網上するを漁獲せしめたるが、河身流木埋木多く技網に不便なるを以て浚渫工事を施行せりと傳ふ。同二十二年天鹽村に苫前郡苫前村戸長役場派出所を設置し、幌延村・沙流村その管轄に屬す。而も宿泊所の外は舊土人數戸の散在せるに過ぎざれば施政上何等の事蹟なし。同年中、露國捕鯨船宗谷海峽附近にて難破し、一名の露國人屍體並に雜品數十箇の雜咲内沿岸に漂着せしため、檢屍及び引取のため長崎より露國海軍少尉および軍醫の二名來村せしことあり。同二十三年東京の岩谷松平なる者大曲附近にて大地積の拂下並びに漁場貸付の許可を受けたるも其の經營見るべきものなくして止む。同三十一年六月札幌の中野天民なる者ウブシ炭礦の採掘を試みしが、運輸の不便に因り不結果に終りたるも、鑛業者の一部に地積廣潤にして肥沃なるに着眼し、以て本村の有望なる拓殖地なること世に宣傳され、初めて北海道廳は殖民區劃に着手し、又この時に幌延村・沙流村の村名を公稱するに至る。超えて同三十二年下サロベツ原野に本村最初の移住民として入地せる福井縣團體十五戸あり、交通の不便に加へ、雪害・霜害・水害等の被害多く、翌年遂に團體員解散の止むなきに至りしが、是れ即ち本村開拓の濫觴とす。同年中、越後三條町本成寺經營に係る法華宗農場の大地積貸付となり、翌卅三年小作農家九十戸三百七十五人移住し漸く開墾の業大に進む。爾來大地主の耕地開墾に着手するもの、及び團體移住民續出し今日の隆盛を見るに至る。卅五年中天鹽村外二ヶ村戸役場を設けられ幌延・沙流の二ヶ村これに屬し、明治四十二年四月幌延村外一ヶ村戸長役場を今の箇所に設置し、後十ヶ年にして大正八年四月幌延・沙流の二ヶ村を合併し二級町村制を布き初めて自治團體としての形態を具ふ。交通機關は天鹽川を便船を以て運漕せるに始り、道路の開鑿せられしは明治卅三年今の地方費路道線たるフラオエ渡船場より上サロベツ北廿五線に至る約四里の延長を嚆矢とし、逐年道路の開鑿敷線を算し現在總延長六十四里に達す。鐵道は省線宗谷本線の問寒別驛が大正十二年十一月本村南端に開業して以來、同十三年六月には兜沼驛、同十四年七月には幌延驛まで開通し、翌十五年七月全通を見、今後の村勢の發展進興は底止する處を知らざるの盛況を呈せんとす。特に豐富に埋藏せる石炭・石油・砂金鑛は大いに採掘の歩を進め、拓殖の開發促進と共に本道屈指の大資源地として本村の將來は眞に天惠に富みたる一大寶庫と稱すべきなり。〔豐富温泉〕泉質は鹽類泉にてリウマチス・婦人病・呼吸器病等に効能あり。附近には荒漠たるサロベツ原野あり。その中に針葉樹林に蔽はるる幽邃境ペンケ沼・パンケ沼あり。遠に利尻富士の秀望を望まる。温泉は村井鑛業會社が石油坑掘鑿の際、突然溫泉の湧噴を見しものなり。

ホロベツ　幌別

〔幌別村〕　北海道膽振國幌別支廳幌別郡全部より成る。室蘭市の東北に接し、東南は太平洋に面す。東は白老郡、北及び西は有珠郡に界す。面積二一三・六八方粁。登別火山の南麓に位し、地勢北部に高く海岸に向ひて漸低す。海岸線極めて平滑なるも北及び南に蘭法花・鷲別の小岬あり。幌別・登別川口海岸平野上に聚落開く。各河川上流に發電所設けらる。鰯・鮭・昆布を筆頭に馬鈴薯・大豆・亞麻・牛馬を産すれど多からず。當村内には幾多の金銀銅或は鐵の鑛區あり、また他村に跨りて硫黄の鑛區あれど現在のところ何れも振はず。省線室蘭本線鷲別(明治三十四年設置)・幌別(明治二十五年設置)・登別(明治二十五年設置)の三驛を有し、また登別より登別温泉軌道電車發す。幌別はアイヌ語のポロベツにて、大川の義とす。この地は片倉景範が仙臺藩の白石城主たりし時、明治二年十一月、舊臣を以て支配地膽振國幌別の地を相して還り、同三年七月、舊臣、六十七人を移し、同四年春より五年秋に至り九十人を移し、幌別・鷲別・蘭法華などの地に散居せしむ。十二月、土地人民を開拓使に移管す。〔登別温泉〕登別驛の西北七粁半にて自動車の便あり。途中、紅葉の勝地として有名なる紅葉谷あり。自動車はその溪谷を左に見つつ走り、やがて硫黄の氣ほのかに漂ふ温泉場に入る。登別は北海道第一の温泉にて、我國に於ける著名なる温泉場の一つに數へられ、北海

道に入る旅行者にてこの温泉に足を入れざる人は殆どなしと云ふも過言ならず。温泉場は海拔約二〇〇米、四邊翠樹に包まれ、北方の日和見山は樹絶ゆるを見ず。市街はクスリサンベツ川(湯の流るる川の意)の流れを挾みて延び、旅館・料亭・カフエー・土産品店など軒を並べ、脂粉の香濃き遊樂的温泉場たり。温泉の由來は古く、日進上人六老僧の一人なる日持上人の法弟日進がこの地に入りし事蹟あり、いま湯澤神社境内にある題目石は日進の筆蹟なりと云ふ。又この附近のアイヌの祭神にヌプリペツカモイあるを見るに、温泉の靈効が土人間にも知られし事想像さる。然し温泉場として開けしは安政年間、瀧本金藏が妻の皮膚病を癒さん爲この地に來りてその効能を知り、廣くその惠を頒たんため、浴室を設け湯宿を營みしに始まる。温泉は地獄谷の湯元より流るる硫黃泉の外、ラヂウム泉などの涌出するあり、湯の川の斷崖には十六條の湯瀧が懸り、外湯三ヶ所の外、十數軒の種類別の内湯の設あり。入湯者はその病症に適應する温泉を選びて入浴する事を得。〔カルルス温泉〕泉質は無色透明の單純泉にて温度七〇度、神經系諸症・脊髓病・リウマチス・痛風・婦人病等に効能あり、飲用せば胃腸病に効ありと云ふ。浴場は溪崖の岩盤を穿ちて設けられ口の湯・中の湯・下の湯に別かる。登別川の上流千歳川の曲流せる溪間にあり、海拔二五〇米、西に來馬、北に登別の翠巒を仰ぐ閑寂境なり。湯治專門の清淨な温泉場にて、遊樂的な登別温泉と好對照なり。本温泉は明治二十年、日野久橘氏が樹種調査の爲この地に入り、千歳川畔の岩窟に野宿せし折、河畔に温泉の湧出するを發見せしに始まり、その後三十二年この地に移りて温泉場を開けり。「野宿之碑」と橘湯はその時の事を記念せるものにて、藥師堂の側には「開祖日野久橘翁功績碑」が建つ。附近にはオロフレ山・御花畑の勝地あり。最近ここを經て胆振温泉方面への自動車路開かる。冬季は好スキー場となり、お花畑にはスキー休憩小屋あり。〔登別原始林〕指定天然記念物。大字登別にあり。海拔二〇〇米、面積約三九二ヘクタールの山岳林にて、北海中帶南部植物區系の好標本なり。その上層は落葉濶葉樹に占有され、下木の發育は良好ならざるも、北部に見る能はざる「みやこざさ」の生育最も良好なり。喬木には少數の藤本の上昇するを見る。いま主要植物を記さば、うだいかんば・ななかまど・あかいたや・ほほのき・くり・しらかんば・みやまはんのき・みづなら・はりぎり・やまもみぢ・しなのき・あづきなし・あさだ・あをだも・ばうちばかへで・さはしば等にして、下木たる灌木は、みやこざさ・こくわ・のりのき・なほばこりやなぎ・いそつつじ・こやうらくつつじ・はなひりのき・なつはぜ・がんこうらん・ほうつつじ・ねまがりだけ、藤本類は、いはかがみ・ごとうづる・つるまさき等なり。而して本地方は北海道の南部に位せるを以て比較的暖地の種類を含むと同時に、夏季の寒流影響を受くべき海岸に近く、且つ温泉地帶に屬するにより、植物區系極めて多樣なり。この原始林指定區域中には全く樹木繁茂せざる温泉の涌出地、即ち俗稱地獄谷・大湯沼及び小湯沼を含むより、地質學上參考に資する事大なり。〔地獄谷〕温泉街より湯の川の上流四〇〇米、湯元の大溪谷を云ふ。古の噴火口の跡にて、數十米の緖岩絶壁を繞らし、淡灰色硫黃質の岩丘起伏連亙し、大小無數の氣孔と、熱泉を沸騰する十數のいはゆる地獄ありて、濛氣四邊を罩め、地底より噴出する温泉は流れて川を成し、物凄き景觀を呈す。地獄には大地獄・龍卷地獄・虎地獄・湯花畑・大砲地獄・釜地獄・奥地獄・鐵砲地獄などの名あり。劍ヶ峯の石柱はすさまじきものなり。〔大湯沼〕地獄谷の上手約三〇〇米、周圍約一粁、一面に熱湯を湛へ、含有量約七五％の硫黃を浚み上ぐ。多き時は一ヶ月三百瓩に上ると云ふ。岸邊に浮遊する球狀の破片は中空性輪狀硫黄にて珍奇なるものなり。附近には絶えず噴涌しつつある奥の湯の熱池あり、また大正地獄あり。〔橘湖〕一名カルルス沼。登別温泉の西方カルルス温泉の西三粁にあり。カルルス盆地の火口壁上の小火山の火口に湛へられし小湖にして排水口なし。海拔四三〇米、面積〇・一一五方粁、湖岸は一・三二粁にして深度一三・二米、水色は藍綠にて透明度四―九米、浮游生物は少なく、湯鯉放養さる。〔登別スキー場〕大湯沼の南方にある五八〇米を中心とする無樹帶の曠大なスロープにて、一般向の練習場なり。雪量は割合少きも、温泉を中心としてスキーを樂しむに適す。〔四方嶺〕登別温泉よりクッタラ湖に至る途中、クッタラ湖の西岸海拔約五四五米の嶺を云ふ。温泉場より林間歩道を登ること約二粁餘、嶺上の四阿に立ちて四顧せば南は登別驛を見越して太平洋の荒波を見、東は脚下にクッタラ湖の碧水を見、遙に樽前山の噴煙を仰ぎ北は日和山の噴煙の下に大湯沼、その背後にオロフレ・來馬嶽等の連山を望み、西は鷲別方面より噴火灣を隔てて駒ヶ嶽の尖峯をも眺望し得る好箇の景勝展望臺なり。これより急坂一粁半を下ればクッタラ湖畔なり。〔日和山〕大湯沼の北に聳え、頂上よりは常に白煙を噴く。その噴煙上昇の多寡または方向によりて、漁夫海上より天候を豫測するよりこの名を負ふ。〔湯澤神社〕温泉街より地獄谷への途中、湯の川の橋を渡りて左手にあり、應神天皇を祀る。境内に櫻樹多くして日蓮上人の題目石は多年雨露に曝され文字明かならざるも石面に水を注げば尙ほ黑痕を窺ふを得べしと云ふ。神社以北一帶の

山陵ばいま溫泉公園として數條の步道拓かれ地獄谷一帶の光景俯瞰さる。〔刈田神社〕大字ハマに鎭座。鄕社。祭神保倉神。日本武尊を合祀す。古來當處の鎭守たり。例祭、九月二十一日。〔北大附屬溫泉研究所〕溫泉街の北部に位し、小溪に臨む。北海道帝國大學醫學部附屬醫院の分院にて、研究部と診療部に分れ、溫泉及び氣候學の學理竝びに治療的應用に關する研究を行ふ。建物は鐵骨コンクリート及びモルタル木造の三階建にて、本館・病棟に分れ、浴室には全身浴室・特殊浴槽等あり。診療開始は昭和十一年一月二十日。

【幌別郡】 →幌別村

【幌別鑛山】 →壯瞥村

【幌別川】 北海道日高國日高支廳浦河郡浦河町の東部。浦河町北境に聳立する春別山(一二九三米)の南麓に發して山間を南流し、東西兩山地よりソガベツ・ルチンベツ等の支流と合して春別川となり、更にシュマン・メナシュウンベツ川注ぎ幌別川となりて太平洋に注ぐ。河口に近く西方に約二粁急激なる大カーブをなせり。大なる三角洲を有し耕地を拓く。流程約三〇粁。

【幌別川】 北海道北見國宗谷支廳枝幸郡枝幸村の中央を東流する河。枝幸村西南境に聳ゆる屋根棟山(八六一米)の北麓に發し、約一〇粁を北流し急に東北方に折れて丘陵性山地の間を流れ、東西山地より數多の支流を集めつつオホーツク海に注ぐ。流程三〇粁餘。河口附近に至れば大いに蛇行し、流域に低濕なる平地を展開す。沿岸に聚落多く、耕地拓く。

ホロムイ 幌向

【幌向村】 北海道石狩國空知支廳空知郡の西南隅。夕張川の江別川に合流せる北部の三角地形上に位し、岩見澤町の南に隣接す。西境を江別川北流して石狩支廳江別町と界し、南は夕張川を以て長沼村に、東は栗澤村に接す。面積八三・一平方粁。石狩平野の東南部を占め、地勢極めて平坦廣茫たる原野を以て蔽はる。灌水の便に惠まれ稻作に適し、耕作漸次盛なり。米・燕麥・玉蜀黍・馬鈴薯・大豆等の農產額最大にして、畜產稍之に加はりて本村產業の全產額と稱す。社線夕張鐵道の晚翠驛・南幌向驛(共に昭和五年設置)を置き、また江別町・長沼村間にバスの便あり。本村は明治三十年に栗澤村より分村せるもの。

【幌向】 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。函館本線の幌內驛(明治十五年設置)あり。

ホロムシロ 幌莚島 →幌莚島

ホロモエ 幌萠 北海道膽振國膽振支廳虻田郡虻田村の字。幌萠はアイヌ語ポロモエの轉訛にて大灣の義とす。此地に幌萠鑛山あり。鑛區四八萬餘坪、鑛種は鐵にて昭和九年試掘し鐵鑛一萬瓲以上を得、重要鑛山に列す。現在輪西鑛山會社の稼行に係り、昭和十年には鐵鑛一三、九八四瓲(價額約五萬六千圓)を產出す。

ホン 本

【本村】 →新島本村(東京府)

【本村】 廣島縣備後國比婆郡の南部。高村を挾みて西方は庄原町に對し、南は甲奴郡に接す。北は西城町、東は帝釋村に界す。面積三三・一三方粁。西に大黑目山(八〇二米)、東に御神山(八八九米)の間に東北―西南に長く横り、村內概ね山地あり、二條の山脈東西兩境を地形に沿うて東北―西南に連り、中央に峽谷存し西南部に土地ひらけたり。附近に耕地拓け、他の大部は山林に蔽はる。米・麥・繭・酒類・木炭等を產す。山間の僻村なれば縣道も通ぜず、庄原町へ一〇粁餘、交通不便なり。〔蘇羅比古神社〕大字本に鎭座。鄕社。祭神、天津日高日子穗々出見命・神倭伊波禮毘古神。式內社。例祭、陰曆十月十日。特有神事として御田植祭、穗掛祭あり。

【本村】 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四方粁。地形略々圓形にして四周山脈に圍繞せられ、南に津々良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひらく。耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・繭・柿等の農產物最も多く、林產・工產これに次ぐ。省線藝備線甲立驛へ約二〇粁にして、交通不便なる山村なり。

【本島】 →本島村(香川縣仲多度郡)

【本村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の北部にあり。東南部一帶は本渡町の西に接す。西境の中央には柱嶽(五一八米)そびえ、その山地は中央に擴がり、北境及び南境には之より續く山脈連りて村境をなし、西南部に發する廣瀨川は中央を東北へ貫きて島原海灣に注ぐ。河川に沿ひて耕地拓け、米・繭を產し、麥・果物の產もあり。東北部には縣道走り本渡町へバスを通じ、それより汽船便による。此地は和名抄、天草郡天草鄕の內にて、本村とは天草本村の義なり。東向寺と稱する禪寺あり、寺領百石を有せし島內の名刹なりき。〔東向寺〕大字新休にあり。曹洞宗。松榮山。慶安元年の創建にかかり、開基は鈴木正三、開山は中華珪法たり。寬永十三年の切支丹の一揆鎭靜の後ち彼我戰死者供養の爲にこれを創せしものなりと。近世寺領百石を有せり。

ボンガリ ――社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。ボンガリ溪左岸にあり、標高約七百米の急傾斜地に位す。蕃屋はボンガリ駐在所を中心に全戶集團す。往時より現住地に居住し、且つ此地を發祥地なりと稱し、移動の經路審ならず。パイワン族のパイワン蕃に屬する高砂族の部落にして、戶數一四二、人口七七二(昭和十一年調查)。

ホンガワ 本川村 高知縣土佐國土佐郡の西北隅。吉野川の水源地を占め山間僻陬の地にして、南は吾川郡に接し西及び北は愛媛縣上浮穴郡・新居郡に界す。面積二〇八・六平方粁を有する大村なり。四國山脈の中央に位し、高峰峻嶺が肩を竝べて四周村境に屹立し、村內は山又山を以て埋めらる。即ち、北境には平家平・冠山・笹ヶ峰・寒風山・伊豫富士・東黑森山・西黑森山・瓶ヶ森山(一八九七米)・伊吹山・岩黑山等が東北より西南に蜿蜒と櫛比し、西境の筒上山(一八五九米)より一〇〇〇米以上の連嶺南へ彎曲しつつ東に連りて東境に稻叢山(一五〇六米)を起す。吉野川は西境に發して中央を屈曲しつつ東流し東北隅より隣村に入る。南部には筒上山に發し南境の山麓に沿ひ東に流るる大森川ありて東南部にて吉野川に合す。また東北部には寒風山に發し東南流して吉野川に合する川あり。村內低地と稱すべきもののなきも河川沿岸に沿ひ部落點在す。麥・繭・米の農產及び林產・工產・水產等あり。基安鑛山(銅硫化鐵)の鑛區は當村と愛媛縣新居郡加茂村とに跨る。同鑛山は準重要鑛山にて本據は加茂村大字藤野石山にあり(加茂村參照)。從來道路として見るべきものなく、其開鑿は多年の懸案なりしが物議紛々の結果、昭和八年に隣村の吾川郡清水村より謂ゆる辭職隧道出來、交通上一縷の曙光を見るに至る。村は山岳重疊の間にあり、中世住民は國籍の觀念なく、伊豫と名乘るあり、土佐と名乘るありしが山田氏の入國後、始て大川村と共に本川鄕と稱せり。冬季は寒氣烈しく米・甘藷を產せず、村民は黍・麥を常食とす。往昔より筍の名物あり。大字寺川・越裏門の二部落は本村中最も交通不便の地にして生涯牛馬を見ず、海魚の味を知らざる者あり。四國中、最未開地の一なり。

ホンキ 本岐 省線相生線の一驛(大正十四年設置)。北海道北見國網走郡津別村にあり。

ホンキリ 本桐 北海道日高國三石郡三石村の大字。省線日高線の本桐驛(昭和十年設置)あり。

ホングー 本宮

【本宮村】 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の北部。吉野熊野國立公園の內。熊野川と音無川との合流點を占め、新宮市より西北方へ距たる二一粁餘。高燥なる山地にて東西兩面より中央へ傾斜し熊野川は中央を貫きて南流す。西北方より來る音無川は中部にて之と合す。繭・米・工產・水產・畜產・林產等を產し、柑橘の特產あり。本村は謂ゆる名勝九里峽の上終點に當り新宮市よりプロペラ船にて三時間內外の航程にして、また山間なれども縣道は三方に通じ尙ほ交通の一中心聚落をなすも其の繁昌は昔の俤を止めず。古名を音無里と稱し、熊野三山の一にてその本宮なる熊野坐神社あるより本宮村と名づく。

※熊野 〔熊野坐神社〕 官幣大社。祭神家都御子神・伊邪那美命外十三神。延喜式に名神大社に列し、奈良朝の初期より山地佛教の影響を受けて漸次神佛混淆の靈地として著はれ、本地垂迹の說起りて熊野權現として厚く信仰せられ、平安末期に至り熊野三山と稱し、道俗の參詣修業甚だ盛になり、總て一大靈場と化し、ここに普く全國の崇敬を聚むるに至る。宇多法皇の延喜七年に御幸あらせられてよりは、歷代上皇の御幸相踵ぎ、花山法皇・白河上皇・鳥羽上皇・崇德上皇・後白河上皇・後鳥羽上皇・後嵯峨上皇等の御幸實に九十餘度に上り、特に後白河上皇は三十四度、後鳥羽上皇は廿八度の御幸あらせられしといふ。其他、女院公家の參詣に至りては殆ど數へ難く、遂に「蟻の熊野詣」の語さへ現はるるに至る。この間、田園その他の寄進多く、別當以下の職員は社領を豐に受け、內に精悍なる武人を養ふと共に御師として檀那の接待に當り、常に神威の宣傳に努む。源平時代、平家の信仰殊に厚く、淸盛の熊野詣の事は平家物語に詳しく述べらる。源平兩家には共に厚く尊信せしが、その一面に當社の武力爭奪の潛み居りしこと窺はる。承久の役に全山擧りて王事に盡し敗れてより往日の盛觀を稍失ひたる觀ありしも、爾後常に武家の尊信厚く、また衆庶信仰の靈場として全國的崇拜の標的となる。社地は熊野川の左岸にあり、森林帶に圍まれ崇嚴を極む。例祭、四月十五日。

【本宮】 朝鮮咸鏡南道咸州郡雲南面の邑。咸興市街の東南五粁餘。總督府鐵道咸鏡本線の本宮驛(大正十一年設置)あり。驛附近に大興電氣會社の發電所あり。此地は李朝太祖、李成桂の發祥地として有名にして、驛より東北約半粁、若松茂る苑內に李成桂の舊邸たりし彩樓畫閣巍峨あり。正殿には李朝太祖並にその王妃と、穆祖・翼祖・度祖・桓祖の位牌を祀り、春秋二季にその祭祀を行ふ。寶物として太祖の冠飾・弓箭等を保存す。

ホンゴー 本江村 富山縣越中國射水郡の東北部。富山灣に臨み、東は婦負郡に界し四方町へ約二粁。面積二・六方粁の小村にして、土地平坦、海岸は砂濱をなす。半農半漁の地にして農作物は米を主とし、また藥品の特產あり。社線越中鐵道海沿ひに走り本江驛(昭和四年設置)を置く。縣道も之に並走し富山市よりも縣道來る。交通便なり。本村はもと打出本江村と稱せしが、大正四年に現稱に改む。

ホンゴー 本鄕

【本鄕】 省線函館本線の一驛(明治三十五年設置)。北海道渡島國龜田郡大野村にあり。

【本鄕村】 山形縣羽前國東田川郡の西南部。鶴岡市の南方約一五粁。西に西田川郡に接す。面積九八・八二方粁。西境には湯ノ澤嶽(九六四米)・三方倉山(九〇五

米)連なりて東方に傾斜し、東南境には八久和山(九九一米)聳え、北方に傾斜す。全村山地多くして、大鳥川は中央部を、早田川は東部を各北流し、赤川の上流梵字川に合す。梵字川は東境を峡谷をなして北流す。大鳥川流域には耕地拓け米・繭を產す。また村內概ね山林地帶にして木材・木炭の產多し。道路は大鳥川に沿ひて南北に通じ、鶴岡市へはバスの便あり。人口密度は一方粁につき、五三人に過ぎず。〔河內神社〕大字本郷に鎭座。郷社。祭神、事代主命・溝咋比賣命。例祭、五月十八日。

【本郷村】山形縣羽前國西村山郡の東部。左澤町の西に隣接す。西南境には田代山(五一八米)、北境に蒲谷地山(四五八米)聳え、前者は東北方に、後者は南方に傾斜し、全村山地多くして、月布川は村の中部を東流し、沿岸に耕地拓く。米・繭を產す。道路は中部を東西に通じ東方省線左澤線の左澤驛へバスの便あり。

【本郷町】福島縣岩代國大沼郡の東部。若松市の西南約六粁。北及び東は北會津郡に接す。面積四・四六方粁。東南部には辨天山(四〇九米)そびえ、北方に傾斜し、北と西は會津盆地に屬す。東境を大川北流す。米・繭・麥を產し、會津燒の本場として著名なり。會津陶磁器同業組合あり。道路は北・西・南の三方に通じ、若松市・高田町へバスの便あり。省線會津線會津本郷驛(大正十五年設置)は隣接せる川南村に設く。人口密度は一方粁に付六四九人なり。この地は和名抄、會津郡長江郷の地なるべく、中世には長江庄に屬す。永祿四年、蘆名盛氏の城を築きし所にて今その址を存す。蘆名氏若松城に移り、商家も共に移り村衰ふ。文祿二年、蒲生氏郷、城郭修理の時、屋根瓦を造らんため播磨國より石川久左衞門なるものを招き瓦を製せしむ。のち正保四年に藩主保科正之が美濃國の人、水野源左衞門成治に命じ窯を開かしめ、數品の陶器を製造せしめ、源左衞門歿後、その弟長兵衞を招き製陶に從はしめ本郷燒の名漸く盛になり、瓦は別に役所を設けて造らしむ。初は黑瓦なりしが承應の頃より赤色の瓦を本燒とするに至れり。磁器は寛政の初年、肥前の人近藤平吉を江戸より招き、本町の佐藤伊兵衞等をして學ばしめしが初めは完全なるものを造る能はず、藩主は伊兵衞をして關西・九州の陶窯を巡視せしめ、同十一年歸郷して新窯を開き漸く堅牢なる磁器を製するに至れり。これ會津燒の盛大となりし起因なり。明治三十六年に町制を布く。

【本郷村】栃木縣下野國河內郡の東南部。上三川町の東北隣にして、鬼怒川の西岸にあり。東は川を隔てて芳賀郡の一部と相對す。全村平地にて農業を主業とし、米・麥を主產し、特產物としては干瓢・桃あり。縣道は上三川町、西北隣の雀宮村、北の宇都宮市及び東の芳賀郡眞岡町方面に通じ、雀宮村には省線東北本線雀宮驛を設く。この地は和名抄、河內郡刑部郷の內。

【本郷村】埼玉縣武藏國大里郡の西部。深谷町の西約四粁にて、西は兒玉郡と隣す。西境には山崎山(一一七米)等の丘陵地あるも他は平地にて畑地多く、農業・養蠶行はれて繭・麥・米を產す。縣道よく發達し、東は深谷町に通じバスの便あり。東北隣の岡部村に省線高崎線岡部驛ありて縣道を通ず。此地は和名抄、榛澤郡廣形郷の內なるべし。文明八年、長尾景春と太田道灌この地に戰へりと。

【本郷】千葉縣印旛郡にありし村。大正三年に本村及び埜原村を廢し、本埜村を置く。

【本郷區】東京市三十五區の一。謂ゆる山の手に屬する一區にて、東は下谷區、南は神田區、西は小石川區、北は豐島・瀧野川の各區に隣接す。區はもとの本郷・湯島・根津・駒込及び千駄木の五町を合せしものにて、區名はその中心を占むる本郷町より起りしものなり。元來本郷なる地名は我國に頗る多く、一定の聚落の一番本をなす郷の義なり。故に凡そ某所本郷となる。而してこの本郷區の本郷は定說によれば湯島本郷なりといはる。それがのち湯島と別になり單に本郷となりしものなりといふ。本區の一部分は山の手と稱する地帶にて、舊幕時代には武家屋敷多く、町家は街道に沿うて立ち列ぶに過ぎざりき。「本郷もかねやすまでは江戸の內」と謳はれし如く、本區は江戸の場末、隣接町なりき(現在の中心點、駒込追分町より分岐して、北に縱走する中仙道の兩側に發達す)。舊幕時代より文教の中心地として湯島の聖堂(孔子廟)や昌平黌(幕府直轄の學問所)を有し、自ら江戸に於ける學問の發祥地として重きをなせり。明治維新後も最高學府たる帝國大學が設置されし爲め、依然として學藝の中心となり、從つて本區は學者街と云ふが如き一種の特色を有す。

【本郷村】神奈川縣相模國鎌倉郡の東部。横濱市の西隣にして、南は鎌倉町・大船町と隣す。全村丘陵地にして森林多く、西北部に稍平地ありて農業行はれ麥・甘藷等を產し、養蠶も行はる。縣道は横濱市及び大船町に通ず。此地は和名抄・鎌倉郡尺度郷の內なるべく、本郷の名は證菩提寺の建武年間の文書に山內庄本郷とあり、永德・應永のものには山內本郷とあり、大字小菅谷は北條泰時の女を小菅谷殿と稱せし事ありといへば或はこの鎌田などありて住居せし地か。〔證菩提寺〕大字上野にあり。古義眞言宗。文久五年眞田與市追福のため建立。のち北條義時・宏教・賢融相次いで重建す。

【本郷村】石川縣能登國鳳至郡の西部。西は門前町、東南は穴水町に隣接し、牛島東西岸の略中央部に當る。八ヶ川上流に沿ひ村境を圍らす二〇〇米~三〇〇米の丘陵いづれも中央へ緩傾斜し、八ヶ川は南より中央を西へ曲流す。流域に狹き平地開く。農・林業を主とし、米・薪炭を產する外、牧畜・工業少しく行はる。穴水・門前間に縣道通じ、バスの便あり、北方の輪島へも縣道通ず。省線七尾線穴水驛へ約八粁。此地は和名抄、鳳至郡櫛比郷(一に櫛野郷に作る)の內なるべし。

【本郷村】福井縣越前國坂井郡の西南部。福井市の西方約六粁。南は丹生郡に界を接す。越前海岸山脈の北端に當り四圍に三〇〇―六〇〇米の丘陵を繞らし、中央に狹長なる谷平野を抱く。此谷を北流する小河あり越前平野に出でて九頭龍川に合流す。農蠶・林業を主とし、米・繭・薪炭・用材の產多く牧畜も行はる。北方の越前平野に出づる縣道あり社線三國電鐵鷲塚驛へ約七粁、交通餘り便ならず。足羽社記に「市皇子今云一王子、天皇子大市皇子舊蹟、黑媛・木蟠・雌島・鰊崎・佐野・根玉村云云、從黑媛至子與號曰本郷也、東阿吉山、西高巢山、南國見岳、北居波多三里濱也、當間上世之郡國司在此地、而今考地之利與遺迹、當以然也夫」と。大字大年に細川出羽守孝基が足利方の大將として太平記に名を留めし居城址あり。また大字八幡に龍興寺の跡あり、曹洞宗希明和尚の開く所。昔は七堂伽藍完備し一時は朝倉敏景も當寺に隱遁入道して宗滴沙彌と稱せし事ありし程の大坊なりしが、天正二年一向一揆の節、安居の明源寺等に燒かれ、什物は現今その末寺福井市心月寺に存すと傳ふ。大字清水平に柱の清水と云ふ池あり。一區の飲料水に充てられ、清水平の名も之に基く。傳に據れば大字猫瀬は古書に猫背と見ゆ。繼體天皇の御一族にて猫背にましませし王の居住せしより此の稱を得たりと。村內に十八社、眞宗大谷派寺院二ヶ寺あり。全村殆ど眞宗門徒にて一時は三門徒邪義の巢窟なりしも、今は邪義も少く信仰極めて厚く縣下第一の信仰村の感あり。

【本郷村】福井縣若狹國大飯郡の中部。高濱町の東方約三粁にありて若狹灣に臨む。南は遠敷郡に界す。南境には約四〇〇米の山脈東西に連りて村境をなし、東境に於ては一山脚が北に延びて山麓は海に臻る。西北部は山地東麓の東傾斜地をなす。中央には平野開け、西南方より東北流して若狹灣に注ぐ一河川あり。約一粁の海を隔てて、對岸には西隣の和田村より小島狀に東北方へ突出する陸地を望み、其の南部に南斜地をなして本村に屬す。米・麥を產し、副業に養蠶行はる。また水產もあり。海岸に沿うて若狹街道走り、河川に沿ひて西南方へ走る一道もあり。また省線小濱線は海岸を走りて若狹本郷驛(大正十年設置)あり。海上渡船の便あり。此地は和名抄、大飯郡大飯郷の地なるべく、大字山田に延喜神名帳の大飯神社あり。村上源氏、本郷氏の發祥地にして、本郡の豪族なり。文武の臨に秀でしも多く、陸奉・貞奉・家奉・宗奉・朝秦等各々和歌集あり。大字尾內に城址あり、傳によれば本郷扶秦これに據り、子孫續いて居城せしが、天正年中亡ぶ。土人は御館と稱すと。〔大飯神社〕大字山田に鎭座。郷社。式內の古社。祭神は往古、當地近傍の田を開拓し給ひし神なりと傳へ、鋤鍬を神寶として祭り來るといふ。例祭、十月十八日。

【本郷村】長野縣信濃國東筑摩郡の中部。松本市の東に隣接し女鳥羽川を挾む。鳥羽川は村の中央を流れ、北に戸谷峰(一六二九米)、東南に武石峰(一九七三米)・綺城山(一七五三米)聳ゆ。淺間温泉あるを以つて早くより知られ、松本市の郊外として近來發達し、松本驛より温泉場まで松本電鐵設けらる。またバスの運轉により約五粁を通じ便利なり。淺間温泉は海拔七〇〇米、犬飼山の松林を東北に背景とし、女鳥羽川の清流脚下を洗ふ。温泉地は山の斜面に階段狀をなして旅館が建並び、浴室より湯に浸りつつ遠く梓・奈良井の兩川を隔てて乘鞍・穗高・槍ヶ岳・常念岳・東天井岳・燕岳など日本北アルプスの峻峰を烏瞰し得て一眸腦然たる雄大の展望は他に比類を見ず。温泉は本郷山の麓より湧出し、無色透明の鹽類泉にて硫酸ナトリウム・硫酸カルシウムを多く含有し、源泉温度五五度なり。村には温泉場に接し縣營野球場もあり。松本市との境にて女鳥羽川の右岸には縣營陸上競技場あり、野球場と共に縣營にて、二〇〇〇アールを有する綜合運動場にて神宮競技場と同じ設備を有つ。中信地方の主都として、また長野縣下經濟文化の一中心たる松本市の郊外として、寧ろ其の一部として活況を呈す。此地は和名抄、筑摩郡大郷の地なるべく、また中世に岡田郷に屬す。温泉多く、犬飼氏の領地たりし故に犬飼御湯とも稱され、また往時、小笠原家の廟所大隆寺ありしといふも今はその寺跡を殘さず。大字惣社は信濃國府の總社ありし地なるべし。

【本郷村】長野縣信濃國諏訪郡の東南部。八ヶ嶽(二八九九米)の南西斜面の火山山腹に位す。八ヶ嶽はコニーデ式の火山にて廣大な裾野を東南に展開し、本村はこの火山裾野に乘るが故に火山灰によるローム層卓越す。若き谷が發達し、村の中央より上部は浸蝕殊に著し。裾野は頂上まで種々の林相を呈す。主生業は農業にて殊に養蠶盛なり。火山灰の厚き本村にては、桑畑のためには綠肥著しく肥料の使用を必要とす。水田は裾野に刻まれたる小谷底を僅に利用するに留る。村の草地の利用と厩肥・綠肥の必要上、馬の飼育が特徴を持ち仔馬の飼育は村の一副業たり。本村は立澤・乙事の舊二箇村を合して成れるものにて、大字乙事は一に乙骨にも作り、甲州より大門峠を越え直に北信濃に出づる街道ここを通る。天正十年八月一日、北條氏直四萬餘の人數を

從へ、甲州を取らんがため信州梶が原に着陣、三日、徳川の將、酒井忠次・大久保忠世等三千の兵にて諏訪より甲州に進軍乙骨に着陣せり。

【本郷村】 岐阜縣美濃國惠那郡の中部。岐阜市の東六〇粁。北は長島町・三郷村に、東は阿木村に、南は上村・岩村町に、西は遠山村に相隣る。此地方は木曾山脈に屬し花崗岩より成り、南部には三森山(一一〇〇米)・水晶山(九六一米)・城山(七二一米)聳え、村の北部には阿木川の上流が木曾山地を切り、峽谷をなして北流す。中部は平坦面を有し、水田の分布見らる。また小澤附近には礦泉の湧出あり。產業は農業を主とし、養蠶は春蠶に不能にして夏秋蠶が飼はれ、林業にては薪炭の產あり。南部城山より水晶山にかけて岩村御料林あり。大字富田の大洞御料地には十三町步の竹林あり、大藪と稱し有名なり。竹細工が盛んにして、飯羽にては籠が作られ、富田にては農閑期の副業として箕を作り富田箕として有名にて名古屋方面にも移出さる。交通路は阿木川の谷を通る岩村電氣鐵道の小澤・中切の二驛を置き、また明知線も此地を通過して、交通は便なり。此地、中世は遠山庄の中にして、江戸時代は岩村藩に屬す。此村には遠山氏宅跡あり、遠山右衞門佐が住みし小城なり。大字飯羽間は天正年中、織田氏ここに城き武田氏に備へ、甲斐の山縣昌景、來り攻めて之を拔く。〔富田花の木自生地〕指定天然記念物。花の木の自生區域の境界並に要所にて分布の範圍を示し、學術研究に資す。

【本郷村】 岐阜縣美濃國揖斐郡の南部。大垣市の北方一六粁。北は宮地村・養基村に、東は池田村に、南より西にかけては八幡村に相隣る。西部山地は古生層の池田山(九二三米)の東斜面を占め、西濃平野に斷層崖を向く。山麓には二、三の扇狀地が發達し川は伏流をなす。東部は揖斐川の沖積地の謂ゆる西濃平野なり。杭瀬川の上流この地を南北に流れ、扇狀地の砂川と直角に交る。平野部は農業盛にして米・麥・茶・柿の產多し。交通は東部に揖斐街道が南北に通じ之と並行して社線參宮急行養老線の美濃本郷驛(大正九年設置)を置く。この地は和名抄、池田郡池田郷の內なるべく、中世は雲門庄と稱す。河野通宮は伊豫越智の一黨なりしが、流浪して當國に至り、此地の大字小寺の安國寺に居りしが、國守土岐成賴に出仕、稻葉伊賀守光宗の遺跡を相續し稻葉刑部少輔といふ。その子通則は牧田に戰死し、末孫一鐵は家を嗣ぎ織田氏に仕へ勇戰の譽れ高し。子孫世々臼杵侯たり、林宗兵衞正之の子を養ひ稻葉正成といひ、その子正勝、德川氏に仕へ侯籍たり。いま小寺山と稱し、ここに稻葉氏の城構址あり。いま池田村と組合村をなし役場を池田村に置く。〔霞間ヶ谷(櫻)〕指定天然記念物。大字藤代の西方に聳ゆる池田山にあり。ここの櫻は山櫻にして種類甚だ多く、花に八重あり、一重あり。芽に黃あり、赤あり、紫ありて甚だ美觀を呈す。〔神明神社〕大字本郷に鎭座。鄕社。祭神、天照皇大神。例祭、九月十六日。〔安國寺〕大字小寺にあり。臨濟宗妙心寺派。揖岐山と號す。足利直義の建立せし安國寺の一。境內に僧白雲を葬りし白雲塚あり。

【本郷町】 愛知縣三河國北設樂郡の南部。豐橋市の東北方約六五粁。北は園村に、東は下川村に、南は三輪村に、西は御殿村に相接す。此地は赤石山脈の餘波の及ぶ所にして古生層山地を成し、西南境には明神山(一〇一六米)あり。北境には振草川東流し、狹き小盆地狀の谷を作る。產業は山間僻地なれば林產を主とし、河岸地域は畑多し。交通路としては別所街道南方の三輪村より入り與良木峠を羊腸の道をなして下川本郷に出で、振草川の谷を通りて津具方面に至る。大正十年に町制を布く。

【本郷】 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に本村ほか一町四箇村を廢し、矢作町を置く。

【本郷】 兵庫縣氷上郡にありし村。明治四十年石生村と合し生郷村を建つ。

【本郷村】 岡山縣備中國阿哲郡の南部。新見町の南に連り、高梁川支流の西川の南岸に位す。東は石蟹郷村、南は萬歲村、西は新砥村に接す。面積三一方粁。村內は概ね山地に蔽はれ、東・西兩境に高くして中央部稍々低く、一小川中央に北流して河谷を展く。沿岸に耕作行はるるも他の大部は山林に蔽はる。聚落は概ね沿岸に集る。米・麥・繭・木炭・柿・蒟蒻・酒類等を產す。新見町に自動車の便有り。〔八幡神社〕大字成松に鎭座。鄕社。祭神、譽田別命・神功皇后・玉依姬命。後水尾天皇の元和六年の創祀にして、當時近郷八ヶ村の氏神たりしと傳ふ。例祭、十一月十九日。

【本郷村】 廣島縣備後國沼隈郡の西北端。松永町の北に隣接し、西北は御調郡、北は蘆品郡に界す。東に神村あり。面積一二・四八平方粁。村內は概ね山地に蔽はるるも、南方に松永町より接續する平地あり、土地肥沃にして耕地拓く。工產額は最高にして、農產額これに次ぐ。縣道南北に貫通し、松永町・今津町にバス通じ、省線山陽本線松永驛を利用する便あり。もと新庄本郷と云へり。

【本郷】 廣島縣甲奴郡にありし村。明治二十八年に本村外三箇村と共に合併して甲奴村を建つ。

【本郷町】 廣島縣安藝國豐田郡の中部。忠海町の北方約八粁に存し、沼田川に沿ふ。北は船木村、東は高坂村、南は下北方村に接す。面積五・八九平方粁。西部には丘陵起伏すれど中央を沼田川南流して河岸平野をひらき、東半部の地勢平坦肥沃なり。本郷の市街は河岸に沿うて延

び交通產業の中心をなせり。農業・工業を主要產業となし牧畜も行はる。米・麥・繭・木炭・醬油・酒類・柿・薄荷等を產す。省線山陽本線南北に貫通し、本郷驛(明治二十七年設置)あり河川には舟楫の便あり。大正十三年町制を布く。此地は古の沼田郷の本郷なり。中世は奴田庄といふ。長崎街道の宿驛たり。

【本郷村】 山口縣周防國玖珂郡の北部。北は高根村、東は秋中村、南は河山村、西は廣瀨村・深須村に夫々隣接す。東北境に羅漢山(一一〇九米)あり、その脈村內を走り諸處に五―七百米の山を起す。中部南邊に盆地狀の小低地ありて耕地及び部落發達する外は概ね山地を成す。主生業は農にして米・繭を出し、また半紙の產を以て古來著名なり。縣道は東南方岩國町より來りて西方廣瀨村方面に走りバスの便あり。此地は和名抄、玖珂郡多仁鄕の本鄕なりしといふ。成君寺(臨濟宗南禪寺派)あり、坂上田村麿の建立と傳ふ。昭和十年の人口三三四九人にして一方粁密度一〇六人なり、之が累年比較は大正九年三七一六人、同十四年三七三九人、昭和五年三六二一人にして、逐年減少を示す。〔八幡宮〕大字本郷村に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姬命。例祭、陰曆八月十五日より同九月九日に至る。

【本郷村】 福岡縣筑後國三井郡の東北部。北及び東は朝倉郡に界し、東北方約二粁に甘木町あり。全村地形低平にして東部には筑後川の一支流が南流す。一望耕地拓け米の產多し。西北部には縣道ありて西隣の太刀洗村に至る。此地は和名抄御原郡長栖郷の內なるべく、御原左衞門尉重種なるものの采地なりしと。中世は鎭西の名家なる高橋同族の一家なるべし。〔高良玉垂神社〕大字本郷に鎭座。鄕社。祭神、武內宿禰・應神天皇外三神。建久年間、三原朝種、筑前箱崎の高良新宮より神靈を分祀せるを當社の創祀と傳ふ。例祭、四月二十一日。

【本郷】 福岡縣山門郡にありし村。明治四十年に瀨高町・小川村・河沼村及び緑村の一部を以て瀨高町を置く。

ホンコクチョー 本石町 東京の町名。いま日本橋區本石町一丁目より四丁目に至る。江戸時代、米穀商人多かりしより起る名稱といふ。もと單に石町といふ。神田に新石町生じたるため本石町と改めらる。三丁目北側に長崎屋と稱する和蘭人參府の宿泊所あり、特に川柳などに取材せられ有名なり。好色二代男・七「其年も又の年暮て、十月十四日の夜、淺草の寺町へ參のよし宿を出て、それよりすぐ法體して、宗知をあらため、本石町の橫手に、世は捨ても世わたりのために、八百屋棚を出して、其身は深く忍びて、月日をおくりぬ」

ホンサカ 本坂街道 一に姬街道といふ。舊東海道の御油驛(いま愛知縣寶飯郡御油町)より分れ、參遠國境の本坂峠(最高點四〇〇米)を越え、濱名湖の北を東走し濱松に至りて東海道に合す。別名姬街道の名は女人、東海道にある今切關を忌み專らこれを往來せしによる。

ホンジ 本地村 廣島縣安藝國山縣郡の東南部。南は安佐郡に接し、北は八重町、西は都谷・吉坂二村に界す。面積二六・五四平方粁。北は猿喰山(七九六米)、西は海見山(八七〇米)、南は冠山(七三六米)に挾まれたる村內の地勢は、中央部に傾きて稍長なる低地となる。可愛川は中央を東北流し、地勢東北境に近くいよいよ展け、河岸に耕地を拓く。農業を主となし、工・林業を副業的に行ふ。即ち米・麥・繭・柿・薄荷・蒟蒻・木炭・酒・薪炭等を產す。縣道は中部河岸を南北に貫通し、大朝町・可部町にバス通じ貨物自動車の往來頻繁なり。

ホンジ 品地 →品地

ホンジマ 本島村 香川縣讃岐國仲多度郡の東北海上の本島を占む。瀨戶內海鹽飽諸島の一をなし、瀨戶內海國立公園の內なり。東には與島、西には廣島あり、北は岡山縣兒島郡下津井港に、南は丸龜市に對す。南方海上の牛島、北方の向・長島等を併せて面積七・八七方粁。北に聳ゆる高無防山を始め高距二百米餘の丘陵廣く島內に起伏して海に迫る。低地はその崖下に僅かに開け聚落を開く。東部に稍廣き平地あり此處にも耕地を拓く。米・麥・甘藷等を作り、また漁業を營む。丸龜市及び岡山縣下津井町との中間にあり兩港へ每日定期發動機船の便あり。この島は古來幾多の歷史を有す、卽ち神武天皇御東征の時を始め、景行天皇の時、日本武尊熊襲が亂をなせるにより、之が西征に向ひし時、途に附近の吉備穴濟の賊を平定す。八島の戰に安德天皇が左馬頭平行盛をして此の海路を保たしめ東兵を拒ぎしことあり。豐太閤九州征討の時、及び朝鮮征伐の時にも島民船の案內役を勤め、また法然上人の配流地となりしこともあり。〔八幡神社〕大字本島に鎭座。鄕社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。聖武天皇天平十四年、導師大僧正遍照の創祀なり。例祭、十月三日。

ホンジョ 本所區 東京市三十五區の一。謂ゆる江東地方にある一區にて、北と西は隅田川を隔て、淺草區及び日本橋區に相對し、南は深川區に接續し、東は新市域の向島・城東の二區に隣接す。もと江東地方を牛島と稱し、その諸村が某氏の私領なりし時、本所方・地頭方等に下地を割きしため本所といふ地名起原せりといはれ、本庄に作る者あるもその本義なしときる。最初は竪川の兩邊、橫川附近を稱し、南北二部に分れ、北本所に石原、南本所は元町なりき。現今の本所はこれより甚だ擴大されしは他の區の名稱に於けると類似す。この地は家康入國の後も、交通不便のため、久しく江戶繁

桑の外に置かれたりしが、明暦の大火災後、市街開發の必要上、幕府に旗本屋下の屋敷を此處に建設するの目的を以て、當時未だ萱荻叢生せる此地に運河を開鑿し道路を通じ、萬延三年には兩國橋を架設して專らその開拓に力を注ぎたり。茲に於て直接交通の便開かれし結果、江東一帶は急激な發展を來し武家屋敷と共に之を回る町家も著しく增加して、本區繁榮の魁をなせり。其の後水難等の事ありて一時衰微せしも、元禄元年旗本の士二百四十家を此處に移せしより、また一段と本區の活躍が展開さる。かくして本區は江戸の中堅より旗本階級の中心地をなすに至り、世の太平に慣れ「これ等旗本の跋扈が謂ゆる「旗本五人男」の名稱を生みこれ等を中心として情緒豊なる文化を生みぬ。然るに明治維新後、何時しか工業地帶と化し、大東京の產業の中心をなすに至りしかば、曾ては文人墨客の巷なりし此の地も、その特色と方向を今く一變せり。かの大正十二年の大震火災に於ては被服廠跡を始め、最も悲慘なる災禍を蒙りしが、蘇生の意氣に燃ゆる區民の大活躍の結果、今日の復興を見るに至る。なほ本區は大正十四年都市計畫の上より深川區と共に工業地域として指定されたるを以て、今後工業方面に更に一段の飛躍をなすべし。區內には大小の河川縱橫に貫通するを以て水運に惠まれ、加ふるに復興計畫によりて、隅田川を跨ぐ言問・駒形・藏前の三大橋が架設せられ、吾妻橋・兩國橋等の改築もまた相次いで完成するに至り、交通連絡の便更に加はりしため、本區獨特の工業地域としての新らしき繁榮が齎されつゝあり。

ホンショー　本庄村　鳥取縣因幡國岩美郡の北部。西は福部村に接んで鳥取市に對し、西北は大岩村に隔てて日本海に臨む。東は岩井町、南は小田村に接す。面積九・八方粁。地形東西に長く西部より南部に山嶽連なる北東部は平地拓け岩谷川貫流す。山麓より河岸にかけて耕地拓け米・麥・蔴桑を產す。山地には山林地と原野相半ばして荒涼たり。故に近時村內に造林保護森林組合設けられて植林に努力せり。岩鼻あまれく行はれ漁業驛に近し。村名は岩井莊の本莊の義なりと。大字新井に流竹城址あり、三上兵庫の居城なり。兵庫は山名祐豊の弟にして、幼にして僧となり東陽藏主と稱す。天文の頃還俗して城主となり、永祿の頃武田高信の謀反に與し終に永祿七年山名豊次の爲に滅ぼされ城また廢す。寡末の勤王家村上源藏は此地の人にて、明治元年儀撫使西園寺公望山陰道巡視に隨行し人馬賃重の發發に努めしが意の如くならず部を創廷に謝し自刄す、年五十五。贈從五位。〔美取神社〕大字大田に鎭座。郷社。祭神、大物主命。創建年代詳かならざれども、貞觀十五年正五位下を授けられ、延喜の制、國幣の小社に列す。當時大神社と呼べり。のち稼大明神と稱し郷中の一宮とせられ、世々國主の崇敬篤し。例祭、四月九日。〔許野乃兵主神社〕大字新井に鎭座。郷社。祭神、大國主命。式內小社に列し、舊瓦濱郡九座の一。もと兵主大明神と稱せしといふ。例祭、三月十九日。

ホンジョー　本庄（ほんじょう）。

【本庄村】山形縣羽前國南村山郡の南部。上山町の南に隣り、東南は宮城縣刈田郡、西南は東置賜郡に接す。南境は海拔約八〇〇米にして北方に傾斜し、中部に大水澤山（五三六米）聳え、北部は上ノ山盆地に屬し平坦なり。宮川は東部を北流す。米・繭を產し、柿の產あらはる。また縣下に於ける殆んど唯一の林檎產地として著名なり。名物に紅柿を加工したる關根柿あり。村の西部には三上鋼山あり。道路は村の中部を南北に通じ奥羽本線上ノ山驛へはバスの便あり。

【本庄町】埼玉縣武藏國兒玉郡の北部。本町平地にて養蠶地帶の中心をなし、生糸・蠶種の產額多し。農業之に次ぎ米・麥を產す。中山道は町の中央を西走し槻落はこれに沿ひて發達す。者線高崎線これに沿ひ本庄驛（明治十六年設置）あり。その他縣道多く集りて交通の一中心をなす。この地は中山道の本庄宿のありし所にして、舊郡役所のありし所、いま警察署・蠶業取締支所・中學校・高等女學校等あり。この地は和名抄、賀美郡小島郷の內なるべく、近世は若泉庄に屬す。兒玉黨の一なる本庄氏の居りし所、倘ほ丹後宮津七萬石の城主たりし本庄氏は此氏の後なりといふも詳かならず。兒玉黨の兒玉庄太夫家弘の子に庄權守弘高・庄三郎忠家等あり、これ若泉庄を分領して在名を稱せしものにて、弘高の子庄太郎家長、その子本庄二郎左衛門家長あり、成田分限帳にも本庄越前守長英とあれば、彼の末流にて當所を領せしことを知る。〔本庄城址〕町の東北にあり、城跡は東低く西高く、北方の崖下を小山川流る。兒玉本黨本庄氏の遺蹟にして、弘治二年本庄宮內少輔貞忠なるもの始めて當地に築城す。のち天正十八年德川氏東遷するに及んで本庄氏に代りて小笠原信嶺が本庄城一萬石を領せしが、慶長十七年その子佐之が下總國古河に移封さるるに及び廢城となる。〔金鐵神社〕縣社。祭神、天照大神・素戔嗚尊・日本武尊。官幣中社金鐵神社創建の際、此地もと日本武尊駐軍の地なればとて遙拜宮として建立されしものなりと傳ふ。歷代城主の崇敬社たり。例祭、十一月三日。

【本庄村】遠賀縣近江國高島郡の東南部。安曇川の河口に位し、東及び南は琵琶湖に面す。安曇川河口の沖積地なる爲め地極めて低平にして一望の沃野開け、安曇川は中部を東南流して湖水に注ぐ。西南部には湯湖發達して一條の道路によりて琵琶湖と分たる。米・繭・桑葉・絲肥用作物・菜種・茶等の農產物を主とし水產物も亦多く水產製造物もあり。湖岸に沿ひて走る縣道あり、中部には東西に橫斷するものあり。西南方の大溝町と北方の今津町へはバスを通ず。〔日枝神社〕大字南船木に鎭座。郷社。祭神、大山咋命。延久六年、日吉本社より勸請するところと傳ふ。

【本庄村】京都府丹後國與謝郡の東北端。與謝半島の東北端に位し日本海に臨む。全域は安山岩より成る山地にして、中央に小川あり曲折を描きて日本海に注ぐ。河川の流域に平地あり、米作を主業とし、養蠶業亦見るべきものあり。また沿岸は好漁場にして漁獲高も多く本庄濱は其の中心漁地なり。然し天然の好漁地なく、且つ漁獲物は殆んど附近の都邑に送られる。但し本村の南方伊根村の伊根灣は好漁地にて北丹の中心漁港たり。この地は位置北に偏在する事と、見るべき產業なく、地形亦山地多く海岸所々急崖をなす關係上、重要幹線路の開通遲れ、海上交通も良漁地を缺き、且つ冬季の風波に通航を阻害するにより海陸共に交通に極めて不便なり。文化の中心より遠ざかり交通不便なる爲に古風を盡す。本村に鎭座する宇良神社（浦島神社）の春及の祭祀は古典を傳ふるものとして世に著はる。〔宇良神社〕大字本庄濱に鎭座。郷社。祭神、浦島子。祭神浦島子は正しくは水江浦島子といひ、一に水江浦嶼子に作る。後世の謂ゆる浦島太郎これにて浦島の物語は日本書紀・丹後風土記・本朝神仙傳・古事談等に見え著く人口に膾炙す。本社は浦島の歿後、社殿を建てゝこれを神に祀りしものといふ。延喜式與謝郡十七座の一にて、近郷十三村の氏神たり。例祭八月七日。

【本庄村】兵庫縣攝津國武庫郡の南部。大阪灣に面する海濱にして魚崎町の東に隣る。地形低平にして東境には蘆屋川南流して海に入る。蔬菜・花卉・米・果實・食用農產・麥類・鷄卵等の外、海岸は水產業盛にて沿岸漁獲物多く、また大阪灣岸工業地帶の一部を占むる爲め工業盛にて植物油・酢・メリヤス製品・肥料等の產出高多く木製品・畳・竹製品等も產す。縣道及び社線阪神電鐵東西に村を貫通し後者の深江・青木の兩驛あり、また神戸市・大阪市等へ自動車の便あり。神戸高等商船學校（大正九年創立）あり。

【本庄村】兵庫縣攝津國有馬郡の西北部。三田町の北々西約五粁にあり、北は多紀郡に界す。稍々南北に細長し。北部には約五〇〇—七〇〇米の山地ありて北中央に東山（五七一米）あり。中部と南部には丘陵處々に點り、西端に若狭谷山（四二八米）、穴日山（三一九米）等あり。平地は中部及び南部の中央に稍々廣く開く。西方より來る武庫川は若狭谷山の北より本村に入り中央を南下して東南部より隣村に出づ。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農產・繭・桑種・製茶・果實及び鷄卵・林產物・藁製品等の產物あり。西南部に縣道及び者線福知山線通過し西南端より僅か離れて相野驛（隣村藍村）あり。〔駒宇佐八幡神社〕大字上本庄に鎭座。縣社。祭神、應神天皇。清和天皇貞觀元年、豐前國宇佐八幡神を山城國に遷座の際、神勅に依りて當地に奉齋せるがその創建といふ。藤領主九鬼家累代の新願所たり。例祭、九月十五日。

【本庄村】島根縣出雲國八束郡の東北部。松江市の東北方約五粁に存し、東は中海（なかのうみ）に面す。北は千酌村・野波村、西は持田村に接す。面積二二・一五方粁。海岸に沿うて南北に長く、地形上二部より成る。北部は東西に山脈連亙し、澄水山（五三六米）聳ゆ。南部また高山（三二六米）あり。兩山地に中央部に傾斜して中央平野に終る。中央平地は一小川灌漑して耕地多し。海岸線は出入に富み處々に漁業集落存す。米・麥・繭・鰯卵・茶・漁獲物等の產多し。縣道南北に貫通し松江市にバス通じ、海上は近海定期航の便あり。一長見神社〕大字長海に鎭座。縣社。祭神、天津彦火々瓊々杵尊・木花咲屋媛尊。天孫降臨の後ち御立寄の地と傳ふ。式內の古社にて安產守護神として古來一般の崇敬厚く、松平藩主代々の崇敬また深し。例祭、十月九日。〔久良彌神社〕大字新庄に鎭座。郷社。祭神、豐受媛神。式內の古社にして、もと村內奥條見谷に鎭座ありしといふ。例祭、十月十七日。〔華藏寺（枕木山）〕大字別所にあり。臨濟宗南禪寺派。龍翻山。天長二年智元の草創に係りもと天台宗なりしを、明暦三年松江藩主松平直政、濟邇を聘して再興せしめ現宗に改む。往時は純木十二坊と稱し天台の靈場として隆盛を極めしも、戰國時代兵火に罹りて衰頽、のち堀尾・松平兩氏の新願所となりて慨復す。藥師堂本尊藥師如來坐像（木造）一驅は藤原初期の優作にして國寶たり。

【本庄村】岡山縣備前國邑久郡の中部。東は長濱村を隔てて播磨灘に臨み、北は美和村、西は邑久村、南は大宮村に接す。面積六・二八平方粁。地南北に細長く、南半部には丘陵起伏し、北半部は平野なり。山麓にかけての傾斜地に耕地拓く。米・麥・繭・梨・薄荷・酒類等を產す。縣道南北に貫通し岡山市に定期バスの便有り。

【本庄村】佐賀縣肥前國佐賀郡の南部。佐賀市の南に隣り、地形極めて平坦にて一望の沃野連り、東境に沿ひて八田江南流し之より分れて南境に沿ひ西南流する細流あり。米產多く外に麥・鷄卵・繭を產す。佐賀市へ近く交通の便よし。本庄とは與賀本庄の謂にして享祿三年、鍋島氏の祖、平右衛門清久父子、田信原合戰に功ありしにより館造守家簾より孫四郎清房に本庄八十町を幣引出物として分與す。

即ち鍋島家發祥の地にして、此の地に清房が永正五年に創始せりといふ高傳寺あり。村内に佐賀高等學校あり。〔本莊神社〕大字本庄に鎭座。鄕社。祭神、豐玉姫命。例祭、十月二十八日。〔高傳寺〕曹洞宗。天文二十一年鍋島清房創建、同家の菩提所。大涅槃像(八間・三間餘)は世に聞ゆ。

【本庄】 熊本縣飽託郡にありし村。大正十年に熊本市に入る。

【本庄町】 宮崎縣日向國東諸縣郡の東部。大淀川支流の本庄川に跨り、宮崎市の西北部より西方四粁餘にあり。北部及び南部には低き丘陵が南北より東南に連り中部を綾北川が東流し東南方約三粁にて大淀川に合す。流域には廣濶なる平野が開く。西北隅には深年川が流れ來り東南流し、北部中央にて八代村に入り、再び本村東北部に流れ入りて東境に出で之に沿ひて東南流し本庄川に合す。流域に稍々耕地拓く。農業を主とし一六、七〇〇石の産米の中、米は一、五六九〇石—三六〇、八七〇圓、糯米は八一〇石、陸稻は二〇〇石にして、麥の産高は二、三五七石なり。工産物としては和紙(塵紙六一、四一〇圓)を産し婦人用懷中用紙として無比なり。東部の六日町より宮崎市へ縣道通じバスの便あり。此地は和名抄、諸縣郡八代鄕の内。大正八年町制を布く。〔本庄古墳群〕 本町民家の間、及び附近畑地に散在し、前方後圓墳あり、横穴及び地下壙あり、總數五十七を算す。此地は上代に日向諸縣の中心地をなせし事認められ、高塚式は形狀完全且つ雄大なり。地下壙は近年内部より短甲・直刀・齋瓮等を出し、日向に於ける古墳群のうち顯著なるものに屬す。〔八幡神社〕大字北本莊村に鎭座。鄕社。祭神、譽田別命・足仲彦命・氣長足姫命。相殿、武内宿禰。淳和天皇の元長八年豐前の宇佐神宮を勸請して創祀す。例祭、陰曆九月十六日。〔義門寺〕 淨土宗。藥王山東福院。貞和二年直心の開創する所にして、もと藥王寺と稱し禪刹たり。のち日向の守護職伊東祐國の末孫たる義門の歸依を受け、堂宇を再建し、且つ現宗に轉ずると共に現寺號に改む。のち天正年中豐臣秀吉九州征討の際、弟秀長當寺に陣を構へたり。

ホンジョー 本莊

【本莊町】 秋田縣羽後國由利郡の西部。本郡の主邑にして、西は日本海に面す。面積一五・二一方粁。村の西南部及び北部には濠地ありて森林をなし、東部は本莊平野にして平坦なり。子吉川は町の東境を北流し、北部に於て流路を西に變じ西南に流れて日本海に注ぐ。河口に近く河港を有す。海岸は平直にして砂濱をなし、杉の防風林連る。米・酒を產し、製材行はる。また本莊米・木材等の集散行はれ、船舶の出入は土崎港に次ぎて盛なり。酒田街道は町の中西部を南北に通じ、東北の刈和野町へ刈和野街道を分つ。東南方よりは本莊街道來る。省線羽越本線の羽後本莊驛(大正十一年設置)を置き、矢島線の分岐點をなし、同線はこれより東南方に出づ。交通便にして町內バスの便もあり。人口密度は一平方粁につき九五二人あり。本町は本郡の主邑にして舊郡役所のありし所なり。いま稅務署・警察署・營林署・區裁判所・中學校・高等女學校等あり。和名抄、飽海郡由理鄕の內にして、古の由理驛のありし地、由理柵もまたこの地にありしならんと。いま本庄城址あり、一に尾崎城、又は舞鶴城と稱す。慶長十五年、最上義光の臣楯岡滿茂の築く所。尋で本多正純に賜ひ、九年六鄕政乘これに代り、二萬石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。時に藩主政鑑、官軍に屬す。明治元年八月、莊內藩の兵來り、此城を占領す、亂平定後、政鑑勤王の功を以て一萬石を加へらる。藩校、總教館は天明年中、六鄕政速の創立せしもの。〔八幡神社〕縣社。祭神、譽田別命、外二神。寛治年中、菖蒲崎中島に鎭座あり、その後數度遷座ありしが、慶長十二年、領主山形豐前守滿茂、現社地に遷宮す。領主六鄕家累代の崇敬厚かりき。例祭、九月十四・十五日。〔本莊神社〕大字出戶町に鎭座。鄕社。祭神、建御名方神・六鄕兵庫頭藤原政乘。もと靈神社と稱したるが明治三年諏訪神社へ合祀し同十二年本莊神社と改稱せり。例祭、五月八日。〔新山神社〕大字石脇町に鎭座。鄕社。祭神、宇迦之御魂命。後奈良天皇弘治元年、由利郡領主より社領二百五十石の墨印狀を附せられ、のち由利郡の總鎭守と定められたり。例祭、四月八日。〔永泉寺〕曹洞宗。龍洞山。僧道叟の開創に係り、舊領主六鄕家の菩提所なり。陸中國永德寺末にして元和九年仙北郡六鄕村より移轉す。

【本莊村】 福井縣越前國坂井郡の西部。福井平野の北部を占め、東西を金津・三國兩町に挾まれ、九頭龍川の一支竹田川の右岸に沿ふ。土地東西に長く平坦肥沃なる田地開く。農を主生業とし米の産多く、次で藁製品、葉煙草の産あり。工産・畜産は農產に次で多し。南北・東西に通ずる縣道村內に交錯し、三國金津間バスの便あり、また社線三國蘆原電鐵南北に貫通し本莊驛(昭和三年設置)を置く。本莊村の地は和名抄、坂井郡川口鄕の地にして、往時は南都興福寺の春日社領たり。中世は河口庄と稱す。また大字公文は河口庄の下公司文職の名田なりしものなるべく、公文國貞が白河法皇の院宣を承りて鳴鹿用水を開きたること口碑に傳ふ。〔春日神社〕大字中番に鎭座。鄕社。祭神天津兒屋根命・武甕豆知命・經津主命。保元年中、押領使國貞、春日明神を勸請し社殿を設く。相殿井口神社は式內社なり。例祭、二月二十四日。

【本莊】 岐阜縣稻葉郡にありし村。昭和六年に日野村と共に岐阜市に編入す。

【本莊】 京都府船井郡にありし村。明治廿七年富莊村と合し富本村となる。

【本莊村】 岡山縣備前國和氣郡の西部。吉井川下流左岸に近く、和氣町の南に接す。西は熊山村、南は片上町及び伊部町に界す。面積二〇・二七方粁。北境を吉井川の一支流西流して平地を開き、東部と西部に山地あり共に中央に傾き、山間に南北に長き低地を有す。縣道は中央低地を貫き岡山市に至る。バスの便有り。また略々縣道と並行に社線片上鐵道通じ清水・中山の二驛(大正十二年設置)を置く。村內は養蠶盛にして春繭一四〇三五圓、夏秋繭一〇九七〇圓を產す。米・麥・酒類・柿・薄荷の產あり。

【本莊村】 岡山縣備前國兒島郡の西南海岸。水島灘に西面し、東は味野町、北は福田村、南は下津井町に接す。面積一〇・〇一平方粁。地形南北に狹長にして、東境を南北に連亙する小山脈あり西方海岸に傾斜す。海岸線は小出入を有し、前面に小島數多散在す。海岸處々の平地に耕作行はる。米・麥・繭・柿・薄荷等を產す。社線下津井鐵道備前赤崎驛へ近し。大字通生及び鹽生は瀨戶內海國立公園の內なり。〔本庄八幡宮〕大字通生に鎭座す。鄕社。祭神、足仲彦命・品陀別命・息長帶比咩命。大寶元年の創祀なり。往昔神宮寺を置き寺社領八十石を有したるが、宇喜多直家の時沒收せられたりと云ふ。例祭、十月六日・七日。

【本莊】 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年に福山市に編入さる。

ホンジョー 本城

【本城村】 長野縣信濃國東筑摩郡の稍北部。松本市の北約二〇粁。北は坂北村、西は東川手村、南は中川村に接す。村の東北には四阿屋山(一七八七米)、南に大洞山(一三一六米)・虛空藏山(一一三六米)聳ゆ。村の中央を麻績川の支流東條川が流る。東條川は村の西條(篠井線西條驛あり)を境として上流は西北—東南の方向を取るも、下流は北東の流路にて隣村の坂北村中島にて麻績川に合す。今の麻績川は犀川の支流として坂北村以下の下流は西北—東南の方向を示し、上流は東北—西南の方向を示す。然し古き時代には今の犀川の前身が稻荷山町附近より西南の麻績、本村の西條の小谷盆地を通じ、更に南方會田の谷を經て松本へ拔ける一の舊河床の遺存地とも考へらるる地帶あり、今の犀川に並行する流路あり。恐らくは河道の變遷による河の爭奪の結果なるべし。從つて此等の地域は新舊河川の侵蝕に削磨されし丘陵地が八〇〇米前後と七〇〇米の二段丘を作る。從て地理的にはこの地方は犀川丘陵地域と呼ばる。本村には明瞭に兩段丘地形見られ、現河床に近き第二段丘は米作地、第一段丘より山麓部にかけては桑園や聚落地に利用さる。夏季の比較的多量の降雨は古くは本村を麻栽培地たらしめしが、養蠶寺平・上田平の養蠶地帶の影響により畑は桑園化し、更に蔬菜栽培を加味せる蔬桑農村に移化しつつあり。省線篠ノ井線の西條驛(明治三十三年設置)あり。當村と中川村とに跨りて二六萬餘坪の石炭鑛區あり。花河原炭礦と稱せられ、昭和十年には石炭僅かに三一瓩を產す。

【本城】 愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村と共に廢され小原村を置く。

【本城村】 宮崎縣日向國南那珂郡の南部。宮崎縣の南端を占めて、有明灣に臨み、福島町の東南に接す。村內山岳多く東北境には西北より東南に連る山脈ありて村境をなしその高畑山(五一八米)より西南方へ延びる連嶺は東南境を限り、山麓は永田崎・荒崎となりて灘に臨む。西北境にも東北より西南に走る丘陵ありて西南端は串崎に終る。中央には本城川が西南流し河岸及び河口附近の海岸に平野發達す。全戶數約七百五十戶の內八割強は農業を主業とし米・麥・甘藷等を產し、林產これに次ぎ工產・畜產・水產もあり。特產物として日州ポンカン・ネーブル等を擧ぐべきか。省線志布志線今町驛(西方約三粁)へ近くバスの便あり。この地に福島古墳群の南端と認むべき崎田古墳群あり。崎田の港は室町時代に明と貿易を營みし處と傳ふ。藩政の頃は高鍋秋月氏の所領たり。

【本城村】 鹿兒島縣薩摩國伊佐郡の南部。川內川の左岸に位し、東北部は大口盆地の南部を占め、西南は薩摩郡に、東南は始良郡栗野町に界す。西部・中部及び南部一帶は山地をなし南境に最も高くして六一三米の山岳あり。東境及び北境に沿ひて川內川が西北流し沿岸に平野開け河岸に湯ノ尾溫泉あり。米產多く繭・麥の外、工產・畜產・林產及び水產あり。東部には縣道南北に走り大口町・栗野町へ通じ西南方の宮ノ城町へは自動車を通ず。省線山野線の湯ノ尾驛・菱苅驛へ近し。本村はもと太良村と稱せしが、明治二十四年六月、東太良村・西太良村に分割し、大正十四年東太良村を本城村と改稱せるもの。中世は菱刈村をも合し太良院と稱し、庄田七百餘町あり、保元年中、蓮士判官三郞ここに封ぜられ、その治所本城と呼び家號を菱刈といふ。子孫世襲して彥太郞篤重に至り足利尊氏に應じ、永祿年中、大隅隆秋に至り島津氏に攻め滅さる。

ホンジョージ 本成寺村 新潟縣越後國南蒲原郡の西部。三條市の南に隣接す。東南部は東山丘陵の末端を占め二〇〇米足らずの丘横陵はり、他は平坦なる越後平野に屬す。東北境を信濃川の支流五十嵐川、西境を他の一支共に北流し灌漑に便す。水田に富み米の產多く繭を副產す。西部を省線信越本線貫通し三條驛に近し。二條の縣道南北に走り交通便なり。當村の一部は大面村の一部と共

に大面鑛山の鑛區たり。同鑛山にては昭和十年に原油八、四五六瓩、瓦斯一、七一六、三七三立方米、軽質揮發油一、八〇五瓩を産す。村名に日蓮宗本成寺あるによる。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際、この地の妙法寺にて火井を天覽あらせらる。經世家、松尾與十郎（贈從五位）は本村の出身者なり。

ホンダ　本田村　新潟縣越後國北蒲原郡の中部。福島潟の東南岸に面し、新發田・水原兩町の略中間にあり。東部に低き丘陵ある外は土地概れ平低にて新井郷川の上流をなす河淡二分して福島潟に注ぐ。東部丘陵の麓には小沼潟二三あり。村内水田開けり米を主産とす。西北部を省線羽越本線貫通し天王新田驛（大正元年設置）を置く。縣道きた之に並行し、水原・新發田間バスの便もあり。本村は近世の開墾地なり。〔月岡溫泉〕泉質、食鹽性硫黄泉。皮膚病・リカマチス・胃腸病に効能ありと。大正六年に石油井戸發掘の際、偶然噴出せるものなりといふ。

ホンダ　本多　奈良縣平駒郡にありし村。昭和十年に平端村と合併して昭和村となる。

ホンダ　譽田　〔譽田村〕茨城縣常陸國久慈郡の南部。太田町の北隣にあり。阿武隈山脈一支脈の南部を占め、東境は約三〇〇米あり。山地よりは木炭の特産あり。南部には狹き平地ありて、農業を主とし米・煙草・小麥を主産す。縣道太田町に通じ、同町に省線水郡線常陸太田驛、私線常北電氣鐵道常北太田驛ありて交通不便ならず。この地は利名抄、久慈郡大田郷の内なり。大字新宿の西山は水府義公遺隱の時に住居を營まれしよりその名世に廣く聞ゆ。大字大門は佐竹氏の家臣、小野崎家の旗助川氏の世々居りし所。〔西山莊〕丘陵の溪谷閑靜なる地にあり。水戸の德川光圀が元禄四年隱退してより、その晩年を過せし所なり。最初の建物に文化年中燒失し、現存の家屋は天保年中再昭が舊態を襲して再建せしものなり。茅葺、建坪約四〇坪、間數九室、庭前に丘陵を取り入れ、池を掘り瀧をかけ、遐樓小さきも別天地をなす。庭内の寶庫に光圀の木像あり。〔水戸藩主墓代墓〕瑞龍山にあり。初代頼房十二代に至る藩主の墳域山中所々に散在す。墓は何れも儒葬の礎による同一形式なれども、その前には墓形の卒石を置き其上に墓碑建つ。尚ほ山中に光圀の賞師なりし明人朱之瑜の墓あり。〔正宗寺〕大字新井にあり。臨濟宗圓覺寺派。萬秀山。もと當地に平良將の創建せる大瑞山勝樂寺なる律宗の寺院あり。のち貞和年間に至り領主佐竹貞義の長子某出家して、月山と云ひ、蘇石の門に入り、本寺を禪宗に改めその寺域に本寺を創建す。應長七年勝樂寺の堂宇一宇焼亡せしにより、該寺を本寺に屬せしめて塔頭となす。舊時は寺領三百石（中朱印百石）を有せり。〔久昌寺〕大字新宿にあり。日蓮宗。靖定山。日蓮宗四十四本山の一。初め德川光圀、其母久昌院靖定夫人の冥福を祈らんがためにこれを創建し、禪那院日忠を請じて開山とす。のち光圀これが擴張を企圖し檀林を成就す。俗にこれを水戸三味堂檀林といふ。〔耕山寺〕大字瑞龍にあり。曹洞宗。麻澤山。越後村上耕雲寺末。文永四年佐竹長義、檜澤村に本寺を開創し、說誉を請じて開山とす。然れども三世にして法統斷絶せしを以て佐竹義仁、越後耕雲寺の僧堂を招きて中興せしむ。〔純石寺〕大字大門にあり。淨土宗。親鸞門弟二十四輩の第十五道圓房の遺跡なり。もと本願寺の末寺なりしが、中世太田城主の眞宗寺院廢絶の瓦に遺ひて、淨土宗に轉ず。

〔譽田村〕千葉縣下總國千葉郡の南部。千葉市の東南隣にて、東に山武郡、南は市原郡と隣す。全村丘陵地にて針葉樹林多く、丘陵間に耕地あり、米・麥・粟を産し、養鶏も行はる。縣道は南部を横走して西北方千葉市及び東方山武郡大網町方面に通じ、省線房總線また之に沿ひ、譽田驛（明治二十九年設置）を置く。この地は地勢水利に乏しく、山林畑地大部分を占めしが、驛附近の十文字區は明治初年、津田陸軍少將他府縣人を募り來り、開墾移住せしめしに始まり、驛を現在の位置に設置せしも、その力與りて大なりしと。驛名は初め野田驛と稱し、大正三年譽田驛と改む。大字野田は江戸時代、九十九里濱、東金方面より替我野又は濱野に至る要路に當り、當時人馬の往來頗る繁く、近郷の貨物は勿論遠く九十九里濱の漁獲物は皆人馬に依り此地に移され、更に海岸に輸送して之より海路、京濱地方に轉送せられしを以て市街頗る殷賑を極め、旅館酒店等軒を接したりしが、鐵道通じたる今日に昔日の俤を止めず。明治天皇、明治十五年、千葉縣下行幸の際、この地に御小休あらせらる。

〔譽田村〕兵庫縣揖保郡の中部。斑鳩町の北及び西を圍み、龍野町の東南方約二粁にあり。東北部に稍々丘陵ある外は地形平坦にして揖保川の一支流林田川が中央を貫きて南流す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・果實等の農産及び木炭品・製革・鶏卵等の産物あり。西南隅には山陽道が本村を掠めて通過する外、縣道各方面に通じバスの便あり。和名抄に揖保郡廣山郷とあるは本村の地なりといふ。〔阿宗神社〕大字廣山に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姫命。後鳥羽天皇文治五年の創立に係り天正二年再興せらる。例祭、十月十五日。

ホンタツノ　本龍野　省線姫新線の一驛（昭和六年設置）。兵庫縣揖保郡小宅村にあり。

ホンタテ　本楯村　→本楯村（山形縣飽海郡）

ホンダニ　本谷　〔本谷山〕日本南アルプス赤石山脈の一峯。東面に靜岡縣安倍郡井川村に、西側は長野縣上伊那郡伊那里村及び下伊那郡大鹿村とに屬す。標高二六五八米。北東麓は櫛有衛門岳（二六七〇米）を經て鹽見岳（三〇四七米）に至り南麓は日本最高の峰の一なる三伏峰最高點（二五八〇米）・小河内岳（二八〇二米）に連る。南方赤石岳・荒川岳方面より鹽見岳への縱走路に當り、三伏峰との中間に三伏小屋あり。〔本谷山〕九州山脈の一峯。祖母山（一七五八米）の東方約七粁、尾平鑛山の東方に峙ち、北側は大分縣大野郡長谷村に屬す。標高一六四三粁。山に原始林を具して極に荒れ、九州に於て最も深山性を有し、現在九州唯一の熊の棲息地なり。北東麓に傾山（一六〇五米）に續く。祖母山方面よりの縱走行ばる。

ホンチ　品治　〔品治〕大和國（奈良縣）の古地名。和名抄に葛下郡品治郷あり、保無智と訓ず。今の北葛城郡王寺町の邊に當る。〔品治〕因幡國（鳥取縣）の古地名。和名抄に邑美郡品治郷あり、その地今の鳥取市の東品治・新品治の邊なるべし。〔品治（郡）〕備後國（廣島縣）の古郡名。延喜本紀にある品治國の國郡制定の時に郡となりしものか。續紀和銅二年の條に品遲郡と見ゆるは本郡に同じ。和名抄には保牟知と註し品治・狩道・佐我・石茂・神田・服織の六郷及び驛家が載す。明治三十一年に廣田郡と合して廣品郡が建て郡名が失ふ。〔品治〕備後國（廣島縣）の古地名。和名抄に品治郡品治郷あり。その地今の廣品郡驛家村の地なるべし。〔品治〕安藝國（廣島縣）の古地名。和名抄に山縣郡品治郷あり、その地今の山縣郡本地村・南方村の邊に當る。

ホンチチバ　本千葉　省線房總東線の一驛（明治二十九年設置）。千葉市寒川町にあり。

ホンチョー　本町（ほんちょう）　東京市日本橋區の町名。町名は江戸創始の時に田來し町なるに依るといふ。天正日記「九月一日、はれ、くもる、本町通り徐岡仰付らる、四十丈づつにわり可申旨、道には六丈にわり、よこ町の分、四丈より三丈二丈まで、所によりいろ〳〵」日本永代藏・四「自ら歩行荷物して江戸に下り、本町の呉服棚に寳てば、登商に魚筋の絹織ととのへ、まづ手引手に油縣なく鋸商にして十年たたぬうちに千貫目餘の分限となりぬ」孤雲總藏「隅水の魚も中落か喰ず本町の角屋敷をなげて大門を打ば、人の心の花にがありける、江戸ッ子の根生骨、萬事に渡る日本橋の舞中から、ふりさけみれば神風や、伊勢町の新道に」

ホンツバタ　本津幡　省線七尾線の一驛（明治三十一年設置）。石川縣河北郡津幡町にあり。

ホンデン　本田　〔本田〕東京府南葛飾郡にありし村。昭和三年に町となり、昭和七年東京市に入り葛飾區の一部をなす。

〔本田村〕岐阜縣美濃國本巣郡の南部。大垣市の東方北約五粁。北は眞桑村に、東は生津村に、南は穂積村・牛牧村に、西は船木村に接す。西濃平野の中央に位し、東北境には糸貫川流れ、南部には中川、西部には五六川本村を挾み平行して南流す。この諸川は各天井川なし大雨の時には氾濫し、古來相當洪水多く、爲めに輪中が形成され、五六輪中といふ。農業を主とし、米・麥・粟・雜の産多し。特産物としては紫雲英あり、この地方は本郡に於ける第一の生産地たり。また官有柿の産も多く、名古屋方面に出荷さる。中山道に沿へる部分は街村をなし、また穂積村別府の北接地域も街村をなす。柳行李・バスケットの産多く、穂積・今渡・生津村と共に本郡第二の生産地たり。中山道は北部を東西に通じ西は美江寺宿に近し。鐵道は穂積驛に近く穂積・美江寺間にはバス通ず。本村は鎭守籠田神社の下にある村として籠田村と云はれ、洪水屋々ありて神の祟りならんとて本多村と髮へ、のち本田村となり更にホンデンと發音するに至る。大寶令當時は墨栖太里と呼ばれ、和名抄には本巣郡墨田郷と見え、中世は船木庄内に入り、更に本田郷と稱し只越郷に分る。江戸時代は幕領たり。寺西備中守の住みしと傳ふる古城址あり、また安藝伊賀守の家臣稲葉長右衛門と稲葉一鐵の家士等と戰ひたる古戰場あり、この戰を本田の小合戰と云ふ。糸貫川の籠景堤の標は標の名所にして、穂積驛に近き鶯め穂積の標と呼ばれ、開花期には製糸列車の盛轟あり。また治水翁金井茂兵衛は天保十年幕東として此地に來り築堤し、村民を洪水より救へる恩人にして村民は今にその德をたゝふ。

ホンテンママチ　本天滿町　大阪の町名。いま東區伏見町二丁目・三丁目。東は本願町（いま伏見町一丁目）、西は伏見町（いま同四丁目）に隣接し、東西に通ず。女綿油地獄・上「所なとへば本天滿町、町の幅さへ狹々の、柳腰柳髮、とろりとぜいも種油、梅花紙こし花の油、夫れは手鳥屋七左衛門妻の野崎の開帳参り」

ホント　本斗　〔本斗支廳〕樺太廳七支廳の一。南西端部の能登呂半島の西斜面と前方海中に横はる海馬島を含む本斗郡一圓を管し、支廳を本斗町に置く。北は鶴岡支廳に、東は大泊支廳に境し、西は間宮海峡に面す。南北は一〇〇粁に達するも東西は廣き部分も約二五粁に過ぎず、面積一五六六方粁（海馬島を含む）。東境は樺太山脈南部の分水嶺にして牛荷山（五八九米）・十和田山（五三二米）・十串山（四四九米）等を最高峯とし、土地西方に緩く傾斜し、麻

内・阿幸・遠節・島舞・吐握保・椎内・南名好・十和田等の溪流ありてその谷に小平地をつくる。海岸に南端に牛島の奈端たる西能登呂岬ある外は、南西部に宗仁岬、北部に氣主・本斗の小突出あるのみにて殆ど直線狀をなし、港泊に惠まれず。川に沿ふ平地には畑地拓けて農業行はれ蕎麥・馬鈴薯・蕎麥・稗麥・牧草等の產あるも產額なほ多からず。鑛業には內幌炭山稼行せられて石炭を出す。沿海は鰊・鱈・鱒・蟹・昆布等の水產に富み、漁獲物は多く加工水產物として移出せらる。道路海岸に沿ひて南北に通じ、鐵道には西海岸線は本斗より北方泊居に向ひ、支廳內に本斗・遠節・阿幸・庶內・知根平等の諸驛を設け、社線內幌炭礦鐵道は本斗より東南の內幌炭山に達す。

【本斗郡】 樺太十五郡の一。樺太の南西端能登呂半島の西針面とその前方海上に横はる海馬島を含む。行政上本斗町・內幌村・好仁村及び海馬村(海馬島)に分かれ、本斗支廳の管轄區域をなす。

【本斗町】 樺太本斗支廳(本斗郡)管內の首邑。郡の北部に位し、南は內幌村に接し、北は眞岡支廳眞岡町に、東は大泊支廳留多加町に隣りし、西は間宮海峽に面す。樺太山脈南部の西側にて東南境上に牛荷山(五八九九米)あり、土地西方海岸に傾斜し、庶內・阿幸・遠節・島舞・吐握保等の河流東境山地に發して西流しその川筋に各小平地あり。本斗の市街はその西南岸に位し、露領時代にはホントケンと呼ばれし漁業部落たりし處。陸地に近く北上する對馬暖流の影響をうけ冬季氷結せざるため我が領土となりし後急に發展し人口約一八・五千を數ふ。大正四年以來海岸の平磯を利用し南北に延長約八百米の防波堤築造せられ、北日本汽船會社の本斗・樺內線、近海郵船會社の青森・小樽・惠須取線の定期汽船の來往あり、また陸上は鐵道西海岸線及び社線內幌炭礦鐵道の起點となり交通商業榮ゆ。市街の東方高臺の中央に本斗神社・公會堂あり周圍は公園となり眺望に富む。鐵道西海岸線は本斗驛(大正九年設置)より北に走りて遠節(大正九年設置)・南阿幸(昭和十一年設置)・阿幸(大正九年設置)・庶內・知根平(共に大正九年設置)の各驛を置き、本斗海岸支線に本斗驛より濱本斗貨物驛(昭和十年設置)に至り、內幌鐵道は南に延びて本町內に吐握保驛(昭和六年開業)を設く。

ホンド　本戸　熊本縣天草郡にありし村。昭和十年本村及び本渡町を廢し本渡町を新置す。

ホンド　本渡町　熊本縣肥後國天草郡天草下島の東北部。下島と上島の間に横はる巾二一八米の本渡瀨戸の北口を占め東西に細長し　西部、中部は山岳重疊し南境に染岳(八八〇米)聳ゆ。西南部に發する町山口川は中央北偏を貫流して西に流れ島原海灣に注ぐ。下流沿岸及び海岸は平地をなす。海岸には淺瀨連る。米・甘藷・蔴・蔬菜・麥・蠶種・果實等の農產の外、工產額大にして蔴糸・醬油・木製品・酒類・被服類・菓子・金屬製品・味噌・書藥等を產し仔牛馬・豚仔・生鷄・鷄卵・畜產等及び木炭・薪炭・木材等の產もあり。特產物に椿油・「うに」あり。交通の中心をなし縣道は北・西・南の三方に通じて其の會合點に繁落發達し、上島・下島南島へバスの往來頻繁なり。また本渡港は本郡に於ける唯一の良港にて近海各地へ汽船の便よし。この地は和名抄、天草郡天草郷の內にして、舊天草郡役所のありし所。もと町山口村と云ひしが、明治三十一年に町制を布き、本渡町と改稱し、昭和十年には本戸村を合併す。いま天草支廳・稅務署・大藏省預金部出張所・區裁判所・熊本供託局出張所・熊本營林署出張所・縣細菌檢査所天草支所・天草中學校・本渡高等女學校・天草農學校等あり。〔本戸城〕天草氏の築城にして、天正の末に廢す。また本村に三宅藤兵衛重利なるものの墓あり、吉利支丹一揆の時、この地に屯し一揆を破りし地なり。〔町山口諏訪神社〕大字町山口に鎮座。郷社。祭神。健御名方神。例祭、十一月一日。

ポント　先斗町　→京都市(二二〇〇頁)

ホンドウジ　本道寺村　山形縣羽前國西村山郡の西北部。左澤町の西北約一六粁。西及び北は東田川郡に接す。面積一一二・七二方粁。北境には月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)、西南境には赤見堂嶽(一四四六米)・石見堂嶽(一二八六米)、南境には大明寺山(八六五米)聳え、全村概れ山地をなす。寒河江川は北境及び西境より發源する水を集めて村の南部を東流す。耕地少し。蔴・米・薪炭を產し、月山に養蜂場あり、其の設備よく整ふ。道路は村の中部を東南より西北に通じ、社線三山電氣鐵道の終點間澤驛へは東南約一〇粁。車馬の便あり。人口密度は一方粁に付一三人に過ぎず。寒河江の峽中なる名邑にして、月山の正南麓に當り、もと保土打と稱せしが、のち本道寺と改む。本道寺口は大永五年、羽黑衆徒林光坊の開きしもの。

ホンナ　本名村　福島縣岩代國大沼郡の西部。只見川左岸の地を占め、北及び西北は新潟縣に接す。面積六八・六三方粁。越後山脈の東南斜面に屬し、西北境に日尊倉山(一二六二米)・駱ケ森山(一三一五米)聳え、東南方に傾斜し、全村山地をなす。霧來澤は西北境に發源し村の中部を東南に流れ只見川に合す。只見川は東南境を東北に流る。米・蔴・木炭等を產す。道路は只見川に沿ひて通ずるも交通は一般に便ならず。本村は川口村と共に組合村をなし、役場を川口村に置く。

ホンナカゴヤ　本中小屋　省線札沼線の一驛(昭和十年設置)。北海道石狩國當別村にあり。

ホンノ　本野原　愛知縣寶飯郡の八幡村より豐川町に至る原野。舊鎌倉街道ここに懸り、北條泰時の植ゑたる道しるべの柳の巨木のありしことは東國紀行に見ゆ。正平六年この地方の豪族宮永氏が足利尊氏方、足利直義方とに分屬し、この地に戰ふ。

ホンノー　本納町　千葉縣上總國長生郡の北部。北は山武郡の一部と隣接す。西半は丘陵地にて東半は九十九里濱沿岸平地の一部をなし、水田・畑地多く米・麥・蔴を產し養蚕も行はる。鄙道四方に通じ市は茂原町、北は山武郡大綱町方面に通ず。何れもバスの便あり。省線房總東線これに沿ひ、中央に本納驛(明治三十年設置)を置く。傳によれば景行天皇の御代、日本武尊この地に來り龍紀橋郷の遺物を埋め、陵を築かせ給ひしが、その形狀船に似たるを以て御船形と稱し、また帆丘ともいひ、のち本納に轉訛せりと。和名抄、長柄郡柏原郷(一に栢原ともいふ)の內にして、明治二十二年町制施行の際、上古に復し、帆丘町と稱せしが、明治三十九年本納町と改稱す。〔本納城〕土氣城主酒井氏の屬將黑熊景吉の據りし所。永祿年中、景吉陰に里見氏に通じ主家を滅さんとして成らず自刃して城廢す。〔橋神社〕大字本納に鎮座。縣社。祭神、弟橘比賣命。景行天皇四十年日本武尊御東征の際海上にて風波激しきにより、紀弟橘比賣命海に入りて難を救ひ給ふ。尊深く之を哀悼せられ一祠を建て給ひしを以て創めとす。神位は元慶八年正五位上に叙せられ、古來上總國五大社の一たりき。例祭、陰暦八月十三日。〔萩生徂徠母の墓〕本町箕の澤にあり、徂徠は幕醫荻生方庵の子にして、延寶元年方庵、故ありて江戸を追はれて此地に來る。時に徂徠十四歲、父に從ひ居ること十二年、のち父赦されて江戸に歸りしが遂に延寶八年三月この地に客死せるを以て之を箕の澤に葬り碑を立つ。

ホンバタ　本畠村　埼玉縣武藏國大里郡の南部。荒川の南岸にあり。南は比企郡と隣す。全村平地にて農業・養蠶行はれ蔴・小麥を主產し、特產物には生絹あり。縣道四方に通じ、北は武川村を經て深谷町方面に通じ、武川村內の社線秩父鐵道武川驛に近し。この地は和名抄、男衾郡幡々郷の地にして、畠山氏發祥の地として知らる。畠山氏は本姓桓武平氏、秩父氏より出づ。秩父重弘の子重能を祖とし、ここに在名を稱せしもの。もと本田・畠山の二村なりしが、明治二十二年合併して各一字をとり本畠村と名づく。

ボンビラ　誉平　北海道天鹽國中川郡中川村の大字。省線宗谷本線の誉平驛(大正十一年設置)あり。

ボンブラン　——社　臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。シダヤ駐在所の北方約一粁牛の地點に全戸集團し、約二三〇年前に形成されたるパイワン族の恒春上蕃に屬する高砂族の部落。戶數二一、人口一一八(昭和十一年調査)。

ホンベツ　本別町　北海道十勝國十勝支廳中川郡の東部。池田町の北に接し利別川下流々域地方を占む。北は足寄・西足寄二村に界す。面積四四〇・三七方粁。東・西・北の三周は三—四百米の海蝕臺地起伏せるも、中央を利別川が蛇行南流し、本別・ヒリベツ等の支流を合せ、爲に豐饒なる流域面積甚だ廣大なり。本支流三川の合流地點に市街發達す。米・甜菜・亞麻・燕麥・馬鈴薯等の農產多く、製麻・製粉業興る。畜產・林產も少からず。省線網走本線利別川に沿ひ中央部を貫通し勇足・本別・仙美里の三驛(何れも明治四十三年設置)あり。明治十三年本津村戶長役場の管轄に屬せしが、當時土人の外冬季鹿獵する者往來するに過ぎず、明治四十三年鐵道開通し、發展をなし、大正四年本村を置き、昭和八年町制を布く。警察署・軍馬補充部十勝支部あり。〔本別山淺〕本別驛後方一帶を云ふ。本別川の上流右岸には義經山の秀峯、一の谷・靜山、左岸には鵜慶洞・壇の浦等の奇勝あり、逆流その間を走り、絲樹鬱蒼として美觀を添へ、鵜慶洞には觀音像を安置す。溪中の岩石に屏風岩・古代文字岩等の名あり。附近諏訪山に展望の雄大を以て名高し。〔本別神社〕大字本別に鎮座。郷社。祭神、天照皇大御神・大己貴神・少彦名神。大正七年に村民本社創立の願可を得て祭るところ。本殿・拜殿・祝詞屋・社務所等あり。

ホンベツ　奔別　→三笠山(石狩國)

ポンポン　——社　臺灣臺北州雞東郡にある蕃社。海拔約四五〇米の高臺に位し一般に急峻なるも社の附近は緩傾斜地多く農耕に適す。また宜蘭濁水溪・ポンポン溪との合流點附近は平坦地にて水利の便よく開拓されたる水田あり。明治四十五年現居住地に社を形成さる。アメヤル族ガオガン蕃に屬する高砂族の部落。戶數二五、人口一〇六(昭和十一年調査)。

ホンマチ　本町

【本町】 大阪の町名。現今東區本町、一丁目より四丁目に至る。東横堀川に架せる本町橋より西へ通じ、北は安土町、南は米屋町(現今南本町)に隣接す。今宮心中・中「本町や新物店の若い衆は、女とも見えず男なりけり、女子交りの針仕事、つい一針が永き世の、緣の端縫しとけなく、尻も結ばぬ絲櫻、綻びかかるうたてさよ」

【本町橋】 大阪の橋名。現今東區。東横堀川に架し、思案橋と農人橋との中間に在り、本町橋詰町と本町とを通ず。今宮心中・上「秋涼しき川風に、秋といひても讓でなしよ、じやれでないよの本町橋を、潛ぎ出で見れば天滿川、市の側なる初甜瓜、買うて冷してひいやりと、瓜を

二つに打割れは俱たりや俱たり蕪子花」

ホンミヤオ 本宮尾炭礦（ほんみやお）→勾金村（福岡縣）

ポンムカ 弁無加 北海道北見國常呂郡留過集町の大字。者線石北線の奔無加驛（大正三年設置）あり。

ホンメ 本梅村 京都府丹波國南桑田郡の西北部。亀岡町の西方四粁餘にあり、南は大阪府豐能郡に界す。西部及び東部の三方面は山地にして、其の中央低地帶を圍繞川の一支流たる本梅川流れ地形北方に開く。但し北部も小丘陵地錯び、恰も南北に細長き一小盆地をなし、本梅川の水源地たり。四周の山地は多く古生層より成り、中央凹地帶たる谷地は沖積平地なり。從つて耕地面積は比較的多く、米の産に富む。また林業も行はるるが、本村の特産業は寒天製造なり。寒天は氣候稍々寒冷なる山間地帶に適し、南桑より大阪府下の北攝津地方山地に廣く發達す。本村の寒天製造は、京都府下一二の産地に數へらる。交通は、亀岡町より攝州池田に至る府道通じ、兩地間の交通的要所たり。本村はもと東加舎と稱せしものにして、中世、山城法性寺内報恩院領の莊園となる。

ポンメ 本目 北海道後志支廳島牧郡にありし村。明治三十九年に東島牧村（ひがしシママキ）と改稱。

ホンモク 本牧 横濱市中區に屬する町名。元は本牧村と稱し横濱村に隣する一區域にて、宮原・十二天・上豪・豪・箕輪下・天德寺・原・和田・箕輪・大島・豪山・端坂・大久保・池田・矢・牛込・八王寺・下里・眞福寺・配郷・荒井・長久保・間門・一ノ谷・向・二ノ谷・三ノ谷・大谷戸・八王寺壁等の小字に分たる。明治三十四年横濱市に編入され、ついで大震災後大横濱市の實現と共に中區に屬せり。地は東京灣に突出する本牧岬の部分にて、その北方に横濱港を擁す。四—五〇米の丘陵性豪地と、その間の千代崎川等の沖積平野と海岸砂濱を占め、全體的には横濱市の良好なる住宅地域に屬す。十二天は横濱港口に峙つ陸繋されし小岩塁にて古くより近海航行の船舶の目標となり、蓋には本牧町の鎮守本牧神社が祀らる。その附近は寧ろ外國に名高き遊樂地區にて、その南方に續く砂濱は謂ゆる本牧海水浴場にして、夏季は私立・公立の海水浴場設立せられ諸施設整備す。本牧岬の地域は青松繁茂する丘陵地にて一ノ谷・二ノ谷・三ノ谷等の小谷に切斷され、丘陵と谷を含みて風光よく、特に三ノ谷の三渓園は個人私有の庭園を公開し横濱市の一名勝たり。沿岸一帯は極めて遠浅にて、冬は海苔をとる紙粟が一面に植ゑられ、沿岸の砂濱宅地は海苔乾場に利用さる。また汀の砂中は淺蜆・蛤の産多く潮干狩の頃はまた賑ふ。市の中心より間門に至る電車軌道は本牧町内を横斷し、また市營自動車の便あり。もと稚道下のトンネル開通以前は、物資は山手町の急坂を上下するため本牧組場と稱し、特別に物價高かりしが、今は交通も極めて便となり、平地は殆ど商家住宅に占めらる。平坦なる豪上には女子師範・横濱第三中學等あり。

ポンモシリ 弁茂尻 者線根室本線の一驛（大正二年設置）。北海道石狩國空知郡芦別村にあり。

ホンリョー 本良面（ほんりょう） 朝鮮全羅南道羅州郡の北端。羅州邑の北方約一六粁、東と北は長城郡の林谷・東化・森谷の三面に、西は咸平郡月也面に隣接す。全南平野の一部にて、北東境部と西北部とには低き山地あるも、面内概ね平坦にして、柔山江支流なる黄龍江は東境を南流し、その支流は西部を南流し、田畑よく拓く。農産には米・麥・棉あり、叺の製織行はる。松汀・鶴光道路、松汀・長城道路へ通ずる等外道路あり交通不便ならず。

マーシャル ——群島 Marshall Is. 我が南洋委任統治地の東端に位し、北緯四度三〇分—一五度、東經一六五—一七五度の赤道太平洋上にあり。總面積は僅に一七〇方粁に過ぎざれど、島數三二、更に八六七の岩礁あり。これ等は凸面を北方に向け西北—東南に走る二列の弧狀列島より成る。東北列は日出を意味し、ラダック列島、西南列は日没を意味せるラリック列島と呼ばれ、いづれも環珊礁島なるも、樫式的の環礁としては、ラダック列島のエニウエタック島、ビキニ島、ロンゴラップ島、ロンギリック島、ウトロック島、ネエモ島、ウオッゼ島、マルエラップ島、アルノ島、ミレ島等を算へ、ラリック列島にては、クェゼリン島、ひャバット島、アイリンゲラップ島、ヤルート島（群島の最大島、面積八方粁）・エボン島等擧げらる。年平均氣温は二八度、熱帶に於ける小島なれば、各月の較差より夜晝の較差一層大にして、年降水量は二、五〇〇粍内外、多雨なるが、毎日驟雨として車軸を流すがごとく沛然として至るを常とし、一日數回または終日降雨するは稀にして、マリヤナ群島方面と異なり颱風の襲來を受くることも稀なり。群島の發見は我が南洋三群島中最古とされ、略ぼ一五〇〇年代と日碑に傳ふるが、確實なるは一七八一年イギリス船長マーシャルの探檢を嚆矢とし、群島名もこれに依る。然るに十九世紀後半に至りてハンブルグに本店を有するゴテー商會がドイツ政府の保護指導に依り本群島の主島ヤルート島等を酋長と協商して占領し、一八八八年イギリス・ドイツ兩國協約の結果、ギルバート群島がイギリス領、ヤルート・アウルの二群島がドイツ領と決定し、ボナペ政廳の下にヤルート支廳設かれたり。大正三年九、十月の交、我が海軍に占領され、同十年我が委任統治地となり、パラオのコロール島に置かれし南洋廳の下に、ヤルート島のコロニーにヤルート支廳設けられ、この群島を統治す。住民の大部分はカナカ土人にして、キリスト教を奉ずる者多く、生産は椰子の栽培の他本だ見るべきものなく、貝類の養殖、鰹・鮪の漁業有望視さる。

マイカワ 舞川村（まいかわ） 岩手縣陸中國東磐井郡の西部。一關町の東北方約五粁。西と南は北上川を隔てて西磐井郡に接す。北上山地の西斜面に屬し、東境には北に佐山（二七八米）、南に石藏山（三六一米）聳え、兩山を繋ぎ山頂は南北に連りて西方に傾斜し、西北部に觀音山（三二五米）、中部には烏兎ケ森（三五一米）・中貝山（二九三米）聳ゆ。北上川に西北方より來り村の西境及び南境をなして南流し、沿岸に耕地拓く。村の生業は農を主とし、米・麥・大豆・小豆・馬鈴薯等を産す。道路は村の中部及び南部を東西に通じ、西方東北本線平泉驛に約一〇粁あり。村内の磯落山は古へ鍛冶が刀劍を造りし跡なり。源將軍が東夷を征討せし時、郡の刀工を召下して爰に住はしめ、その子孫は秀衡の代まで相續き、本村大字舞草及び平泉を本據とせり。平泉の阿彌陀堂の螺鈿を造りしは舞草義房なる名刀工にして、實に此地は鬼羽刀工の發祥地たり。舞草の舞草神社は延喜神名帳の古社にして、文德實錄に仁壽二年授位と見ゆ。

マイキン 埋金山（まいきん） 壽山（ことぶきやま）（臺灣高雄市）の舊名。

マイコ 舞子（まいこ） 【舞子】 山陽本線の一驛（明治二十九年設置）。兵庫縣明石郡垂水町にあり。

マイサカ 舞坂（まいさか） 【舞子濱】 ←垂水町（兵庫縣明石郡）→舞阪町（まいさかちょう）

マイサカ 舞阪町（まいさかちょう） 靜岡縣濱名郡の南部。東に雄原村、北に雄踏町・村櫛村、西に新居町あり、南は遠江灘に面す。この地は東海道五十三次の一驛にして、濱名湖の湖口に東部より突出、發達せし砂嘴の先端に當り、西方の新居町に對す。南方の白羽濱は去平洋に臨み、防砂林は長く東方に連る。濱名湖の養魚の集散地なり。省線東海道本線は東西に通じ濱名湖口は鐵橋を架し、舞坂驛（明治卅一年設置）は東隣雄原村にあり、鉾天鳥驛（明治卅九年設置）は村の西方鉾天鳥に置く。牡蠣・淺蜊の特産あり。古くは和名抄、敷智郡象島郷の内なるべし。傳ふる所に依れば中世の舞澤驛はこの地ならんといふ。されど舞澤驛は明應の地變に湮沒せしものの如く、其だ茫漠にして蒼茫寒に過し、殊に遠淺なるを以て夏は海水浴場開かれ浴客を以て雀者し、海産有數の勝地たり。昔くも明治天皇には、明治元年東京行幸、同年京都還幸、同二年東京御再幸、同十一年北陸東海御巡幸の數度御小休遊ばされ、いま明治天皇舞坂御小休所として指定史蹟たり。丹波與作待夜の小室節「ヤこの〳〵新居、今切、舟に召せ〳〵、蛤召せの、蛤々濱松まで、舞坂三里ナ鯛染見附の泊と聞けば、霧も惜しまぬ篇の財布の袋井やト膝栗毛・三中「ほどなく蓮沼、つぼ井むらを打過、舞坂の驛にいたる。舞坂より荒井へ海上一里、これより荒井まで壱里の海上、乗合ぶねにうちのりわたる、げにも旅中のさきんじは、船中おもひ〳〵の雑談高座にかたり合、わらひのしり打興じゆくほどに、頓てなかばわたりて乗合の人々も喃くたびれ、めい〳〵柳ごりに肘をもたげていねぶりをするもあり、又この風景に見とれて、只もくねんとしてゐるもあり」（岐佐神社）鄙社。祭神、賀具毘

賣命外十一柱。式内小社。朱印領五石。

マイザワ 舞澤ノ原 遠江國（静岡縣）濱名郡の古地名。また廻澤に作る。舊鎌倉街道の一驛。濱名湖より出でて海に入る濱名川の左岸にありしが、室町時代、明應年間の大地震に湮没して其址なし。いま舞阪町はその一部に發達したる驛路なり。東鑑、暦仁元年の條に舞澤松原と見え、海道記には廻澤の宿、東關紀行には舞澤の原とあり。

マイズル 舞鶴（まいづる）【舞鶴市】 京都府西市の一。丹後國の東部にあり。北には舞鶴灣入字形に北より南に彎入し、その第一割は深く本市に入り、第二割は東方に入りて東舞鶴灣をなす。東北は東舞鶴市に接し、東南と南は丹波高原の北端なる彌仙山一帶の山岳を以て丹波國何鹿郡に境し、西は本市により東西に二分されたる加佐郡の神崎・八雲・岡田下等の諸村に隣る。市域は南方の山岳地帶に發源する伊佐津川・高野川二川の沖積地にて土地平坦、田畝よく拓け、市の三方の境をなす山地には山林も亦少からず。面積九一・七七方粁。世帯數五五八七（昭和十年）なり。國道は綾部方面より眞倉峠を越えて本市に入り、東方東舞鶴市に通じ、西方宮津方面にも國道を分ち、省線舞鶴線は綾部にて山陰本線に分れ、本市に來り舞鶴驛（明治三十七年設置）を市の中央部に置きて東舞鶴市に入り、支線を海岸に出し海舞鶴驛（明治三十七年設置）を設け貨物のみを取扱ひ以て水陸聯繫の便にす。省線宮津線は舞鶴驛に起り、宮津・峯山を經て但馬の豊岡に至り山陰本線に連絡し、市内に四所驛（大正十三年設置）を置き、其他、三舞鶴バスありて本市と東舞鶴市との間を運行し、また國道を宮津に至るバス、加佐郡河守町に至るもの等ありて交通の便に惠まる。本市はもと丹後國の一城下町として發達したる舞鶴町を中心とする地方物産の集散地に止り、東方に新に興りたる新舞鶴町・中舞鶴町（以上二町はいま東舞鶴市に入る）の軍港都市に對して遜色あり、市民は常に遺憾とせし處なりしが、大正九年都是製絲會社の舞鶴工場の市内伊佐津に設けらるるに及び産業の擡頭を見て甦生の色を示し、更に最近（昭和十三年）には日出紡織會社の第一・第二の人絹工場相次ぎて本市に設けらるるに及びて、俄然本市は紡織工業の都市として活氣を呈するに至れり。加之、舞鶴港は西北風を完全に遮る天然の良港にして、既に内務省の第二種重要港灣に指定されたる日本海有數の港にして鳥谷汽船・北日本汽船・朝鮮郵船・飯野汽船等の諸會社は定期航路を本港に開き木材・杞柳・菓子類・魚網等約百五十萬圓を移出し、石炭・昆布・朝鮮米・鮮魚・洋紙等約九百萬圓を移入し、また漁港として從來相當の活躍をなせしも、未だ充分本港の眞價を發揮するに至らざりしが、時勢の然らしめしところ、また日本海に於ける本港の位置の重要性に鑑み、昭和四年以降多額の府費を投じて、在來の舞鶴港の西に並びて新に岩壁を修築し、高野川の河口を初めとして港内を浚渫し最深八米に至らしめ一萬噸級の汽船も容易に繫泊せしむるを得る設備今や將に成らんとす。若しそれ本工事の竣成せんか、後背地として大阪・京都の二大都市を控へたる本港の眞價はその發揮を見るべく、從つて本市の發展は期して待つべきものあり。本市が最近如何に工業都市に轉換せしかは次の表によりて知るを得べし。

舞鶴市總生産價額及び百分比（昭和十一年）

農産物	六六三、〇一一圓	一三・一四%
畜産物	四四八、八三三	〇・九三
林産物	一四四、〇四〇	二・八七
鑛産物	三、〇八二	〇・〇六一
水産物	五五一、四〇七	一〇・四三
工産物	三、六三五、二七九	七二・〇四
計	五、〇四三、七四七	一〇〇・〇〇

を發揮せんか、本市の工産の上に更に激劇の增加を見て生産額統計の比率に大變化を與ふべきは必せり。工産に次ぎて産額の大なるは農産なり、これ本市の村落部に於ては水田・畑地・桑園よく拓け、米の一萬二千石、約三十六萬圓を主としこれに次ぐを生繭の二萬二千貫、十二萬七千圓とし、園藝農産物の十一萬八千圓これに次ぐ。水産は主として沿海の吉原區に於て行はれ約五十五萬圓を出す。林産としては薪炭材・木炭・木材にして竹材これに次ぐ。畜産は養鶏及び畜牛なれどもその價額大ならず。本市の中心たる舞鶴は舊田邊藩の城下町にして加佐郡の中心として曾ては郡役所のありし處、附近は舞鶴要塞地帶に屬し、要塞司令部・重砲兵大隊等の軍衙あり、また市内には市役所をはじめ府立の中學校・高等女學校・裁判所・税務署・警察署の諸官衙・學校ある外、本市出身の特志家有本國藏の寄附に成る宏壯の市公會堂あり、また市立圖書館ありて約一萬册の書物を藏す。本市の地は古くは和名抄の加佐郡田邊郷・大内郷及び餘戸郷の内にして、東鑑、建久五年十月の條に丹波國田名部庄と見ゆる丹波は丹後の誤にて田名部庄は市の中心部を稱せしものなるべし。吉野時代の頃、一色範光が丹後の守護となりて居館を置きしは本市の地にてのち山名滿幸一時これを押領せしも、一色氏再びこれを領し十代二百餘年子孫相承けたり。天正六年細川藤孝（玄旨法印）、稲田信長より丹後を得、一色氏を降して宮津と共に此地を領す。關ヶ原役起るや、子忠興は德川家康に從ひて東軍にあり、父藤孝は田邊城にありて大坂方の軍を引受け固守して屈せず、役後に忠興は功により豊前小倉に轉じ、京極高知、丹後に封を受け宮津と共に當地を領す。元和八年、次子高三を田邊に分封す。寛文八年、所司代牧野親成、田邊に治し、三萬五千石を食みて子孫相承け明治維新に至る。天明年間宣成の時藩校明倫館成る。址は今の明倫小學校なり。明治二年田邊を改めて舞鶴と稱す。同四年廢藩置縣の後は一旦舞鶴縣を置きしも久しからずして廢して但馬の豊岡縣の治下に入り、同九年京都府の管下となり、同二十二年町村制施行の際に舞鶴町と稱し、昭和十一年八月隣接せる加佐郡四所・高野・池内・中筋・餘内の五箇村を廢してその區域を舞鶴町に併せ大舞鶴町としてその準備を整へ、同十三年八月を以て市制を布き舞鶴市となる。〔田邊城〕 また舞鶴城ともいふ。その址は南田邊にあり。もと丹後の守護、一色氏の居館の地なりしが天正六年細川藤孝（玄旨法印）之を改して新に城を修築すといふ。慶長五年關ヶ原役起るや、西軍は藤孝を此處に攻めしが藤孝終に降らず。役後、德川氏は細川氏を豊前に移し、丹後に京極高知を置き宮津に居らしむ。元和八年高知卒し次子高三を田邊に封ず。その子高盛に至り豊岡に移され寛文八年京都所司代牧野親成代りて封を受け、爾來傳承して明治維新に至り城廢す。本丸址はいま公園となる。〔舞鶴公園〕 舊田邊城の本丸址に設けたる公園。外郭は取毀たれて民家となりしが、本丸址のみは石壘を存し市民遊覽の域となり、名づけて舞鶴公園といふ。櫻樹多く花時大に賑ふ。園内に古今傳奇松と稱する松あり。慶長五年關ヶ原役の時細川藤孝（幽齋・玄旨）田邊城を守り、西軍に圍まれ城將に陷らんとす。後陽成天皇、幽齋死せば古今集の奥義の失はれんことを恐れ給ひ勅を下して兵を解かしめ給ひし美談を傳ふ。〔朝代神社〕 朝代にあり。府社。祭神、座神天皇。創設年代詳かならざれども、地方の古社として田邊藩主歴代の崇敬を受く。一説に當社を以て神代卷の月之若宮の遺址なりと云ふも明かならず。例祭、五月三日・十月八日。〔式内の古社〕 延喜式神名帳に擧げられたる古社にして現存せるもの市内に四社あり。即ち上安（かやす）にある高田神社、女布（にふ）にある日原神社、今田にある倭文（しとり）神社、紺屋にある笑原神社、何れも式内小社なり。〔圓隆寺〕 引土（ひきつち）にあり。古義眞言宗。沿革不明。阿彌陀如來坐像（木造）一軀・藥師如來坐像（同）一軀・釋迦如來坐像（同）一軀・毘沙門天立像（同）一軀・不動明王立像一軀は國寶なり。〔桂林寺〕 紺屋町にあり。曹洞宗。天香山と號す。寛德三年の創建にて開山は竺翁堅仙和尚。本堂・開山堂・禪堂・經藏・方丈・庫裡・楼門等を具備し近郷稀に見る伽藍たり。〔大泉寺〕 倉谷にあり。臨濟宗妙心寺派。書溪山と號す。もとは眞言宗にて大光寺と稱したり。慶長二年、細川忠興の開基。開山は慈寂琢堂和尚。本派法地格の寺院なり。〔天合寺〕 天合にあり。天台宗寺門派。青葉山と號す。丹後四郡中唯一の天台宗の寺院。初めは本宗の修驗道場たり。開基詳かならざれども、慶長以來細川氏・京極氏・牧野氏等歴代田邊藩主の歸依深く寺領の寄附を受く。明暦二年、高德院實純これを中興す。〔東山寺〕 倉吉にあり。臨濟宗妙心寺派。大龍山と號す。開山は心灯廣照和尚にして中興は天桂和尚。舊田邊藩主牧野一成の香華院。

【舞鶴灣】 若狭灣内の西部の一支灣。博奕岬と金岬との間より入字形に深く南に彎入す。灣はその中間に横はる戸島により東西の二灣に分れ、西の灣底に舞鶴港あり。東の灣には舞鶴要港・新舞鶴港あり。新舞鶴港及び舞鶴港にはそれぞれ舞鶴線の臨港線達す。

【舞鶴線】 省線山陰線の一部。京都府の北端を通ず。山陰本線綾部驛より分岐し北方の舞鶴驛を經て新舞鶴驛（東舞鶴市）に至る二六・四粁、及び新舞鶴驛より中舞鶴驛に至る三・四粁と貨物專用線なる舞鶴驛より新舞鶴驛に至る一・八粁、新舞鶴驛より新舞鶴港驛に至る一・三粁を含む。また舞鶴驛にて宮津線、新舞鶴驛にて小濱線と接續す。この線は舞鶴軍港に通ずるを以て軍事上頗る重要なり。

マイド 舞戸村（まいど） 青森縣陸奥國西津輕郡の中部。鰺ヶ澤町の東に接し西北は日本海に面す。面積四・九六方粁。東境に高津森山（一三一米）聳え西北方に傾斜し、中村川は西部を北流し日本海に注ぐ。沿岸に耕地あり。海岸は平直にして北方七里長濱に續き砂濱をなす。米・苹果の產あり。道路は海岸を東北方に通ず。省線五能線鰺ヶ澤驛（大正十四年設置）あり。〔八幡宮〕 大字舞戸に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊。宇賀之御魂命を合祀す。天文年中、孫右衛門なる者の創祀と傳ふ。例祭、六月十五日。

マイバラ 米原町 滋賀縣近江國坂田郡の西南部。琵琶湖東岸に位し彦根市の北に接し磯内湖の朝妻入江に臨む。此湖水が大部の面積を占め、四周低地を以て圍まれ東南部に小丘陵あり、北境に沿ひ天野川西流して琵琶湖に注ぐ。生業狀態は農業を行ふもの四五%・公務に從ふもの二二%・商業一七%・工業六%・水産業三%にして主産物は米（二二萬圓）・繭（八萬圓）・繭（六萬圓）・蔬菜（四萬圓）・桑（二萬圓）・鮎（一萬圓）等なり。特産物として小鮎餘煮・鮒鮨・紅大根・夏菊等あり。人口密度は五六三人なり（坂田郡平均密度は三三三人）。古來交通の要地として名高く、南隣の鳥居本村にて中山道

より分岐する北陸道は此地を過ぎ潮北を叢買して敎賀に入る。これに沿ひて市街地發達す。省線東海道本線は西南方より來りて此地にて東折し米原驛（明治廿二年設置）より北方へは省線北陸本線を分つ。また社線近江鐵道の電車は此處まで延長して東海・北陸の急行列車と接續することとなり、湖東を通ずる各主要の交通線は多くここに集る外、表日本各地と表日本各地とをつなぐ本邦有數の交通要地となれり。もと入江村といひしが、大正十二年町制施行の際現名に改む。朝妻入江に臨み、近江三港の一にして北國街道の一驛たり。大字磯前は朝妻入江と琵琶湖とを隔離せる半島形の地にして和歌の名所なり。萬葉・三「磯のさき榜きたみ行けば近海の海八十の湊にたつさはに鳴く　高市連黒人」。朝妻（筑摩神社）大字朝妻筑摩に鎮座。縣社。祭神、大市比賣尊。一に大御食津神・倉稲魂神・大歲神とす。三座なるにより筑摩三所大明神とも稱せらる。仁壽二年に從五位下を授けらる。吉野時代に領主京極氏の、江戸時代に彦根藩主井伊氏累代の崇敬あり。例祭、五月八日、有名なる筑摩祭（一に鍋祭）はこれなり。（青岸寺）曹洞宗。もと不動山米泉寺と稱し後に不動山と改稱。一時荒廢せしも慶安三年に僧愛津の努力にて復興す。（青岸寺庭園）指定名勝。當寺三世興欣が香取氏に命じて江戸前期に作らしめしものと傳へらる。枯山水庭にして突池を設け石橋を架け蓬萊島を作りて松を植ゑたり。築山・池畔に多く石を組み園路に石を疊み特殊の技巧を凝せり。園後の山腹に松・孟宗竹等ありて背景をなす。江戸時代より著名にして特色を有するものなり。（藥師堂）上多良にあり。眞宗大谷派。草創年次沿革不詳。本尊、藥師如來坐像（木造、鎌倉時代作）一軀は國寶なり。

マイバライ　——社　臺灣新竹州竹東郡にある蕃社。上坪溪右岸支流マイバライ溪右岸の地にあり、標高六〇〇—七〇〇米の地に位す。アタヤル族に屬する高砂族の部落なり。順路は新竹市より竹東を經て至るを便とす。昭和十二年末の戶口は戶數五二、人口二九八。

マイフクヘー　埋伏坪社　臺灣新竹州東勢郡にある蕃社。大安溪左岸地方にあり、標高約五〇〇米の地に位す。高砂族の部落にしてアタヤル族に屬す。戶口は戶數五一、人口二四八（昭和十二年末現在）

マイヤ　米谷町　宮城縣陸前國登米郡の東部。登米町の北に隣り、東は本吉郡に接す。志津川地境の西部に位し、南境には斥候岬（三四〇米）をはじめ山地連りて西北方に傾斜し、西北部には高蓋神山（二二七米）聳え、二又川は西北部を西南に貫流し北上川に合す。北上川は町の西境を南流し、沿岸に耕地拓く。町の生業は農業を主とし米・繭・麥・木炭を產す。本吉街道は町の中部を東西に通じ、東方の志津川町へバスの便あり。また西部街道は町の西北部を東北に貫通す。社線仙北鐵道の米谷淺水驛は市街地の對岸淺水村にあり。明治廿六年町制を布く。この地は仙臺の公蔵、高泉氏の采邑にして、米谷城は米谷修理の居りし所、のち高泉氏ここに居城せり。

マエ　前（へ）　【前山】木曾山脈南部の一峯。惠那山の北西方約六粁。岐阜縣惠那郡中津町の東嶺。東側は落合村に亙る。標高一八五一米、山體は花崗岩より成る。

【前島】沖繩縣島尻郡慶良間列島の一。列島の東端に位し渡嘉敷村に屬す。東北より西南に長く周圍約八粁。東北にハテ島・伸島等浮ぶ。島內全部漂木叢生し其頂は圓錐形を成し高さ約一三六米。部落は東岸に形成せられ住民多く漁業に從事し、畑には蕃藷を作る。東北の島嶼との間は低潮に干出する石花礁より成るを以て、高潮にあらざれば小舟も通ぜず。

マエイ　前井鑛山（へ）　朝鮮忠淸南道天安郡にある砂金山。鑛區は穆山面と成歡面とに跨り、安城川支流の謂ゆる穆山砂金帶に存す。昭和十年には金一九、七九六瓦、銀四、三四六瓦（この總價額六萬餘圓）を產出し、同年六月末の從業員は八三人とす。

マエカタ　前方（へ）　長崎縣北松浦郡にありし村。大正十五年に外二箇村と合併し小値賀村を建つ。

マエゴー　前郷（へ）　省線矢島線の一驛（大正十一年設置）。秋田縣由利郡東滝澤村大字前郷にあり。

マエザワ　前澤（へ）　【前澤町】岩手縣陸中國磐澤郡の南端。北上川の右岸。陸羽街道に沿ひ一圓町と水澤町との中間にあり。地勢上、西部臺地・東部低地の二つに分つ。西部臺地は磐澤川を以て區分せる南部洪積層地帶の一部に屬し、臺地の南部由穀地帶を除きては本町に於ける須要農耕地として利用せらるれど、表土一般に淺く僅に數寸—尺餘に過ぎず、表土は概ね埴質土の厚層より成る。東部低地は北上川沿岸の沖積地にして北上川支流の白鳥川・太郎ヶ澤川等の流域と共に水田地帶を構成す。この沖積地は北上川の河床に沿ふ低位沖積地と鐵道沿線の臺沖積地の二つに分る、両して臺沖積地は附近洪積層地層の流下沈積せられたるものにて地味一般に良好ならず。全町戶數一二二一を職業別に見るに、農六五九、商二四六、工一三八、公務自由九一、交通四三、其他四四（昭和十二年末）。產物に米（一〇、七二九石）・麥（五、〇六六石）・大豆（二、一二九石）・白菜等あり、外に瓦（七、〇二七圓）の工產あり。交通は東北本線前澤驛（明治廿二年設置）あり、またバス四方に通ず。古くは安倍氏時代に組時の八男白鳥八郎行任ここの地の白鳥に住すといひ、次に清原武則の領內となる。平泉藤原時代には本町は平泉の郊外として秀衡の臣照井高直の陣場なりきといふ。源頼朝以後は葛西蒲重の治下に入り其後は柏山伊勢守家代代の領地となり天正十八年に至る。その居館前澤館の跡は現在の物見グラウンドなり。藩時代は伊達政宗の孫宗敎が領主となりしが入部の途中卒し領地を召上げらる。宗敎歿後は三澤氏の領地となり子孫相承け明治維新に至る。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、同十四年山形・秋田・北海道行幸の際に御小休あらせらる。（大繰）繰糸機ともいひ當町南部、前澤驛より十二丁餘の所にあり。嘉祥元年四月、鶴言宗の碩德南窓坊の植栽と傳ふ。安永九年の記錄によれば周圍五丈五尺、枝條の延長南北十六間、東西廿間餘の大樹なりきと。今は二丈餘、枝條低く垂れ南に五間餘延ぶ。（五百羅漢堂）當町の西岩寺境內にあり。同寺九世不白禪師は享和年間に五百羅漢建立を發願し諸國を勸進して單身京都に往復、一體づつ運び文化二年に漸く出來せり。八間に三間の堂宇に安置し五百體完備す。

【前澤村】富山縣婦中國下新川郡の西部。三日市町の南に接す。東より西へ二〇〇米餘の山地なだらかに傾斜し、西部に平地開け水田多し。農業を主とし、米の產多く、黑部西瓜の特產あり。工業これに次ぎ、林業・牧畜も多少の產額あり。省線北陸本線三日市驛に最も近く、國道により魚津町へ約八粁、バスの便あり。もと三日市町外十一箇村戶長役場の管轄ありしを、明治二十二年に町村制施行の際に分離し一村を成す。

マエシバ　前芝村（まえしば）　愛知縣三河國寶飯郡の西部。東と南は豐橋市に、北は小坂井町に接す。西は濱美灣に面す。豐川の川口にありて、そのデルタ上に位す。中部には江川が豐川に並行し濱美灣に注ぐ。村の大部は水田にして、一部分は桑畑となり、輪中の如き形態をなす。交通は豐橋市に接し便なり。此地は和名抄に見ゆる寶飯郡度津郷の地にして、もとは前島とも書く。寛文年間より燈明臺を設き商船の入泊に便し今も燈臺あり。〔菱木野天神社〕大字日色野に鎭座。郷社。祭神、天之御中主神・高御產巢日神・神產巢日神等五柱。創立年代詳かならざるも、三河國神名帳に從五位上菱木野天神と見ゆ。特殊神事に雀射取祭あり。古來近郷の崇敬篤し。

マエジマ　前島ノ宿（まえじま）　駿河國（靜岡縣）の古地名。舊鎌倉街道の一驛。藤枝驛の南方。いま志太郡青島町の大字前島の地に當る。東國紀行「前島の宿を立ちて國部の今宿を打過ぐる程、云々」

マエダ　前田　【前田村】北海道後志國後志支廳岩內郡の南部。積丹半島の頸部に位し岩內町の東北に隣接す。西北境は日本海に面し南は山脈を以て磯谷郡に界す。面積九四・〇二方粁。北境の發足村界を堀株川西流して海に注ぎ沿岸に廣き氾濫原を展開し耕地多し。南境に岩雄登山脈の雄峯チセヌプリ岳（一一三五米）聳え、南半はその斜面に屬するも北方に傾き平野に終る。堀株川支流の數川は山中を北流す。米・馬鈴薯・大豆・小豆・蕎麥等を產す。海岸は砂濱平滑にて聚落なきも地方道南北に貫きて岩內町・泊村を連ねバスの便あり。省線岩內線に東西に通じ前田驛（大正元年設置）を置く。もと中野川と蘭忽川との間の地區なりしが、のち堅野舞納及び幌倶、老古美の一部を合し、明治廿九年幌倶村を加へ前田村となる。

【前田村】秋田縣羽後國北秋田郡の東南部。米內澤町の東南、阿仁合町の西に隣り、東は鹿角郡・仙北郡に接す。地は東西に長く、面積二九四・九一方粁の大村。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境には榮倉嶽（一一八〇米）、北境には小繋森（一〇一〇米）・高鳥崩子（七六四米）聳え、全村概ね山地をなす。小又川は東境に發源して村の中部を西流し大阿仁川に合す。大阿仁川は西部を北流し沿岸に耕地拓く。米・木炭・木材を產す。省線阿仁合線の桂瀬・阿仁前田の二驛（共に昭和十年設置）あり、北方の奥羽本線鷹巣驛・南方の阿仁合町へバスの便あり。〔森吉神社〕大字森吉に鎭座。郷社。祭神、大己貴命。桓武天皇の御代に坂上田村麿が蝦夷討伐の爲に鬼州へ下向し、當地に於て神勅を得て大洗丸と稱する賊を討つを得たり、依りて田村麿、當社を創祀すと傳ふ。例祭、陰曆四月八日。

【前田村】香川縣讃岐國木田郡の北部。平井町の西方に接し、北は古高松村に、南は十河村、西は川添村に界す。東北部には百米餘の小丘起伏する外は全村低平なる高松平野の一部を占め土地平坦、中央を東南方より西北方にかけて新川の中流貫流し灌漑の便よろし。從つて地味肥沃なれば耕作よく行はれ米・麥・繭及び煙草・果實の產少からず。新川左岸に沿ひて縣道通じ西北約一二粁にて高松市に至る。また社線高松電氣鐵道の高田・東前田・西前田・水田等の各驛あり。古くは和名抄、山田郡宮所郷の內なるべし。〔八幡神社〕大字西前田に鎭座。郷社。祭神、品陀和氣命・帶中日子命・息長帶姫命。承平六年の創祀と傳ふ。例祭、九月二十五日。

マエタヤシキ　前田屋敷（やしき）　青森縣南津輕郡光田寺村の大字。省線黑石線の前田屋敷驛（昭和十年設置）を置く。後國日田郡の西部。日田町の南方約八粁にあり、西北より東南にやや長き山村にして、西と西北は福岡縣八女郡及び浮羽郡に界す。全村山岳重疊し西境には雲取山（九六〇米）・樫現嶽（御前嶽—一二一一米）・祥迦ヶ嶽（一二三一米）等の高峯屹

立し、南境には渡神嶽(一一五〇米)・石建峠(九一一米)・曾家峠等聳ゆ。筑後川支流の高瀬川が西境に發して中央北偏を東北流す。低地乏しきも米・麥を產し木材・薪炭を出す。村道によりて日田盆地に出づれど交通甚だ便ならず。當村內には金・金銀・硫黃などの幾多の鑛區あれども多くは振はず。但し當村と福岡縣八女郡星野とに鑛區の跨る豐國鑛山のみは準重要鑛山たり。同鑛山は昭和十年金八、六七二瓦、銀五、六八四瓦を出す。また當村と星野村とに鑛區の跨る大豐鑛山は金銀山なるが、一時休業の姿なりしも昭和十年より再び事業を開始す。中世この地は津江庄の內とす。津江氏ここに居し南北亂の頃、矢部の官軍津江山に入り日田を制す。津江氏のち大友家に臣事し天正中に絕家す。〔老松天滿社〕大字大野に鎭座。鄕社。祭神、菅原神。社傳には延久三年に郡司鬼大夫の創祀と云ひ、豐後國志には長享二年津江山城守長谷部信安の創建と傳ふ。例祭、十月二十一日。

マエノハマ 前濱村 高知縣土佐國香美郡の西南端。土佐灣に臨む。東方には赤岡町、北には野市町・長岡郡後免町あり、何れも約數粁にして達す。物部川下流の土佐平野の一部を占め海岸砂濱地を含む。中央を横に後川貫流し灌漑の便よし。從つて土地平坦にして頗る豐饒なれば、溫暖多雨の氣候の影響をうけて農業は頗る盛にして二毛作をなす所もあり、米・麥・繭・野菜等の產多く生糸・淸酒の製造も盛大なり。また水產業も行はれ鰛・鯛・鮪・鰹・鰤等の漁獲多し。中央を縱横に縣道走りて交通甚だ便利なり。またバスの便あり。寛文の頃既に前濱の一村を成し、藩政時代は前濱と前濱浦とに分れしも明治十一年合して前濱村と稱す。〔伊都多神社〕大字前濱に鎭座。鄕社。祭神不詳。舊稱、伊都多大明神。長曾我部元親の頃、熱田神社を勸請せりとも、當國幡多郡伊豆田村の伊豆田神社を勸請せりとも傳ふ。例祭、七月二十九日・十月六日。

マエノハマ 前之濱 鹿兒島縣揖宿郡喜入村の大字。省線揖宿線の前之濱驛(昭和十年設置)あり。

マエハ 前羽村 神奈川縣相模國足柄下郡の東北部。國府津町の東隣にて、相模灣に臨む小村なり。東は中郡二宮町と隣る。北境附近は丘陵地をなし、南部には海岸附近に狹き平地あり。農產に麥・甘藷等、また蜜柑・魚類・梅干その他の漬物等の產多し。東海道は海岸に沿ひて西走し、國府津町へ便はバスのあり。省線東海道本線また之に沿ふも村內に驛なく、國府津町に國府津驛を置く。古くは鹿河または前川に作る。弘治二年に大久保加賀守忠眞の有となりしも、慶長年間に將軍家の御料となりて近藤石見守秀用支配す。元和六年に阿部備中守正次に賜はりしが、同八年また將軍領となる。寛永九年稻葉丹後守正勝に賜はり子孫相繼ぎしも貞享二年大久保加賀守忠朝の所領となり、元祿十一年嫡子忠增繼ぎ寶永五年三たび將軍家の御料となり、享保元年大久保加賀守忠都に賜はり、子孫相承けて明治維新に至る。

マエバシ 前橋市 群馬縣の南部にあり。北方に赤城山(一八二八米)・榛名山(一三九一米)のコニイデ式火山あり。兩山の裾野が關東平野に延びその接觸地帶に位置す。市は利根川の本流が三國山脈より發し、赤城山と榛名山の間を關東平野に流出する大扇狀地に位置す。從つて此地は昔より三國街道を扼する要所として古くより驛亭の設あり。前橋は舊く厩橋と書く。市の西部を利根川本流が流れその侵蝕によりて段丘を作る。東は桃井川を以て境し、市內を貫流するものに廣瀨川あり。これ等兩川は市より上流にて利根川より分流し赤城山の湧水を合せるものなり。市の南は廣く展開し上毛平野となる。前橋は斯る要地にあるを以て既に文明十年太田道灌の築城以來世世北關東の要地となり、三國街道を扼するため德川幕府は親藩譜代を以てこれに充つ。城址はいま縣廳の位置する所にして、利根川の溪流はその下を流れ、段丘は絕壁となりて自然の要害をなす。城址は小丘をなし、東は廣瀨川に浸蝕され自然の小丘陵をなせし部分に築造したるものにしてその機構は烏川に臨む高崎城と全く相似たり。されど利根川の浸蝕は强く、明和四年洪水によりて城礎崩壞す。城主松平朝矩この地を離れて以後百年間廢城となりしも斯かる自然的缺陷に基くものなり。文久三年、朝矩の裔、直克この地に歸り補築して居城するに及び再び城下町として賑盛となる。市は北關東山麓養蠶地帶の一中心にあり。江戸中期以後は關東有數の製絲の中心として著聞され、六齋市が立てられこの地方の生絲の集散行はれたり。江戸商人の買出荷、並に江戸への廻米は利根川と烏川の合流點たる玉村宿五料河岸にて扱はれ五料河岸はかくてその外港となれり。五料河岸にはこれ等貨物の改めの關所が設けられ、また三國街道の通行に對する監視所たりき。五料河岸以下は江戸まで河船の通行ありしが、五料河岸より上流は利根川の水勢と水量の關係にて遡江不可能なりしかば高崎城下町と五料河岸、並に對岸玉村河岸間に馬背による運送行はれたり。本市が製絲業に殊に急激なる發達を遂げしは橫濱開港以後とす。明治十四年に前橋・高崎間を通じ東京との連絡成り、同十七年に前橋驛設置せられ、次で前橋・小山間の開通を見て交通の至便は益々市の發達を助けしむ。更に清水峠の開通によりて上越線により、新潟・東京間の最短路に當り舊三國街道の復活とも見るべく、また社線東武鐵道は伊香保まで延長し、社線上毛電鐵は中央前橋・一毛町の二

驛(共に昭和三年設置)を置き桐生市に連絡するなど、謂ゆる四通八達の名實共に完備せり。今や製絲製造戸數一〇九、職工九二三〇、年產額一、五九六萬餘圓、撚絲業職工九〇三、產額五六〇萬圓、織物職工四四五、年產一〇八萬圓に達し、製絲織物業のみの職工數一〇、六〇五人(昭和十一年)を算し工業都市としての特色を發揮す。工業都市としてのこれ等の現象は人口集中の事實に於ても示され本籍人口三七、九八九に對し入寄留人口四八、四四五にして一萬以上の入超を示す。更に製絲織物工場は女工の蒐集を必要とし男女別數に見るに男四〇、五三五對女四六、六四六(昭和十年)にして六、一一一人の女の超過を示す。製品は昔より引續ける六齋市、卽ち四・九の日の開市ありて、才川・細ヶ澤・小柳・立川・桑・本・連雀等の各町の市場にて取引さる。なほ市には國立蠶業試驗所前橋支場が市の北部にあり、南郊には縣蠶業試驗場ありて科學的研究の行はるるもまた市の特色として注目に値す。工場地帶としては市中を貫流する廣瀨川に沿ひ、桃井川との間に分布することは地下水並に水利の便によるものにして、舊城下町の東郊に位置することがその原因と考へらる。利根川畔に新設されたる日本人造纖維工場は水利の點は同樣なるが、市の工場としては唯一の西側に存在するものなり。舊城下町は廣瀨川と利根川との中間に位し曲輪町・連雀町・紺屋町等の町名に往時を偲ぶものあり。教育施設としては男女兩師範學校・中等學校あり、其他に公園・野球場・公設プール等の施設備はる。市內は舊跡に富む。城內に飲料水の爲に上杉謙信の計に成ると傳へらるる風呂川ありて廣瀨川より分水し城中に通ず。西境に利根川を挾みて惣社町あり。其間の大渡はもと王渡と稱し、御諸別王が豐城入彥命を赤城山に奉祀せんとして始めて渡られしと傳へ、藩政時代の關所あり。縣社に八幡宮・東照宮あり、昭和八年には放送局が曲輪町、利根川畔に設置さる。〔沿革〕前橋はもと厩橋に作る。始め上野國群馬郡利刈鄕に屬し上代帝都より東北に通ずる官道の一驛次なりしと。弘治元年北條氏康、其臣福島頼春を城代となせしが、永祿二年上杉謙信これを攻め長尾謙忠をここに置く。のち北條丹後守長國をして代らしめたるも、信玄・謙信の歿後武田勝頼の領する所となる。天正十年織田信長、德川家康と共に勝頼を滅し瀧川一益をして關東管領となし此處に居らしめたるも信長死後再び北條氏の有に歸し、氏政の臣綾田彥四郎・松田兵部大輔これを守る。天正十八年家康關東を領するに至り其臣平岩親吉を當城主となせしが、家康の子義直が甲斐に封ぜらるるに及び親吉は傅となりて府中に轉ぜしため川越城主酒井河內守重忠これに代る。重忠の子雅樂頭忠世老中に列し加封十萬石を賜ひ、其子忠行更に三萬石の加恩を受く。忠行の子忠淸、將軍家綱の輔佐となりて五萬石を加封せられ、廿一萬三千石を領するに至る。寬延二年酒井氏が播州姬路に移封せらるるに及び松平大和守朝矩が姬路より來りて代りしも、明和四年利根川洪水のため廢城となり陣屋を置き約百年間荒涼たりしが、文久三年松平直克當地に再び築城す。明治二年藩制施行により前橋藩と改め松平直克藩知事たりしが、同四年七月廢藩置縣に依り前橋縣とし、次で十月群馬縣の治下となり同五年第一大區に屬し四小區に分割せり。同六年群馬縣廢せられ熊谷縣の管轄となり、同九年再び群馬縣となりて縣廳を置く。同十一年大小區を廢し同十六年四聯合に分ちしも、同二十二年市町村制施行に際し合一して前橋町となり、同二十五年四月一日を以て市政施行地となり、同三十四年勢多郡上川淵村の內六字を編入して今日に及ぶ。〔前橋城址の枝寄り松〕指定天然記念物。一株の黑松の幹の下部に一大枝の交叉狀に癒着せるものにて、蓄し本樹の傍にありし他株の黑松と連理を成せるものと考へらる。母樹を失へる癒着枝が生存する一例として學術上有益なるものなり。〔前橋行在所(臨江閣)〕指定史蹟。前橋公園內にあり。明治二十六年明治天皇が機動演習天覽のため行幸ありし砌、行在所に充てさせられし所にて、のち大正天皇が東宮の御時二回行啓ありし際御宿泊所に充てさせ給ひしほか閑院宮載仁親王殿下・梨本宮守正王殿下御台臨の際御宿泊所に充てられし所なり。〔前橋公園〕柳町にあり。利根の奔流を俯瞰し、堤上櫻樹枝を連ね園池・花壇あり。園內に臨江閣・東照宮・彰忠碑あり。〔敷島公園(敷島河原)〕利根の淸流に沿ふ廣濶なる河原にして四季逍遙に適す。奇岩お艶ヶ岩は模式的甌穴を存して學術上貴重のものとせられ淀君の傳說あり。園內には大野球場・プール・ボート、其他の設備あり。敷島河原は公園下一帶の河原を云ひ、古來風景に富み詩歌を以て聞ゆ。「とね川の河原を行けば小夜千鳥石ふむ道におちかへりなく」〔二子山古墳〕天川町に在り。指定史蹟。前方後圓の大古墳にして射狹君の陵墓と傳へらる。墳上に數株の古松あり。全長約百米、封土の高さ前方部一〇米・後圓部一一米にして表面所々に葺石あり。埴輪の使用せられたること認めらる。〔古墳群〕天川町地內より勢多郡上川淵村大字朝倉及び後閑に至る一帶は謂ゆる古墳群にして八十八塚または百塚と呼ばる。これ群馬郡總社町に於ける古墳と同一系統に屬するものにして、これより推すに上代に於てはこの地一帶に大部落ありしものの如し。〔岩神〕今の岩神町。安政六年橫濱の開港に方り、生絲の海外に需要せられしより各地競ひて生絲を橫濱に出すに至りしが、のち品質の低下により輸出額減少せ

したため製絲の改良を叫ばるるに至り、明治三年前橋藩にては西洋人を招き岩神村に地をトし西洋式機械製絲を演めたり。これ我邦に於ける機械製絲の濫觴とす。〔東照宮〕前橋公園内に在り。縣社。主祭神、徳川家康。配祀神、菅原道眞・木之花之佐久夜毘賣命・日子番能邇々藝命・健御雷命。前橋藩松平氏代々崇敬の社祠なり。慶應三年に現社地に遷座。〔八幡宮〕縣社。祭神、品陀和氣命。在原業平の裔業重、石清水八幡を勸請すと傳ふ。酒井・松平兩城主の崇敬厚し。朱印領十五石、例祭九月十五日。〔東福寺〕芳町に在り。新義眞言宗豐山派。酒井忠世廏橋城主たりし時、この地密宗の寺院なきため、寛永十三年勢多郡川端村歡喜院を移せしものなり。寺寶に青銅鰐口あり。大門入口に巻菱湖筆馬頭觀音の丈餘の石碑あり。〔妙安寺〕立川町に在り。眞宗大谷派。天福元年成然坊下總猿島郡森戸村一之谷に創建し、天正八年寺を川越に移せしも、慶長六年川越城主酒井重忠が前橋に轉封せらるに及び、その招きに依りて當地に來りて本寺を建つ。〔龍海院〕紅雲町に在り。曹洞宗。是字寺と號す。三河岡崎城主松平清康が享祿三年元旦に左手に是の字を握る夢を見、龍渓寺猿外和尚に占はしむ。和尚、是の字は分つて日下人となりこれ天下を掌握する瑞祥なりと云ひしかば清康深く之を喜び、和尚のために龍海院を建立し是字寺と稱す。のち酒井正親をして同院を外護せしめしが、慶長六年酒井重忠が前橋城に移封せらるるや一寺を創し舊領の寺號を移す。本寺これなり。もと城北の岩神の地に在りしが萬治元年炎上せしため今の地に再建す。寺内に酒井氏累代の墓あり。

マエバル　前原町 まへばる　福岡縣筑前國糸島郡の中部。福岡市の西方約七粁に位し、西部は僅に玄海灘の一灣に臨む。東北より西南に稍長く、中部には東南方より雷山村の北部が嵌入す。西南部はやや丘陵地をなして盆地を圍み、中央及び東北部一帶は北隅の僅の臺地を除く外は平野連りて一河川が屈曲しつつ西南流し海に注ぐ。農業・商業行はれ産物は米・麥・薪炭等なり。社線北九州鐵道は村内を走り、上高田驛(昭和六年設置)・波多江驛(昭和三年設置)・糸島中學前驛(昭和十一年設置)・前原驛・加布里驛(共に大正十三年設置)あり。明治三十四年に町制を布き、昭和六年に加布里村・波多江村を合す。舊郡役所の所在地、いま前原調餞所・縣立の女學校・農學校等あり。神官にして尊攘の志篤く長藩忠勇隊に入りて戰功ありし大神壹岐(贈正五位)はこの地の人とす。この地は近世には志摩郡に屬せしも、古くは怡土郡の域内たりしものの如し。大字波多江は舊庄號なり。原田種直の弟三郎種貞は波多江氏を稱しその子孫世々波多江に住す。種貞より二十四代の孫小次郎種則は原田了榮に仕へしも豐臣秀吉に領地を沒收さる。〔志登神社〕大字志登に鎭座。縣社。祭神、豐玉姬命・彦火々出見命外三柱。式内社。元祿三年、國守黑田忠之三十石を寄す。例祭、三月七日。

マエミヤ　前宮村 まへみや　岐阜縣美濃國稻葉郡の南部。岐阜市の東約一二粁。地形は東西に細長く、西部は複雜なる境界をなし、北は那加村、北より東にかけては鵜沼村に接し、南は木曾川を挾みて愛知縣丹羽郡扶桑村・古知野町に對し、西は更木村及び羽島郡中屋村に隣る。西部は古生層の三井山塊の東半を占め、北部は洪積層より成る各務ヶ原臺地の木曾川に面せる崖あり、高度約八八米の殘丘若干あり。東北部は各務ヶ原に接續し、南部は木曾川の河原及び松林が連る。北部には桑園多く養蠶行はれ、東部は園藝栽培見られ種生薑の産多し。西部聚落の前渡方面は川島村(羽島郡)方面の隣接刺戟にて機業盛に行はれ、人絹綾物・絹綾物を出し、前者は年産約百七十萬圓に達す。交通は便ならざるも野菜等は自轉車にて岐阜の夜間市場に運ばる。本村は和名抄に見ゆる各務郡三井鄕の地に屬し、江戸時代は旗本坪内氏の所領たり。前宮とは舊前渡村と若宮村が明治三十二年に合併されその一字づつを取りて改稱せしものとす。大字前渡は昔は大豆渡と云はれ、木曾川の渡なりしにより此名あり。東鑑には摩兎戸と記し、承久記には大豆迄と見え、マヘドとはこれより轉訛せしものなるべし。山脇・下切は何れも前渡の支鄕とす。

マエヤチ　前谷地村 まへやち　宮城縣陸前國桃生郡の西部。飯野川町の西方約一〇粁。西と北は遠田郡に接す。陸前平野の東南部大谷地低地帶に屬し、北部及び西南部に丘陵あるほか澱れ平坦なり。江合川は北境を東流し北上川に合し、北上川は東境を南流す。米・繭・麥の産あり。道路は西南部を斜走するもの及びこれより分岐して中部を東北に向ふものあり。西北方の涌谷町(遠田郡)へ自動車の便あり。省線石卷線前谷地驛(大正元年設置)を置く。大字和渕は東鑑、仁治二年五月の條に、陸奥國小田保・追入・若木と見ゆる追入の地にして、追入は小田保に屬せし地なり。和渕神社は坂上田村麻呂の創建せるものなりといふ。〔寶ヶ峯石器時代遺蹟〕寶ヶ峯(舊稱襌ヶ峯)齋藤邸の背後に續く丘陵口にあり。明治四十三年に坪井正五郎博士の調査に端を發し爾來續々發掘調査されし東北地方の主要なる遺蹟の一にして、多數の遺物は附近に設けられし陳列所に保存す。土器は津輕式と圓筒式の中間型のものなり。なほこの丘陵の南方にあたり、俗に朝日長者屋敷と稱する貝塚や若干の遺物包含地あり。

マエヤマ　前山村 まへやま　長野縣信濃國南佐久郡の北部。小諸町(北佐久郡)の南約一〇粁、野澤町の西に接す。蓼科火

山(二五三〇米)の東北の裾野にあり。村の北東部は佐久平の盆地底にして且つ千曲川の堆積せる扇狀地なり。この裾野と盆地底との境が、即ち水田と畑地になし得るところにて、また湧泉に惠まれ、前山村の主要聚落が位置す。湧泉は七〇〇米の高度に規則正しく配列さる。これは山麓一帶を蔽ひて略ぼ水平に堆積せる洪積粘土最上部の黄色粘土質薄層が其の滯水層を決定するによる。村は普通畑作以外に養蠶も多く、また特徴ある養鯉は佐久平盆地底の湧泉を持つ水田に副業として發達し、鯉の飼料と相俟つて盛大にして、本村にても次第に此の傾向に從ふ。平地は湧水のため乾燥期の夏も水に惱むこと少き好條件の耕地なれども、山を昇るに從ひ次第に畑作・牧畜・林産を加味せる山村となる。この地は甲州の名家たる小宮山氏の居りし所にして、東鑑・建暦三年、信濃國住人、一村小次郎近村・籠山次郎とある籠山は小宮山氏にして武田氏に屬す。〔貞祥寺〕曹洞宗。洞源山と號す。前山城主伴野左衛門佐貞祥、祖父光利・父光信追福のため本寺を創建し佛光圓明禪師を請じて開山とす。永祿中、武田信玄寺領百貫文を附し、慶安中、小諸城主仙石氏また同額の寺領を附す。同年中、徳川家光朱印十五石を附す。

マエワタリ　前渡村 まへわたり　茨城縣常陸國那珂郡の東南部。鹿島灘に臨み、東南部は平磯町及び湊町と隣す。大部分低き臺地にて畑地多く、純農村にて小麥・大麥・甘藷・西瓜等を主産し、特産物としては甘藷切干あり。東南部の前濱と稱する一部落にては副業として水産物の行商をなすものあり。縣道は西南に走りて水戸市に通ずるもの、及び南走して湊町・平磯町に通ずるものあり。社線湊鐵道は平磯町より來り村の東南隅に磯崎阿字ヶ浦驛(昭和三年設置)を置く。海濱は阿字ヶ浦といひ、沙濱長く連る遠淺の海にして海水浴場として雜沓す。村名は、明治二十二年村制實施の際、前濱・馬渡・長砂・足崎の四部落を合併して大部落なる前濱・馬渡の各一字を取りて馬渡と命名せるものとす。この地古くは和名抄、那珂郡幡田鄕の內とす。もと部落は海濱に營まれしが、元和中、大風のため家屋倒壞し住居なり難きを以てその殘民今の地に移るといふ。

マオカ　眞岡 まをか

【眞岡支廳】　樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豐榮支廳・豐原市に、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春內支廳にそれぞれ隣接し、西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方粁。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小能登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に置かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(一二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりやや西南に向ひて中央を南方に通り、留多加岳より岐るる支脈に、東境南部に清水山・三峰山・春日岳等の諸峰をなし留多加川の北岸に達し、域內を南東部の留多加川流域と北西部の間宮海峽斜面の二地域に分かつ。留多加川は清水・逢坂二川の合流にて、その川筋には近時耕地の開墾進み、北西斜面小川沿岸の低地と共に農業行はれ、燕麥・大麥・馬鈴薯・甜菜等の産あり。また山地よりは木材・パルプ材を出し眞岡町・野田町に於ける製紙會社の原料となる。沿岸は魚族に富み鰊・蟹・鱈・鮭・鱒・鰛・鰈等の漁獲多く、昆布また採取され、いづれも水產製造物として移出せらる。鐵道西海岸線は本斗町より西岸に沿ひて北上し眞岡・野田等を過ぎて泊居町に達し、豐眞線は豐原市より郡の南部を西に横ぎりて西海岸の手井驛に連接し、道路もほぼ鐵道線と同方向に通じ、山間部を除けば交通不便ならず。人口四萬八千人餘にして密度はなはだ高き地帶なり。

【眞岡郡】　樺太十六郡の一。樺太の南西部に位し眞岡支廳管區の南半を占む。北は野田郡、東は榮濱郡及び豐原市、南は留多加郡及び本斗郡に境し、西は間宮海峽に面す。樺太山脈の主軸は北境の留多加岳(七五六米)より郡の中央を南北に通り、またその支脈は東境上に延びて清水山・三峰山・春日山等の高度七百米以上の諸峰をなし南麓は留多加川の平野に下る。ために郡内は南東流する留多加川上流の地域と北西間宮海峽斜面の二地域に分る。前者の留多加川は清水・逢坂二川の合流にて蛇行屈曲を續け、その氾濫原に農耕地開拓せられ、後者は沿海とこれに下る蘭泊・富內岸・羽母舞等の小流に沿ひて小低地あり。農産に大麥・燕麥・馬鈴薯・甜菜等あるも産額は多からず。林産に木材・パルプ材あり、沿海は鰊・蟹・鱈・鰈・鰛・昆布等の水産に富む。鐵道西海岸線は西海岸を南北に走り、その手井驛は豐原市に起り中部を東西に横ぎる豐眞線の連接點をなす。

【眞岡町】　樺太眞岡支廳下の首邑。眞岡郡の中部西岸に位し、南は廣地、北は蘭泊、東は清水の諸村と隣接し、西は間宮海峽に臨む。東境は樺太山脈の分水嶺にして最高處は五七〇米を示し、土地西方に緩傾斜をなし、宇遠泊川・眞岡川・手井川等この斜面を西流し谷合に狹き平地をつくる。鐵道西海岸線は海岸を南北に通じて手井驛・眞岡驛(以上大正九年設置)・中眞岡驛(昭和十一年設置)・北眞岡驛(大正十年設置)・宇遠泊驛(昭和十一年設置)の五驛あり、その手井驛は豐眞線との連絡驛にて樺太東西兩岸交通上の要點をなし、また眞岡驛より海岸へ一・八粁の眞岡海岸支線を出して濱眞岡驛(昭和四年設置)に終る。市街は西岸中部に沿ひて街村式に發達し南部に眞岡驛、北部に北眞岡驛を控へ、昭和二年築港完成して二千噸級汽船の繫留可能となり、近海航路

會社の青森・小樽・惠須取線の定期航路に當り、その他の汽船また寄港して西岸有數の貨物集散地たり。北蒲岡驛附近の荒貝は漁場として聞え、鮭・鱈・鯉・鰈等の漁獲多く、また東方熊笹峠を越えて豐原市に通ずる道路は此處より發す。町内に蒲岡支廳・農事試驗所分場・中學校・女學校等あり。人口約一萬九千。

【蒲岡炭礦】 福岡縣田川郡にある石炭山。鎭區は糸田村と後藤寺町とに跨りて七二萬餘坪。岡崎共同會社の經營にて昭和十年には粉炭八、九九四瓲、切込炭二、一四二瓲、粗炭八、五六七瓲（この總價額九萬餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は三〇七人とす。

【蒲岡海岸支線】 棒太鹽鐵道の一。蒲岡郡蒲岡町内を走る。西海岸線蒲岡驛より分岐し濱蒲岡驛に至る一・八粁の貨物線にして省線と連帶運輸をなす。

マオロシ　馬下　新潟縣中蒲原郡川東村の大字。省線弊蘆西線の馬下驛（明治四十三年設置）あり。

マガ　——社　臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。濁日溪右岸地方の山地にあり、標高約六五〇米、高砂族の部落にしてルカイ族に屬す。一般には下三社蕃の稱あり、戶數五九、人口二六五（昭和十二年末現在）。

マガキ　籬が島　歌枕。宮城縣宮城郡鹽竈町の東方海上十餘町、鹽釜灣内、天滿崎の北方に浮ぶ一孤嶼。古今集の歌に「わかせこを都にやりて鹽竈の籬の島のまつぞ戀しき」とあり、枕草子の「島は」の條にも「松の浦島（松島）、籬が島」と並稱されて、早くより歌枕として知らる。芭蕉の奥の細道にも「鹽竈の浦に入船の鐘を聞く。五月雨の空いささか晴れて、夕月夜かすかに、籬が島も程近し」とあり。島より形の梅花に似たる皎潔なる梅花貝を產す。

マカザヤザヤ　——社　臺灣高雄州潮州郡の蕃社。隘寮南溪・隘寮北溪の合流點近くにあり、標高約七百米の地。高砂族の部落にして、パイワン族に屬す。戶數一〇二、人口四一六（昭和十二年末現在）を有す。

マカジーヘン　——社　臺灣臺中州能高郡にある蕃社。高砂族の部落にして、アタヤル族に屬す。北合歡山の西方に位し、標高一五〇〇米あり。昭和十二年末の戶口は戶數一一、人口七四あり。臺中より埔里街を經て至る徒歩とす。

マカタ　馬潟　省線山陰本線の一驛（明治四十一年設置）。島根縣八東郡竹矢村にあり。

マカタミナト　馬潟港　山陰本線の貨物驛（昭和五年設置）。島根縣八東郡竹矢村馬潟にあり。

マガツン　——社　臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。高砂族の部落、ブヌン族シブグン群蕃及びツォウ族カナブ蕃の住地。ブヌン族は戶數二八、人口二二三、ツォウ族は戶數二三、人口一一六（昭和十二年末現在）を有す。

マカトン　馬家屯會　關東州金州民政署管區の南西部。西隣の北部は金州會、南部は南山會にて、南は金州地峽部の東南側に彎入せる大連灣の支灣に面す。北東境上に大和尙山（六六四米）峙ちその山脚西方に延び北半部は山地なるも、南半部は概れ平坦にて耕地よく拓け、高粱・大豆・落花生・野菜等を產す。滿鐵連京線の金州驛に近く、道路また金州に通じ交通不便ならず。大和尙山は風景の佳と寺觀多きことにより關東州第一の名山と稱せられ、大黑山・大赫山・老虎山・東山等の別稱あり。陪の煬帝の高句麗遠征に際しその將、來護兒は水軍を率ゐて此山城を攻略し、ついで唐の太宗の高句麗征伐にもその將の張亮これを攻陷せし處にて、山中の唐王殿（石鼓寺）は太宗の病を癒ひし寺なりとも傳へらる。

マカナジー　——社　臺灣臺中州能高郡にある蕃社。高砂族の部落にしてアタヤル族に屬す。白結大山の東南麓、北港溪右岸の地にあり、標高約一千米。戶數二一、人口一一一（昭和十二年末現在）を有す。臺中市より埔里街を經て至る徒歩とす。アタヤル族としては由緒深き蕃社にして、新竹州下のキナジー蕃はこのマカナジーを發祥地とすと云ふ。

マガネ　眞金町　岡山縣備中國吉備郡の東南隅。岡山市の西方約六粁に位し高松町の南に接し、東は御津郡、南及び西は都窪郡に界す。面積三・三九方粁。岡山平野に屬し、地勢概れ平坦肥沃にして耕地大いに拓く。米・麥・蠶・藺・柿等を產す。山陽街道は東西に貫通し岡山市にバス通ず。また社線中國鐵道は中央を走り吉備津驛（明治廿七年設置）あり。町名は隣村一宮村（御津郡）との境にある吉備中山が古今・二〇「まがれふく吉備の中山帶にせる細谷川の音のさやけさ」とあるに因み眞金と命名せるものとす。昭和四年に町制實施。官幣中社吉備津神社の所在地。明治四十三年、明治天皇、岡山行幸、本町の宮田に於て大演習の講評を御聽きあらせらる。いま、明治天皇眞金御小休所及び御講評所として指定史蹟たり。江戶末期の國學者、藤井高尙（贈正五位）は此地の人なり。（吉備津神社）官幣中社。祭神、大吉備津彥命。創立年代詳かならず。神階は承和十四年從四位下、同十五年に從四位上、仁壽二年四品に進み官社に列せられ封戶を給さる。天安元年三品を授け、貞觀元年二品、元慶三年一品を授けらる。延喜の制に名神大社に列し、備中の一宮たり。江戶時代朱印百六十石に減ぜらる。本殿・拜殿は共に國寶にて世に吉備津造と稱せらる。例祭十月十八日。特殊神事は松植神事・鬱積祭・御燈拂祭等。（眞金一里塚）指定史蹟。山陽街道の兩側に相對し、北塚に黑松、南塚に榎いづれも現に生育し、一里塚

として完全に舊態を存す。（藤原成親墓）土壇上に古塔の殘缺あり。もとありし十三重石塔婆にいま神奈川縣大磯町の安田別邸内に移され、別に明治四十三年建立の九層石塔婆あり、此地は昔の有木の別所にて、治承元年平家討滅の密謀露はれ成親ここに配流、獄囚中、清盛、妹尾兼康に命じ殺害せしめしこと平家物語に見ゆ。成親の居りしと云はるる向來寺の舊址は附近の山中に殘存し山麓の善蓮寺に位牌あり。（柴西師誕生地址）松榎の老木數株繁茂し、樹間に一小庵あり。柴西は吉備津宮神官賀陽雍厚守貞政の曾孫にて、永治元年この地に生れ、嘗て入宋し、建仁寺の岡山たり。

マカベ　眞壁

【眞壁郡】 茨城縣十四郡の一。常陸國の西部。東より南は西茨城郡・新治郡・筑波郡と隣し、西は結城郡、北は栃木縣芳賀郡と接す。東境には筑波山・加波山等連り、その西には臺地ありて中央を南流する小貝川、西境を南流する鬼怒川の本支流の流域には平地開け、農業行はれて米・麥・煙草等を產し、所々に梨・柿等の果實を出す。また織物・足袋・絹等の製造をなす所多し。縣道よく發達し、省線水戶線は北部を橫斷して下館町に眞岡線を北に分つ。また同町より社線常總鐵道を分岐して西部を南走し、東部の山麓には社線筑波鐵道鐵走す。郡内には下館・眞壁・下妻・關本の四町、二十七箇村を含む。古くは白壁郡と稱せり。清孝天皇の御諱（白髮王）を後代に傳ふるため白髮郡と稱し、のち二字に修して白壁郡とせるものなるべし。延曆四年に詔ありて光仁天皇の御諱（白壁王）を避くるため白壁郡を眞壁郡と改稱せり。文德實錄の齊衡三年紀に眞壁郡名はじめて見ゆ。和名抄は萬加倍と註し、神代・眞壁・長貫・伴部・大苑・大村・伊讃の七鄕を管す。近世、新治郡の一部を合して郡域擴張す。

【眞壁町】 茨城縣常陸國眞壁郡の東部。筑波山の北麓にて東南は新治郡と隣す。町の東南部は筑波山の東北斜面にて森林あり。西北部は平地開けて櫻川南流す。農業行はれて米・小麥・大麥を產し煙草の產も多し。また製糸及び酒・醬油の醸造行はる。縣道よく發達し集落はその集合點たる北部に發達す。社線筑波鐵道中部を北走し眞壁驛（大正七年設置）あり。古くは和名抄、眞壁郡眞壁鄕の地にて町名は蓋し共這稱とす。古く眞壁郡家の所在地にて今なほ古瓦を出す。中世、大掾長幹これに居し眞壁氏を稱す。子孫相承けのち佐竹氏に屬す。尊攘の志士にて德川齊昭の雪冤に盡力せし櫻任藏（贈從四位）は此地の人。（八柱神社）大字塙世に鎭座。鄕社。昔に塙世の聖天と稱するは明治維新まで聖天の像安置されし爲ならん。江戶中期の代表的建築物。

【眞壁】 下野國（栃木縣）の古地名。和名抄に河内郡眞壁鄕あり、その地今の河内郡内ならんも詳かならず。

【眞壁】 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡眞壁鄕あり、萬加倍と訓ず。その地今の勢多郡北橋村の邊に當る。

【眞壁村】 沖繩縣琉球國島尻郡の南西部。糸滿町の南方にてこれと高嶺村を隔て、西は海に面す。北方の那覇市へ約一二粁なり。地は東西に長く面積一〇方粁餘。隆起珊瑚礁より成る臺地にて東北部は八重瀨岳の南につづき、やや高きも其他は概れ平坦にして所々に丘阜あるのみ。農業を主とし、甘藷・甘蔗の產多く糖業また行はる。縣道糸滿・那覇に通じ、縣營鐵道の糸滿・高嶺兩驛にも遠からず。村内に眞壁宮（眞壁寺）あり。往昔眞壁按司の三人兄弟に格る雲石と彌陀・藥師・觀音の三像を奉安せし處といひ、應永年年の文字を存する梵鐘あり。

マカミ　眞上　攝津國（大阪府）の古地名。和名抄に島上郡眞上鄕あり。末加美と訓ず、その地は今の大阪市東成區の内ならんか。

マカミ　眞神原　奈良縣高市郡飛鳥村の鳥形山の麓。眞葛原にも作る。蘇我馬子の營みし飛鳥寺（法興寺）の初めて建てられし地。いま飛鳥大佛のある一字は法興寺の塔頭安居院の一部なりといふ。

マガリ　望理　播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に賀古郡望理鄕あり、その地今の加古郡八幡村・神野村の邊に當る。風土記の望理里とあるも此地なり。

マガリカネ　勾金村　福岡縣筑前國田川郡の東北部。香春町の東に接し、東部は京都郡に界す。東境には南北に山脈が連り、北端に障子ヶ岳（四二七米）そびえて西に延ぶる山脚が北境を限り、西北隅の香春岳の東斜面地と對し、其間に彥山川の一支西南流して香春町に入る。東境の山脈の中央南偏には飯嶽（大坂山、五七三米）そびえて、山脚は西北方に延び、中央部に漸がり、その北・西・南の山麓に僅に低地を見る。西南部には臺地あり。米・蠶・麥・薪炭等を產す。また當村の地は筑豐炭田の一部にて多くの石

鎭	山名	鎭區所在地	產	額	備考
糸滿	雲原	勾金村・香原町・伊田町	八六、三三二瓲	一六、七七二圓	重
香春	原	勾金村・大任村	一二、八三五瓲	三一、八三五圓	準
中津	原	勾金村	三一、七一〇瓲	三一、七一〇圓	準
本宮	尾	勾金村	五、一七六瓲	五、一七六圓	重
宮尾	尾	勾金村・大任村・後藤寺町・川崎町・伊田町・香春町	一、二〇五瓲	一、二〇五圓	重
三井	田川				

炭鑛區を存す、當村に關聯ある主なる炭鑛は別表の如し(産額は昭和十年の年産、重は重要鑛山、準は準重要鑛山)。北部には東西に走る縣道ありて香春町の市街地に至り之より南に延ぶる縣道は本村西部を貫く。西部には社線小倉鐵道走りて鐵山驛(昭和八年設置)・上香春驛(大正四年設置)の二驛を置く。中世、庄名に呼ばれ、勾金庄と稱す。一書に據れば暦應二年、肥後の菊池武重この地の戸城山に城を築き筑前・豐後に勢を分ち、大善寺の城を遣り二豐・筑三箇國の諸士、一時菊池の旗下となる。康永三年、畠山道誓、弟式部少輔義深、豐前の守護職となり來りて在城す。應安三年義豐に至り、大内修理大夫盛見に攻略せられ義豐自害し滅亡す。是より大内氏の所有となりしが、天文二十一年、宇都宮左馬介正房に攻略され、更に弘治七年、毛利元就に攻落され、爾來城主なしといふ。〔鶴岡八幡神社〕大字中津原に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・息長帶姫命・玉依姫命。仁平三年に鎮西八郎爲朝創祀し、久壽元年に宸筆の額を賜りて鎮西鶴岡と號すと傳ふ。今の神殿は國主小笠原忠雄の建立と云ふ。例祭、四月十一日。

マガリガネ　勾金　丹後國(京都府)の古地名。延喜兵部省式に見ゆる丹後國唯一の驛名。驛馬五疋とあり。即ち丹波國天田郡を經て丹後國府(いま與謝郡府中村の地)に至る間にありし驛にして、いまの與謝村の邊に當る。同村の大字に金屋あり、これ蓋し驛名に因めるものならでし。

マガリカワ　曲川村　佐賀縣肥前國西松浦郡の南部。有田町の西方約一粁に位し、西及び南は長崎縣北松浦郡及び東彼杵郡にそれぞれ界す。西方約一粁半に至れば佐世保市の東北部地域内に出づ。西境には南北に山脈連り八矢岳・チサエ越・宇戸越等あり。また東境には丘陵あり、中部は低地をなして地形上、北方の伊萬里灣と西南方の大村灣口岸とを結ぶ重要なる通路をなし、南境附近の小分水嶺によりて北流する有田川と長崎縣下を西南流する河川とを分つ。米の産多く、繭米は佐賀縣下屈指の産額を有す。麥・粟も出し、また良質なる陶器の産あり。東方より國道が走り來りて中央低地に出でて西南走す。途中、低地に沿ひ北走して伊萬里灣岸に出づる縣道を分つ。省線佐世保線は國道に沿ひて走り、東方の有田驛より分るる省線伊萬里線は本村の北部低地を北走し藏宿驛(明治廿一年設置)あり。附近町村と共に要塞地帶に屬す。この地の陶器製造は沿革古く、慶長征韓の凱旋の際、鍋島直茂の臣多久安順に伴はれて我國に歸化せし彼の地の陶工李參平(肥前磁器の祖)始めて居住せし地にして、名工柿右衛門を以つて知らるる酒井田柿右衛門は實に此地の人なりといふ。

マガリドーリ　曲通　新潟縣西蒲原郡にありし村。明治三十九年、他の二村と合し月潟村を建つ。

マガリフチ　曲淵　省線北見線の一驛(大正十一年設置)。北海道北見國宗谷郡稚内町にあり。

マカワ　馬川村　秋田縣羽後國南秋田郡の北部。五城目町に南接す。村の西部と東部は丘陵をなし、中央部は平坦にして、馬場目川は中央部を西北方に流れ沿岸に水田あり。米を産す。北方の社線五城目軌道五城目驛へ約一粁。

マカンル　磨勘留島　北千島の一火山島。温爾古丹島の西北端なる金平崎の西北約三〇粁に位し、南北一四粁、東西約五粁。三高山(一一六八米)を最高とする休火山を始め數峯聳立し、島周は概ね斷崖絶壁にて住民なし。

マキ　馬木村　島根縣出雲國仁多郡の南端。南は山脈を以て廣島縣に界し、北は三成村・八川村、西は阿井村に接す。面積五五・九一方粁。地形ほぼ圓形にして廣大なり。烏帽子山(一二二五米)その他の高峯が東・南部に聳え、村内地勢極めて高峻なり。中央部を奥伊川の支流馬木川北流して沿岸に耕地拓く。他は概ね山林地なり。米・繭・木炭・酒・醬油等を産す。山間の僻地なれば交通不便なり。省線木次線出雲三成驛に約一〇粁なり。もと大馬木・小馬木の二村なりしが明治二十二年合併して馬木村と名づく。

マキ　摩氣村　京都府丹波國船井郡の西南部。國部町の西南に接し西は多紀郡に界す。全村到るところ山地起伏するも西北境には三國嶽(五〇八米)、南部中央には胎金寺山(四二三米)等聳え、總じて西と南に高く東北部に低し。胎金寺山の東西兩麓を流るる河川は村の中央を東北方へ貫きて流れ北部にて兩者相合し國部町に入る。東部には東境に發して西北流し東北折して國部町に入る小河川あり。各河川の沿岸には低地開け田畑發達す。米産多く繭・麥もあり、工産・林産も多し。胎金寺山西麓に河川に沿ひて走る縣道ありて國部町へバスを通ず。〔摩氣神社〕大字竹井に鎮座。府社。祭神、大饌氣津彦神。創立年代詳かならざるも、神龍景雲四年に神封一戸を充て奉り、仁壽二年に使を遣して奉幣、貞觀元年に從五位上に陞叙され、延喜の制、名神に列し國幣の大社に班す。江戸時代小出氏累代崇敬す。船井第一摩氣大社ともいひ、古來、摩氣郷十一箇村の總氏神たり。例祭十月十四日。〔九品寺(船坂觀音)〕大字船坂にあり。古義眞言宗。弘仁元年に空海の開創と傳ふ。永正年中火災に遭ひ、天正年間寺領沒收等あり、一時荒廢せしが、元和九年に領主小出吉次修理す、但し樓門(仁王門)のみは火災を免れ往時のまま現存し國寶たり。

マキ　卷町　新潟縣越後國西蒲原郡の中部。西川に沿ひ、東北の一部は潟湖に臨む。土地平低にて信濃川より引ける畚條の分流により灌漑の便よく沃田開く。米産あり。附近町村の農産物集散地にしてまた酒・醬油の醸造業盛なり。省線越後線は中央を南北に貫通し、卷驛(大正元年設置)あり。縣道四方より集合し、岩室村・曽根町・彌彦村へバスの便あり。もと郡役所の所在地。昔は彌彦庄の内とす。〔安養寺〕眞宗本願寺派。もと比叡山堂谷にありて淨光院と稱す。花山天皇の皇子出家入寺し給ふと。壽永年間、寺僧、都の騒亂を避け本尊を奉持して當國に下る。のち蓮如に歸依し天台を改めて眞宗となる。寺寶に傳教大師作、阿彌陀如來木像一を存す。

マキ　牧

【牧村】　新潟縣越後國東頸城郡の西南部。保倉川一支の飯田川の上流に沿ひ、南は牧峠・伏野峠等八〇〇米前後の山脈を境に長野縣信濃國下水内郡に、西はその支脈を以て中頸城郡に隣接す。東部・南部に連亙せる山脈はいづれも西北へ長く山肢を向け、飯田川を西北へ源流す。全村高原性丘陵にて低地に乏しきも、中央より西部河岸にかけて田地よく開け米の産多く副業に養蠶行はる。西部には頸城油田ありて石油を産し繁落ために開害なり。なほ牧鑛山のほかに宇津俣鑛山(石油)あり、鑛區は本村及び菱里・小黒の二村に跨り、九十萬三千坪、日本石油會社の經營にて昭和十年より事業を開始せるも、未だ大なる發展を見ず。高田市より縣道來り同市へ約一五粁、途中バスの便あり。〔牧鑛山〕頸城油田に屬する石油山。鑛區は當村と中頸城郡櫛池村とに跨る。當油帶の主要背斜層は岩神・原・柳廣の三層にて、背斜を構成する地質は頁岩及び凝灰岩なり。而して本油帶の主要なる油層を構成するものは凝灰岩にして石油は主として多孔軟質の局部的部分に多量に存す。なほ凝灰岩の深度は當油帶にては凡そ九〇—二八〇米なり。現在日本石油會社の經營にて、昭和十年には原油一、一八五粁、瓦斯一七、三八八立方米、粗製揮發油一九一粁(この總價額七萬餘圓)を産す。なほ精製は柏崎製油所にて行ふ。當鑛山は大正時代、鑛夫百數十名居りしが昭和十年六月末の鑛夫數は僅に卅五名、以て古今の盛衰を推知し得べし。

【牧村】　石川縣加賀國能美郡の西部。小松町の西北に接し、西は安宅町を挾みて日本海に面す。西南部に五〇米足らずの砂丘あり、中央を梯川西北へ貫流す。土地概ね平坦なれば水田開け米を主産す。副業としては養蠶行はる。小松・安宅兩町間の縣道通じバスの便あり。省線北陸本線小松驛へ約二粁。古くは和名抄、能美郡蓮橋郷の内とす。〔梯(かけはし)神社〕大字上牧に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。明暦二年、前田利常の創立に係る。舊稱、梯天神。加賀國能美郡の總社。例祭、九月四日。

【牧村】　岐阜縣美濃國安八郡の中東部。大垣市の東南約三粁。揖斐川に跨る南北に長き地を占め、面積約三・六方粁。揖斐川の氾濫原中に位し、地極めて低平、同川は東方の長良川と村の南境を限る水路によりて相通じ、域内灌漑水利の便よし。耕地は田畑相半ばし約二〇〇ヘクタールあり、米・麥の産多く、また牛蒡の特産を以て著はる。大垣市との間にバス通じ、交通便なり。〔伊富神社〕大字牧に鎮座。郷社。祭神、火明命とも天照大神とも傳ふ。例祭、十月三日。

【牧村】　廣島縣備後國神石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は福永村、東は草木村、南は田頭村に接す。面積六・五七方粁。地形は二等邊三角型に近く、福永村と甲奴郡に面したる西北斜面を南北に連る山脈あり。海拔七〇〇米内外なり。村はその斜面に屬し地勢一般に高原狀を呈す。東南に小耕地を有し附近は牧養地なるなし、他の大部は山林に蔭はる。米・麥・繭・牛・馬・薪炭・酒類等を産す。福永村より福山市及び甲奴郡上下町・比婆郡東城町等に至る自動車の便あり。福永村・草木村・田頭村と組合村をなし、牧村に役場を置く。

【牧島】　長崎縣千ヶ石灣の西北隅にある島。北高来郡の南西隅にあり、本陸とは狹き入海によつて分たる。最高點は約一〇〇米にて島の北部にあり。全島殆ど丘陵性の山地にて耕地は見られず、主として漁業に從事す。中ノ浦・戸ヶ瀬・谷水・曲等の諸部落あり。

【牧ノ島】　朝鮮釜山府絶影島の別名。

マキイシ　牧石村　岡山縣備前國御津郡の東端。岡山市の東北に接し、旭川下流右岸に沿ふ。北は牧山村、西は横井村に接し、東は川を挾みて上道郡・赤磐郡に對す。面積一四・八七平方粁。金山の北麓に位し地勢は南方に傾斜す。南部は旭川沿岸に平地拓け灌漑の便良く、耕地進る。米・麥・繭・柿・藺・酒類等を産す。金山は天台宗の巨刹金山寺あるに依つて有名なり。社線中國鐵道は河岸に通じ玉柏驛(明治卅一年設置)・原驛(昭和四年設置)を置く。また縣道ほぼこれに並行して岡山市に至りバスの便あり。古くは枚石郷に作り、和名抄に御野郡枚石郷と見ゆ。大字原に舟山城址あり、須須木氏世々此處に居り元亨年間に至る。〔御崎宮〕郷社。祭神、猿田彦命・須佐之男命・大國主命。例祭、十月九日・十日。〔金山寺〕大字金山寺にあり。天台宗。銘金山觀音寺と稱し、子島ともいひ、金山の東麓にあるを以て寺名あり。天平勝寶元年報恩大師の開創、四十八箇院の一。本堂は國寶。

マキオ　槇尾　三重縣鈴鹿郡にありし村。明治四十一年鹿山町に入る。

マキカワ　牧川村　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年に他の一町三箇村と共に廢し祖父江町を置く。

三郡誌・下中弥三郎編『世界大百科事典』平凡社刊）。

マキシマ 牧島 佐賀県西彼杵郡崎戸町の内。

マキソノ 牧園村 宮崎県大隅国姶良郡の西北部。椨の谷山の西麓の大字。

姶良郡の西北部に位し、西は新川流域に接する一帯の地を占む。東北部の谷間盆地を流れる新川の流域には海抜一七〇〇米の高さに達する山地あり、これらは西南に大隅湾の大口湾あり、これらは西南に大隅湾の大口湾あり、これらは西南に大隅湾の大口湾

を出発点に置く各線実北北東線の紡績糸（明治治中一年宣言）あり、各線花伝線ニれに沿ひ、また十番・十四番・十六番の計七本の線を南北に走る。区画内の道路は、幅員一間半の道路を主とし、一部は二間の道路を設ける。区画内の建物は、一部を除き、木造平屋建瓦葺とし、外壁は土蔵造とし、窓は鉄格子とし、屋根は瓦葺とし、軒下は二間とし、庇を設け、雨水は地下に埋設した暗渠に導く。区画内の建物は、一戸建とし、一棟の建坪は、原則として二十坪以内とし、建物の高さは、二階建の場合は、地上より軒まで六間以内とし、建物の構造は、耐火構造とし、屋根は、瓦葺とし、外壁は、モルタル塗とし、窓は、鉄格子とし、建物の配置は、道路に面して、建物の正面は、道路に平行に配置し、建物の間隔は、二間以上とし、建物の敷地は、一戸建の場合は、百坪以内とし、建物の敷地は、建物の建坪の三倍以内とし、建物の敷地は、道路に面する部分を、二間以上とし、建物の敷地は、道路に面する部分を、二間以上とし、建物の敷地は、道路に面する部分を、二間以上

中世は眞國莊と云ひ、始め當國の人、長依友の私領なりしが、藍原成通に寄與せり。康治元年、成通これを鳥羽院廳に寄進し、その內、米十斛を高野山に納めて永く佛聖料となす。但し領家職は成通の家に傳ふ。

マクハリ　幕張町　千葉縣下總國千葉郡の西北部。千葉市の西北隣にて、東京灣に臨み、西は津田沼町と隣す。大部分低き丘陵地なし海岸附近に稻平地あり。農業行はれて甘藷・米・麥を產す。また澱粉・醬油の製造行はる。海岸は遠淺にて汐干狩に適し海水浴場としても知らる。千葉街道は海岸に沿ひて東南に走り主要聚落はこれに沿ひて發達す。省線總武本線および社線京成電氣軌道支線ま たこれに沿ひ、前者の幕張驛(明治二十七年設置)、後者の京成幕張驛を置く。また京成電氣軌道本線は北部を東北に走りて實籾驛を置く。其他、千葉市と西方の船橋市へバスを通ず。明治二十九年に町制を布く。幕張は一に馬加に作る。此地は往時、千葉街道に沿ふ宿場として榮えしものなりしが、鐵道開通と同時に漸く衰類の狀を呈し、僅に停車場附近の發展を見たるに過ぎず、然れども當地は青木昆陽の甘藷の試植地として名高く、縣下甘藷の主要產地たり。其他、當地の名ある高からしむるものに蔬菜・鷄卵等の土地生產品を商ふ行商人あり、毎早朝陸續として驛頭に蝟集する狀は一の奇觀たり。大宇武石は鎌倉時代に千葉常胤の第三子胤成居位し、子孫武石氏を稱せし處。〔馬加城址〕千葉大介の次男、千葉馬加陳胤守入道當郡の居城。功を以て千葉介に任ぜられ、是より千葉氏二流となる。

マクベツ　幕別　北海道十勝國支廳中川郡の南部。十勝川下流右岸に位し、帶廣市の東南に接し、西は河西郡、南は廣尾郡に界す。面積三六四方粁。北部と中部は十勝川・猿別川の合流地域にて沃野廣大、西境また札內川の平地に屬して耕地多し。南部は猿別の川發源地にて海蝕性の丘陵をなし濶葉樹林に蔽はる。米・馬鈴薯・甜菜・燕麥・牛馬等の農牧產物、及び製酒・製粉・製革・ペニヤ板製造・製麻・練乳等の工業も盛んなり。宇の黑田・途別には夫々鹵類溫泉の湧出あり。省線根室本線北部を東西に貫きて、札內驛(明治四十三年設置)・止若驛(明治三十八年設置)を置く。この地は明治二十三年、宮城縣人の武山土平、始めて邦人として移住開墾し、其後、富山・德島・岡山各縣より相踵ぎ、新田農場は大面積の賣拂を受けて移民の招來に努め、新田製酒工場の設置により村勢盛大となれり。

【幕別】省線北見線の一驛(大正十一年設置)。北海道宗谷郡稚內町にあり。

マクマヌ　眞熊野　三熊野に同じ。紀伊國の南部、牟婁郡の地。いま東・西・南・北の四郡に分る。萬葉・六「御食つ國志麻の海人ならし眞熊野の小舟に乘りて神邊こぐ見ゆ　大伴家持」

マクマヤ　幕山村　兵庫縣播磨國佐用郡の西部。佐用町の西に接し、西は岡山縣英田郡に界す。低山性の山地なれども全村山岳地をなし、中央南偏に東西に細長き盆地開け、其の東端は南方に開きて南隣の西庄村を流るる千種川一支流の谷に續く。米・粟・蕎類・食用農產物・蔬菜・花卉・製茶・楮、及び鷄卵・蚕物・薪製品等を產す。里道により佐用町に至りこゝより各方面へバスの便あり。この地は和名抄、佐用郡宇野郷の地なりといふ。〔幕山神社〕大宇本郷に鎭座。郷社。祭神、足仲彥尊・譽田別尊・氣長足姫尊。外に素戔嗚命等六柱を合祀す。本殿・拜殿・幣殿・神樂殿を備ふ。例祭、四月二十日・十月十九日。

マグラ　万倉村　山口縣長門國厚狹郡の北部。船木町の北、厚狹町の東北に隣接し、東は吉部村に、北は美祢郡に界す。面積三五方粁餘。中央部に有帆川發して南流し、流域に平地展け船木町に接續せるも、他は概ね二百米內外の山地にて、美祢郡界をなす涼水峠附近にて最も高し。村の周圍は山林に圍まる。農業村にして米・蕎・麥等の產多く、また川材・木炭・薪材・牛・馬等を產す。社線船木線道は中央低地を南北に貫通し今富・矢矯(共に大正十五年設置)・万倉・伏附・宗方(以上大正十二年設置)の五驛を置く。驛は概ね之に沿ひて吉部村・船木町に通す。〔万倉の大岩郷〕指定天然記念物。英輝閃綠岩の大岩塊が累々堆積して成せる石海にして、岩郷はその方言なり。岩塊の大きさは徑約一米—六米、岩郷の廣さは數町歩を占む。蓋しこの地の石海は往古の山崩の跡地が風化浸蝕を蒙りて生じたるものにして、地質現象として珍らしきものなり。

マクラザキ　枕崎町　鹿兒島縣薩摩國川邊郡の南岸。薩摩半島の南端に位し知覽町の西に隣る。西北部は加世田町に接す。東北部より東部に亙る地帶は丘陵地にして、東北境には下山嶽(四一六米)・釋迦、東部山地の西端には國見嶽(三九六米)・岩戸山(二二四米)等蟠居し、それら山地の東方一帶は極めて緩く南方へ傾斜する臺地にて、知覽町一帶の臺地に續く。本町の西端も丘陵地をなし、國見嶽(二六二米)聳ゆ。中央と西部は低地にて花渡川南下して太平洋に注ぐ。其河口より西は海岸線が南に延び南端山立神の突出に終り附近に沖立神の岩礁あり。海岸線はこれより西北に方向を轉じて隣村に入る。花渡川河口より東の海岸線はほぼ東方に草調に連り岩戸山の南麓海に迫りて赤崩鼻の小突出となり、東端には大崎鼻あり。河口の東方約一粁に市街地發達し、その港は遠洋漁業の漁港として知られ設備整ふ。低地は氣候溫暖と相俟つて田畑の作物多く米・麥・蕎の外、各種農產

を產す。其他、工產・林產多く各產・鑛產もあり。鰯・鰹の漁獲高年七〇萬圓、鰹節製造年額一四〇萬圓に達し、豚の飼養も行はる。町には漁業組合立の無線電信所・縣立細菌研究所・水產學校・造船所等あり。縣道は市街地を中心として東・西・北・東北の各地へ通じ、西部には社線南薩鐵道走りて金山驛・鹿籠驛・枕崎驛の三驛(何れも昭和六年設置)あり。もと東南方村と稱せしが、大正十二年に枕崎町と改稱す。又この地域には、下記の春日・勝香兩鑛山の外に、金或は金銀の多數の鑛區存すれども、多くは振はず。僅かに見るべきものとして、見初(金)・吉野(金銀)・高倉(金銀)の三鑛山を掲げ得べし。〔春日鑛山〕鑛區は當町と西南方村とに跨りて四一萬餘坪、鑛種は金銀にして重要鑛山たり。鑛區の地表は一帶に淺灰岩にして、鑛床はその下位にある輝石安山岩中に網狀をなして存在す。いま日本鑛業會社の稼行にして、昭和十年には金銀鑛七、一二九瓩(價額一六萬餘圓)を產出し、同年六月末の鑛夫數は八七人とす。當鑛山は明治三十四年頃の發見にて當時は鐵鑛として露頭部の試掘をなしたるに偶然に金銀鑛を發見するに至りしものといふ。〔勝香鑛山〕鑛區は當町四に約三一萬坪を占め、金山驛の東方約一粁の地點にある金銀山。鑛區の地質は中生層の砂岩及び頁岩より構成せられ、鑛床は砂岩中に胚胎せる含金石英脈にして、主なるもの四條あり。昭和十年には金二八、〇五三瓦、銀四二、二三六瓦(この總額九萬餘圓)を產出し、同年六月末の鑛夫數は三九五人なり。當鑛山は天和年間の發見にて、爾來、藩主島津家直轄して明治九年に至る。殷盛たりしは正德年間にて明治・大正の時代は振はず、昭和七、八年頃より活氣を呈し、いま重要鑛山に列す。〔南方神社〕大宇西鹿籠に鎭座。祭神、建御名方命・八坂刀賣命。例祭、十月二十八日。

マクワ　眞桑村　岐阜縣美濃國本巢郡の中部。岐阜市の西方約八粁。北は土貫野村に、東は席田村と河渡驛中の北方町・生津村に、南は五六驛中の本田村及び牛牧驛中の船木村に、西は彈正村に夫々境す。西濃平野の北部にありて、東部には糸貫川南流し、西部には犀川南流す。農業を主とし平野は殆ど水田にして、井水と稀して北方の山添村方面より水を供給して灌漑し、西部には犀川に依り灌漑さる。糸貫川の堤外地は桑畑多く、東部には養蠶盛んなり。名產富有柿の產多く、主に田に植ふられ果樹園をなすに至りしもの多し。梨も亦多く產し、大宇輕海はその中心地にて、何れも岐阜市場と名古屋市場に出荷さる。尙ほ特產物の眞桑瓜(甜瓜)は本村の原產にて此名あり、今は產額少し。栽培起原は紀元五百五十年頃と云ばれ、昔は朝廷・幕府に獻上せし邪ありと傳ふ。香が特に良くメロン以上と稱さる。交通路には中部を揖斐街道が東西に通じ、之と並行に名古屋電鐵揖斐線が通じ、八又・眞桑兩驛(共に大正十五年設置)を置く。また大垣バスは美江寺より本村を經て北方町に至り、省線未成線樽見線に此地を通過する豫定。この地は和名抄の大野郡物部郷の內にて、鎌倉時代は南部は船木庄に屬し、室町時代は船木庄西方十四條郷と呼ばれ、北部は眞桑庄と稱せらる。德川時代は大部分は加納藩に一部分は幕領たりしが、のち平藩領となる。大宇十四條附近は大化改新の時の條里制の遺跡にして、當時の大體の樣子を殘し、境界と道が眞直なり。大宇輕海の東城は往昔は加留美長勝朝の館のありし址跡と云はれ、朝倉太郎大夫高清も此城に住居すと傳へられ、或ぼ土岐氏の砦とも云はる。慶長頃より稻葉七郎通高が在城し、のち安藤五左衛門守宗が守りしが元和二年に討死す。同じく西城は稻葉氏が代々居住し、應仁二年、稻葉石見入道に御座野村の遠見山に要害を構へて移る。其後、池田勝入の家老片桐半右衛門が永祿三年築城して住み、のち池尻村に移り、天正十七年、一柳伊豆守直末が大垣より茲に轉じ六萬石を領し、同十八年小田原の役に戰死す。永祿四年織田信長は美濃に攻入り齋藤義龍と覇を爭ひ輕海にて雌雄を決せり。これ輕海の合戰なり。小柿の古城址は小柿助六郎が住みし由。〔輕海神社〕大宇輕海に鎭座。郷社。祭神、武甕槌命・天兒屋根命外二神。總新前に春日明神と呼びし明治五年に至り輕海神社と改稱せしが、之は舊稱に復したるものと傳ふ。例祭、三月十日。〔物部神社〕大宇上眞桑に鎭座。郷社。祭神、物部守屋。御神體は物部守屋が守神とした石像なりと傳ふ。例祭、三月四日・五日。

マクンベツ　幕別村　↓幕別村(北海道)

マコー　馬公街　臺灣澎湖廳一街四庄の一。廳の略中央、澎湖本島の西部を占む。東は湖西庄、西は西嶼庄、北は白沙庄、南は梁安庄に夫々隣接す。街に附屬せる主なる島嶼は、四角・鷄籠・桶盤・虎井嶼等なり。管內は處々に丘阜を有するのみにして、他は概して平坦なり。本街に於ける產業は是れを農業及び水產業に大別し得。農業に於てはその地勢上また氣象上よりして天惠に乏しく、また河川と稱するものなきを以て水利の便惡しき爲、旱害を受ること多し。主產するところのものは、甘藷・高粱・粟・落花生・蔬菜等なり、されど農家に於てはその副業として、豚・鷄の飼育をなす者多く、毎年十數萬圓を臺灣本島に移出すると云ふ。その種類は支那豚の小形なるものなりしが、近年にバークシヤ種を移入して品種の改良をなしつゝあり。澎湖廳管內は、バタン及びバタン海峽を經て來る黑潮の分流と、東支那海より南下

マコメ 町込

【町込】 東京府荏原郡にありし村。明和三年町制施行を布き、同和七年東京市に入り外神田町と合し大森区を編成す。

【町込川】 同郡蒲田郡にある川。小野口村に発して南流し、谷中、芳川を合せ天竜川の西約四町にて海に入る。流程約二〇町。この川は古の多摩玉川にして、天竜川の水は谷中に流れ来れるものなれども、天竜川元年山崩ありて河流を変じしより天竜川に流れ来れり。此川は田園の飲水を兼ねて海岸を流るるに至るもいと少し。

マサオカ 正岡村 [illegible] 愛媛県伊予国風早郡の西北部。桑田村の北方約一三新、風早郡西と接す。高麗山の西麓を占め、丘陵は北東部に連く平野にして新開よりくく西部は北東部に高くして平野を出し、また平地広袤四町に達し、また平地は桑田郡に属して平野を出し、また平地は桑田郡に属して平野を出し、また平地は桑田郡に属して平野を出

原郡）大字西川に鎮座。祭神、若雷命・大山祇命。明治三年に河野四郎・安藤安の外氏子崇敬者に移建せし天満宮を、其子孫、高正二の者に更に新設すと。

マサキ 清崎 愛媛県宇和島市にあり。

マサキ 清崎 愛媛県宇和島市にあり。

マサキ 清崎 愛媛県宇和島市にあり

業。大谷大学は宗教系の専門学校として出発した。〔歴史〕 上大和に幕藩期の村。寺・大己貴神社・新宮・春日・若宮・大神・高倉の産土社。〔産業〕 村内に商業・工業・農業・畜産・養蚕・林業・漁業・運輸・通信・金融・保険・商社・会社・銀行・郵便局・電信電話局・郵便・電信・電話・電報・電話交換・電信・電話・電報・郵便・郵便・郵便

マスタ　万須田　愛知県渥美郡にあり、明治三十九年に外三箇村と共に豊橋市に編入された。

マスタ　沙田　→**麻田**（麻生藩）

マスタ　益田

【益田郡】　戸数千八百の一。常陸国の南端、北は石城郡に、東は東京湾に臨み、南は東海郡・加茂郡と安房郡に、西は市上郡に接す。東経一四〇度二五分、北緯三五度二〇分。面積一二〇平方里。人口一万六千。郡治は益田村に置く。郡内は益田・下田・藤田・小泉・小滝の六郡を分ち、郡内に大小二十四村あり。郡内の産物は米・麦・大豆・小豆・蕎麦・茶・蒟蒻・椎茸・木炭・薪・鰹節・鯨油・鯨肉・鯨骨・鯨皮・鯨筋・鯨歯・鯨髭・鯨鬣・鯨尾・鯨鰭・鯨臓・鯨血・鯨脳・鯨胆・鯨鼻・鯨舌・鯨目・鯨耳・鯨鼻・鯨口

五粁にあり、切目川の源流地に跨る山村にして東西に細長し。南方八粁餘に南部町、西方約一〇粁には御坊町あり。南北兩境及び東境は山脈を以て圍まれ、山脈は東半に高くして七百餘米を有し西方に次第に低下す。北境西端に貫妻山（五二四米）聳え、南境の中央西偏には行者山（四二三米）あり。切目川は東境に發して中央南偏を西南流す。河谷に沿ひてやや耕地を見、米・蔬・柑橘を產す。山地は木材・薪炭を供給し、東部は川また國有林に屬す。河川に沿ひて縣道通じ御坊町・印南町・南部町へ各々バスを通ず。

マズミ　眞住　鳥取縣日野郡にありし村。大正二年に根雨村と共に廢され根雨町を置く。

マスワ　益和　愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され神守村を置く。

マセ　眞瀬村　茨城縣常陸國筑波郡の西部。谷田部町の西北隣にて、小貝川に沿ひ、西は結城郡と隣す。東南部は低き臺地をなし、西北部の小貝川附近には沼田ありて米麥等を產す。また絹物の製造行はる。縣道は谷田部町に通ずるもの及び西部を縱走するものあり。此地古くは和名抄、河内郡鳥名郷の內なるべし。

マゼ　馬瀨村　岐阜縣飛騨國益田郡の西南隅。高山市の南方約三〇粁。南北に細長き村にして、北は大野郡清見村・宮村に、東は同郡山之口村と郡內川西村・下呂町に、南は上原村に、西は郡上郡東村・奥明方村に隣る。北境は日本海と太平洋兩分水嶺をなし、石英斑岩より成りて、美濃山地北部に當る。北境には川上岳聳ゆ。東境は馬瀨川と益田川の谷の境をなし、東部には佛尾山（一一三九米）、南部には八尾山（一一〇〇米）連亙す。馬瀨川は北隣の清見村に發し南流して依入由流をなす。本村の產業はあまり振はず、農業は馬瀨川の谷にのみ行はれ桑蠶も僅に見られ、林業は盛んなり。主產物は木材・薪炭にして、芝栗は特產物なり。山村なれば交通は殊に不便にして益田川の谷へは、連坂峠・鈴越峠・日和田峠・椿坂より出づ。省線高山本線萩原驛に近し。此地は鎌倉時代頃までは郡上郡の內に屬し、室町時代には馬瀨郷として見ゆ。江戸時代には高山藩に屬し、次いで幕領たり。馬瀨の名は、昔、馬瀨川が穢なく、川を越すに馬に乘つて瀨を越せしに因むといふ。

マゼ　間瀨村　新潟縣越後國西蒲原郡の西海岸。寺泊町の北方約六粁。背後に西山丘陵の北端をなす頸彥山・多寶山等六〇〇米前後の丘陵を負ひ、西は斷崖によりて海に面す。海岸は岩石・岬角に富む。村內嶺れ山林にて平地に乏しく村民は漁業、運送業に從事するもの多し。郡中主要なる漁業地なり。南部に間瀨銅山あるも廢坑となる。省線越後線巻驛へ約九粁、縣道通じバスの便あり。この地は中世の頸彥庄の內とす。

マセー　麻西面　朝鮮黃海道新溪郡の西部。新溪面に西隣し、西に瑞興郡梅陽面、南は平山郡寶山面に接す。東北—西南に長く約一八粁、幅は平均五粁あり。北・西・南の三面は山に圍まれ、西境に卜希山（五七六米）、西北境には春光山、南境には猫山（三七一米）聳え、漸次東方に低夷す。東部には禮成江蛇曲流し、北部にて支石川を、中部にて魚洛川を更に南部にて新溪川を合せ南流し、流域に平地の見るべきものあり。但し主買・氣候の關係上、稻作は殆ど行はれず、畑作農業は卓越す。大豆・大麻・雜穀・椎茸等を產し、また牛金山鑛山より砂金を、魚洛川流域より銀を出す。東北部を南川店・新溪・逆安を結ぶ二等道路は南北に走り、中部には魚洛川に沿うて京義本線新幕驛（瑞興郡禾回面）に至る道路通じてバスの便あり。主邑銀店里は西偏に位し市場あり、山間の一中心を成す。

マタ　末多（國）　成務天皇の朝、國造を定め給ひし國々の中に、竺志末多國（いま朝倉郡の中）の馬田郷に擬す。しかし國造本紀の一本には竺志米多國とありてその位置を肥前國の三根郡（いま三養基郡の中）の米多郷に充つる說あり。何れとも定め難し。

マタ　馬田村　福岡縣筑前國朝倉郡の西部。甘木町の西南に接し、西南部は三井郡に界す。筑紫平野の北部を占め、全村低平地形にして、東部に小石原川南流す。全村耕地よく發達して米產多く麥も產す。北部には縣道走りて甘木町へ通ず。

マタアン　馬太鞍　臺灣總督府鐵道臺東線の一驛（大正二年設置）。花蓮港廳鳳林區馬太鞍にあり。

マタキ　眞滝村　岩手縣陸中國西磐井郡の東部。一關町の東南に隣り、東北は北上川を隔てて東磐井郡に、西南は宮城縣に接す。面積五六・四八方粁。地勢は東南部に高く、西北方に傾斜し、磐井川は西北境を東北に流れて北上川に合し沿岸に耕地拓く。北上川は東北境を先行しつつ東南に流る。村の生業は農を主とし、米・麥・大豆・蔬等を產す。陸羽街道は村の西部を南北に通じ、一關町へはバスの便あり。省線大船渡線萬濃驛（大正十四年設置）を置く。明治維新に至るまで田村領に屬する數箇の小村なりしが明治廿二年町村制實施の際、之を合併して萬濃村と稱し以て現在に至る。〔明治天皇御聖蹟〕眞柴部落字的場に、明治九年及び同十四年御巡幸の際に於ける御野立所あり。

マタクマ　全隈　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に那珂郡全隈郷あり、その地、今は東茨城郡に入り、山根村の邊に當る。

マタクラ　全倉　下野國（栃木縣）の古地名。和名抄に那須郡全倉郷あり、その地は今の那須郡の內ならんも詳かならず。

マタノ　又野　神奈川縣津久井郡にありし村。大正十四年に中野町・大井村・三ケ木村と共に廢し中野町置く。

マタノ　俣野　神奈川縣鎌倉郡にありし村。大正四年に外二箇村と共に合し大正村を置く。

マダラ　馬渡島　佐賀縣東松浦半島の西北海上にあり。半島の最北端の波戸岬より西々北方約七粁の距離にあり。北方は壹岐海峽を隔てて壹岐島と相對す。東西三粁、南北二粁、面積約四方粁にて縣下に於ける最大島なり。最高點は島の西端にて約二四〇米を算す。海岸は多く斷崖をなし僅かに東南に沙濱海岸が見らるるのみなるも、附近は漁利に富む。舊幕時代より天主教徒の移り來る者多く、今なほ新村として殘存し、全島民の約三分の二を占むるといはれ、他の部落とは全く風俗を異にす。

マダラオ　斑尾山　野尻湖の東岸に峙ち、長野縣上水內郡信濃尻村・柏原村・三水村・下水內郡永田村と新潟縣中頸城郡豐葦村の境界上に跨る。標高一三八二米、山體は輕石安山岩より成り、山麓不完全なる圓錐形をなす。曾てこの山一大破裂をなし、その西部を破壞し、その碎片の大塊は山下に累積せるも、小なるものは遠く飛散し、湖邊の小丘をつくり、その中央に生ぜし水藻は野尻湖なり。北方の袴岳、南西方の舟岳山は共に寄生火山とせらる。山頂に藥師の石祠あり、石佛十二體を安置す。山麓の野尻湖畔は避暑に適し、別莊地をなし、またスケートにも適す。

マチイ　町居村　青森縣陸奥國南津輕郡の西部。弘前市の東約一〇粁。面積三・一五方粁の小村。津輕平野の東南部に位し、地勢東南部に高く西北方に傾斜し、西北部は平坦なり。村民の生業は農業を主とし、その九割を占む。米作はその約七割、他は苹果栽培に從事す。社線弘南鐵道平賀驛（大光寺村）へ西北約二・五粁にあり、交通便なり。村名はこの地、津輕藩祖盛信の傅、町居飛鳥の采邑たりしに因むといふ。

マチキタ　町北村　福島縣岩代國北會津郡の西北部。若松市の北に接す。面積六・〇三方粁。會津盆地に屬し土地概ね平坦なり。湯川は西部を北流す。米・蔬・大豆・蔬菜等を產す。道路は東部及び西部を南北に通じ、若松市と北方の堀川町（耶麻郡）へはバスの便あり。省線磐越西線會津若松驛（明治三十二年設置）を置く。人口密度は一方粁につき七四三人なり。明治二十六年に柔和村を二分して高野村と本村とを置く。

マチダ　町田
【町田町】東京府武藏國南多摩郡の東南部。境川の東岸にあり。西は川を隔てて高座郡と相對す。東部は多摩丘陵の一部をなし、西部は境川流域の平地にて米・麥・蔬を產す。府道よく發達し、南部はその集合點にて、主要藥落たる原町田あり。省線横濱線は南部を西北に走り原町田驛（明治四十一年設置）を置き、社線小田原急行鐵道これに接續し玉川學園前驛（昭和四年設置）・新原町田驛（昭和二年設置）の二驛を置き、新原町田驛よりは江ノ島線を分岐す。古くより地方中心都市にて市場藥落としてその原形を保存せるもの。毎月の一・六日に市日にて、四邊の養蠶地帶より繭・生糸を集め、日用品・農具等の取引今なほ盛に行はる。郵便局の東南市場裏の古着市場は特別の建築物內に於て行はるる特色あるものなり。高ケ坂には原住民居住の遺跡發見され、考古學研究上に見學のため來訪する者多し。大正二年に町制を布く。大字本町田の字井出澤は建武二年七月、北條二郎時行の信州より鎌倉に攻入りし時、足利直義の拒ぎし謂ゆる井出澤古戰場の地なるべし。
【町田】神奈川縣橘樹郡にありし村。大正十二年に潮田町と改稱、潮田町は同十四年鶴見町と合併し鶴見町と稱せしも、昭和二年横濱市に編入し鶴見區をなし、その町名となる。

マチノ　町野村　石川縣能登國鳳至郡の東北部。能登半島の北岸に位し東部に珠洲郡に界し、東方約九粁に俣田町（珠洲郡）あり。村內山岳多く、西周に高し。即ち東隅には寶立山（四六九米）聳立して東南部一帶の山地をなし、寶立山より西北方へ一丘陵連りて東北境を劃し尖端に水山（四〇五米）屹立して日本海に臨む。西境にも中央に緩傾斜する小丘陵が東南より西北に連りて村境を限る。中央には町野川ありて屈曲しつつ西北流して日本海に注ぐ沿岸に低地開く。米・麥・蔬等を產す。中央に東西に横斷する縣道ありて自動車を通ず。本村は明治四十一年、西町・岩倉の二村と共に合して置けるもの。この地は櫛田村・神野村と共に和名抄、鳳至郡待野郷の地。日本後紀に待野驛とあるは大字粟蔵の邊なるべし。〔石倉比古神社〕西時國に鎭座。郷社。祭神天手力男命・岩戸別命外數神。式內社。例祭、八月一日。

マチミ　町見村　愛媛縣伊豫國西宇和郡の西部。八幡濱市の西方に伸びし佐田岬半島の中部にあり。東は伊方村に、西は三机村に界し、北は伊豫灘に、南は宇和海に面す。四國山脈の西端海に瀕れその餘は更に西方海上に伸びて半島となせる地を占む。從つて海岸は屈曲に富み漁港をなす。鰹・鯛等の漁獲多し。農家は米・蔬を產しまた養蚕を營む。南部に鑛山採礦地あり。部落は南岸に集り九町は主邑をなす。海岸一帶は風光明媚。交通は便ならず。もと九町・二見の二村なりしが合併して町見村と名づく。

マチヤ　店屋　武藏國(東京府)の古地名。和名抄に那筑郡店屋郷あり、その地今の南多摩郡南村の邊に當り、延喜兵部省式に武藏國店屋驛馬十疋とあるも此地なり。

マチヤマダチ　町山口　熊本縣天草郡にありし村。明治三十一年本渡町と改め、昭和十年本町と本戸村を廢し、その區域を以て新たに本渡町を置く。

マチョー　麻長面　朝鮮京畿道利川郡の西北部。利川面の西南に隣り、西は龍仁郡、西北は廣州郡と界す。東西七粁餘、南北約一〇粁あり。中部以北は丘陵地を成し、北境に半角山(三八一米)・雪峰山(三九四米)、東北部に紫鳴山等あり、西南部また山地にして南西境に乾芝山(四一一米)聳ゆるも、中部を西北—東南に流下する漢江の支流なる區河川の流域に平地やや拓く。米・麥・大小豆・綿等を產し、牛豚の飼育並に養鷄行はる。中部に社線京東鐵道麗水線通じ午川驛・標橋驛(共に昭和五年設置)あり。水原・利川間の一等道路これと並走してバス通じ、交通便なり。

マツ　末島　朝鮮全羅北道の西部なる海上、古群山群島の一島。群山港を距る西々南三七粁餘。行政上、沃溝郡米面に屬す。島は西北—東南に稍長く約二粁あり、周圍は概ね海崖をなし、東部に於て百米前後の標高を示すも西方に低減す。西南岸の小灣入に鹽地あり。その北に末島燈臺(明治四十二年設置)あり、燈質は遠閃白光、七秒半を隔てて二秒半間に二閃光を發し、光達距離二〇浬。

マツ　松島　→松島村(長崎縣)

マツイ　松井村　埼玉縣武藏國入間郡の東南部。所澤町の東隣にて、南は東京府北多摩郡と隣す。武藏野臺地の一部を占め畑地多く麥・蔴・米を產す。縣道は所澤町に通じ自動車の便あり。村内に一城址あり、北條氏照の淺山城に屬せし城なり。

マツイショー　松井庄村　兵庫縣播磨國多可郡の西北部。杉原川に跨りて中町の西北に接し、西は神崎郡に界す。西境には六〇〇—一〇〇〇米の山脈南北に逸り西北隅に千ケ峰(一〇〇六米)を起す。東部には杉原川が南流して洛岸には稻々廣き平野發達し、東北部には河流の東に妙見山(六九三米)聳ゆ。低地は田畑よく拓けて米・蔴・麥類・蔬菜・花卉・食用農產・蒟蒻・蒟蒻芋・果實・製茶等の農產物及び凍蒟蒻・醬油・乳物・煙・蠶製品・木製品等の外、鷄卵・養殖魚類を產す。東部の河谷には縣道が南北に通じ中町へ出づ。村内に鑛區約四十二萬坪を有する岩坐神鑛山あり、金銀銅鉛亞鉛山にして、昭和十年より事業を開始す。此地は和名抄、多可郡賀美郷の内なり。中世は松井莊と云ひ、後白河院御領たり。〔荒田神社〕大字廣原に鎭座。縣社。祭神、少彦名命。別に末花田耶姫命・素戔嗚命を祀る。天平神護元年神封四戶を充て奉り、延喜の制、小社に列し、のち本國(播磨)の二宮と稱せられたる地方の名祠。例祭、十月十七日。

マツイダ　松井田村　群馬縣上野國碓氷郡の南部。碓氷川に沿ひ、妙義山の東北麓にあり。川沿ひに農業行はれて米・麥を產し養蠶も行はる。中山道は町の中央を西走し、聚落はこれに沿ひて發達す。東方の安中町と西南方の妙義町(北甘樂郡)へはバスを通ず。省線信越本線は西部を西北に走り、松井田驛(明治十八年設置)を置く。この地は和名抄、碓氷郡石馬郷の内なるべく、舊中山道の松枝驛のありし所。〔松井田城〕大字新堀にあり。碓氷峠の險を扼す。戰國の時安中氏の據りしも永禄六年二月、武田信玄の爲に陷れらる。天正十年瀧川一益に屬せしも、のち北條氏の有となる。秀吉の小田原征伐の時、上杉景勝・前田利家・眞田昌幸等來り攻む。守將大道寺政繁固守す。京軍持久の策を立つるに及び、政繁自殺し、其子、新四郎出でて降り、城塁に廢す。〔不動寺〕松井田にあり。新義眞言宗豐山派。龍本山松井田院。寛元元年德川家光朱印八十九石六斗を附す。寛文六年堂宇燒失せしも幕府の支援にて舊に復す。

マツイワ　松岩村　宮城縣陸前國本吉郡の北部。氣仙沼町の南に接し、西端は岩手縣に境し、東は氣仙沼灣に面す。西境に德仙丈山(七一一米)、南境に愛宕山(六三八米)・長森山(四九一米)・岩倉山(二九四米)聳え、東方に傾斜し、神山川は西境に發源して東流し、北方より來る大川を合流して氣仙沼灣に注ぐ。米・麥・蔴・木炭・鮮魚を產す。道路は東部を南北に通じ、氣仙沼町へはバスの便あり。

マツウメ　松梅村　佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八粁にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金立山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・蔴・麥を產す。西部に縣道が縱貫し、佐賀市及び附近町村に自動車の便あり。〔天滿神社〕大字松瀧に鎭座。郷社。祭神、菅原道眞。例祭、八月二十五日。

マツウラ　松浦

【松浦】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田部村・若松村の邊に當る。

【松浦村】新潟縣越後國北蒲原郡の中部。新發田町の南方約三粁。東部・南部に五〇〇米餘の丘陵連亙し西北へ傾斜し、荒川・放生川は村内に發源して西流し福島潟に注ぐ。北部より西部へかけて平地開け、西は眞木山・陣ケ峯等一千米餘の小丘陵の斷崖崖を以て限られ、帶狀の狹き平野をなす。聚落は山麓河岸に稠密し農業を主とす。米產多く蔴・蓙工品等の副產あり。西部低地を一條の道走り西方へ數條を分岐す。北境に近く省線赤谷線走り五ヶ公野驛に近し。〔明治天皇荒川御小休所舟御膳水〕指定史蹟。明治十一年北陸東海巡幸の際、九月二十日御小休所となりたる處にして、舊規模よく保存せらる。郡内に御膳水の井あり。

【松浦(郡)】肥前國の古郡名。續紀天平十二年紀に郡名見ゆ。和名抄は萬豆良と註し庇羅・大沼・値嘉・生佐・久利の五郷を管す。室町時代の頃分つて二郡となしが、また舊に復す。明治十三年五月これを分けて東西南北の四郡とし、東・西二郡を佐賀縣に南・北二郡を長崎縣の管下として今日に至る。

【松浦線】省線長崎線の一。佐世保市及び長崎縣北松浦郡内を走る。省線佐世保線の上佐世保驛(佐世保市)より分岐し、左石・賀盛谷・四ツ井穩等の諸驛を經て世知原驛(世知原村)に終る二六・五粁、および左石驛より楠木驛(楠木村)へ至る四・一粁、賀盛谷驛より相浦驛(相浦町)へ至る二・八粁、四ツ井穩驛より臼ノ浦驛(小佐々村)へ至る三・一粁を含む。

【松浦川】　→玉島川

【松浦炭礦】　→世知原村

マツエ　松江

【松江】東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部と成る。

【松江村】三重縣伊勢國飯南郡の東北部。松阪市西北部の西に接し、北は一志郡に界す。全村地形低平にて、南部には一河川東北流す。農業・商業・工業を主生業とし農產物には米(一六三、八三二圓)・麥(二三、五三一圓)・菜種(五、四四〇圓)・大根(二、〇五八圓)・蔴(二二、九一四圓)・鷄卵(四、一〇八圓)等あり。(以上數字昭和十二年)。東部には社線參宮急行電鐵伊勢線が通過して松江驛・松阪北口驛(共に昭和五年設置)あり。村名は松阪市に隣接せるを以て松の字を取り、大字の中にて船江が最も戶數多きを以て江の字を取り松江と名づけしものなり。〔藥師寺(船江藥師)〕大字船江にあり。天台宗。利生山瑠璃光院と號す。天正二年神宣に依りて建立、歷朝の勅願所たりき。織田氏の兵燹にて焚上、後ち紀伊大納言賴宣これを再建す。本尊藥師如來は行基作と傳ふ。

【松江村】和歌山縣紀伊國海草郡の西北岸。和歌山市の西北一粁餘に位し、西南部一帶は紀伊水道に臨む。海岸は平直にして二里ケ濱と稱し海岸線に沿うて丘陵あり。東北部は却て低平にして耕地優塗す。蔴・米の農產と工產・水產・畜產あり。東北部には和歌山市より西北方の加太町へ通ずる縣道走り、また社線加太電氣鐵道ありて東松江驛(昭和五年設置)・中松江驛(明治四十五年設置)あり。

【松江市】島根縣の東部、島根半島の內側にて宍道湖と中海の間に位す。單調なる日本海に面する山陰地方の中部に於て變化を與ふる島根半島、其の內側に二つの湖と出雲平野(簸川平)と松江平野、更に米子平野を後背地とする經濟・政治・交通の一中心として山陰文化の源叢をなし、古城址と水郷に依り古來日本十二景の一に數へらる。市は島根半島を形成する澄水山(五一三米)・枕木山(四五六米)地塊の南端部と中國山脈の主體山地との間に天神川・大橋川を以て僅かに分離する地點に位置す。この地塊部は宍道湖と中海が過去に於て廣く連續せる部分にして、南方の中國山地の天狗山(六一〇米)に源を發する數川の扇狀地式三角洲の土砂が次第に砂嘴をなして半島部と陸繫し、宍道湖と中海を中斷分離せしものなり。蓋し宍道湖と中海の形成は之に先つものなり。即ち島根半島は地形的には三個の傾動地塊にして澄水山・枕木山地塊、宍道湖北岸なる朝日山(三四二米)を主峯とする地塊、出雲大社の背後をなす彌山・鼻高山地塊の三傾動地塊は各々地桑山脈化し、兩も三者共に東北—西南に壓行す。而して中國山脈は孝靈山(七五一米)・寶藏山(一三八米)・八十山(四一〇米)・佛經山(三六五米)と東北より西南に斷層崖をなし、前記三地塊との間に宍道湖中海地溝帶を形成し、今の島根半島は島狀をなせり。南より神戶川・簸川・飯梨川・日野川の三角洲が砂嘴を突出し遂に陸繫島化し、旅川平・松江地狹部・夜見濱を形成し、玆に中海・宍道湖は兩分せしなり。松江市舊城址亀田山(二八・四米)及び樂山の小丘阜、河南の床机山等は當時陷沒を免れし陷沒山地の山頂部たり。斯く此地は北と南に山地を負ひ、中央二大湖を制し、要害交通實に勝れたり。松江市は漸くて城下町として發達せしものにて其の起源は慶長年間堀尾吉晴の築城とす。宍道湖の湖尻が大橋川となりて中海に注ぐ南北岸の地、末永・白潟の二郷を以て城地とし、江中の名產鑑に因み漢土の松江を想合せて松江と名づけ、河北の丘陵亀田山に築城して千鳥城となす。即ち城郭としては平山城なり。城北の鹽見驛の大濠を開鑿し沼澤地なる其の餘土を以て埋立て、母衣・殿町の士族屋敷を作れり。下級士族屋敷として河南の床机山下に屋敷割を施せり。いま殿賀町・本郷町これなり。更に水軍の爲に大橋川沿ひに船付場を設く。いま御手船場町と言ふ。城址はいま公園となり、一郭には縣廳あり。市內は無數の濠が通じ橋また多し。水郷として、古城下町として、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)をして東洋のヴェネーゲと讃美せしむ。床机山南麓には歩兵六十三聯隊が設置され軍都として舊態を留む。市の生產狀況を見るに、工產七、三七一、五三四圓、農產二〇五、一二〇圓、水產一三四、一八五圓、畜產九六、六七一

位を置らせ給ふ。明治八年、兵庫土巻宮に移してその遺志を継ぎ人とし嘉たに明治を出して一社を形成し、祭日祭社と称せしも、のち松江城山に移し松江祭社と改称。明治十三年郷社に列す。〔宮司 足立基祥社〕郷貫町に鎮座。祭神下光比基祥社〕。祭神天照大神・豊受比賣命。合祭神大山祇命・木之花佐久耶比賣命・ちと字の迦ょり出約一丁位なる字賀夏記録のは母の小屋に鎮坐ありしが寛文六年現社地に移築を始祭す。明治初年神社に列し、のち郷社に昇格す。〔宮司 足立基祥社〕

マツエ 松江 【松江市】 市の中心部に鎮座。祭神、素盞嗚尊・天照大神外三柱。祭祭、祭日明治・春日祭日・秋祭日・例祭日・出雲風土記に見ゆる国譲者社名称は一説。出雲風土記に見ゆる国譲者社と称ふ。明治、十月十九日。〔宮司 足立基祥社〕今市

從事し商工業の見るべきものなき、附近に米産多きと、町内に縣外移出を取扱ふ米商あるため縣下有數の米穀集散地たり。縣道は丘陵の麓を東北に走り横芝町に入る。省線總武本線これに沿ひ中央に松尾驛(明治卅一年設置)を置く。その他九十九里濱海岸に通ずる縣道ありてバスを通ず。此地は和名抄、武射郡片野郷の内にして、慶應二年、遠州掛川藩主太田氏この地に封ぜられ、主從八百戸を具して此地に轉住せし爲、一時殷賑を極めしことあるも、廢藩後の主從皆東京に出で或は歸郷せしため再び元の農村落に歸せり。明治三十一年、町となる。附近は海水浴場として知らる。

【松尾村】 長野縣信濃國下伊那郡の中部。飯田市の東南約二粁にして天龍川の右岸に臨む。村の北境に松川の浸蝕谷あり。村は松川と天龍川の合流點に位置し、北は松川を隔て飯田市、西は鼎村、南は龍丘村にして、天龍川を挾みて東は下久堅村と對す。村は天龍川が伊那谷に形成せる段丘上に位置し、河岸より四二〇米にて第一段丘、五〇〇米にて第二段丘と漸次地を成す。斯くして松川が西方木曾山中より發し、東西の方向に天龍川岸の幾多の段丘に浸蝕せし謂ゆる田切の地形を成す。村内には城と稱する部落あり、また八幡社と言ふ古社あり。この前者は第一段丘、後者は第二段丘の段丘崖上に位置する景勝地なり。往時これを利用して城砦を築きしもの。天正年中、小笠原氏の居城にて、小笠原遠江守光康此處に居りしは永享年間にて、弘治二年、武田信玄伊奈郡を征服し、松尾の小笠原掃部頭信嶺之に降伏す。天正十年、信嶺は德川氏の軍に投じ本領を安堵し十八年從ひて江戸に赴き、其の子孫越前勝山城主となる。村は西部第二段丘上の耕地は殆ど桑園化し、第一段丘は水田化す。即ち此等の水田は第二段丘の礫層より浸透せる水が地下水となりて、其の段丘崖に湧水するにより、これを利用し、更に松川の水を分水して用水とす。第二段丘崖の湧水部に沿ひ集落發達す、毛賀・八幡・代田等これなり。桑畑は全耕地の七五%に達し水田約二二%にて養蠶を主體とする穀養農村なり。副業生産としては水引・凍豆腐・製紙等あり、溪流水を利用する養鱒業も行はる。經濟的に見れば伊那谷の典型的農村を示す。〔八幡社〕縣社。祭神、譽田別命・息長足姫尊・武内宿禰。康平五年石清水八幡を勸請すといふ。小笠原氏の崇敬厚し。例祭、十月五日。

【松尾山】 岐阜縣不破郡關ヶ原町にある山。關ヶ原の平地の西を抜く百餘米の獨立せし小山なり。關ヶ原戰役に於て東西兩軍が對陣せしとき、西軍の小早川秀秋が陣を布きし處なり。當日、朝霧が晴れて見たるに東西兩軍は關ヶ原の中央に東西各兩面に對陣し互角の形勢にて、ただ小早川の軍勢のみが西軍の最右翼としてこの松尾山の上にあり、兩軍を等分に瞰下し、キャスチングボートを持ちし如き地位にあり、この小早川の向背により兩軍の運命を決する事になりしは、地勢の齎す軍略上の特性なりき。東軍の家康は、豫て小早川秀秋の內應の約あるを恃みゐたりしが、戰酣めども小早川の陣營容易に向背を示さざるため、家康は大いに焦慮し、空銃を小早川の陣に向ひて放ち、漸く小早川の決心を早め、これにより西陣の左翼を攻撃せしめ、大勝の近因を作れり。

【松尾村】 三重縣伊勢國飯南郡の東北部。花岡町を挾んで松阪市の西にあり。東西に稍細長く、西境は三角形の尖端狀をなす。西半は西方に蜷ゆる堀坂山(七五七米)の東斜面をなし、山麓は中部にて臺地狀をなして終る。東部は低平なる伊勢平野の一部をなす。東南隅にも小丘陵あり。東南部には一河川が東北流し花岡町に入りて其の西部を掠め、再び本村東北部に流れ入り東北流して松江村を過ぎ松阪市に入る。純農村にて住民二二九二人中、九割五分は農耕に從事して生計を立つ。産物は米・麥・野菜・繭等を主とし、近年は果樹の栽培盛んにして松尾桃・松尾蜜柑の産價高まり將來を有望視さる。東南部には和歌山街道が松阪市より延びて通過し、自動車の便あり。〔松尾神社〕大字立野に鎮座。郷社。祭神、大山咋神。一に松尾明神と云ひ、式内立野神社に充つる說あり。古來領主の崇敬篤きものあり。例祭、二月十一日。

【松尾】 京都府葛野郡にありし村。大正六年、京都市に編入す。

【松尾村】 香川縣讃岐國大川郡の中部。津田町の東南に當り、東は丹生・譽水の二村に、西は富田村に、北は鶴羽村に、南は五名村に界す。讃岐山脈北斜面の地を占め、三—五百米餘の山岳起伏して山地をなし、僅に西部中央に低地ありて農耕を營む。西南山地より津田川その源を發して北流す。山地は荒地多し。用材・薪炭等を出し、低地よりは米・麥を産す。中央部をほぼ東西に縣道通り、西方の長尾町へバス通ず。此地は和名抄、讃川郡雚城郷の內なるべく、延喜式に讃岐の驛路を引田・松本・三谿と載す、この松本は本村の地か。

【松尾村】 熊本縣肥後國飽託郡の西部。坪井川の河口右岸に位し、島原海灣に臨む。東は高橋町を隔てて熊本市なり。金峰火山彙の西南斜面にして、東北境に金峰山(六六六米)聳え、山麓數條、西・南・東南に出づるも、白川より分流し南境を割して海に入る坪井川沿岸と海岸とに平地ひらけ、米・麥等を産す。河口に百貫石港あり。良港ならざるも、熊本市に出入の海運は皆船舶を此に繫留す。百貫石より熊本市へバス及び社線熊本電氣軌道線の電車あり。〔雲巖寺〕大字平山にあり。曹洞宗。寶華山と號す。天平寶字年間、異域より漂流の觀音を洞窟に祀りしに始り、貞和十年、大元明州の東陵永興來朝、錫を此地に止め、靈力により洞窟前の淵水の潤るを得て堂舍を建立す。本尊、四面馬頭觀音像。東陵永興禪師倚像(木造)一軀は國寶。

【松尾嶽山】 ↓東米良村(宮崎縣)

マツオカ

松丘村 千葉縣上總國君津郡の東部。久留里町の南隣にて小櫃川に沿ふ。全村丘陵地にて森林多く、中部はその褶合にて小櫃川北流し、流域の狹き平地には農業行はれ米・麥を産し、繭・鷄卵の産も多し。縣道川沿ひに通じて北は久留里町、南は鴨川町方面に通ず。省線久留里線の平山驛・上總松丘驛(共に昭和十一年設置)あり。この地は中古、畔蒜莊亀山郷と稱せし地にして、大字廣岡には千本城址あり、里見氏の家臣、東平安藝守の居城なりとも、里見梅王丸の母の兄弟が城きて之に居りしとも云ひ、天正十八年、豐臣氏東征の時、城廢す。大字大戸見に登城址あり、里見氏の時、天文二十年二條若狹守初めて之を城く、大野山城守・大野駿河守相繼いで之に居りしが、同じく豐臣氏東征の時、城陷り、駿河守自盡す。また此地に三本松陣屋址あり、松平大和守陣屋を設け、代官を置き房總中の封土五萬石を管せしめしが、明治の初め廢す。〔大原神社〕大字平山に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命・天太玉命。古來地方の崇敬篤く、例祭には附近五十數箇村より參詣すといふ。例祭、八月十五日。

マツオカ

松岡 ↓山田村(秋田縣雄勝郡)

【松岡鑛山】 茨城縣常陸國多賀郡の中部。太平洋に臨み、南は高萩町と隣す。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、西境は約六〇〇米にて東方に傾斜し、東流する關根川下流には平地ありて農業行はれ、米・麥を産す。また特産物には柿あり。中部には常磐炭田の手綱炭坑あり。陸前濱街道は東部を北走し、省線常磐線また之に沿ひ、南隣高萩町の高萩驛に出づるに便なり。本町內或は他町村に跨りて幾多の石炭鑛區あれども松岡町に關聯する主なる炭礦は左の如し(産額は昭和十年の年産、重は重要鑛山、準は準重要鑛山)。但し詳細は高萩炭礦に就きては高萩町を、千代田炭礦に就きては千代田炭礦を、中郷炭礦に就きては中郷炭礦を見よ。此地は和名抄、多珂郡多珂郷の內にて、大字手綱は清和源氏、佐竹氏の族、この地に手綱氏を稱し、萬葉集第七卷に「遠妻し高にありせば知らずとも手綱の濱の尋ね來なまし」とあるは此地なり。天文地理の大家たる長久保源五郎(贈從四位)は本村の出身者たり。

【松岡町】 福井縣越前國吉田郡の中部。九頭龍川の左岸。福井市の東北約六粁。勝山街道に沿ひて發達せる街村にて、九頭龍川谷口を扼す。東西に細長く東南部に二百米前後の丘陵あり、九頭龍川は北部を西流し流域は土地平坦なり。町は機業地として榮え絹織物を主産し、酒その他の工産及び農産これに次ぎ、水産・林産・畜産業も多少行はる。東西に社線京都電燈越前電氣線貫通し、觀音町・松岡の二驛(共に大正三年設置)を置く。縣道また之に並走し北より來る一條を合す。昭和五年に町制を布く。町內の柴神社を延喜式坂井郡の柴神社なりといふも不詳。此地は正保二年、國主忠昌、その次男中務大輔昌勝に五萬石を分賜し、邸を置きし地。享保二年、昌勝の嫡子內匠頭昌平は本宗昌親の讃を受けて綱昌と改名し、松岡邸はその弟中務大輔昌平に給ふ。然るに綱昌事を以て除封、廿五萬石の封を隱居昌親に賜ふ。昌親改名して吉品といひ、昌平の弟吉邦を養嗣として寶永七年讃國し、享保六年卒す。よりて昌平に本宗の封土を併賜せられ、昌平は改名し宗昌といふ。松岡邸ここに廢す。

鑛山名	鑛區所在地	産額(噸)	備考
高萩	松岡町・高萩町・黑前村・櫛形村	二九、一〇〇	重
千代田	松岡町・市中郷村	一六、[illegible]	準
中郷	松岡町・市中郷村・磯原町	四三、[illegible]	準

【松岡郡】 大分縣豐後國大分郡の東部。大野川の左岸に位し、對岸は北海部郡にして、大分市の東南方約七粁。西半は山地にて東方に緩傾斜し、東半は平野にて南境より東境に沿ひて大野川が流れ北方約八粁にて別府灣に注ぐ。農耕よく行はれて米・麥・繭を産す。縣道は東部を南北に貫通し、南隣の戸次町及び北方鶴崎町へバスの便あり。此地は和名抄、大分郡判田郷の內なるべく、弘安國田帳に「判大郷三十町國領地頭大友云々」とあるは此地なり。大友氏の族、松岡氏の起りし所。大字毛井に松岡城あり、探題の少貳氏經と一族の籠りし所。

マツオデラ

松尾寺 省線小濱線の一驛(大正十一年設置)。京都府東舞鶴市にあり。

マツガエ

松ケ江

【松ケ江】 福島縣相馬郡にありし村。昭和四年に中村町に編入。

【松ヶ江村】 福岡縣豐前國企救郡の東北部。企救半島の東面に位して周防灘に臨み、北及び西は門司市に界す。西部には山脈が南北に連り東岸は截れ平野をなすも、南部には雷ヶ嶽山ありて海に迫る。米麥を産し、また水産あり。東部には縣道南北に通じ、西南約四粁の省線日豐本線曾根驛へバスの便あり。附近町村と共に要塞地帶に屬す。

マツカサ 松笠村　島根縣出雲國意石郡の北部。東は佐香村、西は東須佐村、北は多根村に、西南は波多村に接す。面積一八・九平方粁。中國山脈の北斜面にある山村にて、四境山を繞らし、中央は南に流れる一六百米の高地を保ち、西部は中央には八百尺ヶ丸山（六八七米）聳え東北方に低減す。平地少しけれども山間の回地に耕作やや行はる。米・麻・木炭・木材等を產す。本木町（大原郡）・今市町（雲川郡）にバスの便あり。この地方古くは和名抄、高石郷多數郷に屬す。村内に祖頭神社あり、高さ約四一米、幹約四米半、岩鼠に石像を安置し無明窟を記る。いま名勝に指定さる。

マツカサキ 松ヶ崎

【松ヶ崎村】東田縣羽後國田利郡の西部。日本海に面し、東北は秋田市に接し、西は日本海に面す。現在人口高に高く、西方に向新潟に接し、北は北部を西流し、その南に二百川・泉川等の小河を合西流す。北部に水田あり。海岸は平坦にして砂濱なす。米・麥を產し、小漁業なれども農業行はる。海濱・手形・鳥・大方面へ出稼をなす者多し。酒田町濱は海岸に沿ひ南北に通じ、名勝羽後本線羽後亀田驛（大正九年設置）は大字松ヶ崎にあり。此地に和名抄、河邊郡田郷鈴に屬せらる。〔八幡神社〕大字松ヶ崎に鎮座。祭神、面倉天皇。一に稚宇山八幡宮と稱す。境内平中、岩に刻入銘文と稱す。境内平中、岩に石像を安置し無明窟を記る。いま名勝に指定さる。

【松ヶ崎村】本田縣羽後國田利郡の西部。日本海に面し、東北は秋田市に接し、西は日本海に面す。現在人口高に高く、西方に向新潟に接し、北は北部を西流し、その南に二百川・泉川等の小河を合西流す。北部に水田あり。海岸は平坦にして砂濱なす。米・麥を產し、小漁業なれども農業行はる。海濱・手形・鳥・大方面へ出稼をなす者多し。酒田町濱は海岸に沿ひ南北に通じ、名勝羽後本線羽後亀田驛（大正九年設置）は大字松ヶ崎にあり。此地に和名抄、河邊郡田郷鈴に屬せらる。〔八幡神社〕大字松ヶ崎に鎮座。祭神、面倉天皇。一に稚宇山八幡宮と稱す。境内平中、岩に刻入銘文と稱す。境内平中、岩に石像を安置し無明窟を記る。いま名勝に指定さる。

【松ヶ崎村】秋田縣羽後國仙北郡の東南部。雄物川の西に位し、東は秋田市に接し、西は金足村に接し、南は雄物川を隔てて新城村に接し、北は秋田市に接す。面積一二・〇七平方粁。村内の地は一帯に平坦にして、中央に二百川の流れあり、その東に社線金足行の電車通ず。大正八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、大正十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和五十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和六十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和七十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和八十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和九十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百二十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百三十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百四十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百五十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百六十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百七十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百八十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和百九十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百二十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百三十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百四十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百五十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百六十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百七十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百八十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和二百九十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百二十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百三十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百四十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百五十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百六十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百七十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百八十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和三百九十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百二十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百三十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百四十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百五十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百六十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十七年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十八年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百七十九年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十一年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十二年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十三年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十四年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十五年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十六年、鉄道省大学校ヶ崎に線を開設し、昭和四百八十七年、鉄道省大学校

之に合し平地多し。地味肥沃にして農業を主とす。牧畜・工業稍々行はる。米・繭・木材・木炭・酒・醤油・家畜等を産す。省線山陰本線の淺利驛・黒松驛に近く自動車の便有り。もと松山村・下松山村の二村に分れしが、昭和九年に合併して松川村と名づく。〔大原彦神社〕村社。祭神、大音彦三熊大人・豐受姫神。式内社。例祭、十二月三日。

マツギシ　松岸　省線德武本線の一驛(明治三十年設置)にして、成田線に接續す。千葉縣銚子市にあり。

マツク　眞繼　丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡眞繼郷あり、その地今の多紀郡福住村の邊に當る。

マツクサ　松草　省線山田線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣下閉伊郡門馬村にあり。

マツクラ　松倉

【松倉鑛山】→湯川町(北海道渡島支廳)

【松倉村】　富山縣越中國下新川郡の西南部。早月川右岸に沿ひ、西及び南は中新川郡に界す。魚津町の東南約四粁に當り東部・南部に山地を負ひ西北へ傾斜す。早月川は西境を峡谷をなし西北流し、角川村内に發し北流し魚津町より海に入る。耕作地は西北部にあるのみ。他は擁れ森林をなす。農業を主生業とし、米を主産す。また用材・木炭を産す。魚津町より縣道來り、村内の北山鑛泉との間にバス通ず。當村内に鑛區三五萬餘坪を有する松倉鑛山あり、鑛種は金銀銅鉛亞鉛なるが、昭和十年の試掘に於て金鑛一二一瓩を出すに及び事業稍々その著に就くに至れり。此地は近世、加積郷と稱せし地にして、大字鹿熊に椎名氏の故墟あり。〔松倉城〕大字鹿熊に址あり。椎名氏累世の居城。正平二十一年、桃井直常、井日城に據り、足利義時に攻められ、九月、此城に入る。椎名勝鳳・長尾景虎に叛く。天文十四年、景虎攻めて之を復き、のち勝鳳の子泰種これに據る。永祿六年、謙信これを取りしも、泰種恢復し武田信玄に屬す。尋で謙信の有に歸す。天正十年、柴田勝家・前田利家の諸將これを攻めしが、上杉景勝來りて援く、依て森長可、背面より春日山を襲はんとす。景勝急に退き、松倉城陷つ。〔北山鑛泉〕醫療鑛泉。療養向。日本北アルプスを負ひ、前は新川の平野を隔てて有磯海を見下し、眺望よし。慶應三年の頃、一女が產後の患に既に命も危かりし折柄、ある夜、北山氏神の祠の後より沸く水を湯かし入湯すれば癒るべしといふ神告を受け、發見せりと傳ふ。ここより二粁の處に坪野鑛泉あり。

マツサカ　松坂

【松坂】　愛知縣幡豆郡にありし村。明治卅九年豐國村と共に廢し豐坂村を置く。

【松坂村】　德島縣阿波國板野郡の西部。東は板西町に、西は大山村に、南は榮村に界し、北は香川縣に隣す。北には高さ數百米の山岳重疊して南に傾斜す。南は吉野川左岸の段丘上に延びて低平なる地ななす。灌漑の便宜しく、耕作よく行はる。米・麥・繭の產あり、殊に生糸製造は近年盛んとなる。山麓下の低地を東西に縣道貫通しバスの往來繁し。省線鐵治屋原線その南側を走り大伏・麻漢の二驛(共に大正十二年設置)を設く。古くは、和名抄、板野郡山下郷の内なるべし。〔八幡神社〕大字矢武に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。例祭、九月二十七日。〔大日寺(黒谷寺)〕大字黒谷にあり。古義眞言宗。黒巖山遍照院と號し、俗に黒谷寺といふ。創年不詳。本尊大日如來(傳空海作)。四國八十八所第四番の札所。御詠歌「ながむれば月白妙の夜半なれやただ黒谷にすみぞめの袖」〔地藏寺〕古義眞言宗。無量山莊嚴院と號し、四國八十八所第五番の札所。寺内に五百羅漢堂あり。御詠歌「六道の能毛の地藏大ぼさつみちびきたまへこの世のちの世」

マツザカ　松阪

【松阪市】　三重縣の中部。縣廳の所在地津市と神宮の所在地宇治山田市との中間にあり。東は飯南郡朝見村・西黒部村に接し、東南は櫛田村、南は花岡町、西北は松江村を境とし、東北は伊勢灣に臨む。市の西北を阪内川流れ、其の河岸に沿ひて舊城址龜甲山(鶴城、また蒲城)あり。天正十三、四年頃、蒲生氏郷の築城以來の城下町なり。氏郷、先住地なる一志郡松ヶ島より住民を此地に移し、尙ほ新たに舊居城近江日野より商民を招致し、また度會郡大湊の海港民を移住せしめ、城下町を形成せり。松阪の地は古代、汎く「イセ」と稱せし此時に松阪と名附く。この域の經濟的地位を見るに、南伊勢平野の中央に位し、此の平野は櫛田川・雲出川の三角洲によりて伊勢海に堆積せる海岸平野なり。西部は堀坂山(七五七米)經ヶ峰(八二〇米)南北に連り、其の延長は鈴鹿山脈に續く。從つて堀坂山・經ヶ峰の東麓は鈴鹿山脈の東邊斷層崖に連續するものにて、鈴鹿川・雲出川が其間を浸蝕し、東西の斷層による地塊運動も加味され分離せしものと思はる。斯くして南伊勢平野は幅約一六粁を以て伊勢灣に並行する地域にして、米・麥を主作物とし、西部山麓に於て桑畑・茶畑化され、また江戸時代より菜種の產地として著聞す。城址は阪内川の河岸の小丘陵にあり三層に畠を設け全面積二町七反餘、現在は松阪公園となり其の舊型を留む。町名に日野町・湊町ありて城下町發生當時の人口集中を偲ぶ。海上との連絡は松阪港による。此港は阪内川の三角洲大口地先に新に埋立により築港が完成せしもの、舊時は大口・高町屋が利用せられ、いま中心主要市區より松阪電車にて大口に達す。松阪港は南伊勢に於ける唯一の良港にて内務省指定港灣となり、木材・薪炭等を移出し(昭和九年移出高二五七萬圓)

砂糖・織物・メリヤス・鑛油等を移入(移入高三八六萬圓)す。市の主產物たる綿織物は古來松阪縞と稱し、正耐堅牢を以て名ありしも、時勢の變遷に依り近時品質一變し、多く無地物を產す。近時に於て綿織物以外に、生絲・絹織物・人絹織物・綿糸等の纖維工業行はれ、其の年產額一二六二・五萬圓に達す。其他、金屬工業・飲食料工業・錄工業を加へ工業都市として發展を來せり。工場地帶は市の東部より南部の舊市の郊外に位置す。主要工場には松阪木綿・織田紡績・關西製糸・宮川紡績等あり、以上の職工數のみにて三九〇〇人に達す。更に男女對人口數に就きて見るに、女の男より超過すること三、三〇〇人(昭和十年)にて、松阪市が纖維工業都市たる色彩を人口上にも示す。市の教育的施設には工業・商業・高女等の中等學校あり。國學の大家本居宣長の遺跡として松阪公園内に鈴屋あり、天明年間建設の書齋を始め其の母屋の全部を留む。本居神社は古來時鳥の名所として知らるる四五百森にあり。小丘上に位し、縣社として高弟平田篤胤と合祀す。翁の舊宅は松阪市魚町にあり。市の特產に松阪萬古燒・櫛川鎚あり。また附近山地の牧牛は此地に集散され、松阪牛肉として東京・大阪・名古屋に出荷さる。市は古來參宮街道の一驛たりしが、いま省線參宮線通じて松阪・德和の二驛(共に明治二十六年設置)あり、東京より宇治山田行の列車直通して此地を過ぎ、これと並走する社線參宮急行電鐵ありて花岡驛(昭和五年設置)設けられ、松阪驛よりは一志郡八幡村に向ひて省線名松線を分ち、東には社線松阪電氣鐵道を出し、平生町(大正元年設置)・茶與町(昭和三年設置)を經て大石に達し、交通至便なり。此地古代「イヒ」と稱せる地なりしが、大化の國郡制定の際に、飯高の地に屬し、中世には神領域となり、のち北畠國司の治下に屬し、元亀元年に至り、その臣潮田長勘始めて四五森(宵森)に城を築く。天正十六年、蒲生氏郷は一志郡松ヶ島より來り、住民をこの地に移し、前封地なる近江日野より商民を招致し、また度會郡大湊の海港民を移住せしめ、市街を形成せり。天正十八年、氏郷は會津に移封され、同十九年服部晏女正一忠、蒲白秀次の命に依り松阪城主となり、文祿四年、古田兵部少輔重勝これを領す。慶長十一年、重勝の病歿するや弟古田大膳太夫重治の領となり、天和五年德川頼宣の管轄に屬し、維新後廢藩置縣に及び度會縣の所轄となりしが、明治九年、度會縣を廢して三重縣に屬し、同二十二年市町村制の實施と共に町制を施行す。その後、大正十年隣村鈴止村を合し、同十三年港村を二分して東六大字を分離合併せしため地域人口頓に增加し、また大日港を移して松阪港と改稱し、港灣修築事業成りて益々繁盛に赴けり。昭和六年隣接神戸村を合併するに及び、地積人口共に郡市的資格を具ふるに至りしを以て、同八年に二月市制を實施す。好色一代女・六「我古市を立のき流れは同じ道筋、松坂に行て旅籠屋の人待女となりて盡は心まかせの樂寢して八つさがりより身を捨へ所からの伊勢白粉髮は正直のかうべに油を付、天の岩戸の小間より出女の面しろふ〳〵と見せて、講參の通し馬を引込是擂粉の旦那、それは備後のおつれさきと其國里を、ひとりも見違へる事なく其所言葉をつかひうれしがる濡掛けや宵朝の締めもなく」〔松阪公園〕舊松阪城址一帶にて、丘陵に據り三層に畠を設け、往時の城郭其儘なるを以て四季共に遊覽地として絶景を有す。中層に有名なる櫻樹あり凡そ百年を經過し花時頗る美觀を呈す。明治四十三年十一月大正天皇の東宮に在せし時行啓あり、記念のため御手植あらせられし松あり。また行啓記念館は本公園の西北隅に在り、その一部に圖書館を設く。其他本居宣長翁の書齋・母屋全部・遺物・南龍神社・表忠碑・頌德碑等あり。〔本居神社〕松阪殿町に在り。縣社。祭神、本居宣長。相殿神、平田篤胤。宣長の歿後、明治七年孫信郷等相謀りて社殿なその墓の傍に造營し、篤胤の靈を配して山室山神社と號す。同十三年勅使參向金幣下賜され、同廿二年松阪市に遷座、大正四年現地に移し、昭和六年に本居神社と改稱す。社殿は本殿・拜殿その他にて境内千五百四十二坪あり松阪公園に接す。〔本居宣長墓〕指定史蹟。本居神社境内に在り。宣長生前この地を卜し、歿後門人等これを建立、遺命により墓標には松樣の二株を植ゑ、前に「本居宣長奥墓」と誌せし石を建つ。宣長の自筆なり。〔本居宣長舊宅(鈴廼舍)〕指定史蹟。松阪公園の南隅、景勝の地に在り。もと宣長の生地、魚町にありしが明治四十二年當地に移す。自作像・稿本及び居常愛玩の古鈴等存す。宣長は享保十五年五月七日松阪の商家に生る。幼名は富之助。幼より讀書を好み、强記絶倫にて漢籍・謠曲を學び、母の勧めによりて都に上り、武川幸順法眼に就き醫術を修め、その間、儒學を堀景山に學ぶ。宣長、京に在りし時、百人一首改觀抄」を見て始めて契冲の說を知り、のち賀茂眞淵の「冠辭考」を讀みて思慕の念切なるものあり、たまたま眞淵の松阪に寄りし時宣長志を告げ師弟の約を結ぶ。宣長は眞淵の言に勵まされ、翌年三十五歲の時始めて「古事記傳」の稿を起し、六十九歲に至りて稿成る。この間、寛政六年六十五歲の時、領主紀州侯に召されて古文・古歌を進講し、また京に上りて中山大納言その他の公卿に延喜式・萬葉集を講じ、爲めに國學の靈を配して山室山神社と號す。著書に、古事記傳・古今選・石上私淑言・すげがさ日記・眞暦考・國號考・神代正語・鈴屋集、其他三十餘篇あり。宣長書齋に赤き紐に通せし小鈴三十六を懸け置き、之を鳴らして

譜を遣りしにより家號を鈴の屋と稱す。享和元年九月二十九日、七十二歳を以て歿し、明治十六年に正四位を、同三十八年從三位を贈らる。〔八雲神社〕松阪日野町に鎮座。縣社。祭神、健速須佐之男命。傳に依るに、貞觀十二年に伊勢國松ケ島町に勧請せしものと云ふ。例祭、陰曆八月十三日。〔松坂神社〕殿町に鎮座。郷社。祭神、警田別命・宇迦魂命・建速素盞嗚命。少彦名命・大國主命等六柱を合祀す。延喜の制、國幣の小社に列す。領主蒲生・服部・吉田等の諸氏及び江戸時代には紀州の徳川氏篤く崇敬せり。例祭、四月十五日。〔御厨神社〕大字松坂に鎮座。郷社。祭神、建速須佐之男命・市杵島姫命・奥津姫命・應神天皇等九柱。本社は伊勢神宮の御厨の地に發達せし社にして、舊領主紀州徳川氏崇敬を致せり。例祭、九月十七日。〔南龍神社〕松阪殿町に鎮座。無格社。祭神、徳川頼宣。明治八年創立。〔曰盛松寺〕松阪中町にあり。眞言宗。通稱は岡寺。三津正信、二見ヶ浦にて經書像を拾ひて出家し、繼松と號し、天平勝寶二年に當寺を創建せりと傳ふ。岡寺版と稱する韓天壽の墨帖を藏す。〔樹敬寺〕新町に在り。淨土宗。本居家累代の墓所にて、宣長の眞墓は花岡町山室山に在るも、墓碑は當寺内にも在り。墓石に高岳院石上道啓居士・圓明院清室恵鏡大姉と刻す、即ち夫妻の法名なり。其後に春庭の墓あり、明章院通元道永居士・雅静院淑和慧厚大姉と刻す。共に指定史蹟たり。春庭は宣長の長子、幼名を健藏、のち健亭と改む。若くして眼疾を病み、世二歳にして竟に失明せり。世三歳京に上りて鍼法を學び、九年歸りて鍼醫となる。幼より父の側に在りて和漢の學を修め、中年に明を失ひし後も苦學倦らず、詞の八衢・詞の通路等の名著あり。文政十一年十一月歿。年六十六。大正十三年に正五位を贈らる。

【松阪電氣鐵道】私設鐵道。松阪市及び三重縣飯南郡内を走る。省線參宮線松阪驛(松阪市)より分岐し、花岡驛(花岡町)・射和驛(射和村)などの諸驛を經て大石驛(大石村)に至る二〇・二粁及び平生町(松阪市)より分岐して大口驛(松阪市)に至る二・八粁を含む。なほ花岡驛にて社線參宮急行電鐵と接續す。動力は電氣・蒸氣・軌間〇・七六二米にして、省線と連帶運輸をなす。

マツサキ　末崎村　岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七粁。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定地山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は謂ゆる三陸のリヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎・煙の農産物及び柔魚・鰒・鮑・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。〔碁石海岸〕指定名勝。宇大濱の海岸。堅き砂岩と脆き頁岩との互層より成れる白堊紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶼・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。〔館ヶ崎角岩岩脈〕指定天然記念物。宇西館にあり。白堊紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと極めて稀なるよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

マツサキ　松前　佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に羽茂郡松前郷あり、萬郡佐木と訓ず。その地今の佐渡郡小木町に當り、延喜式の佐渡國松崎とあるは此れなり。

マツザキ　松崎村

【松崎村】岩手縣陸中國上閉伊郡の中部。遠野町の北に接す。北上山地の南部に位し、西境に高清水山(七九八米)、北境に天ヶ森山(七五六米)、東南境に八幡山(四〇九米)聳え、東北境は海拔約八〇〇米にして、西部及び東北部は山地をなし、猿ケ石川は北方より來りて村の中部を南流し、東方より小鳥瀬川を合し西南に流る。沿岸は遠野盆地に屬して平坦なり。村の生業は農を主とし、米・麥・大豆・粟・稗・馬を產す。工產には煉瓦・土管類あり。道路は村の南部を西南に通じ、遠野町へはバスの便あり。省線釜石線遠野驛へは約四粁あり。此地に護摩堂城址あり。文治の頃、阿曾沼四郎義綱ここに居り、遠野を以て氏となす。數世の孫業が正平年中、南部遠江守政行に屬せしが、天文の頃坂きて獨立す。鍋倉城に移るに及び廢す。〔八幡神社〕大字白岩に鎮座。郷社。祭神譽田別尊。建保年中、阿曾沼親綱の創祀に係ると傳ふ。南部氏の崇敬厚かりき。例祭、九月十四日・十五日。

【松崎町】靜岡縣伊豆國賀茂郡の西部。南に岩科村、東に中川村、北に仁科村あり、西は駿河灣に面す。安山岩及び第三紀層の山地を開析せる中川は中部を貫き河口に近く八木山川と合し、町の中央に沖積地あり。市街は西海岸に面し松崎灣を前に控へ、往時漁港として繁榮せしも、後背地狹く一地方的中心に過ぎず。田方郡三島町へ五五粁、下田町へ二五粁、沼津市とは汽船の定期航路あり。物產には鰹節・石花菜等あり。西方海岸は岩壁鋸齒の如く勝地多く、松崎八景・相生堂・海水浴場等あり、名勝として指定さる。此地は和名抄、那賀郡那賀郷の内。明治三十四年に町制を布く。〔伊豆西南海岸〕指定名勝。伊豆半島の西岸及び南岸の一部を占め、田子の島より石廊崎を經て竹麻村の東端に至る間の海岸にして、斜長石英粗面岩・石英安山岩・輝石安山岩及び凝灰岩を主體とし、地質關係の頗る複雜多樣なるに加へて伊豆半島中、波濤最も激甚なる部分に屬し、太平洋岸稀に見る勝景を作成せるものなり。本海岸は風景上及び地質上、堂ヶ島・波勝・石廊崎の三海岸の三部に分つを適當とす。堂ヶ島海岸は白色の浮石質凝灰岩より成れる波蝕海岸にして、岩上に松樹茂り島列の間靜かなる江灣を抱き大小の島嶼その附近に散點せり。天窓洞の如き特色ある洞窟あり、其の南なる波勝海岸は大部分淡青灰色の石英安山岩より成り、北部には暗灰色の集塊凝灰岩現はれ、その前者より岩質堅硬なるため波勝崎・雲見淺間崎間に雄大無比の大絶壁をなし、其の一部赤褐色を呈する部分を波勝赤壁と云ひ景中の王座を占む。附近に千貫門の大洞門あり景趣を添ふ。南部の石廊崎海岸は大部分が暗黑色の輝石安山岩質の集塊熔岩より成り、石廊崎の大岩壁、義掛島の奇巖、手石彌陀窟の奇勝等その間にあり、また斜長石英粗面岩・輝石安山岩・トラキ安山岩等の諸岩交雜し諸種の岩脈これを貫きて島嶼岬角・岩窟・小灣の出入多く、變化に富める海岸風景を構成せり。松崎以南、波勝崎に至る間の山上には赤松の影を碧波に滴すあり、岩石の褐色と相俟つて色彩交雜の美を極む。彌陀窟・辨天島附近の松林また大いに景趣を添ふるを見る。

〔伊那上神社〕宇宮内に鎮座。郷社。祭神、積羽八重事代主命。もと三島宮・上之神社と稱す。式内社に充つる説あり。古來那賀郷の總社と稱され、武家・武將崇敬せりと傳ふ。例祭、十一月四日。〔下之神社〕宇松崎に鎮座。郷社。祭神、彦火火出見尊・住吉三柱大神。式内伊那下神社に充つる説あり。鎌倉時代より有勢の神社として著はれ、爾來領主・奉行の崇敬篤く、江戸時代には社領五石を有せり。一名、石火宮・唐大明神。

【松崎村】鳥取縣伯耆國東伯郡の東部。東郷池の東南岸に位し、北は倉人村、南は東郷村に挾まれたる小村なり。面積〇・二九方粁。地は湖畔平野上に存して平坦肥沃、米の產額多し。湖畔に松崎温泉の湧出あり、無色透明の鹽類泉にして且つ風光明媚の地なれば訪客絶えず。省線山陰本線の松崎驛(明治三十七年設置)は東郷村の地籍に置く。山名氏入部の時に治所を置きし地なりと。いま東郷村と組合村をなし、役場を本村に置く。

マツサト　松里村　山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。笛吹川上流左岸に沿ひ、鹽山町の西北に接す。ほぼ南北に狹長にて北より東境にかけては千米餘の山脈連亙し、西境を南流する笛吹川の谷に急斜す。西南部は扇狀地間け、桑・米等の耕作に適す。養蠶を主とし、繭・桑の產額最も多く、次いで米・麥等の農產あり。笛吹川流域には發電所多く縣下第一の發電地帶に屬す。鹽山町より縣道來りバスの便あり。省線中央本線鹽山驛へ約三粁なり。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内。

〔鈴庫鎮山〕鎮區は松里村と玉宮村とに跨りて一四萬餘坪、鎮種は金銀鉛礦にて埋重要鎮山たり。昭和十年には金鎮三六八瓩(その價額約四萬九千圓)を產し、同年六月末の鎮夫數は四十五人。〔松尾神社〕郷社。祭神、大山咋命・足仲彦尊外四神。式内社。景行天皇四十一年の創建といふ。例祭、八月十五日。〔惠林寺〕大字松里にあり。臨濟宗妙心寺派。乾德山と號す。開創は出羽守藤原道鑑、開山は夢窓國師。天正十年に織田氏の軍に焼かれ、天正十三年に徳川家康は瑞易をして再興せしめしも、明治三十八年再び炎上、爾後再建して寺觀漸く恢復す。四脚門・太刀(銘來國長、柄絲卷太刀)・短刀(銘備州長船倫光、應安二年八月日)は國寶。境内には武田不動尊・武田信玄廟所あり。信玄の死後、天正四年四月その遺骨をここに葬り、靈屋建立せられしも天正十年兵火に罹り鳥有に歸す。今の廟は寶永二年禪譯吉保の造營に係る。〔放光寺〕大字柚木ノ内にあり。新義眞言宗智山派。高橋山と號す。賀賢僧都の開創と傳ふ。初め萩原郷高橋にありしが、建久二年、現地に遷す。天正年間に織田氏の兵燹に罹り悉く鳥有に歸せしも再建す。本尊、木造大日如來坐像一軀。護摩堂本尊不動明王立像(木造)一軀・愛染明王坐像(木造)一軀と共に國寶に指定さる。

マツザワ　松澤

【松澤】東京府荏原郡にありし村。昭和七年に東京市世田谷區に編入。

【松澤村】富山縣越中國西礪波郡の中部。石動町の南に接し、小矢部川右岸に沿ふ。土地平坦にして灌漑の便よく、村内殆ど水田にして米の產多し。石動町より津澤町・出町(東礪波郡)に至る縣道貫通し、出町との間にバスの便あり。省線北陸本線石動驛に近し。

マツシゲ　松茂村　徳島縣阿波國板野郡の東部。撫養町の南にあり。吉野川・今切川の交叉點に位し紀伊水道に臨む。從つて全村砂洲の地より成り、西部より來る吉野川は砂積の洲嶼をつくりて北東に流れ、南境を今切川東に流れて何れも河口に砂洲を發達せしむ。村内は新開の地にて耕地に適し、また海岸には鹽田を拓く。米の產多く麥・繭等の產もあり。製鹽及び漁業に從事するもの多く鯛・鰹等の漁獲あり。南方徳島市へは約六粁、撫養町へは約四粁、何れもバスの便あり。〔春日神社〕大字笹木野に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命。萬治二年の創祀と傳ふ。例祭、十月十七日。

マツシマ　松島

【松島村】青森縣陸奥國北津輕郡の南部。五所川原町の東に接す。津輕平野の東部に位し、東端部やや山地をなす外、全村概れ平坦にて、十川は村の中央部を西北

に貫流す。東部山麓には湖沼あり。村の生業は農を主とし米を産す。近年、山地には華果栽培せられ、十年後には相當産額に達せんとす。道路は村の東北部を斜走し、省線五能線五所川原驛及び北方の金木町へはバスの便あり。

【松島町】 宮城縣陸前國宮城郡の北端。北は志田郡の品井沼の沼澤地に至り、東に桃生郡に接し、鳴瀬川東北部を掠めて石巻港に入る。西は尾鹿の森山（一〇九米）一帶の山地を以て黒川郡に隣り、西南の一部が利府村に接する外、南は松島灣に臨む。城内丘陵起伏して平地に乏しく品井沼の附近の吉田川より引水して谷間に水田を拓く。省線東北本線通過して松島驛（明治二十三年設置）・品井沼驛（昭和七年設置）を置き、松島電車は此處より發して松島海岸に至り、宮城電鐵は仙臺市より鹽釜を經て本町に入り海岸近く松島公園驛を置き、松島電車と交叉して石巻方面に走る。海面には鹽釜方面に遊覽船の發着あり交通至便なり。大字松島は松島海岸と通稱し松島の勝景の中心をなす所。瑞巌寺・五大堂・觀瀾亭その他の名蹟や雄圓・旅館等の集合する所、四時觀光客を以て賑ふ。松島の勝を南に見る北方の富山（一一六・八米）及び海岸の北にある新富山は松島の展望最佳なり。この地古くは高城保と稱せし地、明治に至り高城本郷村はじめ十村を合して松島村を建て、昭和三年町制を布く。〔瑞巌寺〕本松島にあり。一に松嶋寺。臨済宗妙心寺派。青龍山と號す。天長五年、圓仁この地に天台の一寺を創し延福寺と號せるに由来す。鎌倉時代に禪院となし松島山圓福寺と改號、慶長九年に瑞巌圓福寺と改め今に至る。昔は伊達家一門の優遇を蒙け法威大いに振ひしも、維新後寺運一時衰へ、明治九年六月聖駕東北巡幸の砌り當山を行在所に充て給ひ、御下賜金の事あり、爾來寺觀漸く舊に復す。本堂・御成門・中門・庫裡・廻廊は國寶。〔五大堂〕本松島にあり。瑞巌寺内附屬堂。延暦二十年坂上田村麿の創建。當初毘沙門堂と稱へしも、のち五大堂と改稱、慶長五年伊達政宗夢告により紀州の良匠鶴右衛門等をして本堂を再建、現在に至る。堂は國寶。本尊五大明王。

【松島電車】 私設鐵道。宮城縣宮城郡松島町にあり。東北本線松島驛より分岐し松島高城を經て松島海岸に至る三・七粁。省線と連帶運輸をなし、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

【松島】 指定名勝。松島は古來日本三景の一といはれ、宮城縣の松島灣の一帶をいふ。即ち宮城郡七ヶ濱村字御殿崎突角より桃生郡宮戸村波島（鵜島）の南端を經て鳴瀬川の右岸に至る間の海面及び島嶼を含む。東西約一四粁、南北約一二粁、約三〇粁に亘る出入多き海岸線を形成し灣内には二百六十餘の大小の島々が千姿萬態の風趣を現はす。灣口を扼する最大の島を宮戸島とす。その最高點は大高森（大鷹森）にて一〇五・八米、その西に續きて寒風澤島、海水浴場を以て名高き桂島・馬放島が東西に並列し、その南方には多聞山の一角及び花淵半島突出す。これ等諸島の内側は松島灣と鹽釜灣とに分れ、鹽釜の良港發達す。松島灣の北邊には富山（一一六・八米）の丘陵峙ち、西方は四〇—五〇米の丘陵地が遙か西方の仙臺四近の丘陵地に連續す。松島灣の北東方大塚附近にて石巻に達する野蒜運河に連なり、鹽釜の南方よりは阿武隈河口を結ぶ貞山堀に續く。松島町は灣の西岸に發達し、社線宮城電鐵は仙臺市に起り、灣岸にある鹽釜・濱田・松島を結び、東方石巻港に延び、松島電車は東北本線の松島驛に發し松島海岸に至る。なほ仙臺市との間にはバスも運轉し、鹽釜灣内の鹽釜港よりは灣内到る處に遊覽船の航路あり て陸海の交通至便なり。松島の諸島は白色がかりし凝灰質の砂岩・頁岩の水成層にて奇岩の上には名の如く疎振りよき古松あり。月によく雪に美しく、四季とりどりの眺めは正に天下の名勝とし、謂ゆる日本三景の一の名を辱しめず。これを觀賞せんには東側宮戸島の最高點大高森、灣の東南側七ヶ濱村の多聞山、灣の北側富山の頂上、灣の西側扇谷の山上等にて、これを古來松島の四大觀としてその絶景は廣く人に知られ、近時松島町の北に更に新富山の眺望を加ふ。詩人は八景として梅浦早春・鹽釜暮烟・霞浦歸雁・江縣殘花・嶮島夕照・瑞巌晚鐘・松島秋月・竹浦夜雨を擧ぐ。松島の美は自然の靈美に加ふるに人工の美をもつてし、歴史的感興を加へて更に深きものあり。臨済宗の靈刹瑞巌寺を始め、文祿の昔、伏見桃山に豐臣秀吉の建てしを伊達政宗がここに移して月見の御殿と稱せし觀瀾亭その他坂上田村麿が東征の際建立せりと傳ふる五大堂、傳説に名高き紅蓮尼の古蹟、三交の松等、旅情を慰むるもの少からず。遊覽船は鹽釜・松島の双方より隨時に出で大小數百の島の間を縫つてその眺をほしいままにする を得。松島灣の成因を考察するに、仙臺附近に發達する青葉山・八木山の一帯と同様なる臺地が河流の浸蝕によりて樹枝狀の谷に貫かれ、それが多くの斷層と地盤の撓曲とを伴ひて沈降し、謂はゆる沈降谷となりしものなり。谷と谷の間の峰は海上に突出して或は長岬となり、或は數百の小島となりて浮ぶに至る。海波は更に島脚に石門を穿ち、斷崖を生じ、地層の硬軟、斷層等によりて種々の奇勝を生ぜしものと思はる。灣内は海岸の出入複雜にて風波の憂は少なきも、比較的水深く大船互船は入るに適せず。灣内には沙魚・鯉・鱸・石首魚・黒鯛・鰻等の魚類多く、近年牡蠣の養殖盛んに行はる。沿岸及び島の各地には和洋の旅館・料亭・遊園地・劇場・貸別荘等あり、四時觀光の客來集す。松島の

勝景は古くは鹽竈の浦として稱へられ、伊勢物語には「わかみかど六十餘國の中に鹽竈といふところに似たる所なかりけり」と激賞し、鎌倉時代に至るも旅客の紀行中に松島の名によりてその景觀を味へるもの見當らず。慶長九年伊達政宗の松島の五大堂を修築し、また瑞巌寺を營み觀瀾亭を移すに及び、松島の名俄然大に擧る。元祿の頃、芭蕉翁此處に來遊し「抑ことふりたれど、松島は扶桑第一の好風にして凡洞庭湖・西湖を恥ぢず……千早振る大山津見のなせるわざにや造化の天工いづれの人か筆をふるひ詞を盡さん云々」と奥の細道に遺ぶ。「松島やああ松島や松島や」の句は作者不詳なれど、その勝の口筆を絶するを見るに足る。

【松島】 山梨縣中巨摩郡にありし村。昭和二年、外一村と共に敷島村となる。

【松島村】 徳島縣阿波國板野郡の西部。東は大山村に、西は御所村に界し、南は名西郡に、北は香川縣に隣す。北は讃岐山脈東部の南斜面にありて高原數百米の山岳重疊して南に傾斜す。南部は吉野川左岸の低平なる沖積地と山麓下に發達せる段丘の地とを占め、從つて農耕よく行はれて米・麥・蒟等の産多し。近年桑畑の増加を見つつあれば養蠶・製糸業は益々盛んになる事と思はる。平地の中央を鴨養街道東西に貫通し、西方の池田町及び南方麻植郡牛島村にバスを通ず。省線鐵冶屋原線の鐵冶屋原驛（大正十三年設置）あり。和名抄に板野郡松島郷（萬都之萬と訓ず）とあるは本村の遺址とす。此地は天永五年、攝政忠實の封戸にして、京都北野天滿宮に寄進せし由、古書に見ゆ。〔鐵冶屋原松島神社境内社殿〕指定天然記念物。鐵冶屋原松島神社境内社殿に接する高地にあり。石階を繞らし、根元より一米餘上にて主幹は六本に分れ、その中、斜に東方に向ひて高く出づるものは主幹の延長部と見るべく、他の五本は横に出で屈曲して四方に伸び、樹形をして奇異ならしむ。根元の周圍約九米、主幹分岐部の直下即ち地上一米餘に於ける周圍約五米六、ぜんだんの巨樹として有數なるもの。〔瑞運寺〕大字引野にあり。一に安樂寺。眞言宗高野派。瑠璃山と號す。四國八十八箇所第六番札所。本尊薬師如来坐像は弘法大師の作なり。昔は温泉あり、よつて温泉山とも名づけしが、今は温泉なし。慶長三年釆地十石を領せり。御詠歌「かりの世に知行爭ふ無益なり安樂國の守護を望めよ」

【松島村】 長崎縣肥前國西彼杵郡、西彼杵半島の西方海上に浮ぶ松島を占む。東は約一・五粁の瀬戸を隔てて瀬戸町及び其の前面に横はる鷗島に對す。中央に遠見嶽聳え南岸は斷崖をなし北岸は小岬數多突出して碕々複雜なり。東北岸に釜ノ浦部落ありて舊地となす。本島は炭山によりて其名著はれ、山ノ神・嶽下・西浦等の炭坑あり。釜ノ浦より瀬戸町及び東北方の名串島へ定期船の便あり。〔松島炭田〕松島を中心とする炭田。崎戸炭田の延長にて、古第三紀層に屬する西彼杵層群と松島層群とより成る。松島層群は最上部は始新統、最下部は漸新統にて、炭層は其間に介在し凡そ九層あれど、採掘の價値あるものは四層にて、厚さは凡そ一・五—二米なり。いま松島炭田中の主要なるものは松島・東松島の二炭礦とす。〔松島炭礦〕鑛區は松島村内三八五萬餘坪、地質は第三紀層の砂岩・頁岩の互層より成り、其間に九條の炭層あれど、現在は下部の三層を採掘す。昭和十年には塊炭四、七一五瓲、粉炭一六、九九三瓲、粗炭一七、八八一瓲。この總價額二十三萬餘圓）を出す。當炭礦は寛政年間の發見、天保年間の開掘にて、古くは上層のみ採掘せしが、後年に至り深部に良好なる炭層あるを發見し、防水作業の完成と共に大正初期頃より大發展を遂げ、大正末期の如きは從業員四千人を以て數へられ松島炭田の代表的炭礦たり。長崎へは二三浬、佐世保へは二〇浬、云はば脚下に松島港といふ良港を控へ殷盛を極めしが其後漸次衰へ、今日にては從業員三百人に足らざる狀態となり、僅かに準重要鑛山の列に止る。現在は松島炭礦會社稼行。〔東松島炭礦〕村内に鑛區三一萬餘坪を有し、松島炭礦よりは遙かに遅れて開掘せられ、寧ろ近年世に出でたるものなるが、產額に於て近年松島炭礦を凌駕するに至れり。昭和十年には塊炭三、四七〇瓲、粉炭二九、七〇三瓲、粗炭六、二〇〇瓲、煽石八、六二三瓲（この總價額三一萬餘圓）を產出す。堀鑛業會社の稼行にて、同年六月末の鑛夫數六二一人とす。

マツシロ　松代町

長野縣信濃國埴科郡の東北部、千曲川の右岸に位し、長野市を距る南東約十二粁。善光寺平の東條をなす須坂・松代を連ぬる斷層崖に當る。町はこの斷層崖浸蝕谷の一扇狀地の末端に位置するを以て、地勢北に緩斜し町内に一の丘陵を見ず。面積僅に一・五六方粁、長野縣の町村中最小。而も密度は一方粁に就き四八五一人にて縣下最大なり（昭和十年）。この浸蝕谷は北北西に開け、三方山に圍まれ、中に皆神山（六七九米）孤立し、象山（四八七米）の一丘は松代町に向ひて峙ち、神田川・圖屋川この谷の水を集めて千曲川に入る。谷の中には松代町を中心とし、北より寺尾・東條・豊栄・西條・清野の五箇村これを圍む。縣道谷街道は北國街道（國道）の屋代より分れ本町を經て須坂方面に走り、町の北端にて長野に向ふ縣道松代街道を岐ち、南方地蔵峠を經て上田方面に出づる縣道（舊北國裏街道）あるも道路にして利用されず。僅に谷街道に沿ひて長野電鐵河東線の屋代驛より來りて松代驛（大正十一年設置）を設くのみ。本町は眞田氏十萬石の舊城下町として發達せるもの、藩國時代、武田信玄の麾下山本勘助の縄張せ

し海津城を拠へ北信第一の要害地として知らるる。慕末天保年間には藩主幸貫老中となり外國係となるや、藩士佐久間修理（象山）を登用し大に對外經綸を行ひ、文武學校等を興して大に士氣の鼓舞に力めしが、維新後廢藩置縣となるや、地は北國街道の要衝を壓れ居る關係上、北信の政治上の中心を善光寺所在地たる長野村に奪はれ町勢振はざりき。されば早く信州特有の產業たる製絲業に着目し、一時は須坂と並びて製絲工業地として著はれしも、近年は萎微振はず、其他の產業の見るべきものなき本町としては、ただ衰微の道程を辿るの外なし。町民は須く奮起して甦生の途を講ずべきなり。併し本町には幸貫をはじめ歷代の藩主に英俊あり、藩士には佐久間象山をはじめ鎌原桐山・山寺常山等の傑物を出し、其の他碩位を受けし長谷川深美等あり。また藩學兵制士官學校及び佐久間象山の感化を受け陸海軍人に有爲の人材を出せしこと尠からず、陸軍の牧野毅、海軍の伊東義五郎・富岡定恭・鹿野勇之進等なり。此地は古く和名抄の埴科郡英多郷の中にて、のち海津里ともいふ。武田氏の時、海津城を營み、のち持城・松城とも稱せしが、元和八年眞田信之上田城より移り、其の孫信房の時現時の如く松代と改めたり。〔海津城〕川中島城ともいふ。天文廿二年武田信玄が山本勘助に命じて築かしめし所。天正年間、武田氏滅亡後、織田信長の有に歸し、森長可（蘭丸の兄）をして此の城を守らしめしが、久しからずして信長殁し、上杉景勝の領下となり、景勝の會津に移るや田丸直昌これを守り、今盛土壘なりし本丸を改めて石壘とす。關ヶ原役後、德川家康は森長可の末弟忠政を此地に封ず。この頃、海津を改め持城とす。慶長八年家康の子松平忠輝此處を領し持城を松城と改む。元和二年忠輝除封の後は松平忠昌・酒井忠勝相次ぎて居城し、元和八年眞田伊豆守信之（信幸）上田城より移りてより子孫相承け、明治維新に至り城廢し、本丸の地のみ眞田家の有に歸し今遊園地となる。本城はもと千曲川を以て外壕とせしが、洪水の爲に屢害を被りしを以て、のち河道を現在の如く北に移す。〔象山神社〕竹山町にあり。縣社。祭神、佐久間修理。昭和十三年鎭座。境内は有樂町にある修理誕生地に設けられたる遊園地に接す。修理は象山と號し、慕末の經國家として其の名世に聞えしが、門下の吉田松陰渡米を企てたる罪に座して松代に禁錮され、のち赦され京師に上り大に尊皇開國の議を貴紳の間に進め、元治元年刺客の手に仆る。憲法發布の際、藤田東湖・吉田松陰と共に正四位を贈らる。例祭、四月十一日・十月十一日。〔靈神社〕伊勢町にあり。鄕社。祭神、生魂神・健御名方命・八坂刀賣命。往昔英多鄕開拓の時に勸請せられしものと傳ふ。例祭十月九日。〔大英寺〕表榮町にあり。淨土宗。結月山と號す。眞田信之の開基。開山は靜譽和尙。元和八年信之松代に移るに及び現地に移る。現堂は信之の松代に移るに及び現地に移る。現堂今堂となしたるもの。〔大林寺〕石切町にあり。曹洞宗。甲斐國惠雲院末、寒松山と號す。天正年間、眞田昌幸上田城主たりし時に一寺を建立、惠雲院の松山和尙を請ひて開山とす。初め大輪寺と稱し現地に移るに及び大林寺に改む。〔長國寺〕田町にあり。曹洞宗。眞田山と號す。開山は晃巡和尙。眞田氏歷代の菩提所としてまた當國曹洞宗の總錄として其の名著はる。享保以來數度の回祿に罹り、現堂は明治十九年の再建。〔蓮乘寺〕御安町にあり。日蓮宗。久龍山蓮乘院海津寺と號す。日蓮の弟子蓮乘院日條、己の家を捨てて寺となせしもの、日蓮佐渡に流され、のち赦されて歸る途に此處に宿れりといふ。もと海津城の地にありしを海津城築造の時現地に移し蓮乘寺と稱す。境内に近年有志者によりて建てられたる佐久間象山及び其の子恪次郎の墓あり。

マツズカ　松塚（まつづか）　奈良縣北葛城郡にありし村。昭和二年高田町に編入す。

マツタ　松田　陸奥國（福島縣岩代國）の古地名。和名抄に白河郡松田鄕あり、その地今の西白河郡釜子村・小野田村の邊に當る。延喜式の松田驛もこれなり。

マツダ　松田町　神奈川相模國足柄上郡の東南部。酒匂川の東北岸にあり。東の一部は中郡と隣す。中部以北は丹澤山塊南端の一部をなし約五〇〇米あり。南部は酒匂川流域平地の一部にして麥・甘藷・大豆等を產し養蠶も行はる。縣道は東方の中郡秦野町より來り、町の南部を過ぎて南走し、足柄下郡小田原町に通ず。產落もこの縣道に沿ひて南部に發達す。省線御殿場線は南部を西走し松田驛（明治二十二年設置）を置き、社線小田原急行鐵道線は東部を西南に走りて新松田驛（昭和二年設置）を置く。この地は和名抄、足上郡高家鄕の地なるべく、もと郡役所のありし所にして、明治四十二年町制を布く。秀鄕流、波多野氏の一族、この地に松田氏を稱せり。治承四年十月、波多野右馬允義常はこの地に自殺せり。〔寒田神社〕大字松田惣領に鎭座。鄕社。祭神、日本武尊。式內社。例祭、七月三十一日。

マツダイ　松代村　新潟縣越後國東頸城郡の東北部。溢海川に沿ふ。北は刈羽郡に、東は中魚沼郡に界す。村內丘陵起伏し、溢海川は西南より東北へ曲流しつつ村內を貫き南より一支流を合す。農業を主生業とし米・繭を產し、酒の釀造盛んなり。丘陵は概ね山林・荒地なり。村內を南北・東西に貫通する縣道西部にて交錯し、其處に聚落最も稠密す。東境の柴師峠を越えて中魚沼郡十日町へ約十二粁、之より省線十日町線及び社線飯山鐵道の便あり。

マツ／イラ　松平村（まつだ）　愛知縣三河國東加茂郡の南部。岡崎市の北方一〇粁。北は盛岡村に、東は下山村に、南は額田郡常磐村・岩津町に、西は西加茂郡高橋村に接す。花崗岩より成る三河山地中にありて、高度はあまり高からず平坦性を有し、東部には炮烙山（六八三米）・六所山（六〇六米）あり。東北より西南にかけては巴川流れ矢作川に合流す。交通路は巴川に沿うては東北足助町へ足助街道通じ、西部よりは皐母街道が至る。產業はあまり振はず、農耕地は川の流域のみに見られ、山地にも僅かづつの耕地あり。聚落は散村なる。明治三十九年、本村及び志賀村・小川村の各一圖並びに豐榮村の大字岩谷・下平を除ける部分と、德蔵村の大字川定・霧山を除ける部分とを以て新に松平村を建つ。德川氏祖先の居住せし所にて、同地の淨土宗高月院に松平親氏・泰親父子の墓あり。大字大給は大給松平氏の苗字地なり。松平親忠の二男乘元ここに居り始めて大給と稱しその子親正、額田郡岩津村大字細川の地に移り、子孫繁衍して諸侯に列するもの五家に及ぶ。〔六所神社〕大字東宮口字六所山に鎭座。縣社。祭神、猿田彦神・事勝國勝長狹神・岐神。松平親氏が豐龍明神を勸請せし社。古來德川氏の崇敬社にして、江戸時代朱印領百六十二石七斗を有す。一に六所大明神といふ。例祭、九月十九日。

マツタカ　松高村　熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の北に接し八代灣に面す。地形極めて平坦にして沃野連り、米・蔗作を主とし西瓜・南瓜・蘭草等の特產あり。省線鹿兒島本線八代驛は東南方約二粁半にありてバスを通ず。本村は今より凡そ二百五十年前迄は八代城下の海荒たる蒼海なりしが、明暦年間以後數回に亘り埋築したる新地なり。もと松崎・高子原の二村に分れしが、合併して各一字を取りて松高村と名づく。

マツチヤマ　亦打山・眞土山　萬葉集にある地名。また信土山・又打山にも作る。奈良縣宇智郡と和歌山縣伊都郡との境にある伊都郡隅田村の大字眞土の邊にあたる。萬葉・一「麻裳よし紀人ともしも　調首淡海」

マツチヤマ　待乳山　東京市淺草區にある小丘。金龍山ともいふ。眞土山とも書く。今戸橋の南にある高さ數米の小丘にて丘上に聖天の祠あり、古來花柳界の信仰厚し。この地は隅田川の西岸近く竹屋の渡の畔にありて眺望に富み、昔は江戸名所、東京名所の一なりしが、大正震災後は附近の町並一變して、昔の風致を偲ぶ事を得ず。圖東名殘の拱・二「はやしをあげて祝し奉る女大臣の影向、時なれや、待乳山の鐘も鳴りけり、夜も明けにけり」大抵御覽「日來逗留河期待之刻、浮舟三又江上、曳杖待乳山頭、聽湯掛湯濃十尺、鱗殿高樓庭二坪」人間萬事虛器計・前アレ待乳山の眺望、奇絕！、金龍山上一圖の雪だ、ハハア金波樓と二部が樓でめりやすを奏する解風に聞ゆ」

マツツ　松津（國）　仁德天皇の朝、物部連伊香色雄命の孫、金弓連を松津國の國造に定めたまふ記事、國造本紀に見ゆるが、その位置詳かならず。大體九州地方と思はるるも、同地方の郡鄕にはこれに擬すべきもの見當らず。或はこれは柞建國の誤字にて、肥前國の基肄郡（いま三養基郡の中）の邊ならんとの說あり。

マツツカ　松塚村　新潟縣越後國北蒲原郡の西部。日本海に臨む。中條町の西南方凡そ六粁。海岸に沿ふ數條の砂丘群を占むる細長き地帶にて、落場川略中央を橫斷し海に注ぐ。聚落は南北二群に分れて何れも砂丘上に發達す。域內に疎れ山林・畑地にして水田は少なし。漁業を主生業とし、養蠶・蔬菜栽培も行はる。道路は砂丘上を縱走する外、新發田町へ縣道至りバスを通ず。

マット　眞人村　新潟縣越後國中魚沼郡の北端。信濃川左岸に沿ふ。北は北魚沼郡に、西北は刈羽郡にいづれも三〇〇米前後の丘陵を以て界す。信濃川は東境に沿ひ村內に發する一小流を合して東北に流る。東南部流域には河岸段丘發達し耕作に適するも、北部・西部より中央へかけて丘陵起伏し疎れ山林をなす。農業を主生業とし米・繭の產あり、薪炭を副產す。東部河岸に沿ひ縣道貫通し、對岸を走る省線十日町線の越後岩澤驛に近し。本村は明治戊辰の役その戰場となりしものの如く分合の形跡認め難し。

マツド　松戸町　千葉縣下總國東葛飾郡の西南部。江戸川の東岸にて、西は川を隔てて東京市葛飾區と相對す。東部には低き丘陵地あるも西部は平地にして米を主產し、他に麥・蔬を產す。陸前街道は北部を東北に走り、主要聚落はこれに沿ひて街村的に發達す。省線常磐線また之れに沿ひ、松戸驛（明治二十九年設置）を置く。汽車の他、東京上野驛との間に省線電車ありて交通便なり。東京市內及び南方市川市にバスを通ず。江戸川は水運の便多し。舊郡役所の所在地にして區裁判所・警察署・供託局・陸軍工兵學校・同教導隊・千葉高等園藝學校・東葛農商學校・高等女學校等あり。松戸は延喜式馬津驛の遺蹟なり。近世、江戸幕府の時に市川宿と同じく御番所を設け、松戸金町の關と稱し水戸街道を押へたり。また將軍家が小金田獵の時に使用する殿舍設けらる。昭和八年に明村を併せ、同十三年には八柱村を編入して町域を增大せり。明治天皇、明治十七年、女化原行幸の際この地に御小休あらせらる。〔二十世紀梨原樹〕指定天然記念物。明治二十一年の栽植にかかり、同三十六年に吉梨の優秀なる品種として二十世紀と命名せられ

たり。鳥取・岡山・奈良・新潟等諸縣下に多く栽培さるる二十世紀の原樹なり。

マツトー 松任町（まつとう） 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六粁。加賀平野の略中央部を占め北陸道に沿ふ。土地平坦にて水田開け、町には商店櫛比し農業また盛なり。省線北陸本線北部を貫通し隣村旭村に松任驛（明治三十一年設置）あり、社線金澤電軌松任線の終點をなし、國道・縣道また四通八達し交通便なり。俳人千代尼の出生地として著名なり。聖興寺境内に墓あり。此地もと石岡・四郎丸・三丁町の三ヶ村なりしを承平五年國司松本氏合して一村とし松任と稱すといふ。また一に寛治五年石岡・白丸・三ツ屋の三ヶ村を合して松任村と稱すともいふ。その後應永年間には長九郎左衛門居住し、永享年間に林定光の二男松任十郎範光これに代りてより子孫相繼いでここに居住せしを以て漸く松任の名著はるるに至れり。その後數度の戰亂に會ひ德山五兵衛・前田利長・丹羽長重等と領主替れり。明治十一年明治天皇、北陸・東海御巡幸の砌り此地に御小休遊ばさる。〔松任城〕戰國の頃富樫氏の族、松任範光の居りし所。天正五年上杉謙信これを陷る。天正八年柴田勝家これを拔く。十二年前田利長封を此地に受け、十五年に丹羽長重來り此處に治し、慶長二年に至り小松城に移る。〔松任金劍神社〕縣社。祭神、都留伎比古尊・天照大神・淵津姫外一神。創立年代未詳。富樫・橋木・前田氏等の領主・藩主等の崇敬厚し。舊稱、金劍宮。例祭、六月一日。〔若宮八幡神社〕縣社。祭神、應神天皇。康平年間、源頼義の勸請と傳ふ。爾後源家の尊崇厚し。例祭、九月十五日。〔本誓寺〕眞宗大谷派。養老年間、僧泰澄の開創と傳へ、天台宗に屬せしが、住持圓政の時、親鸞に歸依して改宗す。

マツナガ 松永 【松永】 義經記に見ゆる越中國（富山縣）の古地名。源義經の一行山伏姿に扮して奥州へ下向の際、倶利加羅山を越え、この地いま西礪波郡埴生村大字松永の地にて舊北陸街道に當り、倶利加羅峠の東麓に位す。

【松永村】 福井縣若狭國遠敷郡の中部東偏。小濱町の東南五粁餘。東は三宅村、西は遠敷村に挾まれたる南北に長き地を占め、南は滋賀縣高島郡朽木村と界す。面積二四・五方粁。南部に五—六百米の山嶺連り北方に緩傾斜し、北部の北川左岸に稍々廣き平地ひらく。南部國境に發する水は三番瀧を懸け、域内を西北流して北川に入る。米を主産し副業に養蠶を行ひ、山地には木炭・薪材の産多く、外に工産やや見るべきものあり。北部平地を若狭街道と省線小濱線並走し、大字平野に新平野驛（大正七年設置）を置き、若狭街道を通ずる省營自動車若江線と接續するを以て、北部の交通は便利なり。豪落は北部に偏在し、昭和十年人口一、四一四人にて、一方粁密度は五八人に過ぎず、且つ逐年減少を見る。此地古くは和名抄、遠敷郡玉置郷の内なるべし。中世、保名に呼ばれ、松永保の名は東鑑にも見ゆ。村内に三番瀧（高二七米、幅四米）あり。〔明通寺〕大字門前にあり。古義眞言宗。大同元年に坂上田村麿創建すと。本堂（一に藥師堂と稱し、正嘉二年再建）及び三重塔婆は國寶なり。

【松永町】 廣島縣備後國沼隈郡の西南部。尾道市の東方約五粁に存し、松永灣の北岸を占む。西及び西北は今津町、東北は神村、東は柳津村に接す。面積二・九九方粁。灣岸に砂濱ひらけ、地勢一般に平坦、東北部に耕地稍々存すれども他の大部分は鹽田なり。米・麥・蘭・疊表・醤油及び鹽の産あり。松永灣は水淺く、製鹽業に都合よく、古來村民は此の業に從事し來れり。省線山陽本線東西に貫通し松永驛（明治二十四年設置）を置く。また縣道を以て藤江村にバスの便を有す。もと神村の一部にて斥鹵の海岸なりしが萬治三年に此地の人、本庄重政（贈從五位）初めて拓築の工事を起し、寛文二年に鹽田成り、數年ならずして大邑となれり。明治三十三年に町制を布く。もと郡役所のありし所。

マツナガ 松長村 新潟縣越後國西蒲原郡の中部南偏。燕町の北約二粁。南北に長く約五粁、幅は平均二粁あり、面積八・三方粁。越後平野中に位して、地頗る低平、耕地遠く連り、西境には大通川流る。米を主産す。北部に吉田・村松間の道路東西に通じ、東南部には燕町に至る道路通じてバスの便あり。

マツネシリ 松音知 北海道北見國枝幸郡中頓別村の大字。省線北見線の松音知驛（大正五年設置）あり。

マツノ 松野村 靜岡縣（駿河國）庵原郡の東北部。大宮町（富士郡）の南隣。東に富士川町、南に蒲原町、西に内房村あり。村域は富士川下流右岸にして、村の南部に第三紀層より成る五百米内外の山地あり、全體として北に傾く。富士川河岸に沖積地あり、桑園・果樹園・茶園等混在す。此地古くは和名抄、盧原郡大井郷の内なるべし。

マツノオ 松尾 もと京都府葛野郡の村。昭和六年に京都市に入り右京區の町名となる。

マツノオ 松野尾村 新潟縣越後國西蒲原郡の西部。曾根町の西方約三粁。彌彦山丘陵に續く海岸砂丘内側の低地を占め、嘗て海なりし名殘として西南隅に土堰湯を湧ふ。東部を矢川貫流し水田開け、西部には森林・畑地多し。農業を主とし副業の發達また盛なり。縣道は中部を南北に貫通し省線越後線の越後赤塚驛へは約四粁を距つ。

マツノヤマ 松之山村 新潟縣越後國東頸城郡の東南部。東より南へかけては六〇〇—八〇〇米の丘陵連亙し中魚沼郡に界す。村内丘陵起伏し平地に乏しく、西南部に發源せる二條の小川は村内中央を共に東北に流れ、合して更に溢海川に會流す。流域に多少の耕地あり米の産比較的多く、養蠶の副業また盛なり。古來松山鑛の産地として名あり。松代村より來り村の西を南北に貫通する縣道を初め道路四通し、社線頸城鐵道終點溢川原驛及び社線飯山鐵道ヶ崎驛へ共にバスの便あり。村内に松之山温泉あり。熱ノ湯と、胃腸ノ湯との二あり。熱ノ湯は無色透明の食鹽泉にして硫化水素臭を含み、胃腸ノ湯は微濁硫化水素臭を含む鹽類泉。鹽道川の渓流を帶び、鬱林に覆はれたる閑寂の境なり。松之山は古くは郷名に呼ばれ、附近諸村を總べたり。謡曲に松山饅あり。此謡は饅頭といふ繪卷を原として作れるものならん。今この地に其の饅池の古跡を傳ふ。

マツノユ 松湯 →岩島村（群馬縣）

マツノユ 松ノ湯 →古里村（東京府）

マツバ 松葉 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年、ほか二村と共に廢し常盤村を置く。常盤村は大正十年に名古屋市に編入。

マツバガワ 松葉川村（まつば） 高知縣土佐國高岡郡の西部。西南には高距九百米餘の岑聳えて幡多郡に隣し、四萬十川の上支松葉川の流域の地を占め、面積七四・五方粁。四國山脈の西南部の高距數百米の地にあり、山岳重疊して廣く蟠踞す。中央部には稍々幅廣き谷が南北に開け松葉川ここを屈曲しつつ貫流し、流域に沖積平地を有し、農耕行はる。米・麥・蒟・甘藷・豆類等の産あり。東西の兩山地は森林よく繁茂し殊に楮・三椏・木炭・用材等の産多し。また好牧場をなして牛を飼ふ。川の左岸に沿うて縣道南北に走り南方窪川町に連絡す。右岸には林用軌道通じ森林伐採盛に行はる。

マツバセ 松橋町 熊本縣肥後國下益城郡の西部。宇土半島頸部の南に位し西は宇土郡に隣接し、西南は八代海に近し。小丘陵あれど概して平坦なる地形にして天野川南部を貫きて西流す。北部に市街地發達し、小商業都市にして米穀の集散地なり。特産には名菓月知梅・松橋焼あり。郡内第一の町にして一方粁人口密度一九四六人を算す。鹿兒島街道は市街地を貫き東西に走り熊本行・原町行のバスあり。省線鹿兒島本線松橋驛（明治廿八年設置）は宇土郡不知火村の地籍に置く。此地もと宇土郡の屬邑たりしならんも、近世、下益城郡に入り郡役所を置かれたり。明治十年西南役の際、賊軍ここに屯せしが、官軍これを急擊して遂に陥るといふ。〔圓光寺〕眞宗本願寺派。地區内と號す。文祿七年に肥後菊池氏の家臣出家して一字を創せしに始る。もと天台宗。

マツバヤシ 松林 神奈川縣高座郡にありし村。明治四十一年、鶴嶺村・茅ヶ崎村と合併し茅ヶ崎町を置く。

マツバラ 松原 【松原】 茨城縣多賀郡にありし町。昭和十二年に高萩町と改稱す。

【松原】 福井縣敦賀郡にありし村。昭和十二年に敦賀市に入る。

【松原湖】 長野縣千曲川上流の小湖。南佐久郡北牧村に屬し、一に笠名湖ともいふ。高度一一二三米に位し、面積〇・〇八方粁。その横に蟹湖あり、これは高度一一二六米、面積〇・〇二方粁、深度四米。松原湖は東方捧水口附近は地形複雜し、島あるも淺く、西方に七米の最深箇所あり。蟹湖と共に八ヶ岳火山彙の根石彙の噴出物にて堰止められ、大正二年以來大日川の水を取入れて貯水池とし發電せるため、水位の變化やや大なり。水色は黄緑色にて透明度三—四米。水温は夏季表面二六度にて底は一六度程度。冬は十二月中旬より三月下旬まで平均一〇四日間結氷し、降雪少なきためスケートが盛んに行はる。近年湖畔に別荘・旅館が出來て避暑地となり、鑛泉を電熱にて沸し温泉とす。最近は汽車も開通し遊覽客が次第に增加せり。

【松原】 滋賀縣犬上郡にありし村。昭和十二年に彦根市に編入す。

【松原通】 京都市の東西に通ずる通りの名。下京區の高辻通と萬壽寺通との中間に在り、凡そ平安京の五條大路の中に當る。天正年間、豐臣秀吉京都復興の時、五條大橋を六條坊門通（今の五條通）の東に架橋へたるを以て五條の通はいつしか松原通と稱するに至る。東は松原橋を經て清水坂に到る道と接す。武道傳來記・一「道中を夜ばかりありき、無事に京都につき、松原通因幡薬師のあたりに、外戚の叔母東本願寺のすゑの道場に緣付しておはしける、此許に身を隱し都ながら花なき里の心ちし、夜見る東山高尾の秋の色も闇の錦となし」

【松原】 丹後國（京都府）竹野郡の古地名。三代實錄、清和天皇の貞觀五年十一月の條に細福人五十四人、此の地に漂着し、言語通ぜざりし由見ゆ。松原の地いま詳かならざるも、竹野郡網野町の淺茂川の河口は船着なるを以て、或はこの邊に漂着せしものか、後攷を待つ。

【松原村】 大阪府河内國中河内郡の西南部。大阪市住吉區の南方二粁餘にあり、村の南半は東・南・西の三面が南河内郡に圍まる。全村地形低平にして一望沃野開け北部に潮沼點在す。米・麥等の農産及び工産・畜産等あり。堺市より東方へ走る長尾街道が中央を横斜し、南端には堺市より南河内郡古市町に至る縣道が東西に走る。以上の二條の道路と交叉して南北に通ずる道路ありて大阪市平野に至る。バスは堺市及び大阪市へ通ず。此線

大阪線沿に中部を縦断し河内松原駅（大正十一年設置）あり。反正天皇の皇居、丹比柴籬宮は大字上田の皇陵社の邊ならんと いふ。宮は反正天皇の元年十月より五年正月、天皇は河内の柴籬宮にまして九年三月崩ずるまで九年間居住せり。古昔時代この地に松原城ありしと云ふも その出所明ならず。元亨元年三月、楠木正成等これを攻めし城ありしと いふ。本村と高鷲村とに亘り大字上田に城址あり、いま史蹟に指定さる。※高鷲村参照

マツく 松久村

【松原村】 和泉山脈紀伊国日高郡の西部。郡役所の西に接し紀伊水道に臨む。全村地形平坦にして、中央を一河川流れ、東南部の日高川河口に合す。南部一帯の海岸は遠浅の砂浜にして、その浜ノ瀬海岸は近畿海水浴の好適地として知らる。産物・甘藷・蜜柑・綿糸・砂糖・塩・漁業・農業・工業・水産業・畜産業

松本平の消費地を控へ相當榮えしが、信濃の自然に好適せる養蚕製絲の業起り、いまは産業都市としてその勢隆々たるものあり。試に最近の統計によりて市の産業狀態を檢せん。

生産總額及び百分比（昭和十一年）

農産物	三六七、二九七圓	一・二%
蠶繭絲	七、一六三、五二九	六三・四三
工産物	四、七九九、三五五	三・九九
林産物	二、四一七、三三五	二・〇二
畜産物	二三七、七六六	一・一一
水産物	一四、九六六	〇・一四
鑛産物	一〇、八一九	〇・一一
計	一二、四六六、九四三	一〇〇・〇〇

卽ち此表の通り本市生産額一千百萬圓の中の大宗を占むるは蠶繭絲にして、總額の六割二分五厘に當り、これに次ぐを工産の三割三分とす。以上を合計すれば實に總額の九割五分五厘を占む。而して本市の桑園は三、一八三反にして收繭高二七、七九一貫、價額一一七、三七四圓なり。繭の取引高は昭和十年には三七二、五七五貫、價額一、七三一、〇一三圓に達し、蠶種製造高は六一七、七三九圓に至り、最近五箇年の平均は百萬圓を下らざる有樣なり。生絲は僅少の座繰あれども殆ど全部は器械製絲にて其額二一四、三〇〇貫に上り、價額にして七百萬圓を突破す。更に生絲を除く工産の主なるものは菓子類の約九十一萬圓、足袋の四十一萬圓、木製品の約四十萬圓、醬油の約二十四萬圓、清酒の約二十萬圓とす。次に農産としては米の七、〇七二石、二〇二、七〇七圓をはじめとして、園藝農産の七九、八七三圓、麥の二二、四二〇圓、食用農産の二一、四三四圓とす。畜産・林産・鑛産には見るべきものなし。本市は戸田氏六萬石の舊城下町として發達したる南信の首邑にして、而も明治の初には筑摩縣廳を置かれし所、北信地方の主邑たる長野と常に競爭的地位にあり、また當市が往昔信濃の國府の所在地にして一國の殆ど中央に位せるより、長野縣廳の移轉問題の如きも、曾ては當地を騷がせ、縣會の問題たりしこと屢々なりき。よりて縣當局は巨費を投じて信濃中央分水山脈に馬車を通ずる新道（二條路と稱す）を開き南北兩信の交通を易からしめ以てこの問題の中和を謀れり。然るに其後に篠ノ井線の開通あり、歩兵第五十聯隊の營戍地となり、官立高等學校の當市に設けらるるに及びていつか移轉問題は影熄し、今日にては本市は長野縣に於ける文化の中心を以て甘んずるに至れり。試に本市に存在する教育施設を擧ぐれば前記の高等學校をはじめ縣立に女子師範學校・中學校（二校）・高等女學校（二校）・盲學校等あり、市立に女子職業學校・夜間中學校・青年學校（二校）、私立には松本商業學校・松本簿記學校・裁縫女學校（二校）・松本聾唖學校等あり、この外、大正十四年に設置せられたる縣營の大競技場は市の北部より本郷村の地籍に亙りて設けられ、その廣さ二〇ヘクタール、また市内の北馬場には市營の大プールあり、東西八五米、南北一八米ありて、水陸兩種の運動競技の施設完備す。師範學校はもと本市の舊藩校の跡にありしが、明治十九年の師範教育令の改正の際縣廳所在地に移りたるを以て、女子師範學校の新設せらるるやこれを本市に置く。以上の學校のほか市内にある諸官公衙としては市役所をはじめ普通の都市に共通なる裁判所・稅務署・刑務署・警察署は云ふまでもなく、松本聯隊區司令部をはじめ各種の軍衙、農林者の蠶業試驗場松本支場・中央氣象臺松本測候所・松本營林署・高崎地方專賣局松本出張所・縣工業試驗場・縣種畜場等あり。金融機關には日本銀行・勸業銀行の松本支店をはじめ信州銀行、其他、安田・八十二・信濃・長野貯蓄等の諸銀行の支店あり、信用組合・手形交換所と相俟ちて金融の圓滑を圖る。近時登山熱の熾となるや、本市は日本北アルプスの稱ある飛騨山脈登山の基地として登山家の最も親み深き所なり。本市の地はもと國府のありし所なるを以てまた信府の稱あり。隣接せる本郷・岡田二村と共に和名抄の辛犬郷の内なり。鎌倉時代に小笠原長清此國の守護となり本市の地に據る。居館は本市の西南部の邊なるべし。永正の頃、島立右近、城を現在の地に營み深志城とも松本城ともいふ。小笠原氏は長く此地を領せしが、戰國の頃より屢々領主を替へ、江戸時代に至り、享保十一年以後戸田氏ここに治し子孫相承けて明治維新に至る。廢藩置縣の時一時松本縣と稱せしが、久しからずして筑摩縣の管下となる。明治九年筑摩縣の廢止と共に長野縣の松本村を併合して今日に至る。本市出身の人物としては、兵學家の長沼澹齋、軍人としては福島安正、教育行政家として辻新次、銀行家として小松彰あり、其他、贈位を受けし水利家等々力孫一郎、勤王家の山本貞一郎等あり。〔明治天皇聖蹟〕行在所の所在地は村社四柱神社境内にありて公會堂の地。明治十三年六月、明治天皇山梨・三重・京都一府二縣御巡幸の際、廿四日舊神道事務分局を行在所となし給ひ、翌日松本裁判所・師範學校・開智學校等に行幸あらせられ、裁判所にては訟庭を、師範學校にては生徒の授業を、開智學校にては地方物産等をそれぞれ天覽あらせられ、これ等は何れも史蹟に指定せらる。行在所は惜しくも明治廿一年燒失、その址に大正天皇御大典記念として市公會堂が建てられたり。〔城山公園〕市の西北端にある城山にあり。室町時代の頃、犬養氏の居りし處。のち小笠原氏も城塞を置く。その址今に存す。山頂には櫻樹多く遊覽の地なり。

松本平に突出せるを以て眺望佳絶なり。〔飛行場〕笹部にあり。大正十三年民間飛行家長谷川清登後援會の市に寄附せるもの。〔松本城〕指定史蹟。市の略ぼ中央、北深志城ともいふ。永正元年、小笠原氏の支族島立右近の築きしところ、のち武田氏の時これを獲張し小笠原貞慶を經て文祿三年に石川光長更に規模を擴張し、石垣を築き漆を塗り殿舍を經營し天主閣を造立す。寛永年間、松平直政の時、辰巳櫓・月見櫓等を造營すと。天保年間、天主閣以下を修理し今日に至りて城廢せしが天主・小天主・渡り櫓・辰巳櫓・月見櫓は史蹟に指定され、やがて國寶に列す。慶長十八年、貞慶の子秀政、飯田城より移る。爾後元和三年戸田康長、寛永十年松平直政、同十五年堀田正盛、同十九年永野忠清を經て享保十一年再び戸田康長の裔戸田光慈明石より來り六萬石を食み世襲して明治維新に至る。〔清水城址〕渚にあり。田川と奈良井川とに挾まれたる地に舊址あり。四方水堀を繞らし、約一八〇米平方の平城。守護小笠原氏が應永より永正の初まで約九十年居城の地。深志城に移りて城廢す。〔崇敬館〕丸ノ内にあり。舊藩校。寛政五年に松平（戸田）光行の創立。明治三年に學館と改稱。廢藩の際廢止し一時長野縣師範學校の敷地となる。いま女子職業學校の所在地。〔筑摩神社〕大字筑摩にあり。縣社。祭神、樂田別尊・氣長足姫尊外三柱。國府八幡とも稱す。安曇・筑摩兩郡六百六社の總社にして國府の舊址に當るといふ。本殿は延曆年間に創守府將軍藤原利仁の造營、中世は神宮寺もありきといふ。大永年間廢す。天文年間に武田・小笠原の兵燹に罹り伽藍一切烏有に歸す。爾後歴代領主の崇敬厚し。例祭は八月十一日なるも、前夜宵祭には薄川の磧にて打揚ぐる花火の下に士民遠近より集ひて酒宴を催しこれを觀賞す。俗に燈籠祭と稱す。〔岡宮神社〕大字北深志に鎭座。郷社。祭神、樂田別命・健御名方命・伊邪那美命。もとこの地方の一大湖水なりしとき、湖中の岡阜に諏訪大神を勸請したるに創まると傳ふ。松本城主代々深く崇敬す。例祭、五月二十二日。〔五社〕奏馬場にあり。郷社。片宮・今宮・共武社・淑慎社・陽谷社の五社をいふ。通稱、陽谷社。何れも藩主戸田家の祖神を祀れるものにして家臣一同の氏神とす。〔深志神社〕大字南深志に鎭座。郷社。祭神、健御名方命・菅原道眞。信濃國守護職小笠原信濃守貞宗深く崇敬し神殿を改造すと傳ふ。例祭、七月二十四日。〔極樂寺〕南深志町本町五丁目にあり。浄宗本派本願寺派。北林山と號す。親鸞上人の弟子海野廣專坊の開基。文祿二年島立村柴林より移る。初め本町一丁目にありしが慶安年間祝融に罹り、のち水野氏の時現地に移りて再建。〔寶樂寺〕安原町にあり。縣社。祭神、樂田別尊・氣長足姫尊・安曇郎義忠（法名明突）。永久二年、常陸國下妻に一字を創せしにはじまり、のち領主水野隼人正忠清これを菩提所とす。水野氏松本移封の時も隨ひ來り、寛永十九年寶榮寺を建て享保年間現地に移る。本尊阿彌陀如來。

【松本】長野縣東筑摩郡にありし村。大正十四年松本市に編入す。

【松本平】長野縣の松本・大町等を含む山間盆地。日本北アルプスの東麓にあり。この盆地は謂はゆる糸魚川・静岡大斷層線による陷没地帶の一部をなし、盆地の水は略ぼ中央に集り、犀川となりて信濃中央分水山地に先行性の流路を作りて善光寺平に流出す。これら諸川の山麓に於ける堆積地は大小扇狀地の複合より成り灌漑可能の低地は水田となり、その他は桑園と森林原野に占められ、殊に桑園多し。松本市はこの盆地の文化・經濟の中心にて、北部の大町、中部の穂高、南部の豊尻も亦地方の中心たり。中央本線は諏訪より來りて木曾谷に向ひ、篠ノ井線は豊尻驛より飯田松本を經て長野に向ひ、大糸南線は松本と大町を結び、大町と糸魚川を結ぶ大糸北線は目下工事中なり。両して松平は日本北アルプス登山の根據地なり。松本平より諏訪盆地へは豊尻峠越、木曾谷へは鳥居峠越、伊那谷へは善知鳥峠越、善光寺平へは刈谷原峠・猿馬場峠越、上田盆地へは保福寺峠越、飛騨國へは野麦峠越にてそれぞれ通ず。

【松本電氣鐵道】社線。電車。長野縣松本市及び東筑摩郡内を走る。省線篠ノ井線の松本驛より西南方島々驛（波多村）に至る一五・七粁と、松本驛より松本市を通りて本郷村浅間温泉に至る五・二粁、計二〇・九粁。省線と連絡運輸す。

【松本】讃岐國（香川縣）の古地名。延喜兵部省式に驛名見え、驛馬四疋とあり。式の記載の順序より見れば大川郡の内なるべく、松尾村大字田面の邊か。

【松本村】大分縣豊後國直入郡の南部。玉來町の西に接し阿蘇山の東麓に位す。全村極めて緩き傾斜地をなし東に低し。北部には玉來川が屈曲しつつ東流す。河川沿岸に段地拓け米・麥・繭を産するも村内山林廣し。縣道が中央を貫きて東西に走りバスの往來盛なり。此地古くは和名抄、直入郡直入郷の内とす。

マツヤ 松屋 長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狹郡松室郷あり、萬都也と讀ずれば室の字誤なること明なり。その地今の厚狹郡王喜村の邊にして、大字松屋はその遺稱なり。

マツヤイ 松合町 熊本縣肥後國宇土郡宇土半島東部の南岸。八代海に面す。北境には大嶽の五〇〇米以下の山脈が東西に連りて南方へ傾斜し八代海岸に終る。沿岸には僅少なる低地點在す。水産豊かにして特に海老の産多し。また醬油の特産あり。海岸に沿ひて縣道が東西に走り、約四粁東方の省線鹿兒島本線

給郵書ハ人ハ本町の郵便局ニ集ル。郵便局の中央に市街地あり。大正五年に町制を布く。農業時代は藩川筋の治下にあり、字土郷松山手米屋原氏の支配を受けたり。

マツヤマ　松山

【松山町】　宮城郡鹽竈港国志田郡の東部。三本木町の東方約一〇粁。東北に曾原川を渡りて志田郡に接す。地勢平坦の市街地大松沢丘陵の北麓面をなし、西南部に高なしして東南に進る。北方は平野なり。曾原川は北端を流れて東南に進る。米・麥・蕎・米炭・馬鈴薯を産す。産業は主殖産なり。

【松山村】　宮城郡鹽竈港の中部。東多賀方町の西北に接す。面積八・〇四方粁。地勢は東北部に傾斜すれども概ね平坦にして全体豊饒に属す。井切川は西部を南流す。米・麥・大豆・馬鈴薯を産す。産業は中部を南北に貫ぐ東多賀方町へ自動車道の便あり。

【松山町】　宮城郡鹽竈港の中部。北は大日塚と接る。東端部は丘陵地なれども他は総て平地にして東川流る。農業・家畜飼育はれて米・麥・蕎を産し、また沿海の漁業盛行はる。鹽釜より人口明治四十年中までは三千に達せざりしが、同十七年、鉄道の開通より人口急増して三千に達せり。氏神は中央部に鎮座し、而も部落の集合地に位す。北足立郡荒蒲村・宮城郡東多賀方町・東川村・本町・大日塚・大日塚・大日塚

墓地と称し、修士学校に改む。境内には弘安役の男女無縁塔・蒙古塚・蒙古塚・市井塚・蒙古塚・外国塚・持経天満宮・蒙古塚・蒙古塚・蒙古塚

には市部に編入、東西約七粁、南北五粁の面積あり。東端に近く高千一〇六米の山あり、山麓北及び西南に流れて日本海に注ぐ。港湾は周囲多数のものも、浸蝕なるを以て船舶の見るべきものなく、ただ南・北両岸に並ぶ漁田ひらく。米・麥・豆類・綿花等を産す。北部に南部・馬山両市間三等鉄道敷設し、東方の南部港に出づるに便なり。

マドアケ 恋明山 釜山湾中央部山嶺に属す一峰。主峰海抜八六粁高に達す。麓に寺あり、慶尚南北両大川・釜山湾の三村の境上に聳つ。一八四二米。北西方に対し八山（一七七四米）隣す、南西方に海ヶ岳（一一三一米）連る。

マトエ 一一社 慶尚南道竹州竹東郡にある神社。高砂丸の祭神にして開拓者は アメノヤネノミコト 命なり。神内の祭神山西側に鎮座す。

マトー 川藤 ↓ 南本部上郡倉足尾町の大字。南部足尾鉱の回廊口（大正三年設置）を置く。

マトー 麻道面 ↓ 南新安郡麻本面の西部。水原市の西南南約一一粁。南部平野の中部を占め、北は安谷郡、南部の西部は一八〇〇米代に、新興人により、沿岸の漁人に転化を受け、教育会及び学校組合を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍の活動を開始。本街内に設ける産業中大なるものは、漁業・農業・商業・工業・鉱業・運輸業・土木業・金融業・自由業・公務・その他の職業・無職・家事・学生・生徒・不詳の二万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍の活動を開始。本街内に設ける産業中大なるものは、漁業・農業・商業・工業・鉱業・運輸業・土木業・金融業・自由業・公務・その他の職業・無職・家事・学生・生徒・不詳の二万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられたりと云ふ。南部はアメノヤネノミコト（Mattau）と称せられたり。のち部氏の根拠地を定め、高麗中九年に成りし高麗史に所謂の足跡を及し、故郷中九年に成りし高麗史（高麗史）には巡検中の名見ゆ。また同書に「開京市は三支に分る、西南を麻浦支市となす」とあるを見れば、本街は往時倉米搬出のよりて一港を形成せられる南部港に出づるに便なり。

マドアケ 恋明山 釜山湾中央部山嶺に属す一峰。主峰海抜八六粁高に達す。麓に寺あり、慶尚南北両大川・釜山湾の三村の境上に聳つ。一八四二米。北西方に対し八山（一七七四米）隣す、南西方に海ヶ岳（一一三一米）連る。

マトエ 一一社 慶尚南道竹州竹東郡にある神社。高砂丸の祭神にして開拓者は アメノヤネノミコト 命なり。神内の祭神山西側に鎮座す。

マトー 麻道 ↓ 南本部上郡倉足尾町の大字。南部足尾鉱の回廊口（大正三年設置）を置く。

マトー 麻道面 ↓ 南新安郡麻本面の西部。水原市の西南南約一一粁。南部平野の中部を占め、北は安谷郡、南部の西部は一八〇〇米代に、新興人により、沿岸の漁人に転化を受け、教育会及び学校組合を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍の活動を開始。本街内に設ける産業中大なるものは、漁業・農業・商業・工業・鉱業・運輸業・土木業・金融業・自由業・公務・その他の職業・無職・家事・学生・生徒・不詳の二万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられたりと云ふ。南部はアメノヤネノミコト（Mattau）と称せられたり。のち部氏の根拠地を定め、高麗中九年に成りし高麗史（高麗史）には巡検中の名見ゆ。また同書に「開京市は三支に分る、西南を麻浦支市となす」とあるを見れば、本街は往時倉米搬出のよりて一港を形成せられる南部港に出づるに便なり。

二大水系を分つ一大分水線を成す。

マトー 麻豆街 ↓ 麻浦麻浦州曾文第一街西庄の一。郡の西北部に位す。東は谷田庄、西は桂恵街、北に下麻庄、南は曾文第二街西庄に接す。市は曾文駅を隔て新化郡新化・安定の二庄に亘りて跨れそれぞれ管轄す。管内には鉄道駅・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍す。土地肥沃にして地勢は東より西に傾斜す。土地肥沃なる為、近年は官庁大河の完成と共に開墾の進捗して立つ本街の農業は著しく改良発達を図り、元来農業を以て生業とする者多く、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、人口一万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍の活動を開始。本街内に設ける産業中大なるものは、漁業・農業・商業・工業・鉱業・運輸業・土木業・金融業・自由業・公務・その他の職業・無職・家事・学生・生徒・不詳の二万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられたりと云ふ。南部はアメノヤネノミコト（Mattau）と称せられたり。のち部氏の根拠地を定め、高麗中九年に成りし高麗史（高麗史）には巡検中の名見ゆ。また同書に「開京市は三支に分る、西南を麻浦支市となす」とあるを見れば、本街は往時倉米搬出のよりて一港を形成せられる南部港に出づるに便なり。

マトー 麻豆 ↓ 麻豆街

マトー 川藤 ↓ 南本部上郡倉足尾町の大字。南部足尾鉱の回廊口（大正三年設置）を置く。

マトー 麻道面 ↓ 南新安郡麻本面の西部。水原市の西南南約一一粁。南部平野の中部を占め、北は安谷郡、南部の西部は一八〇〇米代に、新興人により、沿岸の漁人に転化を受け、教育会及び学校組合を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられてそれぞれ活躍の活動を開始。本街内に設ける産業中大なるものは、漁業・農業・商業・工業・鉱業・運輸業・土木業・金融業・自由業・公務・その他の職業・無職・家事・学生・生徒・不詳の二万一千一百一人（内男一万一千一百一人、女一万一千一百一人）の人口を有し、戸数二千一百一戸（内一戸は無人）を有し、一般社会教化機関として図書館・共済会・産業組合・青年団・少年団・婦人会・農事改良会・産業組合・郵便局・警察官駐在所・巡査派出所・巡査部長等を設けられたりと云ふ。南部はアメノヤネノミコト（Mattau）と称せられたり。のち部氏の根拠地を定め、高麗中九年に成りし高麗史（高麗史）には巡検中の名見ゆ。また同書に「開京市は三支に分る、西南を麻浦支市となす」とあるを見れば、本街は往時倉米搬出のよりて一港を形成せられる南部港に出づるに便なり。

マトー 的矢 【的矢村】 三重県北牟婁郡的矢村の中部。的矢湾中部の南北海岸に面する部を占む。全村広袤を有し漁業の盛なる村なり。産業は漁業にして漁獲物の大部分は鰹・鮪・鰯・鯖・鰤・鰹・鯛・鮫・鱈・鰈

に赴けり。眞鶴岬附近は海水浴場として知らる。（貴船神社）郷社。祭神、大己貴命。寛平年間の創立と傳ふ。社地は海に臨み、近く眞鶴港と相對し、景勝に富む。例祭、七月六日。

【眞鶴町】神奈川縣足柄下郡眞鶴町附近より東南に約三粁突出せる小半島にて、相模灣と古流の入江とを分つ。第損火山より噴く熔岩より成り、高からざるも全半島丘陵性にして、尖端は三ツ石と稱する數箇の岩石が侵蝕に耐へて海中に殘存し、頗る奇勝をなす。その内側の一區は御料林にて、椎茸たる鬼女林は斧鉞を知らず、殊に楠の老樹の多きことは氣候の温暖を示すものなり。藍澤より熱海に至る廣義の湘南地方海岸に於て、最も特色ある出入の變化を與ふる地域なり。海軍の無線電信局と航空燈臺とを設く。

マナバン　——社　臺灣新竹州大湖郡の著社。高砂族の部落にしてアタヤル族に屬する種族の住地。大安溪右岸の地、にあり、標高五五〇米。順路は豐原方面より入山するを便利とす。昭和十二年末の戶數三二、人口一二八。

マナベ　眞鍋町　茨城縣常陸國新治郡の南部。土浦町の北隣にあり。東南部は霞ヶ浦に臨む。北部は低き臺地をなすも、南部は櫻川下流平地の一部にして農業行はれ、米を主產し他に小麥・大麥を產す。また製材・製糸・製綿等の工業行はる。陸前横街道は中央を北走し、藥師はこれに沿ひて南部に發達す。省線常磐線東部を東北に走るも村内に驛なく、社線筑波鐵道は南部を西走して眞鍋驛（大正七年設置）を置く。大字木田余に城址あり。信田庄司輔範の子、範宗（伊勢守）の築くといふ。天文二十三年小田氏治、菅谷勝貞をして範宗を土浦に誘殺せしむ。天正元年太田三樂等、小田城を陷るに及び氏治走りてこれに入る。同六年梶原政景これを陷れ氏治逃走す。已にしてこれを復し、尋でこれを失ふ。また此地は元治元年水藩天狗黨の亂の際、田中愚藏等此地に入りて人家を焚き財物を掠めしも藩兵の守備あるを見て北走す。〔八坂神社〕大字天王前に鎮座。郷社。祭神、素戔之男命。古來領主の崇敬篤く、近世除地四石三斗九升を有せり。

マナベシマ　眞鍋島村　岡山縣備中國小田郡の南部。笠岡町の南方、瀬戸内海に横る群島の南部。笠岡町の南方、瀬戸内海に横る群島の一なる眞鍋島一島より成り、北木島の東南に並ぶ。面積三・一八平方粁。附近島嶼多く、西北には北木島を隔てて白石・高・神ノ島あり、西方數粁に小飛島・大飛島等散在す。風光の美に加ふるに附近は鯛網・鰯網の本場にして毎年五月頃より繰覽船笠岡町より毎日仕立らる。村内は漁獲物の外、海岸の平地に麥を產し、一般に養蠶行はる。島内散れ臺地にて山林繁茂す。笠岡町及び多度津港に汽船の便あり。瀬戸内海國立公園の一部をなす。

マニワ　眞庭郡（まにわぐん）　岡山縣十九郡の一。美作國の西北隅に位し、北は鳥取縣東伯・日野二郡に、西は阿哲郡に、南は御津郡、東は苫田・久米二郡に接す。面積八二五・七六平方粁。郡内勝山・久世・落合三町外十四箇村を含む。旭川上流の流域地を占めて、四周は山地に圍繞せらる。北部には中國山脈の分水嶺連亘し、伯耆大山（一七一三米）・上蒜山（一二〇〇米）・毛無山（一一六四米）・入道山（一〇四〇米）の高峯相重りて、高嶺を極め諸川の發源地をなす。旭川は西北山地に發して中部を南流し、東西山地より目水・本庄・新庄・備中等の諸支流を合し、廣大なる流域を作る。沿岸平地は本郡の楓葉なる耕作地域をなし米・麥・蘭を產す。中央部の新庄川・備中川の本流に合する處に小盆地ありて勝山町・久世町及び落合町等の都邑發達し、古來、山陰・山陽間の交通・商業の街に當る。山地は概ね山林地帶にして、葡萄・柿・梨等果樹の栽培盛んなり。養蠶・醸造一般に營まれ、繭・酒類・蒟蒻及び木炭等を產出す。省線姫新線と出雲街道は中部を貫き、前者の美作進分・美作落合・久世・中國勝山その他の諸驛を有し、バス隣郡諸邑に通ず。

マヌタ　滿田　武藏國（東京府）の古地名。和名抄に荏原郡滿田郷あり、その地今詳かならざるも、凡そ今の東京市蒲田區池上町の邊ならんか。

マヌル　——社　臺灣高雄州屏東郡の著社。隆寨南溪の右岸地方にあり。海拔約九〇〇米の地、高砂族の部落にしてパイワン族に屬す。戶數七七、人口三六三（昭和十二年末現在）。

マノ　眞野

【眞野村】福島縣磐城國相馬郡の東部。鹿島町の南に隣り、原町の北方約五粁、東は太平洋に面す。阿武隈山地の東斜面に屬し、地勢西部に高く東方に傾斜して海岸に段丘をつくる。眞野川は北境を東流して太平洋に注ぎ、沿岸に耕地拓く。米・繭・生魚の產あり。陸前濱街道は中部を南北に通じ、鹿島町と原町へはバスの便あり。此地の鳥崎は一に鳥濱と稱せし地。〔日吉神社〕大字江垂に鎮座。郷社。祭神、大山咋命。合祀、猿田彦命・熊野神社。北畠顯家は霊山城にありしが賊の爲に敗れ、麾下桑折元家等霊山の山王大權現の御神體を當地に勸請す、これ當社なりと傳ふ。眼病に霊驗ありとして參籠する者多し。例祭、四月二十七日。〔男山八幡神社〕大字寺内に鎮座。郷社。磐田別命・健御名方神・息長足姫命を祀る。相馬藩主累代の崇敬社たり。

【眞野】常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に久慈郡眞野郷あり、その地は今の那珂郡上野村の邊か。

【眞野村】新潟縣佐渡國佐渡郡の西部。眞野灣東南岸を占む。東南部・西南部には前佐渡山脈の諸峯連亘し、北及び西へ

山麓を引き、北部は國中平野に屬し國府川西南流して眞野灣に注ぐ。西北岸の南半は山地迫りて海崖をなし、北半は國府川の堆積による砂濱なり。藥落は平野及び海岸に散在し、新町はその中心部落をなす。佐渡味噌・乳製品・製材等の工業頗る最も多く、農產これに次ぎ、米を主とし甘藷その他の蔬菜・副產物の滿等あり。漁業・牧畜・林業も行はる。縣道は新町部落を中心に西海岸・南海岸と國中平野とを結ぶ數條あり、小木・赤泊・夷・相川の諸港へはいづれもバスの便あり、また海路遠後へ至る舟の便あり。村内に石器時代遺蹟及び古墳の散在せるありて、先史時代既に開發されし處ならんも、文獻の徵すべきは大化改新以後に屬す。大化改新により從來の國造を廢して國府を置くや此地は佐渡國府の所在地となる。佐渡は初め一國一郡（雜太）なりしが養老五年雜太を割きて加茂・羽茂の二郡を增置するや雜太郡衙なも此地に置き、豐區氏が治府を鵜子（澤根町）に移すまで實に九百六十餘年間一國の首府たりしと共に亦實に文化の中心地たり。されば和名抄佐渡國二十二郷の内、大目・竹田・雜太の三郷は凡そ本村の地に當り、往時より戶口の稠密なりしを知るべし。また天平十三年の詔勅により國分寺建立せられ、其後、妙宣寺・世尊寺・太運寺の他村より移建せらるゝありて信仰上の中心地となる。鎌倉幕府に至り相模國海老名氏の一族、本間右馬允能忠は佐渡の守護を命ぜられ、曾孫祖綱は今の河原田町に住し、其弟宗忠は本村雜田城に居りしが、其後本間氏の一族各地に古據し、殊に雜田城の本間氏の一族の所領は略ど國の半部に及びしかば、世呼んで半國殿と稱へ一族十三地頭の盟主として威を振ふ。承久三年七月就權北條義時、順德上皇を當國に遷し奉る。御在島二十二年の間、城主本間山城兵衛尉泰宣預り奉る。文永八年就權北條時宗、日蓮上人を當國に流し新穂村と二宮村市澤に置く、遠藤盛遠の裔なる長盛目蓮に歸依して阿佛坊日得と稱し深夜密かに食を送りてその危難を救ふ、妙宣寺は日得の開基と傳へ、大字に阿佛坊の名を存す。正中二年十二月、目野資朝卿配流せられ、雜田城主これを監す、居ること七年、就權北條高時は後醍醐天皇を隱岐に遷し奉るに及び城主山城なして卿を斬らしむ。卿の一子阿新丸（あしんまる）は父の仇を報じて遁る。諸曲檜皮はこの頼末を演ふ。天正十七年六月上杉景勝、北佐渡の地頭と力を協せ一國を平定してその領邑となす。南軍は實に雜田・吉岡・澁手（以上本眞野村の内）・羽茂・大野等とす。當時雜田城主本間信濃守高遠は二十九ヶ村を領し、吉岡城主の本間遠江守正方は吉岡一ヶ村、澁手城主足立兵庫正義任は澁手（本村大字豐田）外二ヶ村を領せり。豐區氏天下を統一するや景勝の封を會津に移す、これ隣村西三川村の砂金山及び鶴子銀山（澤根町）を直轄せんが爲めなりしならん。德川氏は佐渡を以て直轄の地となし治府を相川に移せしため、本村は漸く行政の中心を離れたるも、遠後に到る公道たる小木・赤泊に通ずるの故を以て戶口は却て增加するの結果を生ぜり。明治二十二年に村制施行、いま新町・眞野・吉岡・名古屋・大川・國分寺・竹田・阿佛坊・長石・四日町・金丸・豊田・菅合・澁藤・下黒山・静平の十六大字に分れ、役場を新町に置く。〔順德天皇火葬所〕大字眞野字林にあり。天皇は佐渡御在島二十二年の後、仁治三年九月聖壽四十六歲を以て登遐あらせらる。よつて御遺骸をこの地に火葬し奉り陵を築き、眞野御陵と稱せしが、明治二十二年、御陵を京都府愛宕郡大原村大字勝林院に御治定になり、爾來「順德天皇火葬所」と公稱せらるるに至る。畿内山陵修補に先つ二十年、延寶七年佐渡奉行曾根吉正は周圍に陵を掘り、土手を築き門を建つる等大いに修補し奉れり。明治七年十一月初めて守丁を置き、守護し以て今日に至る。〔眞野宮〕大字眞野にあり。縣社。順德天皇を主神とし、菅原道真・日野資朝を配祀す。順德天皇は承久の變に佐渡國に遷幸せられ、國地黒木御所にて二十餘年の春秋を送らせ給ひ、仁治三年崩御せらる。帝に仕へ奉りし池野藏人繼頭清範は山陵を營み、國分寺をして之を管せしめ、尊像を彫みて國分寺本、眞輪寺に奉安し御靈を祀る。明治七年、明治天皇特別の思召を以てその尊像を橘津國官幣中社水無瀬宮に遷祀し奉らる。然るに島民同天皇の御德を追慕し奉りて、朝廷に請ひて御創を賜はり、眞輪寺の故地に神祠を營む。これ當社の創建なり。聖九年五月順德天皇遺愛の菅公像・日野資朝の像を配祀す。同十一年車駕北陸を巡幸し給ふや、御使御差遣ありて御代拜せしめ給ふ。近年社殿の改築成る。〔懸ヶ浦〕大字豐田の海濱をいふ。眞野灣を一眸に收め得て風光絶佳、水は淺く大船の出入を許さざるも、往昔は國府（眞野村大字竹田）の要津なりしものゝ如し。順德天皇の佐渡御遷幸の際に御上陸あらせられ、隱岐に御遷幸なりし後鳥羽上皇の御身の上を思召されて「いささらは磯うつ波にこと問はんおきのかたには何事かある」と詠み給ひし處なり。名稱もこの故事より起ると云ひ、一說に國府の浦の轉訛なりともいふ。また「思ひきや雲の上をはよそに見て眞野の入江に朽ちはてんとは」の御製もこの邊を詠給へるもの。いま海近く小高き處に御上陸記念碑を建つ。尙この地は大正五年七月、皇太子殿下が佐渡へ行啓あらせられし時にも、御上陸遊ばされし處にてその記念碑あり。上皇は承久三年七月二十日京都を發し北陸道を經て越後寺泊より當國に渡らせ給ひ、眞野村の國分寺を行在所と定め給へるものなるも、御着船の月日詳ならず。〔堂所行宮址〕大字眞

野にあり、御火葬所を距る六粁の山中にあり。上皇この處にまし〳〵て專ら佛果を願ひ召され、また此堂にて崩御あらせらると傳ふ。上皇御遺愛の太郎杉も枯死し、皇陵記に載する「都忘れ」の白菊も今は絶えて無し。御製「いかにして契りおきけん白菊を都忘れと名つくにもうし」

【國府址】 大字竹田の雑田城(檀風城)なりと云ふも詳かならず。國府には軍團ありて雑田軍團と呼べり。軍團には兵庫を置く。その兵數は五百人以下にして、兵庫は毎年甲一領、横刀四口、征箭十具、葛藤十具を造りて納むるを例となせり。

【雑田城】 大字竹田にあり。同姓十三地頭の宗家本間氏累代の居城なり。日野資朝剛閉の舊蹟にて、その詠「秋たけし檀の梢吹く風に雑田の里は紅葉しにけり」より、一に檀風城といふ。謡曲「檀風」は阿新丸の父の仇を報ぜしを演ぶ。一説にこの曲は諸葛孔明が赤壁の戰に祭壇を設けて風を禱り曹操の軍を焚討せし故事により、山伏の風を禱り給を造退して、阿新を逃れしめしより名付けしなれば、檀は壇に作るべしともいふ。佐渡志に古府より西方に城戸街道といふ處ありて、いま小川内の眞樂寺これなり、遠藤爲盛が歌「ここもまた都の春に似たるかな柳櫻の錦戸の里」「浦ちかく落合水の細江川濁るや民の田草とるらむ」細江川は高館川ともいひ今その名を存す。〔引田部神社〕郷社。祭神、猿田彦神。式内社。往古、引田氏の奉齋せしものか。上杉氏の崇敬社。俗稱、引田明神。例祭、陰暦九月九日。〔大日神社〕大字吉岡に鎮座。村社。祭神、大己貴命、或は大宮實神と云ふ。初め羽茂郡椿尾村に鎮座ありしを德治二年に吉岡地頭本間遠江守は吉岡地内に移し、後また現地に轉ずと。〔佐渡國分寺塔跡〕指定史蹟。大字國分寺京ケ峰にあり。天平十三年の詔勅により創建されし國分寺の遺蹟にして、現在の國分寺の西方、金堂・講堂・廻廊、並に塔跡に擬定すべき地點に礎石を有し、奈良時代の古瓦を發見せり。廻廊の礎石の存するは稀有のことゝさる。〔國分寺〕大字國分寺にあり。新義眞言宗智山派。醫王山と號す。天平年間、聖武天皇勅願の諸國分寺の一。正安年間雷火に炎上し、享祿二年再び回祿に罹る。承久三年順德上皇の行在所に充てらる。本尊は木造藥師如來坐像にて國寶。〔世尊寺(國府遺場)〕大字竹田にあり。本門宗。令法久住山大覺世尊寺、俗に法久山と號す。開基は遠藤四郎盛國にして、順德上皇の冥福を祈るため上皇の御看經佛釋迦像を安置し一宇を建つるに始まると云ひ、畑野村西方にありしが、弘安中、本村大字四日町字西浦田に移り、天正十年泉澤小四郎その城址を寄附して現地に移す。〔大願寺〕大字四日町にあり。時宗。貞和元年の開基。もと府中橋本の道場と稱し、文龜の頃より月並連歌の會筵あり、六十坊を有せし大寺なりしも天正の兵亂に寺坊燒失し衰戸八本、内陣及び前机のみ災を免る、慶長十四年大久保石見守再建、當時二十代信頼上人は藍澤山清淨光寺二十代となり元祿九年十月寂。〔太蓮寺〕大字竹田にあり。曹洞宗。享德元年地頭本間信濃守長信創立、初め金澤村貝塚にありて法久寺と號せしが、その子高康は永正三年に現地に移し寺號を改む。境内に春日惣次郎の墓あり、惣次郎は武田家の老臣高坂彈正の甥にて、主家滅後は佐渡に遁れ當時羅漢堂にありて、彈正の遺著甲陽軍鑑を增訂し四十歳の頃病歿すと。また惣次郎の携へ來れる未開紅と名付る梅ありしが今はなし。〔妙宣寺〕大字阿佛坊にあり。蓮華王山と號す。日蓮上人新穗村塚原にありし時、密かに食を讀り危難を救ひし遠藤爲盛(日得)の舊蹟なり。爲盛は順德上皇に奉侍せる北面の武士(爲盛は遠藤武者盛遠四世の孫、故ありて流罪せられ新穗村に居るといひ、又盛遠の弟なりといふ)にて、上皇の崩後入道し淺下に心喪に服すること三十年、時の人阿佛坊と稱ふ。その妻は右衛門督局の侍女にして局と共に尼となり、千日尼といひしが、後夫妻共にて上人を保護し、上人も深く二人を敬愛され、慈母の再生かと嘆賞せし謂ゆる中老僧の一人なり。その子九郎盛綱(日蓮)も上人に歸依し、弘安元年父子相謀りその宅を捨て寺となす、即ち妙宣寺なり。初め新穗村にありしが嘉曆元年雑田城主本間泰昌、これを居城の傍ヤセガ平に移し、天文中に至りその子孫なる高滋また田園を寄附し、現地に移せり。弘安以降、阿佛坊と稱して來りしが天正十七年に現寺號に改む。古來北陸道七箇國法華の棟梁と稱され、寛文中、身延・池上・中山三寺の輪番所となり、明治十一年に獨立し本山に定めらる。境内に日野資朝の墓あり、また五重塔(文政八年三月起工、棟梁相川茂三右衛門)は國寶。〔礫石堂〕大字豊田にあり。文永十一年三月、日蓮上人赦免歸倉の折、豊田字豊屋崎の八兵衛の門邊にありし石に腰懸け、弟子、檀那に離別ありし傳説にて昭和三年に小堂を建てしが、明治三十八年に世尊寺境内に移し、大正十年更に舊跡地附近なる今の地に轉ず。〔一杯清水〕大字豊田字長阪にあり。日朗上人、日蓮の赦免狀を携へ小木より國中に出る途中この地に到りしに喉渇き氣息疲れて暫出でず、杖にて地を突きしに清水忽ち湧出し、これを飲みて心神爽快なるを得たりと。〔石抱の梅〕大字眞野にあり。もと式部長吉の宅址にあり、長吉は順德上皇御遷幸の際奉仕せる舁輿丁の後裔なりと。その樹幹日過り五尺餘、高さ二十餘尺、花は單瓣にて色淡紅、根幹は石を抱き枝葉四方に繁茂し傳世の名木なり。

【眞野灣】 新潟縣佐渡島西南岸の大灣。一に二見灣ともいふ。北に臺ヶ鼻、南に田切須崎が斗出してその口を扼す。灣は

南西に面し、灣入約四浬、闊さ約三・五浬、水深は中央二〇尋内外にて、水底砂礫多く、國府川灣の東より注入す。南または西の風の強き時は碇泊安全ならず。また灣内所々に險岩暗礁あり。灣頭には河原田町・澤根町等あり。

【眞野村】 滋賀縣近江國滋賀郡の中部。堅田町の北に接し琵琶湖の西岸に臨む。西部は比叡山脈東麓の山地にて高さ約二〇〇米あるも東方琵琶湖岸に向ひて低下し、眞野川中央を東に貫流し堅田町に入りて湖に注ぐ。針岸約一粁餘を隔てて野洲川三角洲の突出あり。農業を主として米・麥・桑葉・繭・緑肥用作物・茶等を產す。湖岸に沿ひて縣道縱貫し、其西に社線江若線道走りて眞野驛(大正十三年設置)あり。この地はもと眞野郷と云へり。夫木・二八に「からさきやなからの山にあらねとも小笹なみよる眞野の秋かせ　師俊」とあり。〔神田神社〕大字眞野に鎮座。縣社。祭神、彦國葺命・天押帶日子命。式内社。嵯峨天皇弘仁年間に和珥氏等の創建にかかる。例祭、十月十日。

【眞野】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に那珂郡眞野郷あり、萬乃と訓ず。その地今の仲多度郡神野村邊に當る。

マバシ　馬橋村　千葉縣下總國東葛飾郡の西部。小金町の西南にて、江戸川の東岸にあり。北は流山町と境す小村なり。全村平地にて、附近一帶に續く沼田の一部をなし米を主產す。其他に麥・蕎を產す。陳前濱街道は東部を東北に走り藥落はこれに沿ひて發達す。江戸川沿ひには、縣道北走して流山町に通ず。省線常磐線は濱街道に沿ひて走り、馬橋驛(明治三十一年設置)を置く。同驛より社線流山鐵道分岐して小金町を經て流山町に通ず。この地は小金原の城内にして、常陸街道の驛路に當る。〔萬滿寺〕臨濟宗大德寺派。法王山と號す。建長五年千葉胤鳳、鎌倉絲樂寺の良觀を請じて小金の地(いま小金町)に大日寺を建立、良鳳の時千葉に移し、足利氏滿の時に山城天龍寺の古天を請じて中興開山となし萬滿寺と稱す。德川家康寺領七十石の朱印を附す。明治四十一年火災あり、近年その一部復興す。金剛力士立像二軀は鎌倉末期の作にて國寶。中氣除不動祭・唐椀供養行はるるを以て著はる。

マベトアン　——社　臺灣新竹州大湖郡の蕃社。高砂族の部落にして、種族はアタヤル族に屬す。汶水溪支流の地方にて、標高四二〇米—九〇〇米の地にあり、苗栗より大湖を經て至るを便とす。昭和十二年末現在の戶數二一、人口一二九あり。

マハラ　眞原岡　文德天皇の田邑陵所在地の丘。山城國(京都府)葛野郡田邑郷にあり、初め眞原陵と稱へしも、のち田邑郷名によりて田邑陵と稱へ奉る。いま京都市右京區太秦中野町にあり。

マハリ　眞張　上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に山田郡眞張郷あり、萬波利と訓ず。地は今の山田郡韮川村・休泊村・矢場川村の邊に當るか。

マバル　馬原村　大分縣豊後國日田郡の中央東偏。玖珠川の右岸に沿ひ、日田町の二粁餘東南にありて、東は玖珠郡に界す。全村山岳地にして東部に高く東境に五五一米の山地あり。西南境に沿ひて玖珠川が西北流す。農產・林產あり。縣道は北隅を掠めて過ぎ日田町・玖珠郡森町間に通ずるバスの便あり。古くは和名抄、日高郡刈連郷の内にして、のち五馬庄に屬す。

マヒル　眞壹山脈　秋田縣横手盆地の東方にある山脈。奥羽山脈の一部を作るものにて、栗駒火山と駒ヶ岳火山との間をほぼ南北に走る。山脈の大部分は主として第三紀層より構成せられ、處々に火山岩と花崗岩の露出あり。その西斜面は斷層によりて切斷されし斷層崖によりて西方の盆地に臨み、明治二十九年、陸羽地震の際にはこれとほぼ平行して走る龜裂を生じ、之はその後もなほ活動し、謂ゆる活斷層として知らる。

マビルハ　——社　臺灣新竹州大湖郡の蕃社。大安溪左岸の地、標高六六〇米にあり。高砂族の部落にして種族はアタヤル族に屬す。臺中州豊原方面より至るを便利とす。昭和十二年末、戶數四九、人口二九四を有す。

マフチ　馬淵村　滋賀縣近江國蒲生郡の西部。八幡町の南方約四粁餘にありて日野川の右岸に沿ふ。東北隅に二〇〇米餘の瓶割山あり。また東南部は細長く東南方へ突出して、その尖端部に雪野山(三〇九米)あれど其他は概ね土地低平にして一望沃野開け、南境に沿ひて日野川が屈曲しつゝ西北流す。農業を主生業とし米・麥・菜種等を產す。中山道が西北部を東北より西南に縱隊し之と交叉して走る縣道數條あり。各道路は自動車の往來あり、省線東海道本線近江八幡驛にも近く(西北方一粁餘)交通便なり。中世に佐々木氏の一族この地に馬淵氏を稱す。大字馬淵に木村重成の遺蹟を傳ふ。重成ここに生るとも、重成の室重成の大阪城にて討死後この地に來り一子を生み、後自殺すともいふ。〔八幡社〕大字馬淵に鎮座。村社。祭神、譽田別命。天武天皇御宇の創建と云ふ。本殿は國寶。例祭、五月三日。〔觀音堂〕大字馬淵にあり。宗派なし。草創年次は不詳。本尊聖觀音立像(木造)一軀は國寶。〔西來寺〕大字千僧供にあり。天台宗眞盛派。開基は僧眞盛。天正年間兵火に罹り、一時中絶せしも、寶永七年に僧眞祐再興す。阿彌陀如來像(木造)一軀は國寶。〔圓壽寺〕大字馬淵にあり。黄檗宗。最藏山と號す。淳和天皇の勅願にて創建、元龜年間兵燹に罹り大正二年に燒失せしも、同八年再建せらる。千手觀音立像(木造)一軀は國

寺。〔合祭令〕大谷千軒供にあり。書籍所。大鹿山と號す。同寺は行基。元亀元年に炎火に罹り申候、寛文十年に新造座。

マツ 王子芝浦（本芝浦）・四谷天王寺前・本郷追分・同駒込・同巣鴨・同雑司ヶ谷・同目黒・同渋谷・同三軒茶屋・同世田谷・同千住・同新宿・同内藤新宿・同板橋・同中山道蕨・同大宮・同高崎・同高島平・同大久保・同戸塚・同藤沢・同平塚・同小田原・同箱根・同三島・同沼津・同吉原・同蒲原・同由比・同興津・同江尻・同府中・同鞠子・同岡部・同藤枝・同島田・同金谷・同日坂・同掛川・同袋井・同見附・同浜松・同白須賀・同二川・同吉田・同御油・同赤坂・同藤川・同岡崎・同大平・同池鯉鳥・同鳴海・同宮・同桑名・同四日市・同石薬師・同庄野・同亀山・同関・同坂下・同土山・同水口・同石部・同草津・同大津・同追分・同板橋・同千住・同新宿・同内藤新宿

今や曙天一千人を超ゆる大炭鑛となり、重要鑛山に列す。

【豆田】 大分縣日田郡にありし村。三十四年に外一町と共に合併して日田町を置く。

マメト 摩兎戸渡 一に大豆渡に作る。往昔、木曾川本流のセゼ所の渡船場の一。縣業家都各非村の巷に出づ。

マモト 真本 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に塩谷郡真本鄕あり、眞本は日光市の眞なり。その地今の下都賀郡田々田町の巷に當る。

マヤ 麻耶山 越後山脈南部日山嶺の一峯。山形縣東田川郡大朱村と西田川郡岡村との境上に在し、標高一〇二二〇米、山麓花岡岩より成る。往昔、大國主命を祀り靈場として知られしも、今は佛と交山者を見ず。東麓に北流する大鳥川に臨ら れ、西新面より眞々田川・小國川間に流し西流して日本海に入る。

マヤ 摩耶

【摩耶山】 →摩耶山

【摩耶廣澤遺跡】 私立遺跡。摩耶市内にあり。高尾野より摩耶野に至る〇・九粁。動力は電氣、軌間一・〇六七米。名鉄と共通命令とす。等ら遺物に使用さる。

マヤカミ 馬屋上村 岡山縣東南國部津郡の西部。市は高屋下村、北は宇垣村、東は新谷村に接し、西は古屋敷に非村に接し、面積一・九・三四平方粁。村内最は山地にて、山林地大部を占むるも、市部は山麓部なれど東部には耕地を拓く。東條は山麓部に沿ひ、中央は平坦にして、村内の交通は不便なり。この地は和名抄、津高郡賀茂郷の內なり。ちと高屋下村と共に高屋と云へり。

マヤ山手 馬屋下村 岡山縣東南國部津郡の西部。西は高屋町(古賀郡)に接し、北は高屋上村、市は平井・一谷の二村に東する面積一・五・九三平方粁。西端は山麓部にして村內最は山地にして新市東市に山麓部なり。東南部に東部の高地にして、東は新市山麓(高屋町)に接ゝ山麓部新田は米・麥・果實の産多し。社寺中國觀音堂新田神社米・麥・果實の産多し。社寺中國觀音堂新田神社米・麥・果實の産多し。社寺中國觀音堂新田神社

諸島の生産額の大半は甘藷なるが、その

先づ挙げべきは甘藷なり。元来、南洋

の生産額は二百万円内外にして、内地

人は二百人、他は殆ど邦人にて占む。土

人は十分の一にして、内地人は約

四千二百人、他は殆ど邦人にて占む。土

人は主として南洋諸島の産物として著名なるもの

は椰子・ココナツ・ヤシ・ヤシ・ヤシ

以南に市港の一小漁村なりしも、慶長年中、先明氏の支城を築きしより漸次繁盛し、山崎・安威の二氏相次いで治せし此地に定まりてより益々繁昌に赴き、明治維新の際、丸亀藩藩庁の所在地となるに至り、明治四年廃藩置県の際、丸亀藩藩庁を置かれしも、翌年十一月香川県の管内に入り、翌年十月三日香川県出張所を置かれ、翌六年六月初めて県令籠谷真道丸亀藩を置かれ、翌六年六月初めて県令籠谷真道丸亀藩分割の際置かれ、同七年第二十一大区第一小区に編し、同十一年市制を実施し、同十八年各区に分ちしが、同十九年一区となり、市制を施行し丸亀町と称し、大正二年四月市制を施行し丸亀市と称し、大正六年六月市多度郡大麻村を編入して今日に及ぶ。〔丸亀城〕慶長二年、北国現主京極高次、讃州多度郡六郷村を選び城を築き、翌年城下町を建設し、丸亀城

一帯の山麓が迫りて谷村・田麻・粟谷などと中央東北国にて寒冷地とし、米・麦の農産、林業・畜産等を産し、鉱産・水産・石産等もあり。工業部は見るも多し。北部には鉱産が東西に走り日鉱業を興す。南方釣二新には石灰鉱・鉱泉・温泉・鉱産・鉱産・石産等もあり。名産は伊賀焼で、一に丸柱焼とも云ひ、土鍋・土瓶・行平などあり。

マルホ 丸柱 産物・特産品を主とす。

マルマツ 丸松 名称天満宮の一部（明和十一年設置）。北海道天満宮天満宮境内にあり。

マルモリ 丸守村 国分藩政時代国安領郡の北部。郡山市の西北約一二里。北は安部郡、西は郡山市に接す。東は郡山盆地の東部西に属し、西南部に鎮座山（一〇〇〇丈余）、西部に高塚山等と東方に鎮西北に高塚・本・麦・豆・綿を産す。安積産米は東北に高塚・本・麦・豆・綿を産す。安積産米は東北に高塚・本・麦・豆・綿を産す。市方釣二新には石灰の産あり。名産は伊賀焼で、一に丸柱焼とも云ひ、土鍋・土瓶・行平などあり。

マルホ 丸柱 産物・特産品を主とす。

マルマツ 丸松 名称天満宮の一部（明和十一年設置）。北海道天満宮天満宮境内にあり。

マルモリ 丸守村 国分藩政時代国安領郡の北部。郡山市の西北約一二里。北は安部郡、西は郡山市に接す。東は郡山盆地の東部西に属し、西南部に鎮座山（一〇〇〇丈余）、西部に高塚山等と東方に鎮西北に高塚・本・麦・豆・綿を産す。安積産米は東北に高塚・本・麦・豆・綿を産す。市方釣二新には石灰の産あり。名産は伊賀焼で、一に丸柱焼とも云ひ、土鍋・土瓶・行平などあり。

マルヤ 丸山 【丸山市】 江戸時代藩政時代の一。いま東京丸山新町にその名残る。この一帯小石川区指ヶ谷町附近まで明治時代にもその名残を示し記録・伝説多く、鶴口一帯の不毛の地となりしが、安積の産米に比べ、開墾後の新田となる。この地は往時一帯の沼地なりしが、「安積疏水」に沿ひ、開墾後の新田となる。此地に安子高塚あり、相生橋に入れば安子高塚あり、相生橋に入れば安子高塚あり、相生橋に入れば

建築年代は以前の四倍。半人、半現存の家屋なる。現在に伝聞人住の一なる天久宮の社なり。〔雷電宮〕大字安里にあり。

諸宮社安里字蔡。沖縄山と称す。もと此処の東にありしが、現在地の東北に移し、安里字東・字西・字新川・字前・字崎・字新・字前・字崎・字新・字前・字崎・字新

と稱する丘陵にある墓地附近の傾斜面に營まれたるもの。今は窯の一部な存す。建久年間に奈良東大寺大佛殿の再建の際にその用瓦を燒げる窯なり。

マンニチ 滿日 新潟縣中蒲原郡にありし村。大正十四年新津町に編入す。

マンネン 萬年 大分縣玖珠郡にありし村。昭和二年玖珠町と改稱す。

マンネンチョー 萬年町 【萬年町】東京の町名。今の深川區萬年町。北は仙臺堀に接し、南は和倉町、東は冬木町、西は亀住町に接す。但し下谷區にも同名の町あり、江戸時代貧民窟として有名。

【萬年町】大阪の町名。現今東區谷町六丁目附近に當る。北は玉木町、南は松屋町に通じ、南北に走れる町。

マンノー 滿濃池 香川縣讃岐國仲多度郡七箇村と神野村の間なる大貯水池。東西八一八米、南北一六四米、面積一・五粁、深度一五米。大寶年間の築造と傳へ、日本後紀に弘仁十一年修築せし由な載す。また弘法大師の修築な經たりとも傳ふ。近年改良工事な施し堤防な約一米半高くして貯水量な增し、新式配水塔な完成し、幹線水路の改修ななして配水な圓滑ならしめたり。古來苗代時に行はるる搖狀の古式は頗やかなり。

マンノサワ 萬能澤 北海道石狩國札幌郡手稻村の字。此地に鑛區四九萬餘坪な有する萬能澤鑛山あり。鑛種は金銀銅なるが昭和十年には金銀鑛二、二〇八瓩(價額五萬七千餘圓)な產出し、同年六月末の鑛夫數は四三人とす。現在三菱鑛業會社稼行。

マンバ 万場町 群馬縣上野國多野郡の中部。神流川に沿ひ西偏大なり。南は埼玉縣秩父郡と隣す。圖東山脈中の一部な占め、北境には赤久縄山(一五二二米)・御荷鉾山(一二八六米)等あり。南境には矢不見山(一〇六六米)・塚山(九五四米)等連互す。これ等の諸山は何れも南北より町內に傾斜し中央な東流する神流川の谷に迫る。山地一帶濶葉樹林多く薪炭等の林產あり。川沿ひに狹き耕地ありて麥・米な產し養蠶も行はる。十石峠街道は川沿ひに西走し主なる聚落はこれに沿ひて發達す。鄙岡町との間にバスな通ず。他は山間に町道あるのみにて交通不便なり。もと万場村と稱せしなのち神川村と改め、大正十五年更に万場町と改む。大字万場の村社八幡宮の境內に欅の巨樹多し。殊に本殿直後の一株と、八幡橋際の一株とは地方稀に見るものにして樹勢頗る旺盛なり。また此地方にて巨人として傳へらるる大正院黑澤源內は文化中當社に參籠して大力な得たりといふ。〔万場鑛山〕万場町內に鑛區五〇萬餘坪な有する滿俺山。万場の市街より約三粁の地點にあり地。質は古生層の片岩類にして其中に脈狀或は網狀ななして存在し、鑛石は主として炭酸滿俺鑛にて、品位は平均三五—四五%なり。昭和八年に露頭な發見し同十年には金屬滿俺鑛一、七六四瓩(價額約三萬三千圓)な產出し、一躍重要鑛山に列す。中央電氣工業會社の稼行にて十年六月末の鑛夫數は五五人なり。

マンポ 滿浦 【滿浦線】朝鮮總督府鐵道。平安南道より平安北道に亙り、滿浦本線・价川線・龍登線の三線あり。

【滿浦本線】朝鮮總督府鐵道滿浦線の一部。平安南・北道に亙る。平元西部線の順川驛より分岐し鴨綠江岸の滿浦鎭に至る。現在平安北道江界郡江界邑まで通ず、全長二五〇・六粁。途中、价川驛にて价川線、球場驛にて龍登線に接續す。

マンリ 萬里庄 臺灣臺北州基隆郡一街六庄の一。本庄は郡の北端に位すると共に、臺灣の最北端に位し、東南は基隆市に接す。管內は丘陵山嶽連互するな以て平地少く、また交通不便なるな以て諸產業の發達見るべきもの少し。比較的生產額の多きは農業・水產業・畜產業にして、農業には米・茶・甘藷・蔬菜等な主產し、その額約三十萬圓に達す。水產業は鰮・鯛・惣田鰹・鯵・蛤・鮑・蝦・海苔・石花菜、其他な合して約十五萬圓の漁獲高な有す。畜產に於ては、庄下の農家に於て飼育する水牛・黃牛・豚・家禽な主とし、年產約二十萬圓に達す。本庄內、或は隣接の庄に跨がりて存する炭礦多々あり、また硫黃山もあれど主なるものは次の如し(產額は昭和十年の年產とす)。金包里炭礦は萬里庄下萬里加投にあり、石炭三、二八八瓩(價額二萬二千餘圓)な出す。紫仔坪硫黃山は萬里庄下萬里加投にあり、硫黃二一三瓩(價額一萬四千餘圓)な出す。双溪炭礦の鑛區は萬里庄頂萬里加投と七星郡士林庄双溪とに跨がり、石炭二二、〇二五瓩(價額約十四萬圓)な出す。瑪鍊炭礦は萬里庄中萬里加投にあり、石炭一五、五三四瓩(價額十萬餘圓)な出す。本庄の地は、清領當時建てられたる金包里堡の一部に屬し、漢民族の足跡及びしば、明末鄭氏の一部將、本庄小字國姓埔の地に開屯せし以來にて、鄭氏亡び、清朝の治下に入るや、雍正末年、閩の泉州人、本庄の隣なる金山庄に金包里(現金山)なる一聚街な建設したるに始り、我が領臺後も其行政區劃の一として用ひられしが大正九年十月廢止せられ、舊金包里堡中の三庄(現大字)な割きて萬里庄な建つ。〔周倉廟〕大字中萬里加投字八斗坑にあり。周倉は後漢の平陸人にて周府將軍または周倉將軍と稱せられ、關羽の殷監の武將たり。漢吳の戰に於て關羽の戰死な聞き自殺せしな以て、關羽廟には必ず從祀さる。本廟の神像は、光緒十八年本庄野柳海岸に漂着せしな拾得、奉祀せしもの。例祭、二月二日・八月十五日。

ミ 三 【三村】茨城縣常陸國新治郡の東部。高濱町の南隣にて、東北は霞ヶ浦の北端に臨む。大部分は低き臺地ななし、北部は東流して霞ヶ浦に入る懸瀨川流域の低地ななす。臺地には畑地あり。低地一帶は沼田ななす。農業行はれて米な主產し、他に大麥・小麥な產す。縣道北走して高濱町及び石岡町に通じ、バスの便あり。聚落もこれに沿ひて發達す。省線常磐線また中央な東北に走るも村內に驛なく、高濱驛に近し。この地は和名抄、茨城郡田籠郷の內なるべし。小田安食越中守盛知の弟な三村山別當經深といふと、これ此地に在名な稱せしものか。

【三崎】↓武內村(香川縣三豐郡)

ミ 見島 ↓見島村(山口縣)

ミ 御崎 鳥取縣東伯・西伯二郡の界に膨出する礫濱角。濱上松叢ありて風光頗る佳なり。これより東方天神川下流右岸の東伯郡橋津村に至る約五〇餘粁の間は打續く砂礫の低き灣にて、山丘なく、濱上所々に松樹並列し、ただ天神川の左岸に小丘、茶臼山あるのみ。

ミアイ 美合 【美合】愛知縣額田郡にありし村。昭和三年に岡崎市に編入、村名な失ふ。

【美合村】香川縣讃岐國綾歌郡の南部。東は香川郡に、南は德島縣に隣し、西は造田村に、北は粉所・西分二村に接す。面積六八・七一方粁の大村なり。讃岐山脈の主峯龍王山・大川山等高さ一〇〇〇米餘の山岳東西に聳立して廣く山脚な伸し、その他、散在米の山岳重疊して地勢高峻なり。龍王山麓よりその源な發せる土器川は中央の溪谷な西北に流るるも平地殆んどなし。森林よく繁茂し、林產な出す。最近、北部河谷には葉煙草の栽培な行ふ。西北方琴平町へは約一六粁、バスの便あり。〔大川神社〕大字中通に鎭座。郷社。祭神、大山祇命・木花開耶姫命外二神。文武天皇の朝、役小角大山祇神の神託により創祀し、大仙大權現と云ふと傳ふ。天平四年の大旱に雨な祈りて大驗あり、爾後大旱毎に祈れば大雨ありと傳へらる。例祭、九月十四日。

ミアサ 美麻村 長野縣信濃國北安曇郡の南部。仁科三湖の東方の山中にあり。犀川の支流土尻川と金熊川の水源地に當る。西境は權現山(一二二六米)な主峯とする山地によりて糸魚川—松本鐵屑谷に隣りし、北部に東部に互りて西麥山(一〇六五米)・長者山(一一五六米)・雲松寺山(一一三八米)等の諸山に圍まれたる山間に幾多の小盆地ななす村なり。村內には大町街道かかり、松本より長野に至る犀川な遡けたる主要街道なり。この街道は大町より權現山丘陵山地な三日町來見原より登り、村內の新行・大蘆の小盆地な經て土尻川谷の青具に出で以下、土尻川な東に下る。大町・青具間約一六粁、青具より高府笹平な經て長野へ約三五粁。村は典型的山村にて、土尻川の溪谷は峽谷ななし耕地少く、水田は青具より大蘆・中ノ關・青木平な連ぬる南北に連なる盆地にあり。此等の盆地は恐らく一の構造谷なるやな思はしむ。山腹な利用する桑園・雜穀以外、林業による生計が營まる。

ミアト 都跡村 奈良縣大和國生駒郡の東部。奈良盆地の北部な占めて、東北部は奈良市の西部に接し、東は添上郡に界し、南は郡山町に隣る。西南は郡山町に接し。西南隅に丘陵の末端が僅に蟠踞する外は地形平坦にして、中央な佐保川の一支流が南に貫流す。東北部に湖沼あり。米の產額多く麥・繭も出す。縣道が中央な東西、南北に通じ奈良市及び郡山町へバスの便あり。社線大阪電氣鐵道中央な縱走し、北部には東西に走る同線あり。此地は和名抄、添上郡佐紀郷の地にて、萬葉集には咲野・開沼など見ゆ。平城京の大內裏のありし地なるな以つて都跡村と名づく。萬葉・一〇「なみなへし咲野におふるしらつつじ知らぬ事もちいはれしわがせこ」萬葉・一一「かきつばた開沼の菅な笠に縫ひ著む日なまつに年そへにける」〔平城宮址〕指定史蹟。大宇佐紀及び北新にあたる。和銅三年に元明天皇の都をここに遷し給ひしより七十餘年間、平城京の大內裏の存せる所にして、內裏址・大極殿址及び朝堂址等の諸遺址あり。內裏址は地字な大宮と呼び、高燥なる廣き平坦の地域にて、內裏・綜等の地名な存し、南にある小徑は朱雀路の遺址なり、北部及び東部には長く斷續せる土壘の遺址あり。大極殿及び朝堂址は內裏址の東南にあり、大極殿址は後殿址及び東樓址・西樓址な附屬し、各々土壇な遺存し、大極殿址の更に南にある朝堂址は第一堂より第十二堂址に至る十二の土壇やや方形な描いて連續して存し、この南に東朝集殿及び西朝集殿址あり。この外に大極殿址の周圍に廻廊に附屬せしと認むべき溝底石の配置されたるな發見し、また大極殿の北方には建築基壇の遺構並に東北及び西部には納孔のある方形の礎石群が發見さる。また朝堂址及び西朝集殿址の西側に一直線に地中に連續して埋沒せる多數の古瓦な發掘せしが、建物の外廂が自然に腐朽倒壞せしことな推測せしむる狀態にありしといふ。大內裏の設けられたるは平城京の最北部の中央部にして、正面南北に通ずる朱雀大路な以て左右兩京に別ち、更にこれと並行して造られたる南北の大路な以て兩京な各々四坊に區劃し、また別に東西に兩京な貫きて一條より九條の大路が造らる。この外に北京極の大路あり、右京の北に

牛頭の北邊坊あり、一條より五條までの三京條大路の東に高外條坊の區域を存ぜしが、まだ前時の形跡殘り、また北條奈良街道をその直址と辿むべく、一條大路の址は東大寺轟門の南より宮址の東方まで殘存す。（平城天皇陵）奈良市佐紀に在り、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大和平野を望む。皇后藤原帝の御陵。（仁德天皇陵）奈良市佐紀に在り、小高き山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれ、前方後圓墳にて最も約一五四米、普通墳丘として最も大なる。周濠三重に繞り、中堤あり、內濠は廣く且つ深くして最も精り、外濠は狹くして南側の部分が回字形をなして遺存す。（八幡宮）奈良市八幡宮社。大字四ノ京に鎮座。村社。祭神、誉田別命。白鳳元年に行基和尚、宇佐神宮より勸請すと云ふ。初大一殿は國寶なり。（南都鎮守（南鎮守））大字五條にあり。律宗。律宗總本山、南都七大寺の一。天平勝寶年間、聖武天皇の願により、僧鑑眞の開創する所にして、律學興隆のため盛唐の制に倣ひ、東大寺に次ぎて建立せられ、鎮護國家の道場たり。本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（西大寺）大字五條にあり。律宗。鎌倉時代の初頃、極樂寺と共に西大寺の末寺となり、本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法華寺）大字法華寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大和平野を望む。皇后藤原帝の御陵。（仁德天皇陵）奈良市佐紀に在り、小高き山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれ、前方後圓墳にて最も約一五四米、普通墳丘として最も大なる。周濠三重に繞り、中堤あり、內濠は廣く且つ深くして最も精り、外濠は狹くして南側の部分が回字形をなして遺存す。（八幡宮）奈良市八幡宮社。大字四ノ京に鎮座。村社。祭神、誉田別命。白鳳元年に行基和尚、宇佐神宮より勸請すと云ふ。初大一殿は國寶なり。（南都鎮守（南鎮守））大字五條にあり。律宗。律宗總本山、南都七大寺の一。天平勝寶年間、聖武天皇の願により、僧鑑眞の開創する所にして、律學興隆のため盛唐の制に倣ひ、東大寺に次ぎて建立せられ、鎮護國家の道場たり。本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（西大寺）大字五條にあり。律宗。鎌倉時代の初頃、極樂寺と共に西大寺の末寺となり、本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法華寺）大字法華寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大

大路の址は東大寺轟門の南より宮址の東方まで殘存す。（平城天皇陵）奈良市佐紀に在り、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大和平野を望む。皇后藤原帝の御陵。（仁德天皇陵）奈良市佐紀に在り、小高き山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれ、前方後圓墳にて最も約一五四米、普通墳丘として最も大なる。周濠三重に繞り、中堤あり、內濠は廣く且つ深くして最も精り、外濠は狹くして南側の部分が回字形をなして遺存す。（八幡宮）奈良市八幡宮社。大字四ノ京に鎮座。村社。祭神、誉田別命。白鳳元年に行基和尚、宇佐神宮より勸請すと云ふ。初大一殿は國寶なり。（南都鎮守（南鎮守））大字五條にあり。律宗。律宗總本山、南都七大寺の一。天平勝寶年間、聖武天皇の願により、僧鑑眞の開創する所にして、律學興隆のため盛唐の制に倣ひ、東大寺に次ぎて建立せられ、鎮護國家の道場たり。本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（西大寺）大字五條にあり。律宗。鎌倉時代の初頃、極樂寺と共に西大寺の末寺となり、本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法華寺）大字法華寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大

なほ佛足石とその後に佛足石歌碑あり、前の方は後世に補足せられたものにして、歌碑は我が國金石文學史上貴重なるものなり。共に國寶なり。（西方院）大字五條にあり。律宗。鎌倉時代の初頃、極樂寺と共に西大寺の末寺となり、本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法華寺）大字法華寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大和平野を望む。皇后藤原帝の御陵。（仁德天皇陵）奈良市佐紀に在り、小高き山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれ、前方後圓墳にて最も約一五四米、普通墳丘として最も大なる。周濠三重に繞り、中堤あり、內濠は廣く且つ深くして最も精り、外濠は狹くして南側の部分が回字形をなして遺存す。（八幡宮）奈良市八幡宮社。大字四ノ京に鎮座。村社。祭神、誉田別命。白鳳元年に行基和尚、宇佐神宮より勸請すと云ふ。初大一殿は國寶なり。（南都鎮守（南鎮守））大字五條にあり。律宗。律宗總本山、南都七大寺の一。天平勝寶年間、聖武天皇の願により、僧鑑眞の開創する所にして、律學興隆のため盛唐の制に倣ひ、東大寺に次ぎて建立せられ、鎮護國家の道場たり。本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（西大寺）大字五條にあり。律宗。鎌倉時代の初頃、極樂寺と共に西大寺の末寺となり、本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法華寺）大字法華寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大

大回五年皇室より五重塔・長廊の寄進あり。大回五年皇室より五重塔・長廊の寄進あり。今の塔は寛文年間の再建なり。本尊は釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法隆寺）大字法隆寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大和平野を望む。皇后藤原帝の御陵。（仁德天皇陵）奈良市佐紀に在り、小高き山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれ、前方後圓墳にて最も約一五四米、普通墳丘として最も大なる。周濠三重に繞り、中堤あり、內濠は廣く且つ深くして最も精り、外濠は狹くして南側の部分が回字形をなして遺存す。（八幡宮）奈良市八幡宮社。大字四ノ京に鎮座。村社。祭神、誉田別命。白鳳元年に行基和尚、宇佐神宮より勸請すと云ふ。初大一殿は國寶なり。（南都鎮守（南鎮守））大字五條にあり。律宗。律宗總本山、南都七大寺の一。天平勝寶年間、聖武天皇の願により、僧鑑眞の開創する所にして、律學興隆のため盛唐の制に倣ひ、東大寺に次ぎて建立せられ、鎮護國家の道場たり。本尊は丈六の釋迦如來像にして、脇侍に文殊菩薩・普賢菩薩の像あり、共に國寶なり。（法隆寺）大字法隆寺町にあり、平城宮址の北方に當る。大字佐紀に接し、高約二二米、直徑約八二米の圓墳にて、松樹に覆はれ、地殼くして南方遙かに大

ミイ　三井

【三井村】　石川郡に在り、村名は我が國金石文學史上貴重なるものとして、諸碑は我が國金石文學史上貴重なるものとして、諸碑は我が國金石文學史上貴重なるものとして、諸碑は我が國金石文學史上貴重なるものとして、諸碑は我が國金石文學史上貴重なるものとして、諸碑は我

ミイケ　三池

【三池村】　福岡縣筑後國三井郡の一。筑後國の西南隅。矢部川河口の南岸に在りて筑紫平野の南隅を占め、西は有明海に臨む。西南隅に大牛田市を囲み、南と東南に接す。南部・東部は山岳にて、即ち南部の東端に久留山（三八八米）あり、東之山麓は第分りて南部に幡鹿山、北麓に三五〇米、南北〇・五粁、全長・一粁の池あり。其北麓は筑後川の流域にて、東西に長く、南北に狹し。西北は筑紫平野の一部を占めて地形低平なり。米・麥・蔬・藺を產す。名産、藺表。大牛田市は筑後

をなし部落は概ね内陸にあり。銀木村は海濱に築港を施して小良港をなせり。低地は農業に適して水田よく拓け、米産多く麥も産す。南部は三池炭田(其項參照)に屬し三井鑛山會社經營の炭坑多し。郡内は三池・駛馬の二町の外五ヶ村を含み、昭和十年の人口は五四、六〇六人にして一方粁の人口密度は五四六人を算し、大牟田市の東に隣る駛馬町は最も多く二、二七六人なり。縣道は三池町を貫きて中央を南北に縱貫し、北方の濕高町と東南方の熊本縣玉名郡高瀬町方面とを結び、北部にて之より西北方へ一縣道が分れて柳河町に至る。三池町より大牟田市へ縣道通じ、各道路はバスの往來盛なり。省線鹿兒島本線は中央を南走して大牟田市に入り、大牟田市に接する西南部には鑛山線あり。書紀景行紀に筑紫御木國とあり。のち誤りて三毛に作り郡名となる。和名抄には三毛郡とあり、三計と註し、未生・十市・碩上・日奉の四郷を管す。近世、三池に作りミイケと訓するに至る。蓋しミケを延したるミイケなりしを三池の字に充てしもの。

【三池町】福岡縣筑後國三池郡の南部。大牟田市の東北に接し、東は熊本縣玉名郡に界す。東南部に久重山(三、八八米)聳えて西北へ傾斜し、西北部は筑紫平野の南端部の低地なり。穀類・蔬菜・柑橘類を產す。また三池炭田の中心として著名なり。由來農業本位の城下町なりしも炭坑・鑛山諸會社の發展につれ三井關係の從業者增加し、三井により衣食する者多し。蓋し親は農業、子供は三井勤務なるが如し。縣道中央を縱貫するもの、大牟田市へ至るものあり。その交叉點に市街地發達し一方粁人口密度六九五人(昭和十年)にして駛馬町の二、二七六人に次ぎて郡中第二位を占む。バス縱横に往來し交通頻繁なり。中世、三池氏あり、中原親能の裔孫にて幕府の家人たり、永祿年中、三池河内守親員・同上野介鎭員、三池今山城に居り、のち豐臣氏西征の時に失邑せしものか。天正十五年、豐臣氏、高橋直次を此地に封ず。關ヶ原の役、西軍に屬して本領を沒收せらる。のち常陸の柿岡に移され、姓を立花氏と稱す。元和七年五月、子種長復封し、三池藩一萬石を食む。文化二年十二月、種周の時、陸奥下手渡に移されしが、明治元年九月舊地に歸る。同四年藩を廢して縣を置きしが、再び廢して三潴縣に入る。因みに三池藩營修道館は安政四年九月創立、明治四年廢校せらる。この地に承和年中、刀工光世ありて、良刀を出だす。三池鍛冶と稱す。爾來刀工を出だして名あり。大字歷木には景行天皇の行宮址あり。天皇が御西征の時、御駐輦ありし地と傳へらる。

【三池炭田・炭礦】三池炭田は、北方の福岡縣三池郡より南方の熊本縣玉名郡に亙り、中央部に大牟田市あり、東西約八粁南北約二二粁の地域とす。炭層を包藏する地質は全部第三紀層にして、主として花崗岩質青白粗粒の砂岩より成り、上部に至るに從ひ頁岩・變岩の累層を交へ、其間に凡そ八層の炭層あり。以上の爽炭層は、筑豐の直方層群に屬し、鷄鳴貝・蟹の化石などにより、一に曉新世より始新世に跨がる地層なりと推定せらる。前記八炭層のうち現在稼行せらるゝものは第一層と第二層にて、特に三池炭礦に於ては第一層を主たるものとす。第一層は謂ゆる八尺炭層と稱せらるるものにて、厚さ一・五—七・六米あり、平均二・六米とす。この岩層の傾斜は凡そ五度半なるが、當炭田の東邊、三池山を構成する花崗岩體に接する部分に於て、炭層は横壓作用を受けて略九〇度の急斜なる以て地表に露出す。第一層の石炭、卽ち三池八尺炭の炭質は粘結性を有し、特異の淡赭色を帶び、發熱力强大(八、一四〇カロリー)にして瓦斯分に富み、爽雜物少し。當炭田の特徵の一として先づ斷層の細小なることを擧ぐべし。卽ち斷層は多數あれど細小にして、筑豐その他の炭田に於ける

炭礦名	年產額(瓩)
三池	三、四五八、四九〇
大之浦	一、三五七、九七〇
三井田川	一、三〇五、二四七
沖ノ山	一、二五四、九六〇
夕張	一、〇六五、一二九
二瀬	一、〇二〇、五四三

が如く之に依りて採炭の影響を受くること少なし。これ三池炭礦をして隙然群を拔いて本邦第一の炭礦たらしむる要因の一とすべし(昭和十年に一〇〇萬瓩以上を產出したる炭礦は別表の如し)。なほ出水量多きことも當炭田の特徵の一とす。そは第一層の上部に含水岩層あるためにして、かの含水層の水は前記の斷層を傳うて坑内に流出するものなり。第二層は第一層の下方二・四—三・〇米のところに存し厚さ平均一・六米、磐下炭層とも稱せられ、炭質は八尺炭に比し劣等にして俗に磐下炭ともいふ。次に未だ稼行はせられざれども、第八層も將來を囑望せらる。こは第一層の下方一一二—一四二米のところにあり、厚さ凡そ一・二米とす。三池炭田の含炭面積は一に凡そ六五〇〇萬坪と概測せらるるが、三池炭礦は採掘登錄坪數のみにて約三五〇〇萬坪、これに試掘登錄坪數約三二〇〇萬坪を加ふるときは合計六七〇〇萬坪にして、三池炭田の殆ど全域が三池炭礦の鑛區と稱するも過言ならず。なほ三池炭礦の内なる萬田・四ッ山の兩坑の如きは現に四〇〇米ほどの竪坑あり、殊に萬田の如きは、その地上より四〇〇米ほどの處より西へ西へと進みつつありて、炭層は有明海の底下にも及ぶものとせられ將來な囑目せらる。當炭礦の主なる坑を北東より南西に擧ぐれば(括弧内は本據とする市町村名)大浦(大牟田)・宮ノ浦(大牟田)・七浦(駛馬)・宮ノ原(駛馬)・勝立(玉川)・四ッ山(荒尾)・萬田(荒尾)の七坑にして、これ等のうちの大浦は、

最も古けれども今は擧はず、萬田・四ッ山は現在最も殷盛なり。而して三池炭礦の全鑛區が所在する市町村は大牟田市を中心に、三池郡にては三池町・駛馬町・玉川村外二箇村、熊本縣に入りては玉名郡の荒尾町、外六箇村とす。昭和十年に於ける產額は、塊炭五、七〇一瓩、粉炭一、五一六、九七九瓩、粗炭一五五、八一〇瓩にして、この總價額は二五七三萬餘圓なり。顧るに當炭礦の發見は今を去る四百數十年前にして、本邦炭礦中最も古き發見の一なりといふ。卽ち文明年間稻荷村の一農夫が稻荷山にて焚火せし際、偶然黑色の岩片の燃ゆるを以て箸き、之より「燃ゆる石」として世人の注意を惹き、採掘せらるるに至るといふ。いま大牟田市に稻荷町として其名殘る。降つて享保年間平野山を開掘し、更に嘉永年間生山を開掘、かくて當時以上三山を總稱して三池炭山と云ふ。明治三年より官營となり漸次增產されゆきしが、此頃より、從來有明海に面する一寒邑村たりし大牟田は、今日の發展を約束せらる。廿二年政府は之等總てを三井家に讓渡したるが、同年大牟田村は附近の稻荷・下里・横須の三村を併合し町制を布き、更に大正六年市制を布く。此頃に及ぶや大牟田市は、三池郡の中央にありて取卷く諸町村を自らの郊外として君臨するに至る。然るに古へ筑後の最南端の宿場として棠々たる本陣を擁し又交通上軍事上の要地として榮えし三池町は、大牟田の發展と反比例に衰へゐ。下りて昭和四年大牟田は南隣の三川町を併合する事により熊本縣と境を接するに至りしが、かくの如き大發展は、勿論三池炭田の優秀な根本因とするも、三池炭礦が石炭の豐富なるを利用し、附帶事業として機械製作工場・鑄物工場・製罐工場・電氣工場・鍛冶工場など自家の需要に應ずるのみならず一般の需要にも應ずる大工業を營むに至りしことも見逃すべからず。三池炭礦は大牟田を一大工業都市たらしめたるのみならず、また一大貿易港たらしむ。卽ち附近一帶の海は淺海にして大船近づき難かりしが、三井は獨力、明治三十二年より六箇年の歲月と四百萬圓の工費とを以て三池港を造り、その繫船壁には一時に一萬噸級の船舶三隻を繫留し得、また一晝夜に一萬數千瓩の石炭の積荷が可能なり。かくて三池港には昭和九年には約二四六萬噸の外國船出入し、同年の輸出は石炭の約五一六萬圓を始めとして總計約六四三萬圓、輸入約三一九萬圓ありたり。外に三池港に於ける移出は同九年亞鉛・藥品・石炭を主として約二三六萬圓、移入一四四三萬圓とす。なほ石炭以外の非金屬山は、本邦に於ては何れも小規模のものにて比較にならざるも、三池炭礦を、金屬山の筆頭なる足尾銅山・日立鑛山などと比較するに、その鑛夫數を以てするも三池の一萬餘人に對し足尾は四千餘人、日立は三千餘人といふ程度なり。また大牟田市の人口十萬餘人に對し三池の鑛夫は一萬餘人なること、以上二つの比較により三池炭礦の本邦鑛山に於ける地位及び大牟田市に於ける地位を推知し得べし。

【三池港】福岡縣大牟田市の西南部にあり。三井鑛山會社の經營にかかり明治三十二年より六箇年の歲月と四百萬圓の費用を投じて完成せり。主として石炭の運輸機關なるが、此海岸は他の有明海岸地方と同じく潮汐干滿の差極めて大にて水運の便に惠まれざるも、築港の際極めて大規模の浅深工事行はれ、之によりて得し土砂を以て廣大なる埋立地を作れり。また同時に閘門と呼ばるる特別裝置考案され、これによりて水面を調節し、干滿の差による障礙を除去し得るに至れり。港は内港・外港及びドックの三部分に分るるも、ドックに入り得ざる大汽船はその外側にある内港と稱する部分にて載炭さる。内港の面積は約十五萬坪、水深は北部に於いて約一一米、南部に於て九米なり。また繫船壁は高さ一三米、長さ四二一米にて、その前面の水深は常に九米を保つにより、一萬噸級の船が優に三隻繫がれ、一晝夜に一萬五千噸の積荷を取扱ふ事を得。更に左右突堤の長さ各々一八一八米、水路の幅三六米にて、一箇年凡そ四六〇〇内外の汽船と帆船三三〇〇以上を容る。

ミイズミ　三泉村 みいづみ　山形縣羽前國西村山郡の東部。寒河江町の北方約三粁。谷地町の西南約四粁。面積三・三五方粁。山形盆地に屬し、全村平坦にして寒河江川は南部を東流す。米・繭・草履表を產す。道路は東部を西南より東北に通じ、省線左澤線寒河江驛及び赴線三山電鐵谷地驛へはバスの便あり。

ミイラク　三井樂村 みゐらく　長崎縣肥前國南松浦郡の西部、五島列島の南端福江島の北西部に突出する半島と其の西八粁にある嵯峨島とより成る。半島部の頸部は濱ノ畔・海津間の低平地帶にして、其の南・東部は中生層より成る峻しき山地にて森林と草地とを以て蔽はる。低地帶には比較的森林多きも、また主なる水田地帶なり。然し水田面積は全村の約一割に過ぎず。之に反し畑地は全村の五〇%を占め其の分布區域は半島の主要部分をなす玄武岩の噴出地域なり。本村の主要部をなす玄武岩臺地は福江島四隅に發達せる熔岩臺地の一にして半島部の中央京ノ嶽を中心として四圍に傾斜す。本地域は他と異り、急斜面に畑地多く、緩斜面に森林多し。南方は夏季の卓越風の關係もあり一般に森林多く、北西海岸の冬季卓越する北西宗風地帶は樹木の發達を阻害し、草原地帶をなす事は自然地理學的好資料たり。また京ノ嶽北方の急斜面に畑地多きは島原亂後キリスト教徒が其の迫害より逃れてこの急斜面を開拓したるによる。聚落は多く海岸に沿ひ發達し、

また畑地帶に接し立地す。濱畔灣頭の濱ノ畔を本村の主色とし、北方の柏、南部の海津等は何れも半農・半漁的聚落の主なるものなり。濱ノ畔は五島航路の寄港地たり。三井樂ほもと美彌良久に作る。卽ち肥前風土記に、「値嘉島(中略)遣唐使、從此發到美彌良久之濟云々とあり、上代遣唐使の船の寄港地たり。また續日本後紀、承和四年遣唐三箇船、共指松浦郡妥樂埼發行云々とあり妥樂に作る。萬葉には美彌良久と記載す。何れも上代交通の要津として知られし所なり。

ミイリ　三入村　廣島縣安藝國安佐郡の東北部。可部町の東北に連りて南北に細長く延び、北は山縣郡に、東南は高田郡に界し、東に大林村、西に鈴張村・龜山村と接す。面積三〇・五方粁。北に備前坊山(七八九米)・冠山(七三六米)・堂床山(八六〇米)聳立して郡界をなし、南に白木山(八九〇米)聳ゆ。村は此の兩山地の間に存し、北部・南部は地勢高峻なるも、中央部に傾く。太田川の一支流中央山間を貫流して沿岸に良耕地を拓けり。他の大部は山林地なり。米・麥・繭・清酒・薪炭・牛等を產す。縣道中央を貫通し、吉田町(高田郡)・可部町にバスの便あり。省線藝備線下深川驛に約六粁あり。高松城址あり、熊谷直實の孫直時、安藝・石見の目代となり、安南・安北を領せり。三世を經て宗直に至り南朝に應じ足利氏の爲に征伐せられ、義詮の時敕され、再び三入・鈴張を領す。四世を經て元直に及び武田元繁に屬し毛利氏と戰ひ戰死す。その子信直に至り毛利氏に屬し秀直の時、長門に移るといふ。(南原峡)三入谷・鈴張谷間の堂床山構造線を斜斷して、南原川流路の傾斜急なるため水の浸蝕深く、四粁に亙りて秀峰・奇岩・識等を生ぜる峽谷にして、多數のキャンピングサイトが設けらる。

ミウチ　三内村　愛媛縣伊豫國溫泉郡の東南部。東は周桑郡に、南は上浮穴郡に接す。石槌山脈に屬する峻嶮なる山地を占め、南には石墨山・皿嶺その他の高峯連亙して北にその山脚を伸し、深山幽谷重疊す。石墨山北麓附近より重信川が發源し渓流を集めて西北隅に流下す。流域に稍々狹長なる平地を開き、耕作を行ふ外は、殆ど平地なし。米・麥・繭を產し、山地は林產物を出す。重要鑛山なる千原鑛山(銅硫化鐵山)の本據は、周桑郡樣樹村にあれども鑛區は當村にも跨がり昭和十年には銅鑛四〇・六瓩、銅硫化鐵鑛一、四四二・八瓩を產す(千原鑛山參照)。北部には國道道七松山市に連絡す、バスの便あり。〔安國寺〕臨濟宗妙心寺派。萬松山と號す。足利直義建立の安國寺の一。

ミウマヤ　三厩村　→三厩村(青森縣)

ミウラ　三浦

【三浦半島】神奈川縣の東南部より南方に突出する半島。東に東京灣、西に相模灣を分ち、南東部は浦賀水道を距てて房總半島に對す。行政的には三浦郡の全部一市十三町村なるが、地形的には鎌倉郡に屬する鎌倉町の低地と、横濱市に屬する金澤の低地を結ぶ線以南に限らるべきなり。半島部を構成する基盤岩石は謂ゆる三浦層群に屬する凝灰質砂岩・頁岩等にして、中央部に於ては蛇紋岩等の火山岩の迸入を認む。これ等の岩石は東西、或は西北—東南の方向に走る多くの逆斷層線に切斷され、北部の地塊が南部の地塊上に衝上して極めて複雜なる構造を示す。この構造線はまた地形的にも明かに追跡し得らるるものにて、半島を横斷する數箇の地壘・地溝を數ふることを得。卽ち北部西岸の逗子より田越川に沿ひて東岸の横須賀に至り、更に東南に彎曲して浦賀に達し、細長き浦賀灣を形成する地溝と、前者にほぼ並行し葉山一色より下山川に沿ひ半島を横斷して平作川に沿ひて久里ヶ濱に出で、久里ヶ濱灣の灣入を生ずるもの等あり。上記の兩地溝に挾まれて二〇〇米内外の二子山・畠山地塊山脈があり、葉山—久里ヶ濱地溝を距てて、三浦半島にて最も高き二五〇米内外の大楠山山脈が連亙す。更にその南方には一構造線を界として武山山脈があり、その南方は低平なる三崎の隆起海岸平野なり。三浦半島はその先端が二つに分れて觀音崎と三崎半島となる。兩突出ば共に四〇—五〇米の平坦なる臺地狀を呈し、三浦層の侵蝕面上に宮田層の若き海成層を載せたる隆起海岸臺地とも稱すべきものにて、若き海成層は隆起後の侵蝕復活により相當に河谷發達するも、なほ原形面に廣く殘存す。三浦半島の海岸線をみるに一般に出入が極めて著し。東京灣に面しては金澤の入江、箱崎岬を界とする長浦灣、横須賀軍港の灣入、野比崎の突出あり、浦賀水道に面しては浦賀灣・久里ヶ濱灣等の灣入とそれを分つ千代ヶ崎・千駄ヶ崎等あり。三崎半島は小出入特に多く、三崎の漁港を初めとし油壺・小網代・初聲・小田和等の灣入ありて城ヶ島はその南端に附著す。それより北部の相模灣岸は多少の出入あるも、多くは弧狀の砂濱にして逗子・鎌倉・由比ヶ濱はその主なるものなり。上記多くの灣入は地盤沈降により河口に海水の侵入せる謂ゆる沈降谷なり。なほ大正十二年關東大震災に際しては一般に一米内外の隆起の跡を殘す。三浦半島は南方海上に突出し黑潮の影響を受けて冬は暖かく夏は涼し。風光も極めて明媚にて名所舊跡にも富む。京濱に近き關係と交通路の發達につれて遊覽保養地帶として近年著しき發展を示す。省線横須賀線は大船より分岐し鎌倉・逗子に至り、逗子—横須賀の地溝に沿うて半島を横斷、横須賀軍港に達す。湘南電鐵は横濱より南下して半島の東岸、金澤・横須賀・浦賀を連絡、金澤より支線を分ちて逗子を結ぶ。なほ自動車道は到る處よく發達し、乘合自動車は遊覽客・地方人の運搬に完備す。多くの灣入の内部には重要なる都市發達し、また到る處海水浴場の設けあり。金澤は古跡とし、追濱は飛行場として知らる。横須賀市は軍港町としてその南方の走水・浦賀・久里ヶ濱は古跡として或は港として遊覽の客絶たず。觀音崎・劍ヶ崎・城ヶ島には燈臺あり、三崎は漁港として其名を知らる。相模灣に面する小灣入は避寒避暑地として知られ、御用邸を始め貴族名士の別莊甚だ多し。鎌倉・逗子・葉山にいふまでもなく古跡とし、名勝地とし、別莊地として榮え、その南方の西浦・長井・初聲も交通路の發達と共にその風土の勝れる點より前者に劣らず發展を期待さる。特に初聲は最近御用邸の建設が進み、その西方の油壺は東京帝大の臨海實驗所の所在地として、また三浦導すの古跡として知らる。三浦半島一帶は東京灣要塞地帶とす。

【三浦郡】神奈川縣相模國の東南部。三浦半島の西半及び南部を占む。神奈川縣十郡の一。東は横須賀市、北は横濱市及び鎌倉郡の一部と隣す。全郡丘陵地にて森林多く、丘陵間を流るる小流の附近のみ狹き平地をなす。平地には農業行はれ米・麥・甘藷・馬鈴薯・大豆等を產す。海岸は出入多く、相模灣岸の南部は殊に小灣、小島多し。また浦賀水道沿岸には北端に觀音崎、南端に劍崎あり。觀音崎の南には良港浦賀あり。北部の逗子町・葉山町の海岸及び南端の三崎町附近は海水浴場或ひは保養地として名高く、三崎町は漁港として發達し、水產多し。丘陵間に縣道よく發達し、省線横須賀線は鎌倉郡より來りて北部を東走し横須賀市に通ず。また社線湘南電鐵逗子線は横濱市より來り逗子町に終る。その他バスの便も多し。郡内には浦賀・葉山・逗子・三崎・長井・大楠の六町外四ヶ村を含む。古くは御浦郡(書紀持統紀)。和名抄また御浦に作り美字良と註し田津・御浦・氷蛭・御埼・安慰五郷を管す。東鑑は三浦に作り、鎌倉時代に作りしが、元祿以後は三浦を以て今日に至る。

【三浦村】廣島縣備後國御調郡の南海上、因ノ島東岸の地を占め、北および東は海に面す。北方に約二粁の海水を隔てて向島あり、西は中庄村に、南は三庄町に接す。面積四・六三方粁。村内丘陵性山地連りて南端に高まるも、海岸に小平地存す。海岸は出入に富み、外之浦・鏡浦・椋之浦ありて主要なる聚落地をなす。耕地少く村内の大部は牧畜地及び山林地なり。米・麥・果實・鰆詰・清酒・木炭・繭・牛・鯛・鱈等を產す。西岸の西浦淺船場まで約四粁なり。もと外之浦・鏡之浦・椋之浦の三村に分れしが、明治二十二年合併して三浦村と名づく。

【三浦村】愛媛縣伊豫國北宇和郡の西部。宇和島市の西南約一〇粁。西は逢子・下波二村に、東は來村に、南は高近・北灘の二村に界し、北は宇和島灣に臨む。宇和山地の西端海に沈むところにあり、村域中央部は沈水してリヤス式の海岸をなし、沿岸には耕地ありて農耕を營む。養蠶業を主產業とし米及び甘藷の栽培盛なり。海岸は出入に富み、灣内やや廣しと雖も僻村なれば水產業は見るべきものなし。宇和島市へ縣道通じバスの便あり。〔天滿神社〕大字三浦に鎭座。郷社。祭神、菅原道眞。舊稱、早鷹天神。例祭、十月十九日。

【三浦村】長崎縣肥前國東彼杵郡の南端。大村灣の灣頭東側に位す。東は北高來郡と境し、南は東大川の下流出口に達す。全村殆んど丘陵性山地より成る。地質は大部分は第三紀層にして、中央の丘陵性山地は多くは玄武岩の噴出地なり。其の主なるものは中央の日岳、南部の伊賀峯等なるも最高の日岳さへ高距約二六〇米に過ぎず。丘陵の末端は海岸に迫る所多く、其の間に小川あり、若干の水田の分布地域たり。南方東大川の北岸には稍々耕地開け本村の農耕地帶をなす。また玄武岩の小丘山麓は耕されて畑地となる。南より西方に亙り大村灣に臨み、漁舟的聚落名たる先細代・舟津等あるも漁業は昔ふに足らず、殆んど農耕村なり。本地域は北方鈴田川、東方本明川、南方東大川、西方大村灣により圍まるる一地域にして、殆ど半ば島狀をなす地塊の西部を占め全村丘陵性山地多く殆ど村の周邊部に山地あり、他との交通不便なり。

【三浦村】大分縣豐後國西國東郡の北部。香々地町の西南に接して西北部は周防灘に臨む。全村山地の斜面をなし、概して東南部に高く西北部に低し。西部には一細流が西北流し、沿岸には僅かに低地あり。海岸は稍屈曲あるも沿岸低地乏し。米・麥を產す。海岸に沿ひて道路通過し西南方の高岡町へバスを通ず。〔八幡社〕大字堅木に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。貞觀五年に血野浦の一老翁、神託により海底より金塊の靈驅を得て波山に祀り、のち現地に遷し、代々藩主の崇敬厚かりきと傳ふ。例祭、四月十日。

ミウラ　御浦　相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に御浦郡御浦郷あり、その地今の横須賀市に當る。

ミエ　三江村　兵庫縣但馬國城崎郡の東部。朝來川の東岸に沿ひ、川を挾みて豐岡町に對し、東南は出石郡に、東北は京都府熊野郡に界す。東部は山地をなして西に傾斜し、北境には西南方へ延びる丘陵ありて村境を限る。中部及び西南部に低地開け西南境に沿ひて朝來川が西北流す。米・麥類・繭・杞柳・蔬菜・花卉・食用農產・果實・瓦等を產す。縣道村を横斷し豐岡町及び東北方京都府久美濱町に通じ、省線宮津線も同じく横斷し

て但馬三江驛(昭和四年設置)あり。古くは三江郷に作り、和名抄に城崎郡三江郷の名見ゆ。中世は一に鎌田莊と呼び、いま大字に鎌田の名存す。大字法華寺は但馬國分尼寺のありし處。〔久々比神社〕大字下宮に鎮座。村社。祭神、久久遅命。式内社。例祭、九月十六日。〔文宗寺〕大字鎌田にあり。古義眞言宗。沿革不詳。本尊聖觀音立像一軀(木造)は國寶。

ミエ　三重(へみ)

【三重村】秋田縣羽後國平鹿郡の南部。淺舞町の東南に接し、西南は皆瀬川を隔て雄勝郡に境す。横手盆地の南部に位し全村概れ平坦にして、皆瀬川は西南境を西流す。農業殊に米作を主とし果樹・養蠶を副業とし全村これに從ふ。外に工產・林產あるも振はず。近年はまた蔬菜園藝も勃興しつつあり。道路は中部を西北より東南に通じ、東南方の省線東北本線十文字驛へ約二粁。社線横莊線淺舞驛へは約三・五粁。各バスを通ず。村名はアイヌ語のミエ卽ち平和なる處の意とも云ふが、目折・十五野新田・上鍋倉の三大部落より成立するより三重と名づけしものなるべし。

【三重村】栃木縣下野國足利郡の西部。足利市の西隣にて、渡良瀨川の北岸にあり。南は川を隔てて群馬縣山田郡と相對す。足尾山塊一支脈の南端を占め、東境・西境共に約二五〇米の山地をなし、中部より南部にかけては渡良瀨川流域の平地開けて水田多く川沿ひには畑地あり。農業行はれて米・麥を產し、養蠶また盛んに行はる。足利市に隣接して絹織物の製造盛なり。縣道は南部を東走して足利市に通じバスの便あり。聚落はこれに沿ひて發達す。省線兩毛線また縣道に沿うて走り村内に驛なきも、足利市に近きを以て交通不便ならず。本村は明治廿六年、坂西村大字の五十部・今福・大岩を分割して新設せるものにして、和名抄、足利郡驛家郷の地なり。〔大手樋(ママ)現〕大字五十部にあり。祭神天手力雄命。往昔は平將門の手を祀りしと稱し、工女が祈れば機を織る手が上るといひ傳ふ。〔最勝寺〕大字大岩にあり。新義眞言宗豐山派。大岩山多聞院と號す。行基が毘沙門天王の夢託を得、此地に一宇を創せしに由來す。文安四年雷火の災に罹り堂宇炎上、寶暦十二年再建す。本尊は毘沙門、聖德太子作四面浮檀金像と傳へ、信貴・鞍長と共に日本三體の一と稱へらる。

【三重縣】近畿地方の東部、伊勢灣に臨む。伊勢・伊賀・志摩三國の全部と紀伊の一部より成る。もと東海道に屬せしは又意あり。人文・地形・氣候より見て東海道と同樣式を示す地理區なり。北は中部地方の岐阜・愛知兩縣、北西は滋賀縣、西は奈良縣・京都府、南西は和歌山縣に隣接す。現在は四市一五郡にして津市に縣廳を置く。面積五七六五・二八方粁、人口一、一八六、三三六(昭和十二年)。一方粁の人口密度二〇一にて全國平均密度よりやや大なり。〔地形〕縣の北半は背後に山地あり。養老山脈は傾斜地塊をなし本縣側は斜に岐阜縣に臨崖をなし本縣との境をなす。西北に鈴鹿山脈あり伊勢海斜面と近江湖盆斜面との境界をなす。鈴鹿山脈の南部は西方笠置山脈との間に臨崖による伊賀盆地を形成す。この盆地の水は木津川となり京都盆地に出で淀川に注ぐ。縣の南半は櫛田川を境として北半の臨崖山地塊とは全く性質を異にし、東西の走向を有つ紀伊山脈の東端をなす。櫛田川を境として南半は日本外帶山脈にして同川は實に中央裂線なり。縣の西部紀伊山脈には高峻なる大臺ヶ原山(一六九五米)・國見山(一一二八三米)・池ノ木屋山(一三九五米)そびえ、準平原面を有つ。この山脈の東方延長は伊勢海口の答志島・菅島等にして、愛知縣渥美半島に上陸し、赤石山脈に連續す。此の外帶山地が伊勢灣の陷沒によりてリアス海岸となるものなり。的矢・御座・五ヶ所・長島・尾鷲等の灣入これにして、更に其後の隆起沈降と海水の浸蝕とによりて浸蝕臺地を形成す。川は從つて紀伊山脈の從谷に沿ふものは長く櫛田川・宮川あり。中部以北は斷層崖によりて短く、雲出川・鈴鹿川あり。以上の諸川が西方より東流し、三角洲の發達より海岸平野を形成し伊勢平野となる。志摩より紀伊半島南岸の地域は熊野灘の沈降により、北部山地より南流し直ちに海に入り、未だデルタの發達少く幼年期海岸を示す。慥柄灣・鷲尾灣等の灣頭に小デルタを形成し小港町が發達せり。〔氣候〕一般に溫和にて表日本式氣候區に屬するも、南部海岸地域は沖合を流るる黑潮の影響により南海地方の氣候區に屬し、濱百合・蘭等の亞熱帶性植物を見る。雨量は南部より北部に至るに從ひて減じ、伊賀盆地は冬季寒冷にて內陸性氣候を示す。紀伊に接する山地は降水量多く氣溫また高く植物發育極めて良好なり。〔產業〕生產總額に對する各種生產額の比は工產六六・五%、農產二四%、水產六%なり。農產物中米は其の主體をなし、その五八%、麥は七%にして伊勢海沿岸平野の諸川流域が主產地なり。農產物中特色あるものは茶と菜種の栽培なり。菜種は作付段別六千町歩に達し、府縣中第五位の生產なり。茶は菜種と共に古來著名にして府縣中の第三位を占め、西部丘陵地の斜面に栽培さる。養蠶は伊賀盆地並に山驚川流域を主要地域とす。林業は南紀伊山脈が氣候に惠まれ、熊野林野の一地域として杉の良材を出だす。水產物はまた主要物產にして、伊勢海及び外洋との兩海面に漁獲され鳥羽・的矢・島長等の諸港に水揚さる。水產養殖としては志摩半島のリアス海灣が利用せられ、牡蠣・眞珠の養殖行はる。養殖眞珠は御木本氏の經營に係り、世界的嚆矢として產額亦多く、英國灣に行はる。水產製造としては鰹節・鰯の鹽乾等あり。工產は本縣產物の第一位を占め、綿糸・綿織物工業等が四日市附近に行はれ謂ゆる名古屋工業地域の延長と見られ、四日市の開港場たる亦意あり。古來の織物にありては松阪・津・伊賀等にも產し、今も副業的のものとして行はる。〔交通〕古來本縣は交通的には二種の原因によりて發達せり。一は名古屋・江戸の東部主要地と、奈良・京都・大阪の中央日本主都との兩政治中心地の中間的廊下の役割を演じ、一は日本國信仰の中心伊勢大廟による參詣路として開發せり。熱田より海路桑名に來る東海道は鈴鹿・關を經て鈴鹿峠にて土山より大津に達す。奈良に向ふ大和路は伊賀より木津川を經て奈良に達す。更に脇道として津より西方鈴鹿山脈の青山峠を越し伊賀より紀伊に達す。鈴鹿山域は其の交通的要所として築造せられ、津は平野の中心として榮へ、桑名は關所を持つ木曾川水運起點として發達せり。鐵道開通以後、舊東海道並に大和街道に沿ひ名古屋より關西線が桑名・四日市・鈴鹿山・柘植・伊賀上野を經て奈良・大阪に通じ、その鈴鹿山より參宮線は宇治山田市を經て鳥羽へ開通せり。この國鐵を根幹として柘植・草津間に草津線、松坂・伊勢奥津間に名松線、松坂・宇治山田間の相可口驛より熊野街道に沿ひ紀伊半島迂回の紀勢東線が尾鷲港に通じ、省營自動車紀南線にて七〇粁にて新宮に連絡す。參宮の爲に東京・鳥羽間直通列車あり、大阪よりは社線大阪電軌・參宮急行電鐵が宇治山田に通ず。桑名よりも參宮急行電鐵伊勢線あり。其外、松坂を中心とする社線松坂電鐵、鳥羽より志摩賢島に通ずる社線志摩電鐵、參宮電鐵伊賀線等、觀光交通網は完備し之より分派せる支線と合して交通至便なり。紀伊半島巡回線の完成によりて更に南部三重縣下の開發が期待せらる。京都・阪神・中京名古屋の最外圏の一日保養地帶として、更に全國的崇敬たる伊勢大廟地としての存在は縣の重要性の一たるべし。〔沿革〕明治四年十一月、安濃津に置いて伊賀國及び伊勢の北部を管せし安濃津縣にはじまり、翌五年、四日市に移し之を三重縣と改む。同九年伊勢南部と紀伊の一部を管せし度會縣を併せて今日に至る。

【三重郡】三重縣十五郡の一。伊勢國の北部。鈴鹿山脈の東斜面より伊勢海に亙る地域を占め、東岸中央に四日市市を圍む。西は山嶺を隔てて滋賀縣の愛知・神崎・蒲生・甲賀諸郡に界す。西境に南北に鈴鹿山脈連り釋迦ヶ嶽(一〇九二米)・御在所山(一二一〇米)・鎌ヶ嶽(一一五七米)等の諸峯聳ゆ。中央及び東部は概れ地形平坦なるも、南部には鎌ヶ嶽より延びる山脚が一〇〇米内外の丘陵となりて東南方へ長く延び、東北部にも一〇〇米以下の小丘陵繞る。河川は凡て鈴鹿山脈に發して山腹を下り東南流して海に注ぐ。北部に朝明川あり、中部には海藏川・三滝川ありて下流は四日市に入る。南境には內部川流れ其の下流は村界を離れて東流し、四日市の南部を經て海に入る。東南部には西南方より流下し來る鈴鹿川の下流入り來る。低地は田畑よく拓け農產物多く、米・麥・菜種・茶の產の外、養蠶もまた盛なり。四日市市を中心として附近は綿織物を主とする工業行はる。郡內は富洲原町・蓮野町・富田町の三町外二十四ヶ村を含み、特に富洲原町は人口密度最も大きく、昭和十年に一方粁七六〇六人を算す。本郡の平均密度は三五〇人なり。交通よく發達し伊勢街道が東部を縱走し、四日市市にて之より岐れ西北に向ひ員辨郡に至る縣道あり。中央西偏には鵜見街道が南北に貫通し一道分れて東走し四日市市に至りて伊勢街道に連絡す。省線關西本線は東岸に沿ひて走り、また社線伊勢電氣鐵道が同じく桑名市より南走して東部を貫く。北部には之より分れて西北走し員辨郡に入る社線三岐鐵道あり。四日市市よりは西方山地に向ふ社線三重鐵道の湯ノ山線、西南走して內部村に至る社線三重鐵道本線、途中これより分れて西走し八王子に至る短線等あり。古事紀、景行天皇の段に三重村と見ゆるは、大體本郡の地と見るべく、書紀天武紀元年紀に天皇三重郡家に至ると見ゆ。和名抄は美倍と註し、采女・河後・蓮田・柴田・刑部の五郷を管す。明治二十九年四月朝明郡を併せ、翌年に四日市市が獨立して以て今日に至る。

【三重村】三重縣伊勢國三重郡の中央東偏。四日市市の西北に接し、海藏川に跨る。北部及び南部は稍々丘陵性を帶ぶも中央には平均なる平野廣く、海藏川が村を貫きて東南流す。農業を主業とし米・茶・菜種を產し養蠶も行はれ筍・瓦の特產もあり。道路は河流に沿ひて四日市市に通じ交通便なり。この地は和名抄、三重郡刑部郷の內なり。村內に日本武尊の足洗池と傳ふるものあり、御東征の砌り此地にて「吾足三重に匂る」として御足を洗ひし舊蹟なりと。村名は卽ちこの故事より出づ。

【三重鐵道】私設鐵道。四日市市及び三重縣三重郡に亙る。社線參宮急行電鐵の諏訪驛より分岐し、中川原驛(常盤村)・櫻驛(櫻村)などを經て湯ノ山驛(蓮野町)に至る一五・六粁、及び同じく諏訪驛より分岐し日永驛(日永村)などの數驛を經て伊勢八王子驛(四郷村)にいたる五・一粁、また日永驛より內部驛(內部村)に至る三・九粁を含む。省線とは連帶運輸をなし、動力は蒸氣・電氣併用、軌間は〇・七六二米とす。

【三重村】京都府丹後國中郡の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩瀧町に接する山地は東西

の分水嶺をなし、其の中央の大内峠は高距百數十米の峠に過ぎざるも、宮津・府中方面より峠山方面に至る主要交通路に當り、且つ天の橋立正面眺望の最良地點として古くより世に知られたり。頂上に三百年傳來の妙見堂あり、此處まで自動車往來す。堂附近には與謝野寛等の歌碑あり、古來詩歌の題材となり、山陽・蘇村等の名句數多し。村の中央に北北東—南南西の谷狹地あり、北方五十河村に連續する延長約九粁に及ぶ細長き斷層谷にして、本村の主要農耕地帶をなす。其の西部も丘陵性山地なれども北・中・南の三地塊に分たれ、その間を峠山街道など東西に通ず。また其の丘陵地の西方は峠山附近より日大野灘に至る北北西—南南東の方向に向ふ帶狀平地の一部分に當る。交通は宮津・山田を經て峠山方面に至る峠山街道南部を通り、省線宮津線も亦大體之に沿うて走る。三重より大内峠を越え岩滝へ至る街道は近年改修され沿道は櫻と紅葉とにて名高く、稀に見るドライブウェーなり。本村は和名抄、丹波郡三重郷の地、式内與謝郡三重神社は三重村字郡分にあり、また式内同郡木積神社も木積山に鎮座す。本村はもと與謝郡に屬せしものの如し。

【三重】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に賀茂郡三重郷あり、その地今の加西郡下里村の邊に當る。

【三重】筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に山本郡三重郷あり、その地今の三井郡内ならんも詳かならず。

【三重村】長崎縣肥前國西彼杵郡の中部。長崎市の北西、彼杵半島の西岸に位す。附近の海岸は沈降性海岸にて、三重浦を始め多比良村附近へ深き灣入を見、地塊の末端は丘陵をなし、急崖を海岸に横ふるもの多く三重崎は其の代表的なるものなり。背後の山地は結晶片岩より成り、西部黒崎村境は玄武岩の噴出を見る。從つて殆ど平地を見ず、農耕生産少し。聚落は殆ど海岸に限られ、多くは半農半漁的なり。縣道彼杵半島外廻線は此地の海岸近くを東西に通じ、また沿岸航路開け居るも位置偏在し重要生産なきため、交通は至便ならず。西彼杵は我國に於ける天主教徒の分布地にして、特に彼杵半島の西岸、即ち外目方面の沿岸村落に盛なり。殊に本村及び隣村黒崎村附近はその信仰强く、堂々たる教會堂は邊鄙なる片田舎に一威觀を呈し、見る者をして驚かしむ。

【三重】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に山本郡三重郷あり、延喜・兵部省式に肥後國三重驛馬五疋と見ゆ。これ郷にして驛を兼ねるもの。その地いま詳かならず。或は鹿本郡山本村大字味取の邊ならんか。

【三重町】大分縣豐後國大野郡の中央東偏。大野町の東南方一粁弱にあり、東は南海部郡に界す。南部と東部一帶は山岳地をなし東境には佩楯山(七五四米)そびゆ。西北部に盆地ありて主邑の市場ここにあり。大野川の一支流はこの盆地を潤して東流し、中央より北折して約四粁北方に於て本流に合す。米・麥・繭及び林產・畜產あり。當町に錫滿俺ニツケル鑛山あり、鑛區は新田村にも跨り六五二、〇〇〇坪、昭和十年より事業を開始す。縣道および省線豐肥線は西北部を過ぎて三重町驛(大正十年設置)あり。この地は舊郡役所のありし所にして明治三十五年町制を布く。古くは和名抄、大野郡三重郷の内。岡田帳に「岡領三重郷、百捌拾町、地頭新田陳奥守殿」と見ゆ。延喜式の三重驛は本村の大字市場なりといふ。(市邊田八幡社)大字赤嶺に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・息長足姫命外三神。舊稱、市邊四社大宮八幡宮。豐前國宇佐神宮よりの勸請と傳ふ。古來武家の崇敬厚く江戸時代には藩主稻葉家の崇敬を受く。例祭、四月二十五日。

【三重村】大分縣豐後國西國東郡の北部。香々地町の南に隣接し、東は東國東郡竹田津町の西南に界す。東南境には黒木山(五〇八米)そびえ、西北方へ支脈が連りて東部の高地をなす。南部も高燥地をなし西境には東南より西北に延びる丘陵あり。黒木山に源流する川は中央を西北に貫流し沿岸に耕地拓け、米・麥を產す。河谷に沿ひて道路走り香々地町へ通ずれども山間にして交通不便なり。

ミエ　三會村　長崎縣肥前國南高來郡の東部。村の南西部は雲仙火山の首峰普賢岳にて、四五百米以上は其の普賢岳熔岩の噴出により地形急變なり。普賢岳熔岩の上に高距約千米の邊より寛政三年大噴出の俗稱新燒と稱する熔岩約四粁近く展開する岩塊の高陵となり壯觀を極む。又その噴出日近くに明暦三年噴出の古燒と稱する熔岩流あり。寛政三年島原・肥後方面の大津波は、實に此等熔岩噴出を其の前驅としたるものなり。また村の南方杉谷村境の新燒附近に安山岩廣く分布し其の末端に接續して岩塊泥流流下し、本村の大部分を構成する新扇狀地帶の緩斜面との間に馬背狀の丘陵地となり、地形上の差異を認めらる。右の新扇狀地は過半以上耕され畑地となり、島原半島北部に展開する畑地帶の主要部分なし、黒色を呈し表土深く肥沃なるため、人參・牛蒡・大根など獨特の優良品を產す。海岸近くの扇狀地末端は沖積層にして殆んど水田となる。扇狀地の末端と沖積層との境は數米乃至十數米の階段を以つて境し、二者は地形的にも、耕作景觀上よりも全然異る姿を示す。聚落は海岸の水田地帶に大部分立地し、特に島原半島を圍繞する環狀道路の附近に多し。扇狀地面の聚落は多く開拓新田式のもの多く、孤立村落をなし、其の發生は多く近世にあり。これ一には扇狀地面に河川なく、從つて淡飲困難まず、殆ど原表面をそのまま遺し、其の多くは近世迄山林地帶たりし所なるに因る。有明海岸の造淺海面に陸地より神に向ひ弧狀に丸石にて石垣を築き造淺をなす。之をスクヒと稱す。滿潮時に潮と共に寄せ來る魚類が、干潮時に水面干上りしためスクヒの中に殘るものを自然捕獲する方法にして有明海獨特の漁撈方法なり。スクヒは本村沿岸に最も多く分布す。天正十二年龍造寺隆信島原城を襲ふに際し、其の軍六萬、三會村に屯したる事あり。また本村は近世キリスト教の本郡に於ける隆昌を極めし地、島原亂後は全く其の跡を斷つ。

ミエシマ　三重島　愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年、ほか三村と共に廢し丹陽村を置く。

ミオ　三尾　【三尾】繼體天皇の御父彦大人王の居たまひし地。琵琶湖の西岸、滋賀縣高島郡の東南隅、安曇川の右岸大溝町と水尾・高島・青柳の諸村の邊はこれを三尾といひ、和名抄には三尾郷(美乎と訓す)と稱す。延喜式の三尾驛も此地なり。彦大人王はこの地にありて越前國の三國の豪族の女振媛を納れて大迹王を生み給ふ。大迹王は父君の薨後、母君と共に越前に至り、後迎へられて帝位に上り給ふ。即ち繼體天皇にまします。また東南方なる滋賀郡界の三尾崎は、淳仁天皇の天平寶字八年惠美押勝が叛き官軍に破られ湖上を堅津に逃れんとせし時、疾風に遭ひ此處に上陸し、捕へられし所なり。

【三尾村】和歌山縣紀伊國日高郡の西端。御坊町の西方約四粁に位し、南は太平洋に臨む。西山(九二九米)一帶の山地が西方へ高さを減じつつ連り、更に西南方へ延びて日山(二〇二米)を起し、その尖端は日ノ崎となりて西南へ突出し、これ等山地が北境を限る。日ノ崎は紀伊水道東岸の最南端を占め、燈臺の設備あり。白色圓形鐵造、燈質は連閃白色、二五秒を隔て一五秒間に四閃光を發し光達距離二三・五浬、明治二十八年の初點とす。落政の頃は遠見の船番所が置かる。米・鹽・木產等あり。御坊町へ縣道通じてバスの便あり。南の海岸を古くは三尾浦・三穗浦とも稱す。萬葉・七「風早の三穗の浦廻をこく舟の船人動む浪立つらしも」

ミオ　三緒　筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に嘉麻郡三緒郷あり、美乎と訓す。その地は飯塚市に編入せられし嘉穗郡の舊笠松村の邊に當る。

ミオ　御大御前　島根縣の島根半島の東端をいふ。一に美保崎とも三穗崎とも書く。古事記の大國主神が少彦名神と會見せられし出雲の御大御前(ミホノミマエ)や、日本書紀神代卷の國讓りの條の事代主命が釣糸を垂れたまひし三穗之碕は何れもここを指せしものなり。

ミオモテ　三面村　新潟縣越後國岩船郡の東部。三面川の上流一帶に沿ひ、越後山脈朝日山塊の西部を占む。北・東・南の三面を七〇〇米—一八〇〇米に及ぶ山脈に圍繞されて山形縣羽前國に界し、全村山岳重疊す。三面川は之等諸岳の水を集め末澤・泥又・猿田等の支流と共に溪谷を穿ちつつ西へ流れ本村唯一の通路を開く。平地は西部に僅かに見るのみ。聚落に散在西部にあり。面積三六〇・七二方粁、縣下隨一の大村なるも人口は二五〇〇人に足らず、密度は一方粁僅に七人に過ぎず(昭和十年)。平地は農耕・養蠶行はるるも山地は森林繁茂し林業・製炭に從ふ者多もし。三面川には鮭の漁獲あり。三面川に沿ひ村の略中央まで村道來り南へ出で荒川上流に出づるを得るも交通不便にて文化の開發頗る遲る。

【三面川】新潟縣岩船郡の川。東方の山形縣境の山中に發源し、葡萄山脈・麻耶山脈の間を南流する須戸川が穂野峠附近に源を發する門前川等を合し、大體西流して村上町の北を過ぎ、瀉波町に於て日本海に注ぐ。流程約八〇粁。鮭及び鮎の名產を以て知られ、嘗ては藩の專有にして、最近まで村上藩出身の子弟の奬學資金として鮭の賣上高は保留せられ、土地の榮達者のことを鮭ノ卵と俗稱さる。

ミオヤ　御祖村　石川縣能登國鹿島郡の南部。七尾街道に沿ひ、東南は寶達山脈を境に宮山縣越中國氷見郡に接す。村の東南半は碁石ヶ峯(四六一米)・原山峠の西北斜面をなし、西北半は邑知潟地溝帶に屬し水田開く。聚落は中央臨層崖に沿ふ街道筋に發達し、農耕・養蠶に從ふ。米を主產とし、機業行はれて絹織物の產多し。七尾街道にバスの便ある外、原山峠より北へ貫通する縣道あり省線七尾線能登部驛へ約三粁、バスを通ず。此地は康應元年の田數目錄に「高畠庄十五町九反、蘆井村壺町本六町」とある高畠庄の地にして、大字小田中の親王塚は壽永の役に木曾義仲の陣したる所、また大字小金森は古來、歌枕の名所として知らる。「小金森と云へる所にて、しばらく休みて、みちのくの山に花さくこがねもり此里までも種やまきけむ」(自久志山御祖神社)大字小田中に鎮座。郷社。祭神奇稻田比咩神・大入杵命・菊理姫命等六柱。文德天皇御宇の勸請と云ふ、本殿・拜殿・幣殿等あり。例祭、四月十三日。

ミカイチ　三日市村　大阪府河内國南河内郡の西南部。葛城山脈の北麓を占め、長野町の南に接す。全村山地の傾斜地をなし、中央には石川ありて東方、南方、或は西南方より來る支流を集めて北流す。農產・林產あるも、工產は產額の首位を占む。中央の河谷に沿ひて高野街道及び社線南海鐵道高野線通過して三日市町驛(大正三年設置)あり。此地は和名抄、錦部郡佐戸郷の内なり。

ミカギ　三ケ木　神奈川縣津久井郡にありし村。大正十四年中野町・大井村・久野村と合し中野町を置く。

ミカクラ　御神楽岳　北海道山手守門火山帯に属する一峯。新潟県東蒲原郡西川村の南端にして、南面は磐梯朝日国立公園に属す。標高一三八六米、山麓火山岩より成る。山容壮大にして往昔は山の南面に伊佐美神社ありしが、今は小祠もなし。山名も、また日光守の南麓滝の音を聞くに及ぶも、また日光守の南麓滝の音を聞くに及ぶも、また日光守の南麓滝の音を聞くに及ぶも

十五年の開坑なり。なほ鐵山名は三笠山村大字養春別字春別に因めるもの、また春別はアイヌ語ポンペツの轉訛にして小川の義なりといふ。〔彌生炭礦〕昭和十年には塊炭一〇三、五九七瓲、粉炭八六、二七六瓲、切込炭九、三九五瓲、粗炭九、一九二瓲(この總價額一二八萬餘圓)を產出し、同年六月末の鐵夫數は八五四人とす。なほ鐵山名は三笠山村大字養春別字彌生に因めるものとす。〔達布山〕海拔一四四米の丘陵にて、頂上より市來知・唐松・幌内太・岩見澤の市街を始め、遠く石狩平野を隔てて增毛の連峯を望み、また江別製紙工場の煙も見え、展望甚だ佳なり。〔岡山の櫻〕養春別川を堰止せる大水門附近、水路に圍まるる約三〇〇ヘクタールの堤に、樹齡約卅年を算する吉野一重櫻凡そ三百本植樹さる。〔市來知の鐵馬〕市來知の市來知神社境内にあり。毎年九月四・五日の秋祭には盛大に行はれ、養春別・幌内の各炭山より見物人殺到す。この頃は西瓜・味瓜・玉蜀黍等の盛りにてこれ等の露店多く、見物人中には此等を目的として來る者多數なるにより、食ひ祭りとして知らる。

ミカジマ　三ケ島村　埼玉縣武藏國入間郡の南部。所澤町の西方にて、間に小手指村を挾む。南境附近は狭山丘陵の北端をなし、他は武藏野臺地の一部を占めて畑地多く麥・甘藷・米を產し、また桑畑多く養蠶盛にて繭を多產す。その他茶の產多し。縣道は所澤町及び北方の豐岡町に通じ、社線武藏野鐵道は東北部を西北に走りて狭山ヶ丘驛(大正四年設置)を設く。

ミカズキ　初月　高知縣土佐郡にありし村。昭和十年本村と秦村を廢しその區域を高知市に編入す。

ミカヅキ　三日月　兵庫縣播磨國佐用郡の東南部。千種川中流の一支流公文川に跨がり佐用町の東方三粁餘にあり。北及び東は宍粟郡に界し南は揖保郡に接す。北部の約五百米の山地が次第に高さを減じつつ南に延びて南部に終り西及び東南へ傾斜す。東境・西境にも夫々南北に連る丘陵あり。公文川は北方より來りて西部を南に貫き、東に發して東部を西南流する一川を西南隅にて合し大廣村に出づ。產物は米・蘭・麥類・蔬菜・花卉・食用農產物・果實・蒟蒻芋・製茶・養蠶・油・瓦・木製品・藁製品・叉物・鷄卵、および沿岸漁獲物等なり。南部には作州街道及び省線姫新線通過し三日月驛(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、佐用郡廣岡鄕の地なり。元祿十二年森長俊この地に一萬五千石を食み子孫襲封して王政維新に至る。昭和九年町制施行。〔八幡神社〕大字乃井野に鎭座。鄕社。祭神、仲哀天皇・應神天皇・神功皇后。武内宿禰・武甕槌命・建須佐之男命等六柱を合祀す。天喜元年の勸請と傳へ、もと日岡八幡宮と稱す。明歷二年再建。例祭、十月十五日。〔最明寺〕大字春哉にあり。古義眞言宗。北條時賴坐像(木造)一軀は國寶。

【三日月村】→三日月村(佐賀縣)

ミカタ　三方

【三方村】福井縣越前國丹生郡の東北端。福井市の西南約五粁。北は西安居村、東は日野川を隔てて足羽郡、南は天津村、西は志津村に接す。西安居村と天津村東部との兩境に小丘陵を有するのみにて全村殆ど平原なり。志津川は源を志津村大字平尾、清水畑の山中より發して本村に入り、北部を西に流れ大字清水尻に到り日野川に入る。物產としては全村殆ど田畑なるを以て米・菜種・野菜の產多く、人絹織物も次第に增加しつつあり。三留・杉谷の菅笠また有名なり。村内に猿和田・三留・杉谷・竹生・田尻栃谷・朝宮・片粕・清水尻の八區あり。大字竹生に式内竹生神社あり。清水尻區には清水尻ノ城山あり。西安居村安田の地藍は朝倉の區村野景直累代の居城の地にして俗に安居の小富士と云ふ。大字猿和田は松茸の產地にして和田石と共に有名なり。蒲生街道は足羽郡より入り竹生區を經て志津村に至る。武生道は足羽郡より本村に入り大字朝宮・杉谷を經て天津村に入る。共にバスの便あり。〔廣善寺〕杉谷に在り。眞宗大谷派。門徒四百五十戶、郡下唯一の大坊。行基菩薩の開闢なるが文明年中蓮如上人に歸依して眞宗に轉じ松平侯の歸依深く諸役免許の寺たり。寶曆九年五月一日院家地となる。世に養德寺・西光寺・超勝寺・唯稱寺・黑蟻寺・明源寺・法雲寺・陽願寺・唯稱寺・淨得寺と共に本寺を越前大谷派の十院家寺と稱す。古へより福井東別院の座配役地として有名なり。寺寶に行基作の釋迦如來木像、歎如上人御影あり。

【三方郡】福井縣十一郡の一。若狹國の東端。若狹灣に臨み東方約四粁に敦賀市あり。南は滋賀縣高島郡に界す。略々W字形の郡にして東部は海岸に沿ひて稍々長く北へ延ぶ。東境には七—八百米程度の山脈が南北に連り、西境には東南より西北に延びる丘陵ありて尖端は海に突出して獅子崎となる。南境には東・西兩山脈より西北・東北にそれぞれ延びる山脈ありて郡境を劃し、兩者相合して一の山脈となり中央を北方へ連り北端は海岸平野に終る。中央の山脈の東には東境の山脈との間に耳川が西々北流して沿岸平野發達し北岸の三三一米の孤丘の西より海に注ぐ。孤丘は北に突出し黑崎となる。東境の山脈の北半は西鷲が海に迫りて岩石海岸をなし松濱・事代主崎等あり。中央の山脈の西部は西境の丘陵との間に平野發達し、北部に連る三方湖・水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖等の大湖が大部分の面積を占め、その北及び西は狹き丘陵に圍まれて日本海と隔てられ、水月湖の西北岸の梅丈岳(三九五米)より一丘陵が西

北方へ約七粁の長さに突出して先端は常神崎となり、兩岸屈曲多し。その約一粁西方海上に御神島が横はる。米・麥・蘭等の農產物及び水產・林產あり。郡内は七ケ村を含み、人口密度は一方粁八九人にして最も多きは南西鄕村の二五七人なり(昭和十年)。丹後街道と省線小濱線が敦賀方面より來り北部を西走し、西部平野に出でて南に走り遠敷郡に出づ。丹後街道より分るる部分的なる街道が諸處にあり。當地の方言にて湖を湯といふ。本郡には三湖あり故に三湯郡といひ、後轉じて三方となる。三代實錄貞觀十年の條に郡名始めて見ゆ。和名抄は美加太と註し能登・彌美・餘戶・三方の五鄕を管す。

【三方】若狹國(福井縣)の古地名。和名鄕に三方郡三方鄕あり、その地今の三方郡八村・西田村の邊に當る。

【三方】福井縣三方郡八村の大字。小濱線の三方驛(大正六年設置)を置く。

【三方湖】若狹灣の東にある湖。湖面は海拔一米にして面積三・四〇方粁。湖岸線一〇・一八粁にて大部分は深さ一—二米に過ぎざるも、西北端の水月湖に通ずる水道附近に四米の深所あり。東方より二條川が注入し西端の瀨戶にて水月湖に通ずるも、このほか中央に堀切と呼ぶ人工水道あり、之を通じて水月湖の支流菅湖に注ぐ。水に濁りて透明度二米以下、殆んど淡水なるが特に冬には海水が逆流して西半はやや鹹度を增す。湖の淺所にはヒシが繁茂し、ウナギ・ボラ等を產す。富榮養蜆の湖沼にて、湖底所々に天然瓦斯を噴出す。

【三方ヶ原】靜岡縣の西部濱名郡の洪積期臺地の稱。飛行第七聯隊の飛行場の所在地として有名となれり。天龍川が山地を出でて低平なる遠江灘に注入するとき基盤の第三紀層地域を被覆して形成せし洪積期古三角洲にて、其後ほぼ現在の位置に隆起して洪積臺地となり、天龍川は三角洲層を刻みて現在の五〇米内外の急崖を造り、その他の河川も臺地を刻み放射狀の谷系を發達せしむ。是等の新しき河谷の下流部には最近に沈水により濱名湖及びその支灣の小彎入を生ず。三方ヶ原はその北端に於て一〇〇米内外の高度を有し、三方原村附近に於て五—六〇〇米の平坦なる草原或は松林を有す。而してその西南方は河谷によりて分たれ四、五の平頂の丘陵地と化し、二〇—三〇米の急崖を下れば湖水或は低平なる沖積地その間に深く灣入す。臺地面は一般に松林なるが所々開拓されて桑園或は茶園あり、近年都田川上流の水を引きて灌漑用水路をつくり大規模の水田化が計畫せられ、農民の移住による新開地が形成されつつあり。三方原村及び濱松市の一部となれる曳馬村・宮塚村の舊二箇村の曠野に元亀三年十二月、武田氏の甲州勢と德川氏とが激戰せし古戰場にて今はここに千人塚の石碑立てり。濱松より北に臺地を横切りて引佐郡氣賀町に達し、濱名湖の北岸を廻りて三河に至る街道は姫街道と稱し、昔時東海道の裏街道として濱名湖の今切の難所を避けし婦女子の通行多かりき。今は全く淋れて松並樹のみが昔を物語る。臺地の東南端に當り沖積平野との界に濱松市あり。

【三方】丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡三方鄕あり、その地今の何鹿郡綾部町の邊に當り、大字味方はその遺稱なり。

【三方村】兵庫縣但馬國城崎郡の南部。豐岡町の西南約一〇粁にあり。東北は日高町に接し、東南及び南は養父郡に界し西は美方郡に隣る。西及び南境には山脈連なり西境は殊に高く、西北隅の藤夫嶽は一〇七五米を示す。之等の山地は北方及び東方に傾斜し東北部に低地開く。朝來川の一支流が西北方より流れ來りて東北部を灌漑しつつ東流し、西境に發する一河川は中央を東流して之に合す。米・蘭の產多く麥類・蔬菜・花卉・食用農產・果實・大麻・製茶等の農產及び竹製品・藁製品・叉物・養殖魚類・鷄卵等を產す。また村内に約三十三萬坪の鐵區を有する金銀銅鉛砒の鐵山あり、昭和十年より事業を開始す。東北部には縣道走り日高町に自動車通ず。古くは三方鄕に作り、和名抄に氣多郡三方鄕と見え三加太と訓ず。〔隆國寺〕曹洞宗。弘安三年創建、或は天正十五年の建立といふ。現に末寺十五箇寺を有す。

【三方】但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に養父郡三方鄕あり、三加太と訓ず。その地は凡そ今の養父郡日大屋村の邊に當る。

【三方村】兵庫縣播磨國宍粟郡の北部。揖保川の源流地附近に跨り、朝來郡生野町の西方約九粁にありて、北は養父郡に界す。西・北および東北は一〇〇〇米以上の山脈によりて圍まれ、東南方及び南方へ傾斜す。北境には「甕山(一一三九米)」あり。河川は北部及び西部に發して南流及び東南流し、共に東南部を西南に貫きて流るる三方川に相合して揖保川の上流となる。米・蘭・麥・蔬菜・花卉・食用農產・果實・蒟蒻芋及び叉物・鷄卵・藁製品等を產し、また沿岸漁業・水產養殖等行はる。三方川に沿ひて縣道通過し南方の山崎町へバスの便あり。和名抄に宍粟郡三方鄕と云ふは本村及び下三方村・繁盛村及び染河内村等に當る。〔御形神社〕縣社。祭神、菅原忠許男神。嘗て大石良雄・赤松範長等の崇敬厚かりき。例祭、十月十日。

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇粁の彼方に喜界島を望む。名瀨町の南に隣り、もと同町と合して名瀨村と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀨町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀨町の三方を圍むによりて村名出づと

云ふ。地勢、北部は山髯ちなれど海岸平地に田畑ひらく。農業を主生業とし米・麥・繭・甘藷等を出し、縣立米麥原種場設けらる。製糖その他の工業行はれ、林産・水産にも見るべきものあり。縣道は龍郷村・住用村に通じ、島外へは名瀬町より汽船の便による。

ミカタ　美方郡　兵庫縣廿五郡の一。但馬國の西北部。日本海に臨み西北より東南に稍々長く、西は鳥取縣岩美郡に界す。郡内は山岳重疊して平地乏しく、殊に西南部は高くして扇ノ山・氷ノ山・須賀ノ山・鉢伏山・滝川山山等一〇〇〇米以上の山岳重なり、東南境には蘇夫嶽(一〇七五米)・妙見山(一一四二米)等の高峯聳ゆ。中部には春來峠一帶の東北より西南に達る分水界あり、以東の水は矢田川となりて東北流し城崎郡を經て日本海に注ぐ。以西の水は濱坂川となり北流して海に入り、河口沿岸に稍々平野開く。北岸は星濱をなすところ多く中央に卑門崎突出して其の西に諸崎港あり。耕地よく發達して米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産・果實・三椏等の産あり。また木製品・藁製品・双物・寫系瓦・紙・醬油等の工業品を産出し、農家にては各戸に牛を飼育し養鶏行はれ、海岸は水産物を産す。郡内は村岡町・濱坂町・温泉町の三町外八ヶ村を含み、昭和十年の人口密度は一方粁八九人にて最も多きは濱坂町の二九八人なり。山陰道は中央を東南より西北に走り温泉町にて西南走し鳥取縣に入る。温泉町より濱坂町に沿ひ北走する縣道ありて濱坂町に出で、北部を横斷する縣道に連絡す。東部には矢田川に沿ひて東北走する縣道あり。省線山陰本線は北部を東西に貫く。本郡は明治二十九年七美郡・二方郡を合して新設せしもの。

ミカタ　瞻形　武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に榛澤郡瞻形郷あり、その地今の大里郡本郷村・川土村の邊に當る。

ミカタハラ　三方原村　靜岡縣濱名郡の東北部。北に引佐郡田村・中川村、東に小野口村・積志村、西南に吉野村・和地村あり。地は三方ヶ原の洪積塞地にあり、同春未だ進まざる廣漠たる平地にして、松林・畑地多く桑園・茶畑多し。また絲瓜・西瓜等を産す。社線濱松鐵道は村の中央を南北に通じ、南は濱松、北は奥山に至る。村内に都田・三方原の二驛(共に大正三年設置)を置く。西北部に根洗ノ松あり。戰史に名高き武田・徳川兩氏の三方ヶ原合戰の古戰場は村の東南部にあり。即ち武田信玄、西上の準備成り、元龜三年十月、甲・信の精鋭一萬及び北條氏の援軍二千を率ゐて甲府を發し三方ヶ原を經て、東參河を掠めんとす。徳川家康、急を織田信長に告ぐ。信長、佐久間盛政・滝川一益等兵三千を遣はし、之を援けしむ。十二月、信玄、三方ヶ原に進み、家康は之を邀撃せんとし、兵一萬餘を率ゐ犀ヶ崖の北方に陣す。廿二日兩軍大に此地に戰ふ。織田氏の援軍先づ破れ、次いで家康の軍潰ゆ。家康遂れて濱松城に退く。其夜、家康の軍、甲軍を夜襲して奇功を奏し、甲兵退却す。信玄赤退き、刑部に陣して越年す。翌天正元年正月、野田城を拔きしも、信玄病に罹り、長篠に守兵を止めて歸る。

ミカツキ　三日月村　佐賀縣肥前國小城郡の東南部。嘉瀬川の右岸に位して小城町の東に隣り、東部及び東南部は佐賀郡に接す。北隅が高取山(四六九米)の南斜面をなす外、地形全般に平坦にして東境南部に沿ひて嘉瀬川が南流す。中央には村を東南に貫流して嘉瀬川に合する一川あり。米・麥その他の農産多し。西境に接する小城町市街地より延びる縣道當村を貫き一は東方へ、一は東南方へ、一は南方へ去る。南境に近く省線長崎本線久保田驛あり。それより分るる省線唐津線は西南部を西北走して西境眞近に小城驛あり。此地は和名抄、山城郡麥調郷の地にて大字三養島里・織島里・久米里等あり、皆な古の郷里の里の遺稱。

ミカド　三門　省線房總東線の一驛(明治三十六年設置)。千葉縣夷隅郡長者町大字三門にあり。

ミカノハラ　瓶原村　京都府山城國相樂郡の中部。聖武天皇恭仁宮の所在地たりし村にして、木津川河畔に位し、省線關西線加茂驛の北方二粁、後醍醐天皇笠置行在所たりし笠置山の西方約八粁の地點にあり。村の北方は花崗岩、その南方は極度に變質せる古生層の山地より成り、木津川畔の地は洪積層又は沖積層より成る。洪積層の地域は水に乏しく畑地たりしが約七百年前僧智慧心上人により村の東境和東川上流より用水路を導き水田を開拓す。其の面積約百八十町歩に達す。木津川以南に本村の飛地法花寺野あり、もと恭仁京の京域この邊まで及びし所、今日まで傳へて本村の域内とす。純農村にて米は其の主要物産なり。また山麓地帶に蜜柑を産す。此地に元明天皇以來離宮を置かれ、聖武天皇天平十三年恭仁宮を御造營の處なり。然るに造營僅か四年にて廢され、其の大極殿は國分寺に給付し給ふ。恭仁京の京域は明かならずと雖も、現在の寺址、即ち當時恭仁京の宮址たるは疑なく、寺邊に遺る巨大なる礎石または古瓦類により其の廢墟たるを證し得べし。礎石附近は史蹟とし保存せられあり。本村は和名抄、水泉郷の地なり。また對岸加茂町は賀茂郷の地にて、恭仁宮の京域にて、當時その港市の地なりしならん。正保三年江戸幕府例幣使を復活するや、當地をその例幣使料用地と定め、伊勢大廟及び日光東照宮の例幣使料を本村に仰ぎ引續き明治維新に至る。例幣使料田の區域を定むる標石を遺し、又地名例幣はその遺稱を傳ふるもの。大字例幣、登大路より山上八町の地に聖武天皇勅願、良辨建立の瓦刹海住山寺(貫

宗)あり。五重塔・女殊堂十一面觀音像等の國寶を藏す、(國分寺)大字例幣にあり。新義眞言宗智山派。往古、聖武天皇勅願の一國一寺の國分寺として寺運盛なりしが、後世永く廢絶、近年に至り一草堂を再興、以て現在に及ぶ。寺邊に國分寺の古瓦等發見せらる。

ミカフ　三株山　阿武隈山脈の一峯。福島縣東白川郡宮本村の南東嶺。東南側は石城郡貝泊村に亙る。標高八四二米。山體片麻岩より成る。北麓を鮫川南東流し、川に沿ひ御齊所街道走る。

ミカブ　御荷鉾山　關東山脈の一峯。高崎市の南西方約二〇粁。群馬縣多野郡日野村と万場町との境上に位す。東御荷鉾山(一二四六米)・西御荷鉾山(一一八六米)の二峯に分かれ、中間に投石峠最高點を置く。山體は地質學上名高き御荷鉾層より形成せらる。古書によれば今の西荷鉾山は古の多胡の嶺ならんとあれど不詳。二峯の頂上にはそれぞれ不動石像を祀り、東御荷鉾山中には高さ五—六丈の不動の瀧かかる。山上よりの展望は極めて廣濶なり。登山は多く南麓万場町より行ふ。

ミカミ　三上

【三上村】　愛知縣三河國八名郡の西部。豐橋市の東北約五粁。豐川に跨る小村にて、北は賀茂村、東は石巻村、西は寶飯郡豐川町に隣接す。東部は洪積層の丘陵地より成り、褶現山(七一米)あり。東北よりは間川流れ、豐川に合流す。村の大部は豐川の沖積平野の一部分をなし、褶現山の麓より南へと牟呂用水が流る。本村は豐川を挾む地域にて、土壌は砂地ななし、水田には適せず、桑畑にて養蠶盛んなり。主要交通路は通過せざるも、別所街道・姫街道に近く、鐵道は社線豐川鐵道豐川驛に近し。

【三上村】　滋賀縣近江國野洲郡の南部。野洲町の南に接し東は甲賀郡に界す。東部及び中部には小丘陵點在し、中央には三上山(四二八米)の孤丘あり。西境には野洲川が西北流し流域に平野開く。河川の沿岸と丘陵間の低地は田畑よく拓け農業を主生業とし、主産物は次の如き産額を示す。米(一六、二五八俵—二三八、七一〇圓)・大麥(二、二六〇俵—一〇、一七〇圓)・小麥(八五六俵—五、八八五圓)・菜種(一、七二六俵—一二、七七二圓)にして、特産物には悠紀メロン(一二三、八〇〇疋—一〇、二四七圓)及び千瓢(三、五五二疋—二、二二〇圓)あり。縣道は中部を東南より西北に貫き、省線東海道本線の野洲驛(西北約一粁)へバスを通ず。古くは三上郷に作り、和名抄に野洲郡三上郷あり。中世は三上莊に作り、文治中内大臣實定これを領す。元祿十一年三月遠藤胤親この地に封ぜられ、一萬石を食み陣屋を置く。弘化二年四月、胤緒の時二千石を加へられ、城主格となり、子孫相襲ぎて明治維新に至り同三年四月、和皇國古見に移さる。今上天皇大喪祭には悠紀齋田となれり。(御上神社)大字三上に鎮座。官幣中社。祭神、天御影命。孝靈天皇の元年に祭神三上山頂に降臨あり、然れども山頂は參拜に不便なりしを以て、のち相謀りて現地山下に遷し、内外末社を造營せりと。古くより地方名族たる御上祝(みかみはふり)に齋祀され世に重きをなす。養老二年に社殿を營み鎮祭す、これ現在の宮地にして、これより平安朝期を通じ神威大に著はれ、朝廷の殊遇を蒙る。延喜の制、名神大社に列し、祈年・月次・新嘗の官幣に預る。地方に於ける朝廷崇敬の大社として本國の一巨刹たり。天台本山たる延暦寺側の崇奉をうけ、本國に於ける他の名神と共に三十番神の一に入る。五月十四日の例祭の他に、特殊祭典に四月十五日の遷祀祭、七月十八日の影向祭、十月十四日の秋季古例祭あり。本殿・拜殿・樓門は何れも鎌倉時代の造營にて國寶に指定せられ、中にも本殿は入母屋造神社建築の模範たり。社寶中、狛犬(木造)一對は鎌倉時代の作にて國寶。(聖應寺)大字南樓にあり。天台宗。草創年代沿革不詳。本尊、阿彌陀如來坐像(木造、藤原期作)一驅は國寶。(宗泉寺)大字妙光寺にあり。淨土宗。初め東光寺と號し、同村字東光寺にありしが、織田信長の兵燹により燒失、天正十六年に三上駿河守政久、今の地に再建、海譽宗泉を請じて中興開山とし、現寺號を稱す。藥師如來坐像(木造)一驅・昆沙門天立像(同)一驅・不動明王兩童子立像(同)三驅は國寶なり。

【三上山】　滋賀縣野洲郡三上村にあり。琵琶湖の南東方、野洲川の右岸に峙つ。標高四二八米。山麓富士に似たれば近江富士の稱あり。山は二峯に分れそれぞれ雄山・雌山と稱し山頂よりは比叡山・比良の遠峯を望み眺望絶佳なり。西麓に御上神社、山腹に妙見堂あり。東海道名所記によれば、往昔この三上山に百足ありて瀬田橋の下に棲める龍神を殺さんとせしを、俵藤太秀郷ただ二矢にて馬蛭を殺せしかば、その報いに米俵一つ、帛一匹、鐘一つを與へたりと。俵藤太の名これより出でしと云ふ。鐘は三井寺に奉りて今に有り。叢笠雨談によれば、瀬田より三上山に至る五里餘ありて、土人に之を問へば蜈蚣山に瀬田より一里ばかりにある山にて、秀郷が射たるはこの山に棲みし由云ひ傳ふとあり。百足山本妙寺の緣起に假託せられて變遷せるものの如し。

【三上六郡】　備後國(廣島縣)の古郡名。日本後紀、延暦二十四年の條に郡名初めて見ゆ。和名抄は美加三と註し多可・信敷・土本・神代・三上の五郷を管す。明治三十一年十月に奴可・惠蘇二郡を合して比婆郡を建て、郡名を失ふ。

【三上】　備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三上郡三上郷あり、その地、今の比婆郡本村の邊なるべし。

【三上】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に奴可郡三上郷あり、その地、今の比婆郡帝釋村に當る。

ミカミ　三神村　福島縣耶麻郡西白河郡の東北隅。矢吹町の東に接し、北は岩瀬郡、東は阿武隈川を以て石川郡に境す。地は西北部と東南部に高く、丘陵をなし、阿武隈川は東境を北流し、その左岸は稍平坦なり。米・繭・馬を產す。道路は村の東南より西に通じ、西方矢吹町、東南方石川町へバスの便あり。大字三城目の鷹栖館は往古、伊藤大學なる人、大和より來りて住居せし所なりといふも、大和にあらずして近隣より來りしものなるべし。三城目の古刹永福寺は推古天皇の朝、僧慧慈の開基と傳ふ。

ミカメ　三瓶町　愛媛縣伊豫國西宇和郡の南部。東は東宇和郡に隣接し、西は宇和海に面す。四國山脈西端の海に沈む所に位し、山岳地より成り海岸に僅少の平地あり。氣候溫暖なれば農業盛にして米・麥・繭・柑橘等を產し山地よりは木材・木炭等の林產物を出す。海岸はリヤス式海岸をなして屈曲に富み多數の港灣を有し、三瓶港は內務省指定港たり。灣口には烏嶼紛錯して勝景の地をなし、水產業盛にて鰯・鯛・鰺・鮪等の漁獲多し。主要市街は奥池灣の盡頭に開け、縣道その中心を南北に通じて南方宇和島市に至りバス通ず。市街は最近綿工業を興し綿糸布の製造盛なり。また胡糸工業・水產加工業・清酒製造等も盛にして町は活況を呈す。大正十年町制施行。本町はもと津布理と稱し、伊達家の所領たり。

ミカモ　三鴨

【三鴨村】 栃木縣下野國下都賀郡の西南部。藤岡町の西北隣にて渡良瀨川の北岸にあり。西は安蘇郡、南は群馬縣邑樂郡と隣す。北境の一部に丘陵あるも、他は平地開けて畑地・水田多く、農業・養蠶行はれて米・麥・繭を主產す。また綿織の製造行はる。縣道は村の中央を南走して藤岡町に通じ、南部にてこれと分れて西北に走るものは安蘇郡佐野町に通じ、バスの便あり。藤岡町には社線東武鐵道日光線藤岡驛を置く。この地は上杉謙信・北條氏直・佐竹義重の戰ひし地にして、鎌倉九代後記に天正十三年、北條氏直、藤岡へ出陣、佐竹義重は皆川の後援として大田和に至るとある大田和は、いま本村の大字なり。

【三鴨】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に都賀郡三鳥郷あり。蓋し三鳥は三鴨の誤なり。その地、今の下都賀郡岩舟村・小野寺村・靜和村の邊に當り、延喜式の三鴨驛も此れなり。

ミカモ　美甘村　岡山縣美作國眞庭郡の西部。勝山町の西北に連り、西南は阿哲郡に界す。北は二川村・新庄村、南は富原村に接す。面積六六・六三方粁。四周に高峻なる山脈連亙し、笹ヶ山(九七五米)・星山(一〇三〇米)等村界を壓す。地勢概ね高燥なるも、旭川の上流は新庄村に發して村心を東南に貫き、また支流本庄川は北部の山中に發して東流し沿岸に河谷低地開く。村內の大部は山林地に屬するも所々に原野を有す。耕地は河岸に拓け米・麥を產し、また木炭・繭・酒類・柿等の產あり。出雲街道は旭川沿岸に通じ古く雲伯二國の交通路なりしが、今はバスを以て勝山町に連絡す。古くは美甘郷に作り、和名抄に眞島郡美甘郷とあるは本村及び新庄村の邊にして、中世は莊名に呼ぶ。

ミカワ　三川

【三川】 北海道石狩國夕張郡由仁村の大字。省線室蘭本線の三川驛(明治三十年設置)を置く。

【三川村】 新潟縣越後國東蒲原郡の西北部。阿賀川の北岸に沿ひ、支流新谷川の流域を占む。北は飯豐山塊に續く六百—一千米に及ぶ山脈連亙し、北蒲原郡に界し、加治川との流域を分つ。新谷川は東より來り村內の諸水を集めて西南に流路をとり、南部を曲流する阿賀川に會す。河岸に僅かの谷平野を見る外、村內山岳起伏し森林に富む。米・麥その他雜穀の耕作、或は養蠶・製炭を生業とし、新谷川本支流に沿ひて聚落散在す。當村內、或は隣接の他村に跨りて金銀銅亞鉛蒼鉛鐵及び石炭などの鑛區存すれども多くは擬はず、但し北蒲原郡赤谷村に本據を有し當村にも鑛區の跨れる赤谷炭山は今なほ準重要鑛山にして昭和十年には石炭一一、三七六瓲を產す。また當村內に鑛區七九萬餘坪を有する三川鑛山あり、重要鑛山にて鑛種は金銀銅鉛亞鉛なるが、昭和十年には金銀銅鑛八、九三五瓲を產出す。鑛石は日立鑛山に送致して合併製錬す。日本鑛業會社の稼行にて、十年六月末の鑛夫數は一二三人とす。南部を掠め通る省線磐越西線は村內に白崎驛(大正二年設置)を置き、若松街道は阿賀川に沿ひて貫通す。他に津川町より北蒲原郡新發田町に出づる一條の縣道南北に通じ省線赤谷線の終點赤谷驛へ北境より約四粁を隔つ。大字は白川・岩津・內川・行地・新谷・綱木・岡澤・古岐・中ノ澤の九にて、前三者はもと福島縣東蒲原郡に屬せしが明治十九年新潟縣東蒲原郡の村となる。後六者はもと新潟縣北蒲原郡の村なりしが、明治二十二年町村制實施に際し東蒲原郡に編入せられ、同時に六箇村合併して綱木村と稱す。此年に前三者も合併して三川村と稱せしが、同四十一年綱木・三川の兩村合併して新に三川村を建つ。大字白川宇白崎に御前ヶ鼻とて巉巖の阿賀川に突出せる所あり。昔、餘五將軍平繁茂が大字岩津字岩屋に隱れ居たりしが或時病に臥す、夫人に「三月十五日の鶯鳴前に來れ、さなくば對面せじ」といひ遣はす、夫人いまの御前ヶ鼻まで辿り來りしに鶯鳴く、かくて此處に投身すといふ。この傳說を傳へて古人、白崎にては

鶯を飼はず、その肉・卵を食せざりき。いま岩谷に平等寺あり。餘五將軍の草創にて境內なる藥師堂の藥師如來・脇士等は一に藤原時代の作といはる。寺內に牌子あり、表面に「鎭守府將軍平繁茂當時開基南龍院殿華嶽青峰昌運東繁大居士」、裏面に「永延元年三月十五日示寂」の文字あり。また寺寶の法印には「貞治三」の年號刻まる。繁茂の史實に就きては未だ詳ならず、されど多くの傳說本村に傳はる。〔將軍杉〕 指定天然記念物。幹圍三丈五尺に達す。樹勢壯大、杉の巨樹として有數のものなり。

【三川村】 和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東部。日置川の上流に跨り、東は東牟婁郡に界す。日置町を距る東北約一三粁。北隣の富里村との間には一〇〇〇米を超ゆる峻峯東西に相並び、東には大塔山(一一二二米)・高尾山・大森山等聳えて東牟婁郡との境を隔る。北境の山脈より山肢ほぼ西南に延び、中央に入道山・赤土森山・水垣內山等連り、西に半田峯等あり。北より來る日置川、東北部に源流する前ノ川、南より來る將軍川、其他の諸川は幾多の屈曲をなして村內を流れ、遂に村の西南に於て相會し西南流して川添村に入る。米・繭・柑橘を多く產し、林產また多し。縣道西北方より山地を越えて西部に入り來るも交通微して便ならず。明治二十二年町村制實施以來は豐原村と組合村をなせしも、昭和四年豐原村を編入す。

【三川村】 廣島縣備後國世羅郡の東南隅。甲山町の東北に連り、北は甲奴郡、東は蘆品郡、南は御調郡に界す。面積五四・九三平方粁。四周を山脈に圍繞せられ、村內撥ね海拔五〇〇米內外の山地なり。蘆田川の上支二條、山間を迂流して東南に流る。中央に長き溪谷を作り、沿岸には耕地を拓けり。村の周圍は山林を繞らす。農業盛んにて村民は概ね沿岸に聚落せり。米・麥・繭・清酒・薪炭・木材・牛・馬等を產す。縣道を以て甲山町に通じ、近隣に自動車の便あり。この地は和名抄、世羅郡桑原郷の內か。

【三川村】 廣島縣安藝國安佐郡の南部。南は原村を挾みて廣島市に對し、東は太田川を以て口田村に界す。北は川內村、西は安村に接す。面積二・一四方粁。太田川東境を南流し、村はその流域平野上に位し、地勢極めて平坦肥沃、大部分は耕地に占めらる。農業・工業發達し、米・麥・繭・煙草・苧麻の產多し。對岸口田村には省線藝備線の安藝矢口驛あり。省線可部線は村內に古市橋驛(明治四十二年設置)を、省營バス廣瀨線は西部を貫通し中古市驛(昭和九年設置)を置く。可部町・廣島市に縣道通じバスの便あり。この地は和名、安藝郡幡良郷の內にして中世は北ノ庄と呼べりと。

【三川】 福岡縣三池郡にありし村。大正元年に町となり、昭和四年同町を廢し、その區域を大牟田市に編入す。

【三川村】 佐賀縣肥前國三養基郡の西南部。久留米市の西西南約五粁にあり。西及び西南は神埼郡に、東南及び東は福岡縣三潴郡城島町に界す。筑紫平野の中央を占むるため地極めて平坦にて筑後川支流の細流が南下して村を洗ひ、南約半粁に西南流する筑後川の本流に入る。地味肥沃、水利の便よく農業に適し、米・麥の產額多く、繭も產す。主要里道東西に通じて久留米市及び佐賀市へ達す。この地は和名抄、三根郡物部郷の內なり。大字江見は明治七年二月の亂に熊本鎭臺の兵久留米より河を渡り、北茂安村を取り此處に至る。佐賀の士族、大舉して之を逆擊し、鎭臺兵は久留米へ走れり。

ミカワ　三河

【三河國】 東海道十五箇國の一。國內、豐橋・岡崎の二市及び北設樂・南設樂・八名・渥美・寶飯・東加茂・西加茂・額田・碧海・幡豆の十郡を含み、愛知縣の管轄に屬す。この國は古く三川に作り、また參河とも書く。國造本紀には成務天皇の朝に參河の國造として知波夜命を定め給ひし穗國あり、こは國郡制定の時に郡となりて穗郡となり、のち奈良時代に至り地名は二字の美名を附けられし時、穗の音を延し寶飯とす。寶飯は平安時代の頃に至り何時しか轉訛して寶飯郡となる。この國の國府に寶飯郡國府村の地に置かる。寶飯郡が三河の東部に擅がる大郡なりしことは、醍醐天皇の延喜三年八月に寶飯郡を分けて設樂郡を置かれたる事によりても知らる。鎌倉時代の初め源範頼が國守に任ぜられ、のち安達盛長守護となる。足利尊氏代世の祖といはるる足利義氏が吉良庄の地頭職となりて西條(今の西尾町の邊)に居り、爾後その子孫は吉良(西條)・今川・東條・一色などの諸家に分る。足利尊氏の叛旗を翻すや、これ等の一族は皆共にこれを援けしが、ひとり北部の足助氏(三河源氏の裔)のみは勤王に終始せり。室町時代に至り吉良滿貞守護となりて西條に居り、弟尊義は東條(今の横須賀町附近)に居る。寛正の初めに吉良氏衰へ國內大に擾る。將軍義政、細川成之を守護に補してこれを鎭む。これより先、新田氏の裔と稱する世良田親氏この國に來り、州の豪族松平氏に養はれ岡崎城主となれりと傳ふ。爾後、その子孫漸く附近に繁衍す。德川家康は實に親氏九世の孫に當るといふ。既にして本國より起りし今川氏に今川義元あり、駿河・遠江の二州に威を振ひ、天文年間この國に來侵して東條・西條二氏を降し、州南の地を奪ひ、德川氏も間もなくその旗下に屬したり。永祿三年、今川義元大舉して尾張の織田信長を討たんとしてこの國に入りしが、桶狹間に敗死するや、德川家康は逸早く獨立し、のち西條の牧野氏、吉田(のち豐橋)の小原氏を滅ぼして一國を領有す。永祿十二年に家康は遠江を取り、元龜元年には遠州濱松に移り

しが、天正十八年北條氏の滅亡後は豐臣秀吉は家康を關東に移して江戸に封じ、池田輝政を吉田に、田中吉政を岡崎に封じ、苅屋の水野氏のみ舊封を保てり。關ヶ原役終るや、德川家康は田中吉政を久留米に、池田輝政を姫路にそれぞれ榮轉せしめしが、水野氏なほ舊封を維持す。ここに於て岡崎に本多康重を、吉田に松平家清を、西尾に本多康俊を、作手(南設樂郡の内)に松平忠明を、田原に戸田尚次を、伊保(西加茂郡の内)に松平忠利を、それぞれ封す。爾後、國内の諸藩の廢置、轉封少からざりしが、明治維新の初めには、豐橋(舊名吉田)には大河内氏(七萬石)、西尾には松平氏(六萬石)、岡崎には本多氏(五萬石)、重原(奥州福島より移る)には板倉氏(二萬八千石)、刈屋には土井氏(二萬三千石)、鯉淵には内藤氏(二萬石)、半原(武藏岡部より移る)には安部氏(二萬二百五十石)、田原には三宅氏(一萬二千石)、西端には本多氏(一萬五百石)、西大平には大岡氏(一萬石)の十藩あり。明治元年四月には參河裁判所が置かれ、三河のほか遠江・駿河をも管せしが、間もなくこれを參河縣と改め、二年六月にはこれを廢して信濃に置かれたる伊奈縣に合併す。而して前記三河の十藩はいづれも明治四年七月一日に一縣となりしが、同年十一月には悉くこれを廢して額田縣を岡崎に置き、伊奈縣の廢止と共に三河地方は全部額田縣の所管に移り、ここに額田縣は三河一國を管するほか尾張國の知多郡をも管するに至れり。明治五年十一月には額田縣を廢してこれを愛知縣に併せしを以て、三河一國は愛知縣の所管となりて今日に至る。同十三年五月、加茂郡を東西二郡に、設樂郡を南北二郡に分け、同三十九年八月よりは渥美郡の中より豐橋市獨立し、大正五年には岡崎市が額田郡の中より獨立し、今日の如く二市十郡となる。

【三河灣】 愛知縣の西南、伊勢海に續く一支灣。知多半島と幡豆の突出の間を北方に彎入し、刈谷附近に達する細長き海面にて、渥美半島の北岸に沿ふ渥美灣と相對す。灣頭に佐久・日間賀等の小島あり。灣内には東方より矢作川・矢作古川が注入し、低平なる三角洲平野を形成し北端より境川が注入す。北部か衣ヶ浦と稱し、沿岸は遠淺にて海水浴場發達す。三河灣の東岸には三河鐵道が通じ、碧海郡刈谷・高濱・大濱及び幡豆郡一色等の聚落を結び、西岸には東海道本線大府驛より武豐線を分ち、鳥崎・半田・武豐の港市を結ぶ。沿岸には魚介の產多し。

【三河三谷】 東海道本線の一驛(昭和四年設置)。愛知縣寶飯郡三谷町にあり。

【三河鐵道】 私設鐵道。愛知縣にあり。東海道本線岡崎驛より分岐し門立驛(額田郡岩津町)に至る一二・四粁、西中金驛(西加茂郡石野村)より知立驛(碧海郡知立町)・刈谷驛(碧海郡刈谷町)・新川町驛(同郡新川町)・大濱港驛(同郡大濱町)等の諸驛を經て東海道本線須都驛に至る八一・七粁、上單母驛(西加茂郡單母町)より三河岩脇驛(額田郡岩津町)に至る六・四粁、及び貨物線なる新川町驛より新川口驛に至る〇・六粁、大濱港驛より大濱口驛に至る〇・四粁を含む。これ等諸驛の内、知立驛にて社線名古屋鐵道に、刈谷驛にて東海道本線に接續す。省線と連帶運輸をなし、動力は蒸氣・電氣・ガソリン併用、軌間は一・〇六七米。

【三河村】 兵庫縣播磨國宍粟郡の西部。千種川の上流の熊見川に跨り、西及び南は佐用郡に界し、東南隅は同郡三日月町の西北隅に接す。南北に細長し。西境には五—六百米の山脈が連りて南に高さを減じ、東境にも南北に低き丘陵連る。北方より來る熊見川は中央を屈曲しつつ南流し沿岸に僅少なる低地あり。米・繭・麥類・蔬菜・花卉・食用農產・蒟蒻芋・製茶・果實・鷄卵・羽物・沿岸漁獲物等を產す。南隣の德久村(佐用郡)方面と東南方の山崎町方面とを結ぶ縣道が南部に通じ、山崎町へバスの便あり。この地は和名抄、宍粟郡土萬郷の内なり。〔大森神社〕大字中三河に鎭座。郷社。大山祇命・大山咋命・伊邪那岐命・伊邪那美命を祀る。當地方四隣村の氏神にして廣く崇敬せらる。例祭、十月二十三日。〔瑠璃寺〕大字船越にあり。古義眞言宗。船越山南光坊と號す。聖武天皇の神龜五年當國戊亥の方に夜光ありて萬民危惧すること數間に達し、行基なして伽藍を建立せしめらる。瑠璃寺藥師院と號す。數度火災に罹りしも再建、現在に至る。紺本着色不動明王二童子像一幅は國寶。

ミカワ　美川

【美川】 石川縣石川郡にありし町。昭和十年に金澤市に編入す。北陸本線の美川驛(明治三十一年設置)は金澤市美川に置かる。

【美川村】 島根縣石見國那賀郡の中部西偏。濱田町の南約八粁。東西約五粁、南北五—八粁、面積二九方粁餘。東南隅に漁山(七一四米)聳え、その山脚は北に延びて五〇〇米臺の山を連れ、北・西・南の三境もまた三〇〇米臺の山に圍まるるも、東北部を瀧流する周布川流域に平地ひらく。また西部及び南部の山間小盆地に耕地著しく發達す。米・繭の農產ある外、用材・木炭を出ずこと多し。河沿ひに道路通じ日本海岸の省線山陰本線周布驛へ出づるに便なり。此地はもと漁山・大内の二村に分れしが昭和十年合併して美川村と名づく。和名抄、那賀郡周布郷の内なり。〔八幡宮〕 大字内村に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・樂天神。寛仁四年、本郡田橋村宇宮ノ尾に創祀せりと傳ふ。例祭、十月十五日。

【美川村】 岡山縣美作國眞庭郡の西南隅。勝山町の南に連り、西南は上房郡、東は

木山村、東南は津田村に各隣接す。面積二七・一三方粁。地形西北より東南に極めて細長く伸び、四周を山地に圍繞せらる。旭川支流なる備中川の貫流によりて中央部に平地を有し耕地拓くるも、他は概ね四〇〇—六〇〇米の山地起伏して山林に蔽はる。米・麥・繭及び木炭・干柿・蒟蒻等を產す。當村と上房郡水田村とに鐵區跨りて水田鐵山あり。格魯謨鐵山にして、昭和十年には一〇〇瓩を出せり、

※水田村(し

市は宿駅あり、今宿の地名殘れり。

南部に城島・草ヶ天垣とを称ぶ城垣國道通ま

と、城垣國市間の宿駅賑養をなす。國道

は北部に東港道本線種に通じ大垣驛に近

し。美濃路には鳥喰行のバスを通ず。古

くは和名抄に見ゆる安八郡草笠郷の地と

思はる、東北部は垂井宿の地とも

江戸時代は何れも大垣藩領たり。大字三

塚江戸時代は中世は垂井庄と唱ばれ

ともと大井荘に屬し、大坊新・はり原

塚・石倉塚の三村ある故、三塚と名付く。

村の西なる鳥羽寺の西の高き処に古城址

あり、曰信濃守の居城たり。大字今宿は

天文の頃、この城に居りしが、元亀二年右

非郡太田に卜全と共に討死し、卜全の三

男氏家内膳行資は曰の討死後、本城に

来り住み一萬五千石を食む、天正十一年

秀吉に移る。大字加賀野は世安庄七郷村

の中にて、その城址は信長の織部今宿の

頃、日比大三郎これを守る。大字今宿は

もと三塚の中なりしが、常所城主曰田

助之秀、家の字を号み後び信長に書びて

今宿と改称すと。その古城址は曰田助之

秀が至百貫文を賞して守りし地にして助

之秀は元亀二年に曰信濃守と共に戦死

す。大字小野はもと二本柱に屬し豊臣の

跡あり、その古城址は横蔵寺刀屋信秀の居

城たり。所説は中世は佐波と書かれ二本

庄に屬せり。古来茶道の要衝にして茶室

路を設する此の道は承久乱、曰ヶ原役等

に度々賞賜せり。茶室は遠くとも見え、黄

石はもと切戸と称せられし地なり。

ミキ　美吉　武藤國（現在天藤）の古城名。和名抄に載る郡郷名の内にて、今の桃父郡内ならんと詳かならず。

ミキ　御木（國）　往昔筑後國三池郡の別國。その位置は大見・今の筑後國三池郡の地に當る。釋日本紀卷十に筑後風土記を引用して國名につきての記事あり、常陸木一様、郡家の南に生ぜり。高さ九百七十丈、朝日の影は肥前國藤津郡の多良峯を蔽ひ、夕日の影は肥後國山鹿郡（いま鹿本郡の内）の美爪之山を蔽ふ。故にこの國を御木の國といひしが、後の人これを訛りて三毛といひたりといふ。後に郡名となり、和名抄に三毛郡とあるも、鎌倉時代の頃より三毛・三池を混用し、今は三池郡と書く。

ミキタ　三岐田町　徳島縣阿波國海部郡の東部。日和佐町の東にあり。北は那賀郡に隣り、東は大平洋に臨む。四國山脈の東端の港に北む地を占む。從つて百一二百米の山頂貫く嶺りて東に緩傾斜し、その麓下に僅平なる許地を拓く。港非は出入に富み、由岐湾をはじめ魚多の港は出入ありて良港をなす。許地より出る米・麻・鰹等を産しまた牧牛盛に行はる。油菜は稀に盛にして魚類多く鯛・鰯・鮪その他の港産物等の油類多く、その製出し、加工製等盛なり。主要市街は由岐湾に臨む西由岐にて北隣の福井村（那賀郡）に繋ぐ。漁業・商工・中部等の各部門にて活躍交通手段なり。大正十一年に町制を布く。

此郡は和名抄、那賀郡郡和郷の内にて、大平記に字の條といふはこれなり。この港に慶長二年十一月十六日、港曹地震あり、人民の損亡多かりきと。

ミキタ　美木多村　大阪府和泉國泉北郡の中部。和泉山脈の北麓高地を占め、福泉町の南に接し、西北より東南に長く、東南部は南河内郡に界す。東南端より西北方へ延る低き二條の丘陵が東・西麓線を成り、東南麓に發する石津川は中央東端を西北流し、西北部にて南方より来る美濃を合せ福泉町に出づ。工業・農産・林産等あり。北方の浦寺町及び堺市へバスを通ず。久世村と共に和名抄、大鳥郡和田郷の地なり。

ミキタ　右田村　山口縣周防國佐波郡の西南部。防府市の西北に接し、佐波川の西岸に沿ふ。西は古墳郡に界し、東北は小野村、西南は備に港に面す。総つて一・七六方粁。川に沿うて地形は南北に長く、流域は肥沃なる平地をなし耕地より山地迄・西部に山地迄・山地迄・三七〇米）郡境に聳ゆ。農業盛ん産物・米・麦・甘藷・蔬菜及び清酒・醤油・陶器・木産物等の産多し。藤迄を以つて中部は和名抄、佐波郡玉祖郷の内なり。中世には右田村と云ふ。大字大崎の麓にもと大崎城址あり。また江戸時代の人、梨羅渓の岡田、

ミキモト　三木本　大阪府中河内郡にあり。大正三年に南河内郡大田村

を併合し、大正二年村と改称。

ミクリ　三國

【三國山脈】　國東の北端、前町・新城間の國境に聳ゆる山脈を称す。近年國道の上越線沿本トンネルはほぼその中央部を貫通す。鞍坂峠の本倉谷頂を貫く花崗岩・四畳岩の大岩塊が山脈の大部分を構成し、鞍坂峠は後醍醐天皇を祭りてネルソンフネルスに屬す。三〇〇〇の米内外の高で峯人の往來を妨ぎりしが、新本トンネルで峯人の往來を妨ぎりしが、新本トンネルの開通と共に新へこの山脈に足を踏み入るる者山者も多くなれり。北方には中平嶽（三一一四〇米）・見嶽（一九二六米）・中ノ嶽（三一〇八五米）・助ヶ嶽（三一〇〇三米）等の高峯あり、南方に利根川、北方に阿賀野川支流の只見川の本源を發す。中央部には小荒嶽（一九四四米）・牛ヶ岳（一九六二米）・鞍日岳（一八二〇米）・荒倉岳（一九七八米）・谷川岳（一九六三米）等の高峯にして、鞍日岳の西麓に二四八米の高さの新本トンネルがあり、この下を新本トンネルの西麓に沿ひ、荒倉山（一九五四米）・剣ノ倉山（三一〇三六米）・三國山（一六三六米）・前白山（一五九八米）・白砂山（三一四〇米）等があり、三國山下一二四四米の山容は三國峠にて、古くより上越の交通路に利用さる。南に見る二の山脈は東南側に利根川支流の奈谷川・四萬川の源を抱く、北方には信濃川の支流魚野川・赤倉川の本源となる。

東麓は上越線後閑駅に至る。天正十年曰氏の時、曰東側山麓には神宮寺・法隆・堂ノ沢・四萬等の温泉・鷹泉等湧出し、北方新潟・群馬両県にも多数の温泉湧出す。温泉郷としては湯宮温泉・鷹泉等の温泉湧出す。温泉郷としては湯宮温泉・鷹泉等の温泉湧出す。三國山脈の山容は未だ十分知られず。谷川岳の山頂には近時東河の倉鉢ら上りしものの見られたり。

【三國山】　越後山系三國山脈の主峯。前方藤利根郡新治村と新潟縣南魚沼郡三國村とに跨る。標高一六三六米。西方登路に三國峠登路あり。山頂には多く三國峠登路より三〇〇〇米の登高なり。北東後利ノ倉（三一〇三六米）・萬太郎山（一九五四米）方面よりの尾根縦走は和名抄国書なり。

【三國峠】　三國街道の峠。登路三國山脈の主峯、三國山（一六三六米）の南西鞍部、前方藤利根郡新治村と新潟縣南魚沼郡三國村との境界峠に在す。古峠方面と新潟・長岡方面とを結ぶ重要交通路に位し、荷物は手荷車にて運搬せられたり。その後、北東方に清水峠路開通せられしも高峻なるため實用化されず、依然この峠に往來を見たり。されど信濃鉄道開通後はこの峠も水谷に流るるに至れり。いま峠上に大なる鳥居と三國峠現の社殿とあり。北側路に三國三宿とて茶屋・三宿・三宿の三路者あり、路に種種に下る。南方は法面蛇腹に下り、それより上越線後閑駅に至る。天正十年曰氏

とせしが、上杉氏の小田に此峠を開き、前田氏の時、今井の新、河野渡之助は此峠を守りたり。

【三國山】　國東山地縦谷山塊の一峯。玉藻郡父都大藤村・東野藤村佐久間川上藤村・前町多野郡上野村の境上、即ち武蔵・信濃・上野の三國上にある故に山名あり。標高一八二二米。山麓は後父古生層川より發り、東流する荒川、北流する魚沼川、西流する千曲川の水源をなす。登山は多く東麓大藤村より荒川を渡り、十文字峠登路より尾根を北に縦走して達百文字峠。

【三國村】　新潟縣魚沼郡の西南部。赤倉川の水源なる線に新町藤上野國に、西國はその支流南倉川流域を以て東野藤村西國に界す。全地の三五〇〇—三〇〇〇米巻の山岳重畳し、平地なる部と見る。赤倉川は東南部の三國山中に源し、西部の清水山麓の一支を合して北流す。流域に山岳迫り流谷深く、西部谷峰山麓の麓谷には温泉湧出す。三國街道は東南部三國峠を越え上州より来り所谷を北走す。この峠は三國峠の下に出で、赤倉川の源に沿ひ、三宿と称する茶屋を経て、三宿・三宿・三宿の三路者あり、路に種種に下る。南方は法面蛇腹に下り、それより上越線後閑駅に至る。天正十年曰氏の時、曰東側山麓には神宮寺・法隆・堂ノ沢・四萬等の温泉・鷹泉等湧出し、北方新潟・群馬両県にも多数の温泉湧出す。温泉郷としては湯宮温泉・鷹泉等の温泉湧出す。三國山脈の山容は未だ十分知られず。谷川岳の山頂には近時東河の倉鉢ら上りしものの見られたり。

【三國山】　越後山系三國山脈の主峯。前方藤利根郡新治村と新潟縣南魚沼郡三國村とに跨る。標高一六三六米。西方登路に三國峠登路あり。山頂には多く三國峠登路より三〇〇〇米の登高なり。北東後利ノ倉（三一〇三六米）・萬太郎山（一九五四米）方面よりの尾根縦走は和名抄国書なり。

【三國峠】　三國街道の峠。登路三國山脈の主峯、三國山（一六三六米）の南西鞍部、前方藤利根郡新治村と新潟縣南魚沼郡三國村との境界峠に在す。古峠方面と新潟・長岡方面とを結ぶ重要交通路に位し、荷物は手荷車にて運搬せられたり。その後、北東方に清水峠路開通せられしも高峻なるため實用化されず、依然この峠に往來を見たり。されど信濃鉄道開通後はこの峠も水谷に流るるに至れり。いま峠上に大なる鳥居と三國峠現の社殿とあり。北側路に三國三宿とて茶屋・三宿・三宿の三路者あり、路に種種に下る。南方は法面蛇腹に下り、それより上越線後閑駅に至る。天正十年曰氏の時、曰東側山麓には神宮寺・法隆・堂ノ沢・四萬等の温泉・鷹泉等湧出し、北方新潟・群馬両県にも多数の温泉湧出す。温泉郷としては湯宮温泉・鷹泉等の温泉湧出す。三國山脈の山容は未だ十分知られず。谷川岳の山頂には近時東河の倉鉢ら上りしものの見られたり。

【三國山】　群馬・新潟・長野の三國縁に位する山にて、谷山脈西麓岩谷村村・東北は真田村・東は北佐村・南は本村に接し、西は北佐村に接し、南は本村・東北部は真田村に接し、西は北佐村に接し、南は本村に接し、西は北佐村に接し、南は本村に接し、西は北佐村に接し、南は本

て達す。社線三國蘆原電鐵にこれに並走して三國神社(昭和五年設置)・電車三國(昭和七年設置)の二驛を經て、三國港の北岸なる東琴坊に通ず。また道路は北・東・南の三方へ國道・縣道を出し、福井市との間にバスの往來頗繁なり。三國港は古來北陸道の商港として聞え、秋田方面の木材、北海道松前よりの魚類等は皆此港に入りしため大いに榮えしが、鐵道開通によりてやや衰ふ。港は錢子口と稱し、川口の右角より長さ約五〇〇米の防波堤が突出して、その左角と相對して港口を成す。元來その口狹く、水深淺く、且つ所々に暗礁あり、碇泊に不便なりしが、明治十一年以降數年に亘りて行ひし築港工事により、港形全く一變し良泊となれり。但し冬季は海上風浪荒くして航行停止の止むなき場合あり。當港より敦賀へ五二浬、小濱へ六九浬、境へ一六九浬、新潟へ二一四浬、函館へ六三三浬、佐渡小木へ一五一浬あり。いまは内務省指定港灣にして、鐵製品(二三萬圓)・米(八萬圓)、其他合計五七萬圓を移入し、鮮魚介(五一萬圓)・石炭(四九萬圓)・木材(四〇萬圓)・砂利・薪炭・魚粕・桐實等、合計一九七萬圓を移出す(昭和九年)。港内防波堤に燈臺あり、大正十五年に雄島村に於て設置せしものにて、不動白光、光達距離一二・五浬。當町はもと坂井郡郡役所のありし地なり。いま福井區裁判所出張所・穀物檢査所・稅務署・三國電鐵會社及び縣立の中學・女學校等あり。煉雲丹・營餅・三國饅頭等を名產とし、民謠三國節は名高く、瀧谷寺の糸櫻も古來名あり。三國の遊女また古くその名を謳はれ長谷川・野風の事は近世畸人傳にその風流の事蹟を傳ふ。附近の勝地としては東琴坊・蘆原溫泉等あり。三國湊町には暦應年間知時能の據りし古城址あり。〔沿革〕 武烈天皇崩じ、群臣、應神天皇五世の孫男大迹王を三國坂中井より迎へ奉りて嗣となす。卽ち繼體天皇なり。三國坂中井とは卽ち三國町に當る。寶龜九年九月、高麗使等此地に來り、また降りて天文二十七年七月、唐船の入港せし事あり。三國とは水國の義にて男大迹皇子此地を掘切りて港となし給ふ、のち遂に三國といへり。一說に水國の義にあらずして足羽・坂井・丹生の三夕國の義なるんかと云ふ。三國國造・三國公・三國首人等のおはせし所なり。〔三國神社〕 櫻谷町に鎭座。縣社。祭神、大山咋神・男大迹天皇。社地は繼體天皇のなほ皇子にましませし時に構へられたる三國宮の址にして、もと櫻谷神社と稱す。延喜式内の古社たり。例祭、五月十九日。〔神明社〕 大字坂井に鎭座。鄕社、祭神、天照皇大神・男大迹皇子。古來附近町村八箇所の總社として崇敬せらる。本殿・拜殿・繪馬堂・神樂堂等あり。例祭、九月十六日。〔瀧谷寺〕 瀧谷にあり。新義眞言宗。永和三年の創建にして岡山は寶壺上人なり。寺寶の絹本著色地藏菩薩の畫像は國寶なり。此寺はまた糸櫻を以て著はる。〔瀧谷寺庭園〕 指定名勝。瀧谷寺の境内にして江戸中期の築造にかかり、本堂より書院に亙りて丘陵の斜面に作られ、山腹の露岩を利用して小池を穿ち古松これに臨み、躑躅等の矮樹を配し石を立て燈籠を置き、背景に椎・樅・高野槇等の巨樹を有する山水型の庭園にして頗る絕佳なり。〔勝授寺〕 眞宗本願寺派。進學山と號す。本尊は阿彌陀如來(傳聖德太子作)。明和・安永の頃、屋次回祿に遭ひて堂宇罹上せしも後年再建成る。〔性海寺〕 新義眞言宗智山派。開創は宗信。當初、坂井郡北山の麓筱谷にありて筱谷性海寺と號せしが其後現地に移る。絹本著色地藏菩薩像一幅は國寶。〔三國燒〕 越前の陶器。元祿元年、出雲の吉川六左衞門の三國町に來りて創めしもの。一旦廢窯せんとせしが、同地の札場嘉右衞門が引受け明和五年再興せし故、札場燒とも呼ばる。郡名によりて坂井燒とも稱す。

【三國線】 省線北陸線の一部。福井縣の北部にあり。北陸本線金津驛より分れて西方日本海岸の三國港驛(雄島村)に至る九・八粁。途中、金津驛にて社線永平寺鐵道、蘆原・三國兩驛にて社線三國蘆原電鐵に接續す。

【三國ヶ岳】 美濃・近江・越前の三國境に位する山にて、岐阜縣揖斐郡坂内村・滋賀縣伊香郡丹生村・福井縣南條郡堺村に跨る。標高一二六一米。圓頂峯をなし藪深し。北東稜に三周ヶ岳(一二九二米)續き、中間に夜叉ヶ池を湛へ、北西稜に上谷山(一一九七米)、南稜に土藏岳(一〇〇二米)連る。北斜面より日野川發して北流す。この地は昔佐々木秀義の乳母夜叉御前を犧にせし所と傳ふ。

【三國山】 近江・越前・若狹の三國境、滋賀縣高島郡西庄村・福井縣敦賀郡粟野村・三方郡耳村に跨る山。標高八七六米、山體花崗岩より成る。この山スキー登山に適し、また南西麓西庄村牧野にスキー場あり。北稜に野坂岳(九一四米)續き、東稜に乘鞍岳(八六六米)連り、南西稜に山路粟柄越の乘越あり。

【三國峠】 山中湖の南東方、山梨縣南都留郡中野村と神奈川縣足柄上郡三保村との境上に最高點(一一六七米)を置く峠。東方は明神峠最高點に續き、西方に德蔵峠最高點を望む。北西方麓下には山中湖の明鏡を俯瞰す。この峠附近は秋紅葉の頃ハイキングに好適す。

【三國岳】 鈴鹿山脈の一峯。美濃・伊勢・近江の三國境、岐阜縣養老郡時村・三重縣員辨郡立田村・滋賀縣犬上郡大瀧村に跨る。標高九二五米。山體秩父古生層より成る。前山は標高八一五米にして本峯の南に位す。登山は近江側は西側大瀧村大君ヶ畑より、美濃側は北側の時村時山より行はる。

【三國岳】 近江・丹波・若狹の三國境上に位する山にして、滋賀縣高島郡朽木村、京都府北桑田郡知井村、福井縣遠敷郡知三村に跨がる。標高七七六米に過ぎざれども高山性の風趣に富む。山體古生層より成る。山頂より北方日本海、南東方琵琶湖の見晴し良し。

【三國岳】 鯵鳥要塞地帶の東部、若狹・丹波・丹後の三國國境上に位する山にして、福井縣大飯郡青郷村・京都府何鹿郡奥上林村・東鯵鳥市に跨がる。山體閃綠岩より成る。

【三國岳】 近江・山城・丹波の三國境、滋賀縣高島郡朽木村・京都府愛宕郡久多村・北桑田郡知井村に跨がり峙つ。標高九五九米、山體秩父古生層より成る。南方久多川を北に廻りて登高す。東麓を大野川上流西流す。北稜に別峯三國岳(七七六米)續き、南西稜に天狗岳(九二一米)連る。

【三國山】 葛城山脈の一峯にして、葛城山の東稜五粁餘に當る。河内・和泉・紀伊の三國境上に位し、大阪府南河内郡高向村・泉北郡南横山村・和歌山縣伊都郡四郷村に跨がる。標高八八六米。南西稜部に七越峠の山路南北に通ず。北西斜面より櫃尾川發源し、北流して大阪灣に注ぎ、南斜面より四郷川源流し南流して紀ノ川に落つ。

【三國川】 攝津國(大阪府)の神崎川の一名。

【三國ヶ岳】 丹波高原の一峯。兵庫縣有馬郡小野村と多紀郡城南村との境上に位す。標高六四八米、山體は花崗岩より成る。西稜に愛宕山連る。多紀郡篠山町は北西麓に當り、西流する篠山川貫流す。

【三國岳】 國見山(奈良・三重縣境)の別名。

【三國岳】 大臺原山(奈良縣)の別名。

【三國山】 中國山脈の一峯。因幡・伯耆・美作の三國境に位し、鳥取市の南西方約二七粁に當り、鳥取縣八頭郡佐治村と東伯郡小鹿村並に岡山縣苫田郡上齋原村に跨がる。標高一二五二米、山體花崗岩より成る。中國分水山脈はこの附近にて最も北偏し、日本海岸まで約二〇粁に過ぎず。南方は岡山平野を流るる加茂川の源をなし、北方は鳥取平野を貫く智頭川一支の源をなす。

【三國山】 三國山(鳥取・島根・廣島縣境)の別稱。

【三國村】 岡山縣備前國和氣郡の東北隅。東は兵庫縣、西北は英田郡に界し、南は神根村に接す。面積四三・九七方粁。北部を五—六百米の山脈東西に走り、村内概して山岳地なるも稍南方に低くなり三百米に終る。山間所々の窪地に耕地を有するも平地に乏しく、大部分は山林に蔽はる。米・繭・木炭の產最も多く、麥・柿・蒟蒻等これに次ぐ。縣道は省線山陽本線和氣驛及び吉永驛へ通じバスの便あり。もとは今の神根村と共に神根と汎稱せり。〔八塔寺〕 僧道鏡の開創と傳へ、元暦元年、源頼朝、所願所として十三重塔を造進す。江戸時代、藩主池田氏諸堂を建營す。

【三國村】 福岡縣筑後國三井郡の北端。二日市町(筑紫郡)の東南方凡そ四粁に位し、北は筑紫郡に、西は佐賀縣三養基郡に界す。西北部が丘陵地をなす以外は低平なる平野にして東部には寶滿川が南流す。米・麥・檀、其他各種農產あり。西北約一・五粁には省線鹿兒島本線原田驛あり。この地は和名抄、御原郡日方鄕の内にして、此處は正平十四年、大原合戰の古跡と稱す。此戰は一に山隈原合戰と稱し、寶滿川・太刀洗川の原野二三里の間に起れる大戰なり、卽ち、菊池武光が少貳頼尙と戰ひし所。また村内に大保ゴルフコースあり。※大原 〔御勢大靈石神社〕 大字大保に鎭座。縣社。祭神、足仲彦天皇・八幡大神外三柱。式内社。神功皇后摂政二年創建と云ふ。例祭、十一月十五日。

【三國山】 豐後・筑後・肥後の三國境上に位し、大分縣日田郡中津江村・福岡縣八女郡矢部村・熊本縣鹿本郡内田村の三村に跨がる山。標高九九九四米、山體輝石安山岩より形成せらる。西方には國見山(一〇一八米)連峯す。

ミクニアワラ 三國蘆原電鐵

私設鐵道。福井縣吉田・坂井郡郡に亙る。社線京都電燈越前電氣線の福井口驛より分岐し東琴坊口驛(坂井郡雄島村)にて終る。全長二五・八粁。途中西長田驛(坂井郡大石村)にて社線丸岡鐵道と、蘆原驛及び電車三國驛にて省線三國線と接續す。省線と連帶運輪をなし動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

ミクニノ 御國野村

兵庫縣播磨國飾磨郡の東南部。姫路市の東方一粁餘にあり、東は印南郡に界す。北及び東には小丘陵あれど其他は地形平坦にて中央に天川が南に貫流す。米・麥類・葉煙草・蔬菜・花卉・果實・食用農產・製茶・鷄卵・蠶等を產す。道路四通八達し山陽道は南隅を過ぎ、之より一縣道が北走し中央に於て東西に走る縣道と交叉す。南境に省線山陽本線御津驛(明治三十三年設置)あり。大字國分寺はもと播磨國分寺のありし處。また墳場山古墳あり、此地は上古より文化の發達せし處とす。大字御蔭はもと中國街道の宿驛たり。名稱の起原は神功皇后還啓の際、この地に御到著ありしに因むといふも如何にや。城址あり、室町時代に赤松氏の族小寺政職の居所といふ。〔播磨國分寺址〕 指定史蹟。大字國分寺にあり。今の國分寺堂宇の南の松林中に塔址の礎石十七箇完全に遺存し、中央の心礎は中央に突起を有する形式のものなり。〔墳場山古墳〕 指定史蹟。大字國分寺字林堂にあり。低き丘陵を利用し、西北面して築かれたる前方後圓墳にして三段をなし、長軸が約一三六米、松樹鬱蒼として繁茂し、葺石及び埴輪破

片を存し、西南側には圓形の造出しが殘存す。環溝は幅廣くいま水田たり。後圓部の北隅に長持形石棺か存し、長さ約二米半の鐵掛突起を有する蒲鉾形の蓋石を露出す。附近に小古墳四基あり、第一號墳は東側にあり方形を呈す。第二號墳は後圓部の西南隅、西久保と呼ぶ所にあり長方形の封土にして、第三號墳は主墳の北なる國分寺部落の西南に接し、小字山ノ越にあり、里俗小山と呼ぶ。大形の方形墳にして葺石あり、主墳と同じ形式の長持形石棺露出す。第四號墳は第一號墳の北方に存す。この古墳を除ける他の三墳は主墳と共に指定史蹟なり。〔大年神社〕大字御蔵に鎮座。郷社。大年大神を祀る。例祭、十月九日。〔延命寺〕大字御蔵にあり。天台宗。大同年中、圓仁の開創。本尊はもと阿彌陀佛(圓仁自刻)なりしも戰國時代に兵燹により灰燼に歸せしため、寶暦年中に藥師如來像を作り本尊に代ふ。明治十八年、明治天皇、山陽道御巡幸の際御駐蹕あらせらる。

ミクニノサカナイ 三國坂中井(みくにのさかなゐ) 越前國(福井縣)の古地名。→三國町

ミクニミナト 三國港 省線三國線の一驛(大正三年設置)。福井縣坂井郡雄島村にあり。

ミクマ 三前 紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に牟婁郡三前郷あり、この地は今の新宮市の附近に當る。

ミクマ 三隈川 筑後川上流の稱。→筑後川(ちくごがわ)

ミクマヌ 三熊野 →熊野(くまの)(紀伊國)

ミクミ 美含 【美含(郡)】 但馬國(兵庫縣)の古郡名。三代實錄元慶四年に郡名初めて見ゆ。和名抄は美具美と註し佐須・竹野・香住・美含・長井・餘戸の六郷を置く。明治二十九年四月、城崎・氣多二郡と合して城崎郡を建て郡名を失ふ。

【美含】 但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に美含郡美含郷あり、三久美と訓す。その地今の城崎郡中竹野村・奥竹野村の邊に當る。

ミクモ 三雲村 滋賀縣近江國甲賀郡の西部。野洲川の左岸に沿ひ水口町の西方約二粁にあり。南境には約五—六百米の山峯連り、東南境に飯道山(六六四米)あり。北部は低平なる平野開け北境に沿ひて野洲川が西北流す。農業を主生業として全戸數の八〇%は之に從事し、半商半農は一〇%、其他一〇%の割合を示し、產物は野洲川の氾濫原を利用して作る米產最も多く十八萬圓を產す。外に菜種(一萬圓)・麥類(八千圓)・豌豆(二千五百圓)等にして二毛作なり。北部には舊東海道及び省線草津線が東南より西北に通過し、東部に後者の三雲驛(明治廿二年設置)あり。街道はバスを通ず。大字三雲は佐佐木氏の族、三雲氏の居りし處。大字平松は三河伊氏の族、平松氏の出でし處。〔三雲村美松(みまつ)自生地〕指定天然記念物。大字平松の美松山にあり。山は古生層の角岩より成る小山にして、美松は、西北面より東北面に亙る部分を除き、東南側より西南側にかけ山腹約一〇〇アールに亙りて發生し、樹高は六—一米、更に矮小なるもあり。何れも傘形をなして庭園に見る單葉松と一致し、葉針は長短一ならず。松實は概して小さく赤松の變形と考へらる。〔天保義民碑〕傳芳山上にあり、高さ一〇米、幅一米半、「天保義民之碑」の六大字を刻す。天保十三年十月、幕府勘定役市野氏來りて天領地を丈量し、苛酷甚だしく、野洲川流域の農民大擧ここに集り、三上陣屋に市野氏を襲撃す。首謀者は多く刑死せしが十萬日の日延べにて減稅の目的を達せり。この碑はその義民に對する記念として明治三十一年に建立されしもの。〔上乘寺(日雲觀音)〕大字三雲にあり。臨濟宗妙心寺派。俗に日雲觀音と稱す。佛燈國師の開創、一時衰退中絶せしが慶安元年回道再興す。寛政年中回祿に遭ひしが後に再建す。本尊、十一面觀音立像(木造)一軀は國寶。〔妙感寺〕大字三雲にあり。臨濟宗妙心寺派。雷照山と號す。延元年中、妙心寺二世授翁宗弼(萬里小路中納言藤原藤房)の開創。一時荒廢し仙峯が再興せしも永祿十一年兵燹に罹りて鳥有に歸し、寛文元年、後木尾天皇の中宮、東福門院之を再建せしめらる。

ミクラ 三倉 【三倉鑛山】 静岡縣賀茂郡朝日村にある金銀銅山。鑛區は朝日村と竹麻村とに跨がりて約四七萬坪。鑛區内には石英粗面岩廣く分布し、所々に凝灰岩の存在を見る。現在稼行中の鑛床は七夕及び三倉の二鑛にして、前者は石英粗面岩中に筒狀を呈する鞘狀鑛床、後者もまた石英粗面岩中に胚胎するものにて數條あり、何れも含金銀銅亞鉛の黑色粘土鑛なり。當鑛山は昭和十年事業を開始したるが、同年金銀銅鑛五五六瓩(價額四萬四千餘圓)を產出して一躍重要鑛山に列す。粗鑛は簡單なる手選の上、小坂鑛山に賣鑛せらるるが、當鑛山は下田港の西方約四粁の地點にして縣道にも近ければ、運搬には至便の所とす。

【三倉村】 静岡縣遠江國周智郡の南部。地形は東北より西南に長徑をもつ長方形をなし、森町を隔てて袋井・見附町間に流出する太田川の上流三倉川の流域にて東北に春野山(八八三米)・大日山(八六〇米)を主峯とする壯年期の山地連り、西部に高塚山等五百米内外の山峯あり。平地の見るべきものなく、僅に三倉川河岸に沿うて水田散在す。米・茶・薪炭・木材を產す。南部の黑田より大府川・乙丸を隔てて西北部に通ずる信州街道は主幹線にして、天龍川に沿ひ信州伊那谷に通ず。〔許禰神社〕大字便家に鎮座。郷社。祭神、伊邪那岐命・伊邪那美命。本社を以て延喜式内の許禰神社に充つる說あり。例祭、十月十三日。〔金剛院〕古義眞言宗。大日山と號す。行基の開創。海中出現の大日如來の銅像を本尊とす。屢次兵燹に罹り寺運傾きしが、元和年間に再興す。

ミクラ 御蔵島 →御蔵島村(みくらじまむら)(東京府)

ミクラシマ 御蔵島村 東京府伊豆國大島支廳御蔵島を占む。東西・南北共に直徑約五粁の島にして、中央には御山(八五一米)聳立し、四周は其傾斜地をなす。西部・東北部及び南部には御山に發して流下する細流あり。海岸は風曲殆どなき單調なる線をなせども、四周は皆斷崖をなし北に障子根、東にスバル岩、東南に元根、西南に横塚根、西に ウラン根等の巨岩が附近海上に點在す。東南部の南郷には鎗地をなす。低地乏しきも氣候温暖なれば農產物及び植物の生育よく、米・麥・粟・甘藷等を產す。人口密度は一方粁につき一八人の稀薄さなり。伊豆下田へ航路を通ず。〔稻根神社〕郷社。伊太氏和氣命を祀る。式内伊太氏和氣命神社に充つる說あり。鍵取神社とも稱せられしといふ。例祭、十一月三日。

ミクリ 美九里村 群馬縣上野國多野郡の東部。藤岡町の南隣、鬼石町の北隣にて神流川の西岸にあり。東は埼玉縣兒玉郡と對す。西南半は關東山脈一支脈の東端をなし、西南境には七四七米の山地あり。一帶に森林多し。東北半は神流川流域の平地にて畑地多く、一部水田をなす。農業行はれて米・麥を產し、桑園ありて養蠶も盛なり。縣道は東部を南北に走り、北は藤岡町、南は鬼石町に通ず。藤岡町には省線八高線群馬藤岡驛あり。この地は神風抄に「上野國、二宮、高山御厨」とある地なり。和名抄、緑野郡土師郷の地とす。中世は秩父重綱の子重遠この地に高山氏を稱す。養蠶の改良家、高山長五郎(贈從五位)は本村の人。

ミクリ 美久里ケ池 越中立山の西方爆裂火口中に生ぜし小火口湖なり。高度二四〇五米に位し、面積〇・〇一二方粁にして、湖岸線延長四一〇米。深度一四・五米にて日本中央高地の小湖中最深なり。水色は透明度三米、水温は八月末に表面が八度、底は四・五度、雪筏が浮游せるため低温なり。

ミクリヤ 御厨 【御厨村】 栃木縣下野國足利郡の南部。足利市の南方約二粁にて、西南は群馬縣山田郡と隣す。關東平野西北隅の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主產し、また麥・繭を產す。足利市に近く絹織物の製造盛なり。主要集落は町の中央に發達し、これより縣道四方に通じ、北は足利市、東は安蘇郡佐野町、西は群馬縣新田郡太田町、東南は同邑樂郡館林町に通ず。社線東武鐵道伊勢崎線は町の中央を北走し福居驛(明治四十年設置)・東武和泉驛(昭和十年設置)を置く。この地は和名抄、梁田郡大宅郷の地なるべく、古の葉田御厨の領内なれば御厨の名生ぜしなり。

【御厨村】 長野縣信濃國更級郡の東北部。千曲川と犀川の合流點たる川中島の一部に當る。篠井驛の北東約二粁。東は稻里村・東福寺村、西は中津村・川中島村に接す。共に犀川の善光寺平に注入する扇狀地を形成す。村はその扇狀地の中央を占め耕地率ぼ極めて高く、人口密度もまた長野縣下に於ける高位にあり。桑蠶と米麥作以外に近年、長野市・篠ノ井・松代町への近郊農村的色彩あり。村に戸部・上戸部・上布施の部落あり。布施御厨は昔は御室御領田なりと言はれ此名あり。弘化四年信州地震出役屆書に「布施高田村家數百五十、地震にて拾軒も潰候處、水押にて四五尺位水つき、大半痛家に相成候、西山手五明へ出、七八丁も行候處巾六七間位の用水路有之、地震にて左右高五六尺位の汐丸穂曳めりこみ、川床高く相成り云々」とは須坂松代構造線たる善光寺平東緣部の活動を意味し、水災の事實なも物語るものなり。

【御厨】 静岡縣駿東郡にありし村。大正五年に廢されて御殿場町(ごてんばまち)と改む。

【御厨村】 静岡縣遠江國磐田郡の南部。見付・中泉町の東にして、北に田原村、東に西淺羽村、南に南御厨村、西に西貝村あり。村域の西北部は磐田原の臺地末端にして畑地多し。東部・南部は太田川の沖積平野にして水田多し。茶・西瓜・絲瓜などを產す。往時、御厨庄に屬し、大字鎌田は鎌御厨と稱せり。〔鎌田神明宮〕大字鎌田に鎮座。縣社。祭神、豐受皇大神・少彦名神。伊勢神宮の御厨にして白鳳二年、豐受大神伊勢より渡り給ふと傳ふ。德川氏は朱印百石を寄進す。例祭、十月十五・十六日。〔醫王寺〕大字鎌田にあり。行基菩薩の開創にて、本尊藥師如來を安置す。本堂・御影堂・寶藏等十有餘の堂宇あり。毎年二月六日—八日まで法會を營む。

【御厨】 愛知縣愛知郡にありし村。明治廿九年他の二箇村と共に廢し荒子村を置く。大正十年荒子村は名古屋市に入る。

【御厨村】 長崎縣肥前國北松浦郡の北部。北松浦半島の北端近く玄海灘に沿ふ。玄武岩質熔岩廣く分布し、南方山地の大岳・二ツ岳・石森山・白岳等の丘陵性山地は玄武岩質迸入岩より成る。この玄武岩地帶を略ぼ南北に流るる川の流域には樹枝狀の沖積層の谷地ありて重要なる農耕地帶をなす。北部は星鹿半島の基部をなし、その東岸に本村の主邑御厨あり。御厨以南の海岸には第三紀夾炭層が南北に分布す。またその南方の村内にも局部的に夾炭層あり、現在採炭中の御厨炭坑は同層中より採炭するものなり。生業は石炭のほか半農半漁なり。本村は玄海灘方面に於ける北松浦半島の名邑の一にして、南北に海岸に並行して立地す。省線伊萬里

線の肥前御厨驛（昭和十年設置）あり、また沿岸汽船の寄港地として交通は至便なり。北松浦半島より平戸・五島に至る一帶の地は古來九州島に於ける牛牧の地として知らる。延喜式肥前國櫻野牧あり、櫻野は本村の舊名宇野御厨の宇野にあらずやとの說あり。國牛十圖に「御厨牛、以肥前國宇野御厨貢牛、稱之」とあり。御厨の地名沿革明ならざるも、或は伊勢皇大神宮に御贄を供ふる屋舍、後には御厨のありし地ならんか。中世は宇野御厨莊の地。松浦黨鳥代文書の中に「松浦山代彌三郎弘申、肥前國宇野御厨內山代、多久島、青島、船木、荒古田、東島、五島、惣追捕使（下略）、建武四年五月廿八日云々」とあり。以て當時莊內の領域を知るべし。また海東諸國記には三栗野、太平記・松浦古來略傳記には何れも三栗屋と書き、海路記には松浦の三栗屋の條に「常に舟がかりする處を美來屋の星賀といふばなの山を竹崎山といふ。又城山といふ古城あり、永祿の末天文の頃まで美來屋といふ者居城したる由なり云々」。之に據れば當、星鹿は御厨の領域たりしものと見ゆ。また武備志には迷古里とあり、これは屋の字を省略したるものなりといふ。

ミクリヤ　御來屋町　鳥取縣伯耆國西伯郡の東北海岸に位して、美保灣の東岸、南は名和村に、東は光德村に、西は庄內村に接す。面積〇・七九方粁。海岸に沿うて東西に長き小長方形の地形をなし、地勢平坦肥沃、耕地よく拓け、人口密なり。米・麥・繭及び清酒・醬油・味噌・蒟蒻・パン等の製造最も盛にて鹽・鯛等の漁獲もあり。山陰街道は海岸を走り、聚落數多これに沿ふ。また省線山陰本線貫通し御來屋驛（明治卅五年設置）は隣村光德村の地籍にあり。明治三十二年町制を布く。神風抄に伯耆國久永御厨といふは此地なりといふ。ここは後醍醐天皇隱岐より御着船の處にしていま「元弘帝着船處」と題する碑あり、安政五年落命により建つる所といふ。その裏手の海中に御腰掛岩あり、干潮の時は陸續きとなる。（住吉神社）大字宮前町に鎭座。鄕社。祭神、底筒之男命・息長足姬命外二柱。舊稱、稱津大明神。寶永六年、宗源宣旨を以て正一位を授けらる。元弘年中後醍醐天皇當國に御潛幸の時、當社に奉幣ぜらる。例祭、十月十九日。

ミクワ　三桑（みくは）　【三桑】　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に大野郡三桑鄕あり、その地今詳ならざるも揖斐郡谷汲村・長滝村の邊か。

【三桑】　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄に不破郡三桑鄕あり、その地今の不破郡今須村の邊に當る。

ミケ　三毛　→三池郡（福岡縣）

ミケカド　三毛門村　福岡縣豐前國築上郡の東部。北は周防灘に臨み、西は八屋町に接し、東は東吉富村を挾みて中津市あり。全村地形低平にて一望沃野開けたり。米・麥等を產し、水產もあり。北部を日向街道及び省線日豐本線が通過し字ノ島驛（西方約二粁）及び中津驛（東南約三粁）へバスの便あり。この地は和名抄、上毛郡上身鄕の地か。（香川神社）大字香川に鎭座。鄕社。祭神、別雷命・伊弉諾命外七柱。舊稱、加茂大明神。例祭、八月十五日。

ミゴーチ　三河內村（みがうち）　京都府丹後國與謝郡の西南部。宮津灣の南西方。宮津灣より南西に岩瀧町・加悅町方面に向ふ低地帶の一部分に當り、加悅谷と稱する陷沒地帶の中央を占む。村の中央を南北に貫通する主要街道の西部は丘陵性山地、その東部は耕地なり。本村は謂ゆる加悅谷八箇村の一にして、丹後館編の主要機業地なり。京都府立工業學校の分教場此地にあり、主に村內機織工の指導をなす。また村の東半耕地は加悅谷盆地の一部分に當り、野田川之を流し農耕行はれ米を產す。聚落は主街道に沿ふ一の街村にして、村の中央以南約八—九百米の間連續し、南方加悅町と一續きの街村を形成す。本村に式內倭文神社あり、また附近より銅鐸の發見せらるるあり、この地開發の古きを知る。和名抄の山田鄕の故地ならん。

ミコト　美古登村（みこと）　廣島縣備後國比婆郡の東部。西城町の西北に接し、西は比和町、北は八鉢村に界す。面積九五・七二方粁。高燥なる山岳地を占め、村內の地勢頗る廣大高峻なり。西部・北部の諸山は何れも海拔一二五〇米內外に達し森林に蔽ほるるも、地勢はやや東南方に傾きたり。東南部の低地に耕作行はれ、米・麥・繭・牛・木炭・用材・清酒等を產す。村民概れ東南部の耕地附近に聚る。省線備後驛・備後落合驛（共に昭和十年設置）あり。大字熊野の美古登山の中腹に熊野神社あり、伊弉冉尊を祀る。一說に此處は同尊の神陵にして古の比婆山なりといふ。

ミコメ　美米　愛知縣三河國八名郡にありし村。明治二十五年廢されて大字多米・三輪は各獨立せしが、更に同三十九年、多米・三輪は他の三箇村と共に廢し石巻村（いしまき）を置く。

ミコモト　神子元島　伊豆半島の南方にある岩礁島にして下田港（賀茂郡）より約九粁。突兀たる岩上に白色圓筒狀の石造燈臺聳ゆ。不動白光、光達距離一九・七海里。濱の女入塚には漁夫夫婦の哀話を傳ふ。

ミサ　三佐村　大分縣豐後國大分郡の東北端。大野川の河口左岸に位して別府灣に臨み、その分流乙津川河口との間に挾まれ鶴崎町の北に接す。大野川對岸は北海部郡なり。全村沖積地にして地形平坦なり。大野川は東境を北流し西境には一分流の乙津川が北流す。大野川と乙津川とより分れて流れ來る一支は本村南部にて相合し中央を北流す。水利の便よく水田多くして米產豐富なり。水產もあり。主邑は西南部の乙津川とその分流との岐るる地點にして兩川に挾まれて發達す。省線日豐本線の鶴崎驛は南方約一粁にあり。（野坂社）大字三佐に鎭座。鄕社。祭神、遠玉男神・伊弉冉命外四柱。もと岡藩より藩費にて社殿を修理し、安永七年以降毎年九石を寄せたり。例祭、一月十九日。

ミサオ　三權（みさ）　岡山縣上道郡にありし村。明治三十二年岡山市に編入す。

ミサカ　三坂　【三坂村】　靜岡縣伊豆國賀茂郡の南西海岸。西に三濱村、北に南上村、東に南中村・南崎村あり、西南は遠江灘に面す。村は北部と南部に分れ、北部は山村にて鹿木林多く、南部海岸地方は溫暖なり。野菜の促成栽培・蒲鉾の早繭等にて有名なり。中木・入間等は定置漁業行はる。この地は和名抄、賀茂郡賀茂鄕の內なるべし。本村の海岸は伊豆西南海岸として指定名勝たり。※松崎村

【三坂】　備後國（廣島縣）の古地名。和名抄に神石郡三坂鄕あり、その地今の神石郡新坂村の邊に當る。

【三坂】　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄に穗浪郡三坂鄕あり、美佐加と訓ず。その地今の嘉穗郡上穗波村・大分村の邊に當る。

ミサカ　三阪村　福島縣磐城國石城郡の西北部。平市の西北方約二一粁。西北は田村郡、西は石川郡に各隣接す。面積七〇・一六方粁。阿武隈山地に屬し、西南境に芝山（八一九米）、南境に鹽見山（七二一米）聳え、土地概して高原狀を呈し、夏井川の一支流西境に發源して村の北部を東流し、河谷拓く。米・繭・木炭を產す。道路は西部を東南より西北に通ず。人口密度は一方粁につき四二人。新編會津風土記には、三坂越前守は天正年中、岩城常隆に仕へしが、のち退散し、子孫、會津松平氏に仕ふ云々と見ゆ。三坂氏は此地に在名を稱せしものか。

ミサカ　御坂　【御坂】　武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄に横見郡御坂鄕あり、美佐加と訓ず。その地今の大里郡吉見村・比企郡大岡村の邊に當る。

【御坂山脈】　山梨縣甲府盆地の南緣を形成し、富士火山體の間に挾り東西の方向に連る山地をいふ。その東端は桂川の上流を以て丹澤山塊に接し、東北はほぼ中央線によりて界され、關東山地の西南端大菩薩山地に接續す。その西端は走向を轉じて南方に走り、富士川と富士火山體の間に南北に走る天主山脈に連絡す。東西の長さ約四〇粁、南北の幅約一二粁。東八代・西八代・南都留・北都留の四郡に跨がる。この山地を構成する主なる岩石は御坂層と稱する第三紀中新統の海底火山噴出物を主とする凝灰質岩石なり。その標式的の發達は御坂峠附近に認め得られ、御坂層の名もここより發生す。この地層を貫きて石英閃綠岩及び安山岩類の岩脈が噴出し、屢々地殼運動を被りてその構造は攪亂されたり。山地北緣の甲府盆地に面する斜面は東北東—西南西に走る一大斷層崖にて、詳細に觀察すれば階段斷層狀を呈して小雁行斷層を認め、斷層崖を浸蝕する金川・御手洗川・淺川及び其他の河川は山麓に縁めて美しき扇狀地を發達せしむ。その南緣の富士火山體櫛野との界もまた明瞭ならざるも、ほぼ東西の一構造線にて、その東邊桂川に面する部分は多くの斷層線によりて階段上に低下す。富士火山の噴出物は御坂南麓を蔽ひ、櫛合に西より本栖・精進・西・河口の四箇の湖水を生ず。山地內部は一般に一五〇〇—一七〇〇米の高原狀をなし、その山頂面は蒲鉾形を呈す。東端には鶴ヶ鳥屋（一三七五米）・三ツ峠（一七八五米）の高峯あり、河口湖の北に聳ゆる黑岳（一七九二米）より西方は、東西に流るる鹿川の深き河谷によりて並走する二列の山脈に岐れ、北側には釋迦ヶ岳・鐵戸山（一二二一米）あり、南側はやや高くして節刀ヶ嶽（一七三六米）・王嶽（一六二三米）・蛾ヶ岳（一二八〇米）の高峯東西に連る。黑岳の東方一五二五米の鞍部は御坂峠にて、甲府盆地東部の石和・黑駒より南方吉田・籠坂峠を經て海岸地方に出づる古代よりの交通路、鎌倉街道、今の沼津街道通字。なほ甲府より左右口を經て精進に出づる女坂の交通路は、甲駿中道往還として、南方大宮を經て海岸に出づ。山地內部は開析進みて聚落の發達惡し。林業と養蠶とがその主なる生業なり。

【御坂峠】　御坂山脈を乘越す交通路の一。最高點は甲府市の南西方約二〇粁。山梨縣南都留郡河口村と東八代郡黑駒村との境に跨り、標高一五二五米。沼津往還これにかかり、登り一里半、降り一里半、俗に三坂三里と云はれ、中央線開通以前は甲府盆地と東海道方面とを連絡する最も重要なる交通路なりき。鐵道開通後は全く寂れしが、道を改修し、トラック・乘合自動車通ずるに至る。山頂より南方富士山の眺望は良く、富士見景の一として名高く、その全容を仰ぎ、脚下なる河口湖に映る姿も美し。峠名は景行天皇の御宇、日本武尊、足柄よりこの坂を越えて甲斐國に入り給へるに因ると云ふ。天正十年には德川・北條の二氏ここに對戰す。なほこの坂の附近は御坂層より成り、地質學上注目せらる。

ミサカ　神坂村　長野縣信濃國西筑摩郡の南端。木曾川支流の落合川の谷は本村に源發す。木曾谷の名邑中津町（岐阜縣惠那郡）は西南方約四粁なり。木曾山脈の西側の山腹にあり。東境には神坂山（一六八四米）・惠那山（二一九〇米）等がそびえ、兩山の鞍部は神坂峠（一五九五米）にして伊那谷に通じ、阿知川を下

りて三州街道と下伊那郡會地村藍塚にて合し、北方飯田町に通ず。神坂峠はまた神御坂といふ。恵那山神社の下を過るによるか。この古道は中世以降廢したるにより經由の跡毒ならず、飯田町より妻籠に至る大平街道を指すとの說もあり。神御坂の事は既に和銅年間にも見らるる主要街道にして、木曾谷は村里・驛亭少き故に、御坂峠より伊那に通ずる交通路が選ばれしならんと云はる。南北朝分裂の爭亂頃よりこの古路は廢れて木曾路をのみ大道とし、木曾の妻籠より清内路峠を越す伊那路利用せらる。東境の神坂山には富士見臺と稱する高度一六〇〇米内外の山頂に平坦臺地あり。木曾山脈中の最高處に生成せる準平原な思はしむ。本村は謂ゆる木曾林の一部ななし湯舟澤御料林あり。木村輪送用の湯舟澤林用鐵道は中央本線落合川驛（岐阜縣恵那郡落合村）より落合川の溪谷に沿ひ本村の湯舟澤に達す。湯舟澤より西部にては急變が見らる。中津町の東南方木曾谷の東境をなす斷層線が湯舟澤部落より西南に急崖を以て明瞭に見らる。卽ち青木曾岳（一六七七米）・男埜山（一三四八米）・前山（一八五一米）・保古山（九六九米）が上記の斷層線による木曾山脈の前山をなし、村はその一部に當る。耕地及び集落はその斷層崖下並に落合川の溪谷に沿ふ。生業としては僅に米麥作及び養蠶を行ふも林業による生活を主體とす。

ミサキ　岬

【岬村】福岡縣筑前國宗像郡の東北端。北及び西は玄海灘に臨み、赤間町の西北五粁餘に位し、東は遠賀郡に接す。東南境に海蔵寺山あり。村内臺地あれど地形概ね平坦なり。海岸は平直なる砂濱にて西北部に鐘ノ岬が西方に突出す。米・麥・水產を出す。村内に鐵區一三萬餘坪を有する金銀山あり、休山の委なるしが昭和十年より事業を再開す。東南方の赤間町へバス通ず。此地は和名抄、宗像郡海部郷の内にして、鐘ノ岬は萬葉集第七卷に「ちはやふる金の岬を過ぎぬとも吾は忘れじ志珂の皇神」とある地、また織風土記によれば、鐘ノ岬の町は昔はなくて、津日の浦として上入村（いま岬村の大字）の西に民家ありしのみ、黑田家入國しての後、津日浦の民家を今の地に移され、鐘崎町となす、延喜式に津日驛二十二疋とあるは此地なりと。〔織幡神社〕大字鐘崎の佐屋形山に鎭座。縣社。祭神、武内宿禰・志賀大神外六柱。式内名神大社。展中天皇の御宇の創建と云ふ。宗像神社の攝社なり。例祭四月十六日。佐屋形山はその形屋形に似るを以てこの名あり。和歌の名所。夫木・月「夜舟こぐせとの潮干をよそに見て月にそこゆるさやかたの山　中務卿御子」

【岬村】大分縣西國東郡にありし村。大正八年香々地町と改稱。

ミサキ　三前　下總國（千葉縣）の古地名。和名抄に海上郡三前郷あり、その地今の銚子市に當る。

ミサキ　三崎

【三崎町】神奈川縣相模國三浦郡の南端。三浦半島先端の漁港。半島の南端は三〇米内外の海崖を造りて海に面し、前面には東西に長き城ヶ島を横たへて大洋の波を防ぐ。その間幅數町の三崎瀨戸に臨みて、狹き海蝕崖下の臺地上に三崎の漁港集落が發達す。三崎に達する陸路として半島の東岸、横須賀・浦賀・下浦を廻るものと、西岸逗子・葉山・長井・初聲を經るものと二つあり。共に乘合自動車を通じ道路よし。三浦三崎といへば古く鎌倉・北條時代より武士・公達の清遊の地として榮えし所にて、今もその遺跡が少からず。源頼朝の家臣が酒宴を開き、侍女・白拍子等を舞はせたりといふ歌舞島は今は陸續きにて町の西方にあり、頼朝の別墅を構へし桃の御所・櫻の御所・椿の御所は各後背丘陵の景勝の地を占め、今はこの地に見桃寺・本瑞寺・大椿寺が建てられ、僅にその昔を偲ぶことを得。近年京濱地方人士の此地の風光を賞し、遊覽に、また海水浴に來遊する客次第に多く、再び活潑なる行樂地的色彩を帶び來れり。されどそれにも増して有名なるは漁港三崎なり。前面には相模灘、外房一帶の我國屈指の大漁場を控へ、後背には需要限りなき京濱の大市場を有して、地理的位置に惠まれ、且つ港は天惠的なる上に大正十一年以來港内浚渫並に防波堤構築の第一期修築工事を完成し、漁港並に避難港としての設備を整へたり。次いで昭和五年には三崎町營魚市場が建設され著しき繁榮を示すに及び、更に昭和八年度より國庫の補助と縣並に地元分擔金により第二期修築工事に著手するに至れり。三崎は鮪延縄・鰹漁等の遠洋漁船の根據地としてその名は全國的に知られ冬季の鮪、夏季の鰹の漁期には、各縣の漁船の廻航し來るもの逐年增加し、昭和七年度に於ける入港漁船數は四〇、五五八艘に達し、市場取扱水揚高は四百萬圓を超過す。町は崖下の狹隘なる臺地上に密集す。三崎港は北方より來る三崎街道の終點にて、海岸埋立地に三崎魚市場・水難救濟會・警察署等あり。東方は北條入江にして、向崎には水產試驗所分場・無線電信所あり。三崎瀨戸の東口は通り矢の鼻、西は歌舞島と酔女ヶ濱、歌舞島の北側は二町谷の海水浴場なり。〔諸磯の隆起海岸〕指定天然記念物。渓谷に臨める第三紀凝灰質砂岩の絶壁にして、往古の汀線を示せる穿孔具の穿てる穴の遺跡あり、四段を成す。第一段は大正大地震以前の汀線、第二段は元祿十六年大地震、第三段は弘仁九年大地震直前の汀線なる事は口碑及び岩壁に働く風化作用の遠度計算により知るを得べし。隆起海岸は稀ならざるも明かに古代地震に依る隆起を推定し得るものは類例甚だ稀なり。〔城ヶ島〕町の前面二〇〇米の距離に浮ぶ小島。傾斜褶曲せる第三期三浦層の主として凝灰質岩石より構成され、その表面は三・四米の高度を有する平坦面にして、上部にはローム質の堆積物を載せ、東西に約二粁の狹長なる一間析臺地を形成す。島の南方は大津に面して著しき海蝕作用を受け、岩石析立するに反し、北方三崎港に面する所は多少の砂濱を形成し百餘戸の漁家あり。昔時この島に城塞ありしため島名生ずといひ、また古は尉ヶ島と書きしを今の字に改む等の說ありて明かならず。但し永正十五年に三浦道寸が新井城に亡びし時、その家臣この地に逃れ、弘治二年三月、里見義弘、北條氏を襲はんとして安房よりここに陣を進め、また永祿八年、北條氏康この島の櫻を賞せし事等史に見ゆ。近世は江戸灣の入口にあるを以て夙に重要視され、文化五年浦賀奉行は島の東端安房崎に砲臺を築き、同八年會津藩主松平容衆更に修築し、のち川越・產根の二藩專らこれが警備に當る。また近海に暗礁多く航海危險なるを以て、幕府は延寶六年島の西端長鳥崎に燈明臺を設け、篝火を焚きて江戸入津の船舶に便せり。明治三年建設され燈臺は倒潰せしも今は全く復興し、四萬燭光の光は二五粁の沖合より望み得。本島は東京灣口を扼せる軍事上重要なる位置にある故、砲臺の備厳しく、燈臺の附近一部を除きては立入を許さず。三崎港との間には渡船の便あり、また本島を一周する遊覽船も出で油壺に連絡す。

【三崎村】石川縣能登國珠洲郡の東北部。能登半島の東北端に位し、東及び南は日本海に臨む。西北隅に約二〇〇米の山地ありて東及び東南方へ傾斜し、中部及び南部は臺地狀をなし、河川は凡て東南流し沿岸に低地發達す。中央には一湖沼あり。海岸は屈曲乏しきも北部に金剛崎・遭崎あり。東南部には長手崎あり。米・麥・蕎・薪炭・水產等の產あり。海岸に道路通じて飯田町へ自動車を通ず。本村は明治四十一年鉢崎村を合し、更に三崎村を置く。大字雲津の海濱を雲津浦といふ。堀川後百首に「久毛津よりすぐゐぐりするこし舟の沖こぎさかるほのほのに見ゆ」とあるは此處か。〔須須神社〕縣社。高倉宮・金分宮の二殿より成る。高倉宮、祭神、天津日子穗瓊々杵尊。相殿神、美穗須々見命。金分宮、祭神、木花開耶姫命。式内社。例祭九月十四日。

【三崎牛島】→莊内村（香川縣三豊郡）

【三崎村】愛媛縣伊豫國西宇和郡の西部。佐田岬の西端に位し、東は神松名村に界し他は海に面す。西端佐田岬は遠殿ノ瀨戸を隔てて大分縣佐賀關と相對す。東北には伽藍山その他が聳え、その山脚東北より西南に伸び、二條に分れて南の三崎灘に面す。陸上は丘陵地をなし米・蕎・麥を產し、また海岸は屈曲に富み水產業盛なり。鰯・鯵・鯖等の漁獲多く罐詰の產多し。村には天然記念物として名高きあこう樹あり。三崎港は良港をなし大阪航路・九州航路の汽船寄航し附近交通の要衝に當る。また對岸佐賀關へ海底電線敷設さる。陸上交通は偖り便ならず。〔寶藥鑛山〕三崎村内に鑛區十五萬餘坪を有する銅山。準重要鑛山にして昭和十年には含銅硫化鐵鑛八一七瓲（價額二萬六千餘圓）を出し、同年六月末の鑛夫數は一九人とす。〔三崎村あこう樹〕指定天然記念物。三崎村西端の海岸に六株あり、四株は海に臨み累積せる岩石の間に根を下し、何れも大木にて、大なるものは周約三米にも及ぶ。氣根は垂れて或は岩を被ひ、或は石を抱く。二株はこれ等と約一〇〇米離れ、今は畑地をなす海岸の傾斜地にありて、共に發育前樹に劣らず。我國に於ける特殊なる熱帶性樹木の北限地に自生せるものなりと云ふ。〔八幡神社〕大字三崎浦に鎭座。郷社。祭神、品陀和氣命・多紀理姫命外三柱。貞觀三年の創祀と傳へ、もと三崎全浦の氏神たり。例祭、十月二十六日。

【三崎村】高知縣土佐國幡多郡の南端。清水町の西に接し、北は伊豆田・三原二村に、西は下川口村に界し、南は太平洋に面す。面積五八・一八方粁。北部には今ノ山をはじめ高距八〇〇米餘の山岳聳立し、西北より東南に數條の山脈併走して南に傾斜し、益野川・三崎川は各々從谷を流れて太平洋に注ぐ。下游の流域には沖積平地ありて耕作行はる。海岸は沈降性の海岸をなし屈曲多し。中央に千尋岬は南方海中に突入し、また幾多の島嶼散在す。千尋岬の西の海濱には名高き龍串の奇勝あり。海岸は白砂にて、一帶には紅黃五色の櫻貝・桃色珊瑚の碎片散布して美觀を呈す。山麓は牛の牧畜盛に行はれ、平地よりは米・麥・蕎等の產あり。三崎川口の三崎は漁港をなし。鰯・鯖・鰹・鯛・鮪・鰯等の漁獲多し。土佐沿岸汽船寄港す。海岸に沿ひて縣道東西に走りバス通ず。〔龍串〕第三紀層の軟層が外海の海蝕を受けて奇形を呈せるもの。屏風山より面向不背山間約二粁に三十六景・四十八景等の美觀あり。その西方海上には鰹・烏賊・鰯の漁船及び土佐珊瑚採取船の碇泊地たる柏島あり。〔見殘し〕龍串の東方に突出する千尋岬の西岸にあり、龍串より海上二粁。龍串と同じ成因により相似の奇景をなし景勝なるが、交通不便のために探勝者少く、龍串のみ見て歸る人多き故、見殘しの名を以て呼ばる。〔八幡宮〕大字三崎に鎭座。郷社。祭神、譽田別命。例祭、五月二十九日・九月十五日。

ミサキ　御崎　北海道室蘭市の町。省線室蘭本線の御崎驛（明治三十六年設置）を設く。

ミサキ　勝碕　書紀、安閑天皇の二年紀に見ゆる古地名なり。卽ち豐國勝碕屯

南宅に走り、また十井川にはプロペラ船の帰屋もあれども、底石交通不便にて殆に西都に於て非だし。

【三原村】 高知縣土佐國吉岡郡の南部。

高知市の東南方約五粁餘に在り、北は五百蔵山村の一部、東は稲生・十市二村に界し、西は浦戸湾に、南は土佐湾に臨む。中部以北は十一〇一一五〇米の丘陵起伏して所々に低地あり。南部には西南方に牛島鼻の砂嘴突出して浦戸湾の閘門を塞し、て真宮明神の鎮なるなり。平地には耕地折て米・麻を産し、また蔬菜類なるため米の二毛作をなすと共に産業組合に行はれ、初瓜・茄子・南瓜・茶豆・西瓜等の野菜、柿・梨・桃・栗・柘榴等の果實を産出す。特に本村の柿は土佐名物として名高し。漁業も行はれ鯛・鯖等の漁獲少からず。鹽浦港より高知市に至る。また高知市農人の發達して上三原浦・新荒瀬の集あり。此地は町名非常の間部落の内なるべし。大字柳崎には鹽崎・千松谷岡あり、一帯の沙洲は松原にて、西南方桂浦に對し、風光勝れ、夏季は浴者多く賑はし。

【三原村】 高知縣土佐國吉岡郡の南部。

高知市の東南方約五粁餘に在り、北は五百蔵山村の一部、東は稲生・十市二村に界し、西は浦戸湾に、南は土佐湾に臨む。中部以北は十一〇一一五〇米の丘陵起伏して所々に低地あり。南部には西南方に牛島鼻を突出して浦戸湾の閘門を塞し、後方に記念碑を建つ。〔仁井田勝

【三原村】 高知縣土佐國吉岡郡の南部。

高知市の東南方約三粁餘に在り、北は稲生・十市二村に界し、東は五百蔵山村に、西

わ　三澤

【三澤村】　青森縣南部郡東國上北郡の東部。川内百石町の北に聳り、東は天平洋、西は小三澤村に接し、南は東北本線を以て西部を俗に「三澤」と呼ぶ。面積一一四・一八方粁。

【三澤村】　山形縣東村山郡西部の中部。東南は西村に聳り、西南及び南は鶴岡に接す。面積一四六・九四方粁。西部は鳥海山（一一九七米）・鉢峰（一五四一米）・西俣に高倉山（一一二七米）等え、西・南・東の三線には山嶺連りて、北方に鶴岡市に接し、全村殆ど山嶺をなす。小鳥川は西南線に發し西部を貫き北流し、大鳥川と鶴木川は東部を北流す。沿岸に詩歌川が流れ、山嶺には木炭の産多し。流路に小鳥川に沿ひて西部を貫流し、東南北に流れ、東南は東線西北に流れ、東南は東線西北に流れ、東南は東線西

川伊賀三島郡（大正六年設置）を置く。また上川之江・今治市に定期船を出し、東北方に上分町へ、藤江を渡と バスの便あり。面積は狭小にして約二万粁。人口は明和十年に八千七百四人を算しその間漸々増加し、大正六年の調査は一万二千二百人を算す。明治三十一年市況簡なる沿革なり。明治三十一年町制施行の創を布く。三島町曾我・河野・高橋の諸自たりしも本山藩・上兼藩・下兼藩等。明奈、十月四日。

【三島村】 愛媛縣伊予國宇和郡の東部。東は日村に、西は愛治村に、南は泉・吉野生三村に界し、北は東宇和郡に接続す。面積四九・二一六方粁。北には鈴生所山で南方に山間を の山岳連八百一九百米の山岳連立し前で南方に山間を の山岳連立し 北は東宇和郡に接続す。南部には日高山脈西に連立して北に山間を の間に絶谷様は り て資見川西流し流域に耕地を拓く。米・麦・蕎・雑穀の産多く、特産として椎茸を出す。山地の産物に森林良く製茶も し木材・木炭を走す。面積は昔日高藩領 定見川北岸に寄行して藩道走り西南方を 走る名郷宇和島線 バスを通ず。〔三島村誌〕 大字久保に郵便局あり。郵便配送 村制施行 大字久保十七番地に置く。郵便局三等 郵便局 大正元年十月一日 村制施行 大字久保に郵便局を置み 村制施行 大字久保に郵便局を置み 村制施行 大字久保に郵便局を置み

郡の中部。熊谷市の西方約四粁にて、深谷町の東南方約三粁。關東平野西北の一部を占め、南方を荒川東流し、南部には水田多く他は畑地にて所々林を交ふ。昔は茶畑多かりしも、現今は桑園多く、養蠶を主業とし、繭の產額大なり。その他農業行はれて米・麥等の產多く、最近は蔬菜栽培に力を入れ、それによる移入多し。縣道は深谷町及び東北隣の玉井村に通じ玉井村にて中山道に合す。同村に省線高崎線鶴原驛を置く。また南は南隣大麻生村に通じ、同村に社線秩父鐵道大麻生驛を置く。この地は近世、原之郷玉井庄に屬す。東鐵、承久三年六月の條に見ゆる板尻小次郎は、此地より出でし人なるべし。村内に熊谷陸軍飛行學校あり、昭和十二年十二月同校内に東京陸軍飛行學校を設置す。

ミス　三栖村　和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西北部。田邊町の東方一粁餘にありて會津川に跨る。東・西兩部には略々東北より西南に丘陵逆瓦し、西境に衣笠山（二三四米）あり。會津川の一支流は中央を西南に貫流し流域には耕地相當に拓かれたり。米・繭・柑橘の類を多く產し殊に蜜柑は郡内第一にて甘味は有田產のもの及凌駕す。道路は熊野街道中邊路が河岸を走り、南部にて之より東南走し朝來街道に連絡するものあり。田邊町にパスを通ず。昔、西行法師この地を通りし時「待ちきつる八上のさくら咲きにけり霞くおろすな三栖の山風」と詠みしといふ。（三栖川廢寺塔址）指定史蹟。三栖川に臨める臺地上にあり。大形の礎石を遺存し、奈良時代の樣式を存するものにして附近よりは古瓦・石造相輪の殘缺等を出土せり。

ミス　三須村　岡山縣備中國都窪郡の北端。西は常盤村、東は加茂村を隔てゝ倉敷市に對し、南は山手村に接し、北は吉備郡總社町に接す。面積五・九七平方粁。岡山平野の西北部に屬し、村内の地勢極めて平坦肥沃、耕作盛んなり。米の產額多く、麥・繭・蔺・菊衞及び酒を產す。倉敷市に縣道通じバスの便あり。この地は備中國分寺及び國分尼寺のありし處。大字赤濱は僧雪舟の生れし地といふ。（備中國分尼寺址）指定史蹟。大字上林の法蓮と呼ぶ地にあり、山手村の地域にも亙る。遺址のうち圓形造出ある礎石が長方形をなすは金堂址、この他に講堂址・門址と思はるる礎石が存す。なほ僧寺址は尼寺址の西方にあり現在國分寺の堂宇あり、一二の礎石を殘すに過ぎず。この兩寺址の中間には編編塚と呼ぶ前方後圓墳ありて、石室あり、内部に石棺を藏す。（作山古墳）指定史蹟。作山にあり。田間に横はる大形前方後圓墳。規模は加茂村の造山古墳に次ぎ、長擬約三一八米、高さ前方部鉦に後圓部共に二二米ありて三段に築成され、中・下段は埴輪圓筒を繞らし、湟池は埋まりて遺址を留め、その外側に土壘址を遺存し、東側に近く小圓墳を附屬せしむ。（國分寺）大字上林にあり。古義眞言宗。天平年中、行基の創建。もと八宗兼學の道場なりしを貞治年間、眞言宗となる。

ミス　美篠　備中國（岡山縣）の古地名。和名抄に窪屋郡美篠郷あり、その地、今の都窪郡三須村に當る。

ミズ　美豆

【美豆】　京都府綴喜郡にありし村。昭和十年、久世郡淀町に編入す。

【美豆御牧】　山城國（京都府）久世郡・綴喜郡に跨れる牧場。昔時、馬寮の御牧ありし馬放飼の地。現今木津川の兩岸に跨り、御牧村と稱する地はその東北岸に在りて久世郡、美豆は淀町に接し綴喜郡北端に在り八幡町に編入さる。源義經將基經・一「あつぱれ駿足御馬ぞう、いづれの牧より引かれしぞや、美豆の御牧か鳥飼か、信濃に桐原望月か、播磨に家鳥駿河に三穂」太平記嚴鎧・二「あら面白の牧狩や、みづの御牧か鳥養牧か、信濃に望月きり原牧、甲斐に黑駒立野の牧、武藏に穗坂小野の牧、生國播磨の家鳥駒の牧狩かや」

ミズ　水

【水島】　岡山縣淺口郡の海上にある小島。上下二島より成り、上水島は備前國兒島郡に屬するも、下水島は備中國淺口郡に屬す。往昔木曾義仲の軍が平氏の軍と戰ひて敗れし水島の古戰場はこの島とは關係なく、いま玉島町の大字柏島の地なる水島が途（渡）なりといふ。壽永二年冬、平氏は屋島にあり、山陽道を平定して都へ上ると聞き、源義仲は矢田義清・海野行廣等を遣はして備中國の水島が途に陣して平軍を待受けたり。平氏は平重衡・道盛・知盛・教經を將としてこれと戰ひ主將を討取れり。その地は今は陸岸となりしが、當時は淺瀨なりき。

【水島】　→金剛村（熊本縣八代郡）

ミスイ　美水面　朝鮮黃海道新溪郡の東南部。郡邑新溪の東南方一〇粁餘にして、東と南にて金川郡と界す。東西約一二粁、南北六—一〇粁。北大峯山脈の南緣に屬する山地にして、北境に亘武山（六二三米）、東南境には國士峰（四三八米）・兎峯、西南境には雉德山（三八九米）・鶴峰（四〇一米）聳え、域内の東部にも牡丹峰・大德山等三—四〇〇米の諸峯連るも、西方に低夷す。西半の水は古新恩川となりて西流し、東半の水は美水川となりて南流し、之等流域に稍々廣き平地ひらく。住民は畑作農業に從ふ者多く、麥・大豆・棉花・大麻・人蔘・繭等を產す。議政府・平壤間二等道路中部を貫き自動車を通ずるも、交通なほ便ならず。主邑積川里は古新恩川右岸に位し、地方的一中心にして、金融組合・市場等あり。

ミズエ　瑞江　東京府南葛飾郡にありし村。昭和七年十月、東京市に入り他町村と合し江戸川區を建つ。

ミズオ　水尾村　滋賀縣近江國高島郡の南部。大溝町の北に接し、東南隅は琵琶湖岸に接す。東西に細長し。西境には蛇谷ヶ峯（九〇二米）・阿彌陀山（四五四米）等の山峯聳え、中部及び東部は低平なる平野をなす。南方より流れ來る加茂川は東折して本村に入り來り、中部・東部を灌漑し青柳村を經て琵琶湖に注ぐ。農業を主とし米・麥・油菜等を產し、特產物には葱・西瓜を出し、副業として養蠶・牛の肥育等行はる。東部には縣道及び社線江若鐵道通じて水尾驛（昭和四年設置）あり。この地はもと三尾の神戸郷と云ひし地なりといふ。（稻荷山古墳）大字鴨にあり。小形の前方後圓墳にして、いま後圓部の一部を存す。墳中の小石室内にある彫狩家形石棺の内部より、金製垂下飾・金銅製冠・同香・雙魚佩飾・切子玉・古鏡・鹿角製柄頭付鐵刀・同小刀子・金銅製拵環頭太刀、その他を發見し、棺外より馬具・土器等三十餘種、百二十餘點の極めて豐富なる遺品を發見せり。石棺は上部に覆屋を作りて現場に保存し、遺物は東京帝室博物館及び京都帝國大學文學部に收藏保管さる。（慈敬寺）大字鴨にあり。眞宗大谷派。慶長七年、東西兩本願寺の分立せし時、兄願智が眞宗本願寺派慈敬寺を高島郡高島村大字黑谷に建てしに對し、弟知興（一に知願に作る）は數如に歸して當寺を建つ。

ミズカイドー　水海道町　茨城縣下總國結城郡の東南隅。西境を鬼怒川、東境を小貝川南流し、東は筑波郡と、南は北相馬郡と隣す。全町低地にして農業行はれ、農家は全戶數の一二%にて米・麥・大豆・繭を產し、また手工業行はれて醬油・酒の產あり。主業は商業にて六〇%を占め、縣下南部の商業地の一なり。縣道は中央を縱走し、聚落はこれに沿ひて中央部に發達す。社線常總鐵道また之に沿ひ、水海道驛（大正二年設置）を置く。往昔、平將門が猿島に僞宮を造營せし時、この地を大井の津と名づけ京の大津に比べしといふ。

ミズガキ　瑞牆山　關東山地秩父山塊の一峯。山梨縣北巨摩郡增富村の北東嶺。標高二二三〇米。東麓は金峰山（二五九五米）・朝日岳（二五八一米）・國師ヶ岳（二五九一米）に連るも、西方は秩父連山が本山を最後として山勢衰へ、信州峠（最高點一四六二米）・橫尾山（一八一八米）等を經て八ヶ岳の裾野に達る。北東嶺に小川岳（二四一八米）聳立す。山巒は花崗岩より成り、花崗岩の奇峭・奇峯峙ち、特に南東方には多く、鎧岩・子持岩・矢竹岩・鞭慶力岩等あり。山頂部は山骨露出し、山腹は針葉樹林、山麓一體は潤葉樹林を以て掩はれ、その間に釜瀨川・本谷川の溪流ありて紅葉の美を以て知らる。山頂よりは東に秩父連嶺、南には近く茅ヶ岳（一七〇四米）、遙かに南アルプス・富士山を見渡し、西に八ヶ岳を間近に眺め、北に淺間山の噴煙を望む。登山は南方黑平及び南西方增富ラヂウム鑛泉よりの二路あるも增富の方便なり。溫泉より山頂まで一三粁、東谷川を渡り、金山・小峠を經て達頂す。

ミズカミ　水上庄　臺灣臺南州嘉義郡の西南隅。嘉義市の西南隣。東は中埔庄、西は東石郡の太保・鹿草二庄、南は新營郡の白河・後壁二庄、北は嘉義市及び太保庄に夫々境を接し、東西に長く南北に短き地形をなす。東隣の中埔庄より來れる八掌溪は初め北境を西流し、やがて中央部を斜めに切斷して南境に至り、更に西流して東石・新營二郡の境界をなし、終に臺灣海峽に注ぐ。東端の小部分が低き丘陵をなす外は土地總て平坦にて謂ゆる嘉義平野の一部を為す。それ故農耕地甚だ多きも灌漑の便不十分の爲め雨期作田少く大部分は單期作田及び畑なり。農產物は年產五十九萬圓の水稻・陸稻を筆頭に、四十五萬餘圓の甘蔗、十一萬餘圓の甘藷を最も主要なるものとし、他に黃麻・落花生・豆類・蔬菜類・果物類あり。畜產にては勞役用の水牛・黃牛を除き、豚・山羊・鷄・鴨・鵝等の家畜家禽類多く一般家庭に飼育せられ、消費都市たる嘉義市を隣に控へて益々增產の傾向にあり、更に改良堆肥豚舍の普及と共に一面採肥上の利益と相俟つて農家經濟の有力なる一支柱をなす。工業は明治製糖の南靖工場に於ける製糖及び酒精製造の外に粗揩精米及び煉瓦・瓦の製造工場あるも、規模小にして地方の需要を充たすに過ぎず。縱貫鐵道及び縱貫道路は相並行して西部を南北に貫き、前者は水上驛（明治三十五年設置）を設置し、後者には局營バスの便ありて交通の主動脈をなし、他に大小の產業道路・部落道路四通八達して内外の各主要地を結ぶ。庄役場所在地水上は制度改正前は水堀頭街と稱し、驛の附近に一小市街を形成す。管内にもと嘉義西堡・柴頭港堡・下茄苳南堡の三堡に分屬し、早く清領當初より開拓の緒に就き、水上は水堀頭街と稱する前、既に大龜壁と呼ばれ諸羅十七莊の一たりしといふ。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を經て大正九年十月に至り地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢せられ前記三堡に分屬せし一街十五庄を計十六大字に改め、且つ水堀頭を水上と改稱し、之を一括して水上庄となり、嘉義郡に編入せられ現今に至る。（北回歸線標）大字下寮にあり。溫・熱帶の分岐點にして、標塔は北緯二十三度二十七分四秒五一、東經百二十度二十四分四十六秒五に位置す。嘉義市の南方三哩、縱貫鐵道の沿線水田中に高く聳ゆ。本標塔は明治四十一年臺灣縱貫鐵道全通記念として建設されたるものにして、基隆起點二九二粁にあり。大正元年の風害に倒れ、大正十二年

度改築せるも、昭和九年の震害により放任せられしが、昭和十年八月再び之を改築し、白堊の塔となれり。

ミスキ　三次　阿波國（徳島縣）の古地名。和名抄に美馬郡三次郷あり、美須木と訓す。その地、今の美馬郡内ならんも詳かならず。

ミズキ　水城村　福岡縣筑前國筑紫郡の中央北部。二日市町の北に接し東は太宰府町に界す。東北境には大城山（四一〇米）聳えて、西南方へ傾斜す。其他は平坦なる平野にして、太宰府町より本村の南部に流下し來る御笠川は西部を西北流す。耕地よく發達して米・麥を産す。西部低地は福岡海岸平野と筑紫平野とを結ぶ重要なる通路に當り、鹿兒島街道及び社線九州鐵道線が西北より東南に通じ、バスの往來も頻繁なり。省線鹿兒島本線は南隅を掠めて通過し二日市驛は南方約〇・五粁、水城驛（大正二年設置、大野村にあり）は西方約〇・五粁にあり。本村は水城及び太宰府の所在地として知られ、また觀寺は菅原道眞の配所にして「恩賜御衣翁在此」と吟ぜしは此處なり。また大野城址及四王寺址として史蹟に指定されたる大野城址は一部本村に亙る。〔水城址〕指定史蹟。本村大字吉松の邊より上水城附近に至る平野を横斷して東西兩丘陵を連れたる大築堤。現在せる東堤約三二〇米、西堤約七〇〇米、高さ約一四米頂部にて約四米、中央の切斷部を御笠川北流す。天智天皇三年、我國が高麗を援け、唐・新羅聯合軍と朝鮮に戰ひ形勢不利なるを見て萬一を慮り、水城を工築して内部に水を湛へて大宰府の防衛とせしものの如く、藤原末期には既に廢址となれりといふ。西堤は鹿兒島本線によりて切斷せられ、その切斷箇所より當時の遺物出土す。昭和六年には貯水の調節を圖るために敷設されたる水門の木樋の遺構をも發見。また當時の鼠門の礎石今に存す。〔大宰府址〕指定史蹟。大宰觀世音寺にあり。宣化天皇の御代、官家を那津口に置き西海道九國を總攬せしめ兼ねて三韓に備へしめ給ふ、これ大宰府の濫觴と云ふべし。筑紫大宰の名の史上に始めて見えしは推古天皇十七年なり。この那津にありし官家が後の太宰府の地に移されし年代詳かならず。天智天皇の朝には大宰府が定置せられ、水城及び大野・椽の二城を築き府の防備とされ、大寶令の制定により大宰府の官制規定せらる。かくて西海諸國の統治と對外警備を兼ね、且つ審客饗應の重要なる官衙となる。奈良時代に至り一旦廢され筑紫都督府が置かれしが、間もなく舊に復せり。その後天慶三年藤原純友の亂に累代の廳舍燒失の厄に遭ひ、府政これより衰ふるに至り、のち元弘・建武の戰亂を經、應永年中に至り全く廢滅に歸す。其の址は太宰府往還の北に當り大門址の礎石、その北にある中門址の礎石の殘存あり、その北更に約一二〇米を經て正廳址に達しその間道の右に東廳、左に西廳の遺址存し、何れも數箇の礎石殘存せり。正廳址は一段高き土壇上にあり、三十六箇の圓柱座を造出せる礎石整然として遺存す。石材は花崗岩にして大き桿二米内外に達し、圓柱座は何れも桿七五糎を有す。重層の廳舍として偉觀を極めし謂ゆる都府樓の遺址なり。西廳址の西方なる丘上には最近拓かれし大宰府藏司の遺址と覺ゆる礎石群露出す。正廳址の土壇の西側に設けられたる參考館には、奈良時代より鎌倉時代に及ぶ各時代の遺瓦、その他の出土品を陳列す。尚ほ正廳址には寛政元年龜井南溟の撰文にて、同人の書に成れる「大宰府」碑、其他二基の碑が建立さる。〔筑紫觀址〕御笠川の北岸にあり。天智天皇の御宇置かれし關址なり。戴曲に名高き筑紫道心加藤繁氏は嘗てこの關の關守たりしと云ふ。〔筑前國分寺址〕指定史蹟。大宰國分寺にあり。國分寺の現境内はその一部なり。金堂址の礎石と傳ふるもの一箇、庫裡前に存す。寺の後方畑地は講堂址と傳ふ。門の外側に塔址の土壇遺存し、柄孔を有する心礎等四個の礎石現存し、舊規略々察するに足る。附近より奈良時代の特徴ある古瓦出土す。〔國分瓦窯址〕指定史蹟。國分寺の東北二百米にあり。窯は臺地の斜面を利用し築造せしもの。其の窯址はもと八箇存せりと云ふも、今僅かに二箇を遺存せるのみ。窯址は主に瓦を穹窿狀に積み上げて築きしものにして、奥に煙出孔二箇あり。國分寺の瓦を焼きしものにして、内部に奈良時代の瓦片が多數存在す。〔國分寺〕大宰國分にあり。龍頭光山と號す。聖武天皇の勅願による一國一宇の名藍にて天平九年三月創立。屋次の兵燹に堂塔坊舍燒亡、殆ど廢絶に歸す。時に武州の廻國修行者この地に來り小庵を結び之を再興す。次第に寺門隆盛に向ひ、明治二十四年僧崇壽、本堂を再建、國分寺の寺號を傳ふ。木造藥師如來坐像一軀は國寶なり。〔戒壇院〕大宰觀世音寺にあり。臨濟宗妙心寺派。往時、日本三戒壇の一にして一に西戒壇と號す。後ち比叡山に大乘戒壇建立さるゝに及び當院廢されて荒廢に歸し、一平堂に本尊釋迦佛を安置せしが寛文九年僧智淇、方三間の戒壇院を再興す。次第に寺觀を整ふ。本尊木造盧舍那佛坐像は國寶。〔學業院〕大宰觀世音寺の西方にその址あり。里俗「カッキャウ」と稱す。大宰府の盛なりし頃、弟子學者多く集り、釋典を行へる所とす。その創建詳ならざるも、吉備眞備、唐より歸朝して、弘文館より持來れる像を、大宰府學業院に安置すと江家次第にあり。眞備は天平勝寶六年に大宰大貳に任ぜられしかばその時の創立にや。この後太宰府の衰ふると共に滅ぶ。文政年中、博多の商、奥村保全、その址に碑を營み、學校を置かんとし成らずして歿す。〔觀世

音寺〕大宰觀世音寺に在り。天台宗。清水山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立な新願し給ひ、八十餘年を經て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は菩門院と稱し、鎮西鎮一の瓦刹たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修營・再建を經て今に至る。開山は滿誓上人にして玄昉法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空羂索觀音立像（天武天皇御願）・十一面觀音立像（持統天皇御願）・馬頭觀音・十一面觀音を稱して當山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮結願の札所とす。寺寶に前記五體のほか十體の佛像・舞樂面三面・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・狛犬一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる傳秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修營せられしものなり。

ミズキ　箕月　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密筑里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミズクボ　水窪町　靜岡縣遠江國周智郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峡にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北境に中ノ尾根山（二二九六米）を最高として、南に黒澤山・丸盆岳（二〇六八米）・黒法師岳（二〇六七米）・奥山（一六二一米）あり、北境に白倉山（一八五二米）・觀音山（一四一八米）あり。中ノ尾根山より西南に白倉川、黒澤山より戸中川西流し本村にて合流す。兩谷川の間に奈良代山（一六二二米）、戸中川の南に門桁山・常光寺山（一四三九米）あり。大字奥領家より北方に至る秋葉街道の通ずる霧谷は構造谷なり。戸中川の上流に戸中山御料林、白倉川の上流に白倉山御料林、門桁山の東南に門桁御料林等の森林あり、良材・薪炭を產し、また製材を行ふ。當町はそれ等に從業する人々への物資の供給を行ふ。當町と長野縣下伊那郡八重河内村とに鐵區跨りて赤石鐵山あり、鐵種は金銀銅ニッケル礦化鐵にて昭和十年より事業を開始す。本町はもと奥山村と稱せしが、大正十四年に水窪町と改稱せるものなり。大字奥領家は山香庄の奥の山の領家職の義にして、中世の田制に出でたり。大字地頭方は領家方に對し地頭職の得分なりし義なりと。〔山住神社〕大字山住に鎮座。縣社。祭神大山祇命。和銅二年、伊豫國越智郡の大山積神社を勧請すと傳ふ。養老元年に勅願所となり、貞觀年中に勅使の參向ありしこと二度に及ぶといふ。近世は當社を以て式内社周智郡芽原川内神社とする說あり。徳川家康の登崇厚く、朱印領五十九石餘を有した り。例祭、十一月十七日。

ミズコシ　水越村　熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四粁にあり南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳（七五三米）聳ゆ。山地の間に狹長なる小低地あり て部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多くまた山林廣し。產物は米・麥・蒟・林產物等にして茶・筍・椎茸の特產あり。西方約五粁にある御船町へバスの便あり。本村はいま濟尾村と組合村をなし役場を濟尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鐵乳泉〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ所川と合流するところに位し、洞内は延長約八粁、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石筍が隨所に密集す。洞内に日之院・百萬塔・佛石・親子地蔵・雲妙院之名筒・靈妙門・中の院の逆鉾・御替門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミズサワ　水澤　岩手縣陸中國磐澤郡の東部。黒澤尻町（和賀郡）の南方約一六粁。北上川の右岸に位し、その支流ぼ町内を東に貫流して北上川に合す。磐澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に亙る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を產し、また漁網の生產あり。本町は北上川通谷の要地にして商業行はれ、また最近まであり し萬國地學協會の北緯三九度八分の緯度觀測所は甚だ著名なり。陸羽街道は町の東部を南北に通じ、本郡の各町村へバスの便あり。東北本線水澤驛（明治廿三年設置）を置く。この地は和名抄、磐澤郡當日郷の内なるべく舊名を襲踏と稱し、近世は仙臺藩の一門、伊達留守氏の封地なり。留守氏は奥州の總留守職たり、子孫相繼ぎて三萬石を領せしに、秀吉の時故ありて所領を沒せられ、改めて伊達氏の臣となり、一門に列し、水澤一萬六千石の領主に封ぜられ、明治維新に至る。舊奥州街道の水澤宿のありし地にして、もと郡役所の所在地たり。明治天皇、明治九年、奥州御巡幸の時、及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。鄙醫學者としての高野長英（贈正四位）、水利家としての後藤壽庵（贈從五位）はこの地の人なり。〔駒形神社〕大字寶竜に鎮座。國幣小社。祭神駒形神。駒形神は神名帳考證には木股神とあれど、神社叢錄には不詳となす。名跡志に據れば後世駒形の字により馬頭觀音を安んじ、御駒山馬塚寺と稱せしことありと。蓋し山岳信仰の思想より種々附會せしものならん。山上の社を奥宮となす。仁壽元年に正五位下、貞觀四年には從五位下を授けられ、式内社たり。例祭、九月十九日。〔日高神社〕郷社。祭神、

天御中主神・火産霊神外三柱。弘仁元年に奥州三所に勧請せられし一にて源頼義父子の崇敬以来代々鎮守府將軍の崇敬厚かりきと云ふ。例祭四月廿二日。〔高野長英旧宅〕指定史蹟。大畑小路にあり。明治九年の改築により屋根その他は當時の狀態を偲へざるも旧構のよく存せる階下の八畳・六畳の二室は長英の居室とす。誕生地は〔〕より西北約二〇〇米の吉小路にあり。長英は近世文化の先覺者、夙にシーボルトの門に蘭學を修め、名聲世に振ひしが、のち幕府の忌諱に觸れ、獄に繋して密に獄譯等に從事せしも嘉永三年自害、年四十七、維新後に正四位を贈らる。〔緯度觀測所址〕地球回轉軸の變化を知るため緯度の變化の量を恒星觀測によりて調査する天文臺にして、かかる目的により列國共同的に設けたる世界八觀測所の一なり。この觀測は一九〇〇年より始まり、一九二二年以降三六年に至る間、萬國天文同盟會緯度變化委員會中央局設けられしも最近廃せらる。〔くるす場〕大字豊能にあり。慶長年間、木挽四郎兵衛、深く天主教を信じ國禁に觸れて磔刑に處せられし地と云ふ。豊釜に接する福島にては天主教のメダル四箇發見せられ今に存す。

【水澤(縣)】明治四年十一月、陸中國にありし一關・膽澤・江刺の三縣を廃し水澤縣を一關に置きて陸前國の五郡と陸中國の三郡とを管す。翌年六月に治所を陸前國登米に移せしが八年十一月には再び一關に移し縣名を改めて磐井縣となす。磐井縣は九年四月に廃せられ、陸前國の五郡を宮城縣に、陸中國の三郡を岩手縣に屬せしめて今日に至る。

【水澤村】新潟縣越後國中魚沼郡の中部。信濃川の右岸。十日町の西南方約七粁。東南境を一千米前後の山脈連亙し南魚沼郡と界して西北へ傾斜し、山裾は數段の段丘發達して信濃川に臨む。耕作地は西北部の河岸に多く、他は山林たなす。米を主産し、養蠶・手機織の副業行はる。西北部を東北—西南に貫く縣道あり、聚落概ね之に沿ふ。社線飯山鐵道は之に並行し越後水澤驛・土市驛(共に昭和四年設置)を置く。

ミズサワ　瑞澤村　千葉縣上總國夷隅郡の北部。大多喜町の東北方にて間に上湯村を挾み、北より西は長生郡と隣る。全村丘陵地にて森林多く、丘陵間に狹き耕地ありて農業行はれ、米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。縣道は大多喜町及び東北方の長生郡一宮町に通じ、何れもバスの便あり。この地は永祿五年に里見義頼と一宮城主内藤久長との戰ひし所なり。

ミズシマ　水島　【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡流の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。南北・東西に貫通する縣道あり、社線加賀鐵道の津澤・蓑波兩驛に近し。此地は和名抄、礪波郡拝師郷の内、近世は若林郷と稱せし地なり。

【水島灘】岡山縣の南部にある灘。瀬戸内海の中央にあり。東は南北方向の斷層によりて兒島半島と分れ、北は東北—西南方向の斷層によりて中國本土より分離し、西と南は高島・白石島・北木島及び豊飽諸島によりて限られ、西方燧灘とは白石瀬戸・北木瀬戸等によりて相通ず。灘の東北隅は東・西兩高梁川によりて埋積され、昔源平二氏の戰ひし水島は今は陸地となれり。灘の中央に上水島・下水島の兩島あり。水深は十尋に及ぶ所は稀にて五尋内外の所多し。内海魚族としての鯛・鱈・鯖・鰈・蝦等を産す。

【水島】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に菊池郡水島郷あり、その地今の菊池郡碧村の邊に當る。

ミズシロ　水代村　栃木縣下野國下都賀郡の中部。栃木市の南方約五粁にあり。圓東平野北緣の一部を占め、全村平地にして東部を永野川南流し、川の附近一帯は水田多く、西半には畑地ありて所々林を交ふ。農業行はれて米の產多く、麥の產もあり。養蠶も行はれて繭の產多し。また酒の醸造も行はる。縣道よく發達し、北方の栃木市および東方の小山町(約七粁)等に通じ、兩町へバスの便あり。また西隣静和村内の社線東武鐵道日光線静和驛、及び西北隣富山村内の同線新大平下驛、省線兩毛線大平下驛に近く何れも縣道を通ず。この地は東鑑、養和元年、野木宮合戰の條に見ゆる水代六次の郷里なるべし。大字複本は近世は板本宿と稱し、北方に複本城址あり、城は永祿元年、小山の一族、美濃守の築きしもの。のち小田原の城代近藤出羽介、本城を守りしが、天正十八年に武州八王子城へ轉り、のち本多佐渡守正信に賜り、慶長十三年に正信の三男、大隅忠純を城主となし封三萬石、寛永八年に至り城主絶ゆ。

ミズズ　美鈴村　長野縣信濃國上伊那郡の中部。天龍川の東岸にあり。高遠町と伊那町との間に介在す。村は三峯川が高遠にて北方よりの藤澤川を合し伊那盆地に出づる扇狀地に位置す。この扇狀地は伊那町・美鈴村・東春近村の三町村に亙る廣大なものにて天龍川の回春のため浸蝕復活し、この扇狀地も三峯川が中央にて二分し北は美鈴村、南は東春近村の間に美事なる河岸段丘を作る。現在の三峯川の流路に沿ひ更に二段丘が生ず。六道原と言ふは蕎扇狀地面にて礫層の發達著しく、盤木林や桑畑に利用さるるは地下に水の浸透する爲なり。山麓と扇狀地との合點は山地水により水田も可能にて笠原・米垣内の聚落あり。第二段丘は第一段丘よりの湧水と三峯川の灌漑用水の爲め殆ど水田化され、高遠・伊那間の杖突

街道通じ、之に沿ひて茅澤・大島・青島・伊那部の諸聚落あり。村は桑園と水田による安定なる經濟を保つ。この地は和名抄、伊那郡福智郷の内なるべく、延喜式の笠原牧のありし地、即ち東鑑に擧げたる信濃國寮の牧、二十八所の第二に見ゆる牧のありし地にして、治承年中に、笠原平五頼直の居れる所なりといふ。また和歌の名所たりし阿太志野あり、いま六道原といふ。　※阿太志野山

ミズタ　水田　【水田村】岡山縣備中國上房郡の東北部。落合町(賀庭郡)の西南方約八粁の山中に存し、旭川の支流備中川の上流に沿ふ。東は賀庭郡に界し、西北は哲郡町、西南は上水田村に、南は上有漢村に接す。面積一七・九方粁。地形は西北より東南に延び、中央備中川岸に平地展けたるも河岸を南北に距るにつれ地勢漸高す。中央に耕地拓け北部・南部には山林多し。米・繭・麦の產多く、木炭・柿・蒟蒻等も小量產す。當村に水田鐵山(品川白煉瓦會社稼行)あり、鐵區は當村と賀庭郡美川村とに跨がりて五五萬餘坪、昭和十年事業を開始し同年格魯謨鐵一〇〇瓲を出す。高梁町・落合町へ縣道通じバスの便あり。上水田村と共に和名抄、英賀郡(のち阿賀に作る)水田郷の地なり。明治三十三年阿賀郡より本郡に編入し、以て今日に至る。

【水田村】福岡縣筑後國八女郡の西部。矢部川の右岸に沿ひて羽犬塚町の南に接し、南は山門郡に、西は三潴郡に界す。筑紫平野の一部を占むるため全村地形低平にて、東南境に沿ひて矢部川が西南流す。沖ノ端川の細流が之より分れ南部を西流す。米產多し。縣道及び省線鹿兒島本線は東部を縱貫し船小屋驛(昭和三年設置)あり。この地は蒲下妻郡の大邑にして、幕末の勤王家、淵上郁太郎(贈正五位)・淵上謙三(贈從五位)・水田謙次(贈從五位)・井村簡二(贈正五位)等の出身地たり。大字尾島は文治元年、平家壇ノ浦に亡び、その殘黨の多く斬られし處といふ。〔船小屋鐵泉〕矢部川に沿ふ。一半は水田村、一半は古川村に屬す。含鐵炭酸泉。加熱浴用。〔天滿神社〕縣社。祭神、菅原道眞。嘉祿二年菅原爲永、勅を奉じて建立。朱印領千石。久留米柳川氏の崇敬厚し。例祭九月二十五日。〔光明寺〕大字津島にあり。古義眞言宗。天平十九年行基開創。聖武天皇の勅願所。當時勅して金光明經を安置せしめ給ひしを以て金光明寺と號す。近世寺運衰退し往時の盛觀なしと雖も尚ほ地方の一巨刹たり。本尊、千手觀音(傳行基作)。

ミズタニ　水谷村　埼玉縣武藏國入間郡の東南部。荒川の支流柳瀬川の北岸にある小村にて、面積僅かに四・五八方粁なり。南は北足立郡志木町と相對す。關東平野の一部を占め、全村平地にて、北部・南部は水田、他は畑地をなし、農業・養蠶盛にて米・麥・繭を產す。社線東武鐵道東上線は西部を西北に走るも村内に驛なく、志木町の志木驛、北隣の鶴瀬村の鶴瀬驛へ村道を通ず。

ミズトミ　水富村　埼玉縣武藏國入間郡の中部。入間川の北岸にて、南は川を隔てて入間川町・豊岡町と隣す。武藏野臺地の北端の一部を占めて畑地多く、入間川沿岸には水田あり。農業行はれて米・麥を產し、繭の產出も亦多し。縣道は入間川町・豊岡町に通じ、共に自動車の便あり。入間川町の社線西武鐵道入間川驛、豊岡町の社線武藏野鐵道豊岡町驛へ連絡す。此地は和名抄、入間郡廣瀬郷の内なるべし。〔廣瀬神社〕大字上廣瀬に鎮座。縣社。祭神、若宇迦能賣命。景行天皇の御世、大和國より勧請すと傳ふ。式内社。例祭、四月四日。

ミズナガ　水永　廣島縣甲奴郡にありし村。明治二十八年本村外四箇村を合併して清水村を建つ。

ミズナミ　瑞浪町　岐阜縣美濃國土岐郡の中部。岐阜市の東方約四十五粁。北は明世村・土岐町に、東は稲津村に、南は曾木村に、西は駄知町・肥田村に夫々相隣る。木曾山脈の西南部に當り花崗岩山地より成り、中部には東西に土岐川流れ狹き河岸平野を作る。元來、土岐川の谷は斷層線にして、その左岸山地の崖は斷層崖と思はれ、謂ゆる木曾地塹の階段斷層をなす一部なり。河岸平野には水田分布し、副業としては養蠶・養鶏等盛にして綿羊も飼はれ、特產物にホームスパンあり。花崗岩の霜爛せる陶土よりは陶磁器が作られ、亞炭の採掘さるる部分もあり。この谷には舊中山道通じ、いま中央本線も之に沿ひ瑞浪驛(明治卅五年設置)を置く。瑞浪町とは明治三十年に小田・山田・寺河戸の三村を合併し、當時の土岐郡長、水谷了夫氏が土岐の清流に臨む瑞穂の里なるにより瑞浪村と命名せるもの。大正九年町制を布く。古くは和名抄に見ゆる土岐郡土岐郷の地にして、江戸時代は幕領たりしが、のち岩村藩領となれり。寺河戸には木曾玄蕃義德住み、青葉園隨筆に「義伸二十世の孫玄蕃助義辰の子也、沈倫して濃州土岐郡寺川戸村に住みしが天和元年死去し、嗣絶えたり。其弟上松義隣のみかすがにして住めり」と見ゆ。

ミズヌノ　水沼野　山城國(京都府)の古地名。續日本後紀、仁明天皇の承和十一月に此の地に行幸し給ひし由見ゆ。いま綴喜郡美豆村の邊なるべし。

ミズヌマ　水沼　群馬縣勢多郡黒保根村の大字。足尾線の水沼驛(大正元年設置)を置く。

ミズノ　水野村　愛知縣尾張國東春日井郡の南部。北は庄内川を挾みて高藏寺町に對し、東は品野町に、南は瀬戸市に、西は旭村・志段味村に接す。木曾地塹の南尾張平野に接する花崗岩山地

起伏し、高度は一五〇—一六〇米の丘陵にして北境には庄内川が峡谷をなし、南西へと流れ、水野川は此等の山地より山間盆地を作りつつ庄内川に合流す。西北部には東谷山(二九八米)あり。この盆地内には田圃あるも、村の産業としては山地の陶土を採集して陶磁器を作る窯業を主とす。交通路には庄内川の谷より瀬戸市に出づる街道あり、南部には僅かに瀬戸街道通じ、之と並行に社線瀬戸電鐵通じ今村驛(明治三十八年設置)・尾張横山驛(明和二年設置)・道分驛(明治三十八年設置)を置く。和名抄の山田郡神戸郷は此地ならんか、詳かならず。東谷山には圓形式の古墳ありて、名古屋城を築く時には石垣使用の岩石を多數給せし地なり。大字下水野の入尾城址はもと水野氏の住みし城なり。上水野の城ヶ峯の水野城址は磯村左近築城して之に居り織田信長に仕へたりと傳ふ。〔尾張部神社〕大字下水野に鎮座。郷社。祭神天火明命・健速素盞嗚命・天香山命。式内社。別稱、當國明神。一に東谷明神と書く。靈元天皇寛文十一年社殿を修造す。例祭、九月十五日。

ミズノオ　水尾山　清和天皇水尾山陵の所在地。いま京都市右京區嵯峨にあり、愛宕山の南西に位し丹波國境に近し。※京都市(二一七〇頁)

ミズノオ　水ノ尾山　中國山脈の一峯。穂山市の北方凡そ二八粁、山口縣玖珂郡廣瀬村の中央に峙つ。標高九八三米、山體石英粗面岩より成る。北西方に平家岳(一〇六六米)、南方には馬蹄ヶ岳(九八五米)聳立す。

ミズノコ　水ノ子島　九州島と四國島の間の豐後水道南口の略中央に孤立する小島。愛媛縣の日振島と相對す。島上に燈臺あり。明治三十七年の設置に係り、燈質は閃白光、毎三十秒一閃光、光達距離は二〇浬とす。

ミズハシ　水橋　【水橋村】栃木縣下野國芳賀郡の西部。祖母井町の西南隣にして眞岡町の北方約五・五粁にあり。西部は低き臺地にて畑地をなし、所々林を交ふ。中部より東部にかけては平地開けて五行川の本支流南流し、水田多し。農業行はれて米を主産し、他に麥の産あり。縣道は祖母井町、南方の貫岡町、西方の宇都宮市(約一二粁)に通じ、祖母井町より村の北部を經て宇都宮市に通ずる縣道には省營自動車茂木線通ず。〔天滿宮〕大字西水沼に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞。もと船戸北原天神と稱す。領主宇都宮氏崇敬す。本殿・幣殿・拜殿を備ふ。例祭、陰曆一月二十五日。

【水橋】　省線北陸本線の一驛(明治四十一年設置)。富山縣中新川郡西三郷村にあり。

【水橋】　延喜式に見ゆる越中國の驛名。↓西水橋町(富山縣)

ミズハラ　水原　【水原村】福島縣岩代國信夫郡の南部。松川町の西に隣り、南は安達郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西南境は海拔約七〇〇米にして東方に傾斜し、全村概ね山地をなす。松川は西境に發源して北部を東流す。米・繭・麥の産あり。また松川町と共に重要鐵山たる松川鐵山の鐵區をなし、金・銀を産す。(松川町參照)東方の松川町、西方の土湯村へはバスの便あるも一般に交通便ならず。

【水原村】　新潟縣越後國中頸城郡の東南部。新井町の東南方凡そ八粁の山村。東南—西北に細長く、東南隅は黒倉山連峯の佛ヶ峯(一一〇〇米餘)を以て長野縣信濃國下水内郡に界す。山勢概ね西北に傾斜し、略中央部谷合に多少の耕地ありて米・麥を耕作するも、他は概ね山林をなし薪炭の副産あり。村内交通は里道により省線信越本線新井驛へ至る道路あり、途中バスの便あるも交通餘り便ならず。

ミズヒキ　水引町　鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の西部。川内川河口の右岸に位し、西は東支那海に臨む。東部・中部は波狀の丘陵地をなし、低地が其間に介在す。西部は概ね低平にして海岸は砂濱をなす。川内川は南境に沿ひて西々北流して海に注ぎ、河中に砂洲多し。米・麥・繭其他の農産多く、また材産・水産あり。縣道及び省線鹿兒島本線が中央を西北より東南に貫き後者の草道驛(大正十一年設置)あり。また自動車も往來す。もと水引村と稱せしが、明治二十四年東西二村に分ち、昭和六年、東水引村は川内町に併合し、西水引村は昭和八年水引町と改稱す。この地は和名抄、高城郡新多郷の内。大字草道は、建久圓田帳に「高城郡草道、萬得名十五町、名主、紀太夫正家」とある地なり。

ミズフカ　水深村　埼玉縣武藏國北埼玉郡の東南部。加須町の東南隣にて、西方騎西町にも近く、東より南は南埼玉郡菖蒲町その他と隣す。全村平地にて米麥を産し、養蠶盛にて繭の産多し。縣道は加須町・騎西町・菖蒲町及び東南方の久喜町に通じて、加須町の社線東武鐵道伊勢崎線加須驛、北隣大桑村の同花崎驛等に出づるに便なり。この地は幕末の勘王家、小田熊太郎(贈正五位)の出身地たり。

ミズホ　水保村　福島縣岩代國信夫郡の西部。福島市の西方約八粁。西端は耶麻郡に接す。土地東西に長く約一五粁、幅約二粁餘あり。西境に一切經山(一九四九米)、西南境に吾妻富士(一七〇五米)聳えて東方に傾斜し西部は山地をなすも、東部全面積の四分ノ一は福島盆地に屬し平坦なり。須川は北境を、荒川は東南境を各ほぼ東流し、その支流村内を流る。西部に微温湯湧出す。米・繭を産す。道路は中部を東西に通ずるもの及び東部を南北に通ずるものあり、北方奥羽本線庭坂驛へは約四粁あり。この地は古來水保郷と稱せし地にして、村名はその遺稱なり。

ミズホ　瑞穂　【瑞穂國】我國の古稱の一。瑞は美しきを賞めていふ語、穂は稲穂。要するに稲美しく實る國の意。記・上「豐葦原之千秋長五百秋之水穂國者、我御子正勝吾勝勝速日天忍穂耳命之所知國」神代紀・上天神謂二伊弉諾尊一曰、有二豐葦原千五百秋瑞穂之地一、宜二汝往而治一之」祝詞式・大殿祭「大八洲豐葦原瑞穂之國平安國止平氣久所知食止」

【瑞穂村】栃木縣下野國下都賀郡の中部。栃木市の南隣にあり。關東平野の一部を占め、全村平地開けて巴波川・永野川南流し、水田多く米を主産す。その他、麥の産あり。また養蠶行はれて繭の産も多し。二條の縣道は村内を北走して栃木市に通じ、バスの便あり、栃木市の省線兩毛線栃木驛、社線東武鐵道日光線栃木驛に連絡す。また西隣富山村内にある兩毛線大平下驛及び東武鐵道日光線新大平下驛にも近し。明治四十年、明治天皇、勅城行幸の際、此地にて御昼餐あらせらる。尊攘の志士、川流虎一郎(贈從五位)は本村の出身者なり。

【瑞穂村】千葉縣下總國香取郡の西北部。利根川の南岸に位し、佐原町の西方にして、間に東大戸村を挾む。南半は丘陵地にして森林あり。北半は利根川流域の平地にて水田多く米を主産し、他に麥・繭・筍を産す。縣道は中部を横走し、省線成田線また之に沿ふも村内に驛なく、東隣東大戸村に大戸驛を設く。

【瑞穂村】千葉縣上總國山武郡の西南部。大網町の西南隣にして、南は長生郡本納町等と隣す。中部より西部にかけては丘陵地にして針葉樹林多く、東部は九十九里濱沿岸平地の一部をなし、農業行はれて米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。縣道は大網町より來り、東部を南走して本納町に通じ、省線房總東線また之に沿ふも村内に驛なく、山邊村に大網驛ありてバスを通ず。此地は和名抄、山邊郡草野郷の地なるべく、往時は一面の草野なりしものか。

【瑞穂村】山梨縣甲斐國南都留郡の中部。富士山の東北麓を占め、桂川の上流に沿ふ。ほぼ菱形に近き村の南半部は富士山麓の緩傾斜面にて、桂川東部を南より東南に流れて水田・桑園開け、北半部は三ツ峠山の南斜面にて概ね山林をなす。されど近世新倉の人、永島安愈なるもの新墾を作り、河口湖の水を引きてより新田よく開け米の産多し。次で繭・麥を産し郡内織の家内工業も行はる。樂落は中央やや東寄を貫通する國道中山道に沿ひ發達し、富士北口の登山路に當る。また東南方山中湖畔を經て沼津に至る街道もあり、交通の要地として往時より榮え、谷村町に次ぐ主要村なり。省線中央本線大月驛より北線富士山麓電鐵の四池温泉前驛(昭和五年設置)・下吉田驛(昭和四年設置)・月光寺驛(昭和六年設置)の三驛を置く。また自動車の便もあり。〔小室浅間神社〕大字下吉田に鎮座。郷社。祭神、木花開耶姫命。延暦十二年坂上田村麻呂夷征討に際し富士山に祈り、四年後(大同二年)平定と同時に創祀せりと傳ふ。例祭、九月十九日。〔月光寺〕大字下吉田にあり。臨済宗妙心寺派。水上山と號す。もと天台宗を奉じ稱光院と云ひしが、中古廢絶せしを開山祖龍禪師遂に月光庵を建て向嶽寺に屬せしが、寛永の末、禪心和尚の時、妙心寺に屬す。本尊釋迦尊を安置し、寺寶に開山・向嶽寺開山その他の自畫讃を藏す。

【瑞穂村】長野縣信濃國下高井郡の北部。飯山町(下水内郡)の東北凡そ八粁、野澤温泉(豐郷村内)に村の北に隣接す。千曲川右岸にありて、東境には毛無山(一六四九・七米)、南境には城山(八六三・七米)あり。南は穂高村に隣り、共に飯山盆地の東邊をなす。村は城山並に小菅神社の背後の山、高度八七〇米を連ねる線にて東部山地と盆地部に急變あり、斷層崖を思はしむ。下部には更に五百米内外の丘陵地あり明かに信濃川の河岸段丘なり。この段丘を浸蝕せる小谷の扇狀地により三五〇米内外の段丘あり現千曲川岸に臨む。耕地は下部の二段丘並に小扇地上に水田耕作が營まれ、扇狀地の頂點に福島・小菅・前坂の聚落あり、それより上部の渓谷底は夫々桑畑化さる。最下部と第二段丘との間の湧水に富み千曲川の氾濫の危險なき位置に、富田・犬飼・針田・鯉澤・柏尾の部落散列す。此の線には亦千曲川東岸の村々の主要道路が中野町より野澤に通ず。村は比較的水田に富み、桑畑より遙かに高率なることは山麓村としては例外とす。もと高野村と稱せしが、明治二十五年現稱に改む。〔小菅神社〕大字内山(奥社)・北大門(里社)に鎮座。郷社。舊稱、小菅山八所大權現。祭神、素戔嗚尊、伊弉冉尊外五神。白鳳八年、役小角、小菅山上にて素戔嗚尊の神託を受け創祀すと。平城・嵯峨兩天皇の勅願所。例祭、九月十九日。

【瑞穂】愛知縣東加茂郡にありし村。明治二十七年、舊阿摺村のうち葛村外八大字を分離して本村を置き、同三十九年、本村に大和村・阿摺村と共に廢せられ新に阿摺村を置く。

【瑞穂】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年、外一町と共に呼續町となり、呼續町は大正十年名古屋市に入る。

【瑞穂】愛知縣葦栗郡にありし村。明治三十九年に本村外一村を廢して淺井町を置く。

【瑞穂村】鳥取縣因幡國氣高郡の北部。河内川下流左岸に沿ひ、北の一部を以て日本海に接す。南は鹿野町に、東は賀木村に界す。西端七・二方粁。地は地勢に

沿うて南北に細長く、一條の山脈西部を南北に走り北部平野に終る。東半は河内川沿岸平野が南北にのび耕地あり。農產物中、米はその大分を占め、他に蔬の產を有するも副業及びその他の產業は未發達の狀態なり。省線山陰本線北部を貫通し、寶木驛・正條驛へ各約一粁、利用の便を有す。もと坂本鄉と呼びしといふ。〔志賀奴神社〕鄉社。祭神、大己貴命・素戔嗚尊外二神。式內社。社名は一に志加奴と書す。舊稱、勝島大命神。例祭、十月十九日。

【瑞穗】 鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年當盤村と共に廢し、その區域を以て大誠村を建つ。

【瑞穗庄】 臺灣花蓮港廳鳳林郡。臺灣中央山脈と海岸山脈とに挾まれたる地域にて、秀姑巒溪の上流にあり。平野の南北を鐵道臺東線が貫通するの外、交通路殆どなし。住民は殆どパンツア族（アミ族）に屬する高砂族なり。臺東線の瑞穗驛（大正四年設置）あり。

ミズホノ　瑞穗野村　栃木縣下野國河內郡の東南部。宇都宮市の東南方約五粁にて、鬼怒川の西岸にあり。東は芳賀郡と隣る。全村平地にして中部は水田、西部は畑地をなし、農業を主業として米・大麥・小麥・干瓢・蒟蒻を產し、蔬菜の栽培も亦行はる。縣道のうち西北に走るものは宇都宮市に通じ、バスの便あり。その他、東走して芳賀郡貝岡町等に通ずる縣道もあり。この地は和名抄、河內郡刑部鄉の內なり。また大字桑島は越中守綱親の男、九郎兵衛尉辰榮の領せし地にして、子息九郎榮敷は桑島氏を稱せり。

ミズマ　水間鐵道　私設鐵道。大阪府泉南郡にあり。社線南海鐵道貝塚驛より分岐して水間驛（貝塚町）に至る一四粁。省線と連帶運輸をなし、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

ミズマキ　水卷村　福岡縣筑前國遠賀郡の中部。遠賀川の右岸に沿へる狹長の村落にして、折尾町の西に隣り、南は中間町に界し、北隅は鹿屋町の東南に接す。中央東部に明神ヶ辻山ある外は概れ地形低平にして、西境に沿ひて遠賀川北流す。中央には屈曲しつつ北流する遠賀川支流の細流ありて北隅にて本流に合す。米・麥・蔬菜を產す、村內に大君・高尾・高松の諸炭山あり。中央を鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線が東西に貫き、バス通じ、西方一粁たらずに遠賀川驛あり。東方約一粁の遠賀驛にて岐れる省線筑豐線は東南部を南走す。附近町村と共に要塞地帶の一部に屬す。

ミスミ　三角　【三角町】 熊本縣肥後國宇土郡、宇土半島の先端。遠く海中に突出せる處にあり西南は小瀨戶を隔てて天草諸島と相對して島原海灣を隔てて肥前の島原半島を望み、南はモタレノ瀨戶を挾みて戶馳島と相對し、風光の美、蓋し本州第一と稱せらる。全村丘陵性をなし西部に三角嶽（四〇六米）聳ゆ。東南部に稍々南北に長き低地あり、海岸には所々に小低地點在し、西端に小瀨戶に臨みて三角町主邑市街地あり。西南部に天草諸島に圍まれて三角港あり。主生業は商業（三分ノ一）・農業（三分ノ一）・公務自由業・工業その他（三分ノ一）にて、米・蔬・梨・蜜柑等の果實、鰮等を產し、また石材を出す。三角港は縣民が縣下に良港なきを憂ひ、二十萬圓を投じて修築せるもの、然れども潮流急にして碇船に便ならざるを以て今は三角を去る一粁餘の大字際崎を碇船場となし、省線三角線之に連り、特別輸出港たり。港の北口に燈臺あり、明治二十三年設置にして不動白光、光達距離一七・五浬。斯くて三角港の築港と三角線三角驛（明治三十二年開業）の設置によりて本町は急激に發展の途に向ひ、大連より輸入する大豆・豆粕及び樺太方面より運ぶ製紙原料の蝦夷松・椴松・パルプ等の木材の陸上げ、並にセメントの積み出し少からず。夏は海水浴場として賑ふ。また縣道は海岸を走り、九州汽船會社の定期船は島原・口ノ津・茂木・天草方面との間を往來して此附近海上交通の中心をなし、往時寂寥たる一漁村なりし當地も今は海には巨船大船輻輳し、汽車の往來と共に汽笛の聲日夜耳邊に喧し。明治廿二年、三角浦村・大田尾村・波多村を廢し三角村を置き、同三十五年町制を布く。この地は古より海門の要衝に當り、舟津と稱し、藩政の頃は浦番所・遠見番所を置き、また別邸を置かれしといふ。

【三角線】 省線鹿兒島線の一部。熊本縣宇土郡內を走る。鹿兒島本線宇土驛より分岐し、西方三角驛（三角町）に至る。全長二五・六粁。

【三角海峽】 熊本縣宇土半島と天草島との間にある海峽。卽ち天草、大矢野島の北東端、柴尾山・飛嶽と宇土半島の西端に挾まれ、北西—東南の方向を有する細長き海峽なり。海峽の北端には中神島あり、これと三角側との間を小瀨戶、天草との間を大瀨戶と呼ぶ。最深點二一尋にて、海峽の北側に三角港あり。

ミスミ　三隅　【三隅町】 島根縣石見國那賀郡の西北部。濱田町の西南方凡そ一五粁に位し、西は三保村を隔てて日本海に近く、南は美濃郡に、北は大麻村、東は黑澤村に接す。面積三三・五平方粁。地勢概ね山地にして北部・西部に小山脈連る。三隅川中央を西北流し沿岸に耕地拓け、山地は概ね森林地帶に屬す。農表・瓦・紙の製造盛んにて、また米・麥・蔬・木炭・大麻・酒等の產あり。省線山陰本線三保村界を貫き、三保三隅驛（大正十一年設置）あり。山陰街道の街に當り、三保村にバス通ず。古くは三隅郷に作り、和名抄に那賀郡三隅郷と見ゆるは本町及び岡見村・三保村・井野村の邊に當る。中世は三隅氏の居邑たり。明治二十二年三隅村とし、昭和二年三隅村・西隅村を合併して三隅町とす。〔三隅城〕一に三角城とも書き、また高城山城ともいふ。守護藤原國兼の裔、三隅兼冬の築くところといふ。正平の始、三隅兼連（贈正五位）兵を擧げて遙かに足利直冬に應ず。のち直冬來りて當城に據る。大永六年七月、大內義興、尼子氏に屬せる當城を攻め、十二月落城す。のち毛利元就石見に兵を出すや、益田藤包、この城に據りて拒ぎしも、遂に毛利氏に降り城遂に廢す。〔三隅大平櫻〕指定天然記念物。矢原の山上の小臺地にあり。彼岸櫻に似たる一種にして根元の周圍約五・四米、地上二米にて六大支幹に分れ枝張大なり。此種の櫻の巨樹として有數のものなり。

【三隅村】 山口縣長門國大津郡の東端。北は日本海に面し青海島との間に仙崎灣を抱く。東は阿武郡三見村を隔てて萩市に對し、南は美祢郡、西は深川町に接す。面積六八・九六方粁。北を除く三方は山脈に圍まれ、天井山（六〇八米）・桂木山（七〇二米）・鐵割山（四九〇米）など村界に聳ゆ。地勢中央に傾き、三隅川西北流す。沿岸に肥沃な平地展け耕地多し。河口は彎入して三隅灣を形成し、灣內水深く風景良し。初夏の烏賊釣火は壯觀なり。村の周圍は山林に圍まる。米・蔬・川材・木炭・薪材・清酒・醬油・鯖・鰯・柔魚等の產多し。村內には二萬餘坪の鐵區を有する二條鐵山（鐵種は鉄）あり、休山の麥なりしが明和十年より事業を開始す。省線山陽本線北部を東西に貫通し、長門三隅驛（大正十三年設置）を置く。また縣道中央平地を南北に深川町・仙崎町・太田町（美祢郡）に連なりてバスの便あり。古くは三隅郷に作り、和名抄に大津郡三隅郷と見ゆ。延喜兵部省式に長門國三隅驛馬三疋とあるも此地なり。中世は三隅御厨と云ひ大神宮御領たりしも、のち三隅莊と云ひ佐々木高綱之を領せりといふ。近世、山口藩の村田清風（贈正四位）三隅の居宅に尊翠堂を設き、文武の講習をなし士氣を鼓舞せる事あり。また山口藩の重臣にて、元治元年藩主に際し、意見を上疏して自刎せる周布政之助（贈正四位）は此地の人なり。〔八幡宮〕大隅中村に鎭座。鄉社。祭神、應神天皇・神功皇后・仁德天皇。豐前國宇佐宮より分靈し、もと本村生島に祀れりと傳ふ。例祭、八月十六日。

ミスミウラ　三角浦　熊本縣宇土郡にありし村。明治三十二年大田尾村・波多村と共に廢し、三角村を新設す。三角村は同三十五年町制を布く。

ミズモト　水元　【水元村】 青森縣陸奧國西津輕郡の東南部。木造町の南方約五粁。東は岩木川を隔て北津輕郡に、南は中津輕郡に隣接す。村の西半部は岩木山の北麓に屬し山地をなすも、東半部は津輕平野に屬し平坦なり。村の南部、東西兩地の間には廣大溜池あり。岩木川は東境を北流す。村の生業は農を主とし、米・苹果を產す。道路には東部を南北に通ずるもの、中部を西北に通ずるものあり。東方の省線五能線鶴田驛へは約三粁。西北方の同線陸奧森田驛へは約五粁あり。

【水元】 東京府南葛飾郡にありし村。昭和七年東京市に入り、外數ヶ町村と合し葛飾區を編成す。

ミズモト　水本村　大阪府河內國北河內郡の中部。大阪市東淀川區の東方約八粁にあり、北方約二粁には枚方町あり。村內に小丘陵もあれど全村概して地形平坦なり。米の產多く其他各種の農產を產し、工產・林產・畜產もあり。東南部には東高野街道及び省線片町線が通過して隣村星田村に後者の星田驛あり。

ミズワケ　水分　【水分村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部。日詰町の西北に接し、西は岩手郡に境す。奧羽山脈の東斜面に屬し、西境に東根山（九二八米）・西東根山（八七二米）、北境には田澤山（六一五米）聳えて東方に傾斜し、村の西半部は山地をなすも、東半部は北上平野に屬して平坦なり。主生業は農業にして林業これに次ぐ。農產物は年額計二二七、〇二七圓、うち米は二〇一、九〇〇圓なり。田地耕作面積は現在四二三四反にて今後畑地及び草生地の變田の餘地無く、作付改良に依り增收を豫想さるるのみ。現在の畑地は自給自足に滿たざる現狀なり。近時養蠶も衰微の一途を辿りつつあり。畑地及び採草地の不足と放牧地皆無の爲めただ農耕に必要なる少數の牛馬を飼育するのみにて牧畜は不振なるも、今後農業の多角的經營に依りて畜產發展の餘地あるを豫想さるる狀態なり。林產に村全面積の約半數を占むる山林地及び原野より年產三、六九三石の用材及び一、四〇〇貫の木炭、並に七八瓢の薪炭材を產し、今後植林及び營林署等の指導に依り增收の餘地多分にあり。道路は村の中東部を南北に通じ、北方盛岡市及び東南方東北本線日詰驛へは各バスの便あり。本村にもと宮手・升澤・下松本・小屋敷・吉水・上松本・南傳法寺の七ヶ村に分れ南部藩に屬し居りしが、明治十二年一月宮手外二ヶ村（升澤・下松本）戶長役場と小屋敷外三ヶ村（上松本・吉水・南傳法寺）戶長役場とに分離し、一方は宮手村に一方は小屋敷に各戶長役場を置けり。同十七年七月宮手外二ヶ村は上平澤外四ヶ村と、小屋敷外三ヶ村は北傳法寺外三ヶ村に合し、一方は上平澤に一方は北傳法寺に各戶長役場を置かれしが、同廿二年四月一日町村制實施に當り前記の宮手外二ヶ村及び南傳法寺外三ヶ村は更に合併して水分村と改稱し、各村區域を以て大字とし現今に至れり。〔志和稻

荷神社）大字竹澤にあり。縣社。祭神宇迦御魂命。後冷泉天皇天喜五年源頼義、安倍頼時再討のため下向の砌り再興すと傳ふ。のち斯波陸奥守家長修覆し、天正十六年斯波詮直再建す。明治四年村社に列し、いま縣社に昇格す。境内社に山祇神社あり。

【水分村】福岡縣筑後國浮羽郡の西北部。筑後川の南岸に沿ひ、田主丸町の西に隣接す。筑紫平野の東北の一部を占めて地形低平にして北境を筑後川が西流す。灌漑の便よく農業發達し米・麥を產す。中央には縣道が東西に走り南部には省線久大本線横臨して田主丸驛に近し。この地は和名抄、竹野郡船越郷の内なるべし。

ミセダニ　三瀬谷村　三重縣伊勢國多氣郡の中部。宮川に跨がりて大内山川との合流點に位し、西北は飯南郡に接し、南は度會郡に界し瀧原村の北部が南方より中央に嵌入す。北境に畧東西に連る約五〇〇米の山脈あり。宮川その南麓を屈曲しつつ東に流れ、西南境には標高四七五米の山地あり北・東・南に傾斜し、東麓には大内山川北流して宮川に合す。南の境界線は本村を流る宮川の東半が之に沿ひ、大内山川の合流點より同川に沿ひて南下し西南部の山地麓を南に縫りて村境をなす。全戸數七八五戸中、四八五戸は農業を營み、工業は四三戸、商業は七五戸、水產四戸、自由業三八戸、交通業二五戸、その他一一一戸なり。東方より來る熊野街道は中央にて南走して度會郡に入り、省線紀勢東線は同じく東方より來りて三瀬谷驛（大正十四年設置）より大内山川の左岸に沿ひて南下し、南部に瀧原驛（大正十五年設置）あり。大字上三瀬の字密通に北畠具教隱居の址あり、永祿十二年十月、具教に織田信長と和し、信長の子信雄を養子とし、十二月居城大河内を之に讓り三瀬に退きて三瀬大御所と稱せり。

ミセン　彌山　↓鮫島町（廣島縣）

ミゾ　溝　神奈川縣高座郡にありし村。大正十五年上溝町と改む。

ミソータイ　御正體山　關東山地道志山塊の一峯。山梨縣南都留郡間地・道志・東桂の三村境上に峙つ。標高一六八二米。山頂に御正體大權現を祀る故に山名出づ。山頂よりは南西方に明鏡山中湖を下瞰し、その彼岸に躍峯富岳を仰望す。登山は北方谷村町より南東に進み、道坂峠最高點より尾根を南西に縱走して行ふ。

ミソギ　御祓村　愛媛縣伊豫國喜多郡の東部。内子町の東方約八粁。四國山脈の西部山中の地を占め、高距數百米の山岳東西に連亙して南北部に聳立し、中央に狹長なる谷を開くも耕地に乏し。米麥・繭等の農產あるも農業はさして盛ならず。山地は森林良く繁茂し三椏・楮等の林產多し。西部には道路よく發達し内子町に縣道至りバスを通ず。〔三島神社〕大字北表に鎮座。郷社。祭神、大雷神・大山積神・高龗神。保元二年の創祀と傳へ、中居谷村橋城主宮永氏代々の產土神たり。例祭、九月十三日。

ミゾクイ　溝咋　大阪府三島郡にありし村。昭和十年に宮島村と共に廢し玉島村を建つ。

ミゾグチ　溝口

【溝口】兵庫縣神崎郡中寺村の大字。省線播但線の溝口驛（明治三十一年設置）を置く。

【溝口町】鳥取縣伯耆國日野郡の北部。日野川に沿ひ、北は八郷村を隔てて西伯郡に對し、西は西伯郡、東は日光村、西南は二部村に隣接す。面積三四・六三方粁。地勢概ね山地に占められ、東北部は伯耆大山の西麓に屬し高燥を極む。山間を日野川北流し、二部村より支流これに注ぎて谷を作る。沿岸に耕地拓け、米・麥・繭等を產す。牧畜・林業やや行はる。出雲街道川沿に南北に通じ、溝口の市街地之に沿うて發達し、西南の日野郡へ縣道を分岐す。省線伯備線伯耆溝口驛（大正八年設置）あり。根雨町・米子市へバスの便あり。昭和六年溝口村・旭村・柴村を合併して溝口町を置く。大字金屋谷・岩立は大山國立公園の內。〔樂々福神社〕大字宮原に鎮座。郷社。祭神、大日本根子彦太瓊尊。例祭、十一月七日。

ミゾタニ　溝谷　京都府竹野郡にありし村。昭和八年本村及び吉野村・鳥取村・深田村を廢し、その區域を以て彌榮村を置く。

ミソノ　御園

【御園村】三重縣伊勢國度會郡の東北部。宮川の河口附近の右岸に位し、宇治山田市西北部の北に隣接す。西は小俣町に界し、東は神社町及び大湊町に隣る。全村地形低平にて沃野開け、西境より北境に沿ひ宮川が東北流し約一粁東北にて伊勢灣に注ぐ。農業を主生業とし米を主產し特產物には澤庵漬（伊勢澤庵）あり京阪神方面に出荷さる。省線參宮線の山田上口驛は西南境に接在し、社線參宮急行電鐵は西南部を通過して宇治山田市に入り交通の便よし。此地はもと神領たりし小林御園・高向御園・粟中鳥御園の地たるを以て、明治二十二年町村制實施に當り御園村と名づく。

【御園村】滋賀縣近江國神崎郡の中部。八日市町の東に隣り、郡の中央を占めて愛知川の南岸に沿ひ、西北より東南に細長く、北は愛知郡に接し南は蒲生郡に界す。全村概ね地形低平にして北境に沿ひ愛知川が西北流し、沿岸に洲發達す。戶數別生業狀態は全六八二戶中、農四七三戶、工一六戶、商三七戶、其他一五六戶にて農業を主とし、副業には養蠶行はれ上部落には養鯉をなす所あり。縣道は中央を横臨して八日市町に至り、また同町より東北走する縣道西北部を通過し、自動車の便あり。もと柿之御園と云へり。

清和天皇の御兄。この地に柿を植ふ給ひしより此名ありと。〔河桁御河邊神社〕大字神田に鎮座。郷社。祭神、浪線津姫神・天湯河桁神・倉稻魂神。式内小社に充てらる。寶化天皇四年、神崎郡司玉垣宿禰磯戸彦逮、神勅により創祀せりと傳ふ。例祭、三月十六日。〔興福寺〕大字上にあり。臨濟宗永顯寺派。五智山。天平十一年行基の開創と傳ふ。文明六年電火のため堂宇悉く炎上せしが永應元年之を再建す。本尊大日如來坐像（木造）一軀・觀音堂本尊聖觀音立像（木造）一軀は國寶。

ミソノウ　御園宇村　廣島縣安藝國賀茂郡の中部。西條町の南に接し、東は吉土賀村、西は下見村、南は下三永・郷田二村と界す。面積八・一一方粁。地形圓形に近く、東部・西部に低き山地蟠るも、中央部より北方西條町に連なる平地ひらけて耕地多し。農業に次ぎ牧畜・工業行はれ、米・麥・繭・牛・鶏・馬・牛乳・酒類・木炭等を產す。縣道二線南北に貫通し三津町・廣村にバス通ず。省線山陽本線西條驛に近く利用の便あり。

ミゾノベ　溝延村　山形縣羽前國西村山郡の東部。谷地町の南に接し、東北は北村山郡に東村山郡に境す。山形盆地に屬し、全村平坦にして宮河江川は南部を東南に流れて最上川に合し、最上川は東部を北流す。米・蒟・草履表を產す。道路は東北部を斜走す。社線谷地軌道谷地驛へは約五粁。この地は宮河江氏の一族、溝延氏の在名を稱せし所なり。〔八幡神社〕溝延に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。合祀、大日靈尊・倉稻魂命・伊弉冉尊。天慶年中に創祀すと。源頼義同義家より神領を寄す。例祭、陰暦七月十五日。

ミゾベ　溝部村　大分縣豐前國下毛郡の西部。山國川の上流に跨り、西南は日田郡に界し、西南々方約一〇粁に日田町あり。東西兩境には西北より東南に連る山脈ありて村境を劃し、東境には中摩殿畑山（九九一米）・釣鐘山（八五二米）等聳え、西境中央には大將陣山（九一一〇米）あり。中央部の褶合谷には北隣の視木村に發する山國川が村を貫きて東南流す。沿岸に稍々耕地發達す。農產・林產あり。旭鐵山ありて金銀を產し、外に十三萬餘坪の鐵區を有する八幡鐵山（鐵種は金銀）あり、昭和十年より事業を開始す。社線耶馬溪鐵道が河谷に沿ひて通ず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の內なるべく、大字草本の萩の本には萩の本城址あり、何人の城址なるか明かならず。或は源義朝の臣、益谷金王丸始めて築くと傳へもれ、今は城山と稱す。〔旭鐵山〕鐵種は金銀。鐵區は溝部村と〔旭木村とに跨りて百十一萬餘坪、守實驛の北西方約六粁の地點にて山國川の上流に位す。鐵區內には凝灰岩及び安山岩發達し、之等の裂罅を充塡せる鐵脈散條存在し、うち主要なるものは二十五枚鐵と黃金鐵の二條となす。鐵幅平均、前者は二米、後者は一・五米、何れも鐵鈴等を隨伴す。昭和九・十年の頃より活氣を呈し十年には金銀精鐵八七・八瓩、金一、六三〇瓦、銀一、〇六〇瓦を產し、同年一躍重要鐵山に列す。現在、石原產業海運會社の稼行にして鐵夫百人以上從業す。〔耶馬溪猿飛の甌穴群〕指定天然記念物。山國川の上流が變朽安山岩を穿ちて峽谷をなせる部分に生じたる大小數百箇の甌穴群なり。甌穴の或ものは現時の河床中にあるも、其多くは峽谷の岩石段上にあり、以て永きに亙りて生じたるものなるを知るべし。何れも形甚だ美にして甌穴群として標式的のものなり。〔菅原神社〕大字平小野に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞。例祭、四月十日。

ミゾベ　溝邊村　鹿兒島縣大隅國姶良郡の中央西部。加治木町の北に接し、東南部は稍南方へ延ぶ。全村山岳・丘陵到るところ起伏して西部一帶は西境に聳ゆる長尾山（六八〇米）及び其支脈の斜面地なり。東南部に稍々平坦地あり、總じて南方に低し。米・麥・繭の農產及び林產・畜產・工產あり。中部には南北縱貫する縣道ありて加治木町より北隣の橫川村へ自動車を通ず。此地に天津彦火々出見尊の高屋山上御陵あり、古くより文化の開けし處なるべし。中世は溝邊城の城下町として發達す。〔高屋山上御陵〕神社圓（神割岡）と稱せられ、梢圓形なす。〔八幡神社〕大字平小野にあり。郷社。祭神、應神天皇。合祀、大日靈尊・倉稻魂命・伊弉冉尊。天慶年中に創祀すと。源頼義同義家より神領を寄す。例祭、陰暦七月十五日。

ミゾベ　溝部村　大分縣豐前國下毛郡の西部。山國川の上流に跨り、西南は日田郡に界し、西南々方約一〇粁に日田町あり。東西兩境には西北より東南に連る山脈ありて村境を劃し、東境には中摩殿畑山（九九一米）・釣鐘山（八五二米）等聳え、西境中央には大將陣山（九一一〇米）あり。中央部の褶合谷には北隣の視木村に發する山國川が村を貫きて東南流す。沿岸に稍々耕地發達す。農產・林產あり。旭鐵山ありて金銀を產し、外に十三萬餘坪の鐵區を有する八幡鐵山（鐵種は金銀）あり、昭和十年より事業を開始す。社線耶馬溪鐵道が河谷に沿ひて通ず。この地は和名抄、下毛郡山國郷の內なるべく、大字草本の萩の本には萩の本城址あり、何人の城址なるか明かならず。或は源義朝の臣、益谷金王丸始めて築くと傳へもれ、今は城山と稱す。〔旭鐵山〕鐵種は金銀。鐵區は溝部村と〔旭木村とに跨りて百十一萬餘坪、守實驛の北西方約六粁の地點にて山國川の上流に位す。鐵區內には凝灰岩及び安山岩發達し、之等の裂罅を充塡せる鐵脈散條存在し、うち主要なるものは二十五枚鐵と黃金鐵の二條となし、石玉垣を繞らし、下方約一五〇米の所に御拜所あり。これが天津彦火々出見尊の日向高屋山上陵なり。御ほここより數百米を距つる宮ノ上の高屋神社はもと鷹屋神社と稱して尊を祀り、もと御陵上に鎮座せしを應永の頃、現地に遷せしものなり。〔溝邊城〕大字籠にある城址。吉野時代の頃、島津氏久の執事本田氏これに居りしが、室町時代の頃島津忠久の命を受け肝付氏これを守り累代世襲す。その後、一時薩摩の給黎に移りしが慶長四年以後舊に復す。〔鷹屋神社〕大字籠に鎮座。郷社。祭神、天津日高日子穗々出見尊。應永十八年勸請と傳へ、又もと金割鷹尾にありしを應永十八年現地に遷せりとも云ふ。例祭、四月三日。

ミゾメ　見初　山口縣宇部市にある非公式なる字名。此處に見初新坑あり。石炭山にして準重要鐵山たり。昭和十年には塊炭三、九六四瓩、粉炭一一、九三二瓩、切込炭七、九五九瓩、粗炭一五、八九三瓩（この總價額十三萬七千餘圓）を產出し、同年六月末の鐵夫數二九五人とす。なほ宇部市には重要炭礦たる東見初炭鑛あるが、その所在地は、いま公式に東見初炭鑛なる字となれり。

ミゾロ　御菩薩池・深泥池　↓京都市（二二〇一頁）

ミタ　三田

【三田】陸奥國（宮城縣）の古地名。和名抄に刈田郡三田郷あり、その地いまの刈

田郡七ヶ宿村・小原村の邊に當るか。

【三田】 東京市芝區の地名。古くは御田にも作る。金杉川以南、高輪に至る間を云ひ、洪積臺地がその大部分を占む。慶應義塾大學この臺上にあり。附近には三田の二字を冠せる町名多し。太平記忠臣講釋・六「氣儘滑瑠璃出次第に、貞光は信濃國穂井の生まれ、綱は武藏の三田の者、さて公時は伊豆國とは申せども、生所も知れず宿なしと、みす〳〵見えるからぞめき」

【三田村】 東京府武藏國西多摩郡の北部。五日市町の北方にして多摩川に沿ふ。西南隅には大嶽山(一二六七米)および御嶽山(一〇七〇米)あり。また北境には惣岳山(七四二米)・高水山(七九三米)等連なり、南北兩山地の接合を多摩川東流す。山地一帯森林多く、木材の產額大なり。川沿ひに狹き平地ありて麥・甘藷を栽培し、蚕蠶も行はる。また綿織物・絹織物・清酒等の製造行はる。川沿ひに府道通じ社線青梅電氣鐵道これに沿ひて西走し樂々園(昭和三年設置)・二俣尾(大正五年設置)・軍畑・澤井・御嶽(以上昭和四年設置)の五驛を置く。御嶽驛より氷川村及び御嶽山麓遶本へバスの便あり。遶本より御嶽までケーブルカーあり。御嶽山を始めとし多摩川沿ひに射山渓その他の名所多く良き行樂地をなす。(※御嶽山)〔御嶽神社〕 大字御嶽山に鎭座。府社。祭神櫛御方命(一說に日本武尊となす)。安閑天皇御宇の創立と云ひ、崇神天皇の勅に依り神地と定めらる。もと御嶽大權現と云ひ、明治二年大麻止乃豆神社と改稱し、同七年現社名に改む。赤糸縅甲冑一領は國寶。例祭、五月八日。〔御嶽の神代樹〕指定天然記念物。一株。樹勢壯大、巨樹として有數のものなり。〔青渭神社〕大字澤井上分字惣岳山に鎭座。郷社。祭神、大國主命。延喜式內同名の社に充つる說あり。一に總國明神とも稱す。社前に靈泉あり、貞名井、又は青渭井とも稱す。社名これに起るといふ。中世以降領主の崇敬を受く。例祭、三月十八日。〔海禪寺〕 大字二俣尾にあり。曹洞宗。山號、瑞龍山。寛正年中益芝和尙の創建に係り、開山は一州正伊。當初は長勝寺と號せしも、五世太古の時より現寺號を用ふ。永祿六年兵燹に罹り爾來寺運大いに衰退、天正十七年德光禪師の頃より漸次舊に復す。

【三田村】 長野縣信濃國南安曇郡の中部。松本市を去る西北約一二粁。省線大糸南線豊科驛(豊科町內)より西方凡そ三粁。北は烏川村、東は温村、西は小倉村に接す。村の西境にある角藏山(一一六二米)は日本アルプスの前山たる狼鬼嶽(二六四七米)より常念嶽(二七五七米)に連亙する山脈の糸魚川—松本構造線の斷層崖の浸蝕による山なり。村は斷層浸蝕谷たる烏川・梓川の扇狀地の複合線に位す。從つて湧水多く水田に利用され、耕地面積に對する水田率の多きことが特色と見らる。田尻・田多井・小田井の三主要部落あり合して一村となり、三田村の名起る。田の字名を附することによりて同地の自然と經濟的立地の狀態が察せらる。村は東半は扇狀地にして松本平の一部を形成し、西半は角藏山の山地となる。從つて東部より水田・桑畑・林業と高度に照應する生產立地が明瞭に見らる。

【三田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に山縣郡三田郷あり、その地いまの山縣郡岩野田村・高富町の邊なるべし。

【三田村】 三重縣伊賀國阿山郡の中央西偏。上野町より約〇・五粁の北にあり。北半は約四〇〇米の山地なれど南に傾斜し、南半は伊賀盆地の一部を占めて地形低平なり。伊賀川は南部を西南流す。農業を主とし米・麥・菜種の產多く、日ノ菜の特產あり。省線關西本線は南部を東西に走り伊賀上野驛(明治三十年設置)あり。同驛より上野町へ縣道通ず。古くは三田郷に作り、和名抄に阿拜郡三田郷と見ゆ。

【三田】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に知頭郡三田郷あり、いまの八頭郡智頭村・中田村の邊なるべし。中田村の大字三田はその遺稱ならん。

【三田】 隱岐國(島根縣)の古地名。和名抄に知夫郡三田郷あり、美多と訓ず。その地今の知夫郡黑木村の邊に當る。

【三田村】 廣島縣安藝國高田郡の西南端。太田川の支流三篠川に沿ふ。東南は賀茂郡、西南は安佐郡に、北は秋越村に隣接す。面積三〇・〇四方粁。北には白木山(八九〇米)、南に高鉢山(七〇〇米)、東南に安田山(七三五米)聳立し、本村はその中間に横ばる。北部・南部共に地勢高峻なるも中央の三篠川沿岸に傾斜す。流域平地は農業行はれ、他の大部は山林地に屬す。米・麥・蒟・木炭・牛・馬・清酒・川魚等を產す。省線芸備線の上三田・彌谷(以上昭和五年設置)・中三田(大正四年設置)・白木山(昭和四年設置)の四驛あり。古くは三田郷に作り、和名抄に高田郡三田郷と見ゆ。中世は三田莊に作る。

ミタ 御田 武藏國(東京府)の古地名。和名抄には荏原郡御田郷あり、その地いまの東京市目黑區の一部および品川區大崎・芝區三田の邊までも及びしものなるべし。

ミタ 彌陀庄 臺灣高雄州岡山郡の西部。東は、北より路竹庄・岡山街・楠梓庄に接し、西は臺灣海峽に臨み、北は湯內庄に、南は左營庄に夫々隣接す。管內は概れ平地にて、地勢緩して東部に高く西部海岸には鹽田多し。產業の主なるものは農・水產・畜・工業等にて、農業を第一位とす。主產とするところは、米・落花生・甘藷・果實等にして、約百三十萬圓を產出す。また水產業に於ては、水產漁獲物・養殖漁獲物・水產製造等に分れ、全體にて年五十萬圓を漁獲す。

農家に於ては、水牛・黃牛・蠻種牛・豚・山羊・家鴨・鷄等を飼養する者多く、庄は畜產業の中心をなし、年產約三十一萬圓に達す。工業に於ては其の種類多岐に亙れども、其主なるものは製鹽・煉瓦・精米・醬油・蓆莨・竹細工・乾藷等にして其年產約五十萬圓と稱せらる。教育施設に於ては公學校三、分教場一を有し、就學率は昭和十一年末に於て三〇・一二%なりしも、近年社會教化機關として施設せられたる國語講習所・簡易國語講習所の增加は本島人子弟の向學心を增進し、就學兒童激增の傾向を示す。本庄內に於ては鐵道の通過するなきも、近年道路の完備と相俟つて自動車の運行盛となりしを以て、管內物資の移出入に不便少し。大字彌陀には現在役場の所在地にして、一律街を形成するも、臺灣府志(續修)には「彌陀港、永逸大海出入」とあるより推ぜば、往時は海岸線深く浸入して彌陀港なる一港を開き居りしものの如し。本庄の地は、清領當時建てられたる仁壽上里の大部分及び維新里の存せし地にして、上記二里は我領臺後も其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月地方制度改正に際し、上記二里中の十四庄(仁壽上里中の十二庄と維新里中の二庄)を割きて彌陀庄なる一庄を建て、高雄州岡山郡の管下に歸せしめたり。

ミタカ 三高村 廣島縣安藝國佐伯郡の南部海上なる西能美島の北部を占め、西北には凡そ五粁の海水を隔てて簸島に對し、東には津久茂瀨戸を隔てて江田島に對す。面積一〇・三二方粁。廣島灣に北面し、海岸には三吉・高畑の聚落存す。村內概ね山地にして地勢南方に漸高す。海岸線出入乏しきも、前面に那沙美瀨戸を隔てて大那沙美島・小那沙美島あり。據詰・酒類・內海魚類・米・麥・蒟・薪炭・牛・馬等の產多し。小那沙美島に燈臺を有し、近海航行の便あり。もとは三吉・高畑の二村なりしが明治二十二年合併して三高村と名づく。

ミタカ 三鷹村 東京府武藏國北多摩郡の東部。東京市の西隣にて北は武藏野町、南西は調布町と隣す。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く米・麥・蒟を產す。府道よく發達し、省線中央本線に北部を西走するも、三鷹驛(昭和五年設置)は武藏野町內にあり。社線帝都電鐵は三鷹臺驛・井之頭公園驛・吉祥寺驛の三驛を置く。村の西南部には東洋第一の東京天文臺を置く。省線の沿線は最近、東京西郊の住宅地として發展せんとしつゝあり。〔東京天文臺〕 大澤にあり。東經百三十九度三十二分二十九秒、北緯三十五度四十分二十一秒、海拔五七米に位す。天文學に關する事項を攻究し、天象觀測・曆書編製・時の測定・報時及び時計の檢定に關する事務を掌り、且つ大學院及び理學部學生の實地授業及び研究の用に供する所、大正十三年東京市麻布區よりここに移轉す。敷地三〇萬平方米。現今備付の天文學器械中主要なるものはレプソルドの子午儀、カールツァイスの赤道儀、メルツの赤道儀、スタインハイルの太陽寫眞機、プラッジヤーの天體寫眞機、テッファーの分光太陽寫眞機、リーフラーの一等振子時計三基、ゴーチエ一等子午環、カールツァイス大赤道儀、カールツァイスのアインスタイン塔望遠鏡等あり。毎年春秋二回を限り、望遠鏡による天體觀測を特志者に許可す。構內に測地學委員會の設けし測量基線あり、百米の等邊三角形を含する菱形の邊なり。參謀本部陸地測量部にここに一等三角點を設き、全國三角點の經緯度測定の基準點とす。

ミタガヤ 三田ヶ谷村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部。羽生町の東方にて、間に井泉村を挾み、北隣の村君村、東隣の大越村を隔てて利根川に近し。關東平野の一部を占め、全村平地にて米・麥の產多く、蒟も多產す。縣道に羽生町及び南方の不動岡町に通じ、何れもバスの便あり。羽生町には社線東武鐵道伊勢崎線羽生驛を置く。

ミタカラ 三寶 大阪府泉北郡にありし村。大正十五年堺市に編入す。

ミタカワ 三田川村 佐賀縣肥前國神埼郡の東南部。神埼町の東に接し東に三養基郡に界す。筑紫平野の中央を占むる爲め全村地形低平にて一望肥沃なる水田拓け、米產多し。蒟・麥も多く產す。北部には長崎街道及び省線長崎本線が橫斷し、神崎驛(西方約一粁)に近し。この地は和名抄、神埼郡神崎郷の內にして、中世は鍋島が龍造寺と共に相爭ひし地、のち、鍋島藩領たり。〔日達原櫻馬場〕古來日達原松原と稱せし地にて文祿元年、肥前・肥後の鍋島・加藤兩侯觀覽の下に於て行はると傳ふる日達原敵討の址なり。現今の櫻は明治五年に植ゑられしものなるが、成長頗る早く、根元の周圍一・二米に達するものあり。花季は約一粁の直線路の兩側は花より花に續きて花の大トンネルを成す。馬場を挾みし辨天神社にも櫻多し。馬場の西側に常設競馬場あり、陽春櫻花爛漫の候、花の吹雪を背に肥馬相競ひ、觀客殊に壑沓す。花季には日達原假驛が設けらる。〔東妙寺〕貴言律宗。寺傳に佐々木高綱の弟唯阿の開基に係るといひ、のち足利尊氏再興す。木造釋迦如來像・同聖觀音像・懷良親王御筆經卷は國寶。

ミタガワ 三田川村 埼玉縣武藏國秩父郡の西北部。小鹿野町の西隣にて、西は群馬縣多野郡と隣す。關東山地の一部を占め、北境に二子山(一一六六米)・白石山(九九七米)・觀音山(六九八米)等西より東に連り、南境もまた西部の兩神山(一七二四米)に續く山地をなし、南北より村內に傾斜す。村の中央は兩山地の接合にて河原澤川東流す。山地一帶潤葉樹林多し。川沿ひには狹き耕地あり

て農業行はれ麥・米を產し、養蠶も行はれて繭の產やや多し。川治ひに縣道東走して小鹿野町に通ず。桑落に殆どこれに沿ひて發達す。また縣道に續きて山間を西走する村道に群馬縣に通ず。

ミタキ　神瀧　↓鬼首村（宮城縣）

ミタケ　三岳

【三岳村】長野縣信濃國西筑摩郡の中部。木曾川の支流西野川と白川の合流點に位置し、村の西境には御嶽山（三〇六三米）聳ゆ。村に從つて御嶽山の死火山の東斜面にありて、南は更に三笠山（二二五六米）の山脚によりて王瀧村に隣接す。東は前アルプスの道官山（大笹澤山、二〇三一米）南に延びて新開村・福島町に接す。三岳の名は御嶽山の轉訛ならん。飛騨盆地より秋神川の溪谷を經て日本アルプスを西野川に越す地點に長峰峠あり。此の街道は飛騨と木曾谷を通ずる古道にて御嶽行者の參詣道なり。御嶽山は乘鞍嶽と共に古來その名著れ、夏季の登修の爲に殷盛なり。登山路は二道あり、福島町にて中央線を下り、西に合戸峠（一〇五一米）を經て三岳村里澤に達す。西野川を對岸に渡れば御嶽神社里宮に達す。更に屋敷野・千本松小屋・一ノ又小屋を經て剱ケ峯の本宮に赴く。山上は三峯あり、最高は劍峯にして北に摩利支天山・鑓子岳（二八五九米）あり、其の東側には三ノ池あり。一道は上松驛より王瀧村鞍馬橋に出でて王瀧より三笠山を經て頂上に達す。福島・上松は此等白衣の御嶽行者登山の根據地として夏季は絡繹たり。村は木曾林の一部をなし黒澤御嶽御料林あり。產業は林業を第一とし、谷底を利用し水田並に桑園あり。〔御嶽神社〕大字黒澤に鎭座。縣社。祭神、大己貴命・少彦名命。別稱、木曾總社。舊稱、白川神社。例祭、七月十八日。〔三岳村佛法僧蕃殖地〕指定天然記念物。佛法僧は其の鳴聲佛・法・僧の三寶を唱ふと稱され、一名三寶鳥といふ。東亞及び南洋に廣く分布するも本邦に於ては比較的稀なり。本地に佛法僧蕃殖地として古來聞著なるもの。

【三岳村】京都府丹波國天田郡の西北部。福知山市の北西一〇餘粁の地點に位し、北部は丹後・但馬に接する丹波高原の農山村なり。北部は大部分花崗岩質より成り、南東部の一部分は古生層なり。村の周邊部は五—六百米の稍々高き山地にて取圍まれ北東に最高の三岳山（八三九米）あり。中央に帶狀の平地略々南北に通じ牧川の支流この中を流る。この流域に僅少の平地を見る他は全村山地にして、薪炭業を主とし、若干の農耕や養蠶業行はる。道路は中央平地帶を略々南北に通じ北方の登尾峠を經て但馬出石方面へ、南西の佛坂峠を越え夜久野方面へ、南東は川に沿うて福知山市に通ずる道路あり。村の中央部荒倉自動車を通ず。本村は和名抄雀部郷の地なるべく、大字に佐々木あり。雀部は賀茂氏にして古事記に「神八井耳命者、雀部臣等祖」とあるものの末流發展の地ならん。

【三岳山】京都府與謝郡宮津町の南西方約二〇粁に當る山にして、天田郡三岳・雲原・金山の三村境上に跨る。標高八三九米。山體花崗岩より成る。山中に藏王權現を祀る。北西方に三國山（五七二米）峙つ。

ミタケ　三嶽村　熊本縣肥後國鹿本郡の北部。山鹿町の北方約二粁にありて、菊池川の支流岩野川に跨がる。東北隅の西岳（六四八米）より東南に連なる山脈ありて東境を限り、西岳より西南に延びるものは北境の東半を劃す。南境の中央には雲嶽（四一六米）蟠踞して廣く北へ山麓を擴げ、西北部には彥嶽（三六一米）の秀峯あり。西南部に廣く平野開け岩野川が西南流す。米・麥・繭を產し、木炭・茶・筍の特產あり。西部には國道が縱貫して山鹿町へバスの便あり。この地は和名抄、山鹿郡神西郷の內。

ミタケ　御岳　秋田縣平鹿郡山內村の北西境。標高七四四米、山體第三紀層より成る。山上に鹽竈彥神社あり。北西方には黑森山（七六三米）續く。

ミタケ　御嵩町　岐阜縣美濃國可兒郡の北部。岐阜市の東方約三二粁。北は錦津村に、東は上之郷村に、南は久々利村に、西は中村に接す。東濃山地の古生層よりなる部分にて可兒川はこの町の中部を東西に流れ、盆地を形作る。本町は盆地床には水田多く、米・麥・大豆・繭を產し、工產物としては生糸・味噌・醬油等あり、江戸時代より商業盛にして地方的中心なす。可兒川の谷には舊中山道通じ、土岐川の谷より山越に此地に來り西太田宿に至る。社線東濃鐵道は西隣中村に通じ御嵩驛（大正九年設置）を置く。町名は町の南方にある權現山が其麥よく同山に祀れる金峯神社の登き所より御山と云ふ意にて御嶽と云ひしを御嵩と轉訛せるものなり。古くは和名抄に見ゆる可兒郡可兒郷の地にて、中世は小泉庄に屬し、江戸時代は尾州藩領たり。村の北、可兒川の岸には古城址ありて礎殘る。戰國時代小栗信濃守則重の居城ぜし處と傳ふ。江戸時代は中山道の宿場として榮えしが、中央線の開通以來さびれて僅かに地方的中心たるに過ぎず、舊可兒郡の郡衙の所在地にて、いま警察署・御嵩刑務支所・東濃中學・區裁判所等あり。〔御村鑛山〕鑛區は御嵩町と中村とに跨りて三七萬餘坪、現在、御村炭鑛會社の稼行にて、昭和十年には亞炭三、三六三瓲（價額約一萬二千圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は二〇人とす。現に準重要鑛山たり。〔願興寺（盤藥師）〕天台宗。大寺山貫乘寺と號し、盤藥師或は可兒藥師と稱す。開創は最澄、自刻の藥師如來を安置す。天仁元年炎上、再建後、元龜三年兵火に罹り天正九年重建す。本尊木造藥師如來・兩脇侍像三驅は國寶。

ミタケ　御嶽

【御嶽村】宮城縣陸前國本吉郡の中部。志津川町の北方約一二粁。西は岩手縣、西南は登米郡に隣接し、東方は小泉村に面す。面積六九・四八方粁。西境に大岳・長崎山（三五一米）・論山、北境には德仙丈山（七一一米）・愛宕山（六三三米）・長森山（四九一米）、南境には田東山（五一二米）等聳え、全村山地多くして、津谷川は西北より東南に流れ、西境に發する馬籠川を合して南流し小泉川となりて小泉灣に注ぐ。米・麥・繭・木炭を產す。また下記德仙丈鑛山の外、大谷鑛山ありてその鑛區本村と大谷村に跨り、鑛種は金銀にて重要鑛山たり、昭和十年には金鑛二三、一八六瓲を出す（大谷鑛山參照）。其他、村內或は隣村に跨りて河內鑛山（金銀）・大盛鑛山（金銀銅）・狼ノ巢鑛山（金銅砒）・南澤鑛山（金銀）等あり。道路は南部を略東西に通じ、西方の東北本線新田驛へは約三五粁、バスの便あり。〔德仙丈鑛山〕御嶽村內に鑛區五三萬餘坪を有し、鑛種は金銀銅砒なり。昭和九年の試採に於て亞砒酸二四四、九〇〇瓲を得てより活氣を呈し、十年には亞砒酸二一萬瓲、含金燒滓六八二瓲（この總價額三萬三千餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數五四人。現在、宮國鑛業會社稼行。

【御嶽山】武州御嶽とも云ふ。東京府西多摩郡三田村に峙つ。山水美に富み、鬱蒼たる老杉の谷に樓・鷹鷗・楓など點綴し、北麓には淸流多摩川の東流するあり。春・夏・秋それ〴〵に興趣深し。山上は標高九四〇米を算し、平坦面ありて府社御嶽神社鎭座す。祖眞智命・大己貴命・少彦名命を祀る。境內は廣く、社殿壯麗なり。本殿は神明作りにして、現在の建物は明治年間の再建にかかる。本殿より南西方凡そ二粁なる男具郡ノ峯（一〇七〇米）に舊社殿奥の院あり。山頂よりは北方麓下に奥多摩渓谷を見下し、その彼方には多摩・秩父の遠山を指呼し、南方遠く相模灘を眺め、伊豆諸島をも望み得らる。但し本社附近は眺望きかず。男具郡ノ峯より更に南西方約二粁に大岳山（一二六七米）峙つ。この間安易にして興味深き縱走路通ず。登山は多く中央線立川驛にて青梅電鐵に乘換へ、終點御嶽驛より下車して行はる。多摩川に臨る御嶽橋を渡り、中野を經て山麓の瀧本まで二粁餘、この間自動車の便あり。これより瀧本茶屋・中ノ茶屋を經て山上に達す。これを表參道と稱す。瀧本より山上近く迄ケーブルカー通ず。山上には旅館なきも講中か宿泊せしむる二十餘軒の御師の家あり。山上より標路を取らず、西方日ノ出山（九〇二米）を經、南東方なる大久野村三ツ澤・肝要の部落を過ぎ、北東方青梅鐵道日向和田驛にも下り得らる。また青梅電鐵二俣尾驛下車、多摩川を渡り、吉野村上分より西方に尾根筋を進み、岩屋金比羅・三室山（六四七米）・日ノ出山を經ても建頂し得られ、また御嶽驛より更に西方多摩川を渡り、越澤を過ぎ、南東高するも閑寂にて興趣あり。

【御嶽登山鐵道】私設鐵道。東京府西多摩郡三田村にあり。瀧本驛より御嶽山驛に至る一粁の線。御嶽登山鐵道にして遊覽客を以て賑ふ。省線とは非連帶にして動力に電氣、軌間は一・〇六七米。

【御嶽村】熊本縣肥後國上益城郡の東部。阿蘇火山の南麓に位し、濱町の東に接し東南部は阿蘇郡の南部に界す。全村山岳地をなし、總じて東北に高く西南に低く中央には見嶽山（六三三米）あり、緣川は南部を西南流し、一支流は北方より來りて西部を南流し西南隅にて緣川に合す。生業は殆ど純農なれど山野多く、良材を出し、また良牛を產す。縣道が中央を東西に横斷し濱町及び東方の馬見原町に自動車を通ず。村內に横野瀧（高三六米、幅四〇米）、上川井野瀧（高二〇米、幅一二米）・犀ヶ瀧（高三二米、幅一五米）あり。〔男成神社〕大字男成に鎭座。郷社。祭神、天照皇大神・神武天皇・神八井耳命。舒明天皇十二年の創祀。建久年中、阿蘇大宮司惟次社領二百餘町を寄せて以來、大宮司家の崇敬厚く此の社頭にて常に元服せりと云ふ。例祭、四月三日。

ミタジリ　三田尻　山口縣佐波郡にありし村。明治三十四年本村および佐波村を合併して防府町（のち市制を布く）を置く。山陽本線の三田尻驛（明治三十一年設置）は防府市三田尻にあり、社線防石鐵道これに接續す。

ミタテ　見立　宮崎縣西臼杵郡岩戸村の字。天ノ岩戸傳說を以て有名なる岩戸村を流るる日ノ影川の上流地方に見立鑛山あり。〔見立鑛山〕鑛種は銀銅鉛錫砒なるが、錫を以て名あり。鑛區一二六萬餘坪。その地質は主に古生層の硅岩・石灰岩・見立礫岩より成り、鑛脈は硅岩と石灰岩との境に沿ひ或は石灰岩と礫岩との境する斷層面に沿うて發達し、その特徴は砒硫鐵鑛中に錫石を混ふる事とす。東洋鑛山會社の稼行に係り、昭和十年には錫精鑛八二八・九瓲（價額一七二萬餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は五〇一人とす。現に重要鑛山に列す。

ミタテ　御館村　福島縣磐城國田村郡の西部。郡山市の東南約一二粁。三春町の南方約九粁。阿武隈山地の西斜面に屬し、東境に黑石山（田村富士、八九六米）、東南境に一盃山（八五五米）、西境には御館山（五二三米）聳え、全村綾ね山地なす。谷田川の一支流北部に發源して村の中部を南流す。米・繭・葉煙草・馬等を產す。道路は中部を東西に通じ、郡山市及び東南方小野新町へはバスの便あり。この地は和名抄、安積郡小川郷の內なるべく、大字本目澤は田村月斎顯氏の七男本目澤善五郎顯繼の居りし所。戊辰の役には此地は激戰のありし地なり。大字下枝には稱本の故城あり、御館ともいふ。

橋本氏は下枝氏とも稱し、田村氏の一門なり。〔管布彌神社〕大字御代田に鎮座。郷社。祭神、震田彦命。神殿・幣殿・拜殿等を具ふ。例祭、十一月四日。

ミタニ　三谷

【三谷村】 福島縣岩代國大沼郡の中部。柳津村の西南約一五粁。西境には高森山（一一〇〇米）・赤松山（八一四米）、南境に狐倉山（一〇五六米）・志津倉山（一二〇九米）、東境には岩嶺山（八七六米）聳え、北方に傾斜し、大谷川は南境に發源して中部を北流し、只見川に合す。全村概れ山地なせり。米・繭・木炭を產す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、省線會津線の柳津驛へは東北方凡そ一五粁あり。

【三谷村】 石川縣加賀國河北郡の東部。森本川上流に沿ひ、西南は金澤市に、東は寶達山脈を境に富山縣越中國西礪波郡に接す。全村丘陵起伏し東北より來る森本川は村内諸水を集めて西北へ貫流し、之等本支流に沿ひて耕地開く。米を主產し、山林には薪炭を出す。谷沿の縣道は三條に分れて東方越中國に至る。省線北陸本線森本驛に近し。明治四十年、直江谷・小原谷・桑師谷の三村を廢し新に本村を設く。〔深谷鹽泉〕泉質、弱アルカリ性の炭酸泉・食鹽泉にて黃褐色透明、硫化水素臭あり、加熱浴用。地は東・南・北の三面山を繞らし、中央深谷を流す一條の清流走る閑雅の境にて、春の蕨狩、秋の茸狩などを兼ねて金澤邊よりの浴客多し。元湯・中ノ湯・入口ノ湯の三つに分れ、昔より痔疾に卓效ありと傳ふ。

【三谷村】 石川縣加賀國江沼郡の西部。大聖寺町の南に接し、西南は福井縣越前國坂井郡に界す。加賀山脈の支脈の末端部を占め、五百米前後の丘陵南より北へ傾斜し、全村山林に富む。北部は大聖寺川の小支流に沿ひ僅に平地あり、農耕行はる。山地は林產物、低地は米を主產とす。大聖寺町より一條の道路來り省線北陸本線大聖寺驛に近し。この地は和名抄江沼郡郡家郷の内なるべし。

【三谷村】 滋賀縣近江國高島郡の北部。今津町の西北方約八粁に位し、西及び北は福井縣遠敷郡・三方郡に界す。南北に稍々長く、北方頂點とする略々三角形を呈す。全村山岳重疊し、北部には三十三間山（八四二米）・三重嶽（九七四米）・武奈ケ嶽等の高峰屹立し、南部も六—七百米の山地起伏す。河川は東部に石田川ありて南流し、東南部にて東折し今津町に入る。西部には西南隅に發して北流する北川あり、中央にて北境に發し西部を南下し來る支流を入れて西折し、遠敷郡に入る。主生業は炭燒にして木炭を主產物とす。特產物には三椏あり。若狹街道が南部を横斷し石田川沿岸より北川沿岸に出で、途中にて南走し京都市に至る縣道を分つ。街道には自動車の便あれど其他は交通不便なり。村名はこの地、椋川谷・角川谷・山中谷の三つの谷あるを以て三谷と名づけしもの。

【三谷村】 島根縣石見國邑智郡の北部。川本町の西北方約三粁に位し、北は邇摩郡、西は三原村、南は川下村に隣接す。面積一一・九三方粁。村内概れ山地に藍はれて平地乏しきも、所々の山間凹地に耕作行はる。米・木材・木炭等を產するも其額は多からず。省線山陰本線黑松驛・温泉津驛へ夫々バス通ず。もと三俣・湯谷の二村に分れしが明治二十二年合併して三谷村と名づく。

【三谷村】 岡山縣備中國小田郡の東南隅。矢掛町の東南に接し、南は淺口郡、東は吉備郡、北は美川村に界す。面積一六・四三方粁。南北に長き地形を有し、北部及び南部は山地あり。北に鷲峰山（三九九米）、南には富峰（一八五米）聳ゆ。中央を高梁川支流小田川東流し、地勢南北より河岸に向ひて傾斜せり。沿岸に平地ひらけ耕地多し。耕地及び山林は面積をほぼ相等しうす。米・繭・麥・柿・薄荷等の產多く、富峰北麓には彌高鑛山あり。山陽街道河に沿うて東西に貫通し、矢掛町・笠岡町にバス通ず。山田村と共に和名抄、小田郡草壁郷の地なり。〔彌高鑛山〕三谷村内に鑛區二一萬餘坪を有す、鑛種は銀銅砿なるが、昭和十年には銀銅鑛七七〇瓩を產出す。鑛石は直鳥製錬所に送附して合併製錬をなす。昭和鑛業會社の稼行にして、十年六月末の鑛夫數七五人、現に準重要鑛山に列す。〔猿懸城〕大字横谷にある城址。鎌倉時代藤原家長の築城といふ。元弘の亂の時、莊資房此處にありて北條氏に屬し滅ぼさる。〔下道氏墓〕指定史蹟。丘陵の傾斜面に築造せられたる墳墓にして、元祿十二年、和銅元年の銘文ある骨藏器を發見せり。墓域に石棺あり、骨藏銅器を收めし外盒にして俗に唐臼と稱し、直徑〇・八一米、高さ〇・五一米の身部及び蓋の殘缺を遺存す。なほ現場附近よりはその後墓誌斷片・陶土器破片・和銅錢等を發見し、奈良時代に於ける墓制を見るに足る貴重なる遺跡なり。〔國勝寺〕大字東三成にあり。古義眞言宗。神籠山と號す。創建年代不詳。往時地藏院と號す。元祿十二年、當村の小山より火葬白骨を盛れる一銅壺を發掘す。其壺の蓋銘により、その白骨の吉備眞備の祖母の遺骨なるを知り、因て廟を作り之を祀る。後ち領主新に櫛を造りて地藏院に安置、寺號を國勝寺と改む。銅壺一口は左衞士府（以下缺）、夫人（以下缺）、一枚の墓誌斷片を附して國寶たり。〔林澤寺（中ノ院）〕大字東三成にあり。古義眞言宗。一に中院とも稱し、沿革不詳。絹本着色四所明神像一幅・同五大尊像一幅・同愛染明王像二幅・同地藏菩薩像一幅は國寶。〔洞松寺〕曹洞宗。初號、洞松司院。地は神功皇后・孝謙天皇の御遺蹟にして、天智天皇の勅願により僧觀敬尊創建すと傳ふ。元祿十年再建す。

【三谷】 備後國（廣島縣）の古地名。和名抄に三谷郡三谷郷あり、その地今の雙三郡和田村なるべし。

【三谷】 省線山口線の一驛（大正七年設置）。山口縣阿武郡徳生村にあり。

【三谷村】 香川縣讃岐國木田郡の西部。川島町の西にあり、北に林村、南に西植田村あり、西は香川郡に隣す。西及び南に五〇—一〇〇米の丘陵起伏して緩かな斜面をなし、その下に低平なる高松平野開け各所に用水池ありて灌漑を助く。詰田川の上流ここに源を發して村の中央を流れ、北流して瀬戸内海に注ぐ。農耕よく行はれ米・麥・繭の產多く、丘陵地は葉煙草の栽培盛に行はる。北部平野を東西に縣道通りて川島・佛生山の二町を連絡し交通至便なり。この地は和名抄、山田郡三谷郷の地にして、延喜式三谷驛とあるは此地なり。東讃の名家、三谷氏はこの地に在名を稱せしものにして、讃岐朝臣豊邦の弟豊岡を祖とす。いま城址は本村の犬馬場にあり。森末の勤王家、藤川將監（贈正五位）は本村の人なり。〔八幡神社〕大字宮浦に鎮座。郷社。祭神、誉田別尊。天暦二年山田郡守小海基治、當村中洲に創祀し、天正十年現地に遷せりと傳ふ。例祭、九月二十五日。

ミタニ　三谿

【三谿（郡）】 備後國（廣島縣）の古郡名。日本後紀延暦二十四年に郡名見ゆ。和名抄に美多爾と註し、三谷・松部・江田・飯田・刑部の五郷を管す。明治三十一年十月、三次郡と合して雙三郡の新稱を建て郡名を失ふ。

【三谿】 備後國（廣島縣）の古地名。和名抄に安那郡三谿郷あり、その地今の深安郡中條村・廣瀬村の邊に當る。

ミタマ　三玉村　熊本縣肥後國鹿本郡の中部。來民町の北に隣接し、西南一粁たらずには山鹿町あり。西北境には雲嶽（四一六米）一帶の山脈が西南より東北に連りて村境をなし、それより東南方へ延びる山脈は北境及び東境を限り其末端の西麓に湖水あり。西南部一帶は熊本平野の北部を占めて地形低平なり。繭の產多く米・麥を產し畜產も出す。〔民・山鹿兩町に接してバスの便よし。大字久原に菊池氏の祖菊池則隆の建立せる靈仙寺あり、平重盛再營して七堂伽藍完備せしが天正中燒失す。〔不動岩〕湧生にあり、高さ約九一米、恰も人の立つが如く、老松古苔茂生し、怪奇を極む。西麓には凡道寺と稱する細川氏の靈祭所あり。

ミタミ　美談　出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に出雲郡美談郷あり、その地は今の簸川郡國富村に當り、大字美談はその遺稱なり。風土記の美談郷も此の地なり。

ミタライ　御手洗町　廣島縣安藝國豐田郡の南方海上に浮ぶ大崎下嶋の東端を占め、西は大長村に接し、三周は海に圍まる。東に水道を挾んで愛媛縣岡村島横ばり、東北に大崎上島の南端大崎南村あり。面積〇・二方粁。海に面して市街地發展し全面積の略半ばを占め、畑地には果樹の栽培行はれ桃の名所なり。鯛・鰆・米・麥を產す。古來瀬戸内海航路の街に當り海驛として發達せり。大崎上島の木ノ江町及び四國高濱間に定期航路を有す。神功皇后征韓の途御船を繫ぎ御手を洗ひ給ひし所と言傳ふ。往昔より瀬戸内海の海驛として西國諸藩の官船私船皆此處に出入せり。〔滿舟寺〕古義眞言宗。南湖山と號す。平清盛の建立と傳ふ。寛永七年大火のため灰燼に歸し、享保十一年再建、南湖山滿舟密寺と公稱。本尊十一面觀音は三十三年毎に開扉。

ミタラシ　御手洗村　石川縣加賀國石川郡の西部。日本海に臨み、松任町の西北方約三粁。全村土地平坦にして海岸は單調なる砂濱をなす。聚落之に沿ひて三箇の集村に分れ、半農半漁を以て生計を立つ。農產物は概ね米なり。松任町に至る二條の縣道あり、省線北陸本線松任驛へ約四粁を隔つ。この地は和名抄、石川郡荒部郷の内。

ミチ　味知　加賀國（石川縣）の古地名。和名抄には石川郡味知郷あり、美知と調す。その地はいまの石川郡鶴來町の邊に當る。

ミチ　陸奥（國）　ミチノクノクニの略稱。ノクノクの音重複するが故に之を口唱する場合何時しかノクの一が略ぜられて、從道にミチノクニと呼ぶに至る。なほカミツケノノ國（上毛野國）・シモツケノノ國（下毛野國）のノの一を略して、カミツケ（上野）ノ國、シモツケ（下野）ノ國と呼び、遂にカミツケ・シモツケを國名とするに至りし場合と同じ。而も歌詞などには專に依りてミチノクと稱す。拾遺集平兼盛の歌の詞書に、「みちの國名取の郡黑塚といふ所に重之が妹あまたありと聞きて云ひつかはしける」とありて、歌には「みちのくの安達が原の黑塚に、鬼籠れりと言ふはまことか」とあるもの以て見るべし。後に地方音によりてムツの國となる。（次項）

ミチオクタニ　道奥谷鑛山　京都府にある滿俺山。鑛區は船井郡五ケ莊村と北桑田郡宮島村とに跨がりて約一五萬坪、山陰本線殿田驛より一三粁餘の地點にあり。當鑛區の地質は、下層に古生層に屬する硅岩あり、石英質千枚岩上層として之を覆ふ。鑛床はこの硅岩と千枚岩との間に整然たる鑛脈をなして胚胎す。昭和十年には滿俺鑛一、三一〇瓩（價額三萬餘圓）を產出し、重要鑛山に列す。

ミチカタ　道潟　志摩國（三重縣）の古地名。和名抄に英虞郡道潟郷あり、刊本に潟を浮に作るも、神鳳抄に志摩國道方の名あるにより之を訂す。その地今の度會郡中島村・鵜倉村に當る。

ミチカワ　道川村　秋田縣羽後國山利郡の西北部。有名な道川油田の所

征地。東は河邊郡戸米川村に、南は魚田町に隣接し、西は日本海に面す。面積約五四方粁。酒田街道は海岸を南北に通ず。省線羽越本線の道川驛(大正九年設置)あり。地勢東部に高く西方に傾斜し鳥海山(三、四三米)は東南境にそびゆ。君ヶ野川は東境に發源して村の中部を西流して日本海に注ぎ、沿岸に耕地拓く。海岸は平直にして砂濱をなす。生業は農を主とし、他に北海道へ出稼をなす者及び村内の石油鑛場に働く者あり。漁業は農閑期に鰯・鯖等の來襲を待ちて營むに過ぎず。當村の一部は上郷村・下濱村の各一部と共に由利鑛山の鑛區をなす。同鑛山は秋田油田に於ける屈指の石油山にして、また本邦重要鑛山の一たり。この外、村内には幾多の石油鑛區あれど何れも振はず。僅かに大サ澤鑛山(旭石油會社稼行)は昭和九年に事業を開始し、同年原油四〇七瓩を產出す。なほ鵜手鑛山(日本石油稼行)も同年試掘に於て原油二六瓩を出だす。〔道川油田〕秋田油田の一分區にして、道川村邊より河邊郡豐岩村邊にかけ南北に細長く約一四粁に亙る。地質調査所の調定によれば、由利統に屬し下部は北浦層(砂岩・頁岩の互層)上部は脇本層(砂質・頁岩)にして、油層は頁岩の龜裂に存し、深度は凡そ二〇〇—二七〇米とす。代表的鑛山は道川村を中心とする由利鑛山なり。〔由利鑛山〕鑛區は道川・上郷・下濱の三村に跨がりて約三八七萬坪。當鑛區の油層は多數あり、厚さ薄きは一米以下にして厚きは九米に及ぶといふ。日本石油會社の稼行にて、昭和十年には原油七、二一三瓩、瓦斯一、〇一二、九〇〇立方米を產出し、秋田製油所に於て精製せらる。なほ同年六月末の鑛夫數一〇九人とす。

【道川村】 鳥根縣石見國美濃郡の東端。北は那賀郡に、東は廣島縣に界し、南は匹見上村に、西は二川・都茂・匹見下の三村に隣接す。面積八〇・九三方粁の大村。地形南北に長く、東部に一〇〇〇米の高峻なる山脈南北に連りて廣島縣と界し、西部また春日山(九八九米)・獅畝山(九六四米)を以て界す。地勢概れ高燥なれども高津川の上流南部を貫流し流域に耕地を拓き、また山林多し。木炭・木材の產最も多く、米・醬油等之に次ぐ。益田町及び匹見下村に乘道の便あり。

ミチクチ　道口　岡山縣淺口郡にありし村。明治三十六年池田村と合併して富田村を建つ。

ミチジタ　道下村　富山縣越中國下新川郡の西部。富山灣に臨み、魚津町の北に隣接す。海岸に沿ひて南北に長く全村平地なり。生業は半農半漁にて米及び漁獲物を主產とす。國產肥料工場ありて水產物による肥料製造行はれ、また藥品製造業も行はる。東部を縣道及び省線北陸本線南北に貫通し、後者の魚津驛(明治四十一年設置)あり、社線富山電氣これに接續す。〔魚津埋没林〕指定天然記念物。曾て陸上に繁茂せる原始林が陸地の急激なる陷沒のため海中に沒入し次いで土砂の被ふ所となりたるものなり。樹種は杉を主とし多少の闊葉樹を交ふ。樹齢二百年乃至五百年を主とし稀に千年に及ぶ。大部分は其樹株のみ存するも、中には倒木の長き樹幹の保存せらるるものあり、原始林下にありたる落葉層も亦泥炭として保存さるるを見る。之等埋沒樹の既に發掘されたるもの百六十餘本に及ぶも、尙ほ多數の樹株・樹幹の附近一帶に埋沒し居るを豫想せらる。

ミチタ　道田　常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に行方郡道田郷あり、その地今の行方郡大和村の邊に當る。

ミチノウエ　道上村　廣島縣備後國深安郡の中西部。神邊町の西北に連なり、西北は加茂村・下加茂村、東北は中條村、南は下岩成村に接す。面積三・四七方粁。地形南北に延び、北半に低き山地を有すれど、南半は平地ひらけ耕地存す。農業・養蠶業盛んにして牧畜は之に次ぐ。純農村なり。米・麥・蒟・蒻・牛・馬等を產す。省線福塩南線中央を東西に通じ道上驛(大正三年設置)あり。

ミチノオ　道ノ尾　長崎本線の一驛(明治三十年設置)。長崎縣西彼杵郡長與村にあり。

ミチノオクキクタ　道奥菊多　↓

ミチノク　陸奥　道の奥の義。古くは今の福島縣以北なる太平洋方面の地域を汎稱す。古事記に道奥石城國造、舊事記國造本紀に道奥菊多國造の名あり。陸の字に道の義あり、よりて奈良朝以來「陸奥」の二字を用ふる例となる。中世略して之をミチノ國と稱し、轉じてムツとなる。日本紀景行天皇條に、日本武尊の蝦夷を征するや、上總より轉じて陸奥國に入り、蝦夷既に平いで日高見國より還り西南當陸を經て、甲斐國に至るとあり。之を陸奥の國名の初見となす。普通に修して奥州といふ。ここに日高見國とは、上文に武内宿禰の奏言を錄して、「東夷の中に日高見國あり、其の國人男女ともに擂結文身、人と爲り勇悍なり、是をすべて蝦夷といふ」とありて、往時蝦夷の本國の義として解せられしもの。日本紀の成れる奈良朝初期に於ては、今の岩手縣北上川流域以北をすべて蝦夷の國となし之を漠然日高見國と呼びしものの如し。ヒダカミとは夷人住所の地方の義なり。其の北上川、古名を日高見川と云ひ又日上川と書けり。三代實錄に日高見水神あり、延喜式内日高見神社の名を以て錄上す。されば日本紀編者の見る所、日本武尊平定の蝦夷の國を以て此の地方に擬定せしものなるべし。然れども、古事記の記する所によれば、尊は走水の海を渡りて後、それより出でまして悉く荒振る蝦夷どもを平げ、還り上ります時に足柄の坂本に至りませる事なのみ云ひて、其の足跡の必ずしも奥州に及べることを言はず。更に承和二年の太政官符によれば、舊記を案ずるに白河・菊多の剗を置いてより、今に四百餘歲とありて、時代はほぼ允恭天皇の御代に當る。然らばそれよりも遙に上れる景行天皇の御代に於て、尊が遠く北上地方にまで到り給へる事疑なきにあらず。蓋し奥州は當時蝦夷の國として、此の頃其の入口なる山道・海道の要害に剗を置き、以て華夷の境界を劃せしものならん。唐書に我が國の事を記して、東北大山を隔り其の外は卽ち毛人とあり。毛人は卽ち蝦夷なり。關東奥羽を分てる白河・菊多一帶の山堂以外を以て蝦夷の國となせし狀以て觀るべし。降りて藤倉時代に至りても、なほ奥羽を目して蝦夷の國と認めしことは、文治五年の鎮府の政令に於て、「出羽・陸奥に於ては夷の國たるによりて、度々の新制にも除き訖りぬ」との理由を以て、舊制上除外例を認めしことによりても察せらる。然るに古事記には、崇神天皇の御代四道將軍派遣の時、北陸に向へる大彦命と、東海に向へる武淳川別命との父子が、會津に相會せりとの傳說を收む。蓋し所謂地名傳說に屬するものとして、史實に遠きものなるべし。陸奥が一國として設置せられたる年代は明かならず。大化の改新に先づ東方八道の國司を任ず。當陸風土記に、此の時坂東地方分れて八國となるとありて、而も當時安房國分置以前の事なれば、當然陸奥國は右八國の一に數へられたりしものなるべし。蓋し義きに白河・菊多の二關を置きて以來、皇化次第に關外に及び、つひにこゝに一國の設置を見るに至りしものならん。國造本紀には道奥菊多・道口・岐閇・阿尺・思・伊久・染羽・浮田・信夫・白河・石背・石城等の諸國造の名が揭げ、菊多・岐閇の二國造は應神天皇の御代に、また阿尺以下の九國造は更に古く成務天皇の御代に置かれたりと記す。其の時代を言ふもの、後の國造家の家傳に基づき、必ずしも悉く信ずべきにはあらざらんも、常陸風土記には常陸の各地に倭武天皇の遺蹟を傳ふる多く、また景行天皇東國巡狩の古傳の諷ひ難きものなきにあらざれば、武尊の經營は崇神天皇の皇子豐城入彦命の兩毛地方經營の古傳と相俟つて、當時房總半島より、少くも常陸方面に渉れるものと解すべく、皇化是より次第に北進して、是等諸國造が成務天皇の御代に於て設置せりとの古傳の如きも、必ずしも排すべきにあらず。斯くて大化の改新に際しては今の圖東地方と共に、是等の地方を一國として、道の奥に在る國の意味より、陸奥國司の任命ありしものか。當時陸奥國司の管する範圍は、主として今の福島縣特に阿武隈川流域地方、及び海岸方面に限られたりしものなるべし。降つて持統天皇の御代に至り、陸奥國優嗜曇郡の城養蝦夷の佛道に歸する事あり。優嗜曇郡は後の出羽國置賜郡にして、皇化福島地方より板谷峠を越えて最上川上流地方に進出し、風にこゝに城養の蝦夷なる熟蝦夷の存在を見るに至りしことを示す。和銅五年出羽國の設置せらるゝや、其の北に置かれたりし最上郡と共に出羽國に移管せらる。次ぎに太平洋海岸方面にありては、孝德天皇の御代に石城郡の設置あり更に天智天皇の御代に至り、石城の船造をして國を覓めしめんが爲に長さ十五丈の大船を造らしめしこと、共に常陸風土記に見ゆ。太平洋岸夷地經營の進歩以て察すべし。斯くて文武天皇大寶令制定の頃には、海岸方面に石城國、仙道卽ち阿武隈川流域、及び會津に渉りて石背國の設置を見るに至る。治府は恐らくは後の石城郡と岩瀨郡とにありしなるべし。續日本紀には此の兩國を以て、能登・安房と共に奈良朝初期養老二年の設置となす。而も其の記事中既に明かなる矛盾誤謬あり、また其の原文を抄錄せる日本紀略には能登・安房兩國分立の事のみを言ひて、石城・石背兩國の事を言はず。殊に扶桑略記に至りては、此の際此の兩國を廢して陸奥に合併せりとなせるなり。蓋し今の續日本紀の記事は、後人の傍書の攙入なるべく、扶桑略記の記事も亦年時に於て誤謬あり。養老三年の時なほ兩國の存在せしことは、閏七月に石城國驛家十處を置くことによりて知らる。蓋し從來東山道の一國として、石背よりのみ通ぜし陸奥國に對して石城より通ずる海岸路を開きしものなるべし。然るに其の後夷地經營の進歩に伴つて、直接に征夷の衝に當る陸奥の國力充實の必要ありてか、此の兩國を廢して陸奥國に合併す。續日本紀神龜元年坂東九國の語あり。當時安房分立後の事なれば、所謂九國は今の關東八州と陸奥とにして、石城・石背の兩國は既に廢止せられし後なるべし。次で同書神龜五年四月條に、陸奥國に白河軍團を置くの記事あるを見れば、此の時石背國の存せざりしは明白にして、兩國の廢止は養老三年閏七月より、還くとも神龜五年四月の間にありしなるべし。明治元年に陸奥を分ちて五國となすに當り、此の兩國の舊稱を復して、舊地域に磐城・岩代の二國を置く。磐城は舊名石城が今人にイハキと讀み難かるべきを顧慮して、殊更に其の文字を改めたりしもの、また岩代は舊名石背をイハシロと讀み誤り、それに讀み易き文字を擇びて寃てしに外ならず。其の石背がイハセなるべきことは、其の石背郡を延喜式に磐瀨(今岩瀨)に作れるによりて知らる。但し兩國の境域古今同じからず。古への石城國は專ら海道卽ち阿武隈山脈以東の太平洋面地方にのみ限られ、石背國は仙道卽ち阿武隈川流域と、會津地方とを包括せしが、明治の分割に際しては國力の均等に重きを置き、舊石城國の全部及び舊石

流れ（いまの東谷川・西谷川）、江刺郡（いまの東磐井・西磐井）、新田郡（いまの気仙郡の中）、小田郡（いまの気仙郡の中）、登米郡（いまの登米郡の中）、遠田郡（いまの遠田郡の中）、牡鹿郡（いまの牡鹿郡の中）、桃生郡（いまの桃生郡の中）、黒川郡（いまの黒川郡の中）

この三十六郡、其の後陸奥国は今の福島・宮城二縣の全部及び岩手縣の南部約四分の一の地域に限られ、岩手縣の大部分及び青森縣の地には、當時化外の地として、國司統治の外に置かれたりしなかりき。後に岩手郡の名見えゆ。蓋し土豪の系に配く所か。鎌倉時代の初期頃迄郡五郡の名あるも、其の後國及び中に中に見出だされ、岩手縣の大部分及び青森縣の地に於て奈良朝末期に於て、俘人懷柔の手段として、或者に此の縁を結ばりたる場合多く、此の安倍氏並に亦其の一たりしなら人。安倍顯時の祖父忠頼、東國の奥守として貫頭大いに振び、北は岩手郡より、南は記録後・鮮貫・和賀三郡以南、岩手郡の全部及び所謂南部・江刺の二郡を含む地域を、其の勢力の及ぶ所、殆んど全部に亘りて、俘人を懷柔して、其威を輝せず、節度使を置かず、手忠貞を鎮守府將軍に任じて、其の勢ますます人心を服し、遂に奥州の大部分を、其の支配下に置くに至れり。其の後、忠頼の子、頼時、頼時の子、貞任、宗任の兄弟、相ひ繼いで、其の勢力を、益々強大ならしめ、其の間、國司の命に從はず、貢租を納めず、其の勢、ますます盛んなりき。時に、貞任の弟、宗任、鎮守府將軍に任ぜられ、其の子、重任、鎮守府將軍に任ぜられ、其の子、重任、鎮守府將軍に任ぜられ、其の子、重

く組織以來の舊家と稱する三戸南部氏勢力を占め、遂に津輕の安東氏を攻めて其の地を奪ふ。津輕はもと出羽の中、其の陸奥國に入りたるは、南部氏が之を併合せし以來の事なるべし。天正十八年豐臣秀吉の小田原北條氏を滅すや其の餘威遠く奥羽を壓し、時勢を見るに敏なる諸豪は逸早く拜趨して、其の本領の安堵を得たるもの多し。中にも津輕爲信が、其の自身切り從へたる津輕四萬五千石の領知を認められたるが如きは其の尤なるものなりとす。然るに津輕地方はもと南部氏が武力を以て安東氏より奪取せる所。隨つて南部氏より之を觀れば、津輕氏は其の被管たる一代官に過ぎず。而も津輕氏は能く自力を以て之を平定したるものとして、南部氏の被管たることを認めず。ここに於て爾後永く兩氏の間には意志の扞格を來し、境を接して相反目するの態度を繼承したりといふ。また此の際豐臣氏に款を通ずるの機に後れたるものは、寧敢なく所領沒收の厄に遭へり。葛西・大崎兩氏の如きは其の最なるものなりとす。結城・田村の諸氏亦此の厄に遭ふ。また伊達氏の所領會津・仙道の地方は奥羽の入口として、關東地方の防衛上重要の地なるが故に、秀吉は政宗より之を削り葛西・大崎二氏の舊領と交換す。此地方は一旦木村秀俊に與へられたりしが、秀俊領内の統治に堪へずして除削せられ之を伊達政宗に加賜するに至りしなり。かくて其の削れる會津・仙道の地方には腹心の碧瀧生氏郷を移して奥羽の押へとなす。然るに慶長三年氏郷死して子秀行年弱く、其の任に堪へざるを以て下野宇都宮に移され、其の舊地は之を上杉景勝に與へしが、關原役後、景勝削封され、僅に出羽米澤地方及び伊達・信夫の二郡三十萬石のみを給せられ、會津及び上杉領以外の仙道諸郡には蒲生秀行の復封を見るに至る。然るに其の子忠郷死して嗣なく家斷絶し、加藤嘉明代りて會津に移り、子明成に至りて收公、德川秀忠の臣子保科正之、出羽山形より移りて會津地方を領し、傳へて明治維新に至る。此の外福島縣の地方は數多の大名之を分割して、治革變遷また比較的多かりしが、宮城縣以北なる伊達・南部・津輕の諸氏の所領は、流石に僻遠邊鄙の地として、幕府の干渉多からず、爲に後に少許の支藩を分てる外には江戸時代を通じて殆ど變更なく、傳へて明治維新に至る。江戸幕末に於ける奥州の諸大名左の如し。

〔白河〕〔番城〕もと結城氏居る。其の後數次の變遷あり。文政六年阿部氏武藏忍より來り十萬石を領す。慶應二年正静郷倉に移されて、城は番城となる。〔郷倉〕阿部氏十萬石。天保七年、松平（松井）氏石見濱田より移り、六萬四百石を領す。慶應元年二萬石を加へて武藏川越に轉じ阿部正静白河より移りて之に居る。〔中村〕相馬氏六萬石。鎌倉時代以來の舊家にして、關後殆ど變更なく、我が國三百諸侯中稀有に屬す。〔三春〕秋田氏五萬石。もと田村氏の居城。秀吉沒收後數次の變遷あり。正保二年秋田氏常陸宍戸より移る。秋田氏は津輕安東氏の後。關原役後秋田實季舊領秋田の地を收公され、子俊季宍戸五萬石に封ぜられ、ここに至りて三春に移る。〔磐城平〕安藤氏三萬石。もと岩城氏の居城。關原役後收公せられて以來數次の變遷あり。實暦六年安藤氏美濃加納より移り五萬石を領す。文久二年老中對馬守信睦坂下門の變により致仕、二萬石削封。〔守山〕松平氏二萬石。水戸德川氏の分家。維新後常陸松川に移る。〔泉〕本多氏二萬石。維新後官軍に抗して二千石を削らる。〔湯長谷〕内藤氏一萬五千石。維新後官軍に抗し一千石を削らる。〔會津（若松）〕松平（保科）氏二十八萬石。もと蘆名氏の居城。伊達・蒲生・上杉諸氏を經て、寛永二十年保科正之二十三萬石を以てここに封ぜらる。元治元年五萬石加增。維新後官軍に抗して所領沒收。翌年、陸奥田名部に於て三萬石を給せられ、斗南藩を建つ。〔二本松〕丹羽氏十萬石。伊達政宗移封の後數次の變遷を經、寛永二十年丹羽氏自河より轉ず。維新後官軍に抗し收封。ついで五萬石を給せらる。〔福島〕板倉氏三萬石。元祿十二年板倉氏信濃坂木より移り世襲。維新後官軍に抗して二千石を削られ、ついで三河に移りて重原藩を立つ。〔下手渡〕立花氏一萬石。立花氏もと筑後三池にて一萬石を領す。文化三年下手渡に移る。維新後治所を舊領三池に轉じて三池藩を立つ。〔仙臺〕伊達氏六十二萬石餘。政宗會津より封を轉じて當國岩手山に移り、慶長五年、仙臺に移る。當時五十八萬石餘。後增封して六十二萬石餘となる。維新後慶邦官軍に抗するの故を以て收封せられ、ついで奥羽鎮撫舊領の中二十八萬石を給せらる。〔一ノ關〕田村氏もと三春に居る。秀吉の爲に沒收せられて家廢せしが、承應元年伊達忠宗の子宗良、外曾祖父の緣故を以て廢家再興、岩沼三萬石。天和二年子建顯一ノ關に移る。維新後官軍に抗し三千石を削らる。〔盛岡〕南部氏二十萬石。祖先光行源頼朝の時糠部五郡に封ぜらるると稱す。代々三戸城にあり北奥に雄視す。天正十八年豐臣秀吉より本領の安堵を得、十萬石高。文化年中もと被管なる以て見る隣藩津輕氏が高直りの結果同じく十萬石高となりしを憤慨し、請うて二十萬石に高直りをなす。維新後官軍に抗して收公。次で十三萬石を給せらる。〔八戸〕南部氏二萬石。盛岡南部氏の支藩。〔七戸〕南部氏一萬石。同。〔弘前〕津輕氏十萬石。天正十八年秀吉より本領の安堵を得て津輕四萬五千石を領す。後拓殖大いに進みしを以て、文化年中請うて高直しをなし、十萬石高となる。〔黒石〕津輕氏一萬石。

弘前津輕氏の支藩。（前田）

ミチノクチ　道口　常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に多珂郡道口郷あり、その地今の多賀郡日立町・日高村の邊なるべし。

ミチノクチキヘ　道口岐閇國　常陸國（茨城縣）の古地名。國造本紀に應神天皇の朝、道口岐閇國造を定め給ふ旨見ゆ。風土記には久慈堺の助河を以つて「道前」と爲すと見え、和名抄には多珂郡道口郷あり、岐閇は即ち榊戸にして、岐閇國造は蓋し濱海道にありて蝦夷との境にありし柵を掌る司を稱せしものなるべし。されば道口岐閇國とはいまの多賀郡の南部を稱せしものならんか。

ミチノシリキヘ　道尻岐閇國　古事記に見ゆる古地名。神代卷、大津日子根命の記に其の名稱見ゆ。蓋し常陸風土記に見ゆる道口岐閇國の對稱なり。風土記に陸奥國石城郡苦麻之村を以て道後とすとあり。いま福島縣磐城國雙葉郡熊町村に往昔の苦麻之村の地に當るか。其の小流に熊川又は堺川ありといふ。

ミチヘ　道部　備後國（廣島縣）の古地名。和名抄に奴可郡道部郷あり、其地今の比婆郡田森村・八鉾村の邊なるべし。

ミツ　三ツ・三

【三ツ岳】日本北アルプス（飛騨山脈）の一峯。鳥帽子岳・鉢ヶ岳縱走路に於ける一峻峯。東側に長野縣北安曇郡平村、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二八四四・六米。南方の野口五郎岳（二九二四米）へは緩徐なる登高にて達なり、北方の鳥帽子岳（二六二一米）へは急降下にて續く。南東斜面より西澤發し、北東流して高瀬川に落ち、南西斜面より南澤谷の溪水發し北流して黒部川に入る。山上よりの展望佳なり。

【三ツ岳・三岳】丹波、篠山町の北方約六粁。兵庫縣多紀郡の畑・草山・北河内の三村境上に位する山。標高七九三米、同郡に於ける最高峯たり。東稜に小金ヶ岳（七二六米）、西稜に西ヶ岳（七二七米）連聳す。北側に澗絶なる岩場あり。山中に三岳寺大伽藍の古跡を留む。

ミツ　三津

【三津之碕】→御津村（島根縣八束郡）

【三津町】廣島縣安藝國賀茂郡の東南海岸。三津灣に面し、竹原町の西に連なる。北は賀茂村、西南は早田原村を隔てて三津口町に對す。面積二六・五七方粁。海岸線短少なるも、本廣形に北方に擴がりたる地形を有し、北部は綴れ山地に蔽はる。海岸に向ひて地勢漸低し、沿岸には平地あり。北部は山林地なるも山麓より海岸にかけて耕地拓けたり。縣道海岸より中央を貫通して北方西條町に至り、古來西條に通ずる道として船着場たりき。現在工業最も盛にして良酒を產し、米・麥・繭・牛・馬・水產物等また產す。吳市に縣道通じ、西條町と共にバスの便あり。此地もと三津浦と呼べり。明治二十六年に町制施行。

【三津灣】廣島縣賀茂・豐田二郡の間に彎入する灣。灣口約五・五粁、灣入約三粁。灣口西部には大芝島、灣内には藍之島・龍王島・鼻綱島等幾多の小島浮ぶ。灣頭に三津町（賀茂郡）あり。

【三津】阿波國（德島縣）の古地名。和名抄に三好郡三津郷あり、美都と調ず。その地今の三好郡貞間村・箸藏村・辻町の邊なるべし。

ミツ　三都　大阪府南河内郡にありし村。昭和六年に狭山村と合併して新に狭山村を建つ。

ミツ　御津

【御津】難波江に於ける船着。三津・美津にも作る。その地いまの大阪市南區島之内邊ならんといふ。同地に三津寺町あり、三津はその遺稱ならん。萬葉・一五「大伴の御津に船乘り榜き出てば何れの島に廬りせむ我」

【御津村】兵庫縣播磨國揖保郡の南部。揖保川の河口西岸に位し播磨灘に臨む。對岸は網干町なり。西境には六九米の丘陵あり、東北に延びて西境をなし揖保川河岸に終る。中部には之より一丘陵が東方へ延び、南岸にも東に連る丘陵ありて其の南麓は崖嶺をなす。西南隅に岩見の舘地あり。東部は低平なる沖積平野にして揖保川が村境に沿ひて東南流す。河口に數多の洲發達せり。米を主とし食用農產・麥類・果實・蔬菜・花卉・繭等の農產の外、醬油の產多く、また藁製品・木製品・瓦・沿岸漁獲物・鶏卵等を出す。縣道が中部を東西に横斷し網干町へバスの便あり。神功皇后御舟を泊せられし故事により村名を建つ。もと岩見莊と云ひ、いま大字に岩見の名存す。明治年間の農業家にして神力稻の發見者九尾重次郎（贈從五位）は此地の人。〔揖保石見神社〕大字中島に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。例祭、十月十四日・十五日。

【御津村】島根縣出雲國八束郡の北部。島根半島の中央北海岸に位し、日本海に北面す。南は講武村、東は大庫村、西は惠曇村に接す。面積三・九四方粁。海に面して地形東西に長く、南境を東西に連る山脈あり、村内地勢概ね山地なるも海岸に傾斜す。海岸は出入に富み耕地拓け、漁業・農業聚落存す。米・繭・柔魚・鯛・鰯及び素乾・煮乾等を產す。前面の海上には小島（男島）あり。松江市へ自動車の便あり。書紀神代卷に見ゆる三津之碕は本村の海濱なるべし。

【御津郡】岡山縣十九郡の一。備前國の西南隅に位し、岡山市の北に接す。旭川東境を南流し、久米郡・赤磐郡・上道郡に界す。南は兒島灣に面し、北は美作國、西は吉備郡・上房郡に接す。面積三八八・六方粁。郡内金川町ほか二十三箇村を含む。地形南北に細長く、北部一帶は旭川及び支流宇甘川の流域地にて南部は海岸平野なり。沿岸平地は灌漑良く耕作盛ん

なり。他は疎れ山地にして西境には飯ノ山（五〇九米）・本陣山（四四四米）等の山峰連亙す。一般に山林繁茂し、山麓には果樹の栽培行はる。岡山市に連る南部平野は水田多く、藺草の栽培盛なり。郡内米・麥・藺・柿・葡萄・薄荷等を產す。社線中國鐵道東部を貫通し、建部・金川・野々口・牧山・玉柏・大安寺驛を有し、また南部に省線山陽本線・宇野線貫通す。山陽街道と縣道にはバス通ず。郡名は明治三十三年四月、津高郡と御野郡とを合せて建てし新稱。

ミツイ　三井　長野縣信濃國北佐久郡の東部。岩村田町の東に接し、佐久平の一部をなすも、東境には蓼殺火山群聳え上州と接す。東境には八風山（一三一五米）・寄石山（一三三五米）あり、北接する佐賀村との境には富士山（一一五六米）あり、村は岩村田より香坂峠を經て西牧川を上州下仁田に通ずる中仙道の一驛街道に當る。盆地底にある安原・新子田の部落は扇狀地の頂點に位置し、湧水や山地水を利して水田開け、盆地中央部に下るに從ひ桑園增加す。また山麓臺地を利用する牧馬が行はれ、種馬所あり。山地に高度をとるに伴ひ林業化す。また養蚕の副業も行はる。村は斯くの如く火山麓に於ける一山村の形式を持ち、平地より山麓・山腹と經濟的なる土地利用が見らる。大字香坂は戰國の頃香坂（高坂）彈正の居りし所にして觀音堂あり、香坂觀音といふ。〔英多神社〕大字安原に鎭座。村社。祭神、健御名方命。式内社の說あり。例祭、七月十九・二十日。〔安養寺〕大字安原にあり。臨濟宗妙心寺派。寶林山と號す。後深草上皇の勅願に依り法燈圓明國師の開創。貞治年中、正眼智鑑禪師寺基を光明寺に移し中興開山となる。一時地方屈指の巨刹たりしが次第に寺運衰微、永祿年中兵火に罹り、其の後再建せられしも舊觀に及ばず。古文書・圖幅多數藏す。〔明泉寺（香坂觀音）〕大字香坂にあり。天台宗。開伽流山觀音院と號し、俗に香坂觀音の名を以て著る。開創は圓仁。圓仁自作の千手觀音を安置すと傳ふ。文祿元年中失火し一山悉く灰燼となる。のち第六十五世海舜これを再興せしも寺觀舊に及ばず、今日に至る。

ミツイ　光井村　山口縣周防國熊毛郡の西部。室積町の西北に隣り、南は周防灘に面す。面積八方粁餘。中部以北は山地にして西北境にて高距二六二米を示すも、南部は海岸平地ひらけ、水田遠る。米・藺を產する外、畜產・水產あり。海岸に近く山口・柳井津間を結ぶ縣道通じてバスの便あり。海岸は海水浴場として知らる。和名抄、熊毛郡美和郷の内とす。往昔光井氏あり、大内十二世弘成の第貞盛の子備後守宗貞を祖とす。

ミツイクシキノ　三井串木野鑛山　↓串木野町

ミツイサンル　三井珊瑚鑛山　↓下川村（北海道）

ミツイシ　三石　〔三石村〕北海道日高國日高支廳三石郡の全部を占む。太平洋に面し、東は浦河町、西と北は靜内町に接す。面積約三四七方粁。日高山脈西南斜面に位し北部に高く南方海岸に向ひて傾く。浦河町境には一條の小山脈北より南に延び、靜内町界に布辻川南流す。その他三石・鳧舞等の諸川北部山中に發して山間を南流し、沿岸平地に水田を拓き海に注ぐ。海岸線は出入極めて乏しく河口附近に漁業聚落あり。鮭・鱈・昆布の漁獲及び馬鈴薯・大豆・燕麥・馬・牛・木材等を產す。當村内に鐵區四四萬餘坪を有する布辻鐵山あり、鐵種は格魯讀鐵にして昭和十年より事業を開始す。省線日高線海岸近くを通じ、日高三石驛（昭和八年設置）・本桐驛（昭和十年設置）を置く。この地は文化中の紀行によれば、此の地に三の郷石といふ大岩ある故に三石の名ありと傳ふ。續々類從本蝦夷記に寛文亂の時、鵡鳳摩加之助並にその親屬二名三石にて打取るとあり。もと鵡布村と稱せしが明治三十九年三石村と改稱。〔稻荷神社〕大字鵡布に鎭座。郷社。保食神を祀る。江戸時代よりの奉齋にして、彌來當地の鎭守たり。例祭、九月十日。

【三石郡】↓三石村（北海道）

【三石山】千葉縣君津郡鳥山村に峙つ。標高二八一米、山體第三紀層より成る。東麓並に西麓より小櫃川の上源發し、北麓にて相合して北西流す。南方に奥官山林並びに東京帝大演習林あり。

【三石岬】靜岡縣賀茂郡の南西角。石廊崎の北西にみゆる一高角にして、高さ約二〇〇米。海に向ひて頂點より殆ど垂直の懸崖をなす。岬端に接して高低三箇の尖形岩あり。その中の二箇は主柱の如く高く著しきもの、因つて三ツ石崎の名あり。岬邊の南西に一破浪岩あり極めて危險なるため、舟子は互に相警めてその附近に近づかずといふ。

【三石町】岡山縣備前國和氣郡の東南部。東は兵庫縣に界し、北は神根村、西は英保村、南は伊里村に隣接す。面積三五・八三方粁。石塔山（四二二米）の南麓に位し、村内概して山地なり。東北には歴史上名高き舟坂峠聳ゆ。地勢やや中央部に低く、兵庫縣より舟坂峠を越えたる山陽街道は村の中央を貫きて西南片山町を經て岡山市に通ず。バスの便あり。省線山陽本線舟坂峠トンネルを經て西走し三石驛（明治二十三年設置）を置く。米・麥・藺・木炭・柿などの產あるも產額多からず。台山（二四五米）と稱する丘陵ありて蠟石を產し、これを利用して耐火煉瓦の製造行はる。蠟石は粘土と共に他地方へ送らる。その發見は慶長年間、八木淨慶の發見に係り、藩祖池田輝政の肖像を此石にて彫刻せり。この地は山陽道の咽喉を扼し、東西出入の要害なるを以て古來兵家必爭の地たり。上古和氣圓を置くといふも此地なるべし。壽永二年源義仲の山陽道を徇ふるや、妹尾兼康、義仲の將倉光三郎を此處に襲殺せる事あり。後醍醐天皇の隱岐に幸せらるるや、兒島高德事駕を此處に迎へて之を奪はん事を謀れり。建武二年赤松則村の叛するや、伊東大和二郎初めて此に築城して山陽道を扼せり。その後、高德亦此城に據りしも獲くもなくして賊の有となり、延元元年、足利尊氏の九州に走るや田井・魚浦・松田・内藤の諸豪、石橋義和を大將とし此城に據りしが、新田義貞の陷るる所となれり。その後、赤松氏の將、浦上宗隆此に居り、永正年中、村家に至り終にその主義村を獄して自立せり。明治三十九年町制を布く。明治天皇、明治十八年、山陽道御巡幸の際御小休あらせられ、いま明治天皇三石行在所及び明治天皇八木山御小休所として指定史蹟たり。

ミツイシ　三ツ石山　那須火山脈岩手火山群の一峯。岩手山の西方約八粁に當り、岩手縣岩手郡松尾・西山の二村境界に峙つ。標高約一四〇〇米。山體輝石富士岩より成る消火山なれども、侵蝕甚だし。山上部に三箇の瓦岩横たはる。北西稜に小巻山（一四六五米）・大深岳（一五四一米）連なり、南東稜に大松倉山（一四〇八米）・犬倉山（一四〇八米）續く。小巻山寄りに三ツ沼を湛へ、また北東側松川上源に沿ひ松川温泉湧く。

ミツイスナガワ　三井砂川炭礦　夕張炭田にある石炭山。鑛區は北海道石狩國空知郡の砂川町と歌志内村とに跨り一二一八萬餘坪。三井鑛山會社の稼行にて、昭和十年には塊炭二二四、三一五瓩、粉炭四八二、一七五瓩、切込炭一二〇、一九二瓩、粗炭一三、一九六瓩（この總價額五五九萬餘圓）を產出し、同年六月末の鑛夫數は一八七三人とす。本邦有數の石炭山にて重要鑛山に列す。

ミツイタガワ　三井田川炭礦　福岡縣田川郡にある石炭山。筑豐炭田の南東部を占め、鑛區は後藤寺町・大任町・伊田町・川崎町・香春町・勾金村の六箇町村に跨りて八六五萬餘坪とす。鑛區の地質は主として第三紀層に屬する砂岩・頁岩・礫岩の互層より成り、其間に十數層の炭層を夾む。されど稼行炭層は其内の十層を越ゆる事なかるべし。右地層間に或は斷層に沿うて火山岩が折々侵入し、石炭を煽石又は無煙炭に變化せしめし所少かならず。產額は昭和十年に於て塊炭三八九、四二八瓩、粉炭四四三、五六六瓩、切込炭一三、九七九瓩、粗炭一八八、〇四七瓩、煽石一七〇、二二七瓩にして、この總價額は九九八萬餘圓なり。當鑛山の創始は明治維新以後に屬するものの如く、初め地方農民の副業として採掘せられ、明治十八年海軍豫備炭田となり、明治二十二年民間に移る。現在は三井鑛山會社の稼行に係り、鑛夫約四千六、七百人、昭和末期の六、七千人に比すれば人員は少きも、產額に於ては寧ろ大正當時より多きを見る。卽ち鑛夫の減少は技術の進歩に依るものと云ふべし。現在三池炭礦には及ばざるも、大之浦炭ふ。なほ當炭鑛の鑛區たる町村が、當炭礦によりて經濟的乃至は文化史的に如何に變化を受けたるかは想像に難からず。卽ち當鑛區所在町村たる六箇町村のうち五つまでは町なること、また右六箇町村の昭和十年に於ける人口は總計九萬一千四百餘人なるが、當炭鑛の鑛夫のみにて同年は四千六百餘人なることは其の好資料たるに足らん。

ミツイビバイ　三井美唄炭礦　↓美唄町

ミツイヤマノ　三井山野鑛山　↓庄内村（福岡縣）

ミツウチノウミ　三津内海　省線吳線の一驛（昭和十年設置）。廣島縣賀茂縣三津口町にあり。

ミツエ　御杖村　奈良縣大和國宇陀郡の東南隅。郡の東端部が三重縣内に嵌入せる部分を占め、西南部は吉野郡に接し、南は三重縣飯南郡に界し、東及び東北は三重縣一志郡に圍まる。村境は凡て山脈を以て圍まれ西南隅に高見山（一二四九米）聳え、東南境には三峰山（八一二三六米）、東北境には大同山（八八五米）、北境中央には古光山（八九五三米）など聳立して村内は山岳重疊す。東部には南境に發する宇陀川の支流長瀨川が北流して北部に於て中央より東北に源流する支流を合す。西部には南境に發する曾根川が北流す。河川の沿岸に稍々低地あり。藺・米・麥を產す。西部の河岸に沿ひて縣道が通過し、榛原・名張・山粕・久居等へは何れもバスの便あり。此地は和名抄、宇陀郡淡部郷の内なり。大字神末に延喜式御杖神社あり。〔御杖神社〕大字神末にあり。郷社。祭神、久那斗神・八衢彦神・八衢姫神。式内社。俗稱、葛明社。例祭、十一月五日。

ミツエ　三恵村　山梨縣甲斐國中巨摩郡の南部。甲府盆地の西部を占む。小笠原町の東に隣接し、面積三・六五方粁の小村。全村土地平坦肥沃にて農業盛なり。主として北半部に桑園多く、南半部は水田開く。藺を主產とす。東西に縣道貫通し、小笠原町より甲府市へ社線山梨電鐵及びバスの便あり。この地はもと加賀美郷の内にして、村内の大字寺部に大樽あり、樹幹目通一三米、根廻り一七米、地上四米の高さにて五枝に分れ、内部には空洞を存し數人を容れ得。いま指定天然記念物なり。〔法善寺〕古義眞言宗。加賀美山と號す。開基空海。現寺號は後世の改稱にして、現に高野末なり。紙本墨書大般若經五百六十一卷（建長六年以前の書寫）は國寶。

ミツオカ　三丘村　山口縣周防

國熊毛郡の東部。東は玖珂郡に界し、北は高水村、南は東荷・周防二村に接す。面積約一九方粁。四周山地を繞らせど、中央を島田川貫流して流域に肥沃なる平地ひらけ農耕地をなす。東北部の鑑ヶ岳は東部・北部に小脈を出し山林に蔽はる。人工林・天然林共に繁茂し松樹多し。地勢西南に稍傾く。薪炭林各所に散在し木炭・薪材を產す。本村は商工業都市に遠き僻地にあり古來農業・養蠶業のみにて立ち、近來屢々米繭價の暴落に依り經濟的に逼迫せる爲め現下は村民協力一致自力更生に邁進しつつあり。縣道を以て米川村及び省線山陽本線島田驛にバスを通す。此地は和名抄、熊毛郡周防郷の内。〔櫻田神社〕大字安田に鎭座。郷社。祭神、伊弉諾尊・伊弉冉尊外二神。舊稱、櫻尾大權現。郡内高水村の高水神社より分靈すと傳ふ。例祭、十月二十二日。

ミツオカ　三岡村　長野縣信濃國北佐久郡の中部。淺間火山の泥流の佐久平に流下せる末端に位置す。岩村田町と小諸町との中間凡そ三粁、東は南大井村、南は中佐都村、西境は千曲川の渓流なり。村は森山・耳取・市村の三部落よりなり、各々淺間火山の伏流水の湧出する部分に位置す。三岡村の名ここより起る。佐久平舊湖の一底面に當り土壌肥沃湧水泉による水田は二毛作行はれ、桑畑また卓越す。村は千曲川沿岸の段丘と、舊湖底たりし原と、淺間の裾野と三種の自然的條件により、水田・水田桑畑混在地・桑畑地と帶狀をなす。薪らしき千曲川の浸蝕谷が樹枝狀にカレ谷を刻み、谷底は水田に利用せらる。村内を省線小海線走りて、三岡驛(大正十四年設置)を置く。この地は和名抄、佐久郡美理郷の内なるべく、東鑑、建暦三年の條に、信濃國住人、一村小次郎近村とあるは此に在名を稱せしものか。

ミッカイチ　三日市町　富山縣越中國下新川郡の北西部。北陸道に沿ひ魚津町の東北方約七・五粁。全村平地にして北部を黒部川の一分流貫流す。土地肥沃にて米を產するも、また附近諸村の農產物集散地をなし、特產黒部西瓜の積出地なり。また清酒醸造・經木・織物等の工業行はる。北陸道と黒部峡谷及び海岸に至る縣道との分岐點に發達せる聚落にして、省線北陸本線三日市驛(明治四十三年設置)は町の西方石田村地内にあり、社線黒部鐵道の分岐點をなし、町内に西三日市・東三日市の兩驛(共に大正十一年設置)を置く。また富山市より社線富山電鐵の便もあり交通至便なり。この地は和名抄、新川郡布留郷の内にして、昔に此邊を櫻井庄とも稱せり。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際この地に御小休あらせらる。〔八心大市比古神社〕三日市に鎭座。縣社。祭神、大山祇神。式内社。昔に三島大明神と稱し信仰せらる。例祭、十月三日。〔德法寺〕眞宗大谷派。親鸞辻名號の舊蹟たり。親鸞、越後配流の途次此地を過ぎ、辻源左衛門の居宅に留錫、去るに臨みて十字名號を與ふ。後年、源左衛門の子孫一字を創して德法寺と號す、卽ち本寺の起源なり。

ミッカビ　三ヶ日町　靜岡縣遠江國引佐郡の西南部。北及び西は愛知縣八名郡に境し、東に東濱名村・奥山村、南に濱名郡知波田村あり。南部に濱名湖の支湖猪ノ鼻湖あり。北部村境に宮巻山(五六三米)・金山(四二三米)、西境には坊ヶ峯(四四五米)あり、城内は釣橋川・日比澤川・上尾奈川及びその支流によりて數箇の丘陵に分割され、南部に板築山(二二二米)・本城山(一三五米)及び大明神山(九五米)等あり。坊ヶ峯の南、本坂峠は往昔關東・關西の交通の要衝に當り、また北境瓶割峠は豐川流域を通る別所街道に通ずる要路なり。その西方宇利峠には三州街道西方に通ず。高度約百米以下の沖積臺地部はその中央、沖積平野の周圍にありて桑園・蜜柑畑となり、沖積地は水田にして稻・蘭草の栽培盛大なり。三ヶ日は猪ノ鼻湖に面し、三州街道・姫街道の交點に當り、物資の集散あり。その北方の大福寺は眞言宗にて濱納豆の發酵地なり。その西方平山は良質の蜜柑を以て有名なり。明治二十九年引佐郡に編入され、大正十一年に西濱名村を三ヶ日町と改稱す。この地は和名抄、濱名郡大神郷の内。もと敷知郡に屬す。中世は伊勢の封戸にして濱名新神戸といへるもの是なり。神風抄に「濱名、新神戸、四十四石八斗、百九十一丁六段」とあるは此地なり。〔大福寺〕古義眞言宗。貞觀十七年創刹、いま高野末。普賢十羅刹圖・瑠璃山年錢殘簡其他に國寶なり。〔摩訶耶寺〕古義眞言宗。神龜三年、行基の開創に係り、元正天皇、寺號並に勅願所の綸旨を賜ふといふ。千手觀音像(木造)・不動明王像(同)は國寶なり。

ミッカホ　三日浦　朝鮮總督府鐵道東海北部線の一驛(昭和七年設置)。江原道高城郡新北面にあり。

ミツカワ　三川村　靜岡縣遠江國祭田郡の中部。天龍川の左岸に位し、祭田原の北麓丘陵地は村の西部を占め、東部は太田川の支流宮川の沖積平地なり。宮川に沿うて川會・友永・見取の聚落あり、東部に萱間、西部に蕃ヶ谷・樋口の聚落發達す。米・茶等を產す。

ミツカワ　三ツ川　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外三箇村を廢し櫻井村を置く。

ミツキ　見付　石川縣珠洲郡にありし村。明治四十一年外二村と合し新に實立村を置く。

ミツギ　御調郡　廣島縣十六郡の一。備後國の中南部。郡の大部は尾道市・三原市の北に連り、更に南面瀬戸内海上の因ノ島・向島及び附近の小島嶼を加ふ。面積三三一・一四方粁。郡内三庄・土生二町外廿六箇村を含む。北は世羅郡、東は豊田郡、西は豊田郡に界す。郡内の地勢概ね山地にして北部・南部に略東西に連亙する二條の小山脈存し、海拔五〇〇米内外の高さを有す。兩山脈の中央を豊田川支流の御調川が西南大峯山(六一〇米)の東麓に發して東流し、流域は平地を形成し良耕地をなす。北部山中にも一小川發して北流し、附近に耕地を有す。其他の大部分は山林地・牧畜地に屬し、一般に養蠶業行はれて繭の產多し。瀬戸内海の島々は果樹の栽培盛んなり。本郡の特產物疊表は南部の美ノ郷村附近を中心に備後表として產額多し。郡内の交通は不便なれど、尾道市・三原市に接し縣道二線はこの兩市より發して郡の東西を北に貫通し、省線山陽本線の諸驛及び三次町等にバスあり。また社線尾道鐵道は東南部に通じ三成・美ノ郷・諸原・市等の諸驛を置く。萬葉集卷一五に備後國水調郡とあるのは本郡に同じ。和名抄は美豆木と註し、伯多・祥原・者度・佳賀・小國・因島・歌島の七郷を管す。明治廿一年四月に尾道市が、昭和十一年に三原市が本郡中より獨立す。

ミツクエ　三机村　愛媛縣伊豫國西宇和郡の西部。佐田岬半島の中部にあり、東は町見村に、西は四ツ濱村に界し、北は伊豫灘、南は宇和海に面す。四國山脈西端の海上に延びたる半島の中心を占め、海岸はリヤス式をなすため屈曲に富む。陸上は丘陵地をなし繭・麥・甘藷・柑橘・鶏卵等を產す。水產業は非常に盛にして、鰯・鯛・鰺・鯖等の漁獲多し。村内に約二二萬坪の鑛區を有する金比羅鑛山あり、鑛種は銅にて昭和十年より事業を開始す。三机港は伊豫灘に面する所にあり、天然の良港にして船舶の避難するもの數多く、港内の須賀ノ濱は風景絶佳にして伊豫の天橋立と稱せらる。その他の海岸は漁村として發達す。交通は陸上は不便にして主として海上交通による。本村の東方に嶺成運河址あり、運河は慶長年中、板島城主富田氏がこれを起工し業成らずして停止す。〔八幡神社〕大字三机浦に鎭座。郷社。祭神、譽田天皇・三女神・大帶姫命。例祭八月十四日。

ミツクチ　三津口町　廣島縣安芸國賀茂郡の南海岸。内ノ海灣口に位し、西は内海町に接し、東北は早田原村を挾みて三津町に對す。面積八・九六平方粁。中央に内ノ海灣深く彎入して地形略ぼ南北に二分す。南部・北部共に海岸を距るに從ひて山地高くなり、沿岸に小平地を有す。市街地は北岸に開け、漁業盛んなり。内海の水產物及び米・麥・柿・繭・牛・馬・酒類等の產多し。縣道は海岸近くを通じ竹原町・吳市にバスの便あり。また省線吳線の三津内海驛(昭和十年設置)あり。大正十一年町制を布く。

ミツケ　見付町　靜岡縣遠江國磐田郡の南部。南隣の中泉町と雙兒町とをなし、西に井通村・宮岡村、北に大藤村、東に向笠村・西貝村あり。市街は天龍川の舊扇狀地、磐田原の南端にあり、町域の北部は丘陵、南部は沖積地にして丘陵には茶畑多し。市街は舊東海道五十三次の一驛たる宿場にして、古來交通の要衝に當り物資の集散多し。舊郡役所のありし所にして、いま稅務署・警察署・濱松區裁判所出張所・名古屋地方專賣局支局・大藏省預金部貯金局名古屋支局出張所・中學校・高等女學校等あり。明治天皇、明治元年東京行幸の際及び京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、同十一年北陸・東海御巡行の際等に此地に御小休あらせらる。此地は和名抄、磐田郡豐國郷の内なるべし。古へ遠江國府のありし址は見付・中泉の二町に亙り、國分寺は見付堺町に其址を傳ふ。今川氏の臣堀越用山は此地に城き、永祿十二年正月、德川家康も新城を築く。元龜三年、武田氏の兵來り、德川氏の逆襲を斥く。丹波與作待夜の小室節「鮮坂三里ナ調染見附の泊と聞けば、誰も惜しまぬ鎬の財布の袋井や」膝栗毛・三中「此はなしのうち、みかはのはしをうちわたり、大くぼの坂をこえて、はやくも見付のしゅくに到る、見附より濱松へ四里七丁、アアくたびれた、馬にでものらうか」〔遠江國分寺址〕指定史蹟。境町にあり。國道の西側の畑中に塔址の礎石三箇、金堂址の礎石二箇を殘存す。なほ附近に古瓦の破片散布す。〔淡海國玉神社〕縣社。祭神大國主命は一に淡海國玉神といふ。式内社。舊稱、總社大明神。當國の總鎭守にして江戸時代は朱印七十二石二斗餘を有せり。例祭七月十四日。〔矢奈比賣神社〕縣社。祭神、矢奈比賣命。式内社。もと磐田原中にありしがのち現地に移る。德川家康、社領五十石を寄す。例祭、九月十三日・十四日。〔天御子神社〕郷社。祭神、素盞嗚尊外一柱。式内社。舊稱、牛頭天王。別稱、舞車神社。例祭、七月二十日。

ミツケ　見附町　新潟縣越後國南蒲原郡の西南部。長岡市の東北方約一〇粁に當り、南は信濃川支流の刈谷田川を境に古志郡に接す。東北部は東山丘陵の一部に屬し、二〇〇米餘の山地西南へ傾斜す。平地は南部河岸及び西部に開け、聚落は西部に稠密なり。平野には農業行はれ米を產するも町は古來節糸織を以て知られ機町として榮えし所、今なほその生產盛なり。其他、製糸業及び附近農村の產物集散地として商業上・金融上の一中心をなす。交通は縣道の集合點に當り、省線信越本線の見附驛(明治卅一年設置)は町の西北隅に位し、長岡市及び古志郡栃尾町へは社線栃尾鐵道の便あり。天文年間、上杉氏の家臣三條俊景この地を領して近隣を掠奪す。十三年、俊景の栃尾に戰ふや、浦瀨の城主高津谷入庵、不意に其虚を襲うて、此地を領す。明治元年五月官軍此地に入りて三條に迫り、今町

に大敗して東軍の據る所となる。これより その間豊合議の本營となる。七月、河合櫓之助・山本帶刀等、此地より進發して長岡城を回復せしも遂に破られ、此地の東軍また潰走す。昭和九年に庄川村を合併。明治天皇、明治十一年北陸東海御巡幸の際此地に御小休あらせられ、いま明治天皇見附行在所として指定史蹟なり。

ミツサワ　三澤　出雲國（島根縣）の古地名。和名抄に仁多郡三澤郷あり、其地今の仁多郡三澤村の邊か。

ミツザワ　滿澤鎭山　村（山形縣）

ミツシマ　滿島　佐賀縣東松浦郡にありし村。大正十三年、唐津町（のち市制を布く）に編入せられ、村名を失ふ。

ミツスエ　光末村　廣島縣備後國神石郡の西南部。南は父木野村に隣接し、他の三周は上村に圍まる。面積一方粁。村内は概れ山地に蔽はれ、東南より西北に向ひて地勢やや傾く。村の大半は山林地に占めらるるも、西北境に近き低地に小耕地拓く。純農村にて米・麥・蕎の產額を主とし、また薪炭・家畜類を產す。總額二四、〇〇〇圓内外なり。縣道は東界に近く貫通し、東城町・福山市にバスの便を有す。高蓋村・父木野村・光信村・木津和村と組合村をなし、高蓋村に役場を置く。

ミツセ　三瀬　【三瀬村】高知縣土佐國吾川郡の東南部。伊野町の西北約八粁に位し南は高岡郡に界す。中央に鷹羽ヶ森聳えて四方に山脚をひろげ、また四邊に山峯連綴して高山性山村をなす。東部及び西境には渓流ありて南下し、南境を屈曲しつつ東流する仁淀川に注ぐ。流域河谷には僅少の低地ありて農耕を營み米・蕎を產す。山地は林產に富み木材・木炭等を出す。仁淀川左岸に沿うて縣道通じ、伊野町までバスを通ず。また舟運の便あり。〔二社神社〕大字柳ヶ瀬に鎭座。鄕社。祭神、高龗神・闇龗神。相殿、水神社・水速女神。柳ヶ瀬村の總鎭守にして產土神たり。例祭、六月二十八日・十月二十七日。

【三瀬村】佐賀縣肥前國神埼郡の西北隅。脊振山脈の南斜面にして、佐賀市の北約二〇粁。西部の北半は小城郡に界し、南半は佐賀郡に接す。東北部一帶は山脈を挾みて福岡縣早良郡に隣る。東北境には脊振山脈が西北より東南に連り、中央に金山（九六七米）が聳ゆ。其他、村内處々に山地・丘陵起伏し其間に盆地・低地散在す。米・麥を產し蕎も出す。福岡市より佐賀市へ通ずる縣道が西部を縱走し、之より分れて東南走し神埼町に至る縣道もありて神埼町へバス通ず。この地は福岡・佐賀の捷路なるを以て、龍造寺氏の此より北侵せしこと古書に見え、また明治七年の佐賀の亂に暴徒三瀬山を塞ぎしも、福岡士族、官軍の先鋒となり之を破る。明治十年、福岡士族亂をなし、早良郡に蹤ひ敗れ三瀬山に退保し、更に山程を求め、田代に向ひて走りしと。

ミツセキ　三關村　秋田縣羽後國雄勝郡の中部。湯澤町に南接す。南境に東鳥海山（七七七米）聳え、北方に傾斜し、雄物川は西境を北流す。沿岸平坦にして耕地拓く。米・蕎を產す。副業に養蠶・養兎及び緬羊の飼育行はる。道路は西部を南北に通じ、湯澤町及び西南方横堀町へはバスの便あり。奥羽本線三關驛（昭和五年設置）を置く。もと上關・下關・關口の三村に分れしを合併して現村名に就く。

ミツトーゲ　三ツ峠山　關東山地御坂山塊の一峯。山梨縣南都留郡河口・寶・西桂の三村境上に峙つ。標高一七八五米。山容秀麗にして、山頂は三峯秀峙し三峯山とも稱せらる。山上よりは南アルプス・八ヶ岳・秩父連峯を一眸に收め、特に南方間近に峙つ富士山と富士山麓に散在する五湖との展望に絶好にして、近時著しく著名となれり。山頂南面の岩壁は屏風岩と稱せられ、ロッククライミングの練習地として興味あり。登山は富士山麓電鐵小沼驛より山頂まで約七粁、途中三峯權現の小祠及び不動の瀧等あり。驛路は南西方に取り、母の白瀧を經て河口湖畔に下るを普通とす。

ミツトモ　光友村　福岡縣筑後國八女郡の西部。福島町の東南約一粁にありて矢部川の左岸に沿ふ。南部及び東部は山地をなして北方及び西方へ傾斜す。南部の山地は高形山（四五〇米）なり。西北部は平野をなし矢部川は北境に沿ひて西流す。米・麥を產す。國道が中央と西北より東南に縱貫し福島町及び東南方の山鹿町へバスの便あり。鎭西要略に永祿年中、蒲地志摩守鑑廣は、山下・谷川の二城に據るとある谷川城は大字谷川の地にありしか。〔地主神社〕大字谷川に鎭座。鄕社。祭神、大國主命・表筒男命外三柱。もと北方の一小丘にありし柳川の領主立花鑑虎の命により現地に遷せりと。社名は上妻郡（いま八女郡の內）地主の神の意なりと。例祭、十一月廿九日。

ミツナシ　三梨村　秋田縣羽後國雄勝郡の北部。増田町の南方約八粁。南は稻庭町、西北は湯澤町に隣接す。東境には國見嶽（五八七米）、西境には雌長子內嶽（四六五米）聳え、東部及び西部は山地をなすも中央部は横手盆地の東南部を占めて平坦なり。皆瀨川は中西部を北流す。米・蕎を產す。増田街道は中東部を南北に通じ、北方の奥羽本線十文字驛へ約一一粁、バスの便あり。奥羽本線湯澤驛へもバス通ず。

ミツネ　三根村　東京府伊豆國八丈島の東北部。八丈島の殆んど東北半を占めて海に臨み、西北より東南に長し。西北半は八丈島西北部の中央に聳ゆるコニデ狀の西山（八丈富士）の東北半を占むる傾斜地にして、裾野に行くに從ひ傾斜は緩慢にして山麓は海に迫り、西北に月夜ヶ崎、北にオヨヰトノ鼻等あり、東に立根の巨岩浮ぶ。東南部は八丈島東南半の中央に屹立する東山（三原山）・東毫子山の北斜地をなし、北麓の東半は海に迫りて低地を餘さず。中部はやや低地開けて西岸に纜き、東岸には神港の潮地及びその東南に底戸灣の淺き彎入あり。低地には部落集る。氣候溫暖なるため農・林產物の生育よし。八丈絹・椿油等の特產あり。中央には西岸に通ずる街道あり。東京市と小笠原諸島父島へ航路開く。東部の海岸は底戸ヶ濱と稱し、海水浴場として知らる。また近藤重藏の子宮藏は文政年中に流罪となり、在島中、八丈實記等を著はし、島の文獻を調査整理し、維新後赦されて內地に歸りしが、のち再び來島して居住し明治廿年此地に歿し、今その墓あり。藏の坂には西山神居の碑あり、往昔、島民の迷信により神止山一帶を神域なりとし踏入る者なく、老樹鬱蒼たりしを島人、高橋與一なるもの伐採開墾して麥田となし、たまたま天保年中より風波の災ありしにより村民は之を神の居所を失ひたるに因るとなし、元の禁林に復せんと請ひしが代官羽倉外記その謂を諒しこの碑を建つ。本村及び大賀鄕村に亙りて「へ二自生北限地帶」あり、指定天然記念物たり。

ミツノ　三津ノ村　和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東部。熊野川の右岸に位し、新宮市の西方約七粁にあり。東北部は川を隔てて東牟婁郡に界す。西北部には雲取山一帶の山地あり。東南部には白見山（九二六米）一帶の山地重疊す。兩山麓に沿ひて中央には赤木川が屈曲しつつ東北に貫き、熊野川は東北境に沿ひて東南流し赤木川の水を合す。合流點附近にやや低地開く。米・蕎を產し工產・畜產等もあれど、村民の主生業は林業にて東部に白見國有林もあり。赤木川に沿ひて縣道通じ南方の勝浦町へバス通ず。熊野川には プロペラ船の便あり。大字日足の一部、大字田長の全部、大字能城山本の一部は吉野熊野國立公園の內とす。

ミツノショー　三庄町　廣島縣備後國御調郡の南海上に横ばる因ノ島の東南岸を占め、東と南は海に面す。東南は海峽を隔てて弓削島に對し、北は三浦村、西は中庄村・土生町に接す。面積四・八六方粁。海岸に沿うて細長き地形をなし、北境・西境に山地迫りて村內また概れ山地なり。海岸線は出入に富み、中央に三庄灣深く彎入す。灣岸より南部にかけて小平地あり耕地拓く。村民は農業・牧畜・工業を營み、米・麥・蕎・果實・清酒・木炭・牛・馬の產多し。弓削島に渡船の便あり。大正十年町制を布く。昔は海賊（海軍）の根據地たり。

ミツノフ　光信村　廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。面積一・九方粁。山岳地にして、山は村內を南北に遠互し、概ね森林地帶なるも東南隅に低地を有し耕地やや拓く。農業村にして、米・麥の產最も多く、蕎・蒟炭・木材・牛・馬・酒類等なも產す。山間の僻地にして交通不便。中央の聚落地より縣道迄約三粁なり。高蓋村・木津和村・父木野村・光末村と組合村をなし高蓋村に役場を置く。

ミツハシ　三橋　鳥取縣東伯郡にありし村。大正七年久津賀村・泊村と共に廢しその區域を以て泊村を置く。

ミツハマ　三津濱町　愛媛縣伊豫國溫泉郡の西部海岸。松山市の西北方約四粁。西は四十島瀨戸を隔てて興居島及び內海に臨む。東部に一〇〇米餘の丘陵南北に走りて西に傾斜し、その南方には低平なる沖積平地廣く發達す。ここに耕地よく拓けて米・麥・蕎等を產す。主產業は漁業にして鯛・鮋・鰮等の魚獲及び水產製造物等の產多し。特產として蒲鉾・鰹節等は名あり。市街は西部海岸に發達し良好なる三津港を開き、松山市の外港をなす。昔より瀨戸內海の一要津として重きをなし近年築港完成に伴ひて益々繁榮を增せり。省線豫讃本線は東部を南走し三津濱驛（昭和二年設置）を置く。また社線伊豫鐵道電氣の三津驛・高濱驛・梅津寺驛・港山驛を設く。海上交通もまた行はれ、今治市・長濱港等には定期船を出す。人口約一萬三千四百人、人口稠密なる町なり。大正十四年に古三津村を、また昭和十二年には新濱村を本町に編入す。本町は慶長八年、加藤嘉明、松前より移りて松山城を築くや、水軍の根據地として繁榮し、次いで久松氏また船奉行を置き、水軍を監督せしめ、軍港を兼ねたる商港たり。近時、瀨戸內海航路の寄港地として榮え、一時高濱の築港成り、その繁華を奪はれんとせしが此處にもまた築港をなし、往時の盛觀に復するに至れり。また河野通春が文明・明應の頃に據りきといふ湯山城址は此地にありしものなるべし。また大字古三津邊を築田津（熟田津・柔田津）と稱すと。齊明紀七年に「御船泊二于伊豫熟田津行宮一」熟田津此云二額枳陀瓦一」萬葉・「熟田津に船乘りせむと月まてば潮もかなひぬ今は榜ぎ出でな　額田王」。大字古三津の刈谷島は慶長五年に河野氏の遺臣が主家の再興を謀りて兵を擧げしが、加藤嘉明來りて攻るに及び遂に敗れし所。〔厳島神社〕大字古三津に鎭座。鄕社。祭神、田心姫命・市杵島姫命・湍津姫命。もと東山にありしが、慶長五年に兵火に罹り此地に遷せりと傳ふ。例祭八月六日。〔三津の朝市〕三津濱驛の西北約一粁半、自動車の便あり。三津濱町棧橋附近にあり、元祿二年の創立にして、魚類多く集り、伊豫節にも「三津の朝市、道後の湯」と唄はれ、今も昔ながらの殷賑を極む。〔梅津寺海水浴場〕舊新濱村に屬し、三津濱より高濱

に至る間にあり、白沙青松の境にして、前方に興居島、即ち伊豫の小富士が聳え風光佳なり。夏季は伊豫鐵道梅津寺駅時驛が設けらる。〔興居島〕高縄の前面に横はる島なり。島の中央に火山岩より成る伊豫小富士が聳ゆ。桃の名産地にして、桃花の季節には遊覧者多し。この附近の海岸は釣魚に適す。

ミツビシ　三菱ヶ原　東京市麹町区丸ノ内、宮城前の俗稱。東京驛附近の地はもと三菱(岩崎家)の所有にして、久しく草莽々たる原たりしにより、かく呼びしものなり。

ミツビシオビラ　三菱尾平鑛山（みつびしおびら）　↓長谷川村

ミツビシカセー　三菱下聖鐵山（みつびしかせい）　朝鮮黄海道載寧郡下聖面にあり。三菱鑛業會社の稼行にして、昭和十年には鐵一二〇、九九六瓲、螢石二、二三五瓲(此總額約七二萬圓)を產出し、同年六月末の從業員は九三人とす。現に重要鑛山たり。

ミツビシサンコー　三菱三光金山（みつびしさんくわうきん）　朝鮮忠淸南道にあり、鑛區は公州郡新下面と青陽郡雲谷面とに跨る。三菱鑛業の稼行にて、昭和十年には金六四九瓦、銀一、九一〇瓦、金銀鑛六三三瓲(此總價額五萬四千餘圓)を產出し同年六月末の從業員は一二五人とす。

ミツビシシバイ　三菱美唄炭礦（びばい）　↓美唄町

ミツホ　三穂村　長野縣信濃國下伊那郡の中部。飯田市の南方約八粁。天龍川の西岸に位置し、伊那盆地の南端をなす。西境に木曲山(七九八米)・西山(七五〇米)あり。圓頂なる小丘陵をなし、北境の城山(七四〇米)及び山本村の二ツ山(七七三米)と南北に列をなす。これは皆殆ど同一高度を持つ一平坦面にして、東にこれ等の東方には五〇〇米の平坦面あり。村もその主要部落はこの下段にあり。恐らく河成段丘と見らるる。この兩段丘の内に若返りし天龍川は支流を切込ませ、村の南境をなす阿知川・弟川は深く刻みてカレタ谷をなす。上部の段丘の上には貝澤泉垣外・島垣外・立石等の部落あり。上部段丘崖下にその伏流を利用して梨子洞・數田・久留輪・下瀬の部落あり。以上の部落は湧水を利用して水田をなし、また養蠶を營む。上段の部落は桑畑・林業による生活をなす。村の東部を遠州街道通過す。大字伊豆木は松尾小笠原氏の一族、親負長臣、伊豆木に一千石を賜はり、幕府の交代寄合に列し、世襲して幕末に至る。謂ゆる伊奈衆三家の一なり。

ミツホ　滿穂村　愛媛縣伊豫國喜多郡の東北部。内子町の北にあり。東は立川村、西は柳澤村に界し、北は伊豫郡に接す。村内には數百米の山岳重疊して地勢一般に高峻なり。中央に狹小なる低地ありて耕作をなし米・麥・繭等を產す。山地は森林よく繁茂し三椏・楮等の林產あり。中央平地を南北に縣道通じ南方の内子町に連絡す。

ミツマ　三妻村　茨城縣下總國結城郡の東南部。鬼怒川の東岸にして、石下町の南隣にあり。南北に細長く、南方の水海道町にも近し。鬼怒川流域の低地を占め、東部に水田多く、他は畑地をなす。農業を主として米をはじめ麥を產す。また各戸に養蠶をなし繭の產多し。縣道は川沿ひに縱走して石下町及び水海道町に通じ社線常總鐵道これに沿ひ、中央に三妻驛(大正二年設置)、南部に中妻驛(大正九年設置)を置く。驛の附近には商業も行はる。もと三坂・中妻の二村なりしが合併してその各一字を取り現村名に就きしもの。

ミツマ　三潴　【三潴郡】福岡縣十九郡の一。筑後國の西南部。久留米市の西南に接し、筑後川の左岸に沿ひて僅に右岸に跨り、西は佐賀縣三養基郡・神埼郡・佐賀郡に界す。筑紫平野沖積地の一部を占むるため地形極めて平坦にして山と稱すべきものなく一望大曠野連る。西部には筑後川流れ、ほぼ西境に沿ひて西南し、西南部にて西に早津江川を分つ。筑後川は南方約二粁にして有明海に注ぎ、早津江川は西南方約四粁にして海に入る。北部に一小川あり、西北流して筑後川に注ぐ。全郡到るところ農業に適して水田よく拓け、筑後米の產多くまた麥も出す。他に藺草を產して蔗糖・花蓆・疊表等を製し、なほ酒の產もあり。郡内は筑後川に沿ふ城島町・大川町の外に十八箇村を含み、昭和十年の人口一〇四、三八三人にして、一方粁の密度は七五七人を算し、大川町は最も多くして二、六三〇人なり。交通よく發達して縣道は四通八達し、各地へバスの往來繁く、省線鹿兒島本線は東北部を南北に通過し、矢部川驛にて分岐する省線佐賀線は西南部を西北に走る。久留米市より來る社線大川鐵道は北部を西南に横切りて筑後河岸に出で之に沿ひて大川町に達す。筑後川は諸所に渡船の便あり。書紀景行紀に水沼縣とあるは本郡の地なるべし。和名抄は美無萬と註し、高家・田家・三潴・鳥養・夜問・青木・蔎木・管綠の八郷を管す。近世謂つてミツマと調じ、今これに從ふ。明治廿二年四月、久留米市は本郡の中より獨立す。

【三潴(縣)】明治四年七月筑後國にありし三潴を廢して置ける久留米・三池・柳川の三縣を廢して十一月更に本縣を久留米に置き筑後一國を管す。九年四月に至りて伊萬里縣の改稱したる佐賀縣を併せ、肥前國の八郡及び松浦郡の一郡を管し、次で杵島・藤津・松浦の三郡を長崎縣に移管。同年八月に至り本縣を廢して肥前國はこれを長崎縣に、筑後國はこれを福岡縣に屬せしむ。

【三潴村】福岡縣筑後國三潴郡の北部。筑後川の左岸に沿ひ城島町の東に接して東西に長し。西北部は川を隔てて佐賀縣三養基郡に界す。全村地形低平にして西北部の村境に沿ひ筑後川が西流す。米の產多く酒造業盛んにて清酒に池魚あり。中部には久留米市より柳河町へ至る縣道あり。西部には久留米市と大川町とを結ぶ縣道走る。社線大川鐵道は西部を東西に走りて早津崎驛・塚崎驛(共に大正元年設置)・草場驛(大正二年設置)を置く。此地は和名抄、三潴郡三潴鄕の地にて、東鑑、文治五年、頼朝の御庄濫行停止の申狀の中に「鎭西三潴庄地頭、和田義盛令停止候」とあれば當時院の御領なりしものか。〔弓頭神社〕大字高三潴に鎭座。郷社。祭神、國乳別皇子。皇子は景行天皇の御子にましまし三潴の君として降らせられ當地に薨ぜられたり。例祭十月二十八日。

ミツマ　光滿　愛媛縣北宇和郡高光村の大字。省線宇和島線の光滿驛(大正三年設置)あり。

ミツマサ　光政村　岡山縣備前國上道郡の南部。岡山市の東南方約八粁。南は津田村を挾みて兒島灣に面す。北は可知村、東は金田村、西は操陽村と接す。面積三・八六方粁。吉井川と旭川とに挾まれたる沖積平野の中央部を占め、村内の地勢極めて平坦肥沃にして全村殖産耕地なり。米・麥・繭・酒等の產多し。縣道東西に貫通し岡山市へバスの便あり。

ミツマ　三又村　福岡縣筑後國三潴郡の西部。筑後川の東岸に沿ひ大川町の北に接す。川の對岸は佐賀縣佐賀郡なり。地形は低平、一望沃野開け、西境には筑後川滔々として西南流す。川中に横はる道海島も大字の一なり。米產多く、酒造盛にして銘酒に清力あり。西岸に沿ひて縣道走り、その西に社線大川鐵道通過して三又(大正二年設置)・鐘ヶ江(大正元年設置)の二驛あり。

ミツマタ　三俣　【三俣村】埼玉縣武藏國北埼玉郡の東部。加須町の東北隣にて、不動岡町の東隣にあり。關東平野の一部を占め、南境を古利根川東流し、全村平地にて、村内にも小流多く、西半には水田、東半には畑地多し。農業行はれて米及び麥を產し、養蠶も盛にて繭の產額多し。縣道は加須町に通じ同町に社線東武鐵道伊勢崎線の加須驛を置く。

【三俣村】新潟縣信濃國南魚沼郡の西南部。信濃川支流の清津川上流に沿ふ。西南隅の苗場山(二一四六米)、東南隅の日白山(一六三〇米)、北隅の高津倉山(一一八一米)を頂點とする略正三角形をなし、これら三國山脈の諸峯に東西を挾まれて清津川は、村内を南より北へ深溪を穿ちて貫流す。村内土地高峻にて平地に乏しく農耕盛ならず、僅に麥・粟・稗・大豆等の雜穀を作る。山林に林產物あり。清津川の右岸に沿ふ三國街道は東境の芝原峠を越えて湯澤村に入る。省線上越線湯澤驛へ約九粁。

【三俣村】靜岡縣遠江國小笠郡の南部。北に大坂村・千濱村、東に南山村、南に三濱村、西に大淵村あり。菊川の右岸沖積地に位し、面積僅に〇・五六方粁、戸數七六の小村なり。この地はもと新井鄕の地にして菊川にまた國安川ともいふ。いま三濱村と組合村をなし役場を三濱村に置く。

ミツマタレンゲ　三俣蓮華岳　一に蓮華岳といふ。日本北アルプスの一峯峯。鷲羽岳・雙六岳の間に位する一峯にして標高二八四一米。日本北アルプスの中心點、信・飛・越の境點をなす圓頂峰にして、尾根はY字形に分岐し、一は南東方雙六岳・樅澤岳・槍ヶ岳に續き、一は北東方に延びて鷲羽岳・野口五郎岳・烏帽子岳に達し、北西方に達る尾根は中ノ俣岳・太郎兵衛平に至る。東側は長野縣北安曇郡平村、西側は岐阜縣吉城郡上宵村、北側は富山縣上新川郡大山村に屬す。山頂よりは前記諸峯を始めとし、東方には高瀨川を隔てて燕岳・大天井岳等を望み、視界雄偉廣豁なり。この山は針ノ木・烏帽子方面より槍への縱走路に當れども、北東方鷲羽岳間の尾根は僅松纖き急傾斜をなすため風雨の日は此處を避け、北方富山縣寄りの中腹をからみ鷲羽岳との中間なる三俣蓮華小屋に至る。この小屋は縱走路の一泊地として重要視せられ、又ここより北に下り黑部源流地を探索するも興味あり。

ミツミネ　三峰・三峯　【三峰山】那須火山脈に屬する一峯。宮城縣宮城郡大澤村と黑川郡吉田村との境上に位す。標高一四一八米。北西方は船形山(一五〇〇米)に續き、南東方は北泉岳(一一二五三米)に連る。

【三峯山】關東山地秩父山塊の東部に峙立する山。北より南に連る妙法ヶ岳(一三三二米)・白岩山(一九二一米)・雲取山(二〇一八米)の三峯より形成せらる。埼玉縣秩父郡大瀧村に屬し、東側は東京府西多摩郡氷川村に延ぶ。妙法ヶ岳に標高大ならざれども石灰岩の峯頭を露出して怪奇なる姿を呈し、山上に三峰神社鎭座す。※大瀧村　妙法ヶ岳へは多く高崎線熊谷驛にて社線秩父鐵道に乘換へ、三峰口驛下車、乘合自動車にて大輪に至り、ついで登高す。神橋・清淨の瀧を過ぎ急登すれば頂上に達す。ここに壯麗なる社殿あり有する三峰神社あり、傍に宿泊を許さるる參籠所あり。これより路を東方に取り、大血川の溪谷を右に見下しつつ岩場を進めば、奥宮の鎭座する妙法ヶ岳に達す。雲取山に縱走するには參籠所より妙法ヶ岳に至る中間より尾根筋を南に進

み、二箇所の山小屋を過ぐれば白岩山に霜し、ついで雲取小屋に達し、ここに一泊す。小屋より少しく急登すれば雲取山頂上に至る。ついで南東行し造林小屋を經て七ツ石山(一七五七米)に達す。これより南方一南東方に降りて多摩川の畔に至る。この山麓に新緑・紅葉の候共に興趣深し。※雲取山

【三峯岳】三峯岳・三國山等の別名あり。日本南アルプス白根山脈の一峯。間ノ岳の西稜に連聳し、北西稜に伊那荒倉岳、南稜に安倍荒倉岳續く。駿・信・甲の三國境、靜岡縣安倍郡井川村・長野縣上伊那郡伊那里村・山梨縣中巨摩郡芦安村に跨る。標高二九八〇米。南斜面は大井川の上源地をなし、西斜面より發して北西流する大横川は三峰川上源をなす。

ミツモト　光元　鳥取縣氣高郡にあり。村。大正三年賀木村と合し更に賀木村を置く。

ミツヨー　密陽

【密陽郡】朝鮮慶尙南道の東北部。道管内二府十九郡の一。東は蔚山・梁山の二郡、西は昌寧郡に接し、南に洛東江を隔てて金海・昌原の二郡と相對し、北は慶尙北道淸道郡と界す。東西は北部にて約四〇粁、南部にて三〇粁餘、南北約二五粁。面積七九九平方粁餘。東・北・西の三境に纒れ山脈を繞らす。卽ち東北境に加智山(八二四〇米)・雲門山(一二〇〇米)・億山・九萬山(七八五米)等、東境に石南嶺・陵洞山・天皇山(一一八九米)・香峰山・金方山等を連れ、その支脈に城内に延びて正覺山・落花山・七潭山・萬魚山等六—八百米の山を起し、東半部は山地をなし、また西北境には鐵馬山(六九〇米)・華岳山(九三二米)・虎岩山等、西境には烈旺山等五—六百米の峰を聳立せしめ、支脈數條、南又は東南に延び兄弟峰・終南山(六六四米)等も著はる。南境を洛東江西より東へ流れ、東西兩山地間には北より淸道川・東倉川を併せたる密陽江南流し、東部山地の諸水の聚りてなす南川・丹場川等を容れ、これら流域に廣き平地開く。西南部洛東江左岸には國農湖あり。水利事業の發達著しく、農業盛にして、米(一一八萬石)・大麥(一七萬石)・棉花(二六五萬斤)等を始め、小麥・大豆・粟・蔬菜等を出し、果樹栽培また盛にて苹果・梨・柿・葡萄・桃等を出す。副業の養蠶・牧畜・養鶏・繩叺製造等何れも盛にて、藺の產一八萬疋あり道内各郡中の首位に居り、家畜は牛・豚・山羊多し。其他、工產に生絲・麻布、林產に薬實、鑛產に金銀銅・蠟石等あり、近時婦女子の内職として刺繍は特に普及發達す。河川には鮎・鯉・鮒等を產し、密陽江の鮎は古來美味と漁獲多きを以て名あり。密陽江に沿うて鐵道京義本線南北に通じ三浪津・密陽の諸邑を連ね、京釜一等道路これと並走するを始め、密陽邑を中心として東に彦陽・蔚山へ、西は武安・鞍山へ、西南は守山里へ道路通じて多くはバスの便あり、洛東江・密陽江の舟楫の便と相俟つて交通便利なり。行政上、密陽邑ほか十一箇面に分ち、郡廳を密陽邑に置く。本郡は古く駕洛國の內なりしと云ふ。新羅の始めに推火郡を置き、景德王の時改めて密城郡と稱す。爾來、或は密州と稱し、その行政區劃の如きも今の昌寧郡、慶尙北道淸道郡の一部に互りしことあり。また府を置き都護府に列せられしことあり。李朝末年(明治廿七年)密陽郡と定め今日に及ぶ。

【密陽邑】朝鮮慶尙南道密陽郡の主邑。郡の中央に位し、北は上東・山外、東は丹場、南は三浪津・上南、西より西北は府北の各面に接す。北西西—東東南に長く約一一粁あり、面積約二九方粁。人口一萬六千餘。東部は三—四百米の山地にして東境に七潭山(五〇一米)聳え、北部には推火山(二四三米)橫り東に急斜し、西方に緩斜す。中部以西は密陽江の洪涌原に屬し地味肥沃なり。而して密陽江は始め東北境を流れ、次で東より來る丹場川を容れ、中部に著しき蛇曲流をなし南へ去る。米・大豆・棉花・藺等を產し、物資の一大集散地として著はる。此地は慶尙南道に於ける水利事業の先驅をなせし地にて、密陽水利組合は蒙利面積七五〇〇ヘクタールに餘る。また密陽江の鮎は名產として古來有名なり。鐵道京釜本線中部を南北に貫き密陽驛(明治廿八年設置)あり、釜山驛を距る六六粁なり。市街に推火山の西南麓、密陽江の右岸に發達し、郡廳・米穀檢査所・釜山地方法院支廳・公立農蠶學校・農業倉庫・密陽銀行・金融組合等あり。邑を中心として釜山街道を始め道路四通し、昌寧・守山・表忠寺・九奇・佳山行のバス發し交通の要衝を占む。此地の市場は陰曆二・七の日に開市し、一箇年取引高約五十萬圓に上り、釜山との商取引きた盛なり。邑の東端丘上、密陽江の斷崖に嶺南樓あり、嶺南寺の址にて、寺廢して後、郡守金溪知の改築と樓名を與へしものに係り、展望特に勝れたり。推火山の南麓、龍平里には白松の巨樹あり、天然記念物に指定せらる。〔密陽神社〕無格社。祭神、天照大神・應神天皇。大正四年鎭祀し、翌五年朝鮮總督府より神社として公認せらる。例祭、十月十日。

ミツワ　三都和村　長野縣信濃國北佐久郡の西部にあり。蓼科火山(二五三〇米)の北麓に位置し、千曲川の支流鹿曲川を挾み、東御牧ヶ原と相對し極めて緩かなる斜面を持ち、六五〇—七〇〇米の臺地狀をなす。東は北御牧村、南は本牧村、西は横鳥村に境す。臺地面は鹿曲川の支流香屋川・芦田川に刻まれ、その谷頭に小部落發達す。臺地面は畑・桑畑に利用せられ谷底は僅に水田化す。

ミツワ　三和　新潟縣南魚沼郡にあり。村。明治三十九年、一部は六日町に入り、他は南旭村外二箇村と合して上田村となる。

ミト　三刀　尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡三刀郷あり、今の海部郡内ならんも詳かならず。

ミト　三都村　香川縣讃岐國小豆郡(小豆島)の西南端。二生村の南に隣接し半島狀の地區をなし、他の三方は海に面す。高さ五〇—一〇〇米の丘陵南北に走り東西兩岸に迫る。南部には三〇〇米餘の小丘峙ちてその南端白濱崎に臨崖絶壁をなす。中央より西に長者ケ鼻の岬角突出し急崖を以て海に臨む。從つて海岸は出入に富むも平地は少し。丘陵を拓きて畑作農業行はれ小麥・煙草・除蟲菊等の栽培盛なり。特產物として玄武岩の碎石を出し阪神地方へ積出す。對岸の高松市へ毎日三回定期船あり。西北方土庄町、東方坂手村に至る自動車の便あり。此地は中世、池田庄と稱せし地にして、上古は津田郷と稱し、備前國兒島郡に屬せしが、貞治年間、細川氏が管領となりて讃岐國の所屬となり、のち德川幕府領となる。〔皇子神社社叢〕指定天然記念物。亀山神社の末社皇子神社境内にあり。小半島の山上にある魚附保安林にして、ウバメガシ最も多く、殆ど純群落をなす。其他、トベラモクコク・タマツバキ・アカメガシハ・ヤマモモ・ナハシロゲミ・テイカカヅラ・カクヤバウキ・カハラナデシコ等發生し、イブキ等も多し。樹下にはヒトツバが群生し樹間にはチヤウジガマズミ生ず。

ミト　水戸

【水戸市】茨城縣の中部にあり。水戸平野の中心をなす。德川三家の一、水府世六萬石の城下町として發達し現に關東平野の東北の主要都市をなす。市の北は那珂川にして那珂郡柳河村・東茨城郡淺里村、西は同郡緑岡村、南は同郡吉田村・酒門村、東は那珂郡上大野村と界す。市は東西に長く南北に狹く、洪積臺地上に位置し略二八—二九米の高度あり。この洪積臺地が北は那珂川の浸蝕により急崖をなし崖下直ちに河道にて自然の深壁をなす。南は仙波沼を持つ洪積臺地浸蝕谷たる櫻川とその支流の浸蝕により平野に突出せるプロミネントスパアをなす。城址は此臺地末端を利用せるものにて、平城として江戸・高崎・前橋・川越の諸城と同一形式たり。市區は古來上市・下市に分れ其間に丸ノ内に比すべき官衙學校區ありて舊城址を利用す。城郭は大體三分され臺地先端部より順次三ノ丸・二ノ丸・一ノ丸となり、其等の間は南北に狹き臺地面み切取りて溝を作り、其間に橋梁を架す。一ノ丸は鎌倉時代大掾氏築造し、二ノ丸・三ノ丸は江戸時代に增補す。城は上市方面よりする臺地よりの攻撃が容易なるため、天主閣は先端部に位置す。上市と下市とを見るに、上市は最も古き城下町にて、土地高燥にして住宅區として舒適し東京の山ノ手に當る。下市は藩祖威公水戸に封ぜられてより寛永二年城郭を修理す。濕田の田を埋めて市街とし、城西上市の商賈を移して下町を開く。下市は千波沼及び那珂川の浸蝕谷底に堆積せる泥土ありて水質極めて粗惡なり。ここに吉田村溜井二箇所より水道を引く。寛文二年吉田貯水の水量不足なるため、笠原より吉田山麓を繞り藤柄町に出で洞穴にて伊奈堀を越え七軒町・十軒町を經て新町迄二七九五間の水道を完成す。これ江戸の神田に給水せる神田上水と相似たり。明治四十二年緑岡村笠原、吉田村柔淨を水源地とし吉田村吉田を配水池とす。全市の水道化に昭和七年にして、市外茨里村坏茨里、那珂川中洲に取入口を設けて官施す。此等は全く東京と好對照の地形人文の關係たり。次に市の產業を見るに、生產に於て總生產一三四〇萬圓、うち農產二八萬圓、畜產三五・四萬圓、工產二二七・七萬圓にて工產第一なるも、中都市たる工業にして近代的生產機構たらず。職業人口構成に見るに、農業三三九、工業二、〇五三、商業四、二五五、交通業一、〇七一、公務自由業二、二九四、其他二、九三一(單位戶數、昭和五年)にして本市が消費都市たることを表明す。市は茨城縣廳を始め高等學校・男女中等學校等の諸機關ありて政治・學問上の一中心をなす。また步兵第二聯隊・工兵第十四聯隊設置され兵營都市を兼ね、消費都市性を增す。交通は省線常磐線の水戸驛(明治二十二年設置)ありて省線水都線の起點をなし那珂川にも支線を出し、また水濱電車・茨城鐵道・水戸電氣鐵道・定期自動車の便あり。陸前濱街道は市中を通じ、交通的には連まると云ふべし。水運としては那珂川を利用する航路が開け、河口湊町はその外港をなし、江戸時代には賑盛なりしも、今は全く老年期の町として僅に一漁港に留る。市は水戸家の舊城下、水戸學の叢源、勤王論の發生地にして好文亭・弘道館・孔子廟・彰考館等の遺址あり。有名なる偕樂園は藩主烈公が天保十一年の築造に係り、市の西郊常磐にあり、常磐公園ともいふ。臺地の南崖上に面し、南に千波沼を眼下に見下す。洪積臺地が櫻川及びその支流によりて刻まれたる吉田村・緑岡村の臺地の緩かなる波狀地形と、その谷底にある水田、更に左に遠く涌・磯濱の海邊を眺望し得る自然を巧みに取入れその背景となすことは實に讃嘆すべき巧致を示す。市は此等の舊址を持ち、磯濱・涌の海岸また近時東都人士の保養遊覽地となるや、共に一日のプランとしては舒適にして觀光都市の氣分を帶ぶるに至れり。〔涌平〕本市は鎌倉時代の初め、大掾貴幹、此地に起りし時、その本城馬場館の後方に士人を延きて邸宅を與へ商賈を招きて市廛を開きしに始まる。常町幕府の初期に大掾氏衰へ江戸氏

これに代り、三代道雅の時四方を經略して勢大に振ひしが、豐臣秀吉の時、太田城主佐竹義宣、江戸氏を追ひて此地を占め、城市を東西に延長し郭西に三ノ丸を增築せるほか白銀・南・仲・西の諸町を開く。然るに間もなく佐竹氏は出羽秋田に移封せられ、德川氏の治むる所となるや藩祖威公は城市に大改修を加へ、二代義公の時區劃稱呼更正せられ面目一新して國中第一の都邑となる。當時水戸城は江戸幕府の東北列藩に對する第一防禦陣地たりしため、頗る要害堅固に計畫せられ、那珂川・千波沼等のほか堀濠重疊して通路を遮斷し、士人の住居は城の周圍並に上市を占めたり。下市は低濕なるも埋立を行ひ或は小路を開きて各種大問屋店舗を連れ、本街道として殷賑を極めしも維新後は官衙・學校等多く上市方面に設けられ、鐵道開通し兵營設置せらるるに至りて繁華自ら上市に移る。明治廿二年接續地の一部を併せて市制を施行し、昭和八年常磐村を合併して今に至る。

〔水戸城〕 市の中央にあり。常陸大掾平國香八世の孫、馬場大掾資幹の築きし所にして、應永七年、滿幹の時大に城郭を修築せしが、同廿四年、足利持氏は滿幹の所領を削り本城を佐竹氏被官江戸通房に與ふ。江戸氏三代道雅、四方を經略し勢大に振ひ、明應五年二ノ丸を築きしが、重通の代、天正十九年、佐竹義宣に奪はる。義宣は三ノ丸を增築し規模大となりしも慶長五年關ヶ原役後、佐竹義宣秋田に移さるるに及び、家康第十一子頼房の治城となり三十五萬石を領し德川副將軍と稱せられ、子孫世襲して明治に至る。明治四年藩を廢して縣を置きしも間もなく廢して茨城縣に入る。城は上市の東部をなす丘陵、那珂川・千波沼を控ふる要害にして東西一粁半、南北〇・五粁、自然の谿谷を利用せる堀濠によりて三部に別つたる。東部は本丸にしていま水戸中學校あり、中部は二ノ丸にしていま師範學校あり、西部は三ノ丸にして弘道館あり。本丸は俗に佐竹城と呼ばれ江戸時代以前の築造にかかる。三ノ丸址の茨城縣立師範學校舊校舍本館は明治天皇行在所にして指定史蹟たり。

〔水戸行在所〕 指定史蹟。水戸城三ノ丸址、舊縣立師範學校校舍本館にして、明治廿三年十月廿六日、明治天皇當地行幸の砌り行在所とし給ひし所。

〔愛宕山古墳〕 指定史蹟。松本町にあり。前方後圓型にして後圓部の頂上に愛宕神社を奉祀す。南南東に面し、全長約一八一・二米、後圓部の直徑約七八・二米、高さ約四〇・九米、前方部の直徑約七五・五米、高さ約三八・五米あり。頂部は社殿造營、參道開設のため削平し、前方部中央及び後圓部西側を削り石階を設け、また前方部の封土西南兩側並に後圓部の西北部に亙り削取せし部分あるも其他は幸に完存し、後圓部の東方並に西北部に環隍址と認むべき鎌木林地及び烟地を存する等、舊規の見るべきものあり。埴輪の破片また發見せらる。その雄大なる點、此地方に於ける代表的古墳なり。

〔偕樂園(常磐公園・第一公園)〕 指定史蹟。天保年間、水戸藩主德川齊昭、士民と偕に樂しむの意をもつて營みしもの。前に千波沼を控へ丘陵上にある庭園式公園にして、面積約四萬坪。岡山市の後樂園、金澤市の兼六園と共に我國三公園といはる。園内にぼ好文亭などの建築物あり頗る眺望に富む。梅林には數千株の老樹枝を交へ花季には鎌香を秘む。園の東に接して別格官幣常磐神社あり。

〔弘道館公園(第二公園・水戸公園)〕 水戸城三ノ丸にあり。園内老梅多く、舊弘道館・鹿島神社・八卦堂・弘道館記の碑・要石の碑・藤梅記碑・撞鐘・孔子廟等あり。

〔弘道館〕 指定史蹟。弘道館公園内にあり。天保九年、藩主齊昭によりて設立されし水戸藩の藩學。藤田幽谷は水戸學の發揚に努力し、その子東湖に更にその志を繼ぎて學政振興の基を開き、弘道館の設立を見るに至れり。館は文武二館に分れ、生徒は士族に限り、先づ十歳にして就學、句讀を學び、十五歳以後は午前に文を、午後に武を學べり。教科は漢學・和學・音樂及び諸般の武藝が主にて、其他、天文・地理・習禮・數學・醫學等。明治元年戊辰役に火災にかかり、番所・正門・本館及び附屬せる至善堂、賄所を殘し他を燒失す。本館は學校御殿と稱せられ弘道館の主要建物なり。玄關には齊昭の筆に成る弘道館の扁額が掲げらる。

〔千波沼〕 市の南方にあり。千波・仙波とも書く。古くは中妻郷の野水を引きてここに湛へ、水戸城の防禦また大野郷の灌漑用水ともなれり。沼面は廣く、東西約二・七三粁、南北〇・五五粁餘なりしが漸次埋り、いま面積七方粁、水深一・三米。風光明媚にして常磐公園と共に本市の勝地たり。

〔常盤神社〕 常盤町に鎮座。別格官幣社。祭神、源光圀・源齊昭。社地にもと偕樂園の一部内にあり。市の西南に位し、境内地一萬二百五十有餘坪を算ふ。祠宇瀟洒にして雅致に富む。右方の神樂殿に烈公の造りし太鼓あり。胴に烈公自筆と傳ふる雲天動地の銘あり。北方に烈公錄造の臼砲据う。境外左側に鎮靈社あり、樣新の際、水戸藩士にして國事に殉ぜる勤王志士の英靈を祀る。當社にもと國寶たりし大脇差一振ありしが大正十二年燒失す。例祭、五月十二日。

〔鹿島神社〕 上市北三ノ丸に鎮座。縣社。祭神、武甕槌命。天保十二年に當主齊昭が弘道館を建てたるが、館内に鹿島神宮の分靈を勸請し、士氣の鼓舞に資せんとせしに創まる。安政四年の創建なり。例祭五月九日。

〔東照宮〕 上市柵町に鎮座。縣社。祭神

德川家康。後水尾天皇元和七年、德川頼房女家康の靈を祀りて創建す。社殿造營の工成るや天皇藤原公廣をして奉幣且つ宣命を讀ましめ藤原實晴をして贊せしめ給ふ。後光明天皇正保三年初めて神幸の式を行ふ。本殿・拜殿は元和七年の建造にて國寶建造物たり。社寶の太刀一口も國寶に指定さる。例祭四月十七日。

〔八幡宮〕 常盤八幡町に鎮座。縣社。祭神、譽田別尊、外二神。もと白旗八幡と稱す。創立年代に就きて二說あり。一、康平六年源頼義奥州亂を鎮定し凱旋の折石清水八幡宮を勸請せりと、一、佐竹義業居城の久慈郡太田に鎌倉八幡宮を勸請、これ創始なりと。東山天皇元祿七年德川光圀西北郊那珂西(中西)に遷祀し、同帝寛永四年德川綱條に更に現社地に移す。社領として幕府より朱印三百石寄進あり。例祭、四月十五日。境内には、葉上に種子を生ずる珍奇なる公孫樹一株あり、白旗山八幡宮の御葉附銀杏として指定天然記念物たり。

〔吉田神社〕 市内吉田に鎮座。縣社。祭神、日本武尊。日本武尊御東征の砌、兵を此地に憩め給へるに因みて顯宗・仁賢兩朝の頃、尊を祀りて創建すと傳ふ。式内社。常陸國三ノ宮たり。後光明天皇慶安元年、德川氏朱印十五石を寄進す。社殿造營は常に鹿島神宮造修毎になす。例祭、十月二十一日。

〔桂岸寺〕 新義眞言宗醫山派。大悲山保和院と號す。往昔は茨城郡又無邑にありて善門寺と稱せしが、天和二年、水府の重臣多賀郡松岡館主、中山備前守信治これを現地に移し寺田を附して香華院となし、檀海法印を開山とす。境内に勢至堂あり行基作の勢至菩薩を安す。一に是を二十三夜尊といひ賽者頗る多し。

〔本行寺〕 袴塚にあり。日蓮宗。法榮山本法院と號し池上本門寺に屬す。創建年代不詳。往昔茨城郡堀村にありしを、天和三年現地に移す。

〔好文亭〕 偕樂園の西南部、勝景の地にあり。天保年間、偕樂園と共に藩主德川齊昭の創建。藩主、文人墨客を集め詩歌吟詠し、書畫を試みし所なり。入口に齊昭筆「好文亭」と題する扁額あり。正室には齊昭筆「樂壽樓」の扁額かかぐ。今公開し一般に觀覽を許さる。

〔彰考館文庫〕 常盤町にあり。常盤神社の東隣に位し、大日本史編纂の參考に供せられし和漢書凡そ七萬册を藏す。寛政十二年毛筆にて寫せし獨逸兵書、文化十二年鷲ペンにて書寫せる和蘭辭書、及び藤田東湖の書き入れし大日本史草稿等を陳列す。

〔水戸光圀〕 水戸藩主。頼房の第三子。世に水戸黄門・西山公と稱す。明暦三年封を襲ひ、大日本史を修して大義名分を明かにし、また楠公碑を建つる等維新の氣運を作る。元祿十三年歿。年七十三。義公と謚し正一位を贈らる。

〔水戸齊昭〕 水戸藩主。文政十二年封を襲ひ、文教を興し大砲を鑄し兵を修む。安政五年朝廷、衆に勅して幕府を輔け外侮を防がしめ給ふも、戊午の獄に永蟄居となり萬延元年歿す。年六十一。烈公と謚し正一位を贈らる。

〔藤田幽谷〕 水戸藩の儒者。字は子定。通稱、治郎左衛門・與助。志水元植・立原東里に學び儒學に達し、彰考館總裁となる。文政九年歿、年五十三。正四位を贈らる。

〔藤田東湖〕 水戸藩の儒者。名は彪、字は斌卿。通稱、虎之助・誠之進。幽谷の男。文武に兼達し、藩主を輔け藩政の樞機に參ず。時に幕府の忌諱に觸れしも尊攘派の政客間に隱然一勢力たり。安政二年歿、年五十。明治二十二年正四位を贈らる。その著、常陸帶・弘道館述義・回天詩史等あり。

〔藤田小四郎〕 水戸藩士。名は信、字は子立。變名、小野斌男。幾、雪渓・先憂樓。東湖の男。勤王を唱へ筑波山に擧兵破れて西上、慶應元年敦賀に斬らる。年二十四。從四位を贈らる。

〔武田耕雲齋〕 水戸藩老。伊賀守と稱し藩主慶篤を輔けて尊攘の議を策す。元治元年、藤田小四郎等と共に兵を擧げ勅旨を奉じて尊攘の實を擧げんとし、次で西上して德川慶喜に心事を陳べんとせしが幕兵に阻まれ慶應元年敦賀に斬らる。年六十三。正四位を贈らる。

〔池田留吉〕 高輪東禪寺、英國假公使館襲撃の一人にして、後逃れ江戸に潛伏中捕に就き、文久二年閏八月十四日獄に死す、年二十四。正五位を贈らる。

〔水戸燒〕 御庭燒の一。文化頃水戸藩主が後樂園に築窯、製作せしめし陶器。落款に水戸國主・後樂・後樂園製の印あり。

〔筑波山事件(天狗黨の亂)〕 水戸藩主齊昭の時、藩論二分し書生連・天狗黨と稱し、前者は家老結城寅次・市川三左衛門等、後者は藤田東湖・戸田忠敬等各々首領となりて互に亂鬪あり。のち東湖・忠敬死し、尋で齊昭薨するに及び天狗黨その勢を失ひしも、東湖の子小四郎及び武田耕雲齋・田丸直允等、齊昭の遺志を繼ぎて尊王攘夷を唱へ、勅旨を奉戴して之を實行せんとし、元治元年同志を糾合して筑波山に據りて兵を擧ぐ。幕府之を追討せんとして軍を遣はせしが、小四郎等之を諸所に破り、又武田耕雲齋兵を館山に擧げ、筑波勢幕軍の重圍に陷りて日に蹙るに及びて策を定め、京師に至りて心事を慶喜に陳べんとして美濃に到る。時に慶喜等之を追討せんとして京師を發すると聞き、右折して加賀に到り幕軍のため阻まれて降り、翌慶應元年武田・田丸等の首領以下夫々處刑せられり。

【水戸線】 省線東北線の一部。茨城縣結城・眞壁・西茨城の三郡を走る。東北本線小山驛より分岐し、下館・岩瀬等の諸

驛を經て常磐線友部驛に終る。全長五〇・二粁。途中下館驛(筑壁郡下館町)に於て省線岩岡線及び社線常總鐵道に、岩瀬驛(西茨城郡岩瀬町)に於て社線筑波鐵道に接續す。

【水戸電氣鐵道】 私設鐵道。茨城縣にあり。柵町驛(水戸市)より發し、奥ノ谷驛(鹿島郡沼前村)に終る一一・二粁。省線とは非連帶にして動力はガソリン・蒸氣併用、軌間は一・〇六七米とす。

ミト 御津町 愛知縣三河國寶飯郡の中部。豊橋市の西北約五粁。北は長澤村・赤坂町・御油町に、東は國府町に、南は小坂井町・前芝村に夫々接し、西は渥美灣に臨み、更に大塚村及び蒲郡町と隣る。北部は古生層よりなる三河山地の南端に屬し、北境には五井山(四五五米)宮地山(三六二米)そびえ、西南隅には御堂山(三六三米)、東部には新宮山、南部には大恩寺山(九七米)存す。此の三河山地の下には洪積層地續き、音羽川はこの山麓を流れ沖積平野を作りて、渥美灣に注ぐ。洪積層地の北部には桑園の分布多く、南部沖積地には水田の分布多し。交通路は海岸づたひに平坂街道通じ蒲郡方面に至り、省線東海道本線に此地をよぎり、御油驛(明治二十一年設置)を置く。此地にもと佐脇村と稱し、和名抄に見ゆる寶飯郡度津郷の地たり。延喜式に渡津驛とあるは此の郷内にて、然管の渡と云へるもこの地なるべし。明治三十九年に御津村・御馬村・佐脇村を廢して御津村を置き、昭和五年町制を布けり。〔御津神社〕大字廣石に鎮座。縣社。祭神、大國主命。創立年代詳かならざれども、仁壽元年從五位下を授けられ、延喜の制、國幣の小社に列し、參河國神名帳に正三位御津大明神と見ゆ。古來御津七郷十二箇村の氏神とせらる。〔引馬神社〕大字御馬に鎮座。村社。祭神、素戔嗚尊を主神とし、相殿に五男三女神・大己貴命等を祀る。正暦年中山城の八坂神社より勸請すと傳ふ。建久二年再興。氣主今川・細川・牧野・松平・伊奈氏の崇敬あり、黑印領五石を有せり。古來牛頭天王と稱せしを、維新の際、現社名に改む。〔大恩寺〕廣石にあり。浮土宗。御津山。もと三論宗に屬せしが、文安二年に了曉慶善再興して現宗に改む。明應八年に後土御門天皇勅願所となし給ふ。近世寺領百石を有せり。佛堂・念佛堂・王宮受茶羅圖(紙本着色)一幅は國寶。

ミト 彌刀 大阪府中河内郡にありし村。昭和十二年廢して布施市に入る。

ミドー 御堂村 岩手縣陸中國岩手郡の北部。村の西南部は沼宮内町に續き、北は二戸郡、東は九戸郡に接す。面積一三一・一方粁。西北方に西岳(一〇一八米)聳え、東南方に傾斜し、村の西北部はその山麓をなすも、南部には丘陵所々に起伏して、全村概ね山地をなし北上川は村の中西部を南方に貫流し、東西兩方より支流を合し、その沿岸に耕地ひらく。米・麥・大豆・稗・木炭及び馬等を產す。陸羽街道は北上川に沿ひて南北に通ず。省線東北本線沼宮内驛(明治二十四年設置)あり。〔仙波堤竪穴住居址〕仙波堤にあり。丘陵の頂上に約三十の竪穴住居址あり、よく舊態を存す。形態は主として正圓形にて、數箇の小竪穴附屬するものあり。これらの竪穴は地表を掘り下げ内部に石組爐を設け上部に簡單なる屋蓋を設けたりしものなり。多くは半島狀に突出せる丘陵に群集存在し、一種の城塞を構成し村落と認めらるるものなり。發見されし遺物は彌生式土器・齋部土器・鐵器破片・土製勾玉なり。その年代詳かならざるも、恐らく平安時代のものならん。

ミトガワ 三尼川村 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の西南部。西牟婁郡串本町の西北約四粁にあり、古座川に跨りて西と南は西牟婁郡に界す。四周山地を以て圍まれ、東北部には井谷山(四〇二米)屹立し、西境に洞山(五一五米)・蘆根山(三八五米)・姥山・寒ノ山(四八二米)等あり。北方より來る古座川は東北部山地の南を繞りて屈曲しつゝ東流し西北部にて西方より來る支流を合し、又中央部にては東北流する河川の水を入る。米・繭・林產及び工產・水產・畜產を出す。古座川に沿ひて古座町に達する縣道あり、途中にて一道分れ西南方に向ひ太平洋岸に出づ。大字藏土より高池町字津木に至る古座川の兩岸を古座峽と云ひ景勝に富む。

ミトク 三德村 鳥取縣伯耆國東伯郡の東南部。倉吉町の東約一三粁の山中に存し、東境と北境は氣高郡にして、西は三朝村に對す。面積二九・六方粁。四周山脈に圍繞せられ、三德山(九〇〇米)南境に聳え、氣高郡界には滑石峠あり。稻西方に傾き三朝川支流河畔に小平地を有するのみ。米・麥・繭・木材・牛・馬等を產す。縣道中央を東西に通じ氣高郡及び倉吉町にバスの便あり。大正六年三德村・勝村を廢し三德村を建つ。〔三德山〕指定史蹟・名勝。三佛寺の境内にして、天神川の支流三德川の上流にあり、海拔約九〇〇米、鮮石安山岩及びその集塊岩より成る。山上に展望よく三佛寺の奥院あり、山麓の三佛寺本堂より奥院に至る間に牛ノ背・馬ノ背・鼻夢石・伏見岩・屏風岩・胎内潛等あり、奥院より上方には天狗阪・仙人窟及び三鈷の岩屋等あり、何れも行場にして、古來大和の吉野山、伊豫の石鎚山と共に役の行者の開山と稱され、山陰道修驗場の一として著名なり。〔三佛寺〕天台宗。傳說に役小角投ずるところの三鈷の蓮花の一片が落下せし地なりと。慈覺大師・彌陀・釋迦・大日三尊を奉安す。奇巖奇勝の地。

ミトク 海德 鳥取縣氣高郡にありし村。大正六年、海德村と蒲野部村を廢しその區域を以て大正村を置く。

ミトコ 三戸古 鳥取縣岩美郡にありし村。大正七年三戸古村・大路村を廢し、米里村を置く。

ミトコロ 三處 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に仁多郡三處郷あり、その地今の仁多郡三成村・亀高村の地に當り、風土記の三處郷に當る。

ミトダ 水戸田村 富山縣越中國射水郡の中部。小杉町の西南方約二粁、東礪波郡中田町との略中間を占む。東南隅に五〇米前後の小丘ある外、村内低平にして水田多し。米を主產とし、蠶品・麻織物等の工產額之に次ぐ。村内を東北—南西に横切る縣道あり小杉町・中田町間のバス通じ、北と南へも縣道を分岐す。省線北陸本線小杉驛・大門驛の何れへも四—五粁を隔つ。地は和名抄、射水郡櫛田郷の内、近世に東條保に屬せり。

ミトノ 御殿村 愛知縣三河國北設樂郡の東部。豊橋市の東北四十五粁。北は園村に、東は本郷町に、南は三輪村に、西は振草村に相接す。この地は第三紀層又は古生層より成る三河山地の中にありて、北部には御殿山(七八九米)・古戸山(七五九米)等あり、南部には明神山(一〇一六米)が屹立す。西北よりは振草川曲流をなしつゝ流れ、西部よりは神田川峡谷を作りて東流し、村の東部にて兩川は合流し本郷村方面に至る。此等河川の流域には水田・桑園見られ、聚落も此等の川の洪涌地に散村をなして分布す。交通路としては別所街道に東の本郷村より入り振草川の谷を登り振草村に通ず。又神田川の谷よりは花丸峠を越えて、西方の田口町に至る道あり。〔榎神社〕大字月に鎮座。郷社。祭神、淵織津比賣命。參河國神名帳の「從五位上榎村天神」は本社なりといふ。古來、霜月村の產土神たり。例祭、四月七日。

ミトノ 綠野(郡) 上野國(群馬縣)の古郡名。續紀和銅四年紀に郡名見ゆ。和名抄には美止乃と註し林原・小野・升茂・高足・佐味・大前・尾張・保美・土師・俘因・高山の十一郷を管す。明治三十年四月本郡は多胡郡・南甘樂郡と合して多野郡を建て郡名を失ふ。

ミドノ 三留野 長野縣西筑摩郡讀書村の大字。省線中央本線三留野驛(明治四十二年設置)を置く。

ミトミ 三富村 山梨縣甲斐國東山梨郡の北部。甲武信ケ嶽(二四八三米)の南斜面を占め、笛吹川の水源地をなす。面積一三四・八六方粁の大村。村境には關東山脈の主・支脈連亙して笛吹川の谷を圍み、北は甲武信ケ嶽を頂點に、埼玉縣武藏國・長野縣信濃國に界す。村内西半部は殊に高燥にて雛冠山(二一一二米)黑金山(二二二二米)等の高峯重疊し、森林繁茂す。笛吹川はこの國山に發源し、東部から南流し深き渓谷を刻む。聚落概ねこの河谷に沿ひ林業・養蠶・麥の耕作等に從事す。西北部の東澤御料地、西部の西澤御料地を初め村内林產物多く林用軌道を通じ運搬に供す。笛吹川に沿ふ縣道は秩父往還の一部にして、東北境雁坂峠を越え秩父地方に通ず。省線中央本線鹽山驛より約十二粁、途中までバスの便あり。村の南部には川浦温泉・發電所等あり。また滑澤瀧(高三〇米、幅一三米)・二の瀧(高一八米、幅一八米)・一の瀧(高二三米、幅一八米)あり。〔川浦温泉〕泉質は硫黄泉にて温度は四五度。頭痛・筋上・痔疾・リウマチス・子宮病等に効能あり。概して療養向なり。建久五年(約七百年前)畠山重忠宮士の褐野の巻狩の途次この地に宿り、靈夢に感じて發見したりと云ふ。古き温泉にて、湯治專門の所として續く。

ミトヤ 三刀屋町 島根縣出雲國飯石郡の北東部。斐伊川・三刀屋川合流地の南岸に位し、東は大原郡木次町に隣接す。南は飯石村、西は鍋山村、北は一宮村に界す。面積六・六四平方粁。東境を斐伊川、西境を三刀屋川に流汎され、沃野町内を蔽ひ耕地は沿岸に發達せり。南部に丘陵性臺地存す。農業を主となし、米繭及び木炭・川魚類・家畜類等を產す。木次町・今市町へ夫々バス通ず。古くは三屋郷に作り、和名抄に飯石郡三屋郷と見ゆ。出雲風土記には神龜三年三刀矢を三屋に改むとあり。明治二十二年三刀屋村とし、昭和三年町制を布く。

ミトヨ 三豊郡 香川縣二市七郡の一。讃岐國の西部。東は仲多度郡に、南は德島・愛媛の兩縣に隣接し、他は瀬戸内海に面す。海上の粟島・伊吹島等を併せて面積三三九・四一方粁。郡の東及び南に讃岐山脈に屬する高峻なる山岳蟠居し西及び北に向つて低下す。西部中央には七寶山(志保山)の諸峯南北に連亙し、その端は西北方に伸びて半島狀の突出をなし西・北兩岸に區分す。東部山地より發する梓田・財田の二川は西に、高瀬川は北に、山麓下に展開せる低平なる沖積平野を流れて海に注ぐ。從つて肥沃なる耕地多く農業盛なり。北部海岸は鹽田をなす所あり、また漁業も盛なり。丸亀市より來る國道は郡を斜に走りて西南方に至り豊濱町を經て愛媛縣に達す。こゝより分れて東方の琴平町(仲多度郡)に至る縣道あり。省線豫讃本線は西部を國道に沿うて南走し省線土讃線は東部を掠めて通過す。本郡は明治三十二年三野・豊田の二郡を併せて建てしもの。

ミトラシ 御佩 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に武儀郡御佩郷あり、その地今の武儀郡上牧村の邊に當る。

ミトリ 美理 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に佐久郡美理郷あり、その地今の北佐久郡三岡村・中津村・中佐都村・高瀬村の邊か。

ミドリ 美士里村 群馬縣上野國多野郡の東北部に位し藤岡町の西隣なり。